

通
20
外史

調一0585

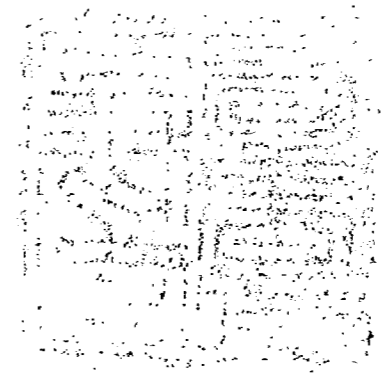
0005

35-49

第三類
第八門

調一0585

0006

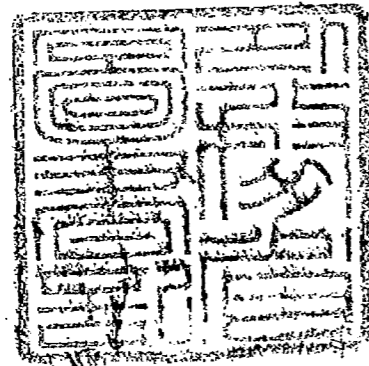


外務省
第 20
圖書館
41. 7. 29

大正二年十二月編纂

移民調査報告 第十二

墨西哥、祕露、マダガスカル島



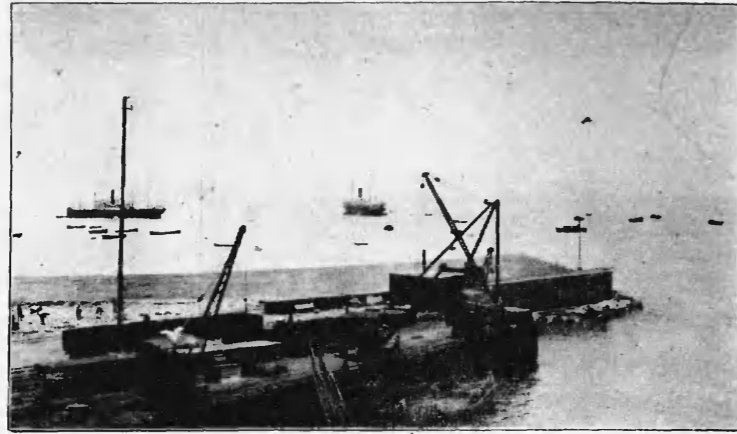
外務省通商局

秘露國聖母河地方視察報告

調一0585

0008

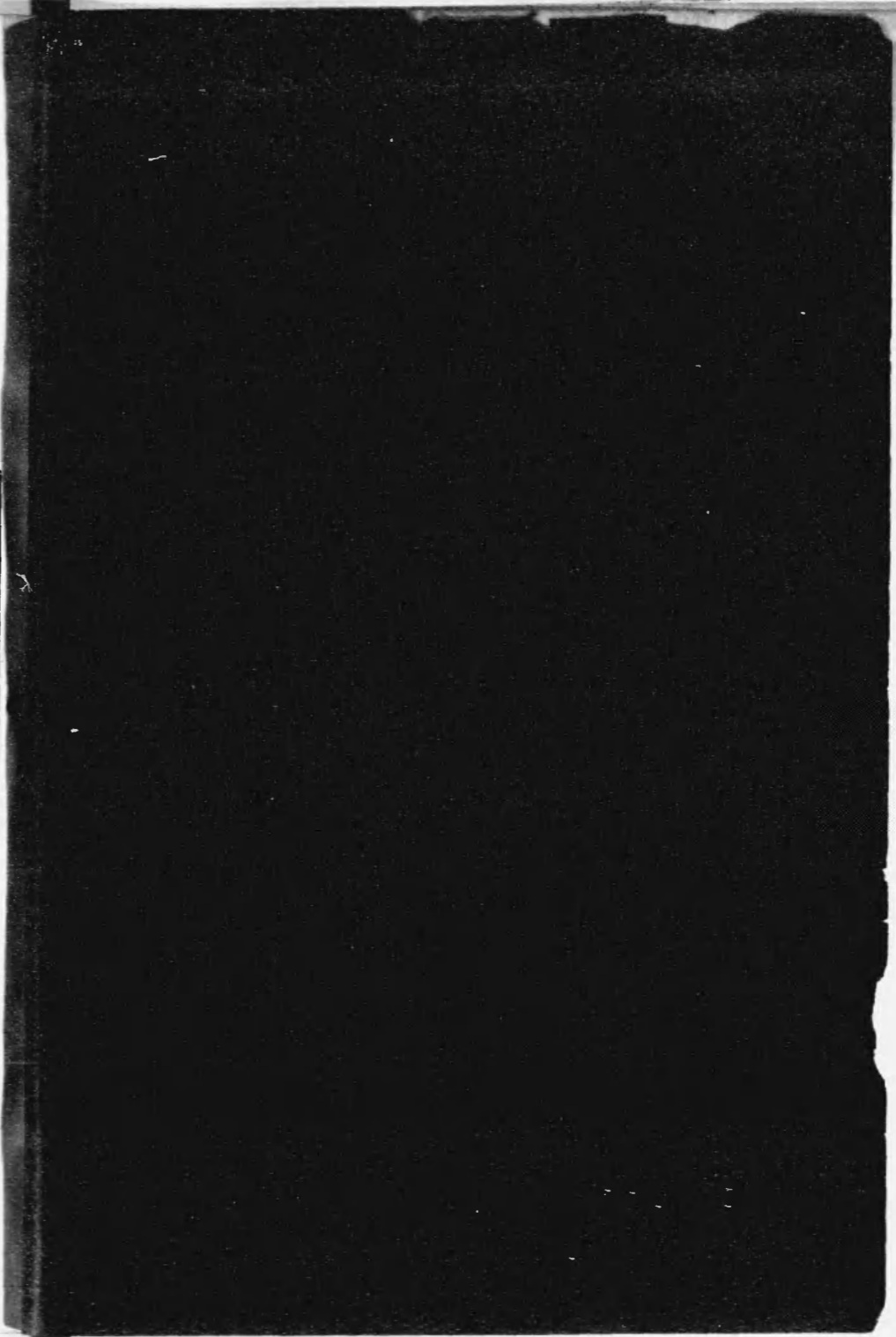
秘露市「モシ」ド港



秘露「アキレバ」市ノ大寺院



秘露南部高部原地方ノ停車場



人 Chuncho 族蠻ノ方地林森露秘



屋家人本ロルケ於ニ近附河母聖露秘



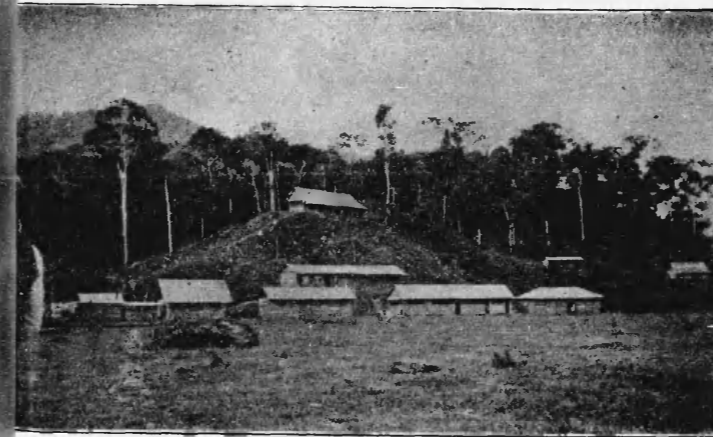
峰連「マコリア」國露秘



道車馬方地原高部南露秘



所務事ノ社會護諒「カンイ」在「ロエチヌア」露秘



祕露聖母河地方護採收ノ圖



祕露聖母河ニ於ケル日本人ノ舟
(對岸ノ住家ナリ)



祕露國タボム河ノ「アチス」口



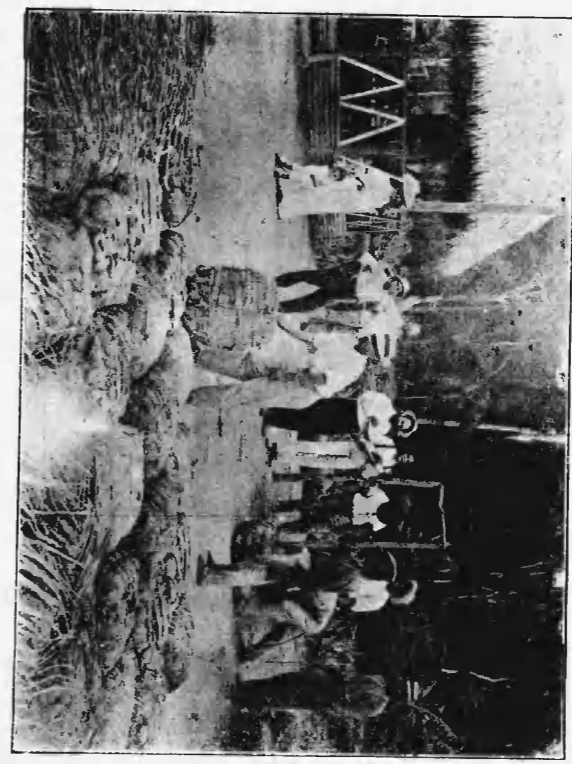
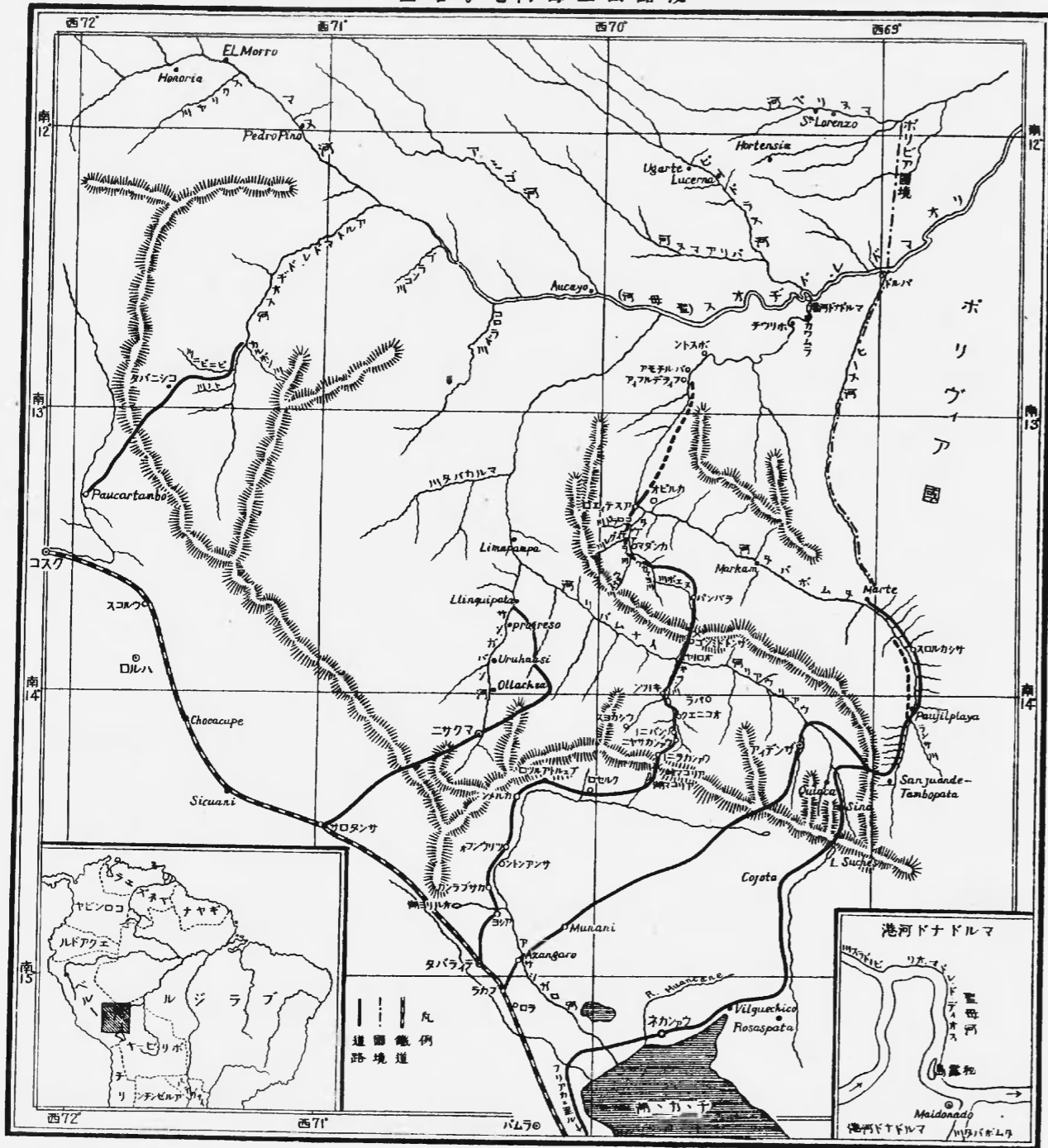
祕露聖母河ニ於ケル日本人ノ舟



祕露聖母河ニ於ケル「バロ」氏釀酒場



秘露國聖母河地方略圖



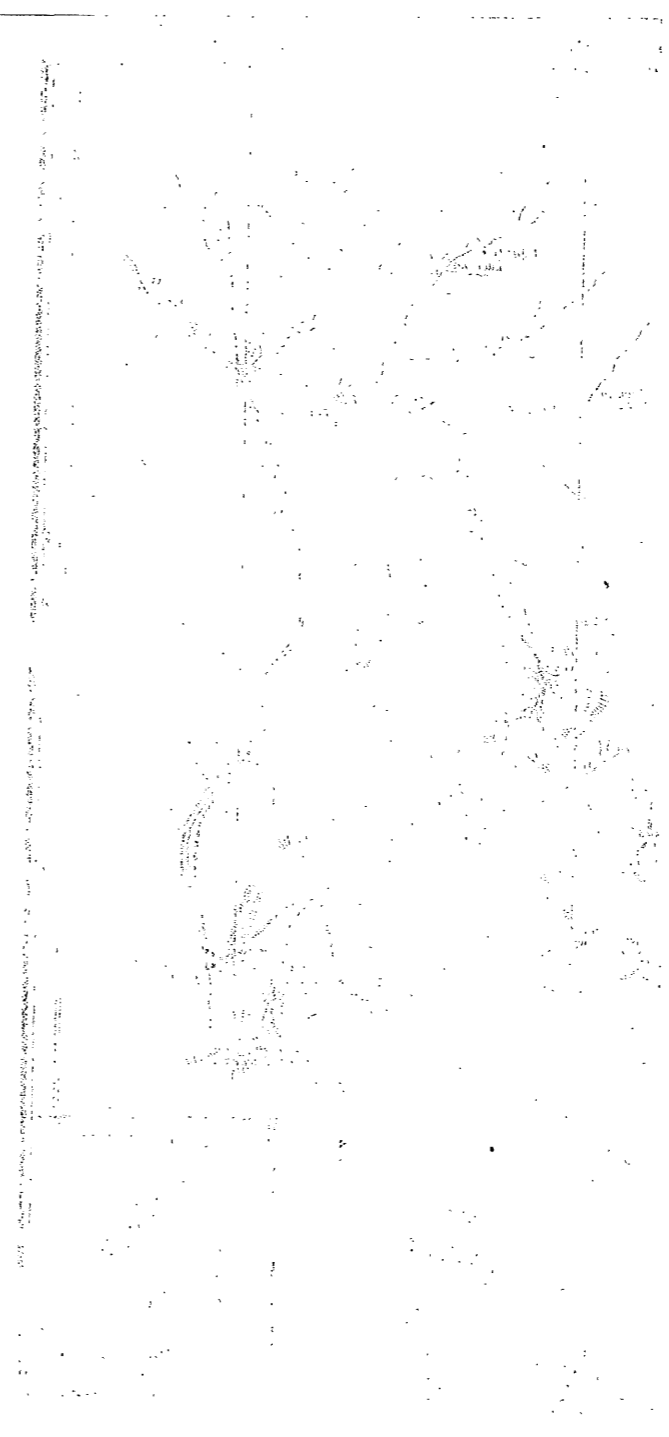
秘露國聖母河地方「ヨ」護護ノ種量取引

秘露國聖母河地方視察報告

(明治四十四年十二月)

目次

- 第一章 視察ノ目的
アンデス山東ノ富源ト鐵道ノ敷設
インカ護謨會社及インカ鑛業會社ノ經營
本邦移民ノ現狀
- 第二章 聖母河ニ至ル順路
三條ノ道路
道路建設ノ沿革
軍隊行進ノ旅程
旅程
- 第三章 交通
郵便、電信
運輸、旅費
電信料、運賃、通行税
- 第四章 沿道所見
- 第五章 「アステイエロ」ニ於ケル日本人
秘露國渡航本邦移民ノ數
「アステイエロ」附近現在本邦人ノ生業
護謨採集者ト「インカ」護謨會社トノ契約條件
物價
- 第六章 聖母河地方ノ地理
- 第七章 聖母河地方ニ於ケル日本人
日本人ノ職業
農業者
農業以外ノ職業
移民ノ送金移民ノ生活狀態
- 第八章 聖母河地方ノ將來
- 第九章 日本人事業ノ將來
- 第十章 森林地方護謨採集業
護謨採集業ノ起原及產出地
護謨樹ノ種類
産額及品名
採集法
採集時期
凝結法
採集者ノ給料
輸出額
商取引
護謨林拂下
栽培護謨
護謨採集者ノ契約



護謨林ニ於ケル病氣
護謨採集業ノ將來
第十一章 森林地方土地法
聖母河地方ノ行政
土地法正文
土地ニ關スル出願ノ手續

秘露國聖母河地方視察報告

(大正元年十二月廿日
在馬里亞納領事館提出)

外務書記生 伊藤 敬 一

第一章 視察ノ目的

近頃秘露株式會社 (Peruvian Corporation Ltd.) ハ聖母河鐵道線路豫測ニ關スル一ノ報告書ヲ秘露政府ニ提出セリ此鐵道
カ愈起工セラル、ハ果シテ幾年後ノコトナルヤ豫想スル能ハスト雖政府カ夙ニ「アンデス」山東地方ノ富源開發ニ銳意セ
ルコトハ左ノ事實ニヨリ窺知スルヲ得ヘシ、即チ彼ノ有力ナル護謨採集家「カウチエロ」(Cachero)、「フェイスカラルド」
(Carlos Hiscarral) カ聖母河地域ヲ世界ノ護謨市場ニ紹介セシ迄ハ世人ハ單ニ該河流ノ上下流域ニ金坑ノ存在セルコト
ヲ知ルノミナリシカ其當時秘露國會ハ早ク既ニ一ノ法律ヲ議定シ(千八百九十六年十月二十三日發布)行政部ニ委スルニ
當國南部鐵道幹線ノ一停車場ヨリ起リ「ウアリウアリ」河 (Rio Huachari) ノ沿岸ニ終ルニ一狹軌鐵道建設ニ關スル契約
ヲ締結スルコトヲ以テセリ
「ウアリウアリ」河ハ他ノ流ト合シテ「イナムバリ」河 (Rio Inambari) トナルト雖其當時ハ前者ノ名ヲ以テ後者ノ大部分ヲ呼ビ
タリ而シテ數多ノ河流ノ之レニ會合スル邊即チ「マドレ、デ、ディオス」ノ廣大豐富ナル森林地域ヲ形成スルモノニシテ此
地方ニ關スル政府ノ種々有益ナル調査並ニ「マルドナド」河港 (Puerto Maldonado) ノ建設、行政官廳ノ設置等ハ殖民ノ
獎勵及該地方ノ領有ヲ確實トナスニ與テカアルモノナリキ
尙政府ハ千八百九十八年十二月二十一日ノ法律ヲ以テ森林地方土地法ヲ制定シ土地ノ拂下、貸下、殖民ニ關スル寬大ナ
ル規定ヲ設ケ大ニ内外人ノ投資、企業並ニ殖民ヲ獎勵シタルカ該法ハ後ニ記載スル如ク千九百九年十二月三十一日ノ法

第一章 視察ノ目的

律ヲ以テ改正シ土地ノ拂下料、貸下料ヲ低下シ特許ニヨル土地ノ讓與ヲ容易ニセリ而シテ獨ニ「マルドナド」河港ニ設置セシ行政官廳ノ努力調査セシ所ハ更メテ千九百四年三月四日ノ法律トナリ「フリアカ」(Tulika)「クスコ」(Quzo)間鐵道ノ一點ヨリ南部河流ノ或ル可航點ニ至ル鐵道線路ノ豫測ヲナス可キヲ規定シ其後千九百七年ニハ上院議員中聖母河地方ニ廣軌鐵道ノ敷設ヲ建議セルモノアリ其調査ノ結果トシテ左記三個ノ線路ヲ選定シ

- 一 「テイラバタ」驛ヨリ「タムボバタ」河ノ合流點ヲ經テ聖母河ニ至ル 四百十二キロメートル
- 二 「シルコス」ヨリ「タウアン」テイス「ヨ」河港「コロラド」河ノ河口ニ至ル 三百四十二キロメートル
- 三 「クスコ」ヨリ「マヌ」河ト聖母河トノ合流點ニ至ル 二百六十七キロメートル

第一線ヲ推薦セシカ其後ニ至リ秘露株式會社ハ新ニ豫測ヲ爲サンコトヲ申出テ政府ハ千九百十年六月二十四日ヲ以テ之ヲ承認シ政府ノ費用ヲ以テ測量スルコト、ナリタル結果ハ即チ冒頭ニ掲ケタル報告書ノ由テ來リシ所ナリトス右ノ外千九百二年政府ハ「インカ」護謨會社及「インカ」鑛業會社ト契約シテ「サント」ドミンゴ「金坑」ヨリ聖母河又ハ「タムボバタ」河ノ可航點迄道路ノ開通工事を起シ其翌年ニハ「テイラバタ」驛ヨリ「リムパニー」迄及「リムパニー」ヨリ「サント」ドミンゴ」迄ノ道路ヲ建設スルコトヲ契約セシカ數年前ヨリ世界護謨相場ノ上騰ハ大ニ聖母河地方ニ於ケル護謨採集熱ヲ昂メ「マルドナド」河港ハ俄ニ繁榮ニ赴キ儲金ノ策源地トシテ中外ニ喧傳セシ爲メ其地方ニ進入スル冒險家多ク前日「インカ」護謨會社ト契約セシ本邦移民中續々同地方ニ下向スルアリ「ボリグリア」國トノ境界問題ニ言説スルコトハ暫ク之レヲ避ク今キ其數三百以上ト註セラレ尙更ニ進ンテ隣邦「ボリグリア」國ノ「リヴェラタ」(Iverata)邊迄到レルモ是レ亦百五十名ヲ超過スルニ至レリ然ルニ由來同地方ハ交通不便ノ地トテ電信ノ不通ハ言フ迄モナク郵便ノ往復ニサヘ二箇月以上ヲ要シ其地方ノ狀況ヲ詳知スルコト困難ナルニ加ヘテ護謨採收ハ從來多ク地方ノ蠻人ニヨリテナサレタルコト、テ其取引ニ當リ往々欺瞞騙詐行ハレ其取引商人ハ頗ル信用シ難キモノナレハ斯ル商人ヲ相手トシテ勞働スル我移民ハ頗ル不安ノ状態ニ在リ一朝事件起ルアラハ彼等ヲ保護スルコト容易ナラヌ又海岸地方ニ比シ儲金ノ容易ナルハ明カナレトモ果シテ如何ナル程度ニ迄我國人カ發展セルヤ可成速カニ其實狀ヲ詳カニシ該地方ノ地理、交通、勞働ノ模様、

健康状態ヨリ進ミテハ護謨採收業ノ現在及將來ヲモ調査研究シ豫テ不安心ノ如ク聞キ及ヘル本邦人送金ノ方法及移民ニ對スル氣受ケ等ヲモ考察シ彼等ノ爲ニ各種ノ便宜ヲ圖リ兼テハ地方官憲トモ好ヲ通シ當ク必要ヲ認メタルヲ以テ小官ハ明治四十四年十一月二十一日里馬市ヲ發シ同地方視察ノ途ニ上リ翌年四十五年一月二十九日歸館セリ之レヲ今回視察旅行ノ目的トナス

第二章 聖母河ニ至ル順路

太平洋岸ヨリ聖母河地方ニ至ル順路三アリ

- 一 「アルトマドレ」デ、デイス」路 舊都「クスコ」市ヨリ聖母河ノ淵源「ビルコバタ」河ト「ト」河トノ合流ニ至ル
- 二 「イナムバリー」路 「サンタ、ロサ」驛ヨリ「イナムバリー」河ノ淵源「アラサ」河又ハ「マルカバタ」河口ニ至ル
- 三 「タムボバタ」路 「テイラバタ」驛ヨリ「アステイェロ」河港ニ至ル

以上ハ何レモ太平洋岸ノ「モエンド」港ヨリ通スル南部鐵道線路ノ一停車場ヲ起點トスルモノナリ
(註) 聖母路ヨリ大西洋ニ通スル道路ニアリ共ニ「ウカヤリ」河ヲ經テ「アマゾン」流域ニ出ツルモノナレトモ此所ニハ之レヲ略ス

以上ノ中今回ノ旅行ニ選ビタル道路ハ第三ノ「テイラバタ」驛ヨリスルモノニシテ「カヤオ」港ヨリノ里程左ノ如シ

- 「カヤオ」港「モエンド」港間海上 四四六里
- 「モエンド」港「アレキバ」市間鐵道 一七里
- 「アレキバ」市「フリアカ」驛間鐵道 一〇里
- 「フリアカ」驛「テイラバタ」驛間鐵道 六六五里
- 「テイラバタ」驛「ウアン」カフ「ニー」間馬道 一七里
- 「ウアン」カフ「ニー」リムパニー」間馬道 一〇里
- 「リムパニー」サントドミンゴ」間馬道 五五里
- 「サントドミンゴ」アステイェロ」間馬道 一三里

以上ノ通路ハ之レヲ三區トシ各州ニ築造セシモノナリ
第一ヲ「リムパニー」ト「サントドミンゴ」間

第二章 聖母河ニ至ル順路

カ(馬鈴薯ニ類似スル植物)大麥及家畜ナリ

第五日 此所ニ於テ軍隊ハ一日ノ休息ヲナシ翌日ノ行軍ニ備フルヲ要ス、蓋シ翌日ノ旅程ハ少シク長ケレトモ之レヲ區分スルヲ得ス且ツ傾斜ノ度愈多ケレハナリ

第六日 「クルセロ、ウアンカラニ」間 十「レグアス」

朝五時前出發晝食携帯ノ外兵卒ハ外套ヲ用意スルノ必要アリ「クルセロ」ヨリ五「レグアス」程ノ間ハ百分ノ四乃至五ノ傾斜ニ過キナルモ其レヨリハ「アリコマ」山脈ニ掛ルヲ以テ峠迄二「レグアス」ノ間處々百分ノ十五ノ傾斜アリ右手ニハ白皚々タル山頂ヲ望ミ左手ニハ太古ノ水ヲ湛ユル湖沼ヲ眺メツ、進ム夫レヨリ三「レグアス」ノ降り途ニテ「ウアンカラニ」ニ到着ス途中一ノ人家タニナシ且ツ多ク高山病ニ罹ルヲ以テ「アンモニア」ヲ用意スルヲ要ス兵卒ハ天幕内ニ眠ルノ必要アリ産物ハ馬鈴薯ノミ

「ウアンカラニ」ヨリハ道幅一米突ヨリ二米突ノ馬道トナルモ大體ニ於テ降り坂トナリ且ツ愈々森林地帯ニ近ツクニ從ヒ草木蒼鬱タル所常ニ溪流ヲ下ニ眺メツ、進行スルヲ以テ日光ニ曝サル、コト少ナク歩行困難ナラスト雖モ旅宿ヲ求ムルニハ必ス一定ノ地點迄進マサル可カラス然ラザレハ天幕ヲ携帯シ露宿スルノ覺悟ナカル可ラス、今各驛間ノ里程ヲ示セハ左ノ如シ(但シ徒歩スルモノハ途中一、二日ノ休息ヲ要スルコトアリ)

- 「ウアンカラニ」ヨリ「レグアス」間 一
- 「レグアス」ヨリ「アンモニア」間 二
- 「アンモニア」ヨリ「オロヤサント」間 三
- 「オロヤサント」ヨリ「サント」間 四
- 「サント」ヨリ「第一號」間 五
- 「第一號」ヨリ「第二號」間 六
- 「第二號」ヨリ「第三號」間 七
- 「第三號」ヨリ「第四號」間 八
- 「第四號」ヨリ「第五號」間 九
- 「第五號」ヨリ「第六號」間 十
- 「第六號」ヨリ「第七號」間 十一
- 「第七號」ヨリ「第八號」間 十二
- 「第八號」ヨリ「第九號」間 十三
- 「第九號」ヨリ「第十號」間 十四
- 「第十號」ヨリ「第十一號」間 十五
- 「第十一號」ヨリ「第十二號」間 十六
- 「第十二號」ヨリ「第十三號」間 十七
- 「第十三號」ヨリ「第十四號」間 十八
- 「第十四號」ヨリ「第十五號」間 十九
- 「第十五號」ヨリ「第十六號」間 二十
- 「第十六號」ヨリ「第十七號」間 二十一
- 「第十七號」ヨリ「第十八號」間 二十二
- 「第十八號」ヨリ「第十九號」間 二十三
- 「第十九號」ヨリ「第二十號」間 二十四
- 「第二十號」ヨリ「第二十一號」間 二十五
- 「第二十一號」ヨリ「第二十二號」間 二十六
- 「第二十二號」ヨリ「第二十三號」間 二十七
- 「第二十三號」ヨリ「第二十四號」間 二十八
- 「第二十四號」ヨリ「第二十五號」間 二十九
- 「第二十五號」ヨリ「第二十六號」間 三十
- 「第二十六號」ヨリ「第二十七號」間 三十一
- 「第二十七號」ヨリ「第二十八號」間 三十二
- 「第二十八號」ヨリ「第二十九號」間 三十三
- 「第二十九號」ヨリ「第三十號」間 三十四
- 「第三十號」ヨリ「第三十一號」間 三十五
- 「第三十一號」ヨリ「第三十二號」間 三十六
- 「第三十二號」ヨリ「第三十三號」間 三十七
- 「第三十三號」ヨリ「第三十四號」間 三十八
- 「第三十四號」ヨリ「第三十五號」間 三十九
- 「第三十五號」ヨリ「第三十六號」間 四十
- 「第三十六號」ヨリ「第三十七號」間 四十一
- 「第三十七號」ヨリ「第三十八號」間 四十二
- 「第三十八號」ヨリ「第三十九號」間 四十三
- 「第三十九號」ヨリ「第四十號」間 四十四
- 「第四十號」ヨリ「第四十一號」間 四十五
- 「第四十一號」ヨリ「第四十二號」間 四十六
- 「第四十二號」ヨリ「第四十三號」間 四十七
- 「第四十三號」ヨリ「第四十四號」間 四十八
- 「第四十四號」ヨリ「第四十五號」間 四十九
- 「第四十五號」ヨリ「第四十六號」間 五十
- 「第四十六號」ヨリ「第四十七號」間 五十一
- 「第四十七號」ヨリ「第四十八號」間 五十二
- 「第四十八號」ヨリ「第四十九號」間 五十三
- 「第四十九號」ヨリ「第五十號」間 五十四
- 「第五十號」ヨリ「第五十一號」間 五十五
- 「第五十一號」ヨリ「第五十二號」間 五十六
- 「第五十二號」ヨリ「第五十三號」間 五十七
- 「第五十三號」ヨリ「第五十四號」間 五十八
- 「第五十四號」ヨリ「第五十五號」間 五十九
- 「第五十五號」ヨリ「第五十六號」間 六十
- 「第五十六號」ヨリ「第五十七號」間 六十一
- 「第五十七號」ヨリ「第五十八號」間 六十二
- 「第五十八號」ヨリ「第五十九號」間 六十三
- 「第五十九號」ヨリ「第六十號」間 六十四
- 「第六十號」ヨリ「第六十一號」間 六十五
- 「第六十一號」ヨリ「第六十二號」間 六十六
- 「第六十二號」ヨリ「第六十三號」間 六十七
- 「第六十三號」ヨリ「第六十四號」間 六十八
- 「第六十四號」ヨリ「第六十五號」間 六十九
- 「第六十五號」ヨリ「第六十六號」間 七十
- 「第六十六號」ヨリ「第六十七號」間 七十一
- 「第六十七號」ヨリ「第六十八號」間 七十二
- 「第六十八號」ヨリ「第六十九號」間 七十三
- 「第六十九號」ヨリ「第七十號」間 七十四
- 「第七十號」ヨリ「第七十一號」間 七十五
- 「第七十一號」ヨリ「第七十二號」間 七十六
- 「第七十二號」ヨリ「第七十三號」間 七十七
- 「第七十三號」ヨリ「第七十四號」間 七十八
- 「第七十四號」ヨリ「第七十五號」間 七十九
- 「第七十五號」ヨリ「第七十六號」間 八十
- 「第七十六號」ヨリ「第七十七號」間 八十一
- 「第七十七號」ヨリ「第七十八號」間 八十二
- 「第七十八號」ヨリ「第七十九號」間 八十三
- 「第七十九號」ヨリ「第八十號」間 八十四
- 「第八十號」ヨリ「第八十一號」間 八十五
- 「第八十一號」ヨリ「第八十二號」間 八十六
- 「第八十二號」ヨリ「第八十三號」間 八十七
- 「第八十三號」ヨリ「第八十四號」間 八十八
- 「第八十四號」ヨリ「第八十五號」間 八十九
- 「第八十五號」ヨリ「第八十六號」間 九十
- 「第八十六號」ヨリ「第八十七號」間 九十一
- 「第八十七號」ヨリ「第八十八號」間 九十二
- 「第八十八號」ヨリ「第八十九號」間 九十三
- 「第八十九號」ヨリ「第九十號」間 九十四
- 「第九十號」ヨリ「第九十一號」間 九十五
- 「第九十一號」ヨリ「第九十二號」間 九十六
- 「第九十二號」ヨリ「第九十三號」間 九十七
- 「第九十三號」ヨリ「第九十四號」間 九十八
- 「第九十四號」ヨリ「第九十五號」間 九十九
- 「第九十五號」ヨリ「第九十六號」間 一百

セル道路ノ終點ナリ俗ニ此地ヲ「タムボバタ」ト呼フ此地ヨリ聖母河港「マルドナド」ニ下ルニハ端舟(Batona)又ハ獨木舟ニテ三日又ハ四日ヲ要ス

第三章 交通

旅行準備 里馬市ヨリ聖母河ニ至ルニハ「カヤオ」港ヨリ直航汽船三十時間餘ニシテ「モエンド」港ニ上陸シ鐵路「アレキバ」市ヲ經テ「フリアカ」停車場ニ至リ同所ヨリ乗換ヘテ「テイラバタ」驛ニ着キ同地ヨリハ馬車若クハ馬背ニヨリ「ウアンカラニ」ニ至リ更ニ馬背ニテ「アスティエロ」港ニ向ヒソレヨリ水路「マルドナド」港ニ到着スルモノナリ茲ニ旅客ノ注意スヘキハ高山地方ノ寒氣ニ堪ユル爲メ及ヒ森林地帯ノ降雨ニ備フル爲メ必要ナル衣類、寢具、寢臺、蚊帳等ヲ用意スルコトナリ

電信 里馬「アレキバ」市間ハ陸上並ニ海底電線ニヨリ、「アレキバ」市ヨリ「テイラバタ」驛間ハ祕露南部鐵道祕露株式會社經營ノ電線ニヨリ又「テイラバタ」驛ヨリ「アスティエロ」港間ハ「インカ」會社ノ架設セシ電線ニヨリ通信ヲ爲スコトヲ得レトモ「アスティエロ」港ヨリ「マルドナド」港間ハ電信線若クハ電話線ノ架設ナク單ニ端舟ニ郵書ヲ託スルノ便アルノミナリ

郵便 以前ハ「インカ」會社カ政府ヨリ受負ヒテ「テイラバタ」・「アスティエロ」間ノ郵書發受ヲ掌リシカ近時一私人カ契約輸送スルコト、ナリ受負料ノ低廉ナル爲メカ將タ無責任ナルニヨルカ延着甚シク特ニ新聞雜誌等ハ數ヶ月ヲ經サレハ到達セス加フルニ「アスティエロ」宛小包郵便ハ必ラス「プノ」市(Puno)郵便局ニ廻送シ同所ニテ税關検査ヲ行フヲ以テ遠隔ノ距離ニ在ル者ハ到底之レヲ受領スルコト能ハス不便甚シク本邦ヨリ「アスティエロ」宛小包郵便ヲ發送スルカ如キハ實際上下不可能ニ屬ス聖母河地方ヘノ郵便ハ其延着更ニ甚シク信書ノ開封シアルハ愚カ途中印刷物小包ト共ニ紛失シテ到着セサルコト頻々タリト云フ

運輸 ハ汽船、鐵道ニヨル外驛馬、端舟又ハ獨木舟ニヨルモノニシテ道路ノ險惡ナル箇所ニテハ驛馬ノ踏聲ニ墜落スルモノ又ハ途上斃死スルモノ日々數頭ニ上リ或ハ水路危險ナル場所ニテハ往々獨木舟顛覆シテ全ク貨物ヲ亡失スルコトア尙森林地帯ハ降雨多キヲ以テ貨物ハ總テ「ズツク」ニ類スル「Cilob」布(代價里馬ニテ「ウアラ」ニ付二十仙位)ヲ以テ之レヲ包ミ更ニ「Dobado」排水布(代價「ウアラ」ニ付三四十仙)ヲ以テ之レヲ蔽ハサル可カラス且ツ驛馬ハ普通二百五十斤ヨリ三百斤迄ヲ擔ヒ得ルヲ以テ荷物ハ一個ニ付其重量百五十斤ヲ超過スルヲ得ス又食料品ハ凡テ鐵葉ノ籠ニ容レテ(米、砂糖、大豆、麥粉ハ五十斤入り、乾山羊肉ハ四十斤入り)浸水ヲ防キ更ニ三個ノ籠ヲ一ノ麻袋ニ納メテ運送ス目下「インカ」街道ノ運搬業ニ従事スルモノハ「インカ」護謨會社(Trua Rubber Co.)「カルピオ、マルケセ」商會(Carpio Marquiza & Co.)及「イリベリ」商會(Libery & Co.)ニシテ就中「カルピオ、マルケセ」商會ハ廣ク一般ノ運送依頼ニ應スト雖「インカ」會社及「イリベリ」ハ現今特別契約ノ外之レヲ扱ハス又「インカ」會社ハ自己所有ノ乘馬、驛馬ヲ旅客ニ貸貸ス(其後ノ報告ニヨレバ「インカ」會社ハ)水運業ニ従事スルモノハ日本人ヲ主トシ數名ノ瑞西人及秘露人アリテ端舟又ハ獨木舟ニヨリ「タムボバタ」河ヲ上下スル外小蒸汽船ヲ所有スルモノ數人アリ端舟運送ハ最モ利益多キ事業ニシテ目下本邦人五十名之レニ從事シ「インカ」會社ト契約ヲナシ居レトモ追々競争者現ハル、模様アリ

今參考ノ爲メ「カヤオ」港ヨリ聖母河ニ至ル旅費、通信料、運賃並ニ通行税等ヲ示スコト左ノ如シ

「カヤオ・モエンド」間流船賃	上等	「テイラバタ・ウアンカラニ」間馬車賃	上等
「モエンド・アレキバ」間流車賃	四五百	「テイラバタ・ウアンカラニ」間馬車賃	四〇〇〇
「アレキバ・テイラバタ」間流車賃	八百	「テイラバタ・アステイエロ」間驛馬賃	七五〇〇
		「ウアンカラニ・アステイエロ」間驛馬賃	七五〇〇
			六〇〇〇

電信料

「アステイエロ」聖母河間舟賃 五〇〇〇 1000
 備考「手荷物アル時ハ「テイラバタ」ヨリ「アステイエロ」迄別ニ駄馬ヲ賃シ之レニ乘馬セル驛夫一名ヲ附添ハシム此賃金驛馬二頭分百五十ソルト
 驛夫給料八十ソルヲ要ス
 馬車賃ハ一名ニ付四十ソルノ規定ナレドモ各客ヲキトキハ二名分ヲ徵ス
 途中宿泊料ハ二ソルヨリ三ソル迄トシ賃食ハ各自ニ準備携帯スルヲ要ス全街道ヲ徒歩スル場合ト雖三十ソルヲ準備ナル可カラズ

里馬「アレキバ」間海風電信 一語に付 三十仙
 同上 陸上電信 十語に付 四十仙(十語以上一語に付四仙)
 「アレキバ・テイラバタ」間陸上電信 十語に付 四十仙(同上)
 「テイラバタ・サント・ドミンゴ」間電話通信 十語に付 「ソル」
 「サント・ドミンゴ・アステイエロ」間同上 十語に付 「ソル」
 備考「テイラバタ・アステイエロ」間ノ通路ヲ二區ニ分チ徵收スルハ後章記スル如ク「インカ」街道ノ一部ヲ政府ニ取上ケラレタレバナリ

運賃

「テイラバタ・アステイエロ」間陸路
 (A) 「インカ」護謨會社取扱 百斤ニ付三十二ソルヨリ三十五ソル 但シ特別契約ハ此外ナリ
 (B) 「カルピオ、マルケセ」商會取扱 百斤ニ付二十九ソルヨリ三十五ソル
 (C) 「イリベリ」商會取扱 契約以外ノ運送ヲナサズ 備考 運賃ノ實費ハ
 「インカ」會社 一百斤ニ付二十二ソルニ二十五仙
 「カルピオ」商會 同上ニ付馬方トノ契約十七ソルヨリ二十二ソル
 「イリベリ」商會 同上ニ付馬方トノ契約二十二ソル
 若シ「私人」が獨立運搬ヲナサンニハ後ニ示ス如ク「テイラバタ・サント・ドミンゴ」間及「サント・ドミンゴ・アステイエロ」間ノ通行税ヲ要スル外「アステイエロ」ニテハ半馬一頭ニ付一日三十錢ノ收單料ヲ仕拂ハサル可ラズ

「タムボバタ」河水路
 今「インカ」護謨會社ト日本人トノ契約ニヨル運賃ヲ示スコト左ノ如シ(但シ「キントル」ニ付キ)
 (A) 「アステイエロ」間(下リ) 返り荷付 三三三
 「バルチモア」間(下リ) 返り荷ナシ 三五〇
 (B) 「バルチモア」間(上リ) 返り荷付 七〇〇
 「アステイエロ」間(上リ) 返り荷ナシ 六五〇
 九

第三章 交通

(C) 「アステイエロ」間(下り) 返り荷付 七五五
 聖世河 返り荷ナシ 二〇〇
 聖世河 返り荷付 一四五〇
 「アステイエロ」間(上り) 返り荷ナシ 一八五〇
 備考 端舟ハ大抵長サ三丈八尺深サ二尺五寸底五尺ノ構造ニシテ十人ノ水夫ヲ要シ一萬斤迄ノ貨物ヲ積載スルヲ得、日本人ガ端舟運送ヲ始メタルハ明治四十一年頃ナリ、「キンタル」ハ百斤ナリ。

(D) 若シ重量ニヨル能ハザル時ハ一日ニ付 三七五〇

通行税

既ニ記セル如ク「テイラバタ」ヨリ「リムパニー」間及「リムパニー」ヨリ「サント、ドミンゴ」間ノ道路ハ「インカ」礦業會社「サント、ドミンゴ」ヨリ「アステイエロ」間ノ道路ハ「インカ」護謨會社ノ築造ニ係リ會社並ニ竣工年月ヲ異ニスルヲ以テ全街道ヲ三區ニ分チ政府ノ認可ヲ得テ左表ノ通行税ヲ徵收スルコト、ナレリ

(A) 「テイラバタ・リムパニー」間(「インカ」礦業會社ノ分、延長百八十二基米突)

(一) 馬又ハ驢馬 (旅客又ハ荷物付)	一頭	十基米突ニ付	十
(二) 驢 馬 (旅客又ハ荷物付)	同	同	六
(三) ヤ マ (荷物付)	同	同	六
(四) 馬又ハ驢馬 (空馬ノ時)	同	同	四
(五) 驢 馬 (同)	同	同	三
(六) ヤ マ (同)	同	同	二
(七) 家 畜 (大ナルモノ)	同	同	十
(八) 同 上 (小ナルモノ)	同	同	五
(九) 徒歩旅客 (荷物ノ有無ノ間ハズ)	一人ニ付	同	無料
(十) 荷 車 (二、四輪付) 荷物	一輛	「キンタル」等	四
(十一) 馬 車 (二輪)	同	同	四
(十二) 同 上 (乗客ナキ時)	同	同	七
(十三) 同 上 (四輪)	同	同	十五
(十四) 同 上 (四輪)	同	「ソル」ニ付	三十
(十五) 馬車及荷車 (空荷ナキ時)	同	同	三十

但シ以上ノ中ニハ河渡シ倉庫ノ使用料ヲ含ム

(B) 尙以上ノ定率ニヨラス馬又ハ驢馬一頭ニ付荷物付「ソル」八十仙、荷物ナシ七十二仙ヲ徵收スルコトアリ

「リムパニー・サント、ドミンゴ」間(「インカ」礦業會社ノ分)

(一) 馬及驢馬 (客又ハ荷物アル時)	一頭ニ付	(道路全體ニテ)	「ソル」
(二) 同 上 (客又ハ荷物ナキ時)	同	同	五十
(三) 驢 馬 (客又ハ荷物アル時)	同	同	八十
(四) 同 上 (客又ハ荷物ナキ時)	同	同	四十
(五) ヤ マ (荷物付)	同	同	五十
(六) 同 上 (荷物ナシ)	同	同	二十五
(七) 年 上 (荷物ナシ)	同	同	二十
(八) 年 上 (荷物ナシ)	同	同	二十
(九) 豚	同	同	二十五
(十) 徒歩旅客 (荷物アルモノ)	一人ニ付	同	二十
(十一) 同 上 (荷物ナキモノ)	同	同	無料

但シ道路全延長ノ四分ノ一迄ハ通行税四分ノ一ヲ、四分ノ一以上二分ノ一迄ハ通行税二分ノ一ヲ徵收ス

(C) 「サント、ドミンゴ・アステイエロ」間(「カルピオ」商會ノ分、延長百三十二基米突)

(一) 馬又ハ驢馬 (同乗客又ハ荷物付)	一頭	十基米突ニ付	二
(二) 驢 馬 (同)	同	同	一
(三) ヤ マ (荷物付)	同	同	一
(四) 馬又ハ驢馬 (乗客又ハ荷物ナシ)	同	同	一
(五) 驢 馬 (荷物ナシ)	同	同	半
(六) ヤ マ (同)	同	同	二厘五毛
(七) 家 畜 (大ナルモノ)	同	同	一
(八) 同 上 (小ナルモノ)	同	同	半
(九) 徒歩旅客 (荷物ノ有無ノ間ハズ)	一人	同	半

備考 以上ノ通行税ハ乗馬又ハ駝馬若クハ貨物運賃中ニ包括セラル、モノトス

(C) 道路ハ明治四十年九月二十一日ヨリ「カルピオ、マルグセ」商會ノ管理ニ移サレタリ

第三章 交通



第四章 沿道所見

今回ノ視察旅行ハ距離ニ於テ左程ノ大旅行ニ非ラズト雖秘露國ノ南部ヲ横斷シテ海岸地方ヨリ「アンデス」高原地方ヲ過キ更ニ深ク森林地方ニ進入シ遙カニ「ボリヰイア」國境附近迄モ到リシ點ヨリ之レヲ言ヘハ其氣候ノ變化、交通ノ困難、道路ノ危險等到底他ノ文明國ニアリテ想像シ能ハサル所ナリトス故ニ予ハ茲ニ沿道ノ光景ヲ叙スルニ當リ先ツ本旅行ニ必要ナル品名ヲ列舉スルノ無用ニアラサルヲ認ム蓋シ海岸地方ノ暑氣高原地方ノ寒氣及森林地方ノ炎暑並ニ降雨ニ對スル支度ヲ要スルヲ以テナリ

- | | | | |
|-----------------|-----|---------------------------|----|
| 羅紗帽子(綠大) | 三組 | 敷布(袋狀ニ縫ヘル) | 二枚 |
| 縮上「シャツ」 | 一ツ | 蚊帳 | 一ツ |
| 夏冬下着 | 四枚 | 「アンモニア」 | 一ツ |
| 「カーキ」洋服 | 五枚 | 其他適當ノ藥品 | 一 |
| 外套 | 二着 | 各種鐘錶 | 一 |
| 毛織製上「シャツ」 | 一枚 | 覆面用透織布小片 | 一枚 |
| 墨ミ縫葉 | 一ツ | 懐中鏡 | 一ツ |
| 「ズック」製上靴 | 二足 | 石炭、齒磨、櫛、手拭、空氣枕 | 一ツ |
| 郵便切手(五仙、二仙ノ分) | 一小瓶 | 蠟燭、「マツチ」ワゼリン | 少シ |
| 防水護膜合羽 | 一枚 | 驗溫器 | 一組 |
| 長靴(若クハ革ノ「ゲートル」) | 一足 | 地圖、手帳、書簡用紙狀萬年「ペン」鉛筆安全「ペン」 | 一打 |
| 「ネル」上「シャツ」 | 三枚 | 「アルミニウム」水筒、コップ | 一ツ |
| 大「ハンケチ」(襪卷) | 二枚 | 木桶「ハンケチ」 | 一打 |
| 毛ソックス | 一打 | 「ナイフ」鉄 | 一打 |
| 毛布 | 二枚 | 「ガイズ」股脂綿、綿帶、色眼鏡(秘露地方ニテ必要) | 一ツ |
| 冬服 | 一着 | 寒暖計 | 一打 |
| | | ビストル | 一挺 |

寄具等類
但シ郵便切手ハ濕氣ニ逢ヒテ五ニ粘着セザル様注意セザル可ラズ
其他學術研究用器具書籍等ハ隨意ナリ
以上ノ物品ハ多クハ「アレキバ」市ニ於テ整フルヲ得且ツ里馬市ヨリモ寧ろ廉價ナルコトアリ
今回視察旅行ノ行程ヲ略記スレバ左ノ如シ(以下行程及旅中見聞事)

明治四十四年十一月二十一日午後六時「カヤオ」港出帆二十三日午前十時「モエンド」港着船直チニ汽車ニ搭シテ同日午後六時半「アレキバ」市着二十六日迄滞在ス蓋シ取調ノ件アリ旅裝ヲ準備モアリ且ツハ高地ノ氣候ニ慣ル、必要モアレハナリ二十七日汽車ニテ出發同夜「フリアカ」一泊二十八日「チラバタ」驛ニテ下車二十九日滞在之レヨリ汽車ヲ離レ三十日早朝馬車ヲ備セテ出發「ツリウソフ」ニ着一泊十二月一日「クルセロ」宿泊此邊海拔二萬四千呎前後ニシテ寒氣強シニ日「アリコマ」峠ヲ越エ「ウァアシカラニ」ヲ經テ「リヤバニ」ニ着シテ一泊三日「オコニケ」(Ocoque)泊リ四日「キートン」河ニ沿ヒ有名ナル「ヴァンデラニ」Vandelaarノ險ヲ越エサント、ドミンゴ「着五日野營六日」ラバンバ」着七日「カンダモ」着八日「アステイエロ」ニ着十一月十一日迄滞在十二日河ヲ下リ十六日「マルドナド」河港着二十一日迄滞在二十二日出發歸途ニ就キ二十九日「アステイエロ」ニ歸着之レヨリ往路ヲ歸還セシニ付之レヲ略ス
上記往復ノ間ニ見聞セシ事項中參考ニ資スヘキモノヲ左ニ摘記スヘシ
「アレキバ」市ハ海面上七千六百呎ニ在リ空氣乾燥セル爲メ漆器、竹細工、木製品皆皸裂シ真座ハ折レ葉卷煙草ハ碎ケ口唇裂傷ヲ生ス本邦雜貨店一、理髮店四アリ支那人ハ多クラス土耳其人多ク前者ト同シキ待遇ヲ受ク附近ニハ「アルファル」草及大麥等ヲ耕作ス之レヨリ登リテ海面上二萬四千七百餘尺ノ「クルセロアルト」ニ着スル前後ニテハ此地方ヲ始メテ旅行スル者大抵高山病一名山醉(Gorale)ニ襲ハレ頭痛、嘔吐、鼻腔出血等ヲ催スラ常トス
「チラバタ」驛ハ秘露南部鐵道「フリアカ、クスコ」支線ノ一停車場ニシテ「インカ」護謨會社、「カルピオ、マルケセ」會社(Carpio Marquese & Co.)及「イナムバリ」探金會社ノ事務所アリ晝間日光ニ浴スル所別ニ寒サヲ感セスト雖夜ニ入

リ風雨ヲ呼ヒ突サヘ加ハル時ハ寒氣肌ニ徹スル思アリ且ツ空氣稀薄ノ爲メ激動スレハ忽チ呼吸迫迫ス四面荒涼トシテ住

民ハ「ヤト」(Yama)「アルバカ」(Alpaca)羊牛馬等ヲ牧養スル外副業トシテ農業ヲ營ム

「テラバタ」ヨリアリコマ「峠」ヲ超エ「ウツンカラ」ニ迄ハ馬車ヲ通ス道幅五米突ノ坦路ニシテ勾配急ナラス修繕行届ケ

リ峠ニ至ル迄ノ間ハ「チ、カ、湖」ノ北ニ在ル廣瀾ノ平野ニシテ「アリコマ」湖(L. Aricoma)及「ポト」湖(L. Poto)ニ發

スル「アサンガロ」川(R. Azangaro)此間ヲ流レ道路ハ此河筋ヲ右手ニ取リテ登ルモノナリ沿道附近ニ起伏スル丘陵ニハ

一ノ樹木ナク野モ山モ唯タ寒地牧草「プーナ」(Puna)ノ生スルノミ男ハ農耕ヲ努メ婦ハ牧畜ニ從事シ休息ノ間ハ男女共

ニ路傍ニ羊毛ヲ紡ク農産物ニハ馬鈴薯アリ大麥モ栽培スレトモ寒風ニ吹荒マレテ成熟セス牛馬ノ飼料ニ供スルニ過キ

此外「クネア」(Quina)ト稱シ其形粟粒ニ似タルモノアリ土人ノ食料ニ供ス此邊天氣好晴ナラハ日中ハ相應ニ温暖ナレ

トモ夜ニ入レハ寒氣嚴冽毛布四枚襲ネテ猶眠ヲナス但シ蠅蚋ノ群來セサルハ大ニ心地佳シ

「アリコマ」ノ山越ハ天候快晴ノ時ニ會ヘハ格別ノ困難ナシト雖若シ風雪ニ遭遇センカ手足凍エ耳ハ傷キ唇ハ壞血シ顔面

黧ヲ生スルヲ以テ手袋襟巻及「ワゼリン」ヲ携帶ヲ怠ルヘカラス假令好晴ノ日ニアリテモ山醉ニ罹リシ身ヲ以テ徒歩スル

ノ困難ハ言フ迄モナン乘馬ニテ通行ストシテモ其乘馬ニシテ山醉ニ罹ラハ下リテ之レヲ牽カサルヘカラス小官通過ノ時

ハ幸ニ天候佳ナリシヲ以テ無事ナルヲ得タリ

「テラバタ」ヨリ「リムパニ」ニ至ルニハ徒歩五日ヲ要シ且ツ途中晝食ニ不便ナルヲ以テ豫メ之レヲ用意セサル可カラ

茹雞卵ノ如キハ途中ニテ粉碎シ且ツ山上ノ水ハ有害ナルヲ以テ飲用スル能ハス無理ニ之レヲ嚥下スル時ハ腹痛ヲ起スコ

トアリ山醉ハ高地點ニ於ケル稀薄ナル空氣ノ爲メ腦、心臟及肺臟ヲ壓迫セラル、ニヨリ起ル病症ニシテ之レニハ「アム

モニア」ヲ喚タラ最モ善シトスレトモ心臓弱キモノハ山地ノ旅行ヲ見合ハスニ如カス又此地方ニテ眼炎 Surmipe ニ罹ル

コトアリ之レ日光積雪ニ反射スル爲メ起ル病氣ニシテ甚タシキ充血炎症ヲ起シ到底眠ヲ開ク能ハス重キハ二三日モ經

過セサレハ平癒セスト云フ由テ成ルヘク雪ヲ眺メサル様ニスヘク且ツ積雪甚タシキ時ハ色眼鏡ヲ用フヘシ

「ウアンガラニ」以奥ハ道幅狭マリヲ車輛ヲ通セス只タ騎行ニ堪ユルノミ「リムパニ」ハ海面上ニ萬千五百呎ニ在リ全

然土人ノ村落ニシテ人家ハ總テ小石ヲ以テ壁ハ「ブーナ」ヲ以テ葺キ牧畜及農業ニ從事ス植物稍成育シテ森林

地帯ニ近ツクヲ覺ユレトモ到底一寒村タルヲ免レ

「オコニエケ」(六、七、七、五呎)ハ「インカ」會社ノ倉庫及厩舎ノ在ル所ニシテ牧草及玉蜀黍ヲ植ニ蜜柑、鳳梨、「パイイヤ」等

ノ成熟セルヲ見ル前面ニハ「オコニエケ」河ヲ隔テ、高サ約二百米突ノ小丘崛起シ牡鹿鹿鹿ノ逍遙セルアリ時ハ恰モ桃花

ノ咲キ初メタル頃ニシテ寒暖最モ人體ニ適セリ夕景ニハ稍冷氣ヲ覺ユ雨後螢ノ飛交フルヲ見ル

「オコニエケ」ヨリ進メハ道路ハ「オコニエケ」河ヲ繞ヒテ右ニ左ニ幾回カ釣橋ヲ渡リ第五ノ釣橋(長サ六十米突)ヲ渡リテ

左方ヨリ來ル「ウツンカラ」河(Utuncara)ニ會シテ「キーン」河(Quin, Quin)ノ左岸ニ出テ「キーン」驛ニ達シ之レ

ヨリ道路ハ今回旅行中ノ最難所ニ入ル此道路ハ「キーン」川ノ右岸懸崖ヲナセル山腹ヲ切り開キテ通セルモノニシテ右

ハ矗立セル絶壁ナリ左ハ千仞ノ谷ニ臨ミ其最高キ所ヲ「ヴァンデラニ」(Vandani)ノ嶮所ト稱ス此邊道幅極メテ狭

キヲ以テ驛馬隊ノ來ルニ逢フ時ハ迴避ノ餘地ナク安全ナル地點マテ引返ササル可カラズ由テ旅舎出發前電話ヲ以テ前路

ヲ問合セ其手筈ヲ整フルヲ要ス之レヲ過キテ「キーン」河ノ「イナムバリ」河ニ注ク邊ニ至レハ巖谷次第ニ廣ク道路稍平

坦ナリ土地漸ク低クシテ暑熱ヲ感シ巖頭ニハ蘭、羊齒ノ類叢生シ千種萬様ノ彩蝶舞ヒ狂ヒ往々蟬聲ヲ聞ク

「サント、ドミンゴ」(Santo Domingo)ハ「インカ」鑛業會社金坑ノ所在地ニシテ同會社事務所雜貨店等アリ山奥ニ珍ラシ

キ旅宿、會社雇人宿泊所、洗濯工場アレトモ現今ハ總テ事業ヲ中止シ僅ニ二、三十名ノ土人カ川床ニ於テ砂金洗滌ニ從

事セルヲ見ルノミ一人一週間ニ「オンス」乃至三「オンス」ヲ採取シ「オンス」二十「ソル」ノ價ヲ以テ會社ニ賣渡スト云

フ

「サント、ドミンゴ」ヨリ前路暫クハ「イナムバリ」河ト「タムボバタ」河トノ分水界ナル山路ニカ、リ人家ナキヲ以テ設ケ

ラレタル野營ニ宿泊セサル可ラス隨テ食物モ山地ノ常食タル乾山羊肉及乾馬鈴薯ニテ満足セサルヘカラス河流ニハ遠サ

第四章 消道所見

一五

調一0585

カリ路幅狭カラス(三米突)勾配緩ニシテ前日ノ如キ危険ナシト雖土質粘土ニシテ四時大雨多ク且ツ排水ノ途ナキ爲メ泥濘馬脚ヲ没シ行歩頗ル困難ナリ此等ノ道路ハ政府ト「インカ」會社トノ契約ニヨリテ開通セシモノニシテ此附近ニテハ百分ノ十迄ノ傾斜ヲ許サルト雖實際ニハ其レ以下ノ勾配トナシタル爲メ同一地點ヲ迂廻ニ迂廻シ或ハ上リ或ハ下リ道程延長シタル結果自然修繕不行届トナリ加フルニ四十四年九月ヨリ「サント、ドミンゴ」以與ノ道路管理ヲ「カルビオ、マルゲセ」商會ニ委セシ爲メ爾後未タ一回モ修繕セズ由テ一層道路ヲ劣惡ナラシメタリ尙之レヨリ以與ハ會テ我明治植民會社取扱移民カ修繕ニ從事シタルコトアリ其頃ノ道路ハ實ニ完全ナルモノニシテ少シモ行路難ヲ覺エサリシトハ今ニ驛夫ノ語ル所ナリ

山路ヲ下リ「タンボボタ」河ノ諸支流ノ間ヲ進ム邊森林次第ニ深クシテ眺望ヲ遮リ道路仍ホ泥濘アリ馱馬ノ疲勞シテ貨物ト共ニ谿谷ニ頓落シテ斃死スルモノ往々之レヲ見ル元來驛夫ノ貨物積卸ヲナスヤ亂暴不親切ニシテ商品ノ損害實ニ料ルヘカラス其使役スル驛馬ハ普通入山ノ際三百斤ヲ擔フト雖歸途ハ疲勞セルト食糧缺乏スルトニヨリ二百五十斤ヲ最高限度トス其普通ニ受タル運賃ハ片荷五斤ニ付キ二十二「ソル」返荷同上ニ付キ十七「ソル」宛ニシテ一回往復スレハ二ヶ月間休養ス現時本道路ヲ通行スル驛馬毎月八十頭内外ナリト云フ

「ラ、パンバ」(La Panpa)ハ元「インカ」會社ノ農場ニシテ牧草ヲ植エ此所ヲ通過スル馬匹ニ對シ一定ノ牧草代ヲ徴セシコトアリ本邦人某旅宿業ヲ營ミシカ今ハ前記「カルビオ」商會ノ管理スル所トナリ農場ハ荒廢シ唯「バナ、ババイヤ」等ノ栽培セラル、ノミ宿主モ亦祕露人ト變レリ此所ヨリ「アステエロ」邊ハ晝間駒子多ク夜間ハ人畜ノ血ヲ吸フ蝙蝠アリ旅客ハ皆蚊帳ヲ用ヒテ其ノ害ヲ防ケトモ馬匹ハ夜中大抵其害ヲ免レス此他一種ノ大蟻アリ大キサ一寸ニ達シ人若シ之レニ刺サル、時ハ激痛ヲ感スト云フ

「アステエロ」(Astellero)ハ此街道ノ終端ニシテ「インカ」會社ノ事務所、倉庫、商店、旅舎、牧場、警察分署、「カルビオ」商會、「イリグエリー」商會、「ブライヤード」商會等ノ出張所アリ日本人亦二戸ヲ構フ

第五章 「アステエロ」ニ於ケル日本人

既ニ述ヘタル如ク「インカ」護謨會社ハ其本社ヲ北米合衆國「ペンシルヴァニア」州「ブラッドフォード」ニ置キ資本金米貨百五十萬弗ヨリナル合資會社ニシテ其起源ハ同社ト姉妹ノ關係ヲ有スル「インカ」鑛業會社ノ青年社員中ヨリ「タムボバタ」河方面ニ於ケル護謨林探檢ノ爲メ前後二回遠征隊ヲ發シタルニ首尾能ク其目的ヲ達シタルヲ以テ當國政府ニ對シ「サント、ドミンゴ」ヨリ「タムボバタ」河可航點迄ノ道路建設ヲ願出テ其報償トシテ森林地二十五萬「エクタレア」ヲ讓渡セラレ他方面ニ於テハ「インカ」鑛業會社ノ名ニ於テ「テイラバタ」ヨリ「リムバニー」迄及「リムバニー」ヨリ「サント、ドミンゴ」迄ノ道路建設契約ニ對シ政府ヨリ讓與セラレタル森林地八十四萬六千六百二十九「エクタレア」アルヲ以テ此等ノ土地ニ於ケル野生護謨採取並ニ運送業營業ノ目的ヲ以テ茲ニ前記護謨會社ノ設立ヲ見タルナリ而シテ現今太平洋岸ト聖母河附近トノ間ヲ往來スル旅客及貨物ノ大半ハ此道路ニヨルコト既記ノ如シ

本邦移民カ舊明治植民合資會社ノ周旋ニヨリ「インカ」護謨會社ニ雇傭セラレタルハ明治三十八年十二月第一回十二名ヲ以テ始メトシ其後四十年三月第二回トシテ百四名入山シテ「サント、ドミンゴ」以與ノ道路修繕ニ從事シタルカ前後八回ニ涉リ左表ノ人員ヲ容レタリ

第一回	明治三十八年十二月(契約地着)	十二名	第六回	明治四十二年十月	四十五名
第二回	同 四十年三月	百〇四名	第七回	同 四十三年一月	四十五名
第三回	同 年十月	十八名	第八回	同 年四月	五十五名
第四回	同 年十二月	十四名	合計		三百五十八名
第五回	同 四十二年六月	六十五名			

第五回移民到着前ニハ既ニ先入隊ノ中護謨採集ニ從事セルモノアリシモ尙道路普請ニ回サレ一日ニ「ソル」五十仙ノ日給ヲ受ケ居ルモノアリシ爲メ不熟ノ護謨採取ニ從ヒ採集量ニ應スル不定ノ給料ヲ受クルヲ欲セサルモノ多數ニシテ且ツ採

第五章 「アステエロ」ニ於ケル日本人

集期ヲ終リタル後ノ勢銀及仕事ニ關シ契約上會社カ保障セシ所ハ一々實行セラレシ移民ニ大ナル不安ヲ與ヘタルニ加ヘテ明治植民會社送致ノ第七回入山者中ニハ里馬市ニ彷徨セシ舊移民中不平ノ徒ヲ混セシカハ此等ノ徒ハ出山シテ他國ニ轉航スルカ若クハ遙カニ聖母河地方ニ下リ有利ナル労働ニ就キシモノアリ又タ多少ノ貯蓄ヲナシテ歸國セシモノアリ結局自然淘汰ノ理法ニヨリ忍耐シテ道路普請ニ從事スルモノト護謨採集ニ熟練セル者ニシテ之ヲ以テ最モ有利ノ労働ト思考スルモノノミ殘ルコトナリ去ル四十二年九月末ニハ百四十一名ヲ留ムルニ過キザリシカ小官出張ノ當時ハ「インカ」街道ノ一部ハ既ニ「カルビオ、マルケセ」商會ノ管理ニ移サレ居タルヲ以テ本邦人ノ道路修繕ニ從事スルモノ一名モナク過半ハ聖母河ニ下向シ「インカ」會社ニ附屬セルモノ僅々三十九名(内女二名)獨立事業ヲ經營セルモノ二十五名(内女一名)ナリキ今之レヲ表示スレバ左ノ如シ

職業	員數	給料	備考
「アステイロ」獨立事業	水運	三	内女一人アリ、舟夫一ヶ月食料附六十、ソル採取は同上九十「ソル」
「アステイロ」獨立事業	書記兼商店掛	一五〇〇	食料付月給
「アステイロ」獨立事業	同上助手	一〇〇〇	同
「アステイロ」獨立事業	労働者監督	七五〇〇	同
「アステイロ」獨立事業	料理番	六〇〇〇	同
「アステイロ」獨立事業	同上助手	四〇〇〇	同
「アステイロ」獨立事業	給仕人	四五〇〇	同
「アステイロ」獨立事業	雑役夫	二五〇〇	食料ナシ日給
「アステイロ」獨立事業	農夫	六五〇〇	同 月給
「アステイロ」獨立事業	農婦	三〇〇〇	同 同上
「アステイロ」獨立事業	農業採集者監督	九〇〇〇	「インカ」會社ト契約シテ農場ヲ經營スルモノノ收入多シ、農業採集者ノ營業收入前者ニ勝ル、食料付月給
「アステイロ」獨立事業	同上採集者	九〇〇〇	概算月九〇「ソル」内外ノ收入アリ、新採集者ナリ
「アステイロ」獨立事業	料理番	五〇〇〇	食料付月給
「アステイロ」獨立事業	給仕人	四五〇〇	同

前表ニ云フ「バルテイモア」ハ「インカ」護謨會社ノ出張所ニシテ「アステイロ」ヨリ「タムボバタ」河ヲ下ルトコト一日ニシテ達シ得ラル同所ニアル本邦人ハ男女二名ノ料理番、男一名ノ「ボーイ」兼農夫ノ外總テ護謨採集ニ從事スルモノニシテ彼等ノ大部分ハ前年來同社トノ契約ニヨリ採集ニ經驗アルモノニシテ且ツ最モ熟練セルモノ又残り數名ハ自ら進ミテ海岸地方ヨリ至リシモノナレハ單純ナル契約年限ニ束縛セラレ已ムヲ得ス其業ニ從事スルモノトハ自ら撰ヲ異ニスルヲ以テ本年ノ成績大ニ見ルヘキモノアラント期待セラレタリ今後等カ移民會社ノ仲介ナク自由ニ「インカ」會社ト契約セシ條件ヲ示セハ左ノ如シ

- 一 「インカ」會社ハ「アステイロ」ヨリ北西ニ當ル部分ニ於テ護謨採集者ヲ入ル、ニ適當ナル土地ヲ日本人代表者某ニ貸與シ本契約調印後三ヶ年間に前記某ノ承諾ヲ得サレハ他ノ採集者ヲ送遣セサルコトヲ約ス
- 二 日本人ハ護謨採集ニ當リ其樹木ヲ充分ニ保護スルコトヲ約ス
- 三 「インカ」會社ハ適當ニ「煙草」タル「ヘマ、フイノ」護謨各一斤ニ付秘貨八十五仙ヲ、純潔ナル「セルナンビー」各一斤ニ對シ秘貨六十仙ヲ仕拂フコトヲ約ス
- 四 以上ハ「バルテイモア」ニ於テ引渡サルヘク且ツ各種ノ護謨ニ付百分ノ十二ノ割合ヲ以テ水分量ヲ引去ルヘシ
- 五 「インカ」會社ハ特ニ優良ノ品質ヲ有スル護謨ニ對シテハ割増價格ヲ仕拂フヘク又將來市價カ現今ノ相場ヨリ騰貴スル時ハ相當ノ値上ヲナスコトヲ約ス
- 六 日本人ハ各自ノ負擔ヲ以テ「エスツラダ」(各護謨樹ヲ連絡スル爲メ其間ニ通スル小徑ヲ指ス)ヲ開キ且ツ各自ノ小舎ヲ建設スヘシ
- 七 「インカ」會社ハ日本人ニ對シ護謨採集地ニ於テ農事ヲ經營スル爲メ無料ニ土地ノ使用ヲ許スト雖若シ彼等カ該地域ヲ引上ケル時ハ當然「インカ」會社ニ復歸シ何等ノ報償ナキモノトス

A 河系住民、氣候及國境

母聖河即チ「リオ、マドレ、デ、サント、ディオス」Rio Madre de Dios 其源ヲ西經七十一度ヨリ七十二度ノ間南緯十三度ヨリ十四度ニ至ル間ニ「パウカルタムボ」Paucartambo 附近ノ山岳ヨリ發シ其左岸ニ於テ「マヌ」河 Manu ノ流ヲ受クル迄ヲ上聖母河ト稱シ「ボリヰア」國ヨリ來ル「ムニ」河 Muni 河ト會スル點迄ヲ下聖母河ト稱シ其長キ流レノ間ニハ許多ノ河流ヲ合ヌモノニシテ就中著名ナルハ左岸ニ於テ「マヌ」(Manu)「アミーゴ」(Amigo)「カキカラ」(Cachicara)トシ右岸ニテハ「コロラド」(Colorado)「イナムベリー」(Inambari)「タムボクタ」(Tamboque)「ヘース」(Hacha)ノ諸流トナス而シテ「ヘース」河ト會スル迄ノ聖母河ハ祕露領ニシテ其レヨリ先キハ「ボリヰア」領トナシ更ニ「マモレー」河(Rio Mamore)ト合シテ「マテラ」河(Rio Materna)トナリ遂ニ「マヤン」ノ流レニ合ヌ
因ニロフ聖母河ノ淵源タル無數ノ川流中「Piloopata」河又ハ「Pini-Pini」ヨリ Mamore 河ト合スル迄延長約八百、キロメートルト稱セラレ

抑モ聖母河森林地域ハ其廣袤頗ル大ニシテ殆ト南緯十度ヨリ十四度ニ至リ西經六十六度ヨリ七十二度ニ亘ルト雖東方ニ擴カル部分ハ千九百九年九月十七日ノ祕露、「ボリヰア」境界條約ニヨリ後者ノ領有スル所トナレリ今同條約ノ規定ヲ見ルニ

「ボリヰア」ト祕露トノ境界線ハ現在ノ境界線タル「スチニス」河(Rio Siches)ヨリ同名ノ湖ヲ横斷シ「パロマニー、ツランカ」(Palomani Franca)「パロマニー、クンカ」(Palomani Cune)ノ丘「パロマニー」ノ嶺及「ヤグアヨグマ」(Yaguayogma)山脈ヲ越エ更ニ「ウアヒラ、ルリニー」及「ネチ、コルバ」山脈(Huajira, Iurini, Iacooyma)ヲ越エテ「ランサ」河(Rio Lanza)及「タムボクタ」河(Rio Tamboque)ノ分水線ヲ通過シテ南緯十四度ニ至リ其レヨリ前進シテ「ランサ」河ニ出テ同河ニ沿ヒテ「タムボクタ」河ノ會流點ニ至リ更ニ進ミテ「ヘース」河(Rio Hacha)西方源流ニ至リ同河ヲ經テ「マユ、マ、ヂ、イ、オ、ス」河(Rio Madre de Dios)ニ至リ「ヘース」河ノ會流點ヨリ稍西方ニ進ミ「マヌ」河(Rio Mauripe)「イ、ヤ、ン、プ」(Ilampun)軍營ノ所在地ニ到リ更ラニ「ヤヰ、リ、ン」河(Yaverija)ト「アレ」河(Rio Are)ノ合流ニ達シ以上ノ境界ノ東側ヲ「ボリヰア」領、西側ヲ祕露領トス

右條約ノ結果トシテ祕露「ボリヰア」兩國ヨリハ境界測量委員ヲ派シ其實測將ヲニ終了セントシツ、アリ而シテ祕露ノ領有ニ歸セシ聖母河地域ノ面積ハ約十萬平方「キロメートル」ト算セラレ
同地方ハ行政上ノ便宜ヨリ之レヲ獨立ノ一地方トシテ中央政府ノ任命シタル特別委員管轄ノ下ニ置ケリ
此附近ノ住民數ニ就テハ正確ナル調査無シト雖概算文明人五千人蠻人五千人位ナルヘント云フ外國人中ニハ日本人、「ボリヰア」人ヲ最多數トシ西班牙人、哥倫比亞人、獨逸人、米國人、英國人及伊太利人アリ祕露人ハ重ニ「コレト」縣(Loreto)ヨリ移住シタルモノナリ駐屯軍隊二百人、其他政府ノ雇人五十名程アリ

此邊ノ人家農場ハ河岸不定ノ間隔ニ於テ設ケラレ未ク村落ヲ形成スルニ至ラズト雖モ「マルドナド」(Maldonado)「タムボクタ」河カ聖母河ニ注流スル河口ニアリテ人家數戸アリ兵舎、教會、行政官衙、税關等此所ニアリ
「アンデス」山東ノ低原森林地域ハ大西洋ヨリ來ル風ニ濕氣ヲ含ムヲ以テ山頂ニ觸レテ雨トナリ世界中最モ雨量多キ地方トナス尙雨後ハ常ニ涼風ノ起ルアリ日光直射ノ外割合ニ苦熱ヲ感セス十月ヨリ四月迄ヲ降雨期トシ之レヲ冬トシ(其間雨量多ク河流常ニ横溢ス)五月ヨリ九月ヲ乾燥期即夏トス平均溫度ハ華氏八十度ニシテ時トシテ九十五度ニ昇ルコトアリ八、九月頃ハ日射ト蝸子ニ苦ムト雖海岸地方ノ濕潤期ノ如ク常ニ陰晦ニシテ早曉日没ノ頃皮膚ヲ穿透スルカ如キ惡季節ナク總シテ此地方ノ氣候ハ最モ健康ニ適スト云フヲ得ヘシ

(B) 聖母河地方ニ於ケル蠻民ノ種族 (通俗ニ總稱シテ「チヌチ」ト云フ)

Chincha 族
Huichos 族
Punanayo 族
Uchib 族
Ucayali 族
Chamas 族
Ucayali 河附近ヨリ來リ文明人ニ接近ス

Shipivos 族、Ucayali 河附近ヨリ来リシモノ
 Cashivos 族、Aguaita 河附近ヨリ来リシ食人種ナリ
 Piro 族、Aho Urubamba 河及 Mishagna 河附近ヨリ来リシ種族ナリ最モ瘴惡ニシテ復讐心強シ
 Arahuacas 族、Urubamba 河附近ヨリ来ル
 Promashicos 族、Manu 河附近ヨリ来ル
 Masheos 族、Madre de Dios 河附近ノ産ナリ
 Huachiparis 族、Alto Madre de Dios 河附近ノ産ナリ
 Amashungas 族、Alto Madre de Dios 河附近ノ産ニシテ「カムバス」種族ノ墮落セルモノナリ
 Inuparis 族、Amigo 河及 Parimantú 河附近ヨリ来リシ食人種ナリ
 Sirineos 族、Colorado ノ支流 Pukiri 河附近ノ産ニシテ其數最モ多ク常ニ「マシニコス」族ト争闘ス
 Hanayos 族、Iamburi 河、Tambopata 河及 Hacha 河附近ノ産ナリ稍文明人ニ接近セリ
 Cubinas 族、Mauripe 河附近ニ産ス
 Cocamas 族、Maranon 河附近ヨリ来リシモノナリ
 Ramos 族、Alto Tapiche 河附近ニ産ス

(C) 「タムボバタ」河ノ航路

「インカ」會社開築道路ノ最終點タル「アスティエロ」ヨリ聖母河々港「マルドナド」(Maldonado)ニ至ル距離ニ關シテハ未
 タ正確ナル實測ヲ聞カスト雖約二百キロメートル以上ト見テ誤リナカル可シ此間ヲ短舟ニテ下航スルニハ水量ノ増減
 ニヨリ二日乃至四日ヲ要シ上航ニハ減水時五日増水時九日乃至十二日ヲ要ス而シテ「アスティエロ」ヨリ下ルコト一日ナ
 ル「バルティモア」ヨリ以下ハ小蒸汽船ヲ以テ交通シ得ト雖多クハ獨木舟及短艇ニテ上下スルモノニテ本邦人五十餘並ニ

秘露國人三、四十名此水運ニ從事ス本河ハ下航上航共ニ危險多ク舟ノ操縦ニ熟練シ且ツ水流ニ諳ニスル者ニアラサレハ
 往々舟ヲ顛覆セシメ貨物ハ勿論人命ヲ喪フコトアリ現今本邦人ニシテ短艇及獨木舟ヲ所有シ荷客ノ運送ニ從事スルモ
 ノ三組アリ左ノ如シ

- 第一短艇 (一九〇八年進水) 船長福岡縣古賀福松外ニ助手一名樞夫八名
 - 第二短艇 (「インカ」號) 船長新潟縣丸山篤外ニ助手一名樞夫八名
 - 第三短艇 船長山梨縣飯島國通、飯島周外ニ助手一名樞夫八名
- 右ノ外時々獨木舟ニテ上下航スルモノニ組程アリ尙上記船長等ハ嚮キニ「インカ」會社ノ契約セシ移民ニシテ同祖附屬外
 國人船長ノ下ニ助手或ハ樞夫タリシモノナルカ次第ニ經驗ヲ積ミ遂ニハ出藍ノ譽ヲ得外國人ヲ驅逐シテ自ら船長トナリ
 更ニ進ミテ同志ト組合ヒ短艇ヲ所有スルニ至リシモノナリ

(D) 「アスティエロ」ヨリ「マルドナド」河港ヘ往復途上ノ所見

四十四年十二月八日「アスティエロ」ニ安着シタル小官等ノ一行ハ九、十、十一ノ三日間滞在シ休養勞務般ノ調査ヲセル
 後十二日短艇「インカ」號ニ搭シテ河ヲ下リタルカ不慮ノ出來事ノ爲ニ引返シ翌十三日再ヒ出船セリ河ハ頗ル急流ニテ
 途中幾多ノ險灘アリ水手ノ操縦巧ナラサレハ顛覆ヲ免レス第一ニ來ル難關ハ急流ノ淺瀬ニシテ船底河床ヲ擦ルコト數々
 其都度直ニ水ニ入りテ之レヲ押サ、ル可カラズ次ハ増水ニ連レ上流ヨリ流レ來リシ巨大ナル樹木カ減水ニ遭ヒテ河床ニ
 固着シ縱横ニ其幹枝ヲ張り幾多ノ渦流ヲ生スル所ニシテ之レヲ「バリサダス」(Piratas 亂材關)ト云フ

此等難關中最モ有名ナルハ「バリサダ」モ、ツイエハ「Piratas」バリサダ、デナボレオン」(De Nagoleon) 及「マリノウス
 キ」(Malinowski) 河口ニ在ルモノニシテ幾回カ遭難ノ歴史ヲ遺セリ此日ハ河原ニ上陸シ天幕ヲ張リテ野宿ス夕刻ヨリ蚊軍
 ノ襲來激シク瞬時モ靜坐スル能ハス
 十四日航行繼續本日ハ又「カチエラ」ト稱シ河床ヨリ巨岩崛起シテ小瀑布ヲナス所アリ最モ危險ナルヲ「ガチエラ」デ

バンダバンダ」Cañuel de Banda-banda ト稱シ時ニハ船貨ヲ陸揚シ空船ニテ通過セサルヘカラサルコトアリ之レヨリ
「フィラデルフィア」ヲ過キ「バルチモア」ニ至ル「バルチモア」ハ「インカ」護謨會社ノ出張所ノ在ル所ニシテ蚶子多キヲ以
テ名高ク事務室ニテハ顔面ヲ薄布ニテ被ヒ手袋ヲ用ヒサレハ執務スル能ハスト云フ小官等通過ノ時ハ幸ニソレ程ノコト
モ無カリシ此日ハ前日同様河原ニ露宿ス

「バルチモア」以下ニ割合ニ危険少ナク小蒸汽船モ亦タ此地迄溯航スルコトヲ得ヘシ「インカ」會社所有ノ「インカ」號(四
十噸吃水三呎)聖母河號(吃水一米突六十)「イナムバリ」號(吃水一米突)ハ「バルチモア」ノ少シク下ナル「ガト」(Gato)ノ
險灘迄往復ス

十五日航行繼續ス河幅次第ニ廣ク三百五十乃至四百米突トナリ河底深ク水流稍緩ク恰モ湖沼ノ如シ「チョンタ」(Chonta)
川ノ會合點ニ至レハ茲ニ山梨縣人堀内傳重アリ此處ニ居ヲトシテ官有地ノ拂下ヲ受ケ農場ヲ開墾シ傍ラ「カウチヨ」護謨
採集ニ從事シ又タ護謨引布ヲ製シテ販賣ス此レニ四斗俵大ノ木綿袋ニ「カウチヨ」ヲ塗汁シタルモノ(一箇賣價一磅)及木
綿製「ボンチヨ」(外套)ニ塗汁シタルモノトアリ蓋シ此地方ハ降雨多キヲ以テ是非其雨合羽ヲ要シ特ニ護謨袋ハ河流航
行者ニ缺タヘカラサル要具ニシテ之レニ手荷物ヲ容レ置ケハ船ノ顛覆ニ遭フモ浸水沈没ノ虞ナク同時ニ浮囊トシテ役立
ツナリ之レヨリ少シク下リテ山口縣人河村福松ノ農場ニ着シ一泊ス此邊ヨリ「マルドナド」河港ニ至ル兩岸ノ農場ハ總テ
日本人ノ所有ニシテ小官ノ來着ヲ聞傳ヘ此所彼所ヨリ集マリ來ルモノ五十餘名ニ達セリ中ニハ遠ク上流ヨリ「カノア」ヲ
泛ヘ日章旗ヲ掲ケテ來會スルモノアリ其賑ヒ恰モ本邦ノ水祭ニ似タリ十六日「マルドナド」ニ着二十一日迄滞在ス

二十二日「マルドナド」河港出發歸途ニ就ク同地滞在中ハ毎日多少ノ雨ヲ見サルナク爲ニ炎熱ヲ感スルコト少ナカリシハ
好運ナリシカ之レカ爲メ河流大ニ増水シ曩日下航ノ際仰キ見シ樹稍今ハ浸水シ舟ハ恰モ樹林ノ上ヲ行クカ如シ由テ小官
等ハ歸航ニハ輕便ナル獨木舟ニヨルコトトナセシカ仍ホ漕行シ得サルヲ以テ常ニ右岸或ハ左岸ニ棹シ枝椏、葛葛ヲ切拂
ヒテ舟ヲ行ラサルヘカラス爲メニ進行遅ク且ツ舟夫ノ勞一方ナラス九日ヲ費シテ十二月三十日漸ク「アスティエロ」ニ歸

着セリ聞ク所ニ據レハ斯ノ如キ大水ハ一年二、三回アリト云フ

聖母河附近ノ森林殊ニ河川ノ沿岸ニハ蠻民各所ニ割據シ主トシテ「バナナ」ヲ耕作シ各種族間ニ爭鬪ヲナシ強者ハ其領分
ヲ奪ヒ弱者ハ他ニ逃走ス本邦人護謨採集者ニシテ夜間森林中ノ露營ニ彼等ニ襲撃セラレ或ハ河上運送業者カ船貨ヲ掠奪
セラル、コトアリ彼等ハ又狩獵ニ巧ニシテ殊ニ弓矢ノ術ニ長シ獸類ハ勿論魚類ヲモ射殺スト云フ(弓矢ハ「バルミト」樹
ノ幹ヲ割リテ作り、大ニシテ不細工ナリ此「バルミト」樹ノ嫩芽ハ筍ノ如ク其味美ニシテ邦人好ミテ之レヲ食ス)

野獸ノ重ナルモノハ虎、鹿、野猪、猿、野牛及「ブレキズ」等ニシテ魚類ニハ鯰ニ類シ丈ケ六尺以上モアル魚、鯉ニ類ス
ルモノ、「コルツイナ」等多數ノ種類アリ大ナル鱒、蛇等モ時々河中ニ見出サル、林間最モ喧噪ヲ極ムル鳥類中ニハ「ウ
アカマーヨ」ト稱スル鸚鵡ニ似テ遙カニ大且ツ美ナルモノアリ其他蚶子、蚊、蟻、蜂類ノ多キハ勿論ナレトモ「ビケ」ト
稱シ人肉ニ喰入ルモノ「ソト」ト稱シ多ク人ノ足部ニ喰入リ段々小指大トナリ腫脹セシムルモノ「イサンゴ」ト稱シ蚤ヨ
リモ激シク人身ヲ噛ム小サキ蟲ノ如キハ農家ノ最モ煩ヒ苦シム所ニシテ護謨林ニ入ルモノハ「ヤーガ」(Yaga)ト稱スル
潰瘍ヲ生シ此地方ヲ去ルニアラサレハ瘡治セスト聞ケリ又水中ニハ電氣魚アリ人若シ之レニ觸ルレハ忽チ死スト傳ヘラ
ル其他ニ尙「カネロ」ト稱スル鱒ノ如キ小魚アリ人ノ肛門中ニ入ル時ハ非常ナル痛ヲ感スト云フ

(E) 産業

現今聖母河附近ニ於ケル活動ノ本源ハ「カウチヨ」(Candho)護謨採集業ニシテ商工業ノ如キ皆「カウチヨ」採集ニ附隨シ
テ起リシモノナリ左レハ「カウチヨ」ハ實ニ聖母河地方ノ生命ト稱スルヲ得ヘク其産出ノ多寡ハ直チニ同地方ノ盛衰ニ影
響スルモノナリ

今千九百四年ヨリ千九百九年ニ至ル秘露國護謨ノ輸出額ヲ示セハ左ノ如シ

年次	品名	數量	價額	其他諸港
一九〇四	カウチヨ	1,127,000	1,127,000	
				其他諸港
		1,127,000	1,127,000	
				其他諸港
		1,127,000	1,127,000	

右ノ内聖母河地方ノ護謨産出高(即チ「モエンド」港ヨリ輸出スルモノ)左ノ如シ

一九〇二	一九〇三	一九〇四	一九〇五	一九〇六	一九〇七	一九〇八	一九〇九
一九〇二	一九〇三	一九〇四	一九〇五	一九〇六	一九〇七	一九〇八	一九〇九
一九〇二	一九〇三	一九〇四	一九〇五	一九〇六	一九〇七	一九〇八	一九〇九
一九〇二	一九〇三	一九〇四	一九〇五	一九〇六	一九〇七	一九〇八	一九〇九

備考「カウチヨセルナムビ」

備考「一九〇九年内聖母河ヨリ「ガラ」國「ハラ」港ヨリ輸出スルモノ

序テナカラ千九百十一年中北米ニ於ケル護謨每一斤ニ對スル相場ヲ示セハ左ノ如シ

一九一一年中	一九一二年中	一九一三年中	一九一四年中	一九一五年中	一九一六年中	一九一七年中	一九一八年中	一九一九年中	一九二〇年中	一九二一年中
四月二十四日	五月二十九日	八月二十九日	九月十一日	十月十八日	十月十八日	十一月九日	十一月九日	十一月九日	十一月九日	十一月九日

備考「ベリウイア」産護謨ハ大生「マデラ」河ヨリ輸出セルル、モノナルガ千九百十年ニハ其數並三百十一萬七千六百五十七キログラムニ上レリト云フ

尙「リツアブール」ニ於ケル同上ニ對スル相場左ノ如シ

一九一〇年六月十八日	同 八月十八日	同 八月二十四日	同 九月九日	同 九月二十一日	同 十月十三日	同 十月十八日	一九一一年三月十六日	同 同月二十三日	同 同月三十一日
------------	---------	----------	--------	----------	---------	---------	------------	----------	----------

備考「ヘン、フイノ」(Golano)トハ採集シタル護謨液ヲ人工ニヨリ攪漉シタルモノ

尙「アンギム」市新聞ニヨル「モエンド」港千九百十年中ノ護謨輸出額左ノ如シ (單位キントール)

「カウチヨ」輸出額		「カウチヨ」輸出額	
Inambari Para Rubber Debits	100	Inambari Para Rubber Debits	100
Iriberry & Co.	100	Iriberry & Co.	100
Inca Rubber Co.	100	Inca Rubber Co.	100
G. Ribetto & hijos	100	G. Ribetto & hijos	100
Tambopata Rubber Co.	100	Tambopata Rubber Co.	100
Emma Hijo	100	Emma Hijo	100
E. W. Gilson	100	E. W. Gilson	100
其他の商店	100	其他の商店	100
合計	100	合計	100
此「キントール」	100	此「キントール」	100

今假リ「カウチヨ」一噸ヲ「リヴァプール」市場迄積出ス時ハ其原價左ノ如クナルヘシ (「キントール」ハ百斤ナリ)

「タムボパタ」河上流ニ於ル一噸ノ價 (「キントール」付百「ソル」)

鐵道迄ノ驢馬貨 (「キントール」付百「ソル」)

鐵道運賃「フリガ」モエンド「回」

「モエンド」ヨリ「リヴァプール」迄海上運賃

輸出税概算(時價ノ八歩)

手数料、雜費及保險料概算

合計

同上「カウチヨ」ノ原價ハ左ノ如クナルヘシ (但シ一噸葡牙アローバ「ハ三十二斤ナリ」)

聖母河地方ニ於ケル一噸ノ價 (一噸葡牙アローバ「三付十五」ソル「アミテ」)

採集地ヨリ河港迄積出費(同上ニ付約五「ソル」)

「アステイロ」迄獨木舟貨 (「キントール」付十五「ソル」)

「アステイロ」迄獨木舟貨(同上ニ付三十五「ソル」)

「モエンド」港迄鐵道運賃

同港ヨリ「リヴァプール」迄海上運賃

輸出税概算(時價ノ八歩)

手数料、雜費、保險料概算

合計

以上ニヨリ見ル時ハ現今歐洲ニ於ケル護謨相場非常ニ低落セルニモ拘ハラズ當國産護謨ハ相應ノ利益ヲ收ムルモノニシテ上記相場表中最低ノ標準ニヨルモ「ヘマンイ」ノ一斤ニ付金貨一〇〇仙ナル時一噸ニ付四、五〇〇「ソル」ヲ得「カウチヨ」セルナムビー」一斤ニ付同上八五仙ナル時同上ニ付三、七四〇「ソル」ヲ得ルニ付之レヨリ前記ノ原價ヲ差引ク時ハ尙相應ノ餘剩アルヲ見ルヘシ

備考 護謨の選貨の如し

一 聖母河ヨリ「アステイロ」迄「キントール」

二 「アステイロ」ヨリ「アムボパタ」迄同上

三 「アムボパタ」ヨリ「モエンド」迄一噸

終リニ聖母河地方ニ於ケル大ナル護謨地ノ讓渡ヲ得タルモノヲ掲ケルハ左ノ如シ

Company Name	Hct.	Rio	Line
Inca Mining Co.	835,000		Imacani
Tambopata Rubber Syndicate	349,920		Tambopata
Sociedad General Marapata	60,000		Marapata
Sanmarti y Forga	10,000		Tambopata
Sociedad General Aahuilpa	27,110		Inambari
Salas y Gomez	10,000		San Gaban
Inca Rubber Co.	255,000		Tambopata y Madre de Dios
Kronhelm & Co.	75,000		Inambari
Jose Navarro	10,000		Villamayo
Rafael Aldaz	10,000		Marapata
Iriberry & Co.	13,515		Inambari

第六章 聖母河地方地産

Inambari Para Rubber	28,680	"	Hot	Inambari
Tomas Forlks	10,000	"	"	Marapata
Fonlks-Crocker-Newton & Speed	25,000	"	"	"
Forga Rey de Castro y Rodriguez	25,987	"	"	Vasamayo
Juan Cabrera	10,628	"	"	Rosario Grande
Cia. Gomera Tambopata	27,919	"	"	Vasamayo
Domingo Almonara	10,000	"	"	Marapata
S. Carrera	23,415	"	"	Inambari
Cia. Gomera "Excelsior"	35,388	"	"	"
Pedro Combe	12,044	"	"	Vasamayo
Victor Madrid	125,000	"	"	Tal-nunuan
"	30,000	"	"	Buyunmanu
"	30,000	"	"	Manuhiri
"	30,000	"	"	Manuhipe
Juan Guillermo Bailon	100,000	"	"	Tambopata

右ノ外西班牙人「マキシモ、ロドリゲス」(Maximo Rodriguez)ハ「ボリヅニア」ニ於ケル「スマレンス」(Suares)ト並ビ稱セラル、程有名ナル「カウチヨ」取引商ニシテ其事業ハ當國中第一等ナリト云ヒ今回新タニ獲得セル「アクレ」(Acre)河及「ブユマヌ」(Buyunmanu)河附近ニ於ケル護謨林ノミニナモ十七萬三千「エクタレア」ナリト云フモ其全體ノ所有地積ニ關シ正確ナル報告ヲ得サリキ

農業 聖母河地方ノ土壤ハ頗ル肥沃ナリト雖勞働者ニ乏シク從テ其勞銀高キ(普通農耕夫一ヶ月食事付五十「ソル」)爲メ未タ大ニ發達セス最近時本邦移民ノ「タムボバタ」河口ニ至リ土地ヲ開墾シ農耕ニ従事スル者アルノミ產物ノ主ナルモノハ米、玉蜀黍、煙草、「ユカ」、甘蔗、馬鈴薯、豆等ナルモ未タ地方的需要ヲ充タヌニ足ラス海岸地方ヨリノ輸入多シ商家ノ重ナルモノ左ノ如シ

古倫比亞人 Hiralgo & Hiralgo (Tambis, Madre de Dios) 「カマラタ」ハ運送業ヲ營
 業 西人 E. Bruchard & Co. (Huerfalia, Arequipa, Madre de Dios) 「カマラタ」ハ運送業ヲ營

西班牙人 Maximo Rodriguez (Huata Balsa) 精米造酒業ヲ營
 米國 Inca Rubber Co. (Tiripata, Arequipa, Madre de Dios)
 西班牙人 Perdig(Mann, Madre de Dios) 造酒業ヲ營
 西班牙人 Souza Y. Vargas (Mann, Madre de Dios)
 獨逸 Bruno Paulsen (Madre de Dios)
 秘魯 Terhaldo Gonzalez (Madre de Dios)
 秘魯人及佛國人 Carpio Y. Marquez (Arequipa, Tiropepa, Arequipa)
 英國 Iriyery & Co. (Arequipa, Arequipa)
 西班牙人 Riveso & Co. (Madre de Dios) 造酒業
 秘魯 Carlos Morey (Madre de Dios)

上ハ聖母河產出ノ「カウチヨ」ヲ時相場ニテ買入ル、傍日用需要品ヲ仕入レ護謨採集ノ勞働者ニハ護謨引換ノ特約ヲ以テ掛賣スル外廣ク一般ニ販賣スルモノナリ

ナ當地方ノ物價小賣左ノ如シ

品名	單位	買付價 0/100	品名	單位	買付價 0/100
麵粉	一個	11/00	砂	一斤	0/80-1/00
豚脂	十斤	11/00	鹽(品不足時ハ法外)	同	0/80-1/00
牛酪	一斤	11/00	茶	同	0/80-1/00
乾酪	同	11/00	「カ」	同	1/00-1/50
咖啡	(總)同	0/80	檀	同	1/00-1/50
「カカロニ」	一斤	11/00	同 (Mary Out)	同	1/00
肉	同	11/00	玉蜀黍	一本	0/03-0/05
羊	一頭	11/00	「カ」	一房	1/00
豚	同	11/00	「カ」	一個	1/00
雞	一羽	11/00	大豆	一斤	1/00-1/50
鴨	一打	11/00	「カ」	同	1/00
乾山芋(Chalupa)	一斤	0/80	「カ」	同	1/00
米	同	0/80	「カ」	同	1/00
「カ」	同	0/80	「カ」	同	1/00

尙普通ニ行ハル、賃金左ノ如シ

薪	一籠	500	鉛筆	一本	0.10
薪(小)	同	200	書簡用紙	二十五枚	0.50
薪(大)	同	300	同上用紙	一枚	1.00
薪(中)	同	250	木綿(シヤン)	一枚	1.00
薪(小)	同	150	同下(ツボシ)	同	1.00
薪(中)	同	200	「カーキツボシ」	同	1.00
薪(大)	同	300	木綿(ツボシ)	同	1.00
薪(小)	同	150	手袋	一對(木綿)	1.50
薪(中)	同	200	毛布	一枚	1.50
薪(大)	同	300	同(木綿)	同	1.50
薪(小)	同	150	「カタン」	一打	1.50
薪(中)	同	200	針	一包	0.50
薪(大)	同	300	靴(下)	一足	1.50
薪(小)	同	150	同(木綿)	同	1.50
薪(中)	同	200	靴(メリカ製)	同	1.50
薪(大)	同	300	同(普通品)	同	1.50
薪(小)	同	150	朝子	一枚	1.00
薪(中)	同	200	「スエツター」	一枚	1.00
薪(大)	同	300	上履(スツク)	一足	1.00
薪(小)	同	150	草履(草)	一個	1.00
薪(中)	同	200	草履(麩)	一個	1.50
薪(大)	同	300	靴(牛底)	一雙	1.00
薪(小)	同	150	大工(食事)	一日四方ニ付	100.00
薪(中)	同	200	木挽(食事)	一日四方ニ付	100.00
薪(大)	同	300	「カウチ」採集者(食事)	一月	700.00
薪(小)	同	150	料理(番)	一月	600.00
薪(中)	同	200	「ボーイ」	一月	600.00
薪(大)	同	300			

第七章 聖母河地方ニ於ケル日本人

A 日本人ノ職業

日本人發展ノ沿革 本邦人ノ始メテ聖母河ニ下向シタルハ明治四十年五月十日ニシテ其前三十八年十二月中明治植民合資會社ノ周旋ニテ「インカ」護謨會社ニ雇ハレタル十二名ノ移民中山口縣人河村福松、廣島縣人廣畝九四郎外四名實ニ之レカ先鋒タリシナリ而シテ其當時世上ニハ聖母河地方ノ護謨樹ハ既ニ盡キ果テ復タ發展ノ望ナシトカ農場ヲ開キタリトテ生産物ノ捌場ナシトカノ説流布シ大ニ其決心ヲ鈍ラセタルカ同人等ハ勇往邁進途ニ目的地ニ達シ秘露人「ゴンサレス」商店ニ雇ハレ農耕ニ從事シ刻苦精勵大ニ店主ノ信用ヲ厚クシ窮カニ他日ノ飛躍ヲ期セリ其後追々本邦人ノ入り來ルモノアリ其後二十餘名ニ達シタルカ新瀉縣人津野有志藏ナルモノ同シク「インカ」會社ノ契約移民トシテ短舟ニ乗込ミ遂ニハ船長トナリテ數度此地方ニ下リ其狀況ヲ知悉セルヲ以テ此處ニ農場ヲ開カンコトヲ企テ同縣人齋藤定吉ヲ誘ヒ筏ニ下降シ土地ノ拂下ヲ受ケ開墾ニ着手セシカ最初ノ程ハ經費ノミ當ミ收入ノ途開ケヌ加フルニ同志齋藤ハ死亡シ艱難辛苦ヲ嘗メタルカ仍ホ挫折セシテ一意其業ヲ勵ミシガハ遂ニ確固タル收支ノ計算立テ前途ノ光明ヲ認ムルニ至レリ(當時米一斤「ソル」鹽一斤「ソル」價セリ)サレハ此成功ヲ見タル本邦人ハ各其備主ノ後援ヲ得或ハ資本金或ハ物品ヲ借入レテ開墾ニ従來スルアリ、尙此報ヲ聞キ傳ヘテ「タムボバ」方面ハ勿論「イナムバリ」方面「バウカルタムボ」方面ヨリ下リ來ル本邦人多ク僅々三四年間ニシテ「マルドナド」河港ヲ中心トシ聖母河本流及「タムボバ」河ノ兩岸ニ沿ヒテ二十個所近クノ本邦人所有農場ヲ現出シ其他請負業、護謨採集業、商業等ニ従事スルモノヲ加フレハ目下在留同胞ノ數三百餘人ニ達セルコト既ニ述ヘタルカ如ク孰レモ皆相當ノ收入ヲ得満足セルヲ以テ其活氣ニ充テラルコト到底海岸地方ニ於ケル移民ト比ス可ラス各自ニ南米ノ別天地ニ於ケル新日本ノ建設者ヲ以テ自任セリ

職業別表 今四十四年十二月現在本邦人職業別表ヲ掲クレハ左ノ如シ

- ― 同一千、ソルル 下刈及樹木伐倒費
- ― 同一人一月月二「エクタレ」伐採スト見積リ十月分ヲ要ス、一人ノ給料ヲ五十「ソルル」トシ食料雜費ヲ五十「ソルル」ト計算ス
- ― 同一千、ソルル 土地ヲ乾燥セシメ燒キ拂ヒタル後燒ク殘リシ樹枝等ヲ一所ニ堆積シテ燒却スル費
- ― 同五百「ソルル」 薪ノ種子十「アロバ」代、但シ級「アロバ」時價五「ソルル」トシ換種用ヲ加ヘ十「ソルル」ト見ル
- ― 同五百「ソルル」 播種費一人一月月二「エクタレ」ノ播種ヲナス
- ― 同五百「ソルル」 除草費但シ初年ハ除草一回ニテ足ル一人一月月二「エクタレ」ノ除草
- ― 同五百「ソルル」 收穫費但シ一人一月月二「エクタレ」ノ收穫
- ― 二百七十「ソルル」 器具費但シ年七十五「ソルル」トシ「七挺二十八「ソルル」」磨石五十「ソルル」、「ナイフ」七挺七十「ソルル」、「樽」二挺十六「ソルル」、「脇土」
- ― 同三千「ソルル」 家屋、倉庫、厩舎、鳥小舎費
- ― 同五百「ソルル」 獨木舟二艘代
- ― 同一千「ソルル」 收穫後後稻株裁リ取り雜草除去費
- ― 同五百五十「ソルル」 隱元豆種子十「アロバ」代但シ「アロバ」ニ付十五「ソルル」
- ― 同五百「ソルル」 豆播種費
- ― 同五百「ソルル」 除草費
- ― 同二百五十「ソルル」 豆收穫費
- ― 同百六十「ソルル」 碾穀二挺代
- 合計九千九百二十七「ソルル」

三八

(説明)土地ヲ開拓スル爲メ樹木ヲ伐リ倒スニハ五月ヨリ七月迄ノ乾燥期ヲ適當ノ時期トス(俗諺ニ新月以後ハ雨多キニ付伐木ニハ滿月後ヲ擇フヘシト云フ)先ツ雜木ヲ下刈シタル後樹木ヲ伐リ倒シタル土地ヲ乾燥セシムヘク一ヶ月餘ヲ放置シ點火スル時ハ總テヲ燒キ盡シ得キモ猶殘リノ樹枝等アル時ハ之レヲ切り取り一ヶ所ニ堆積シテ燒却スレハ即チ播種シ得ルナリ

稻ハ播種後六ヶ月ニシテ成熟スルヲ以テ九月ニ下種スレハ翌年二月ニ收穫スルコトヲ得ヘク十月ニ蒔キタル種ハ三月ニ稻穂ヲ採收スルヲ得ヘシ隱元豆ハ三、四、五月頃播キシモノヲ最モ生育宜シトス總テ豆ハ三ヶ月ニシテ收穫ヲ與フ當地方ノ習慣トシテ米作地ニハ間作トシテ隱元豆ヲ植ウルモノニシテ最モ利益多シトイフ初年ハ雜草ノ繁茂甚シカラサルヲ

以テ稻作間ノ除草ハ一回ニテ足り豆間作亦タ同ジ

粃播種ノ量ハ一「エクタレ」ニ付凡ソ二「アロバ」(二十五斤)ヲ適當トシ鉈(Machete)ノ尖端ニテ土壤ニ小孔ヲ穿テ十數粒ノ種子ヲ落シ入レテ土ニテ被フ其間隔ハ二尺内外ヲ以テ適當トセンカ豆ハ又約一米突位ノ距離ヲ保テ一孔ニ二三粒ヲ播種ス而シテ別ニ樹枝等ヲ以テ支フルヲ要セス

既ニ成熟セル稻ヲ收穫スルニハ當地方ニテハ小「ナイフ」ヲ以テ箇々稻穂ヲ切り取り採取ス而シテ之レヲ天日ニ乾シタル後木片ニテ打チ篩ヒ粃粒トナシ之レヲ貯藏スルニハ椰子樹ヲ割リテ得タル板ヲ以テ大ナル箱ヲ造リテ此中ニ納レ或ハ室内ニ堆積ス但シ農家ニテハ從來精米器械ナキ爲メ精白スルヲ得ス多クハ粃ノ儘ニテ賣却セシム追々日本ニテ用フル如キ器具ヲ備フルニ至レリ隱元豆モ亦タ引キ拔キタル蔓ヲ天日ニ乾燥シ一ヶ所ニ堆積シテ木片ニテ打ツ時ハ豆ハ容易ニ離脫スルモノナリ

土地ニ肥料ヲ要セサルハ勿論開墾ノ始メニ樹木ヲ燒キタル灰ハ自然ト肥料ニ代用ス又農場ニテハ「ユウカ薯」、「バナ」、「等ヲ副作スルヲ以テ食物ハ各自作物ヲ以テ足ル外漁獵シタルモノヲ用フルモノニシテ土地ニハ租稅ヲ要セス
今「エクタレ」ノ森林ヲ開キ米ヲ植付ケテ收穫スル迄ニハ一人ニテ八ヶ月ヲ要ス即チ殘餘ノ四ヶ月間ヲ利用シテ家屋建築或ハ煙草、「ユカ」其他ノ作物ヲ耕作スルカ或ハ「カウチヨ」護謨ヲ採集シ又ハ獨木舟ヲ以テ運送業ヲ營ムコトヲ得ヘシ家屋ハ椰子樹ヲ割リタル板ニテ造リ同樹ノ葉ヲ以テ屋根ヲ蔽フモノナリ今一人ニテ一「エクタレ」ノ土地ヲ耕スノ費用ヲ見積レハ左ノ如シ

一 總費	十「ソルル」	地代及雜費	十「ソルル」	種子代	十「ソルル」
一 同	百「ソルル」	倒伏費	六十「ソルル」	器具費	六十「ソルル」
一 同	百「ソルル」	燒却費(リムビロ)	百「ソルル」	豆作ノ爲メ整地費	百「ソルル」
一 同	五十「ソルル」	租稅付費	二百「ソルル」	除草及種蒔費	五十「ソルル」
一 同	百「ソルル」	除草費	同	收納費	五十「ソルル」
一 同	百「ソルル」	收穫費	同	家屋獨木舟費	二百「ソルル」

第七章 聖世河地方ニ於ケル日本人

三九

合計一千八百七十三ソル

今十「エクタレア」ヨリノ收穫物ヲ賣拂ヒ收支ノ決算ヲナス時ハ

一 秘貨 一萬ソル 租三千「アロバ」代但シ「アロバ」三付五ソルト見積ル
 一 同 五千ソル 豆五百「アロバ」代但シ「アロバ」三付五ソルト見積ル
 合計 一萬五千ソル
 内九千九百二十七ソル 耕作費支出
 差引五千七十三ソル 純收入
 向「エクタレア」開墾ノ收支計算ハ左ノ如シ
 一 秘貨 一千ソル 收納額二百「アロバ」代但シ「アロバ」三付五ソルト見積ル
 一 同 五百ソル 收納額五十「アロバ」代但シ「アロバ」三付五ソルト見積ル
 合計 一千五百ソル
 内一千八十ソル 耕作費支出
 差引四百二十ソル 純收入

尙各人被服費、酒、煙草、郵便費其他ノ雜費ハ種々ノ副産物ヨリ之レヲ償フコトヲ得ヘク翌年ヨリハ開墾ノ費用ヲ省クヲ得ヘシ副産物ノ中甘蔗ハ其丈三「メートル」位ニ達シ六ヶ月ヨリ八ヶ月ニ一回收穫シ二ケ年間持續ス（粗製糖又ハ二十度ヨリ二十度ノ「ラム」及三十八度位ノ「アルコール」ヲ製ス重ニ西班牙人之レニ從事ス）「バナ」及「ユーカー」(Yaca)諸ハ播種後一ケ年ヨリ一ケ年ニシテ成熟シ玉蜀黍ハ三ヶ月半（一本ニ二房ヲ生シ八房ヨリ十房ニテ粒一斤ヲ得）煙草ハ五、六ヶ月ニシテ收穫シ得ヘク各耕作者ノ喫用トスル外尙之レヲ賣却スルノ餘裕アリ（煙草ハ一斤ニ付二「ソル」五十仙、「バナ」ハ一斤ニ付二「ソル」位ニハ賣捌キ得ヘシ）又「ユーカー」ヲ専門ニ植付クルモノハ「フアリニヤ」(Farina)ヲ製シテ賣捌ク「フアリニア」トハ護謨採集者ノ常食ニシテ粗製セル澱粉ニ類似シ之レヲ湯又ハ水ニテ食用スルモノナリ「ユーカー」十株ニテ六十斤ノ「フアリニア」ヲ得「エクタレア」ノ土地ニハ五千株ヲ植ウルコトヲ得ヘシ其製法ハ先ツ「ユーカー」ノ皮ヲ剥キ水ニ浸スコト（種又ハ獨木舟ノ中ニテ）晴天四晝夜ナレハ糖質然ル時手ニテ握レハ潰レル位ヲ程度トシテ水ヨリ出シ棒ニテ搗潰シ袋ニ詰メ之レヲ壓搾シテ袋ノ網目ヲ漉洩セシメテ條及滓ヲ去リタル上直徑五尺以上ノ釜ニ

テ炒リ棕櫚ノ葉柄ニテ造リタル籠ニ納レ貯藏運搬スルモノナリ而シテ此籠ハ一個ニ付六十斤ノ重量ヲ有シ之レヲ「バネロ」(Banero)ト稱シ其相場非常ノ亂高下アリ即チ護謨採集期ニ際シ品拂底スルカ若クハ雨天多クシテ腐敗スルコト多キ時等ハ六十「ソル」以上ニ狂騰スルコトアリ又反對ニ生産過剰セハ十五「ソル」以下ニ下落スルコトアリト雖普通ハ十五「ソル」ヨリ三十五「ソル」ノ間ヲ往來スト云フ又煙草ハ「マント」ト稱シ葉ニハ「カチャサ」ト稱スル酒精ニ砂糖ヲ混シタルモノヲ振リカケ重量二斤長サ二尺近クノ大巻キトシ籐ニテ捲キタルモノヲ一本五「ソル」位ニ賣捌ク小官カ旅行終了後此地方ヨリ接受シタル三回ノ通信ハ現下同地在留本邦人農業其他一般ノ狀況ヲ知ルニ便ナルヲ以テ左ニ之レヲ附記セン

第二信（四十五年一月二十五日發）邦人中自重セスシテ賭博ニ手ヲ燒ク者多キハ慨嘆ノ至リナリ米ノ收穫ハボツ／＼始マリ「フアリニア」澱粉ハ尙高價ヲ持續シツ、アリ又米、豆ノ産額モ外部ヨリノ輸入ヲ杜絶スルニハ前途尙遠シ又護謨相場ノ下落ハ農業ニ如何ナル影響ヲ及ホスヘキヤ孰知スルヲ得スト雖何トカシテ同胞ノ事業カ健全ナル發達ヲ遂ケンコトヲ希望シテ止マズ

第二信（四十五年五月五日發）當地ハ漸ク雨季ニ入ラントスルモ正午頃ノ炎天ハ殆ト堪ヘ難キモノアリ丁度稻モ蒔キ付ケタル畑地ノ半分ハ收穫ヲ了リ隠元豆ヲ播種スヘク掃除ノ傍白米ヲ製シ賣却シ居ルカ現今白米ハ品不足ニテ「アロバ」ニ付十二「ソル」五十仙乃至十五「ソル」ヲ値シ外來米ハ十八圓以上ナリ馬鈴薯ハ漸ク下落シ八「ソル」トナリシハ供給超過ノ結果ニヤ煙草ハ殆ト價格ヲ保持セスト云ヒ得ヘキ程ニテ本品耕作者ハ賣捌ニ困難シ居レリ其代リ紙巻煙草カ益々外部ヨリ入り來ルハ住民奢侈ノ増長セシヲ知ルニ足ル凡テ物價ハ商人ノ増加ト共ニ低落スヘキカ此頃智利國ヲ放逐セラレシ露人續々移住シ六ヶ月間ハ政府ニテ給養ストカニテ土地ノ無代給付ヲ受ケ開墾ニ着手セシモ彼等ノ中能ク自營自活シ得ルモノ幾何アランカ殊ニ家族ヲ携帶シ居ルモノ、如キハ前途頗ル煩ハシキモノアラン此等ノ移住者ハ總數二千人ニ上ル可シト聞ク何レ此地方ニ小部落ヲ形作ルヘキカ而シテ短日月ノ間ニ斯ク多數ノ人員ヲ誘入セントスレハ自然糧食ノ運搬

三 困難ヲ感スヘク其結果トシテ邦人ノ産米ハ販賣ニ苦シムカ如キ憂毫モ之レナカラン尙米ハ今年初メテ不完全ナル方法ニヨリ白米トシテ販賣セル次第ナルガ概一斤ノ代價二十仙ト見做シ器具費人夫賃ヲ加ヘ一斤ノ實價四十二仙ト云フ計算ヲ得ルヲ之レラ五十二仙ニ販賣スレハ概ノ儲蓄額ヲヨリモ十仙ノ口錢ヲ得ル都合ナリ尙此上器具ノ改良ト共ニ生産費ヲ減シ得ヘキヲ以テ各家大工ヲ雇入レ諸具調製中ナリ或ハ附近ノ小瀑布ヲ利用シテ見シカトノ計畫モアリ

護謨採集者ノ或者ハ満足セルアリ否ラサルモアリト雖地理ニ通セサレハ好結果ヲ得ル能ハサレハ僅ニ一ケ年ニテ此仕事ヲ斷念スルハ賞讃シ難シ要スルニ何ノ仕事タルヲ問ハス各自好ム所ニ向ヒテ經驗ヲ積ミ觀察ヲ遠クルニ若カス

水運業ハ一外國人カ土人ヲ奴隸的ニ使役シテ運賃ヲ低下セシメ本邦人ハ競争ニ困難シ一時衰退ノ變調ヲ來タス可ク豫期セラレド雖物窮レハ自ラ通ス其中又々好機會ノ來ル日アルヘシ

木挽大工ノ如キハ人口ノ増加ト共ニ益多忙ナルヘク其他種々ノ職人ヲ要求スルコトナルヘシ商業ハ同業者ノ増加ト共ニ薄利ニ甘ンセサルヲ得サルハ數ノ免レサル所ナリ

當地方ノ將來ハ容易ニ豫測シ難キモ大ナル利益ヲ獲得セントセハ可成「カウチ」ノ生産地タル北部方面ニ進入スヘキモ當地方モ亦タ益開發セラレ依然諸諺集地トシテ繁榮センカ從テ産業ノ進歩ハ猶亦幾多ノ努力ヲ誘入セサル可ラス本年中邦人ノ農場ハ尙數ヶ所ノ増加ヲ見ル管ナルモ到底海岸地方ヨリ輸入スル白米ヲ防遏スルニ足ラス又續々入り來タル日本人ハ直チニ「ポリヴィア」國「リヅエラルタ」(Elvevata)ニ下向スルヲ以テ當地方ハ毫モ日給ノ低下スルコトナク更ニ進ンテ日給十「ソル」ト稱セラル、「アクレ・ブルス・ユルア」方面ニ遠征スル者ヲ生ヘク誠ニ森林地方ハ廣大ナルモノナレハ今後邦人カ多數ニ入り込ミタリテ敢テ就業ノ途ナキヲ憂フルコトナカルヘシ兎ニ角現時白米ハトシ「賣捌ケ農家」ハ何レモ満足シ居レリ

第三信(四十五年七月)日發當地ハ漸ク乾燥季ニ入ラント大豆ハ生長シツ、アルモ粗作ニ於テ降雨ノ爲メ千餘圓ノ損害ヲ蒙レリ即手不足ノ爲メ畑地ニ於テ腐敗セシモノナリ邦人ノ生産スル概ハ「アロバ」五圓(内五十仙ハ運賃ニ要ス)ニテ幾何量ニテモ賣行ク又タ「フリニア」ハ高價ナルヲ以テ利潤多シ邦人中専ラ之レニ從來スルモノアリ其外養鶏ヲ營ムモノアリ

不相變「リヅエラルタ」方面ニ下航スルモノ多シト雖同地ニ於テ本邦人三名不正ヲ働キ三萬餘圓ノ商品ヲ借倒シ逃亡セシヨリ忽チ一般ノ信用ヲ失墜シ邦人ノ發展ニ甚大ナル妨害ヲ與ヘタリ農商業モ亦「カウチ」モ「マヌリベ」河方面カ最モ有望ナリトコトニテ近頃邦人ノ該地方ニ向フモノアリ

農産物ノ販路ハ前記書信ニ據レハ容易ニ杜絶セラルヘクモ見ユス且ツ「ポリヴィア」國「リヅエラルタ」方面ハ乾燥期ニ入り河水減少シ交通困難トナル時ハ物資缺乏スルヲ以テ同方面ニ輸出スルコトヲ待ヘク次章ニ陳フルカ如キ悲觀說アルニモ拘ハラズ邦人ノ事業ハ此處數年間ハ益事業繁榮スヘク豫想セラル

C 農業以外ノ職業

水運業 小官出張當時聖母河及「タムボバタ」流域ニ於テ水運業ニ従事セルモノハ「アステイエロ」及聖母河ニ本據ヲ有スル本邦人五十名ニ近ク行政委員廳ニ屬スル水夫並ニ他人ニ使備セラル、祕露人五十名程アリ 内本邦人ハ聖母河地方ヨリ「カウチ」ヲ積載シテ「タムボバタ」河ヲ上航シ下航ニハ各種商品ヲ運搬シ傍ラ乗客ヲ取扱ヒ居レルカ其水路ニ暗シシ操舟ノ術ニ長セルヲ以テ内外人ノ信用厚ク水夫ハ高給ヲ得テ満足シ舟主モ亦タ相應ノ利潤ヲ得テ將來益活動スヘク見ユケルカ糺キニ此等本邦人ヲ使用シ自ラ運送業ヲ營ミ居リシ瑞西人某ハ何トカシテ自己ノ類勢ヲ挽回セントシ近時一獨逸人ト共同シテ「クスコ」方面ノ土人數十人ヲ備ヒ大仕掛ノ營業ヲ開始シ非常ニ運賃ヲ低減シ日本人ノ勢力ヲ粉碎セント企テタル爲メ多大ノ打撃ヲ蒙リ今ヤ大ニ振ハサル有様ナリト雖本邦人大ニ自重自信シテ一時ノ苦痛ヲ忍耐セハ遠カラズ昔時ノ好運再ヒ廻リ來ル可シト期待セラル蓋シ祕露土人ノ操舟術ハ到底日本人ノソレニ及ハヌ加フルニ雇主ハ彼等ノ無智卑屈ナルニ乘シ非常ノ虐待ヲ敢テスルモノナレハ早晚土人等ノ逃亡ニヨリ此競争ヲ不可能トス可キモノナリト雖始メヨリ資本金ノ後援ナキ同胞カ果シテ此一時的逆境ニ堪ヘ得ルヤ否ヤ疑問ナリ(其後ノ通信ニヨレハ上記瑞西人ハ破産シ日本

人へ再適存スルニ至レリ

商業 本邦人ニシテ商業ニ従事スル者ハ何レモ里馬市又ハ「アレキバ」ニテ自ラ物品ヲ仕入レ之レヲ聖母河地方ニ持行キ賣捌キ了レハ又タ自ラ仕入レノ爲メ出山スルモノニシテ最初ハ冒險的ニ從テ組ミ自ラ之レヲ操リ乍ラ河流ヲ下リ或者ハ從テ轉賣セシ爲メ商品ヲ悉ク河底ニ沈メ僅ニ生命丈ケヲ拾ヒ得タル者モアリト雖此地方物價ノ高キ爲メ利潤ヲ多ク最初僅少ノ商品ヲ仕入レ入山シタルモノ三、四回行商スル間ニハ二千餘圓ノ資金ヲ運轉シ得ルニ至ルヲ以テ水陸行路難ノアルニモ拘ハラズ本邦行商人四、五名常ニ此地方ニ出入シツツアリ其外臨時ニ入山スルモノモ大抵幾何カノ商品ヲ携帶セサルナク又近頃ニ至リテハ往復ノ都度旅費ヲ支出スルノ愚ヲ思ヒ自己ハ聖母河ニ止リ乍ラ里馬、「アレキバ」ノ本邦商店ヨリ商品ヲ取寄スルモノアリ其重ナル取扱器ハ勞働用木綿又ハ綿緞「シャツ」股引、靴、帽子、毛布、煙草、食料品等ナリト雖此地方ニ於ケル當國護採集者カ採集ヲ了リ出林スル時ノ如キハ何レモ懷中暖キヲ以テ連日豪奢遊興ヲ極ムルモノ故彼等ニ對シテハ三鞭酒、「ウイスキー」、麥酒、時計、指輪、絹物等ヲ不相當ノ價格ニテ賣捌キ得ルヲ以テ各商人ノ資力見込ニヨリ種々ノ商品ヲ持込ムト云フ尙然ラサルモ追々奢侈品ノ輸入多ク邦人間ニモ絹「シャツ」、絹「ズボン」下等ヲ着用シ金時計ヲサケ高價ナル葡萄酒、麥酒、煙草等ヲ歡迎スル傾アリ、然リト雖日本人ハ申スニ及ハス外國人ニシテ行商ヲ營ムモノ追々増加スル模様アレハ自然同業者間ニ競争ヲ生シ商品ノ價格ヲ低下セシムル傾アルト同時ニ更ニ注意スヘキハ大ナル資本金ヲ有スル商人カ追々此地方ノ商權ヲ壟斷セントスル兆アルコトニテ既ニ此地方ニ開店セル瑞西人 Prillad & Co. 「リヅ」ラルタ「ラ」本據トシテ麥酒、清涼水ノ製造販賣ヲ始メ獨逸人 Bruno Paulsen ハ獨逸麥酒ノ輸入ヲ計畫シツ、アルト同時ニ右兩店共一般貨物ヲ販賣シ居ル外聖母河商業會社(資本金二十萬、ソル)ハ其姉妹關係ヲ有スル「カルピオ」商會カ陸運ヲ殆ト獨占セル便宜ニ乘シ盛ニ商品ヲ持込ミ一舉ニシテ在來ノ小賣商ヲ撲滅セント計畫シ土地サヘ既ニ選定セルアレハ此等ハ本邦行商人ノ前途ニ横ハル一大障礙ト謂ハサル可ラス但シ純日本人ハ此限ニアラス受負業 農業ヲ經營スル傍ラ専ラ住家ノ建築ヲ受負フモノアリ何レモ相應ノ利益ヲ得ツ、アリ

護採集

本邦人自ラ無主ノ森林ニ入り或ハ外國人ト契約シテ其所有護採林ニ入り「カウチ」ヲ採集スルモノアリ此等ノ中ニハ沖繩縣人最モ成功セリト云フ毎年四月頃ヨリ入林十一月頃ニ採集ヲ終ルモノニシテ其採集セル「カウチ」ハ之レヲ聖母河ニ持出シ商人ニ五分ノ水減キヲナシテ賣渡スモノニシテ時ノ相場ニヨリ六百「ソル」ヨリ二千「ソル」以上ヲ稼クモノアリト云フ又他人ニ雇ハル、モ、ハ一ヶ月食事付七十圓ヨリ八十圓ノ勞銀ヲ得ト雖何分八ヶ月近クモ森林中ニ棲居シ食物ハ重ニ前記ノ「フアリニア」ヲ用ヒ瘴癘ノ毒氣ト戰ハサル可ラス加フルニ土地ノ案内ニ暗シ護採樹ヲ識別シ得ルニアラサレハ多量ニ採集スル能ハス又非常ナル忍耐力ヲ有スル者ニアラサレハ連續シテ本業ニ従事スルヲ得ス聞ク所ニヨレハ西班牙人「ロドリゲス」商店ニテハ日本人ニ對シ最初土人ヲシテ地理案内セシメ且ツ護採樹ノ所在ヲ指示セシムル由ニテ目下該商店ニハ五、六十名ノ本邦人勞働シツ、アリト云フ尙護採集ニ就テハ後章更メテ記述スル所アル可シト雖會テ獲獵ナルニ「カウチ」ノ量目ヲ多カラシムル爲メ中央ニ石又ハ泥土ヲ混シタルコトアルヲ發覺セラレ一時大ニ信用ヲ失墜シタルコトアル由ナルカ何レノ方面ニ至ルモ少數ノ無智者ノ爲メ全體ノ體面ヲ毀損スルノ事實ヲ見聞スルハ慨ハシキ次第ナリ

因ニ曰ク一秘露技師ノ報告書中日本人ニ關シ左ノ如ク説ケルアリ參考ノ爲メ此處ニ記載ス
余ノ意見ニヨレハ人種的、社會的ノ見地ヨリ離レテ之レヲ觀察スルニ外國移住民中日本人程卓越セル者ナキカ如シ又尠ナクトモ聖母河地方ニ於テハ斯ク斷定セサル可カラズ先年「インカ」護採會社ニヨリ契約送致セラレタル前後三百餘人ノ日本人中大部分ハ自己ノ計算ヲ以テ聖母河地方ニ下向シ農夫水夫、護採採リ其他各種ノ事業ニ従事シタル者ニシテ彼等ノ舉動ヲ見ルニ向上ノ活動心ニ富ミ眞面目ニシテ勤勉ニ河國人ノ團結力強ク氣位モ亦タ高シ而シテ其勞働工程ノ大ナルコトハ單ニ「カウチ」ヲ採集ノ一例ヲ舉クルモ土人三百人ノ採集量ハ日本人四十名ニテ能ク之レヲ爲シ得トコトニシテ縱令斯カル比例ニ迄達セストスルモ日本人一ヶ月ノ採集量ハ能ク「キンタール」半ヨリニ「キンタール」ニ及フト云フ蓋シ過言ニアラサルベシ而シテ之レハ彼等カ被僱人トシテハ横着ニ、獨立勞働者トシテハ勤勉ナルヲ證スル者ナリ云々

大工 一ヶ月ノ給料ハ食事付百二十「ソル」位ヲ得レハ自營者モ亦タ之レニ應スル收得アラシキ土地ノ開發人口ノ増加ト共ニ益其仕事多カラント察セラル目下本邦人ノ大工ハ其數多カラス大部分ハ「リヴェラルタ」ニ於ケル建築盛ナルヲ聞キ傳ヘ該地方ヘ下向セリト云フ尙大工道具ノ値段ハ斧一挺六「ソル」、短鑿刀五「ソル」、鉋五「ソル」ヨリ十「ソル」、鋸(大工用)十「ソル」、鋸(木挽用)七十「ソル」位ナリ目下大工ハ農夫、護謨採リノ如ク甚シク需要之レナシト雖常ニ數人宛ハ其仕事ヲ見出スニ難ガラス尙聖母河縣新設ニ伴ヒ建築大ニ起ラントス

木挽 一人ノ所得ハ食事自辨ニテ「Cents」一尺四方ニ付四十仙ニシテ一時ハ二十人内外ノ從業者アリシカ現時ハ稍減少シタル由ナリ時ニ仕事ノ繁閑アリ又同業者ノ増加ニヨリ多少所得ノ減少スルコトアルヘシト雖土地ノ發達ト共ニ益其需要アラシキ

職工銀冶 小蒸汽ノ修繕機械器具ノ修繕等ニ要スル職工多カラス故ニ熟練セル者ハ相當ノ收益アルヘシ唯目下多數一時ニ就業スルコトハ或ハ困難ナランカ

麵粉屋 「パン」一個ニ付十五仙ト云フ高値ニシテ現今日本人ノ製造シ居ルモノハ頗ル不完全ナル燒キ方ニテ味亦タ宜シカラサルニモ拘ハラス尙能ク賣レ行クヲ見レハ今一層燒キ方ヲ改良シ菓子類モ製造スルニ至ラハ益繁榮センモ多數ノ同業者ヲ容ル、ノ餘地ナキモノ、如シ

農夫 護謨採集者ト同シク今後益需要増加スルハ疑ナク本邦人ノ經營セル農場ニテモ手不足ノ爲メ收穫物ヲ腐敗セシムルコトアルハ前記ノ如クナルニ海岸地方ヨリ來ル新シキ本邦人ハ數ヶ月ノ間コソ農夫トシテ忍耐勞働スルモ追々獨立事業ヲ計畫シ又ハ遠ク「リヴェラルタ」其他護謨中心地ニ向テ去ルヲ以テ聖母河地方ハ常ニ勞働者ニ不足ヲ告グル故ニ内外國人カ經營セル農場ハ今後益彼等ヲ歡迎セン而シテ給料ハ食事付一ヶ月四十五「ソル」ヨリ六十「ソル」ニテ酒ノ少量及煙草サハ供給セラル、コトアリ

家内労働 料理人ハ一ヶ月六十「ソル」ヨリ九十「ソル」位給仕人ハ六十「ソル」以上ヲ得ルモ都會ニ於ケルカカ如ク多數ノ需

要ナシ

醫師 嘗テ日本ノ一青年ハ本國ニ於テ多少醫藥ノコトヲ學ヘルヲ幸ヒトシ此地方ニ於テ公々然醫師ト稱シテ開業シ病院迄新設シ一時少カラス收入ヲ得タル由ナルカ駐屯軍附屬醫師ノ告訴スル所トナリ差止メラレタリト云フ

其他、裁縫師、靴屋、時計師、寫眞師、理髮師、宿屋、飲食店、養鶏業等モ渺ナカラヌ所得アルヘシト雖人口稀少ノ地故專業トシテ從事スルヨリモ商業、農業ノ傍ラ之レヲ爲スヲ便トセンカ

要之現今聖母河地方ニ於ケル本邦人ノ事業ハ其種類ノ如何ヲ問ハス總テ勞働本位ニシテ資本ノ後援アルナク唯自己ノ健康ト勞働力トニ依頼シ骨身ヲ惜マヌ勤勉スルタメ自然勞銀高キ此地方ニアリテハ比較的容易ニ成功スルヲ得タルモノニシテ今後モ恐ラクハ然ラン何トナレハ資本金ヲ有スルモノハ殊更ニカ、ル交通不便ノ隔絶セル土地ヲ擇ハストモ海岸地方ニ於テ過度ノ勞働ニ服スルコトナクシテ目的ヲ達スルヲ得ト信スレハナリ而シテ聖母河ノ將來延イテ日本人事業ノ將來ニ就テハ請フ之レヲ後章ニ於テ陳ヘン

本邦人ノ本國送金ハ大部分之レヲ領事館ニ依頼スルモノナルカ銀行爲替又ハ郵便爲替ノ便ナク唯該地方ニ於ケル内外國人ノ振出ス爲替手形又ハ小切手ヲ以テス(此地方ニハ現金少ナキヲ以テ大ナル仕拂ハ殆ト手形ヲ以テ爲サル、モノナリ)然ルニ爲替手形ノ中ニハ一覽後三十日若クハ九十日拂ト云フカ如キモノアル上ニ大抵「アレキバ」市又ハ「クスコ」市拂ヒナルヲ以テ之レヲ受取リタル領事館ハ更ニ里馬市銀行ニ依頼シテ取立テサレ可ラス其煩勞既ニ容易ナラサルニ此等手形ノ振出人タル祕露人及外國人中ニハ多クノ信用ヲ措ク能ハサルモノアリ從テ手形ノ不渡トナルコト珍シカラス送金取扱者ハ勿論送金人ノ迷惑甚大ナリ而シテ領事館カ本務ニアラサル此種送金ヲ取扱フニ至リシハ多少ノ沿革アリ事實已ムヲ得サルニ出ツ

D. 移民ノ送金

概シテ海外移民ノ本國送金額ノ多少ハ其成功ノ度ヲ計ル晴雨計タリト云フヲ得ヘク「アンデス」山東地方在留ノ本邦移民

送金額ニ就キ茲ニ其正確ナル統計ヲ示スコトハ同地方ニ於ケル本邦人發展ノ狀況ヲ具體的ニ示ス所以ナルヲ知ルト雖モハ到底不可能事ニ屬スルヲ以テ今調査シ得タル丈ノ送金額ヲ祕露在留本邦人總體ノ送金額ト對比シテ掲記センニ左ノ如

年次	總體送金額	山東地方送金額	備考
明治四十年	五、五五六七〇	一〇、六四八〇三	山東地方送金額ハ悉ク舊明治殖民合資會社ノ取扱ナリ
同 四十一年	八、二〇五、五三三	一〇、六四八〇三	本年以後ノ山東地方送金額ハ領事館取扱額ノミニテ其他ハ調査ノ材料ヲ缺ク
同 四十二年	一、七六七〇、五五五	一、四〇九、六二四	
同 四十三年	三、〇四九、三五九	三、〇一、九八、一四	
同 四十四年	三、三三九、〇七	三、三、七、〇七	
同 四十五年	一、四八二、〇七	一、四八二、〇七	
大正元年	未詳	一、八六六、〇〇	

前掲對照表中總體ノ送金額ハ里馬郵便局、本邦移住民會社本邦人商店並ニ領事館ニ於テ取扱ヒタル總額ナレハ稍正確ニ近キ數字ヲ表ハスモノト見ルヲ得ヘキモ尙歸國者轉航者ノ携帶スル金額ハ毫モ知ルヲ得ス而シテ山東地方ノ送金統計ニ就テハ前記ノ如ク到底完全ナルモノヲ得ル能ハス單ニ舊明治殖民合資會社ノ取扱額ト領事館取扱額トヲ知り得タルノミ故ニ總體ノ送金額中ニモ尙尠ナカラス山東地方ノ送金額ヲ包含スルコト疑ナシ去レハ同地方送金額カ總體ノ額ニ對シ如何程ノ割合ナルヤ將タ一人宛ノ平均額ヲ比較シテ其送金力如何程ノ差ヲ生スルヤ等ニ關シテハ惜ムヘキカナ全然調査ノ材料ヲ缺ケリト雖山東地方在留者ノ數ハ「アステイロ」、聖母河、「リヴエラ」等ヲ合シテモ五百名ヲ上ルコト多カラサルニ年々其額ヲ増加スルコト、海岸地方ノ送金ハ小口多ク(大抵五十圓ヨリ三百圓迄稀ニハ五百圓千圓ノモノアリ)山東地方ハ一口少ナクトモ二百圓下スニ三千圓ノ大口少ナカラサルコト、並ニ山東地方ニ於ケル本邦人ハ現下尙發展ノ上途ニアルモノナレハ其收得スル所ハ多ク資本トシテ投下セラル、事等ハ大ニ看者ノ參考トスルニ足ルヘシ

IV 移民ノ生活狀態

住屋 聖母河地方ノ住屋ハ氣候ト費用トノ關係上ヨリ板ヲ使用セル部分少ナシ木材ノ代リニ椰子樹ノ割材、柱ハ同樹ノ

丸材ヲ用キ屋根ハ其葉ヲ以テ葺キ周壁及床モ亦タ椰子樹ヲ割リテ造リ唯戸前丈ケハ板ヲ使用セリ農家ニアリテハ床ヲ高クシテ殆ト我國ニ於ケルニ階建ノ如クシ床下ニ農産ヲ收納ス本邦人河村組合ノ住屋ハ同地方中最モ宏大ナルモノニシテ政府委員ノ住宅ヨリモ遙カニ美ナリ但シ同地方中硝子戸ヲ有スルハ同委員宅ノミナリ

被服 年中綿製(綿又ハ「カーキ」)「ツボン」二着、木綿「シャツ」二枚ニテ足ルト雖近時絹「シャツ」、絹股引ノ如キ贅澤品ヲ用アルモノアリ又雨期ニハ毛絲製「シャツ」ヲ使用スルモノアリ履物ハ靴ヲ穿ツト雖農家ハ日本足袋ニ「カウチ」ニシテ

ノ汁液ヲ塗布シタルモノ最モ徳用ナラントノ話ナリ但シ森林中ニ出入スルモノハ編上長靴ヲ使用スルモノアリ又本邦人中或種ノ樹皮ヲ削キ之レヲ晒シテ得タル麻ノ如キ纖維ヲ以テ草鞋ヲ造リ用ユ

飲食物 米及鹽、乾羊肉(「チャロナ」)「ユカ」、鹽、元豆、茶、「コンデンス」等ヲ用フト雖農家ハ各好ム所ノモノヲ培養スルヲ得ヘシ又日本醬油、罐詰類モ大抵輸入セラレ酒類モ葡萄酒、「ウイスキー」、麥酒等好ミ次第ノモノヲ得ラルト雖頗ル高價ナルヲ以テ常用トシテハ米ニ少量ノ「チャロナ」ヲ混煮シタルモノ又ハ「チャロナ」ノ「スープ」ニ「ユカ」ヲ煮込ミタルモノヲ用ヒ魚肉及獸肉ハ各自之レヲ漁獵ス又酒ハ「カチャナ」ト稱スル甘蔗黍ヨリ得タル「アルコール」ヲ用ヒ煙草ハ地産ノモノヲ刻ミ紙ニテ卷キ喫用スト雖頃日ニ至リ海岸地方ヨリ輸入スル專賣卷煙草ヲ用アルモノ多シト云フ

氣候ニ關シテハ別ニ憂フヘキモノナシ本邦婦人等モ能ク其旅行ノ困難寒暑ノ變化ニ堪ヘ沖繩縣人ノ如キハ森林地ノ氣候自己ノ郷土ノソレト大差ナキ爲メカ成績他ニ優越セリト雖隔絶セル天涯ノ一角殊ニ森林中ニ勞働スルモノニ最モ心細キハ手近ニ醫師ノ在ラサルコトニテ急病者、重傷者ハ到底救護ノ途ナキモ幸ニ近時一本邦人ニテ醫術ノ心得アルモノ此地方ニ住シ「アステイロ」、インカ」會社ノ雇本邦醫モ亦タ歸任シタル外當國軍醫一名亦タ駐在スルニ至リシヲ以テ稍心安ニスルニ足ランカ

病氣ハ外傷、「マラリア」等最も多キカ如シ

五〇

第八章 聖母河地方ノ將來

從來聖母河地方ノ富源開發ハ「カウチ」ノ採集ニ集中セラレ、斯業ノ盛衰ハ直チニ同地方ノ興廢ニ影響スルモノナルコト既ニ説明シタルカ如ク、護謨採集業ノ現況並ニ將來ニ關シテモ亦タ前章ニ於テ之レヲ述ヘタリ然ラハ聖母河地方ノ將來如何ハ正シク此點ヨリ推究セサル可ラス

護謨業ノ前途ニ關シ悲觀樂觀ノ兩説アルカ如ク、聖母河地方ノ將來ニ關シテモ亦兩種ノ意見行ハル樂觀説ヲ唱フルモノハ海外資本家及殖民者ヲ吸集セン爲メ聞テ大ニシテ此地方ノ有望ヲ絶叫スル者ニアラナレハ現ニ護謨林ニ於ケル大ナル土地ノ讓渡ヲ得居ルモノカ若クハ或種ノ事業ヲ經營シ居ルモノ等カ今後ノ恐慌襲來前ニ自己ノ權利ヲ賣放テ逸早く退去セント欲スルモノナリ悲觀説ヲ唱フルモノハ同地方將來ノ盛運ヲ見越シ競争者ノ多ク現ハレサランコトヲ望ム商人等カ殊更望ムナキヲ吹聴スルモノト察セラレ

既ニ緒言ニ於テ記述セシ如ク、當然山東ニ當ル森林地方ノ開發ハ遠キ以前ヨリ秘魯國政府ノ留意着眼セル所ニシテソレカ爲ニハ鐵道敷設ノ企圖ヲナシ今現ニ秘魯株式會社ヨリテ再度ノ豫測ヲ爲シ、アル外道路ヲ建設シニ回森林地方土地法ヲ發布シ河上汽船ヲ購入シ無線電信局設置ノ計畫ヲナシ秘魯人殖民者(智利ヨリ放逐セラレシ)ヲ送致シ農業ノ獎勵ヲナシ、アリ又今期議會(十二月)ノ決議ニヨリ「タウアマヌ」(Tahuamanu)、「タムボタ」(Tambopata)、「マヌ」(Manu)ノ三郡ヨリナル聖母河縣ヲ新設シ行政司法ノ便ヲ計ルコト、ナリタレハ益同地方開發ノ機運熟シタルモノト見做スヘク、愈鐵道完成ノ曉ニハ農産物、鑛物、木材等ヲ海岸地方ニ輸送シ得ルニ至ルヘシ、唯今日最も苦痛トスル所ハ「カウチ」樹ノ減少ニ加ヘテ市價低落セルコト、交通不便、道路險惡、物資高價ナル爲自ラ護謨ノ運賃ヲ高カラシムルコトニアリ抑モ去ル千九百零六年迄唯一ノ交通路トシテ存セシ「Vardero Fitzcarrald」トテ

長キ不便ナル通路アリシニ過キナリシカ其後「インカ」護謨會社道路「イナムパリー」道路、上聖母河道路ノ開通アリ就中「インカ」街道ハ交通最も頻繁ナリト雖モ高率ノ通行稅ヲ徵スル上道路ノ修葺行届カサルヲ以テ非常ニ運賃ヲ高クシ從テ聖母河地方ノ商業ヲ妨害シタルコトモ亦タ尠ナカラス又「イナムパリー」道路ハ前者ニ比シ遙カニ經濟的ニシテ且ツ安全ナリト雖モ聖母河ニ出ツルニハ舟楫ノ便ニ於テ劣ル所アリ

更ニ寒心スヘキ事實ハ伯刺西爾國「マデラ」河港(Rio Medera)、「サン、アントニオ」(San Antonio)ヲ起點トシ二百基米ヲ溯リタル「ヴィヤムベヤ」(Vilabuya)、「マモレー」河(Rio Manoreca)、「ベニー」河(Rio Beni)ヲ合スル地點ニアリニ達スル「マデラ、マモレー」鐵道カ本年度初ニ於テ開通シ客貨ノ運搬ヲ始メタルニアリ

「サン、アントニオ」河港ハ大吃水船舶ノ終航點ニシテ歐洲諸港ヨリ來ル五千噸ノ汽船ハ本港迄溯航ス又「ヴィヤムベヤ」ヨリ「ベニー」河ヲ溯ルコト七十五基米ノ所ニ「Cachuela Esparanza」ト稱シ河底岩石アル舟運ノ難關迄ノ間ハ同シ鐵道會社カ數隻ノ小蒸汽船ヲ以テ運搬ニ任シ居ルモ上記難關ヲ避クル爲メ更ニ一基米ノ間ニ輕便鐵道ヲ敷設セリ而シテ此鐵道ノ終點ヨリ聖母河港「マルドナド」迄五百六十基米ノ間ハ一ケ年ニ八ヶ月間ハ六十噸程ノ汽船ヲ以テ上下航スルコトヲ得ヘシ

全「マデラ、マモレー」鐵道ノ開通カ聖母河地方ニ與フル影響如何ヲ考フルニ「マルドナド」ヨリ「マデラ、マモレー」鐵道ヲ利シ更ニ「バラ」港ニ積出スモノト「マルドナド」ヨリ「アステイエロ、テイラバタ」道路ヲ經テ「モエンド」ニ積出スモノトノ間ニハ貨物「キンタール」(百斤)ニ付秘貨九「ソル」四十仙ノ差ヲ生シ第一ノ通路カ利益アルヲ示スコト左表ノ如シ

「マモレー」河港ヨリ「サン、アントニオ」河港迄(河上)	四六〇
「マルドナド」河港ヨリ「ヴィヤムベヤ」河港迄(河上)	四八〇
「ヴィヤムベヤ」河港ヨリ「サン、アントニオ」河港迄(鐵道)	一、一〇〇
「サン、アントニオ」河港ヨリ歐洲迄	一、〇〇〇
合計	三、〇四〇

第八章 聖母河地方ノ將來

五一

保險料(百分ノ五、一)	八九〇
輸出税(「ベニ」地方ニ於ケル相場ノ八歩從價税)	九六〇
合計	一、八五〇
(陸貨換算)	五、一六〇
「キンタール」ニ付	六、三二〇
「マルドナド」河港ヨリ「アステイロ」迄(河上)	一、五〇〇
「アステイロ」ヨリ「テイラバタ」迄(陸上最低貨)	三、〇〇〇
「テイラバタ」ヨリ「モエンド」迄(鐵道)	四、三〇〇
「モエンド」ヨリ歐洲迄	一、一〇〇
保險料(百分ノ二)	三、〇〇〇
輸出税(歐洲市價ニヨル八歩從價税)	一、三六〇
土地借料	一、〇〇〇
合計	六、一六〇

即チ(一)ト(二)トノ差額ハ九「ソル」四十仙トナル、尙注意スヘキハ秘露産護謨ニシテ「モエンド」港ヲ通過スルモノハ輸出税トシテ歐洲市價ノ從價八歩ヲ課セラル、ニ反シ聖母河ヲ下航シ密輸出スルモノハ「ベニ」河地方ニ於ケル相場ノ從價八歩ヲ「ボリヅ」税關ニ於テ課セラル、ニ過キサルコト之レナリ

事情斯ノ如クナレハ今後聖母河地方産出ノ護謨ハ勢ヒ「モエンド」通路ヲ見捨ツルニ至ルヘキハ既ニ今年ノ「カウチ」輸出額カ「モエンド」ヲ經テ昨年ノソレニ比シ四割ノ減少ヲ見タルニヨリ明カナリ又同地方ニ來ル商品モ「バラ」港ヲ經テ輸入セラル、ニ至ルコト既ニ今年中「テイラバタ」・「アステイロ」ヲ經テ輸入セラレシ商品カ昨年ニ比シ殆ト半額ニ減シタルヲ以テ知ルヘキナリ

現今聖母河地方ニ於ケル「カウチ」ノ産額一ケ年八十萬「キロ」トシ此價「キロ」四「ソル」トスル時ハ總額三百二十萬「ソル」トナル之レニ對シ政府ハ輸出税(八歩)二十五萬六千「ソル」ヲ課スル筈ナリ尙此上ニ政府ハ護謨地貨下料トシテ護謨毎「キンタール」ニ「ソル」宛テ課スルモノナレハ一ケ年ニハ其額三萬四千七百八十二「ソル」ニ上リ總計國庫收入額二十九萬七百八十二「ソル」トナル之ニ加フルニ商品ノ輸入税アリ國庫ノ收入ヲ合算スレハ彼此五十七萬「ソル」トナル今

若シ同地方産出ノ護謨並ニ輸入商品ノ半額ヲ新鐵道ノ爲メニ奪ハルトセハ政府ハ二十八萬五千「ソル」ノ收入ヲ失フコト、ナルノミナラス「マルドナド」河港以北ニ産出スル秘露護謨ハ少シモ該港ヲ經由スルコト無クシテ「ボリヅ」ニ密輸出セラルヘシ殊ニ現時ノ護謨中心地ハ漸ク衰ヘ正サニ北方ニ推移セントシツ、アルニ於テハ聖母河地方ノ衰頹スルハ免レサル運命ニアラスヤ、然ラハ今日漸ク萌芽シ來レル農業(主ニ日本人ニヨル)モ鐵道敷設前ニハ其産品ヲ海岸地方ニ輸送スル能ハス、伯刺西爾方面ヨリハ密輸入ニヨル廉價ノ食料品入來ルトセハ勢ヒ衰微セサルヲ得サルヘシ、故ニ今期議會ニ於テ一議員ハ左ノ建議ヲナシ政府ノ實行ヲ促セリ即チ道路通行税ノ廢止、(現今唯一ノ道路ナル「テイラバタ」・「アステイロ」間道路ハ森林地方土地法ニヨレハ其通行無料トナリ居ル故ニ其通行税ヲ廢止スレハ護謨「キンタール」ニ付二「ソル」十四仙ヲ節スルコトヲ得次キニハ輸出税ヲ低減スルコト即チ海外需要地ニ於ケル市價ノ八歩ハ隣國「ボリヅ」ニ付二ノ輸出税即チ産出地ニ於ケル時價ノ八歩ニ比シ非常ナル高率タルヲ免レサルニ付之レヲ全廢スルカ若クハ半額トナサ、ル可ラス(然ラサレハ「マデラ」・「マモレイ」鐵道ノ競争ニ打敗レ「モエンド」港ハ勿論、「アレキバ」・「クスコ」・「プ」三縣ノ産業並ニ商業ハ衰微シ折角築造シタル唯一ノ道路タル「インカ」街道ハ頹廢ニ歸シ軍事上大ナル危險ヲ感スルト同時ニ國庫ハ上記五十七萬「ソル」ノ收入サヘモ全ク失フニ至ルヘシトノ趣意ナリキ)尙此外「アレキバ」市商業會議所ノ請願ニハ「モエンド」港ヲ經テ聖母河地方ニ輸入スル商品ノ輸入税ヲ低減スヘシトアル外或論者ハ「イキトス」ヲ經由輸出スル護謨ト「モエンド」ヲ經由スルモノトニ對シ差別的關稅ヲ賦課スルコトヲ主張ス假ハ産出地ニ於ケル時價ニ對スル八歩ヲ「イキトス」輸出品ニ課スルモノトナレバ其六歩ヲ「モエンド」輸出品ニ課セントスルノ議論ナリ

兎ニ角以上諸種ノ議論沸騰シ且ツ當國新大統領就任後日尙淺キニ拘ハラズ諸種ノ事業企テラレ官民一般ニ活氣ヲ帶ヒ來リ既ニ聖母河獨立縣新設ノコトモ決シタルヲ以テ着々其計畫ヲ實行セラレテ「ボリヅ」國トハ關稅徵收ニ關スル協約モ結ハル可ク「モエンド」港延イテハ「アレキバ」・「クスコ」縣繁榮ノ爲ニハ護謨輸出稅道路通行稅ノ撤廢實現セラルヘク聖母河鐵道モ速カニ敷設セラルヘク「巴奈馬運河」開通ト相俟ツテ護謨其他ノ運賃モ低落ヲ來タス可ク又愈々聖母河鐵道完

成ノ上ハ現時着手中ノ「ウカヤリ」鐵道ノ竣工ト相並ヒテ森林地力開發上一新紀元ヲ開ク可ク農産物、木材、鑛物等ハ大ニ販路ヲ擴張スルニ至ルヘシト察セラル

五四

因ニ曰ク、Madara Manore Railway ハ米國人カ千百萬弗ノ資本金ヲ以テ千九百七年起工セルモノナルカ先ツ該地方衛生設備ヲナシ次キニ歐洲ノ労働者ヲ輸入シタレトモ最初ノ程ハ酷烈ナル氣候及熱病ノ爲メ數千ノ人命ヲ失ヒ労働者ノ逃亡多ク殆ト失敗ニ了ラントセシカ米國一流ノ不屈不撓ノ精神ハ遂ニ最終ノ勝利ヲ得テ千八百八十一年十二月ニハ二百二十「キロメートル」ノ間ニ交通ヲ開始スルニ至レリ而シテ其軌道ハ、「メートル」ニシテ枕木ハ濠洲産ヲ用フ（伯刺西爾枕木ハ其伐り出シニ非常ナル費用ヲ要スル爲メナリ）而シテ其敷設費ハ衛生費、無線電信費其他諸種ノ費用ヲ合セテ「キロメートル」ニ付百二十六「セントス」約六百七十圓（下計上セラレバ奈馬運河ニ次ク大工事ト稱セラル本鐵道工事ニハ祕露國ヨリ轉入セシ本邦移民數名之レニ從事セリト聞ク
尙此鐵道ハ遠ク千八百六十七年ノ頃ヨリ計畫セラレ以來屢々計畫セラレ測量セラレタルモ常ニ失敗ニ了リシモノナリトイフ

第九章 日本人事業ノ將來

上來述セル所ヲ約言セハ護謨採集業ノ將來並ニ聖母河地方ノ前途ニ付テ幾多ノ障礙横ハリ俄カニ樂觀スルヲ許サスト雖僅々四、五ケ年間ニ其運命ヲ決スル程ニ逼迫セルモノトモ思ハレハ故ニ吾人ハ今始ラテ樂觀ニ從ヒ護謨ノ需要ト供給トハ平衡ヲ保チ産額從テ増加セハ用途亦タ從テ多ク到底大ナル生産超過ハナカルヘク人造護謨亦タ暫ク見込ナシトシ近クハ聖母河地方ニ通スル道路ノ修復成リ通行稅廢止セラレ數年後ニハ鐵道敷設セラル、見込立テ自然護謨ノ運賃モ低減スルヲ得物資下落シ供給潤澤トナリ護謨樹ノ栽培行ハル、ト同時ニ農業勃興ニ聖母河縣新設ニ伴ヒ所々ニ村落ヲ形作り人口モ増加シ活氣横溢スルニ至ルト看ルヲ至當トセン、果シテ然ラハ「アンデス」山東ハ最モ世人ノ注目ヲ惹キ從テ其

寶庫ヲ開發スヘク進入スルノ内外人多ク本邦人ハ爲ニ多大ノ競争ヲ受クルニ至ルハ勿論ナルモ之レニ連レ其生産品ノ需要モ増加セン此處ニ即チ吾人カ其將來ヲ先見シテ奮勵セサル可ラサル所ナリトス尙又現今既ニ東洋人ノ殖民ヲ排スルカ如キ暗流ナキニアラスト雖吾人ハ今此ノ如キコトニ顧慮スル必要ナシ益々進ンテ事業ヲ起シ成ルヘク鐵道完成前ニ吾等ノ根據ヲ固メ置カサル可ラス假リニ一步ヲ譲リ以上ノ希望總テ水泡ニ歸スルモ聖母河地方ノ護謨樹ハ僅々兩三年ニシテ盡クルモノニアラス且ツ地方官廳ノ設置ト共ニ今日以上ノ人口ノ増加スルハ勿論ニシテ本邦人農家ノ收穫物ハ自然需要ヲ増ス所以ナル上ニ護謨採集者ハ少ナクトモ五、六ケ月間森林中ニ入ルモノナルヲ以テ其間ニ要スル食糧ハ地方産出品ヲ以テ供給スルヲ得ルコト之レナリ（綜合各種ノ商品ガ「ラ」鐵道ニヨリ輸入セラルトスルモ野菜類ノ需要ハ依然タルベシ）
將又總テノ考慮ヲ度外視シ悲觀論者ノ所說ニ從ヒ護謨ノ相場暴落シ護謨樹ハ一、二年中ニ絶滅シ聖母河地方大ニ衰微ストスルモ一旦此地ニ羽翼ヲ張リ根柢ヲ築キタル日本人ハ其儘ニシテ果ツルモノニアラス或者ハ護謨ノ中心地ヲ探ネテ更ニ深く進入スヘク或者ハ事業ヲ轉スルノ機會ヲ見出スヘク他ノ者ハ又伯刺西爾「ボリヅィア」現ニ「ボリヅィア」國「リヅィエラルタ」ニハ三百ニ近キ日本人アリニ轉入スヘク既ニ此地方ノ事情ニ通シタル彼等ハ各自其方向ヲ展開シ新運命ヲ拓クニ努ムヘシ況ンヤ日進月歩ノ世運ハ到底斯ノ如キ悲觀說ヲ許サズ彼等カ創設セシ新事業ハ永久ニ存續シ繁榮スヘキモノナルニ於テオヤ、唯憂フヘキハ現時ノ運ニ際シ惡風ニ感染シ易キコトナリ

第十章 森林地方護謨採集業

一 護謨採集業ノ起原 祕露國ニ於ケル護謨採集業ノ起原ハ千八百八十二年（明治十五年）ノ頃ニアリテ爾後十數年間「アマゾン」河ヲ經テ輸出セラレシ護謨ノ殆ト全部ハ此國ノ産出ニ係ル
二 産出地 最初採集ニ着手セシハ「マラニオン」Marathon 河ノ主タル支流「テイグレ」(Tigre)、「モロナ」(Morona) 及「バスタサ」(Bastaza) 河ノ貫流スル森林地域ニシテ其後千八百八十五年ヨリ千八百九十七年頃迄ハ「ウカヤリ」(Uca-

第十章 森林地方護謨採集業

五五

(iii) 河森林地方其重ナル淵源タリシカ護謨採集者「カウチ」(Caucho) カ段々「カウチ」(Caucho) 樹ヲ伐リ倒シ内地深ク
進入セシ爲メ遂ニ今日ハ其中心地ヲ「マドレ」(Madre de Dios) 「マヌ」(Manu) 「ヤウバリー」(Yauary) 「
「ユバ」(Yuba) 及「ブルス」(Purus) 河森林地帯ニ移スニ至レリ而シテ伯刺西爾國、「ボリヰア」國トノ境界問題ノ
眞因ハ彼我ノ護謨採集者カ益々前進セシ結果衝突ヲ來シタル以來各國互ニ成ル可ク多クノ護謨林ヲ自國ノ領有トセント
欲シタルニアリト云フ是レ亦タ一説トシテ傾嚮ノ値アリ

三 護謨樹ノ種類 探檢ノ結果ニヨレハ祕露國ノ森林地帯ハ到ル處護謨樹ヲ發見セサルナク種類モ亦タ數多アリト雖其
乳汁之シキカ將タ適當ナル作業法ノ知ラレサルカ今日ニ於テハ未タ多ク顧ラレス現時重ニ採集セラル、護謨樹ハ「エウ
フキ」(Euforbicus) 科ニ屬スルモノニシテ就中「ハヤ」(Para rubber) トシテ知ラル、最優等品タル「ハヤ」(Jaba) ヲ産シ三百呎以下ノ濕潤
ナル土地ニ最モ好ク生長シ六十呎ヨリ七十五呎ノ高サニ達ス又「ウルマセアス」(Uruacas) 科ニ屬シ「カステリョア」
(Castillo) ト稱スル中央亞米利加及墨西哥等ニ産スルト同シ護謨樹モ亦タ發見セラレ普通森林地ノ稍高クシテ乾燥セル
部分ニ産シ「カウチ」(Caucho) 護謨ノ重ナル源泉タリ

伯刺西爾國「バラ」ニ於ケル Goeldi Museum 館長 Dr. Jaques Huber カ會テ千八百九十八年中當國「ツクリヤ」河及
「ツヤガ」河地方ヲ巡視シタル際「バムバム」(Bambu) 「サクラメント」(Pampas del Sacramento) (約三萬平方「キロメート
ル」)ノ廣サヲ有スル「アンデス」山及其東方支脈ノ圍繞スル森林原(ニ於テ次ノ如キ標本ヲ採集セリト云フ

- (1) Uruacas
Castillo (Caucho)
- (2) Heveas
Hevea Brasiliensis
Hevea Guianensis
Hevea Yucatanensis
Hevea (Ashes)
- (3) Sappins
Sappin Anupartum (Shringaran)
Sappin
Sappin Bilsandolom
Sappin Mambar (Shringaran)

其他今日迄ニ知ラル、モノ左ノ如シ

- Hevea Falcata Hamorria
- Hevea Andensis Sappin Parvohumana
- Hevea Spruceana Sappin aff. Villo
- Hevea Guianensis Micrandia
- Hevea Cameraria

尙千九百五年里馬地學協會出版ニ係ル「祕露」ニ於ケル護謨採集業「中左ノ類別表ヲ掲ケアルヲ以テ參考ノ爲メ之レヲ附記
ス

- (一) Hevea Guayanensis (幹ノ高サ十五乃至二十米突、直径六十乃至八十珊米、殆ト圓筒狀ニシテ樹皮ハ平滑灰色ヲ
帯フ)
- (二) Hevea Brasiliensis (高サ十八乃至二十米突ニ及ヒ幹ハ殆ト圓筒狀ニシテ樹皮薄灰色ヲ帯ヒ粗狀ニシテ隆起物多
ク)

此二種共複葉ニシテ三葉片ヨリナリ長キ葉柄ヲ有ス葉式ハ互生ナリ

- (iii) Hevea Andensis (俗ニ「オルコ」(Orco Shringa) 又ハ「ハヤ」(Para bo) (Jaba bravo) ト稱シ其產品ヲ
Weak fine ト云フ) (ii) ト同種ナレトモ乳汁ノ量及質ニ於テ劣リ三ト五トノ割合ニ當ル「アンデス」山麓六百米突ノ海
抜ニテモ生長ス)
- (四) Hevea Lutea (幹ノ高サ十八乃至二十米突、直径七十乃至八十珊米、圓筒狀ニシテ乳汁ハ黑色ノ斑點ヲ出ス性
質ヲ有ス)

- (五) Micrandia (此中ニハ四種ノ異リタル樹アリ「アマゾン」平原ノ特産ナリ)
- (六) Mantisola (同シク「アマゾン」平原ノ特産ナリ)
- (七) Castillo Uruacas 科ニ屬シ幹ノ高ハ約十五米突、直径六十乃至九十珊米、樹皮ハ「Heveas」種ニ類似シ葉ハ大ナ

リト雖少ナシ「カウチ」ヲ産ス其他尙 Diaceae ニ屬シ數百ノ種類ヲ有スル Ficus, Geoplia (葉式ハ互生)等アリ
「カウチ」樹ノ特徴ハ其葉裏露立テルロト之レナリ

(八) Valens, Urocoas, Landolphia 等ハ Apocynaceae 族ニ屬ス、「カウチ」ヲ産ス

四 産額 過去九ケ年間ノ産額ヲ示セハ左ノ如シ

年次	ヘ	セルナムビー	カウチ	カウチ	セルナムビー	特ニ種類別	總計
一九〇二	七九七〇〇	三三三五六	八九五九元	六四九九四五	一六三三元	一、四〇〇番	一、四〇〇番
一九〇三	七九七〇〇	三三三五六	八九五九元	六四九九四五	一六三三元	一、四〇〇番	一、四〇〇番
一九〇四	七九七〇〇	三三三五六	八九五九元	六四九九四五	一六三三元	一、四〇〇番	一、四〇〇番
一九〇五	七九七〇〇	三三三五六	八九五九元	六四九九四五	一六三三元	一、四〇〇番	一、四〇〇番
一九〇六	七九七〇〇	三三三五六	八九五九元	六四九九四五	一六三三元	一、四〇〇番	一、四〇〇番
一九〇七	七九七〇〇	三三三五六	八九五九元	六四九九四五	一六三三元	一、四〇〇番	一、四〇〇番
一九〇八	七九七〇〇	三三三五六	八九五九元	六四九九四五	一六三三元	一、四〇〇番	一、四〇〇番
一九〇九	七九七〇〇	三三三五六	八九五九元	六四九九四五	一六三三元	一、四〇〇番	一、四〇〇番
一九一〇(一月ヨリ六月迄)	三三三五六	三三三五六	三三三五六	三三三五六	三三三五六	三三三五六	三三三五六

備考 千九百八年中ノ産額減少ハ千九百七年ノ北米合衆國ニ於ケル財界恐慌ニ起因スルモノニシテ全世界ニ亘リ護謨産業ノ不振ヲ見タリ千九百十年中ノ産額ハ同年中ノ半額ト見做スヲ得ズ何トナレバ毎年輸出ノ多キハ七月以後ナレバナリ而シテ同年中ノ産額ハ約四千噸ナリト云フ

五 品名 「カステイヨア、エラストイカ」(Castilloa elastica) (又「カウチ」(Caucho) ハ殆ト三十年前ヨリ最モ採集シ易キ部分ヨリ着手セラレ且ツ其樹ハ墨西哥其他ニ於ケルカ如ク無意味ニ伐リ倒サレタリト雖幸ニモ其株根ハ未タ絶滅スルニ至ラス

「ヘア、ブラシリエンシス」(Hevea Brasiliensis) ハ十五年前ヨリ採集セラレ其方法ハ樹幹ニ數多ノ切口ヲ附ケ乳汁ヲ得ルモノナリ

「ヘア、クネアタ」(Hevea Cuneata)、「ヘア、ルリア」(Hevea Lutea)及「ヘア、ペルヴィアナ」(Hevea Peruviana)

ヨリ得ル護謨ハ「ヘア、フイノ、デビル」(Jube fino débil) トシテ知ラレ約七年前ヨリ上記同様ノ方法ニヨリ採集セラレ

「サロウム」(Sapim) ノ或種類モ亦タ前記ト同様ノ方法ニヨリ近頃採集セラレ其産品ハ「シリಂಗアラナ」(Shringarana)

「カウチヨマシヤ」(Caucho mascha) 又「グッタハルチヤ」(Guttagarula) トシテ知ラレ品等ニ於テ劣レルモノナリ

要之所謂黒金ヲ産スルノ數多キ護謨樹ノ中現今最モ多ク採集セラレ、モノハ三種類トナスコトヲ得ヘシ即チ(一)「カウチ」(Caucho) (二)「オルロミンガ」(Oroschinga) (三)「シリಂಗアラナ」(Shringa hua) 又「ヘア、フイノ」(Jube fino) ニシテ通俗ニハ此等ヲ稱シテ「カウチ」ト稱スト雖秘露及伯刺西爾ニテ専門的ニ用フル定義ニヨレハ「カウチ」ハ「ハンコルニア」(Hancornia) 種ノ護謨樹ヨリ産スル普通品ニシテ用ヒラル、名稱ニテ如何ナル森林ニモ生長シ秘露輸出ノ護謨中最多量ヲ占ム第二ノ護謨樹モ「カウチ」ト同一地帯ニ生ジ其産品ハ「カウチ」ヨリ優等ニシテ「ヘア」ノ一種ナリ且ツ第三ノ Shringa Fina 産品ト一見異ルナク又其作業モ同一ナリト雖實際ニ於テハ其品質、弾性及色ニ於テ劣ル所アリ故ニ現今之レヲ採集スルモノ少ナク唯僅カニ優等ノ護謨樹ヲ發見シ損ヒタル事業家カ之レニ從事スルノミナリ而シテ所謂「ヘア、フイノ」ハ最モ優等ノ産品ニシテ第二種ノ護謨樹ヨリモ遙カニ低地ニ生ス

而シテ此等ノ産品カ世界護謨市場ニ出サル、時ハ次ノ如キ名稱ヲ付セラルト云フ

「ヘア、ノ」(Para rubber, Fine Para or Hard Para)

「ヘア、ノ」(Ente fino Para (乳汁ニ多少不純物ヲ混スルモノ)

「セルナムビー、デ、ヘア」(Semambu de Jube (樹ノ切口ニ附着シテ自然ニ凝結シタル乳汁ノ屑ニシテ Souaps ト稱スルモノ又ハ「ヘア」種葉作業ノ最後ニ殘リシ下等品タイプ)

「カウチ」(Caucho)

「セルナムビー、デ、カウチ」(Semambu de caucho (乳汁カ地上ニ於テ自然ニ凝結セシモノ)

「ヘア、フイノ、デ、カウチ」(Jube-fino débil (Weak fine)

「ラキス、ギン、ブツ、マ」 Rabos de Putumayo. (Hevea Brasiliensis 及 Jube fino debil カ混合シテ Semanby de Jube ノ如ク凝結セシモノ)

「フィノ、モヒンヤ」 Fino Mollendo (聖母河地方ヨリ産出ス「ハキフィノ」ニ比シ約二片半安シ)

「カウチ、ボール」 Caucho Ball

「ペルヴィアン、スラブ」 Peruvian Slab

「ペルヴィアン、チキヤ」 Peruvian dead 「カウチ、ムヘンヤ」 Caucho inerte

六 採集法 一時盛ニ行ハレタル方法ハ護謨樹ヲ伐リ倒スニアリテ最モ迅速ナル結果ヲ得彼ノ樹皮ニ創口ヲ附シテ採取スル乳汁ヨリモ多量ヲ摘取シ得ルコト勿論ナリト雖其樹幹ハ再ヒ役立タサルナリ之レニ反シ週期的ニ刻ミヨリ採取スル方法ハ其樹ヲ保存シ得ル上ニ尙相應ノ乳汁ヲ得テ市價モ亦貴シ(伐リ倒シタル幹ヨリハ一時ニ二十「キロ」ヨリ二十五「キロ」ヲ得ルニ比シ刻ミヨリ採取スル時ハ一ケ年ニ十「キロ」ヲ得ヘシ)故ニ今日ニテハ Hevea Brasiliensis, Hevea Cuneata 及 Sapindum 護謨樹ハ之レヲ伐倒スルコト、ナン全作業ノ順序ハ勞働者先ツ森林中ニ入りテ護謨樹ヲ搜索シ各樹ノ間ニ小徑ヲ開キ百二十本ヨリ百五十本迄樹カ密接セル時ハ二百本位迄又各樹ノ距離遠キ時ハ六十本、八十本或ハ百本ノコトアリ又土地ノ平坦ナルト否トニヨリテ異ナルト雖普通三人ノ勞働者ニシテ一日ニ發見シ得ル護謨樹ハ百本乃至百五十本ニシテ約百噸ニ擴カルト云フ)ノ護謨樹ヲ自己ノ採集區トシテ各樹ヲ連絡スル小徑ヲ作ル之レヲ「エストラダ」(Estada)ト云フ此「エストラダ」ハ可成捷徑ヲ取り短距離ノ中ニ各樹ヲ連絡シ兩端ヲ接近セシメ之レヲ一周スレハ出發點ニ復歸スル様爲サ、ル可ラス而シテ數ケノ「エストラダ」ノ中央ニ自己ノ起臥スル小舎ヲ設ク小舎ニ對スル「エストラダ」ノ數ハ護謨樹ノ疎密ニヨリテ一定セス少ナキハ二、三ケ多キハ八、九ケニ達スト雖普通一ケノ小舎ニ四乃至六ノ「エストラダ」ヲ附屬セシメ得ルカ如シ而シテ樹下ノ草木ヲ取り拂ヒ樹幹ヲ清掃シタル後各樹下ニ其樹幹ノ大小ニ應シ必要ナル丈ケノ鐵葉製猪口ヲ配置シ(口徑深サ共約二吋半底一吋半ノ水呑「コップ」形ニシテ「ボルト」ト稱シ二個四個乃至

十個ヲ各樹下ニ配置ス)之レヲ採集ノ準備作業トス之レヲ終レハ翌日ヨリハ毎朝六時頃ヨリ正午迄ニ順次護謨樹ヲ巡回シ前キニ殘シ置キタル丈ケノ猪口數ニ應シ樹幹ノ周圍ニ一定ノ間隔ヲ以テ切傷ヲ附ス其法ハ極輕少ナル手斧(Axe)ヲ以テ樹皮ニ約一吋程ノ刻ミ目ヲ上方ニ向テ斜メニ附ケ其直下ニ猪口ヲ打チ付ケ滲出スル汁液ヲ受容スルナリ斯クシテ彼レカ受持ツ最後ノ護謨樹ニ猪口ヲ打チ付ケ終レル時ハ小憩ノ後再ヒ最初ノ樹ヨリ始メテ(大抵午後トナルヘシ)猪口ニ溜リタル乳汁ヲ鐵葉桶ニ集メ猪口ハ再ヒ原位置ニ打付ケ最後ニ自己ノ小舎ニ歸リ汁液ヲ凝結セシムルナリ最初樹皮ニ附スル創口ハ勞働者ノ背丈位ノ所ヨリ始メ樹幹ノ細キモノハ二、三個、太キモノハ十個位迄ナルコト前述ノ如ク其間隔ハ約六吋位ニシテ翌日ハ前日ノ傷口ノ下約二、三吋ノ處ニ新シキ傷ヲ付ケ逐日之レヲ繰返シ漸次下方ニ下リ樹根ニ近ツケハ更ニ上部ニ戻リ新タニ切口ヲ舊創ノ間ニ附ケ再ヒ樹根ニ至レハ茲ニ此「エストラダ」ノ採集ヲ終リタルモノニシテ他ノ「エストラダ」ニ移ルナリ通常一「エストラダ」ヲ採集スルニ二個月ヲ要スト云フ而シテ創口ノ數ヲ適當ニ打算スルコトハ最モ必要ニシテ若シ適度ヲ超ユル時ハ其樹ハ枯死スヘシ故ニ注意深キ採集者ハ舊キ創口ニ粘土ヲ塗リ以テ其勢力ノ恢復ヲ圖ルト云フ又現ニ行ハル、創口位置ハ樹面ノ直上ヨリ勞働者ノ達シ得ル高サヲ以テ限度トスト雖尙十呎以上ノ高サニ之レヲ附スレハ今ヨリモ遙カニ多量ノ乳汁ヲ得ラルトノ説アリ若シ此説ニ從ヘハ勞働者ハ輕キ梯子ヲ準備スルカ或ハ樹幹ニ足場ヲ造ラサル可ラス尙猪口ニ溜ル護謨汁ノ量ハ護謨樹ニヨリ或ハ晴雨ノ季節ニヨリ又ハ創口カ日光ヲ受クルヤ將タ日陰ニアルヤニヨリテ異ルコト勿論ナリ又勞働者ノ携帶スル手斧ハ其幅約一吋ニシテ軟鐵製ニ限ル蓋シ經驗上鋼鐵製ノモノハ樹木ヲ損スルコト多シト Castilla 樹即チ Caucho 前記ノ如ク伐倒スルモノニシテ(幹ノ大小ニヨリテ乳汁量ヲ異ニスト雖大ナルモノハ三、七「キロ」以上ヲ有ス)「カウチ」採集者(Cauche)ハ各自相應ノ食糧ヲ携帶シ獨木舟ニテ小河流ヲ進メタル後他人未タ採集セサル部分ヲ發見スレハ其川邊ニ本據ヲ定メ其レヨリ毎日探檢ニ出掛ケ假小舎ヲ設ケ「カウチ」樹ニ自己ノ發見シタル印ヲ刻ミ付ケ以テ先占ノ證トナス

ヲ傷ケ地面ニ數條ノ溝ヲ穿テハ滲出スル乳汁ハ大氣ノ爲メ自然ニ凝結シテ溝中ニ長キ紐ノ形ヲナス時之レヲ卷キテ荷造ルモノ即チ Carabo sarmany ナリ更ニ其幹ヲ伐倒シ其横ハレル地上ヲ清掃シ幹ノ周圍ニ幾條トナク平行セル切削ヲ附ケ樹液ヲ鹽ニ受ケ更ニ之レヲ地上ニ穿テタル深サ約三、四十センチメートル、長約三呎、幅二呎位ノ穴ニ集メ樹液ヲ貯チニ數多ノ穴ヲ穿テ乳汁ヲ受ケルコトアリ石鹼ノ溶解水又ハ土語ニテ「クマルウラスカル」ト稱スル藤ノ一種ナル *Veitia* ノ浸液ト混シテ凝結セシム之レヲ板「カウチ」Carabo plancha (Plank) ト稱ス此法ハ其都度護樹ヲ倒盡スルモノ故追々其樹ヲ減少スルコト勿論ニテ聖母河地方ノ「カウチ」樹モ十數年ヲ出シテ盡キントハ採集者ノ異口同音ニ唱フル所ナリ

六二

七 採集時期 ハ場所ニヨリ多少ノ相違アレトモ多クハ「ハ」ハ十月若クハ十一月頃ヨリ開始シ翌年六月ノ頃ヲ以テ閉止ス即チ一ケ年ノ内九月ハ就業シ得ルモノトス而シテ十二、一、二ノ三ケ月間ハ降雨ノ爲メ屢々妨ケラル、コトアリト雖尙一ケ月中二十日位ハ就働シ得ヘシ但シ低キ場所ニヨリテハ浸水スルコトアリテ作業ヲ中止セサル可ラス「カウチ」ハ之レニ反シ大抵三、四月ヨリ入林シ十一月、二月頃採集ヲ終ルモノトス雖場所ニヨリ労働者ニヨリ一ケ年又ハ二ケ年モ引續キ採集スルモノアリト云フ蓋シ雨季中ハ「カウチ」樹ヲ探索シ乾燥季ニ採集スルナリ

八 凝結法 當國ニ於テ最モ普通ニ行ハル、方法ハ「ハ」護膜ハ凝結シ「カウチ」ハ普通石鹼ト水及 *Veitia* ト稱スル木ノ液汁トヲ以テ凝結ス(機械的凝結法近頃秘露人 Enrique Molina ニヨリ發明セラレ北米合衆國ニ於テ特許ヲ受ケタリ)斯ノ如ク凝結シタル護膜ハ水分多キ膠質多孔ノ塊團ニシテ樹液ノ酸性ト混和スル時ハ全ク乾燥スル迄不快ナル臭氣ヲ放ツ而シテ「ハ」凝結ニ要スル器具ハ *Trillo* ト稱スル小サキ土甕ト *Pato* ト稱シ柄ノ付キタル滑カナル棒又ハ篋及鐵葉篋 (*Taniz*) トヨリナル而シテ土甕ハ二個ノ口ヲ有シ一ハ燃料ヲ燃ス爲メ他ハ烟ノ出口ニ充ツルモノニシテ上部ニアリ燃料トシテハ甚タ堅キ *Charo* 又ハ *Vegetable marble* ト稱スル木ヲ使用シ其烟ニヨリ「ハ」乳汁ヲ凝固セシムルナリ之レヲ行フニハ先ツ乳汁ヲ桶ヨリ鹽ニ移ス時備ニヨリ濾過シテ其含有スル不純物ヲ去リ然後少量宛棒又ハ篋ノ上ニ

注キ之レヲ二個ノ又木ニテ支ヘツ、煙ノ上ニ置キテ屢々回轉シテ乾燥セシム然ル時ハ水分ハ蒸發シ「ハ」ノ球ハ棒ニ附着ス其上ニ幾度モ「ハ」乳汁ヲ加ヘ同一ノ方法ヲ繰返シ一定ノ量ヲ得レハ其棒ヲ切去リ又新タニ煙燻ヲ始ム而シテ採集ヨリ煙燻ニ了ル作業ノ時間ハ熟練セルモノハ「ハ」エストラダニ付猪口ヲ附ケ終ルニ約二時間、液汁蒐集及煙燻ニ四五時間、即チ六七時間ヲ要ス故ニ勤勉ナルモノハ能ク「ハ」エストラダヲ擔當シ得ルナリ

尙上記ノ燃料ハ煙ノ中ニ成ルヘク多量ノ「クレオソート」及醋酸ヲ含有スルモノヲ撰フ可ク上記燃料ノ外ニ或ハ棕櫚科ノ植物又ハ果實ヲ拾集シテ之レニ供ス之レ蓋シ護膜ノ腐敗醇酵ヲ防ク爲ナレハ多クノ非難アルニ拘ハラス今日迄用ヒラル、モノニテ護膜ニ彈力ヲ與ヘ古金色ニ變セシム又タ煙燻シタル護膜ノ形ハ球形アリ又ハ「フラスコ」形アリ一定セルニアラス

九 採集者ノ給料 「ハ」採集者及「カウチ」採集者ノ給料ハ多クノ場合一定セル給金アルナク唯タ彼等ノ生産スル生護膜ノ量ニヨリテ報酬ヲ定メ普通ハ「ハ」ノ「キンタル」ニ對シ七十五「ソル」(七磅十志)「セルナムビー」一「キンター」ル「ニ付四十」ソル(四磅)「カウチ」ハ相場ノ高下ニヨリ「アロバ」ニ付十八「ソル」ヨリ三十一「ソル」(一磅十六志ヨリ三磅)但シ「アロバ」ハ三十二斤)ナリ抑モ「カウチ」採集業ハ鑛山業ヨリモ尙不確實ノモノニシテ採集者、カウチ「ハ」ハ絶エス判業ヲ開キ人跡ナキ深林ニ進入シ「カウチ」樹ヲ探索スル爲ニ有ル苦痛缺乏ニ堪ヘ時トシテハ獸類ノ爲メ生レ命ヲ危フスルモ救助ヲ求ムルニ友ナク又病氣ニ罹ルト雖醫藥ヲ求ムルヲ得サル境遇ニアルニモ拘ハラス一ケ年ノ終リニ於テ收得スル所ハ其生計費サヘモ償フニ足ラサルコトアリ之レ蓋シ採集者ノ運拙クシテ好良ノ樹ヲ發見シ得ザリシ爲ナリ之レニ反シ彼若シ好運ナランカ其得ル所ハ尋常労働者ノ到底夢想シ能ハサルモノアリ一ケ年ノ労働量ハ百「アロバ」五百五十「アロバ」ニ百「アロバ」以上ヲモ採集スルヲ得ヘシ然レトモ「ハ」即チ「シリソガ」ノ採集ハ前者ニ比スレハ大ニ確實ナルモノニシテ普通ノ労働者(シリソゲロ・ゴメロ)又ハ「ビカドトル」ハ「ハ」エストラダニ個ヲ受持ツヲ得一本平均ニ「キロ」ヲ産スルヲ以テ一年ニハ六百「キロ」ヨリ八百「キロ」時ニハ千「キロ」迄ヲ採集スルヲ得ヘシト云フ

第十章 森林地方護膜採集業

六三

十 輸出額 秘露國産護謨ノ殆ト大部分ハ「アマゾン」河港「イキトス」ヨリ輸出セラレ「ロンドン」トシテ市場ニ持出サル
 該港ハ大西洋ヲ距ルコト二千六百五十三哩ナレトモ紐育、「リヴァプール」漢堡等ト直通航路ヲ有ス而シテ太平洋側ヨリ
 輸出セラレ、モノハ殆ト全部南緯線ニヨリ「モエンド」港ニ出ツルモノニシテ聖母河、「イナムパリー」及「ウルバム
 バ」河附近ヨリ産出スルモノナリ「イキトス」紐育間ニハ秘露汽船航路開通ノ計畫アリ、輸出税ハ従前純「キヤ」ニ付二
 十四仙即チ「メトリック」噸ニ付二十四磅ナリシガ千九百十一年五月十日新法律ニヨリ電報ニヨリ「リヴァプール」市價ノ
 従價百分ノ八ト定メラレ紐育、倫敦又ハ「巴里宛」覽後九十日拂ノ手形ヲ以テ納税スルコトヲ得但シ爲替相場ハ護謨輸出
 當日ノモノニヨル
 輸出額ニ就テハ聖母河地方視察報告産業ノ章ニ於テ既ニ表示シタル所アリタリト雖茲ニ重ネテ數個ノ統計ヲ示スコト、
 スル

(一) 過去四ケ年間護謨輸出額表

品 種	一九一一年	一九一〇年	一九〇九年	一九〇八年
「カウチ」	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
「セム」	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
「スチ」	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
「カウチ」	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
「セム」	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
「スチ」	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
計	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇

(二) 「カウチ」輸出額別表

國 名	一九一一年	一九一〇年	一九〇九年	一九〇八年
獨逸	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
白耳義	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
北米合衆國	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
佛蘭西	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
英吉利	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
計	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇

(三) 「カウチ」セム輸出額別表

國 名	一九一一年	一九一〇年	一九〇九年	一九〇八年
獨逸	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
白耳義	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
北米合衆國	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
佛蘭西	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
英吉利	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
計	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇

(四) 「セム」輸出額別表

國 名	一九一一年	一九一〇年	一九〇九年	一九〇八年
獨逸	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
白耳義	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
北米合衆國	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
佛蘭西	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
英吉利	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇
計	數 量 一、九一一年 價 額 一、五七、七八六	數 量 一、九一〇年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇九年 價 額 一、三三、三〇〇	數 量 一、九〇八年 價 額 一、三三、三〇〇

(五) 「セム」輸出額別表

第十章 森林地方護謨採集業

國名	一九〇八年		一九〇九年	
	數量	價額	數量	價額
獨逸	二八七〇	一一六七〇	二八七〇	一一六七〇
北米合衆國	七六九	三六〇〇	七六九	三六〇〇
佛蘭西	一五九〇	六七五〇	一五九〇	六七五〇
英吉利	一五九〇	三九二〇	一五九〇	三九二〇
合計	二九一〇	一二三二〇	二九一〇	一二三二〇

國名	一九〇八年		一九〇九年	
	數量	價額	數量	價額
獨逸	九〇三	三二二〇	九〇三	三二二〇
北米合衆國	二二八二	八六五〇	二二八二	八六五〇
佛蘭西	二六八八	九二二〇	二六八八	九二二〇
英吉利	一七九二	六一二〇	一七九二	六一二〇
合計	一〇一〇	四一〇〇	一〇一〇	四一〇〇

國名	一九〇八年		一九〇九年	
	數量	價額	數量	價額
獨逸	九〇三	三二二〇	九〇三	三二二〇
北米合衆國	二二八二	八六五〇	二二八二	八六五〇
佛蘭西	二六八八	九二二〇	二六八八	九二二〇
英吉利	一七九二	六一二〇	一七九二	六一二〇
合計	一〇一〇	四一〇〇	一〇一〇	四一〇〇

尚前諸表千九百十一年ノ輸出額中「イキトス」港ヨリノ分ハ何レモ前半季ノ分ノミヲ算セリ

十一 賣買習慣、「イキトス」方面並ニ聖母河地方ニ於テ保護採集者カ其採集物ヲ賣渡スニハ「葡萄牙」アロバ「即チ三十二斤ヲ建トシ之レヨリ」メルマ「ト種シ水分量五分乃至一割ヲ引去ラル、モノトス」モ「モエンド」ニ出スニハ「キンダー」ヲ建トシ歐洲ニ積出スニハ噸ヲ以テ算出ス（而シテ其相場ハ歐米市價ノ變動ニヨリ時々高低アリト雖假リニ「イキトス」ニテ五十七「ソル」ノ時ハ聖母河ニ於テ二十四乃至三十五「ソル」トシ仕拂ハ現金ナレハ「ソル」高ク、手形ナレハ「ソル」安ク、商品仕拂ナレハ更ニ「ソル」安シ現今聖母河ニ於ケル「カウチヨ」ニ「アメバ」ノ相場ハ十七「ソル」ニ下落セリ而シテ積出港ニ於テハ更ニ五分乃至八分ノ水減ヲナスモノトス

尙採集者ノ中ニハ重量ヲ多カラシメン爲メ護膜ノ中ニ石、土又ハ木片ヲ混シ或ハ「ヘマ」中ニ「カウチヨ」ヲ混シ又ハ態々水ニ浸スコトアリ故ニ引取商人ハ護膜ヲ横斷シテ検査スルコトアリト雖大抵混物アル時ハ其弾力性ヲ弱クスルヲ以テ容易ニ之レヲ發覺シ得ト云フ

十二 護膜地拂下、祕露政府ハ廉價ヲ以テ護膜地ヲ拂下又ハ貸下スルコト既記ノ如クニシテ拂下料ハ「「エクタレア」

(一萬平方)メートル」又ハ「「エーカー」四七二ニ付」ソル」(二志)ニシテ貸地料ハ一ケ年「「エクタレア」ニ付十仙ナリト雖千九百年ヨリ特別法ヲ以テ二種ノ貸下法ヲ規定シ甲法ハ期限十ケ年トシ採集護膜ノ每百斤ニ付「「ソル」」(四志)ヲ徵收シ乙法ハ護膜樹百五十本ノ「「エストラダ」」毎二十仙(五片)別ニ其借地區ニ對シ「「エクタレア」」毎二年二十仙ノ借地料ヲ納メシメタリト雖千九百九年十二月ノ新土地法ニヨリ此法律ヲ廢止セリ」兩者ノ場合トモ採集シタル護膜ハ必ラス祕露國ノ海港ヨリ輸出セサル可ラス又護膜樹ヲ毀損スルコトハ對絶ニ禁セラル(詳細ハ後出祕露國森林地方土地法

第十七章 森林地方護膜採集案



ヲ参照スヘシ

十三 栽培護謨、千九百六年ノ始頃「ベレネー」河(Oberon)ニ於ケル「ベルヴィアン・コルボレーション」ノ殖民地ニ於テ試培セラレタル時ハ殆ト失敗ニ終レリト雖此レニヨリテ得タル經驗ヲ以テ更ニ千九百八年ノ末頃約二萬ノ種ヲ下シタルカ大部分ハ良好ノ發育ヲ遂ケタリ而シテ最初遭遇シタル困難ノ一ハ土地ノ淺キコトニテアリキ即チ其試ミラレタル「アマゾン」種ハ長キ直根ヲ有スル爲メ其レカ地底ニ達スル時ハ最早生育セサルヲ以テ先ツ種子ト土地ノ選定トヲ第一要件トセサル可ラサルハ彼ノ墨西哥、伯刺西爾等ニ於テモ土地ニ適セサル護謨樹栽培ノ爲メ數十萬磅ノ費消セラレタル經驗ニ徴シテ明カナリトス

又タ野生ノ護謨樹ハ大抵百平方メートルノ間ニ五十本ノ雜木混シテ十五本ヨリ四十本位ヲ發見セラレ其疎密ニヨリ採集上難易ノ差アルコト勿論ナルカ合同土地ニ人工栽培ヲナス所ハ能ク千本ヨリ千五百本ヲ並植スルヲ得(土質ノ良キ所ヲ擇ハサル可カラス)況ンヤ祕露ニ於ケル「カウチ」樹ハ年々伐倒セラレ其數ヲ減シ行クヲ以テ今後十年ヲ保タサルヘシト云フ)之レニ代フルニ「ヘマ」ノ護謨樹ヲ栽培スルコト焦眉ノ急ナルハ言ヲ待タス(「ヘマ」ノ生長スルニハ八年ヨリ十年ヲ要ス)茲ニ注意ヲ要スルハ地質、氣候及位置ノ關係ヨリ數個ノ對極線アリ其線内ニ於テハ各栽培ニ適スル植物自ラ決定シ居ルコト之レナリ

十四 護謨採集者ノ契約「カウチ」ノ根據地ハ北方ニテハ「イキトス」南方ニテハ聖母河ニシテ彼等ハ此地方ニ於テ休養シ遊興シ食糧ノ契約ヲナシ自己ノ運命ニ満足シテ年々隔絶セル森林ニ踏入ルナリ彼等ハ先ツ小蒸汽ニテ行ケル丈ケ送ラレ其レヨリハ獨木舟ニ移リ或ハ妻子ヲ携ヘ或ハ單獨ニ鐵砲、手琴風、食料品等ヲ携ヘ一年或ハ二年先キノ運命ヲ棹一本ニ托シテ流ヲ溯リ産物ヲ得テ又タ出デ來ル而シテ「カウチ」ハ大抵定マリタル主人ヲ持ツ即チ此等ノ主人ハ商品、現金等ヲ前貸シ採集セル護謨ト引換ユルモノニテ大ナル護謨商ハ大抵自ラ商品食料店ヲ有シ小蒸汽ニテ之レヲ運搬シ又護謨ヲ出先ニテ受取ルコトアリ

「ヘマ」採集者ハ皆「エストラダ」ヲ擔當シ其製品ヲ契約規定ニヨリ渡スモノナリ目下森林地ニ護謨採リトシテ勞働スルモノハ「ロレト」其他「アマゾン」流域諸郡ノ住民及蠻民中ノ開化セルモノ、外外國人ニハ古倫比亞人、「ボリヰア」人、伯刺西爾人、日本人等ナリ

十五 護謨林ニ於ケル病氣、「イキトス」方面ハ間歇熱及「マラリア」熱ヲ始メトシテ黒吐病、脚氣、黃熱病亦タ流行スト雖聖母河方面ハ概シテ健康ニ適ス但シ間歇熱、外傷等ハ避ク可カラス總體護謨採集者ハ入林後間モナク其顔面黃色ヲ呈ス是レハ瘴癘ノ氣ニ晒サル、コト多キト食物ノ單一、營養不足ナルコト等ニ起因スルヲ以テ出林スレハ直チニ恢復スト云フ

十六 護謨採集業ノ將來、「カウチ」樹ハ今ヨリ數十年ノ後殆ト絶滅スルニ至ル可キコト上來展々記述セルカ如シ然ラハ現時本業ニ従事セル勞働者ノ一部ハ「ヘマ」護謨ノ採集ニ轉スヘク他ノ者ハ祕露國以外ニ「カウチ」ヲ尋ネテ移住スルコト現ニ「マデーラ」、トカンス」地方ニ祕露人ノ出稼スルヲ見テ豫想スルヲ得ヘシ尙其上ニ憂慮スヘキハ東印度地方ニ於ケル栽培護謨ノ競争及最近發明ニ係ル人造護謨ノ成功如何ニアリ

抑モ數年前迄世界ニ護謨産地トシテ知ラレシハ僅ニ二ヶ所ニ限ラレ即チ「アマゾン」流域地帯ニシテ祕露、伯刺西爾、「ボリヰア」ニ渉ル地域、「アフリカ」及東部「アフリカ」近年新ラシキ地方ノ産出品ハ盛ニ南米品ト競争スルニ至レリ今其一例トシテ錫蘭島ノ輸出額表ヲ掲グルハ左ノ如シ

錫蘭島	1901年	3,111,171	1907年	3,601,341
	1902年	3,101,101	1908年	3,711,000
	1903年	3,176,100	1909年	3,797,000
		3,183,110		

瓜哇「スマトラ」ニ「ボルネオ」

25,000

阿弗利加、獨逸殖民地

40,000

七〇

而シテ毎十「エーカー」ニ付一噸ノ護謨ヲ産スル者、シテ計算スル時ハ上記諸國ハ今後八年ニシテ五萬九千五百噸ヲ産出スルニ至ルヘシ然ルニ「アマゾン」地域ノ天然護謨ノ産出額ハ不動ト謂フヨリモ寧ロ年々減少ノ傾向アルヲ如何セン

竊ツテ千九百十一年末馬來半島ニ於ケル「カウチ」ノ栽培面積ハ二十萬「エクタレア」ニシテ千九百十二年ヨリ千九百十五年迄ニハ左ノ如キ産出増加ヲナスヘシト豫想セララル

一九一二年 10,500 一九一三年 28,800 一九一四年 39,000 一九一五年 50,000

上來記述セル如キ多量ノ産出額アルニ於テハ必然、近キ將來ニ於テ供給ノ超過ヲ來タシ、護謨採集業ニ一大恐慌ヲ惹起スヘシトハ普通ニ豫想セララル、所ニシテ當國ニ於ケル斯業ニ深キ關係ヲ有スル人ノ説ニヨレハ

佛國、英國、白耳義、和蘭ノ各政府ハ熱心ニ其亞細亞及阿弗利加殖民地ニ於テ護謨樹ノ栽培ヲ計畫シ各自國資本家及工業家ノ後援ヲ得ツ、アリト雖必スシモ常ニ所期ノ結果ヲ得サルノミナラス寧ロ幾多ノ事業失敗ヲ來タシ多大ノ犠牲ニ對スル最終ノ成功ハ必ス可ラサルカ如ク見ユ然リ亞細亞、阿弗利加兩地方ニ於ケル「カウチ」栽培ノ如キ今日直ニ秘露、伯利西爾並ニ「ボリヰア」ノ「カウチ」採集業ニ甚大ナル影響ヲ及ホスモノニ非ストスルモ僅々十年若クハ十五年ノ後此等栽培護謨ノ南米殊ニ秘露産品ニ與フル競争上ノ大ナル打撃ヲ豫想セサル時ハ後日臍ヲ噬ムモ及ハサルヘシ又タ從來南米産「バラ」上等品ハ「カウチ」中最モ優等ナルニ相違ナク又「アマゾン」流域ノ産品カ歐洲市場ニ最も多ク現ハレシハ事實ナリト雖亞細亞、阿弗利加ノ産品カ品質及産額ニ於テ非常ナル進歩ヲナシ南米産ヲ凌駕スルコトナシトスルハ大ナル過ナリト言ハサル可ラス尙昨夏倫敦ニ於テ開催セラレタル「カウチ」博覽會ニ於テ殖民地産「カウチ」カ均等ニ其處分ヲ保ツト並ニ繼續シテ其供給ヲ得ル事實ハ大ニ工業家ノ注意ヲ惹ケルニ加ヘテ左ノ事實ハ之レヲ看過スルヲ得ス

一 栽培「カウチ」ノ需要額益々増加シ市價ノ順況ナル時ハ之レヲ數ヶ月前ヨリ豫約スル工業家モアリ年々其需要増

加スルコトハ左表ニヨリ一見之レヲ證明スルコトヲ得ヘシ

倫敦ニ於ケル「カウチ」輸入額

年次	南米	殖民地
一九〇九年	14,800	3,400
一九一〇年	14,400	3,100
一九一一年	14,300	3,000
一九一二年	22,600	9,600

二 殖民地産「カウチ」ノ英國市場ニ於ケル相場ハ近時ニ至リ南米産ノモノヨリモ高キ傾向ヲ有スルコト左ノ二表ニヨリ必ラスシモ誇張ノ言ニアラサルヲ知ルヘシ

年次	南米		殖民地	
	最高	最低	最高	最低
一九〇八年	五志五片	五志	六志	三志二片
一九〇九年	九志三片半	五志半片	九志八片半	五志一片半
一九一〇年	十二志六片	五志六片	十二志十片	五志二片
一九一一年	七志二片	三志十片半	八志四片半	四志六片
一九一二年一月	七志二片半	五志八片	八志一四半	六志一片四分ノ三
同 二月	六志二片	四志十一片半	六志六片四半	四志九片半
同 三月	五志六片	四志十片半	五志五片半	四志六片
同 四月	四志三片半	三志十一片	五志二片	四志十片
同 五月	四志九片	四志一片	五志九片四半	五志四片
同 六月	四志十片四分ノ三	四志六片半	五志七片半	五志六片
同 七月	五志	四志八片	五志七片	五志三片半
同 八月	四志七片半	四志三片半	五志一片半	五志六片半
同 九月	四志五片半	四志二片四半	四志十一片半	四志八片半
同 十月	四志六片	四志三片半	五志三片	四志九片

第十章 森林地方護謨採集業

七一

以上諸表ニヨリ栽培「カウチ」カ天然「カウチ」ヲ壓倒セントシツ、アルノ事實ハ争フ可カラス尙亞細亞阿弗利加ニ於ケル栽培「カウチ」ノ産額カ増加スルニモ不拘南米天然「カウチ」ノ産額増加セザル事實ハ左表ニヨリ知ルヲ得ヘシ

同	十一月	十二月	南米	殖民地
一九〇八年	五七九片	四九片半	三八一〇〇	三〇〇〇
一九〇九年	七三片	六二片四分ノ三	三三九〇〇	三六〇〇〇
		六二片四分ノ三	四六〇〇	三六〇〇〇
		五七九片	一九一〇年	三六〇〇〇
			一九一一年	三六〇〇〇

右表ノ示ス如ク南米産ハ過去四ケ年其産額殆ト不動ナルニ拘ハラス殖民地産ハ四位以上トナリ本年中心ハ一萬八千噸乃至二萬二千噸ニ増加スヘシト豫想セラレ此ノ恐ルヘキ競争ニ應セントセハ宜シク秘露ニ於テ從來行ハレタル「カステイヨア」樹ノ濫伐ヲ禁スルト同時ニ護謨採集法ヲ改良シテ一層學術的經濟的トナスコト、亞細亞阿弗利加地方ノ進歩セル方法ニヨリ護謨樹ノ栽培ヲ獎勵スルコト並ニ賞與金ヲ下付スルコト刻下喫緊ノ要務ナリ云々ト兎ニ角野生護謨就中秘露國ノ護謨採集業ノ將來ニ關シテハ之レヲ悲觀スルモノ多キコト上來記述シタシカ如シト雖モ又反對ノ意見ヲ抱クモノナキニ非ス今専門家ノ言フ所ヲ聞クニ「今日迄ノ實際ニ徴シ若シ護謨相場甚シク下落スル時ハ更ニ新ラシキ用途發見セラレ從來價高キ爲メ使用セラレナリシ製品ノ材料ニモ用ヒラル、ニ至ル可ク茲ニ需要ヲ倍加シ從テ其價再ヒ騰貴スヘシ換言セハ護謨ノ需要ハ常ニ其産額ト並行スヘシ加フルニ秘露ノ森林地方ハ土地廣大且ツ肥沃ナレハ將來資本ト努力トヲ加フレハ護謨樹ノ栽培ニ最モ適當スル外人意ヲ強フスルモノハ馬來半島ニ於ケルカ如キ病蟲害ノ當國護謨林ニ於テ少シモ知ラレサルコトナリ若シ夫レ護謨工事ノ中心地ヲ遠カレル南米諸國ハ其運賃ニ於テ馬來半島ト競争スルコト困難ナルヘシ例ヘハ「バラ」ノ「カウチ」一斤ヲ歐洲ノ市場ニ持出スニ三志ヲ要ストセハ馬來「カウチ」ハ一志ヨリ一志六片ヲ要スルニ過キストノ説ニ就テハ一般ニ不安ヲ感スル所ナルモ之レハ伯利西爾國ノ現ニ獎勵シツ、アル如ク採集法ヲ改良シ人工栽培ヲナン道路鐵道ノ建設ニヨリ大ニ其生産費ヲ低減シ以テ殖民地産品ト競争セザル可ラサルコト勿論ナルモ世界ノ

護謨産額ハ到底甚シク其需要ニ超過スルノ日ナカル可ク特ニ北米合衆國ノミニテモ秘露ノ全産額位ハ苦モナク消費シ得ルコト改メテ統計ニ徴スル迄モナク顯然タル事實ナリ尙人造護謨ノ發明ニ對シテハ世上杞憂ヲ抱クモノ少ナカラスト雖今俄カニ猖獗スル必要ナシ何トナレハ縱令之レカ化學的ニ成功スルコトアルモ到底下等ナル護謨製品ノ材料タルニ過キナレハナリ云々ト

秘露國農業技師「エミリオ、カストレ」氏ハ先年官命ヲ以テ錫蘭島ニ出張シ具サニ栽培護謨ノ實況ヲ視察シ且ツ昨年ノ英國「カウチ」博覽會ニ當國政府ノ委員トシテ派遣セラレ世界ノ護謨業ニ關シ研究セル人ナルカ今同氏カ公表セシ報告書ノ要領ヲ左ニ摘録スヘシ

栽培護謨産額ノ年々増加スルハ明カナル事實ニシテ千九百十一年ノ産額ハ左ノ如ク概算セラル

阿弗利加	錫蘭	瓜哇	「スマタラ」	「ボルネオ」
五〇〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇
其他諸國	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇
合計	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇

之レニ加フルニ秘露、伯利西爾、「ボリヰア」ノ産額大凡四萬噸並ニ他ノ南米諸國及墨西哥中米等ノ産額約一萬五千噸ヲ以テスル時ハ同年中世界ノ全産額八萬六千四十噸トナルト雖「The Financier, London.」及「Gunmi Zeitung, Berlin」ニヨレハ右ノ統計ハ稍誇張ニ失スルモノ、如ク七萬九千四百噸位ニ止マルヘシトノコトナリ

尙ホ市場在荷ニ關シ上記二種ノ刊行物を掲載セル所ヲ見ルニ
 投機商人等ニヨリ一時法外ナル高値ヲ呼ビタル千九百九年及千九百十年ノ好景氣ハ直チニ其反動ヲ呼ビ爾後斯業カ蒙レル懨懨ハ今仍其餘波ヲ止メ之レカ爲メ年々市場ニ幾分ノ在荷ヲ見タルカ千九百十一年六月末日ノ世界在荷高ハ約一萬二千五百六十三噸ト見積ラレ千九百十年ノ同時期ノ在荷高ハ六千九百九十八噸ニ比スレハ五千五百六十五噸ノ増加ヲ示セリ

然ルニ本年四月末日ノ在荷ハ六千七百七十噸トナリ結局十ヶ月間ニ於テ五千七百九十三噸ノ減少ヲ示スコト、ナレリ

將又「バラ」(「フライン」)ノ相場ハ千九百九年ニ於テ一斤ニ付十二志ニ迄上リ其翌年七月初メニハ十志ナリシモノ昨年一月中旬ニハ四志十片ニ下落シ本年五月末ニハ更ニ三志十一片ニ下落シタレトモ六月末ニハ再ヒ四志一片ニ下落シタレトモ六月末ニハ四志一片ニ戻リタレハ最早之レ以上ニ低落スルコトナカルヘシ

上記ノ如ク現時産額ノ超過ト見做スヘキモノハ一萬二千噸ニ過キサルノミナラス此在荷ハ歐米市場ニ於テ他日市價ヲ恢復スル迄買占メラレ居ルモノニテ之レニ對スル需要絶エサルモノト見得ル事情アリ加之産額ノ増加ト同時ニ製造業ノ進歩スルアレハ在荷徐々ニ減少シ價格之レニ伴フテ上騰スヘシト察セラルハ、*Southwheat* 其他ノ計算ニヨレハ千九百十五年ヨリ千九百十六年頃ニ至リ世界護謨産出高ハ大約十四萬五千乃至十六萬噸ナルヘシト云フト雖右ノ内ヨリハ護謨樹又ハ土地ニ發生スル病害蟲ニヨル損害採集ノ爲メ樹木ノ伐截セラレ若クハ酒渴スル爲メ産額ノ減スルモノ並ニ南米産ノ如ク水分量多キモノハ之レヲ引去ラサル可ラス結局全産額ハ十三萬五千噸乃至十五萬噸ヲ以テ相應トスヘシ、今參考ノ爲メ世界ニ於ケル「ヘ」栽培面積ヲ最近ノ調査ニヨリ示セハ左ノ如シ

錫蘭	100,000	荷屬植民地	400,000
馬來半島	100,000	暹羅、伯刺西爾、阿弗利加、西印度	100,000
爪哇、スマトラ、ボルネオ	100,000	總計	1,000,000
南部印度及緬甸	350,000		900,000

倍テ産出超過ノ點ニ關シ野生護謨取引商ハ勿論栽培家迄モ前途大ニ悲觀スルモノ多シト雖海外ニ於テ本品ノ重ナル取引商ハ一向此點ニ重キヲ措カサルカ如シ而シテ自動車其他車輛ノ製造進歩ノ爲メ過去ニ於ケル護謨ノ需要頓ミニ増加セシ結果ハ一時其價ヲ非常ニ騰貴セシメタルモ追々ニ需要ト供給ノ平均ヲ得ルコト、ナリ價格多少下落ニ傾キタルモ將來ハ必ス此需給ノ平衡ヲ保テ適度ノ價格ニ落付クヘシト信ス即チ千九百九年ニハ産出額七萬五千噸ニ對シ需要額七萬五千噸ナリシニ千九百十年ニハ産出額七萬六千五百五十三噸ニ對シ需要額七萬六千二百五噸トナリ千九百十一年ニハ産出額七萬九千三百五噸ニ對シ需要額七萬四千八百八十二噸(此差額ハ前年ヨリ在荷アリシ爲メ需要ニ

影響セシモノナリ)トナリシハ需給平均ノ傾向ヲ示スモノニ非サルカ、尙各種ノ用途増進スルト同率ニ採集業ノ發達スルコトハ明カニシテ斯業界ノオートリチータル錫蘭「タイムス」主筆 *George Hodgins* 氏ノ如キハ護謨ノ用途ハ産額ト具ニ増進シ決シテ生産超過ヲ現スルコトナカルヘシト斷言セリ今一ケ年ノ産額ヲ八萬七千噸ト見做シ之レヲ重モノル需要國ニ配分スル時ハ左ノ割合トナルヘシ

北米	400,000	佛國其他諸國	150,000
英國	150,000	合計	870,000
歐洲	150,000		

北米ニ於ケル護謨製品ノ産額ハ千八百九十年ニ於テ八百二十五萬封度ナリシニ自動車自轉車等ノ製造盛大トナリシ爲メ千八百九十九年ニハ三千二百萬封度トナリ千九百十年ニハ一億七千九百萬封度ニ増加セリ而シテ同年中護謨ノ輸入額ハ四萬五千噸ニシテ此價額一億一千七百六千八百二十五弗ナリシト

現時栽培護謨ノ供給ハ世界ノ全供給高ニ對シ頗ル小量ノ割合ナルコト前既ニ示シタル統計ニヨリ明カニシテ歐米兩大陸ニ於テ需要セラル、高ノ大部分ハ依然トシテ伯刺西爾、祕露、「ボリヅイア」、墨西哥及「エクワドル」ノ産出ニ係リ昨年中此等諸國ノ輸出高三萬九千噸ニ上リ錫蘭、馬來ノソレニ五倍セリ而シテ北米一國ニテモ能ク南米全體ノ護謨ヲ費消シ得ルノ事實ハ斯業ノ將來ニトリ大ナル光明ヲ與フルモノナリ、北米ノ富豪「エフ、ベネディクト」氏曾テ云ヘルアリ曰ク「若シ「ヤンキー」製造家カ其將來ニ關シ憂慮スヘキコトアリトセハ開ハ我國ニ於ケル製造工場ノ増加激甚ナル爲メ需要供給ノ節度ヲ失シ材料品缺乏シ製造ヲ中止シ折角投下セル莫大ノ資本ヲ無益ニ歸セシムルニアリ」ト以テ護謨ノ需要カ年々増加スルヲ知ルニ足ラン、(其増加率百分ノ十以上ト算セラル)

然リ而シテ上記ノ如キ實際ナルニモ拘ハラズ斯業専門家ノ意見ハ次ノ諸點ニ於テ一致スルヲ見ル

- 一、上製品種ノ護謨ハ競争ヲ生スル憂ナシト雖
- 二、産額最多ナル下等品中ニハ必ス競争ヲ生スヘシ

即チ秘露ノ護謨採集家惹テハ政府ノ留意スヘキハ此點ニアリ詳言セハ從來産出ノ下等品ヲ一層經濟的ニ生産シ少ナク
トモ殖民地産出ノ同種品ノ價格ト接近セシメサル可ラスト雖之レハ決シテ不可能事ニアラスシテ

第一、護謨液ノ採集並ニ凝結法ヲ改良シ生産費ヲ節減シ純分ノ比例ヲ均一ニスルト同時ニ Hevea Brasiliensis ノ上等
種ヲ栽培スルコト

第二、運賃低減ヲ圖ルコト

ニヨリテ目的ヲ達セラルヘシ況ンヤ東印度地方ニ於テハ千九百九年頃ノ「ブーン」時代ニ眩惑セラル土地ノ選擇ヲ爲サ
ス無闇ニ栽培シタル箇所多クレハ此等ハ到底所期ノ産額ヲ得サルヘキニ於テオヤ護謨業ノ前途何ソ悲觀スルヲ要セン

然ラハ方今栽培護謨ノ競争ニ對シ周章狼狽前途ヲ悲觀スルハ徒ラニ斯業界ニ恐慌ヲ起サシメ此國ノ財政經濟上ニ大ナル
打撃ヲ持來タス外何等ノ効ナキヲ知ルヘシト雖「アマゾン」流域ノ「カウチ」樹カ年々截倒サレ著ルシク其數ヲ減シ行ク
事實ハ輕々ニ省過スヘカラサル問題ナリトス

追記 本報告起草後紐育發ノ新聞電報ニヨレハ同地ニ於テ資本金七十萬弗ノ Companhia Parana de Jébe, Chameyrie
護謨會社設立セラレタリト云フ外人ノ秘露國護謨ノ將來ニ對スル意見ヲ窺フニ足ランカ

第十一章 森林地方土地法

聖母河地方ノ行政

聖母河ハ以前之レヲ「アムルマヨ」河ト稱シタルモノニシテ千四百五十年中「インカ」王第十一世「ツバック、ユバンキ」
此地方ニ遠征ヲ試ミタルモ未タ其王化ニ潤フニ至ラス從テ其流域ハ久シキ間疑惑ノ裡ニ包マレタリシガ千八百六十一年
(文久元年)中「マルドナド」ノ冒險的遠征アリ其後 Chateaugay ノ重要ナル調査アリ秘露國東部ノ水路ニ關シ幾多有益ナル

報告ヲ齎ラシタリ「マルドナド」河港ノ名ハ第二ノ探險家ニ因ムモノナリ而シテ此河ノ延長ハ約五百哩アリ上流四十五
哩餘ノ間ハ非常ノ急流ニシテ所々ニ瀑布ヲ見ルモ下流四百五十餘哩ノ間ハ比較的緩流トナリ増水時ハ殆ト四百餘哩ノ間
吃水二呎ヨリ四呎ノ小蒸汽ヲ航行セシムルヲ得ト雖尙所々ニ險所アルヲ免レスト云フ

此廣大無盡ノ富源ヲ有スル地方ハ僅々十數年前ヨリ世人ノ注目スル所トナリ「カウチ」護謨採集家進入ノ結果自然ニ商
業ノ通路ヲ開キ稍開發ノ緒ニ就キタルモノナルカ數年前ヨリ隣邦トノ境界問題起リタルヲ以テ政府ハ益其行政設備ヲ完
備セサル可ラサルヲ覺リ擬ニハ千九百九年四月九日ノ命令ヲ以テ「マルドナド」護謨警察署ヲ改造シ續テ其翌年五月二十一

日ノ命令ヲ以テ之レヲ廢シ更ニ中央政府ニ直屬スル特別委員ヲ任命シ「ブルス」河及聖母河並ニ此等ノ支流カ「ブラジル」
及「ボリワイア」國境ニ達スル流域ニ於ケル唯一最高ノ行政官トシテ最モ廣キ權限ヲ授ケ警察稅關並ニ司法事務ノ一部ヲ
モ可ラシメ尙進テハ其管轄地域ヲ巡視調査シ最モ適切ナル行政組織ヲ研究シ「タムボバタ」河口、「ヒース」河口、「ヤヴ

エリハ」河口及「ブルス」河沿岸ノ四ヶ所ニ村落ヲ建設スヘキヲ命セリ(其後聖母河護謨新設セリ及此地方ニ特別委員廳ヲ)租稅ハ現
今印紙稅、護謨輸出稅及商品輸入稅(外國ト直接ノ輸出入ヲナス場合)ヲ徵收セラル、外「アルコール」稅、煙草稅、營業
稅、烟地稅、行商稅、相續稅等少シモ賦課セラル、コトナシ蓋シ政府ハ土地ノ開發ヲ要望スル結果可成多數ノ移民民ヲ
誘入セン爲メ特ニ寬大ノ取扱ヲナスモノト察セララル

土地法 (Ley de Terranos de Montana)

現行森林地方土地法ハ千九百九年十二月三十一日ノ發布ニ係リ左ノ方法ニヨリ其權利ヲ取得スルモノニシテ聖母河地方
ノ住民ハ之レヲ特別委員ニ出願スルモノトス其大要左ノ如シ

一 拂下 一「エクタレア」ニ付「ソル」ノ割合ヲ以テ永久絶對ノ所有權ヲ獲得スルモノニシテ豫メ立法部ノ認許ヲ得ル
ニアラサレハ同一人ニ於テ農地一千「エクタレア」、護謨地三萬「エクタレア」以上ヲ拂受クルヲ得ス

二 貸地 未タ何人ニモ屬セサルカ又ハ遺棄セラレタル土地ヲ發見シタル時之レヲ申告シテ一人ニ付五萬「エクタレア」

造ノ便用權ヲ取得スルモノニシテ毎六ヶ月「エクタレア」ニ付五仙宛ノ地代ヲ納付スルヲ要ス
 三 無代給付 一人ニ付五「エクタレア」以内ノ讓渡ヲ得ルモノナリ
 四 特許讓渡 土木工事又ハ拓殖事業ニ對スル報償トシテ前者ニ對シテハ「エクタレア」ニ付「ソル」ノ割合ニテ之レヲ給與シ後者ニ對シテハ一口ニ付二十萬「エクタレア」ヲ超ユルヲ許サス
 次ニ該法律ノ正文ヲ掲ケン

第一條 本法ニ謂フ森林地トハ共和國ノ河地帶ニ所在シ森林地域ヲ構成スル土地ヲ言フ

民法及千八百九十八年十二月二十一日附法律(舊土地法ヲ指ス)ノ規定ニ基キ今日迄合法ニ其權利ヲ取得セラレサル森林地方ノ土地ハ總テ國有トシニ本法ノ規定ニ遵ヒ其權利ヲ個人ニ移轉セシム

第二條 國有ニ屬スル森林地方土地ハ其開發利用ノ爲メ左ノ方法ヲ以テ之レカ權利ヲ私人ニ讓渡スモノトス

一、拂下

二、貸地 (未タ何人ニモ屬セサルカ又ハ遺棄セラレタル土地ヲ發見シ之ヲ申告シテ使用權ヲ取得スルモノ)

三、無代給付

四、特許讓渡

上記ノ方法ニヨル土地權利ノ取得ハ其何レニ據ルヲ問ハス總テ土地ニ存在スル樹木ノ所有權ヲ包含スルモノトス
 (註)野草、牧草、建築用石材、砂、石灰、板石等及河川、瀑布、鹽、鑛山、鑛床並ニ總テ地下ノ物質ハ除外セラ

ル(第十八條第四第五項參照)

第三條 拂下ハ第五條規定ノ方式ニヨリ「エクタレア」ニ付キ「ソル」ノ割合ヲ以テ其永久絶對ノ所有權ヲ讓渡スモノトス

第四條 豫メ立法部ノ認許ヲ得ルニアラサレハ同一人ニ對シ農業用地「千」エクタレア以上、護謨地三萬「エクタレア」

以上ヲ拂下クルコトヲ得ス

第五條 第三條ニ依ル拂下契約實施後十ヶ年經過ノ上其拂下地面ノ少ナクトモ五分ノ一ヲ開墾セサル時ハ其未墾地ニ對シテ「エクタレア」ニ付毎年一仙宛ノ課金ヲ命ズヘシ

第六條 貸地ニヨル讓渡ハ民法第三百四十八條第九項ノ場合ヲ除キ共和國ノ法律ニ從ヒ權利取得ノ能力アルモノニ對シ自由ニ處分シ得ヘキ土地ヲ一人ニ付五萬「エクタレア」迄讓渡シ得ルモノトス

自己又ハ他人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス前項ニ規定スル以上ノ土地ヲ得ルニハ國會ノ認許ヲ經サル可ラス
 (註)民法第三百四十八條第九項共和國大統領、國務大臣、第十項知事、郡長、村長ハ本條ニヨリ土地ノ取得ヲナスヲ得ス

第七條 借地權ヲ得タルモノハ毎六ヶ月ヲ一期トシテ「エクタレア」ニ付五仙宛ノ地代ヲ國庫ニ納付スヘシ

第八條 借地者若シ二期間引續キ前條地代ヲ滯納シタル時ハ其權利ヲ喪失シ該土地ハ更ニ他ニ貸下ケラレ得ルモノトス

第九條 政府ハ無代給付ノ方法ニヨリ一人ニ付五「エクタレア」迄ノ土地ヲ讓渡スコトヲ得
 前項ノ給付ヲ受ケタルモノハ其地券下付ノ日ヨリ三ヶ年内ニ給付サレタル土地ノ少ナクトモ五分ノ一ヲ耕作スル義務ヲ有ス若シ之レニ反スル時ハ該土地ハ再ヒ國庫ノ所有ニ歸スルモノトス

第十條 認許ニヨル讓渡ハ土木工事又ハ拓殖事業ニ對スル報償トシテ土地ヲ給與スルモノニシテ土木工事ニアリテハ本法第三條ノ規定ニ從ヒ其價值ヲ評定シ拓殖事業ニアリテハ第五條規定ノ義務ヲ負ハシムルモノトス

第十一條 行政部ハ左ノ條件ニヨリ鐵道ノ敷設又ハ車馬道ノ開通ニ對シ一定ノ土地ヲ讓渡スルコトヲ得

一、鐵道又ハ道路ニ沿フテ給與セラル、土地ハ繼續スルコトヲ得スシテ其延長五「キロメートル」ヲ限リトシ之レヲ數地區ニ分チ各地區間ニ同距離ノ間隔ヲ設クヘシ

二、此方法ニヨリ報償ヲ約諾シタル時ハ他ニ何等別種ノ報償ヲナスヲ得ス

三、讓渡ハ土地ノ代價及工事ノ價値ト比較量シテ之レヲ爲スヘシ

四、既ニ開通シ又ハ開通セラルヘキ道路ノ通行ハ自由ナルコトヲ明カニ約定スルヲ要ス

第十二條 未タ何人ニモ屬セサル土地ニ關シ其研究踏査ヲ容易ナラシムル爲メ最初ノ出願者ニ對シ「エクタレア」ニ付十仙宛ノ手数料ヲ納付セシメ一ケ年間探檢ノ許可ヲ與フルコトヲ得

第十三條 前條ノ許可ヲ得タルモノハ其許可期間中探檢セシ土地ノ拂下又ハ借地ニ關スル優先權ヲ與ヘラル、モノトス

第十四條 探檢許可願ハ之レヲ其希望スル土地ノ存在スル地方長官ニ提出シ之レニ其地方出納官ノ發給スル第十二條規定手数料ノ領收證ヲ添附スルヲ要ス

前項ノ願書ニハ其願出ニ係ル土地ノ概略ノ位置並ニ其近接スル河名、峽名及其河口又ハ峽口若クハ第三者ノ所有ニ屬セスシテ發見シ易キ或ル一定ノ地點ニ至ル距離等ヲ示スヲ要ス

探檢許可ヲ出願スル土地ハ三萬「エクタレア」ヲ超ユルコトヲ得ス

二回以上同一ノ土地ヲ探檢ノ目的ニ供スルヲ得ス

第十五條 森林地方長官探檢許可ノ出願ヲ受理シタル時ハ直ニ其時日番號並ニ手数料領收濟ノ旨ヲ記載シタル正副二通ノ證明書ヲ發給スヘシ

第十六條 地方長官及出願人ハ六十日以内ニ前條ノ證明書一通ヲ勸業省勸業課ニ送付スルト同時ニ出願人ハ其法定住所ヲ告知スヘシ

勸業課ハ前項ノ通知ニ對シ領收書ヲ發シ並ニ確認ノ爲メ之レヲ登記スルモノトス

第十七條 從前ノ法律ニヨリ獲得セシ土地ニ關スル諸權利ハ本法ノ爲メ何等障害ヲ受クルモノニ非スト雖本法發布後ニ於テ交付セラルヘキ券書ハ嚴ニ本法ノ規定ニ遵フヘキモノトス

第十八條 本法ニヨリ取得シタル土地ノ權利ハ如何ナル場合ト雖モ左ノ諸項ニ該當スルモノヲ包含セス

一、現存村落内ニ在ル土地ニシテ其中央方區ノ周圍ニ「キロメートル」以内ノモノ

二、河川又ハ湖沼ニ沿フ土地ニシテ平水時其水域ヲ距ルコト五「メートル」以内及汎濫時最高キ水域ヨリ二十「メートル」以内ノモノ

本項ノ禁制ハ探檢ノ爲メ工事交通其他ノ用途ニ必要ナル土地ヲ除外ス但シ如何ナル場合ト雖モ河川又ハ湖ノ自由交通ヲ妨クルコトヲ得ス

三、公共ノ道路又ハ建物ノ爲メ必要ト認メラレタル土地但シ此等ノ目的ニ使用セラル、時ト雖普通買上ノ手續ニ依ラス該土地ノ所有者ニ對シテハ他ニ同積ノ土地ヲ與ヘ耕作物及現存建物ノ代價トシテ一定ノ鑑定價格ヲ支拂ハル可シ

四、水流、瀑布、洗鑛用地(註、重ニ砂金ニ就テイフ)鑛山、石炭、岩鹽等ヲ包有スル鑛床ハ總テ國有ニ屬シ其探掘ニ關シテハ特別ノ法規ニ準據スルモノトス

五、野草、建築用石材、砂、石灰、陶土、板石及此種ノ物質

第十九條 國境ニアル土地ノ所有權又ハ用益權ヲ契約ニヨリ移轉セシムルニハ豫メ行政部ノ許可ヲ經サルヘカラス

第二十條 政府ハ最モ有効ナル使用法ヲ研究及決定スル目的ヲ以テ其踏査實測ヲナス爲メ或ハ一定ノ地域ヲ留保スルコトヲ得ヘシ

第二十一條 本法ノ規定ニヨリ行政部カナスヘキ土地ノ讓渡ニヨリ得タル資金ハ之レヲ供託金庫ニ預入レ除外ナク森林地方特ニ讓渡サレタル土地ノ所在スル部分ニ於ケル交通路ノ開通及其獎勵費ニ支出セラルヘシ

第二十二條 土地讓渡者若シ外國人ナル時ハ其契約若クハ特許中總テ外交上ノ干渉ヲ辭シ共和國官憲ノ裁決及命令ニ服從スヘキコトヲ明カニ規定スヘキモノトス

第二十三條 森林地方ニ於ケル土地ハ通常地役ノ外特ニ左ノ地役ヲ課セラル

一、讓渡サレタル土地中既ニ存在シ又ハ建設セラルヘキ橋梁、籃渡シ及公道ノ自由通行、但シ政府カ其建設及保存ニ

關シ特ニ反對ノ規定ヲナセシモノハ此限リニアラス
二、電信線ノ敷設各種交通路ノ開通ニ必要ナル地面ノ使用近接地ニ至ル動力灌漑用水及下水ノ通過竝ニ以上ノ修覆保
存ノ爲メ必要ナル地役

第二十四條 行政部ハ其憲法上ノ權能ニヨリ本法施行ニ必要ナル細則ヲ定ムヘク特ニ森林及護謨林ニ於ケル產物採取ニ
關シテハ其義務的方法ヲ規定シ或ハ樹木ヲ代植スルコトナクシテ之レヲ毀損伐截スルカ如キコトナキ様有効ナル禁制
ヲ設クヘシ

第二十五條 森林地方ノ土地取得ニ關スル從前ノ法律及命令ハ總テ之レヲ廢止ス

附則

第一條 從前ノ法律ニヨリ開墾ノ目的ヲ以テ取得シタル土地ノ所有者ハ本法第五條ニ規定スル課金ヲ命セラルヘシ

第二條 現ニ森林地方ノ土地ヲ所有シ又ハ借地スル者ハ本法發布ノ日ヨリ二年以内ニ政府ニ對シ其確定所有ニ關スル地
券發給ヲ出願スルコトヲ得但シ借地者カ土地所有權ヲ得ントスル時ハ本法第三條規定ノ「エクタレア」ニ付「ソル」
宛テ支拂フヲ要ス而シテ此猶豫期間ハ更ニ延長スルコトヲ得サルモノトス

前項ノ期間中新タニ行ハル、土地ノ讓渡ハ本條ニヨリ現在ノ土地所有者ニ與ヘラレタル權利ヲ侵害セサル保障ヲ以テ之
レヲ爲サルヘシ

第三條 千八百九十八年十二月二十一日ノ法律(舊土地法)第十條ノ規定ニ從ヒ爲サレタル貸地ニシテ同條實施ニ關シ政
府カ發シタル命令ノ要件ヲ具備シタルモノハ當該命令ニヨリ之レヲ處分セラルヘシ

千九百九年十二月三十一日公布
而シテ政府ハ千九百十年三月十一日ヲ以テ前後二百八十六條ニ亘ル施行細則ヲ發布シタルカ中ニ就テ參考ニ資スヘキ簡
條ヲ摘譯スルコト左ノ如シ

森林地方土地法施行細則 (Reglamento de Ley de Terrenos de Montaña)

森林地方土
地ノ定義

第一條 森林地方ノ固有土地ト稱スルハ秘露國ニ於テ財產取得ノ能力アル私人又ハ法人ニヨリ未ダ合法
的ニ取得セラレサル森林地方所在ノ部分ヲ謂フ

土地ノ讓渡
ニ付テ

第十一條及第十二條 國有土地ニ關スル管理及讓渡ハ勸業省ニ於テ之レヲ取扱フ又國有土地ノ總テノ讓
渡効力ニ關スル決定ハ勸業省ニ於テシ裁判官ハ地券交付ノ後ニアラサレハ之レニ與ラス

第十五條 如何ナル方法ニ據ルヲ問ハス一定ノ土地ノ讓渡ヲ受クルモノハ其土地カ包有スル總テノ植物、護謨樹、木材、
樹脂及其他ノ物質ニ對スル權利ヲ取リスト雖第二十一條ニ掲記スルモノヲ除外ス(土地法第二條第二項註竝ニ同法第
十八條第五項參照)

第十六條 私權ヲ享有シ得ル總テノ秘露人又ハ外國人及内外國人組合並ニ法人ハ國有土地ノ拂受、借地、無代給付特許
讓與竝ニ探檢許可ヲ受クル權利ヲ有ス

第十七條 官吏及官廳雇員ニシテ土地ノ讓渡ニ關スル事務ヲ取扱フモノハ直接又ハ間接ニ土地ノ讓受者タルヲ得ス(土
地法第六條註參)

第二十條 土地ノ讓渡ヲ受ルモノハ次ノ條件ニ服スヘシ

一、第三者ノ利權ヲ侵害セサルコト

二、契約ニ關シ起リ得ヘキ總テノ疑義紛議竝ニ土地ニ關シ他人トノ間ニ起リ得ヘキ問題ハ除外ナク共和國ノ裁判所ニ
於テ此國ノ法律ニヨリ決定セラルヘク決シテ國際上ノ問題トナスヘカラス

第二十三條及第二十二條 讓受タル土地ノ中既ニ出願濟ノ鑛區又ハ新規出願ノ鑛區ノ借用者ハ當該地面竝ニ探檢ニ必要
ナル丈ノ土地ニ關スル權利ヲ享有スヘシ而シテ該土地ノ讓受者ニ對シテハ國家ハ新タニ同面積ノ近接地ヲ償與スヘシ
若シ既墾地ナル時ハ更ニ其耕作費ヲ賠償スヘシ

第二十六條 土地ノ讓渡ヲ受ケントスル者ハ明カニ其用途ヲ示スノ義務ヲ有ス

拂下地ニ付

第三十條 拂受土地ヨリ採集セシ護謨ハ必ス共和國ノ港ヨリ輸出セサル可ラス

貸地ニ付テ

第三十一條 前條ノ規定ニ違反スル時ハ拂下契約ハ無効ニ歸シ併セテ投下セル固定資本ヲ損失スヘシ
第三十七條 借地者若シ引續キ二期ノ借地料ヲ納付セサル時ハ其土地ヲ沒收セラレ併セテ耕作物、建築
物、固定資本ヲ失フト雖モ政府ハ之レニ對シテ賠償ノ責ニ任セス

第三十八條 借地者ハ其採集セシ護謨ヲ必ス共和國ノ港ヨリ輸出スヘク護謨樹ノ保存及代植ノ義務ヲ負フ
之レニ反スル時ハ直ニ契約ヲ無効ニ歸セシメ前條ト同一ノ結果ヲ見ルヘシ

無代給付ニ付テ

第四十條 總テノ秘露人及外國人ニシテ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ當該官憲ニ舉示シタルモノハ土地開
發ノ目的ヲ以テ國有地五「エクタレ」迄ノ無代給付ヲ受クルコトヲ得

一、貧困者ト認メラレタル者ナルコト

二、其給付ヲ出願スル土地又ハ附近地ニ住居ヲ有スルカ又ハ居住スル意志アルコトヲ宣言スルコト

第四十一條 前條ノ精神ニヨリ「シンジケート」組合會社等ニ對シテ爲サレタル給付ハ無効タルヘシ

第四十三條 三ヶ年以上拋棄セラレタル土地ハ其土地ニ對スル權利ト共ニ投下セル固定資本並耕作物ヲ沒收セラレヘシ

第四十四條 三ヶ年内ニ少ナクトモ讓受土地ノ五分ノ一ヲ開墾セサル時又ハ其農産物ヲ共和國ノ港ヨリ輸出セサルコト
ヲ發見セラレタル時ハ前條ト同一ノ結果ヲ見ルヘシ

特許讓渡ニ付テ

第四十七條 拓殖契約ニヨリ土地ノ讓渡ヲ受クルモノハ最初ノ十ヶ年内ニ少ナクトモ讓受土地ノ五分ノ
一ヲ開墾シ同期間後ハ「エクタレ」ニ付一仙宛ノ割合ヲ以テ未開墾地ニ對スル課金ヲ納付スヘキコト
ヲ約セサル可ラス

第四十八條 本則發布後契約セラレヘキ鐵道敷設、道路開通又ハ其他ノ土木工事ニ對スル土地ノ讓渡ハ他ニ何等ノ代償

ヲ與ヘサル場合ニ限ル

此種ノ契約ハ其工事ノ仕様書並ニ見積書ヲ檢閲シタル上「エクタレ」ノ土地ヲ「ソル」ト計算シテ讓渡スヘキコトヲ
約定スルヲ要ス

第四十九條 特許讓渡ハ政府トノ契約中特別ノ規約ナキ場合ト雖左ノ條件ニ服スルモノトス

一、土地ハ五萬「エクタレ」以下ノ地區ニ分タルヘク各地區間ニハ五「キロメートル」ヲ下ラサル間隔ヲ保ツヘシ

二、既存又ハ將來開通ノ通路及橋梁ノ通行ハ自由ニシテ讓受者ハ橋梁、牛馬秣料、倉敷等ヲ徵收スルヲ得ス

三、野生牧草ヲ通行馬ノ食用ニ供スルコト及道路附屬ノ倉庫等ノ使用ハ同シク自由ナルコト

四、土地ノ農産物ハ除外ナク共和國ノ港ヨリ輸出セラレヘク之レニ反スル時ハ國庫ハ何等ノ責ニ任セスシテ其契約ヲ
無効ニ歸セシメ讓受者ハ總テノ費用ヲ損失スヘシ

第五十條 讓渡出願者ハ保證金トシテ其土地ノ法定價格ニ對スル少ナクトモ三步ヲ供託金庫ニ預納スルヲ要ス但シ該保
證金ハ各個ノ契約ニ就キ決定セラレヘキ時機ニ於テ返還セラレヘキモノトス

第五十一條 現ニ政府ノ保留ニ係ル土地ニ就キテ直チニ其讓渡ヲナス單ニ將來ノ取得ニ關スル優先權ヲ與タルニ過キ
サル時ハ前條ノ保證金ハ一步以上タルヘシ

探檢許可ニ付テ

第五十三條 探檢ノ許可ハ最初ノ出願者ニ與ヘラル、ヲ原則トシ其期間ハ一ヶ年其面積ハ三萬「エクタ
レ」ヲ超過スルコトヲ得ス

第五十四條 如何ナル場合ト雖既ニ讓渡サレタル土地ニ對シテハ探檢ノ許可ヲ與ヘサルモノトス

第五十七條 既ニ二回迄探檢ノ目的タリシ土地ハ再ヒ探檢ニ供スルヲ得ス

第五十九條 一定地ノ探檢許可ヲ有スル者ハ其全部又ハ一部ニ對シ拂下、貸地ノ出願ニ關シ優先權ヲ有ス

第六十條 前條ノ優先權ハ探檢許可ノ有効期間ハ侵ス可ラサルモノニシテ該期間満了後九十日間ト雖他ニ探檢許可ヲ與

ヘラレサル時ハ有効トス

第六十一條 一萬「エクタレア」以上ノ土地ニ對スル探檢ノ願出ハ豫メ地方長官ノ報告ニ基キ政府之レカ許可ヲナスニ非ラサレハ其效力ヲ有セス

第六十三條 一萬「エクタレア」以下ノ土地ニ對スル探檢ノ願出アル時ハ地方長官ニ於テ之レカ許可ヲ與フヘシ

第六十四條 地方長官ハ各探檢願出ニ對シ三十日以内ニ之レカ許可ヲ決定スヘク政府ノ許可スヘキモノハ同期間内ニ之レヲ上申スヘシ

讓渡手續ニ付テ

第六十五條 拂受、借地、無代給付ニ關スル願書ハ二通ヲ認メ之レヲ其地方長官ニ提出スヘシ

シ易キ總テノ目標ヲ示シ之レニ其略圖ヲ添ヘ且ツ近接地ノ名稱村落ノ名稱、附近河名、湖名及其距離並ニ輸出税關ニ至ル道路及開發ノ目的ヲ舉示スヘシ(末尾願書雛形參照)

第六十六條 拂下、貸地及探檢許可ニ關スル願書ニハ特別收税規則ニ從ヒ、拂下ノ場合ニハ土地ノ代價ニ對スル二割、貸地ノ場合ニハ第一期ノ地代、探檢ノ場合ニハ全手数料ニ相當スル金額ヲ納付シタルコトヲ證明スル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十九條 前條ノ願書ヲ提出シタル時ハ地方官廳掛官ハ該願書ノ紙端ニ受付ノ時日並ニ番號ヲ記入シ且ツ受付簿ニハ出願者ノ氏名、土地ノ名稱、所在地、讓渡ノ形式、出願ノ日附ヲ登錄シタル上其證據書ヲ交付スヘシ

第七十三條ヨリ第八十一條 願書ヲ受付タル時地方長官ハ三日以内ニ之レヲ決定シ地方廳内ノ最モ見易キ場所ニ三十日間之レカ公告ヲ命シ併セテ其出願ニ係ル土地所在地ノ近接村落ニモ之レヲ公告スヘシ但シ出願者ノ負擔ヲ以テ地方新聞紙ニ公告スルヲ妨ケス

地方長官ハ前條公告ヲ出願ニカカル土地ノ近接地ニ在ル役場ニ之レヲ送リ三十日間ノ公告ヲ命スヘシ

三十日間公告ノ後反對者ナキ時ハ測量及境界ヲ命スヘシ而シテ地方測定官ハ其土地ノ交付ヲナスヘシ

第八十二條 特別讓渡ニ關スル出願ハ直接中央政府ニ對シテ其手續ヲナスヘシ

第八十三條 無代給付ノ出願ハ勸業省勸業課又ハ當該地方長官ニ對シテナスコトヲ得

測量及境界ニ付テ

第二百二十八條 測量及境界ヲ有効ナラシムル爲ニハ豫メ當該官廳ノ命令ヲ得サル可ラス

第二百二十九條 地方測定官ハ命令アル時バ三十日以内ニ其測量及境界ニ着手スヘシ但シ土地所在地ニ至ル日數ヲ算入セス

第三百十條 地方測定官ハ其測量ニ着手スル四日以前公文ヲ以テ近接地ノ所有者又ハ代理人ニ其旨通告スルヲ要ス

第三百五十二條 利害關係者ハ定率ニ從ヒ測定官ノ日當其他ノ費用ヲ負擔セサルヘカラス

第三百五十五條 土地出願者ハ測定官ヲ擇フノ權利ヲ有ス但シ二人以上アル時ニ限ル

占有ニ付テ

第三百五十八條 讓渡スヘキ土地ノ測量及境界ヲ了リタル後本則第一百一條ニ規定セル諸原因ニ基キタル反對ノ發起セサル時ハ其占有ヲ許可スヘシ

第三百五十九條 占有權ノ取得ハ單ニ保持ノ權利ヲ得ルノミニシテ其所有權ヲ得ルニハ更ニ勸業省ノ發給スル確定地券ヲ得サルヘカラス

第三百六十九條 地方廳ハ毎月占有ヲ許可シタル概要ヲ公告スヘシ

證明書及地券ニ付テ

第七十條 證明書ハ地方廳ノ發給スル所ニシテ土地ノ獲得ニ關シ總テノ要件ヲ充タシ占有ノ手續ヲ了シタルコトヲ證スルモノトス

第七十一條 證明書ノ發給ニ假ニ出願者ニ對シ土地保有ノ權利ヲ與フルモノニシテ之カ自由處分ヲ許スモノニアラス

第七十二條 確定地券トハ中央政府カ發給シ勸業大臣並ニ勸業課長之レニ署名スルモノニシテ規定ノ手續ヲ經テ無料ニテ之レヲ土地所有者ニ下附シ其所有權ヲ確認スルモノナリ

百七十三條 總テ地券ニハ森林地方土地法並ニ細則、附令ノ寫及地圖、測定官ノ報告書等ヲ添ヘ各紙面ニハ勸業省產業課長ノ華押及課印ヲ捺シ紙數ノ添加、離脱ヲ許サス前項地券ハ地方廳ヲ經テ無料ニテ交付セラルルモノトス

百七十四條 森林地方ノ土地所有券ハ總テノ場合ニ於テ「第三者ノ利益ヲ侵害セサルモノ」トシテ發給スルモノトス

百七十五條 地方廳ハ毎月其首郡並ニ土地所在地ノ最寄村落ニ於テ確定地券發給ノ事實ヲ公告シ利害關係者ノ閱覽ニ供スヘシ

百七十六條 前條公告後一ケ年ヲ經過シ尙地券交付ヲ請求セサル時ハ其所有權ヲ喪失シ(預納金ト共ニ)該土地ハ自由ニ處分セラルヘシ

百七十七條 確定地券ノ交付ヲ受クルニハ地方廳ヨリ豫メ發給セシ證明書ノ提出ヲ要ス

百七十八條 地券發給後ハ直チニ勸業省產業課ニ於テ各臺帳ニ登記セラルルモノトス

百七十九條 土地ノ讓渡ニ關スル納付金ハ左ノ方法ニヨル
一 拂下ノ場合ハ「エクタレア」ニ付「ソル」ニシテ最初出願ノ時其二割ヲ納付シ殘額ハ占有權取得ノ前之レヲ支拂フモノトス

二 貸地ノ場合ハ最初出願ノ時第一期ノ地代ヲ、第二期以後ノ地代ハ其期間中ニ納付スルモノトス

百八十條 拂下土地ノ中未開墾地ニ對シテ納付スヘキ年課金ハ每六ケ月ニ其半額ヲ支拂フモノトス

百八十一條 特許讓渡ノ土地ニシテ十ヶ年後ニ至リ未開墾地ニ對シテ爲スヘキ納付金ハ前條同一ノ方法ニヨリ支拂フモノトス

百八十二條 凡テ納付金ノ支拂期限ハ土地ノ占有ヲ始メタル日ヨリ起算スルモノトス

百八十三條 「カウチ」保護採取ノ目的ヲ以テ土地ヲ取得スルモノハ最モ利益アル方法ヲ以テ樹木ヲ利用スルヲ得ト雖毀損シタル保護樹一本ニ對シ少ナクモ五本ヲ代植シ且ツ保護スルノ義務ヲ有ス

產物採取ニ付テ

百八十九條 木材伐り出シノ目的ヲ以テ土地ヲ取得シタル者ハ完全ニ發育シタルカ又ハ夥多ノ苗ヲ有スル樹木ニアラバ之レヲ伐採スルコトヲ得ス
若樹若クハ苗木ヲ毀損スルコトハ絕對ニ之レヲ禁止ス

百九十條 保護樹ヲ木材トシテ利用スル場合ニハ同シク一本ニ付五本ヲ代植シ且ツ保護スルヲ要ス

百九十一條 「ハ、シリンガ」ノ採集ヲナスニハ特ニ其樹木ヲ保存スルコトニ注意スヘク多量ノ汁液ヲ得ル爲メ種種ノ器具ヲ用ヒテ樹木ヲ毀損スルコトヲ禁止ス

前項ノ規定ニ違背スルモノハ其毀損シタル樹木一本ニ對シ五本ヲ代植スルノ義務アル外本則第二百六十條規定ノ罰金ニ處セラルルコトアルヘシ(註 五十「ソル」ヨリ五百「ソル」迄ノ罰金)

百九十二條 前條ノ場合ニ於テ樹木ヲ伐採シ樹根ニ切創ヲ附シ或ハ樹木ヲ毀傷シ枯死セシムルコトハ之レヲ禁止ス
皮ハ樹木ノ大サニ從ヒ地上ヨリ四十「センチメートル」以上ニ「メートル」以下ニアラサレハ之レヲナスヘカラス又樹身ニ達スルヲ得ス

百九十三條 截皮ハ長キニ過キ樹皮ヲ毀損セサル様注意シ且ツ無益ニ創痕ヲ付ス可ラス又タ創口ハ横又ハ斜メトシ幹身ノ三分ノ一以上ニ付スルヲ得ス

百九十四條 各樹ノ大サ並ニ強壯ノ度ニ從ヒ十二ヶ以上ノ創口ヲ付スルヲ得ス又截皮後六十時間以内ニ再ヒ截皮スルヲ得ス

汁液採集ヲ終タル時ハ創口ヲ蠟又ハ粘土ヲ以テ之レヲ蔽ヒ少ナクモ六ケ月間ノ休息ヲ與フヘシ

百九十五條 寄生植物ノ採集ハ樹木又ハ灌木ノ支柱タルヘキモノヲ毀損セサル條件ノ下ニ之レヲ許スト雖其繁殖ヲ助グル爲メ或部分ヲ殘留セサルヘカラス

百九十六條 樹木ヲ枯死セシムル如キ方法ニヨル樹皮ノ採取ハ絕對ニ之レヲ禁止ス

第九十七條 前數條ノ規定ニ反スルモノハ土地占有後二ケ年ヲ經テ其讓渡契約ヲ無効トシ尙投下セル固定資本並ニ次條規定ノ保證金ヲ沒收ス

第九十八條 土地ヲ護謨、木材、樹脂、樹皮等採取ノ目的ニ使用スル場合本則第八十一條規定ノ占有證明書ヲ得ントスル時ハ前數條ノ規定ニ違背セサル保證トシテ「エクタレア」ニ付「ソル」ノ割合ヲ以テ保證金ヲ供託金庫ニ預納スルヲ要ス

第九十九條 第二百二十七條規定ノ地方測定官若クハ其代理者ハ一ケ年毎ニ其管轄内ノ各地所ヲ巡回シ其栽培樹ノ數並ニ状態ヲ報告スヘシ

第二百條 占有後最初ノ一ケ年間ニ上記數條ノ履行ヲナシタル時ハ保證金半額ヲ、若シ又次キノ一ケ年間ニ同様ノ履行ヲナシタル時ハ其終リニ於テ他ノ半額ヲ還付スヘシ

第二百一條 占有後二ケ年目ニ於テ本章規定ノ履行ヲ怠ル時ハ土地、固定資本並ニ保證金ヲ沒收スヘシ

第二百二條 第九十八條規定ノ保證金ヨリ生スル利得金ハ合式ノ護謨樹栽培ニ對スル賞與金ノ特別資金ニ充ツルモノトス

產物輸出ニ付テ

第二百三條ヨリ第二十三條ニ至ル迄ハ土地產物ノ輸出ニ就テ左ノ通り規定セリ

- 一、凡テノ產物ハ共和國ノ稅關ヲ通過セサルヘカラス而シテ其稅關名ハ豫メ政府ニ通知スヘシ
- 二、若シ通過スヘキ稅關ヲ變更シタル時ハ直チニ其旨ヲ勸業省ニ申告スルコトヲ要ス
- 三、凡テ產物ヲ輸出スルニハ其數量、品質及表裝ノ重量又ハ容積、產地ノ名稱及所在、土地ノ所有者氏名等ヲ明記セル送狀ヲ添ヘサル時ハ稅關ハ其取扱ヲナササルヘシ
- 四、密輸出ハ貿易規則ニヨリ處罰セラルヘシ
- 五、土地所有者カ合法ノ權利ヲ有セサル產物ノ輸出ハ密輸出ノ場合ト同一ニ處分セラルヘシ

無効ノ場合ニ付テ

第二百四條 土地所有ニ關スル權利ハ左ノ場合ニ於テ無効ニ歸ス

- 一、或ル一定ノ目的ヲ以テ獲得シタル土地ヲ政府ノ許可ナクシテ他ノ目的ニ使用シタル時
 - 二、二期ニ互リ地代ヲ滯納シタル時
 - 三、二ケ年以上土地ヲ拋棄シタル時
 - 四、讓渡ノ際過超ニ取得シタル土地アル時ハ其過剩地
 - 五、測量、標界ニ際シ詐僞ノ行爲アリシ時
 - 六、讓渡確定ノ公告アリシ時ヨリ一ケ年内ニ地券ヲ請求セサル時
 - 七、無代給付ノ土地ヲ給付後三ケ年内ニ未タ其五分ノ一ヲ開墾セサル時
 - 八、本則第二十五條規定ニヨリ國境ニアル土地ヲ中央政府ノ許可ナクシテ讓渡サレタル時
 - 九、占有獲得二ケ年内ニ規定ノ樹木ヲ栽培セサル時(採取ニ關スル章參照)
- 土地ノ設備ニ付テ
- 第二十八條 護謨液其他ノ林產物採取ノ爲メ土地ヲ讓受クル者ハ事業ニ着手後遅クトモ六ケ月内ニ勞働者ヲ宿泊セシムルニ足ル住屋ヲ準備セサルヘカラス
- 第二十九條 前條ノ住屋ハ最モ健康ニ適スル部分ニ建築シ勞働者ノ健康ヲ保ツ爲メ必要ナル衛生條件ヲ具備セサルヘカラス
- 第二百十條 勞働ノ性質上永久ノ住屋ヲ設ケ能ハサル場合ニハ日光、寒氣、雨及濕氣ニ對シ勞働者ヲ保護スルニ足ル假小舎又ハ天幕ヲ備フヘシ
- 第二百十一條 絶エス百人以上ノ勞働者ヲ備役スル農地ニ於テハ傳染病患者ノ隔離所ヲ設クヘシ
- 第二百十二條 若シ勞働者ノ數百人ニ充タスシテ特ニ傳染病患者ノ收容所ナキ時ハ患者發生ノ際直チニ之レヲ隔離シ其傳染ヲ防ク爲メ消毒法ヲ行ヒ有ラニ豫防法ヲ講スヘシ

第二百二十三條 地方部落ヨリ二十キロメートル以上ノ距離ニアル農地ニハ各種ノ薬劑及應急手當ニ要スル製薬並ニ器械ヲ備フル薬室ヲ設クヘシ

第二百二十四條 蒸氣汽罐、發動機械、鋸木機、動輪、滑車、筒眼機其他危険ノ原因タリ得ル器具ヲ使用スル農地ニ於テハ労働者ヲ害スル恐レナキ場所ニ之レヲ藏置スヘシ

第二百二十五條 橋、昇降機、緊網等ハ學理及經驗上ヨリ見テ堅固安全ノ條件ヲ具備セサル可カラズ

第二百二十六條 共同墓地ヲ有スル村落ヨリ五キロメートル以上ノ距離ニアル農地ニ於ケル死亡者ノ埋葬ハ其地區内ノ最後ノ住屋ヨリ少ナクトモ五十メートルヲ距テタル低地ニ於テスヘク墓穴ノ深サハ二メートル以上ナラサル可ラス

第二百二十七條 農地ノ持主又ハ管理人ハ其使用スル労働者ニ種痘スルコトヲ注意シ人数二十五名以上ノ時ハ特ニ種痘醫ノ出張ヲ請フヘシ(地方廳ニ就キ請求スヘシ)

第二百二十八條 各農地ニ於テハ種痘者ノ名簿ヲ備ヘ氏名、男女ノ別、其父母、年齢、種痘ノ時日ヲ記入スヘシ

第二百二十九條 近接セル數農地ニ於テ共同ノ醫師ヲ僱聘スル時其報酬ハ當然持主又ハ支配者ノ負擔スルモノニシ決シテ之レヲ労働者ニ賦課ス可ラス

第二百三十條 各土地ノ所有者ハ労働者ニ對シ必要ナル藥品ヲ分與スル義務ヲ有ス

労働者ニ關スル規定 第二百三十一條 日曜日及祭日ニ於テハ縱令契約書中反對ノ規定アルモ労働者ニ對シ労働ヲ命スルコトヲ得ス

第二百三十二條 夜間ノ労働ニ女子ヲ使用スルコトハ絶對ニ之レヲ禁止ス

第二百三十三條 ヨリ第二百四十條ニ至ル迄ハ女子ノ労働休止時間、分娩後ノ労働、労働ノ種類ニ關スル制限、十歳以下ノ小兒ノ労働禁止、十五歳以下ノモノニ對スル労働時間ノ制限及夜間就業ノ禁止、十八歳以下ノモノニ對シ「アルコ

ール」性飲料ノ販賣禁止等ヲ規定ス

第二百四十一條 凡テ土地ノ所有者ト被僱人トノ間ニハ證人二人ノ面前ニ於テ爲サレタル書面契約ヲ取交ハスヲ要ス

第二百四十二條 前條ノ契約書ハ二通ヲ作り其一通ヲ労働者ニ交付スヘキモノトス

第二百四十三條 労働上ノ紛議ニ關シ前二條ノ契約書ヲ提示シ能ハサル時ハ反對ノ證據ナキ限り凡テ労働者ノ告白ヲ信スヘシ

第二百四十四條 募集ノ方法ニヨリ労働者ヲ僱入ルル時ハ其契約ハ募集人ト労働者トノ間ニ取結ハルヘク當該募集人ハ僱主並ニ労働者ニ對シテ責任ヲ有スルモノトス

第二百四十五條 前條ノ場合ニ於テハ契約書三通ヲ作ルヘシ

第二百四十六條 契約ニハ日給、月給、仕上ケ拂等ニヨル労働ノ方法、其賃率、前借金、労働ノ種類、給料ノ支拂方法其他凡テ僱主及被僱者ノ權利及義務ニ關スル事項ヲ明細ニ規定スルヲ要ス

第二百四十七條 労働者ハ其給料仕拂時ニ於テ必ラス其係員ノ證明シタル計算書ヲ受取ルヘシ

第二百四十八條 凡テ労働者ハ契約満期ニ方リ給料ノ決算並ニ殘金ノ支拂ヲ要求スル權利ヲ有シ又其決算書ノ寫ヲ要求シタル時ハ僱主ハ之レヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

第二百四十九條 特種ノ労働ニ從事中負傷シタル爲メ一時労働ヲナス能ハサル労働者ハ其治療中給料ノ支拂ヲ要求スル權利ヲ有ス

第二百五十條 労働者若シ労働中ニ受ケタル負傷ニヨリ生命ヲ失フカ又ハ再ヒ労働シ能ハサルニ至リシ場合ニハ僱主ハ該労働者又ハ其幼兒或ハ寡婦ニ對シ契約規定ノ賠償金ヲ仕拂フヘシ

若シ豫メ何等ノ規定ナカリシ場合ハ地方長官ハ三ヶ年ニ亘ル適當ナル救恤金ヲ決定スヘシ但シ之レニ不服アル者ハ勸業省ニ抗告スルコトヲ得

第二百五十一條 勞働者ハ自然ノ損耗又ハ不慮ノ出來事ニヨル場合ノ外傭主ヨリ交付セラルル勞働用諸器具ニ對シ責任ヲ有ス

九四

第二百五十二條 勞働者カ土地ヲ去ラムトスル時ハ傭主ヨリ契約履行済ノ證明書ヲ受クヘシ

(註)本則第七十三條規定ノ土地拂下、貸地、無代給付等出願ノ旨地方新聞ニ公告スルコトハ半「エクタレア」以下ノ土地ヲ出願スル場合之レヲ適用セサル旨千九百十二年二月九日ノ官令ニテ規定セリ

土地測定官ノ報酬ニ關スル規程 (Tarifs De Peritages) (千九百十年三月十一日官令)

一、土地ノ測量、標界並ニ占有ノ許可ヲ同時ニナス時ハ土地ノ周圍「メートル」毎ニ四仙(但シ製圖竝ニ報告製作料共)
二、其事務カ前項列舉ノ一ナル時ハ土地ノ周圍「メートル」毎ニ三仙
三、實地踏査ノ必要アル時、「日當一日ニ付十」ソル
但シ其距離「キロメートル」以內ノ時ハ無料

四、前項ノ場合ニハ往復旅費トシテ「キロメートル」毎ニ五十仙

五、道路ノ開通ナキ地點又ハ河上ヲ往復スル時ハ測定官ト利害關係者トノ間ニ協定シ又ハ官廳ノ指圖ニヨリ旅費ヲ定ム

六、宿泊ノ必要アル時ハ利害關係者ハ宿所竝ニ食事ヲ提供スヘク然ラサレハ一日五「ソル」ヲ支拂フヘシ

七、同一ノ場合ニ於テ同時ニ二ヶ以上ノ測量其他ヲナス時ハ旅費日當宿泊料ハ各出願人ニ於テ分擔スルモノトス

八、製圖用器具ノ代價ハ測定官ノ負擔タルヘシ

九、利害關係人ハ土地ノ切開キ竝ニ標界ニ必要ナル器具材料及人夫ヲ提供スヘシ

十、測定官ハ本規程定率以上ノ報酬ヲ徵收スルヲ得ス

十一、測定官ハ利害關係者ニ對シ保證金又ハ預納金ヲ命スルコトヲ得

(改正)千九百十一年十二月八日ノ官令ヲ以テ測定ノ報酬ヲ二割五分丈ケ低減セリ

千九百十二年二月九日ノ官令ヲ以テ「エクタレア」以下ノ土地ニ對スル測定官ノ報酬ヲ三分ノ一ニ低減セリ

(補遺)森林地方土地法及同施行細則發布後改正補修セラレタル條項左ノ如シ

細則第九十八條ノ保證金「ソル」ヲ十仙ニ低減セリ(千九百十一年四月七日ノ官令)

土地法第十二條ノ探檢許可ハ直チニ土地ノ產物ヲ採取スルノ權利ヲ付與スルモノニ非ラス之レニ反スルモノハ細則第二百六十一條並ニ第六十二條ニヨリ處罰セラレヘシ(千九百十二年三月八日ノ官令)

土地出願難形 (Modelo De Peticion De Terrenos.)

Señor Prefecto del departamento:

姓 名 國 籍 年 齡 職 業 de Profesión, domiciliado, en el distrito de

住所 de la Provincia de ante Vuestra Excelencia, expongo: que deseo me sea adjudicado por

拂下 貸地 又ハ無代 給付 土地名 面積 hectáreas de extensión, aproximadamente, (compra, dandome ó título gratuito) el terreno denominado....., con

所在 距離 kilómetros de distancia del pueblo del que es más inmediato, y á

kilómetros del que es, igualmente, el más proximo, y que está limitado por el N. con el terreno de

持主名 por el S. con el de don por el E. con el de don y por el O. con el de don

上 como puede apreciar Vuestra Excelencia por el croquis que acompaño.

Solicito este terreno, señor Prefecto, con el objeto de dedicarlo á (cultivo, ó explotación) comprometiendome á exportar los productos que de él obtenga por la renta de cuyo término es la aduana de

y á fin de que me sea concedido lo pido formalmente á Vuestra Excelencia acompañando á esta solicitud el valor de los derechos reglamentarios en hojas de papel timbrado especial del tipo de
地名 日 月 de de 191
出願人 署名

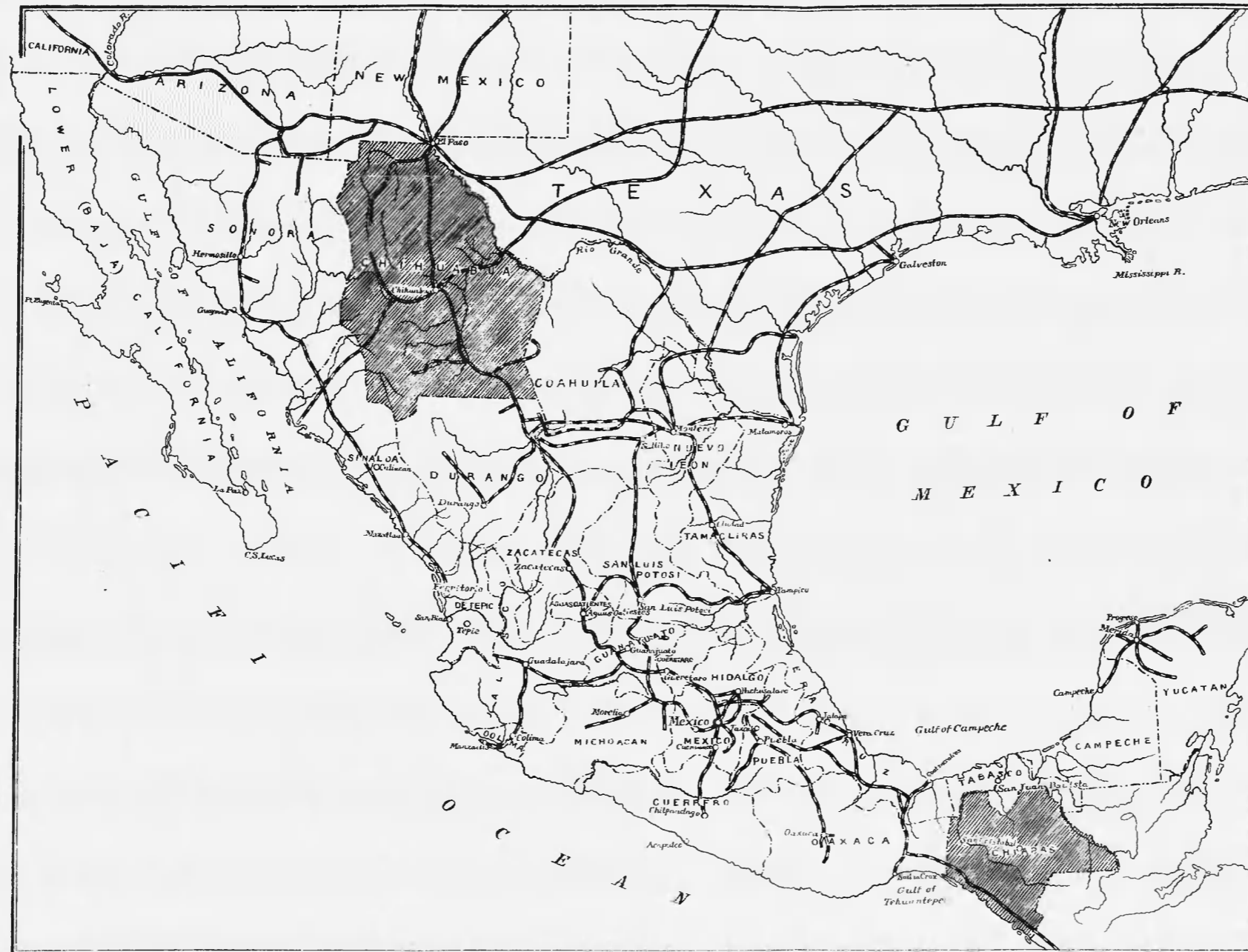
宋六

墨國「チヤパス」州
「ソコヌスコ」郡日本人状態視察報告

調一0585

0063

墨西哥國全圖



調一0585

0064

墨國「チャパス」州「ソコヌスコ」郡日本人狀態視察報告

目次

第一章 總論

第一節 緒言

第二節 「ソコヌスコ」郡ノ地位

第一項 「チャパス」州ノ概要

第二項 「チャパス」州ノ位置及面積

第三項 「チャパス」州ノ地勢

第四項 「チャパス」州ノ人口

第五項 「チャパス」州ノ首府及行政區劃

第六項 「ソコヌスコ」郡ノ風土及物産

第七項 「ソコヌスコ」郡ノ概要

第八項 「ソコヌスコ」郡ノ位置及面積

第九項 「ソコヌスコ」郡ノ人口

第十項 「ソコヌスコ」郡ノ地勢及氣候

第十一項 「ソコヌスコ」郡ノ首府及市町村制

第十二項 「ソコヌスコ」郡ノ産業

第三節 「ソコヌスコ」郡ト「パンアメリカン」鐵道トノ關係

第四節 「ソコヌスコ」郡ニ於ケル珈琲及護謨ノ生産

第五節 「ソコヌスコ」郡ニ於ケル外國人ノ企業

第二章 「ソコヌスコ」郡ニ於ケル日本人

第一節

「ソコヌスコ」郡ニ於ケル日本人殖民地及殖民事業ノ概況

第二節 日墨協働會社ノ狀態

第一項 日墨協働會社ノ組織

第二項 商業殖民トシテノ日墨協働會社

第三項 農業殖民トシテノ日墨協働會社

第四項 日墨協働會社ノ成績及將來

第五項 日本人ノ雜婚

第六項 日墨協働會社附屬小學校ノ狀態

第七項 小橋岸本合名會社ノ狀態

第八項 商業殖民トシテノ小橋岸本合名會社

第九項 農業殖民トシテノ小橋岸本合名會社

第十項 會社以外ノ日本人ノ狀態

第十一項 商業殖民ノ狀態

第十二項 農業殖民ノ狀態

第五節 舊榎本殖民地ノ狀態

第一項 舊植本殖民地ト現在殖民トノ關係
 第二項 藤野殖民地ノ狀態
 第三項 舊植本殖民地失敗ノ原因
 第一目 土地ノ撲定ヲ誤リタルコト
 第二目 殖民地事業ノ撰擇ヲ誤リタルコト
 第三章 在留日本人ト土民及外國殖民トノ關係
 第一節 在留日本人ト土民トノ關係
 第二節 在留日本人ト外國殖民トノ關係
 第四章 在留日本人ニ對スル土地回收問題
 第一節 土地回收問題ノ起因
 第一項 日本人カ土地ヲ所有スルニ至リシ經路
 第二項 所有土地ノ現狀
 第三項 土地回收問題ノ經過
 第四項 土地回收問題ノ現狀
 第二節 土地回收問題ノ將來及其解決法
 附錄 墨西哥「チャパス」州土地購入契約書

墨國「チャパス」州「ソユヌスコ」郡日本人狀態視察報告

(大正元年十月三日付
 在墨西哥帝國公使館提出)

外務書記生 荒井金太

第一章 總論

第一節 緒言

世ノ殖民策ヲ談スルモノ多ク熱帶地ヲ聯想ス即チ熱帶地ニアラサレハ殖民地ニアラサルカ如キ觀念ヲ有スルカ如シト雖モ是レ甚タシキ間違ニシテ熱帶地ハ事業地トシテハ極力之ヲ利用スヘキナレトモ好シテ殖民スヘキ地ニアラサルナリ、古來熱帶地ニ殖民シテ其子孫ノ永ク發展セシモノアルヲ聞カサルナリ、即チ熱帶殖民ノ子孫ハ風土ノ關係ヨリ一代毎ニ急激ナル心理的退化ヲ經驗シ終ニ數代ヲ經ルニ至リテハ最早原住民 *aborigines* ト選ム所ナキニ至ル、其狀宛モ溫帶地ヨリ其地ノ植物ヲ熱帶地ニ移植スルカ如シ即チ第一年目ニハ稍々本原果實ニ類似スル實ヲ結フト雖モ第二年目又ハ第三年目ニ至リテハ果實ハ漸次本原ノ狀態ヲ失ヒ遂ニハ熱帶地固有ノ同種植物ト同一ナル果實ヲ結フニ至ルカ如シ、而シテ此ノ退化ノ法則ハ古來確然トシテ動かカスヘカラサル事實ニシテ唯今日學者カ之ヲ學理的ニ證明スルノ餘地ヲ殘スノミ又今日ノ文明的手段ハ聊カ其急激ナル退化ノ速度ヲ減少セシメ得タルハ事實ナルカ如シ然レトモ看ス々々子孫ノ退化ヲ認識シテ尙ホ敢テ斯クノ如キ地ニ殖民セントスル豈心細キノ至リナラズヤ

以上ハ熱帶殖民ノ個人的退化ノ狀態ヲ約言シタル所ナルカ繼テ之ヲ國家ノ盛衰ニ徵スルニ古來熱帶ヲ選ヒシ國民ハ比々

個人ト同一ノ運命ニ遭遇セサルナシ現ニ米大陸ニ於テモ熱帯ヲ選ミシ種族ノ子孫ヨリ成ル國民ハ其勢力今日萎靡ノ状態ニ在ルニ反シ温帯ヲ選ミシ「アングロサクソン」種族ノ子孫ヨリ成ル國民ノ勢力ハ日ニ益々旺盛ナルモノアルニアラスヤ、要スルニ熱帯地ナルモノハ温帯人ノ餌トナルヲ免レサルモノナリ、此ノ見地ヨリスル時ハ凡ソ世界ノ中熱帯地ニ獨立國杯ノアルヘキ筈ナク若シ現今コレアリトスレバソハ征服時代ノ情勢ニ過キスシテ又一方温帯國ノ勢力カ尙ホ未ダ充分ニ發動セサルコトヲ示スモノナリ然レトモ夫ノ所謂熱帯獨立國ナルモノカ頻リニ外國殖民(移民ニアラス)ヲ吸收セント努ムル所以ノモノハ獨リ之ヲ以テ人口ノ稀薄ヲ補ヒ又産業ノ發展ヲ謀ルノミナラスシテ精力充實セル温帯ノ新分子ヲ輸入シテ國民的進化ヲ防禦シ以テ其國勢ヲ維持セントスルカ爲メナリ故ニ此等熱帯國ニ取リテハ温帯殖民ハ國民的精神力又ハ國民的獨立ヲ維持スルノ要素ナリトス、然リト雖モ熱帯地ヲ自國ノ領土トナシコレニ殖民政策(茲ニ殖民ト云フハ本國ノ統治權ノ下ニ在ル者ヲ云ヒ、殖民ト云フハ他國ノ領土内ニ永住スル者ヲ云フ)ヲ施スハ此限ニアラサルナリ如何トナレハ假令殖民ノ子孫カ代ヲ重スルニ徒ヒ退化シテ原住民ト状態ヲ同一ニシ終ニ單純ナル土民勞働者ト變化スルニ至ルト雖彼等ハ尙ホ本國ヨリノ新殖民事業ニ利用セラル、コトヲ得ルヲ以テ外國領土内ニ於ケル殖民ノ子孫ノ如ク全然外國人ノ利益ノ爲メニ利用セラル、カ如キ虞少キノミナラス他方ニ於テ其本國ハ頻リニ殖民地ニ向ツテ文明的殖民政策ヲ施シ殖民ノ教育、殖民ノ衛生等ノ設備ニ注意スルヲ以テ未開ナル熱帯外國ニ永住スル殖民ノ如ク容易ニ退化セサルモノナリ

小官ノ觀ル所ヲ以テスレハ「ソコヌスコ」郡ニ於ケル外國殖民ノ如キハ三代ニシテ原住民ト氣風、性質、舉動、氣力又或ル程度迄ハ容貌ヲモ同フス、小官ハ「ソコヌスコ」郡ニ滞在セシコト前後四週間ニ亘リシカ其ノ間親シク幾多ノ土民又ハ各國殖民ト交ハリテ能ク其状態ヲ觀察スルノ機會ヲ得タルカ西班牙殖民ノ子孫タル土民ハ少數ノ例外ヲ除クノ外悉ク安閑無爲齋爾トシテ徒ラニ祖先ノ遺産ニ寄生シ又資産ナキ者ハ全然原住民ト等シク只新殖民ノ事業ニ利用セラル、アルノミ、又他ノ外國殖民中ニモ居住十數年ニ亘ル者ハ殆ント皆其本國ノ氣風ヲ喪失シ大ニ土民化シテ頗ル懶惰ノ風アルヲ認

メタリ殊ニ小官ノ嘆惜措ク能ハサリシハ夫ノ比較的教育アル獨逸人ヌラ中ニハ本國ノ氣風ヲ失ヒ甚タ土民化セル者渺カラサリシコトコレナリ、然リ而シテ願テ日本殖民ノ状態ヲ察スルニ彼等ハ外國殖民ニ比シ創業未タ日淺クシテ僅ニ十數年ヲ經タルニ過キサルニ然カモ彼等ノ間ニハ既ニ日本人ノ俯ヲ失ヒタル者ナキニアラス、然レトモ其土民化セントラ恐レ拮据精勵スル者ノ中特ニ身體ノ強壯ナル者ヲ除キ他ハ徒ラニ神經亢高シ眼光燦々然タル者アルヲ認メタリ、一代目ノ彼等既ニ斯クノ如シ二代目、三代目ノ状態又推シテ知ルヘキナリ故ニ外國人中ニハ此ノ地ニ殖民セント考フル者甚タ少シト雖モ事業ノ關係上永住ヲ餘義ナクセラル、者ハ痛ク子孫ノ退化ヲ恐レ或ハ之ヲ本國ニ遣リ或ハ之ヲ他ノ文明的教育機關ノ設備アル都市ニ遣ル等諸種ノ手段ヲ施シ頻リニ退化防禦ノ策ヲ講シツ、アリ然レトモ資産ニ餘裕ナキ者ニ至リテハ子孫ノ退化ヲ認識シナカラ尙ホ忍ハサルヘカラサル可憐ノ状態ニアルヲ認メタリ

以上ハ熱帯低地ヲ標準トシテノ所說ナルカ今驪ヲ熱帯ノ高地ニ就テ考フルニ世ノ殖民ヲ論スル者往々熱帯ノ高地ヲ以テ單ニ氣候ノ點ヨリ殖民地トシテ好適ナルカ如ク說ヲ爲スト雖トモコレ皮想ノ觀ニシテ熱帯ヲ知ラサル者ノ說タルヲ免レヌ由來熱帯ノ高地ハ一般ニ氣候清涼ニシテ支那人ノ所謂恒春「 Eternal Spring」ヲ稱ハ能ク熱帯高地居住者ノ間ニ聞カル、所ニシテ熱帯事業者ノ住所地トシテ頗ル理想的ナルカ如シト雖モ熱帯高地ノ風土カ人類ノ腦力ニ及ホス惡影響ハ實ニ著シキモノアリテ温帯地ニ於ケルカ如ク強度ノ精神的勞働ヲ許ササルノミナラス一派ノ學說ニ據レハ空氣稀薄ナルカ爲メニ酸素ノ分量少ク然リトテ人身ハ其必要トスル酸素ノ量ヲ需ムルノ要アルヲ以テ勢ヒ脈博ノ度數ヲ増加シ爲メニ生理機關ヲ過勞シ其結果トシテ生命ノ短縮ヲ來スヲ免レスト云フ此ノ說ノ眞僞ハ姑ラク之ヲ學者ノ判斷ニ委ネ之ヲ事ノ實際ニ徵スルニ事實ノ證スル所最早疑ヲ挾ムノ餘地ナキカ如シ夫ノ有名ナル「ヴェネズエラ」事件ノ張本者ニシテ北部南米ニ外交官トシテ駐劄セシコト二十七年ノ長キニ亘リシ米公使「スプリング」氏ノ如キモ其著書「コロムビヤ、エンド、ヴェネズエラ」ニ於テ亦此ノ說ヲ唱道セリ、惟フニコレ等ノ理由ハ「ソコヌスコ」郡ニ於ケル獨逸珈琲栽培業者カ通常海拔二千尺以上ノ温暖清爽ナル地ニ住居シ且ツ事業ノ比較の有利ナルニモ拘ラス我舊模本殖民ノ如ク大舉シテコレニ殖民ヲ建

設セントスルカ如キ無謀ヲ敢テセサル所以ナルヘシ

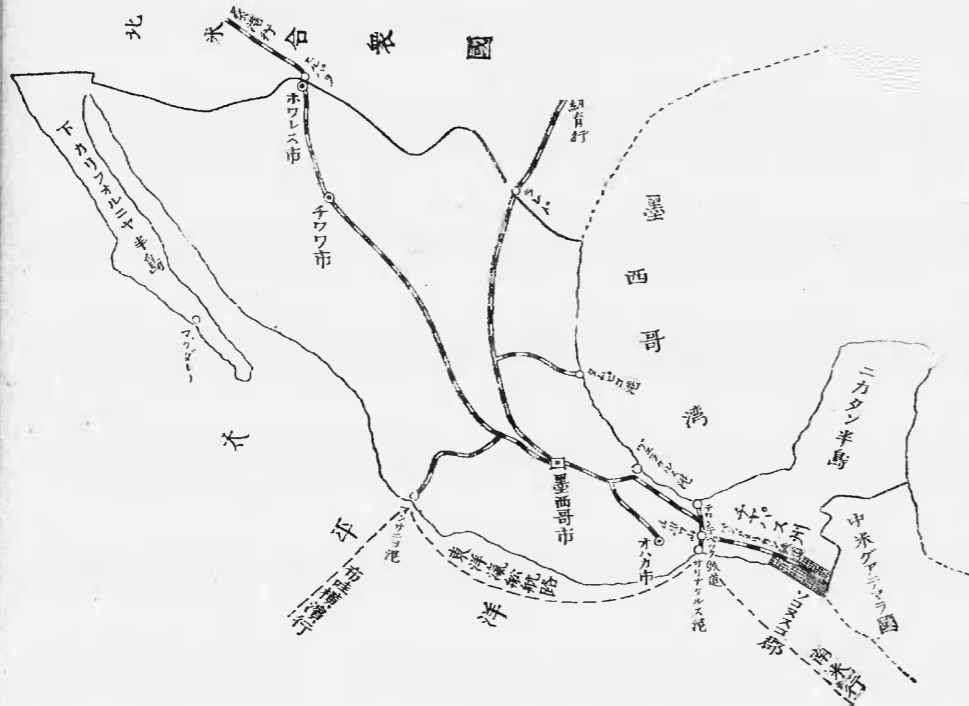
小官ノ觀ル所ニ據レバ獨逸人ハ英國人ト同シク殖民政策ニ於ケル風土問題ヲ能ク了解スル者ニシテ彼等ハ英國人カ殖民政策ニ於ケルカ如ク先ツ温帯地ヲ以テ一流ノ殖民地トシ頻リニコレニ向ツテ殖民ヲ輸送シ其勢力ヲ扶植セントニ努力スト雖モ熱帯地ニ至リテハ唯事業ニ必要ナル人員ヲ送り又コレニ缺クヘカラサル設備ヲ施スニ過キサルナリ例之ハ獨逸ハ曾テ多數ノ移民ヲ北米合衆國ニ送り又伯刺西爾國ノ南部ニ於テ殖民地ノ大規模ヲ据エタルニ反シ北部南米諸國、中米又ハ墨西哥等ノ熱帯地ニハ其事業ノ比較的大ナル割合ニ多數ノ移民ヲ送ラサルカ如シ即チ「ソコヌスコ」郡ニ於ケル獨逸在留民ノ數ハ其事業ニ比例シテ甚タ少ク例ヘハ二三十萬圓ノ收益アル珈琲園ニ於テモ猶ホ僅ニ二三ノ獨逸人アルノミナルカ如シ

要スルニ「ソコヌスコ」郡ハ熱帯地ニシテ事業地トシテハ大ニ之ヲ利用スヘキナレトモ好ンテ殖民スヘキ地ニハアラサルナリ

第二節 「ソコヌスコ」郡ノ地位

墨西哥共和國ノ南端ニ位スル一州アリ之ヲ「チャバス」州 Estado de Chiapas ト云フ尙ホ同州ノ南端即チ墨國ノ最南端ニ位シ西ハ太平洋ニ瀕シ南ハ中米「グアテマラ」國ニ境シ東西最長三十七里、南北最長三十里ニ亘ル一郡アリ之ヲ日本人殖民地ノ所在地タル「ソコヌスコ」郡 Departamento de Soconusco トナス

今試ニ東洋汽船會社南米航路ノ寄港地墨國「サリナ、クルス」港ヨリ「アワンテベック」地峽鐵道ニ依リテ東進スル時ハ十二里ニシテ「ガムボア」 Gamboa ト稱スル驛ニ達ス此ノ驛ハ「アワンテベック」地峽鐵道ト「パン、アメリカン」鐵道トノ聯絡點ニシテ所謂「パン、アメリカン」鐵道ハ此ノ地ヲ起點トシテ太平洋ニ併行シ南延シテ墨國「オハカ」州ノ一部ト「チャバス」州トヲ貫通シテ中米「グアテマラ」國々境ニ達スルモノナリ、而シテ尙ホ前記「ガムボア」驛ヨリ同鐵道ニ依リ南下



スル時ハ八十里ニシテ「ソコヌスコ」郡ニ達ス即チ同郡ハ日本船舶ノ寄港地「サリナクルス」港ヨリ鐵路九十二里ヲ距テ又共和國首府墨西哥市ヨリハ鐵路二百七十三里ヲ隔ツル所ニアリト知ルヘシ

第一項 「チャバス」州概要

第一目 「チャバス」州ノ位置及面積

「チャバス」州ハ北緯十四度四十分ヨリ同十七度五十分ニ跨カリ比律賓ノ呂宋島ト稍其緯度ヲ同フス而シテ東經（墨西哥府ヲ起點トスル）三度二十四分ヨリ六度四十五分ノ間ニアリテ東ハ「タバスコ」州ニ接シ南ハ中米「グアテマラ」國ト境シ西ハ太平洋ニ瀕シ北ハ「ヴェラクルス」州及「オハカ」州ニ接ス而シテ其面積ハ五千五百三十三平方里（七萬九千三百五十九平方基米突）ニシテ我北海道ヨリ稍大ニシテ九州ノ二倍ニ近シ

第二目 「チャバス」州ノ地勢

「アンデス」山系ノ「シエラ、マードレ」山脈ハ太平洋岸ニ沿テ南方ヨリ北方ニ蜿長シ同州ノ分水點ヲナス而シテ太平洋側ニハ狹長一帯ノ斜面地ヲ形成シ大西洋側ニ於テハ茫漠タル一大高原ノ遠ク墨西哥灣ニ向ツテ緩斜スルモノアリ其狀恰モ「ロッキー」山脈ノ北米太平洋岸ニ蜿長スルカ如ク又「アンデス」山脈ガ南米智利國ト亞爾然丁國トヲ分ツニ似タリ

第三目 「チャバス」州ノ人口

「チャバス」州ノ人口ハ明治四十三年ノ調査ニ據ル時ハ三十五萬二千六百二十人ナリトス而シテ一方里ノ人口ハ六十八人ニシテ之ヲ北海道ノ其レニ比スル時ハ三分ノ一ニシテ又九州ノ其レニ比スル時ハ四十分ノ一ナリトス

第四目 「チャバス」州ノ首府及行政區劃

明治二十四年迄州首府ハ「サン、クリストバル」ラス、カサス「San Cristobal las Casas」ナリシモ同年中之ヲ「テユストラ、グライエレス」「Tuxtla Gutierrez」ニ遷セリ蓋シ後者ハ前者ニ比シ交通便ナルカ爲メナリ而シテ同市ハ人口一萬ヲ有シ「シエラ、マードレ」山脈ノ東麓ニ位ス、「チャバス」州ハ行政上之ヲ十三郡「Departamentos」ニ區劃シ各郡ニ郡長「Jefe Politico」ヲ置ク、郡長ハ知事之ヲ任命ス

第五目 「チャバス」州ノ風土、物産

「チャバス」州ハ元中米「グアテマラ」國ニ屬セシカ千八百二十四年中州民ノ衆民投票「Plebiscito」ニ依リテ墨國ニ合併セリ仍ラ今日モ尙ホ其風俗、習慣、方言等ハ甚タシク隣國「グアテマラ」ニ類似スルモノアリ、亦通貨ノ如キモ數年前「パン、アメリカン」鐵道ノ竣工ヲ告ケシ前迄ハ「グアテマラ」國ノ貨幣ヲ以テ市場ノ媒介トナセリ
「チャバス」州ノ産物ハ珈琲、砂糖、護膜、玉蜀黍、材木、煙草、「ベネケン」等ヲ以テ重ナルモノトス

第二項 「ソコヌスコ」郡ノ概要

第一目 「ソコヌスコ」郡ノ位置及面積

「ソコヌスコ」郡ハ北緯十四度四十分ヨリ十五度四十分ノ間ニアリテ面積三百六十四平方里(五千六百十八平方基米突)ニシテ其大サ我三重縣ニ髣髴タルモノアリ、而シテ東ハ「シエラ、マードレ」山脈ニヨリテ「グアテマラ」國及「サン、フランシスコ、モトシントラ」郡ニ接シ南ハ「ステアテ」河「Rio Suchiate」ニヨリテ「グアテマラ」國ト境シ西ハ一面太平洋ニ瀕シ北ハ「トナラー」郡ニ接ス

第二目 「ソコヌスコ」郡ノ人口

明治四十三年ノ調査ニ據ルニ「ソコヌスコ」郡ノ人口ハ總テ五萬六千二百八十七人ニシテ中外國人二千三百三十二人其大部分ハ「グアテマラ」人ナリ、今試ニ同郡一方里ノ人口ヲ觀ルニ十五人ニシテ之ヲ我三重縣ノ其レニ比スル時ハ實ニ百五十七分ノ一ナリトス又以テ其人口ノ稀薄ナルヲ知ルヘシ明治四十三年ノ統計ニヨレハ「ソコヌスコ」郡ニ於ケル主要ナル外國人ノ數ハ左ノ如シ

支那	四百五十人
獨逸	九十人
西班牙	七十五人
日本	六十八人
米國	五十七人
英國	四十人
佛國	十人
計	七百九十八人

第三目 「ソコヌスコ」郡ノ地勢及氣候

「ソコヌスコ」郡ハ海岸ヲ距ル七里ニシテ高サ平均六百尺ニ達シ漸次北方ニ向ヒ「シエラ、マードレ」山脈ニ近ツクニ從テ隆起シ以テ「グアテマラ」國及「サン、フランシスコ、モトシントラ」郡トノ境界ヲ成ス「タカナー」山ハ實ニ一萬四千尺ノ高程ニ達ス、從テ河流ハ多ク北方ヨリ南方ニ向ツテ流下シ「ソコヌスコ」郡ノ沃野ヲ灌溉シテ太平洋ニ入ル

同郡ノ氣候ハ地勢ニ伴フテ亦自ラ差異アリ即チ郡内ハ比較的清凉ナル郡首府「タパチユラ」市ニ於テハ攝氏二十五度乃至三十度ニシテ北方「タカナー」山附近ニ位スル「ウニオン、ホワレス」村ニ於テハ十六度乃至二十度ナリトス而シテ通常海

拔二千尺以上ニ在ル珈琲園ノ如キハ氣候清涼ニシテ曾テ疫病ノ流行ニ惱ミシコトナシト云フ。雨季ハ毎年四月頃ニ始マ
リ十一月ニ終リ其間降雨甚タ多シト雖モ概シテ午前中ハ晴天ニシテ午後ニ至リテハ雨天ニ急變スルヲ以テ爲メニ暑氣ノ
減少ヲ覺ユ、又其地質ハ容易ニ水分ヲ吸收スルカ故ニ大雨ノ後ト雖モ泥濘路ヲ塞クカ如キ事ナシ而シテ十二月ヨリ三月
ニ至ル四ヶ月間ハ所謂乾燥季ニシテ年中最好ノ氣節ナリ其間日中ハ可ナリ暑熱ヲ感スト雖モ夜間ハ稍熱度ノ低減スルヲ
覺ユ、同郡ハ他ノ太平洋岸地方ト同ジク氣候一般ニ乾燥セルヲ以テ太平洋岸地方ノ如ク蒸熱クシテ堪難キ日ハ比較的稀
ナリト云フ

第四目 「ソコヌスコ」郡ノ首府及市町村制

「ソコヌスコ」郡ノ首府ハ之ヲ「タバチユラ」(Tapanaha)ト稱シ「グアテマラ」國境ニ近キ方面ニ位シ郡廳、裁判所、警察、
軍營ノ所在地ニシテ人口九千五百ヲ有ス又同市ハ「ソコヌスコ」郡ニ於ケル各種企業ノ中心ニシテ英、米、獨、佛、西及ヒ
「グアテマラ」ノ諸國ハ此處ニ領事ヲ駐在セシム然レトモ此等ノ領事ハ「グアテマラ」領事ヲ除クノ外皆名譽領事ニシテ各
國ハ各自植民ノ中ヨリ土地ノ事情ニ精通シ又事業ニ經驗アル者ヲ選拔シテコレニ領事々務ヲ執行セシム而シテ「グアテ
マラ」國カ本任總領事ヲ同地ニ駐在セシムル所以ヲ聞クニ「タバチユラ」市ハ「グアテマラ」國ノ革命黨ノ避難所ニシテ又
其眞窟ナルヲ以テ領事ヲシテ傍ラ革命黨員ノ行動ヲ探知セシムルカ爲メナリト云フ
各市町村ニハ市長村長 (Presidente municipal) ナルモノアリテ市町村民之ヲ選舉ス而シテ彼等ハ或ル程度ノ司法及行政ヲ
司ルト雖モ悉ク西班牙時代ノ遺習ヲ繼承セリ

第五目 「ソコヌスコ」郡ノ産業

「ソコヌスコ」郡ノ産業上ノ富ハ一億五千四百萬圓ト計算セラル其大部分ハ珈琲園ニシテ護謨林コレニ亞ク
「ソコヌスコ」郡ノ土地ハ珈琲、護謨、甘蔗、玉蜀黍、「カカオ」、牧草等ノ栽培ニ適シ就中珈琲ニ良ク其產出年額ハ十五萬「キ
ンタル」即チ六百九十萬基ト稱セララル然レトモ勞働者ノ供給充分ナルニ於テハ尙ホ十倍若クハ十五倍ノ產出ヲ見ルニ至
ナリト云フ

第三節 「ソコヌスコ」郡ト「パン、アメリカン」鐵道トノ關係

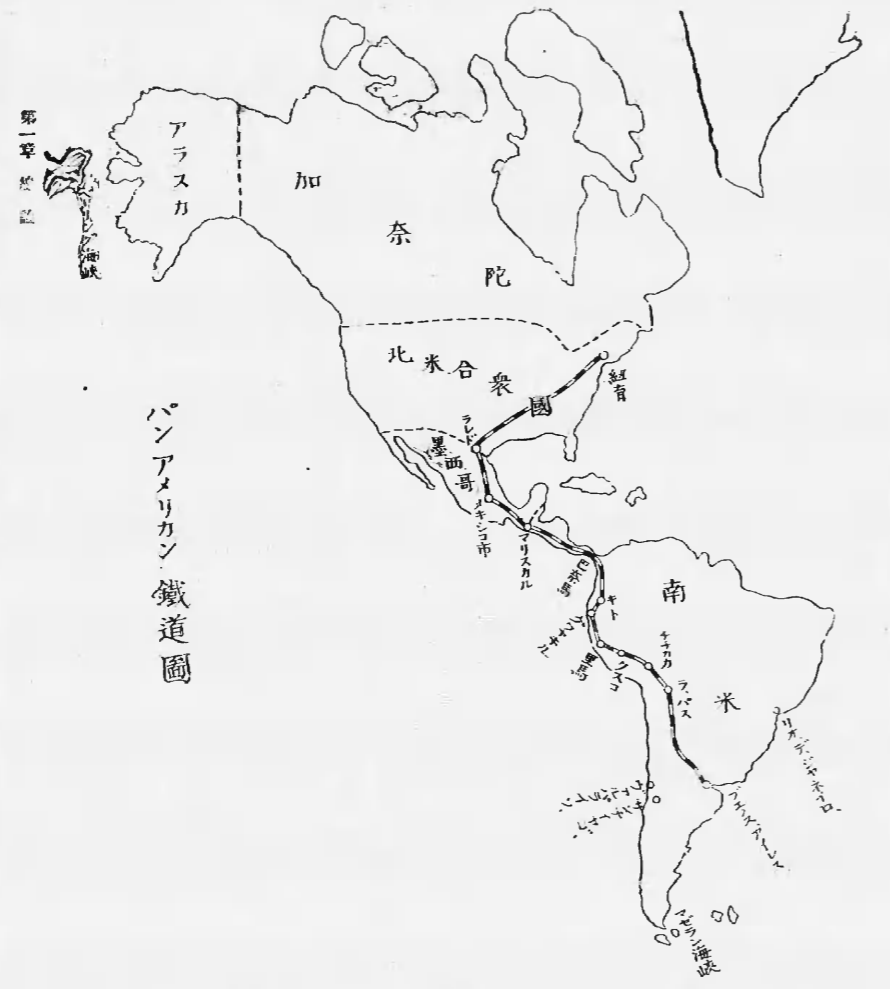
近ク世界ニ三大鐵道ノ竣工スルモノアラントス、一ハ亞細亞大陸ヲ貫通スル「トランス、シベリアン」鐵道ニシテ二ハ未タ
竣工ノ運ニ至ラスト雖モ夙ニ世ノ注意ヲ引キツ、アル亞弗列加貫通鐵道三ハ南北米大陸ノ脊髓タラントスル「パン、アメ
リカン」鐵道ナリ若シ「パン、アメリカン」鐵道ノ竣工シタル曉ニハ國際關係ニ多大ノ變遷ヲ出現スルニ至ルヘキハ蓋シ
今ヨリ豫見スルニ難カラス而シテ此ノ世界の大鐵道ノ一ナル「パン、アメリカン」鐵道ハ本邦人ノ殖民セル墨國「チャバ
ス州」ソコヌスコ「郡」ヲ貫通ス仍テ今同鐵道ノ起因現狀及「ソコヌスコ」郡地方ニ及ボス影響ニツキ左ニ略述セントス
抑々「パン、アメリカン」鐵道ハ千八百六十一年ヨリ六十六年ニ亘ル五ヶ年間南米亞爾然丁國「ボエノスアイレス」市ニ駐
在シ當時政治記者トシテ合名アリシ米國領事 Hinton Rowan Helper 氏ノ「腹案」ニ胚胎シタルモノニシテ氏ハ此ノ鐵道
ヲ「パン、アメリカン」(全米)又ハ三米鐵道「Three Americas Railway」ト稱シ北米「メーリン」海峽ヨリ中米巴奈馬地
峽ヲ經由シ遠ク南米「マゼラン」海峽ニ至ル設計ヲ建テタリ然ルニ此ノ理想ハ後日 James G. Blaine 氏ノ承繼スル所ト
ナリテ此レカ實行ノ必要ハ頻リニ同氏ニヨリテ唱道セラレタレハ大ニ世人ノ注意ヲ引キ終ニ今日「パン、アメリカン」鐵
道ノ實現ヲ見ントスルノ状態トナレリ
今試ニ此ノ鐵道ノ組織ヲ「トランス、シベリアン」鐵道ニ比スルニ彼ハ本國タル露國ヲ起點トシ其領土内ヲ貫通スルモノ
ナレトモ此ハ幾多ノ主權國ヲ通過スルモノナルヲ以テ「トランス、アメリカン」ト稱スル能ハスシテ「パン、アメリカン」ト
稱シ或ハ沿道未開ノ地ヲ開化スルヲ名目トシ或ハ三米親近ヲ計ルノ手段ナリトノ説ヲナシ其通過スル幾多ノ獨立國ヲシ

一〇六

テ各其領土内ノ部分ヲ敷設セシムルニアルカ故ニ彼我ノ間一見甚タシク差異アルカ如シト雖モソノ異ナル所ハ唯名目ノ
 ミニ止マリ其實資本ヲ投シテ此レカ敷設ヲナス者ハ少クトモ巴奈馬以北ニ於テハ重ニ米國人又ハ米國會社ナルヲ以テ實
 質ニ於テハ決シテ「トランス、シベリヤン」鐵道ト異ナルコトナキナリ即チ合衆國ヨリ南シテ墨西哥國ニ入り更ニ南下シ
 テ中米「グアテマラ」國ニ入ル迄墨國內ノ鐵道ハ英資ニヨリテ成ル小部分ヲ除クノ外皆五割内外ノ米資ヲ含ム資本ヲ以
 テ敷設セラレタルモノニシテ隨テ社長重役ノ如キモ多クハ米國人ナリトス例之ハ墨國々有鐵道會社社長ハ米國人ニシテ又
 「テワンテベック」地峽ヨリ「グアテマラ」國境ニ至ル「パン、アメリカン」鐵道會社社長ノ如キモ前墨國駐劄大使タリシ米國
 人ナリトス亦「グアテマラ」國ニ於テモ鐵道ハ悉ク米資ニヨリテ敷設セラル、所ニシテ將來「パン、アメリカン」鐵道ノ一
 部トナルヘキ「セントラル」鐵道ノ如キモ社長ハ同シク米國人ナリ其他中米ノ諸國「サルヴァドル」、「ニカラグア」、「コ
 スタリカ」及「巴奈馬國」等ニ於テモ鐵道工事ハ少數ノ例外ヲ除キ他ハ悉ク米資ノ經營ニヨルモノトス故ニ此等沿道諸國ニ
 於テハ内實「パン、アメリカン」鐵道ノ竣工ヲ悦ハサルモノナキニアラサルカ如シ（明治四十五年三月一日通商彙纂第十八
 號墨國事情四參照）例之「グアテマラ」國ノ如キハ殊更墨國ノ境界ニ接スル部分ノ竣工ヲ遲延スルノミナラス「パン、アメ
 リカン」鐵道ハ廣軌ナルニモ拘ラス同國ノ鐵道ハ（政府干涉ノ結果ナリト云フ）悉ク狹軌ナルカ如シ尙ホ南米諸國ニ至リ
 テモ自ら進シテ（Monopoly）鐵道ヲ敷設セントスルカ如キ國ハ殆ントコレナキヲ以テ多クハ英人又ハ米人ニ依ルノ外
 ナカルヘシ

一〇七

スノ如ク「ヘルバー」氏ノ理想ハ未タ全部實現セラル、ノ運ニ至ラスト雖モ然カモ着々進行ノ途ニアリ只現今「パン、アメ
 リカン」鐵道ト稱セラル、モノハ北米紐約市ヨリ巴奈馬地峽ヲ經由シテ南米「ボエノスアイレス」市ニ至ル計畫ヲ指スナ
 リ本線ハ紐約市ヨリ米墨國境「ラレド」市ヲ通過シテ墨西哥市ニ達シ其ヨリ南下シテ墨國「チャパス」州「ソコス」郡ヲ
 貫通シ「グアテマラ」國ノ境界ニ近キ「マリスカル」驛ニ達ス、コレ今日ニ於ケル既成聯絡線ニシテ今後ノ計畫ハコレヨリ
 更ニ中米「グアテマラ」國ニ入り「サルヴァドル」國「ニカラグア」國及「コスタリカ」國ヲ經テ巴奈馬ニ達シ更ニ南米「コ
 ロンビヤ」國ヲ貫通シ
 テ「エクワドル」國ニ
 入り同國「グワヤキル」
 港ト首府「キト」間ノ鐵
 道ニ聯絡シ秘魯國ニ至
 リテ「ハクスコ」チチ
 カカ」湖間鐵道ヲ利用
 シ「ポリグヰヤ」國ニ入
 リテ「チチカカ」湖ヨリ
 首府「ラ、パス」市ニ至
 リ更ニ南進シテ亞爾然
 丁國「ボエノスアイレ
 ス」市ニ達スルモノナ
 リ而シテ「ポリグヰヤ」
 國首府「ラ、パス」市及
 亞爾然丁國首府「ボエ
 ノス、アイレス」市間ノ
 鐵道ハ今ヤ只百七十五
 哩ノ未成工事ヲ殘スノ



パンアメリカン鐵道圖

一〇七

哩ノ未成工事ヲ殘スノ

ミ然レトモ米國現今ノ「インテレスト」ハ巴奈馬以北ヲ出來得ル丈ヶ早急ニ竣工セシメントスルニアルモノ、如シ
以上ハ「バン、アメリカン」鐵道ニ關スル概説ナリ。爾テ同鐵道カ在「チャバス」州日本人ニ如何ナル便利ヲ與ヘタルカヲ見
ルニ同鐵道カ「グアテマラ」國境「マリスカル」驛迄開通シタルハ明治四十一年六月一日ナルカ其以前ニ於テ日本人殖民地
ニ到ラント欲セハ先ツ「サリナ、クルス」港ヨリ「ソコヌスコ」郡「サンベニト」港ニ航シ尙ホ陸路騎馬ニヨリ郡首府「タバチ
ユラ」市ニ出テ更ニ十九里ヲ騎シテ漸ク日本人殖民地タル「エスタイントラ」村ニ達シタルモノニシテ其不便實ニ甚ダシ
カリシナリ然ルニ該鐵道竣工以來「サリナクルス」港ヨリハ鐵路九十二里、墨西哥府ヨリハ鐵路二百七十三里ニシテ達ス
ルヲ得ルニ至リ其便到底昔日ノ比ニアラス又同鐵道カ日本殖民ニ與ヘタル利益ハ獨リ交通ノ便ノミニアラスシテ農業者
ハ從來其生産物ヲ市場ニ出スノ便ヲ缺キ甚ダシク困難ヲ感シタリシカ今ヤ鐵路之ヲ市場ニ輸送スルコトヲ得テ金融上大
ナル便宜ヲ得ルニ至レリト云フ

同鐵道ニヨリテ利便ヲ得タルモノハ獨リ我殖民ノミナラス一般外國殖民モ亦コレニヨリテ事業上ニ便宜ヲ得シト渺シ
トセズ就中獨逸殖民ノ如キハ是迄其生産セル珈琲ハ驛背ニヨリ漸ク之ヲ「サンベニト」港ニ送り出シソレヨリ太平洋方面
ニ向ツテハ桑港ニ輸送シ又大西洋方面ニ向ツテハ巴奈馬若ハ「マゼラン」海峡ヲ經テ輸出シタルノ状態ナリシモ今日ハ
「バン、アメリカン」鐵道ニヨリ直ニ之ヲ「テラントベック」鐵道ニ送り其レヨリ歐洲又ハ北米東海岸ニ向フモノハコレヲ
「コフサコアルコス」港ニ出シ又太平洋岸諸港ニ向フモノハ之ヲ「サリナクルス」港ニ送付スルヲ以テ甚大ナル便宜ヲ受ク
ルニ至レリト云フ

然レトモ該鐵道カ此地方ヲ通過スルニ至リテヨリ土地ノ相場カ著シク騰貴シタルハ事實ニシテ殊ニ同鐵道附近ニアリテ
ハ五倍若シクハ十倍ノ昇騰ヲ見ルニ至レリ亦同鐵道ハ「チャバス」州太平洋岸諸港ニ著シク影響シタルコトモ事實ニシテ
例之ハ同州「トナラー」郡ノ「アリストテ」港及ヒ「ソコヌスコ」郡ノ「サン、ベニト」港ノ如キハ今ヤ何レモ荒廢ノ狀ヲ呈ス
ルニ至レリ

第四節 「ソコヌスコ」郡ニ於ケル珈琲及護謨ノ生産

●珈琲 「ソコヌスコ」郡ハ古來珈琲及「カカオ」ノ生産地トシテ有名ニシテ羅典亞米利加諸國カ未ダ西班牙ノ羈絆ヲ脱セザ
ル時代ニ於テ既ニ南米祕露及其他ノ諸國ニ之ヲ輸出セシノミナラス本國西班牙ノ皇室ニ於テハ特ニ「ソコヌスコ」郡ノ
「カカオ」又ハ珈琲ヲ以テ御用品トセラレタルカ如キ有様ナリシモ其後獨立戰爭ノ起ルニ當リ一般農業ニ多大ノ打撃ヲ與
ヘ隨テ此地方ノ珈琲及「カカオ」生産業モ亦自ラ其影響ヲ蒙リ爾來長ク不振ノ状態ニアリシカ最近外國ノ同郡ニ入り込
ム者アルニ至リテヨリ珈琲栽培業ハ著シク發達シ明治四十四年度ニ於テハ其產出量十五萬「キントナル」ト計算セラレ而シ
テ「キントナル」ノ重量ハ四十六基ニシテ其價格ハ明治四十三年九月ニ於テハ十八圓ナリシモ四十四年九月ニ至リテハ俄
ニ暴騰シ「キントナル」三十圓トナレリ依テ四十四年度ニ於ケル「ソコヌスコ」郡ノ珈琲ノ產額ハ四百五十萬圓内外ニシテ
其約二分ノ一ハ獨逸人ノ產出ニ係ルモノナリ、今「タバチコラ」市駐在獨逸領事「ア、シユルツ」氏カ明治四十四年度ニ
於ケル「ソコヌスコ」郡ノ珈琲ノ產出及輸出ノ狀況ニ關シ本國政府ニ報告シタルモノナリト云フヲ同領事ヨリ得タルヲ以
テ參考ノ爲メ左ニ之ヲ譯載スヘシ同領事ハ獨逸殖民中ノ重立タルモノニテ此ノ地方ノ事情ニ精通スル人ナリ
明治四十四年度「ソコヌスコ」郡ノ珈琲產出量ハ十四萬八千三百六十八「キントナル」ニシテ之ヲ生産者ノ國籍ニヨリテ區別
スレハ左ノ如シ但シ「キントナル」トハ四十六基ニ當ル墨國重量ナリ

獨逸人	六、八五五キントナル	英國人	一一、八〇〇キントナル
西班牙人	一七、〇〇〇	其他	二、四八〇
米國人	一六、八三三	合計	一四、八三六
佛國人	一五、〇〇〇		

尙ホ同年度ニ於ケル珈琲輸出ノ狀況ヲ觀ルニ總重量五百五十七萬八千九百四十八基ニシテ之ヲ其輸出先ニ依リ國別スル
時ハ左ノ如シ

0074

國名	穀付咖啡	精製咖啡	計
米	八七〇七五	七〇七五	八五七五〇
暹	五二四七三	一九七五八	七二二三一
英	六〇四六九	六〇三三六	一二〇八〇五
佛	三二六四〇	三三三三三	六五九七三
伊	—	一五四〇〇	一五四〇〇
國	四三九〇〇	一四七四〇〇	一五二一〇〇
計	四六七五〇	五〇六一九七	九七四六九七

「ソコスコ」郡ニ於ケル勞働者ノ不足ハ、咖啡産業者ヲシテ充分ノ産出ヲナスヲ許サズト雖トモ以上ハ亦以テ同郡カ如何ニ咖啡ノ生産ニ適セル土地ナルカラ知ルニ足ルヘシ

「ソコスコ」郡ニ於ケル護謨生産ノ状況ヲ觀ルニ護謨栽培業ハ、咖啡ト異ナリ僅々十新年來ノ數事業ニ屬スルヲ以テ同郡カ護謨ノ栽培ニ好適ナルニ拘ラス未タ充分ニ護謨樹ノ栽培ヲ見ルニ至ラス然レトモ既ニ「ラ、サコアルバ」護謨林ノ如キハ郡内ノ最大護謨林トシテ數ハ八千六百五十二町歩ニシテ内四千二百町歩ハ現ニ護謨ノ採集ヲナシ得ルモノナリ尙ホ「ソコスコ」郡ニハ「ラ、サコアルバ」護謨林ノ外五六ノ護謨林アリト雖現今護謨ヲ充分採集シ得ルモノハ「ドンニヤ、マリヤ」護謨林アルノミ、同林ハ「クインビー」ナル者ノ所有ニ屬セシカ明治四十四年中同人ハ之ヲ百二十萬圓ニテ英國會社「Compania Huilera Mexicana」ニ賣却セリ其面積二千一百歩ニシテ前記「クインビー」カ十數年來ノ經營ニ係ルモノナリト云フ

「ソコスコ」郡ハ明治四十四年度ニ於テ栽培護謨三千「キントル」及野生護謨二千「キントル」ヲ産出セシカ其價額ハ八十八萬五千圓内外ニシテ大部分ハ之ヲ歐洲ニ輸出セリ「ソコスコ」郡ニ於ケル咖啡樹ハ重ニ海拔一千尺以上ノ高地ニ栽植スルモ護謨樹ハ一般ニ平地ニ栽植シテ海拔四百尺ノ所ヲ最良トナスカ如シ即チ重ナル咖啡園ハ皆海拔二千尺以上ノ高地ニアリテ護謨林ハ多ク五百尺ノ低地ニ在リトス

「サンクリストバル」咖啡園事情

「ソコスコ」郡ノ咖啡園事情タル「ソコスコ」郡ニ於ケル日本人ノ狀態ヲ觀察セシ際近傍咖啡園ヨリ海外輸出ノ爲メ咖啡ノ同種ニ集リ來レル狀ヲ觀テ此地方ニ於ケル咖啡園觀察ノ念禁ズル能ハザルモノアリ加フルニ此等咖啡園ハ我商業植民ト取引上密接ノ關係ヲ有スルモノナリト云フ聞キタルヲ以テ愈々之ヲ觀察スルコトニ決シ同種ヨリ北方騎馬程五時間ヲ距ケル「シエラ、マード」山岳中ニ在ル「サン、クリストバル」咖啡園ヲ參觀シテ今左ニ其見聞ノ要領ヲ摘記シテ「ソコスコ」郡ニ於ケル獨逸人ノ經營スル咖啡園事情ノ一斑ヲ説カシ

「サンクリストバル」咖啡園ハ獨逸人「ヘルマン、ウエントマイヤー」兄弟ノ所有ニ屬ス同人等ハ明治二十七年頃獨逸者トシテ北米露港ヨリ來リテ「ソコスコ」郡ニ移テ付キ農業ニ事從シテ此地ノ富源ヲ開發セント勉ムル中「シエラ、マード」山脈中「サン、クリストバル」ノ地ノ好ク咖啡ノ栽培ニ適スルヲ察シ此處ニ根據ヲ定メ以テ森林ノ開拓ニ從事セシモ資力極メ乏シキ勞働者ノ事トテ耕地ノ設備等ハ到底望ムベクモアラザリシヲ以テ多クハ山中ニ起臥シテ風餐露宿ヲ嘗トシ時ニ或ハ飢餓ニ迫リテ漸ク一命ヲ免カレタルガ如キ事數々ニシテ實ニ千辛萬苦ヲ重テ漸ク今日ニ至リシモノニシテ當時ノ艱難刻苦ハ到底言語ニ盡セカザルモノアリシト多年熱帯ノ炎風雨ニ苦ミ顔色蒼然疲勞困憊ノ狀屢々トシテ被フベカラザル主人「ウエドマイヤー」ハ當時ノ凄慘ナル情態ヲ回顧シ轉々懷落ノ情ニ堪ヘザルモノノ如ク語リ咖啡園ノ主人ノ住宅、事務所及工場ハ海拔二千尺ノ山上ニアリテ南方遙ニ太平洋ヲ望ミ又近ク山麓方面ニハ「ウエントマイヤー」等及其他「ソコスコ」郡平原ノ大半ヲ占メ賜顧願ル佳ナルノミナラズ氣候又甚ダ清涼ナルヲ以テ人ヲシテ全然熱帯園内ニ在ルノ感ヲ忘却セシム同園ノ面積ハ總テ五千町歩ニシテ現今咖啡ノ栽培セル部分ハ三百町歩ナリ其生産高ニ於テハ「ソコスコ」郡ニ於テ獨逸人ノ經營スル咖啡園中第四位ヲ占ム而シテ土民勞働者七八十人ヲ使役セルガ事務員其他管理人トシテハ僅ニ獨逸人二名ヲ使用スルノミ

昨明治四十四年度ノ産出高ハ五千「キントル」ニシテ其價額ハ十五萬圓内外ナリシガ其大部分ハ漢堡ニ他ハ米國ニ輸出セリト云フ而シテ米國ニ於ケル「ソコスコ」郡ノ咖啡ハ伯國産咖啡ノ如ク收穫方法相違ナラザルヲ以テ市場ノ純受クハ遙ニ良好ナリト云フ尙ホ同咖啡園ハ他ノ多クノ咖啡園ト同ジク山上ニ併立スル小丘ヲ開拓シテ咖啡樹ヲ栽培シタルモノニテ我極木植民地ノ如ク唯大山岳ノ巔然タルモノトハ全然其觀ツ異ニス

「ラ、サコアルバ」護謨林事情

「ラ、サコアルバ」第一號護謨林 四千二百町歩 「ロス、トカヨス」護謨林 千四百七十町歩

「ラ、サコアルバ」第二號護謨林 千八百九十町歩 「フイラバ」護謨林 千九十二町歩

小官ハ以上ノ中「ラ、サコアルバ」第一號護謨林ヲ觀察シタルヲ以テ左ニ同林ニ於テ見聞セル所ヲ摘録シテ米國人ノ經營ニ係ル護謨林業狀況ノ一斑ヲ示サント欲ス

(一)「ラ、サコアルバ」第一號護謨林ノ資本金及其價值 「ラ、サコアルバ」第一號護謨林ハ今ヲ距ルコト十一年前米國人ガ米貨一百萬弗ヲ投ジテ經營ヲ開始シタルモノニシテ現今ハ少クとも一十萬圓ノ價格アリト稱セラル、萬ニ大統領「マデロ」氏ノ家族ハ同林ヲ買得セントシテ八百萬圓ヲ提供セシモ會社側ニ於テハ一十萬圓ニアラザレバ密渡セズト主張シ其交渉ノ央ニ當リ現大統領ニ對スル所謂國庫第二大革命動亂ノ發生スルアリタル爲メ該交渉ハ其後立消ノ消態トナリタリ

(二)同護謨林ノ面積及區劃 護謨林ノ面積ハ一百「カバエリーヤ」即チ四千二百町歩ニシテノ中護謨ノ植付クアル部分ハ八十六「カバエリーヤ」即チ三千六百十二町歩ニシテコレヲ三百五十米乘平方知ニ區劃シ各區ニ凡ソ一萬本ノ護謨樹ヲ植付ケ區ト區ト間ニハ車馬ノ通行シ得ル道路ヲ設ケ本林ニ於ケル護謨樹ノ數ハ凡ソ二百五十萬本ニシテ其中現ニ護謨ノ採集ニ適スルモノハ其中數内外ナリト云フ

(三)労働者、数、賃金及償還制
 同林ハ現ニ労働者二百五十人ヲ使役シ中八十人ハ護謨ノ採集ニ従事ス、而シテ其賃金ハ採集毎四封度半ニ付キ五十錢ノ制ニシテ一日十五封度ヲ採集スルモノ鈔カラズト云フ「ソコムスコ」郡ハ元「グアテマラ」國ニ屬セシ地ナルヲ以テ労働ノ習慣モ亦大ニコレニ類似ス例ハバ屬國ニ於テハ既ニ法律ヲ以テ禁ゼラレタル償還制ノ今モ猶ホ依然此ノ地方ニ於テ行ハル、コレナリ即チ「サコアルバ」護謨林ニ於テハ他ノ多クノ咖啡園ト同ジク雇主ハ労働者ノ愚昧ナルニ乘ジテコレニ賃銀ヲ前收シテ労働ヲ以テ之ヲ返済セシムルモノニテ之ヲ償還スル迄ハ同林ヲ去ルコト能ハザルノ制ニシテ其目的トスル所ハ労働者ノ逃亡ヲ防禦スルト同時ニ他方ニ於テハ労働者ノ缺乏ニヨリテ生ズル賃銀ノ騰貴ヲ避クルニアリ雇主ガ労働者不足ヲ感ゼ乍ラ猶ホ外國労働者ヲ誘入セザル理由ハ實ニ茲ニ存ス

(四)護謨ノ採集
 同林ニ於テハ護謨樹一本ニ付キ毎年二回ノ採集ヲナスト云フ而シテ乾燥季中三月ヨリ四月ニ亙ル一ヶ月間及北風ノ烈シキ時ハ分派少キヲ以テ採集ヲ停止スト雖トモ其他ハ年中之ヲ停止スルコトナシ而シテ労働者ハ毎日午前三時頃ヨリ採集ヲ開始シ午前中ニ終ルヲ以テ雨季ニ於テモ降雨ノ爲ニ妨グラル、護謨ナシト云フ

(五)護謨ノ産出
 明治四十四年度ニ於テハ千二百キントル即チ十二萬封度ヲ産出シ悉ク之ヲ海外ニ輸出セリ而シテ輸出ハ「バン、アメリカン」鐵道及「ナリシテ」鐵道ニヨリ「コソサコアルバ」海ヲ經由シテ歐洲ニ輸送ス、數年前迄ハ悉ク護謨ヲ「アメリカン、トレーディング、カムパニー」ニ送リタルドモ現今ハ之ヲ英國及獨逸ニ輸送ス蓋シ歐洲ニ於テハ米國ニ於ケルヨリモ高價ニ賣捌クヲ得ベク又英國ニ於テハ野生護謨ヨリモ同林産ノ如ク栽培護謨ヲ希望スルガ故ナリ

今「タバチニラ」市ニ於ケル同護謨林會社事務所ノ調査ニヨリ最近過去三年ノ輸出量ハ左ノ如シ

年次	輸出量
四十二年度	五〇,〇〇〇
四十三年度	八〇,〇〇〇
四十四年度	一〇〇,〇〇〇

(六)護謨ノ價格
 「ラ、サコアルバ」護謨ノ價格ハ運賃ヲ含マズシテ一封度米賃銀五仙前後ニシテ廢物護謨ハ其半額ノ價格ヲ有シ尙ホ護謨樹ノ種子ハ一封度銀價二十五仙ニテ賣却スト云フ

第五節 「ソコムスコ」郡ニ於ケル外國人ノ企業

「ソコムスコ」郡ノ土民ハ他ノ熱帶地土人ト等シク一般ニ懶惰無氣力ニシテ企業心ニ乏シク例令目前ニ富源ノ横ハルモノアルモ之ヲ開發セントスルニアラス徒ニ天然ノ惠澤ニ浴シ濫爾トシテ安閑其日ヲ送ルノ民ナリ即チ彼等ハ使ハル、民ニシテ使フ民ニアラサルナリ「ソコムスコ」郡ノ天惠ハ前陳ノ如ク之ニ居ヲ占ムル人又斯クノ如キ状態ニアラヲ以テ産業ハ發達シ國力ハ充實シ最早本國ニ於テハ發展ノ餘地ナキ歐米ノ企業者ニ取リテハ同郡ハ實ニ恰好ノ事業地ト云フヘキナ

リ今「ソコムスコ」郡ニ存在スル外國資本額及投資事業ヲ國別スレハ凡ソ左ノ如シ

國名	事業ノ種類	資本額
獨逸	咖啡栽培業	二千萬元
米	護謨及咖啡栽培業	二千萬元
西	咖啡及護謨栽培業	六百萬元
英	咖啡及護謨栽培業	三百萬元
佛	咖啡栽培業	三百萬元

以上ハ「タバチニラ」市駐在西班牙副領事(西國植民ニシテ郡内重ナル企業家)ヨリ聞取タル所ナルガ尙ホ同市辯護士ニシテ公證人タル「パニアグヤ」氏ヨリ同氏カ明治四十一年迄農業用地トシテ公證シタル「ソコムスコ」郡ニ於ケル外國人ノ所有ニ係ル土地ノ總價額ヲ聞クニ四百四十一萬二千三百圓ニシテ之ヲ國別スレハ左ノ如シ

所有外國人	公證地價	所有外國人	公證地價
獨逸人	一百三十七萬三千四百四十四圓	日 本人	三萬二千五百圓
米 國人	一百二十二萬七千二百二十圓	伊 國人	二萬八千三百二十圓
西班牙人	九十三萬一千三百四十圓	「グアテマラ」人	一萬三千圓
英 國人	四十六萬四千八百十四圓	土耳其人	五千六百五十圓
佛 國人	三十三萬五千七百七十五圓	計	四百四十一萬一千二百二十三圓

尙ホ同公證人ノ推測スル所ニヨレハ爾來四年間ニ於ケル外國人ノ所有ニ係ル土地ハ増加シテ十倍セルモノアルヘント云フ左ニ小官カ「タバチニラ」市滞在中英、米、獨、西、佛領事及此等諸國ノ事業家ニ就キテ調査シタル「ソコムスコ」郡ニ於ケル外國人ノ事業ノ概況ヲ記載スヘシ

(一) 護謨栽培業者ノ部

- 一、米國會社 La Zamulpa Rubber Plantation Co.
 - 二、 La Zamulpa Plantation Co.
 - 三、 Hidalgo Plantation & Commercial Co.
- 以上三會社ハ同一會社ニシテ本店ハ北米亞港ニヤリ

護謨林ノ價值 二十萬圓ヲ稱セリヤ
 同會社ノ「サンタ・ルシア」C. A. Lesler ノ「サン・ペドロ」市ニ在リ
 英國會社 Cia. Hileria Mexicana de Da. Maria
 護謨林ノ價值 四十二萬圓
 支配人 A. Reed ノ「サン・ルイス」郡「サン・ペドロ」ニ在リ
 一、英國會社 Cia. Dorado Nuevo 林
 持主 Chiquis Land Co.
 價值 不詳
 一、米國會社 Santa Clara 林
 La Amistad 林
 以上二林共米國會社 Cia. Americana St. Paul ノ所有ニ屬ス
 護謨林ノ價值五十萬圓
 支配人 E. A. Quilby ノ「サン・ルイス」郡前記「サン・ペドロ」林ニ在リ
 西班牙人所有 Plantacion Guadalupe 林
 在「サン・ルイス」市西班牙國領事 José Revuelta ノ所有ニ屬ス
 價值 二十萬圓
 佛國人ノ所有 Nueva Francha 林
 在「サン・ルイス」市 Juan Mariño ノ所有ニ屬ス
 價值 三十萬圓

(二) 珈琲栽培業者ノ部 (珈琲園中主ナルモノノミヲ舉グ)

珈琲園名	持主	産出高 ポンド	珈琲園名	持主	産出高 ポンド
Hamburgo	Suthmann Dalermann	8,000	El Retiro	Adolfo Giesemann	8,000
Laibee	F. Pohlenz	6,000	San Nicolas		
Bremen			Ovralonga	Furbach & Dietze	8,000
Garmatia	G. Kahl	8,800	Mexquito		
San Cristobal	Wedular Brothers	8,000	San José		
Argovia	Jacoby Brothers	8,000	San Luis Miramp	G. Gahardt	8,800

San Antonio } Baron Von Turenkin (Baten) 10,000
 Libertad }
 El Manacel } Alfred Wähler 8,700
 Morelia }
 Santa Lucia } Heinkel & Cia. 11,000

(ロ) 西班牙人ノ部

Santo Domingo } Casimiro Gandara 8,000
 La Alhaza } José Revuelta 8,000
 Alpujarras } Casimiro Gandara 8,000

(ハ) 米國人ノ部

米國人ノ部	持主	産出高 ポンド	米國人ノ部	持主	産出高 ポンド
Alais			Lerd		
Laguna			Santa Rosalia		
Esmeralda			Trianda		
Guarajato			Esperanza		
Acapulco			La Patria	R. O. Stevenson	8,000
Hidalgo					11,000
Paris					

(ニ) 英國人ノ部

San Juan La Chicharras } Rossing Brothers & Co. 8,000
 Guatamac } Percy Christy 8,000
 計 10,000

(ホ) 佛國人ノ部

Maravilla } J. Mariño 10,000
 Génova } Antonio Mariño 8,000
 計 18,000

前表ニヨリテ之ヲ觀ルニ「ソノコスコ」郡ニ於ケル珈琲栽培業者ノ大部分ハ獨逸人之ヲ占メ其勢力實ニ侮ルヘカラサルモノ

以上ハ外國農業植民ノ企業ヲ表示シタルモノナルカ、翻テ同郡ニ於ケル外國商業植民ノ状態ヲ觀ルニ商業ハ全然獨逸人、西班牙人、日本人、支那人及土耳其人ノ占ムル所ナリ勿論一國邊陲ノ一郡ニ於ケル商業ナレハ大都會ニ於ケルカ如ク事業ノ大規模ハ之ヲ望ムヘカラス

今「タバチエラ」市外國實業者ニシテ商業通ノ語ル所ニ據レハ郡内主ナル各國商人ノ状態凡ソ左記ノ如シ

國籍	商號	商業ノ種類	商品現在高
獨逸	Hanki & Co.	鐵器衣服織物其他雜貨	110,000
同	Oon Marth	同上	100,000
同	Juan Hatcher	同上	100,000
日本	日墨協働會社	同上	150,000
同	小橋岸合名會社	同上	100,000
西班牙	Darista Fernandez	衣服織物食料品	100,000
同	Mariano Fuentes	同上	60,000
同	Francisco Gordon	同上	60,000
支那	Can Tai Ohong	雜貨飲食料品	100,000
同	Kwong Ahong & Co.	同上	90,000
同	Took Lee	同上	90,000

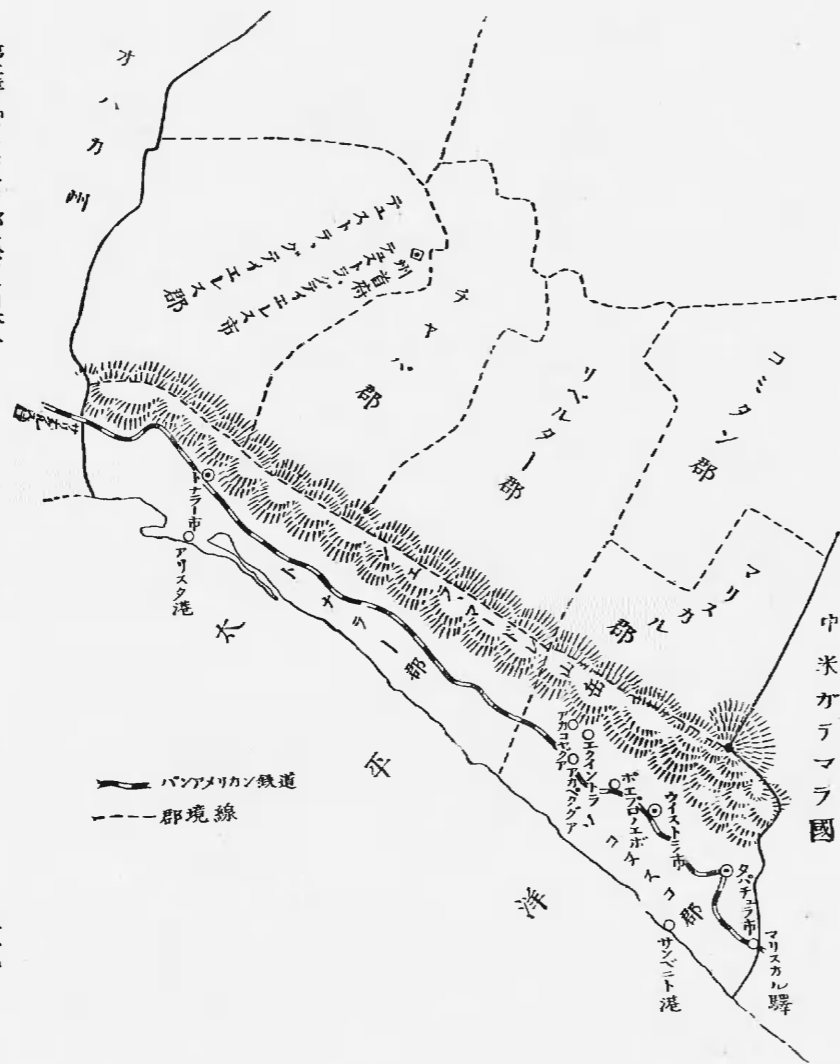
以上ハ唯著名ナル者ノミヲ舉ケタルモノナルカ此ノ外尙ホ外國商業植民ノ數決シテ少シトモ然レトモ雜貨飲食料品ニ關スル商賣ハ「ソコムスコ」郡ニ於テハ墨國太平洋岸ヨリ中米ニ掛ケ南米秘露邊ニ至ル迄ノ諸地方ニ於ケルト同シク殆ト支那人ノ一手ニ歸シ其勢力マタ見ルヘキモノアリ

第二章 「ソコムスコ」郡ニ於ケル日本人

第一節 「ソコムスコ」郡ニ於ケル日本人植民地及植民事業ノ概況

「チャバス」州「ソコムスコ」郡ニ到ル路筋ハ本報告第一章第二節ニ於テ記述セル如クナルカ尙ホ「パン、アメリカン」鐵道ニヨリテ郡境ヲ越ヘ南進スルコト更ニ三里即チ「サリナクルス」港ヨリ九十五里ノ地點ニ於テ「エスタイントラ」ト稱スル驛ニ達ス同驛ハ名ヲ「エスタイントラ」ト稱スト雖モ其實「アカベタダ」村内ニアリテ邦人ノ間ニ日本人植民地ノ中心トシテ知ラルル「エスタイントラ」村 Escentia proper ニハアラサルナリ「エスタイントラ、プロバ」ハ鐵道ノ北側ニ方リ同驛ヨリ凡ソ二里ヲ隔テ「シエラ、マードレ」山脈ノ麓ニ位スル一村落ナリトモ「ソコムスコ」郡内行政區劃トシテ「エスタイントラ」村ハ人口一萬ヲ有シ東西、南北共ニ十里内外ニ亘ル大村落ニシテ舊植民地全部ハ勿論、村内各所ニ他村ノ點々存在スルモノアリ例ヘハ前記停車場所在地「アカベタダ」村及ヒ今ヤ日本植民ニ對シ土地回收熱ノ盛ナル「アカコヤダ」村ノ如キハ何レモ「エスタイントラ」村内ニ點々在シ各自獨立ノ村役場ヲ有シテ直接「タバチエラ」郡廳ニ隸屬ス汽車ヲ降リテ停車場ヲ出ツレハ二戸ノ雜貨店ノ目前ニ現ハル、モノアリ即チ一ハ日本植民團體タル日墨協働會社「アカベタダ」村支店ニシテ他ハ同シク小橋岸本合名會社ノソレナリトモ此ノ地方ニ於ケル土人ノ家屋ト異ナリ家屋ラシキ家屋ヲ構フルヲ以テ著シク新來者ノ注意ヲ惹ク名ハ日本人ノ雜貨店ナレトモ日本ノ貨物トテハ更ニアルコトナク皆土人ノ日用品タル耕作用具、鐵器、道具、衣服、織物、又ハ飲食料品ニ止ル蓋日本ヨリ海外ニ輸出スル雜貨ハ主トシテ贅澤品ニシテ日常必需ノ物品ニアラサルヲ以テ其墨西哥國ニ輸入セラル、額ハ歐洲ヨリ輸入セラル、雜貨品ニ比シ僅少ナルハ故ナキニ非ルナリ

「アカベタダ」村ヲ去リテ「エスタイントラ、ベロバ」ニ向ヘハ騎馬程一時間餘ニシテ「シエラ、マードレ」ノ裾野ニ入りシト思フ頃同村ニ達ス途中特ニ人目ヲ引クモノハ道路ニ沿フテ架セラレタル二條ノ電線アルコトコレナリ即チ一線ハ日本植民カ維持費ノ不足ヲ負擔スルヲ條件トシテ特ニ墨國政府ニ請願シテ設立ヲ許可セラレタル「エスタイントラ」村電信局ニ到ル電線ニシテ他ノ一線ハ日墨協働會社私用ノ電話線ナリトモ尙ホ同會社ハ此ノ電話線ヲ近傍ニ在ル英米人ノ護謨林ニ延長シ同商店ノ得意先ニ便宜ヲ與フト云フ



「エストライントラ、プロババー」ハ現在「チャバス」別日本植民ノ本據ニシテ舊本植民カ「エストライントラ、プロババー」ノ北方一帯ノ山地ヲ本據トセシニ反シ全然平地ナリトス蓋シ根本植民ノ目的ハ専ラ農業植民ヲ建設セントスルニ在リシモ現今ノ植民ハ多年ノ經驗ニ鑑ミ農業ヲ専門トスル植民地ノ經營ハ無資力ナル彼等ノ能クスル所ニアラサルコトヲ覺リ商業ヲ兼營シ先以テ金融ヲ豐ニスルノ植民事業經營上寧ロ必要ナルヲ感シタルカ爲メナリ「エストライントラ、プロババー」ハ人口一千内外ノ一村ヲ過キスト雖モ北方「シエラ、マードレ」山脈内珈琲園、牧場、農場其他ニ散在スル土民ノ數ハ決シテ少クニアラスト云フ、コレ即チ「エストライントラ、プロババー」ノ如キ一小村落ニ於ケル我商業植民カ相當繁昌スル所以ナリトス、而シテ彼等ハ近村「アカベタグア」村及「アカコヤグア」村ニ支店ヲ置クノミナラス更ニ「エストライントラ」ヨリ南方四里ヲ隔ツル「ボエプロ、ノエボ」村、同シク八里ヲ隔ツル「ウイストラ」町及尙ホ十九里ヲ距ツル「タバチュラ」市及「シエラ、マードレ」ノ地方「マリスカル」、郡内「サン、イシドロ」村ニ支店ヲ置キテ商業ニ従事ス何レモ其地方ノ日用品タル鐵器、耕作用具、一般道具、衣服織物等ノ雜貨及飲料品ヲ販賣ス但シ「タバチュラ」市「ウイストラ」町及ヒ「エストライントラ」村ニ於テハ雜貨店ノ外藥種店ヲ設ケコレニ醫局ヲ附屬シ日本醫師ヲシテコレヲ擔當セシメ以テ一般土民ノ診察治療ニ應ス其狀頗ル有望ナルモノアルヲ認メタリ

又農業地トテハ「エストライントラ」村、「アカコヤグア」村、「アカベタグア」村及其他近村ニ廣大ナル地面ヲ所有シ漸次其經營ニ従事シ就中「アカコヤグア」村ノ如キハ全村殆ント日本人ノ所有ニ屬スル有様ナルヲ以テ村民カ時々日本人ニ對シ土地回收ノ運動ヲ爲ス亦無理ナラサル事情ナキニアラス、而シテ舊本植民地ハ今ヤ其大部分ハ墨國人「カステイヨ」ノ所有ニ移リシカ殘餘ノ中一萬三千五百二十六町歩ハ藤野植民地トシ又五千七百五十八町歩ハ小林(直太郎)植民地トシテ現存シ後者ハ之ヲ土民ニ貸シ付ケ少クノ地代ヲ徵スルノミナリト雖モ前者ハ管理人布施常松コレカ開拓ニ従事ス

以上列記セル所ヲ各植民地別ニシ其事業及ヒコレニ關スル植民ノ數ヲ表示スレハ左ノ如シ

(一)「エストライントラ」村ノ部

- (イ) 日墨協働會社所屬
 - 一、會社本部(理事照井亮次郎)
 - 二、同 社 本 店
 - 三、同 社 支 店
 - 四、同 社 藥 種 店
 - 五、同 社 附 屬 植 民 兒 童 小 學 校
 - 六、同 社 農 場 及 牧 場
- (ロ) 小橋岸本合名會社所屬
 - 同 社 商 店
 - 村 川 商 店
 - 中 村 平 井 商 店
 - 中 川 商 店
 - 西 澤、入 山、入 江 商 店
 - 藤 野 農 場
 - 小 林 植 民 地
 - 野 村 農 場
 - 田 邊 農 場
 - 西 澤 野 菜 園(舊 玉 川 農 場)
 - 堀 田 農 場 兼 醫 業

																				日 本 人	一 人		墨 人	一 人
																					三 人			一 人
																					二 人			二 人
																					二 人			二 人
																					三 人			一 人
																					一 人			一 人
																					三 人			一 人
																					一 人			一 人
																					一 人			一 人
																					一 人			一 人
																					一 人			一 人
																					一 人			一 人

- (ウ) 太田農場兼醫業
 - 「エクスイントラ」村小計
- (二) 「アカコヤグア」村ノ部
 - (イ) 日墨協働會社所屬
 - 一、同 社 支 店
 - 二、同 社 陶 器 製 造 場
 - (ロ) 小橋岸本合名會社所屬
 - 一、同 社 支 店
 - 二、同 社 牧 場 及 甘 蔗 園
 - (ハ) 藤野植民地管理人布施常松所有牧場
 - 「アカベシダア」村小計
 - 「アカコヤグア」村ノ部
- (三) 日墨協働會社所屬
 - 一、同 社「タフコ」農場及甘蔗園
 - 二、同 社 支 店
- (四) 「アカコヤグア」村小計
 - 「マリスカル」郡「サン、インドロ」村ノ部
 - 小橋岸本合名會社支店
 - 小 計

(五)	「ボエブロンエボ」村ノ部	日本人	二人	墨人	一人
(イ)	村川商店支店	同	一人	同	数人
(ロ)	山本仙吉農場	同	三人		
	「ボエブロンエボ」村小計				
(六)	「ウイストラ」町ノ部				
(イ)	日墨協働會社所屬				
	一、同社「ウイストラ」商店	同	五人	同	四人
	二、同社藥種店及醫局	同	二人	同	
	三、同社「ウイストラ」商店支店	同	一人	同	
(ロ)	床屋兼小間物業	同	一人		
	「ウイストラ」町小計	同	九人		
(七)	「タバチユラ」市ノ部				
	日墨協働會社所屬				
	一、同會社藥種店及醫局	同	七人	同	三人
	二、同會社染物業部	同	一人	同	
	「タバチユラ」市小計	同	八人	同	
	「ソコススコ」郡總計	同	六十九人	同	

前表ニ示スカ如ク植民事業關係者ノ數ハ凡ソ六十九人ナルカ各所散在者並ニ植民ノ妻及兒童ヲ計算スル時ハ八十一人ナリトス尙コレニ植民ノ墨國人タル妻及ヒコレヨリ生ラル兒童ヲ計算スル時ハ百人以上トナルヘシ

第二節 日墨協働會社ノ狀態

第一項 日墨協働會社ノ組織

日墨協働會社トハ明治三十一年中榎本植民地經營者ト共ニ渡來セシ宮城縣農學校卒業生照井亮次郎外數名カ同植民地失敗後尙殘留シテ別ニ植民事業ヲ企テ其事業ノ稍々見ルヘキモノアルニ至リ協働組合ヲ組織シ次テ明治三十九年九月一日墨國々法ニ遵ヒ之ヲ法人トナシ日墨協働會社 (Compañia Japonesa Mexicana, Sociedad Cooperativa) 稱シ前記照井亮次郎同會社理事トナリ以テ今日ニ至レルモノナリ即同會社ハ純然タル墨國會社ナリトス

今左ニ日墨協働會社定款ノ要領ヲ摘載シテ同會社組織ノ大體ヲ示サント欲ス

- 一、會社理事、會社ハ理事之ヲ主管ス、理事ハ選舉ニヨル
- 二、社員、社員ハ創立者及ヒ總會ノ承認ヲ經テ入會ヲ許可セラレタルモノタルヲ要ス
- 三、社員ノ私有財產及株式、社員ハ自己ニ屬スル一切ノ財產ヲ會社ニ提供シテ別ニ私有財產ヲ貯フルコトヲ得ズ、但シ其提供シタル出資額ニ對シテハ株式ヲ分配ス
- 四、社員ノ家族、社員及其家族ノ生活費ハ會社ニ於テ全部之ヲ負擔ス但シ家族ハ會社ノ命ズル所ニヨリ其事務ヲ執ル義務アルモノトス
- 五、利益配當ノ方法、凡テ會社ノ純益ハ社員ノ間ニ於テ百分比ヲ以テ配當率ヲ投票シ其結果ニヨリ配當ス
- 六、社員ノ退社規定、社員ハ自由ニ退社ヲナスコトヲ得、但シ其出資金及財產ハ十ヶ年賦ニテ拂戻ヲ受クルモノトス、會社ハ其拂戻金ニ對シテ六分ノ利ヲ附ス
- 七、社員ニ對スル罰則、何等特ニ罰則アルコトナシ、唯投票配當ノ法ニ依ルノミ
- 八、配當額、會社定款ニハ配當額ハ純益金ノ一割トストアレトモ實際餘り多額ニ過フルヲ以テ總會ノ結果該率以下ヲ配當ス
- 九、社員ノ私用金、社員ハ其私用金トシテ其金所有金ノ百分ノ十以上ヲ積貯スルコトヲ得ズ
- 十、定款ノ改正、定款ノ改正ハ社員總數ノ百分ノ八十以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス
- 十一、會議ノ方法、總會ノ方法ハ墨國株式會社ノ方法ニ依ル

第二項 商業植民トシテノ日墨協働會社

第二章 「ソコススコ」郡ニ於テル日本人

日墨協働會社ハ「エスクイントラ」村ニ於テ本店並ニ支店ノ外藥種店一戸ヲ有ス而シテ本店ト支店トハ何レモ雜貨店ニシ
テ土人ノ日用品タル器具、道具、鐵器、耕作品、衣服織物、小間物、荒物、飲食料品ヲ販賣ス又藥種店ハ同村ニ於ケル
唯一ノ藥房ナルノミナラス村内ニハ土人醫師ナキカ故ニ別ニ醫局ヲ置キ藥房主任ヲシテ土民ニ對シ診察ヲナサシメ簡單
ナル治療ヲ施サシムル方法ヲ設クル等努メテ土民ノ便利ヲ計ルヲ以テ頗ル繁昌スルノ狀アリ又同店ハ副業トシテ「ラム
ネ」製造ニ從事ス熱帶地ノ事トテ賣行甚タ好ク近村ニ於テ消費スル「ラムネ」水ハ概ネ同店ノ製造ニ係ルモノナリト云フ
本店及支店ハ會社創立者ノ一人タル清野三郎之ヲ主管シ日本人四人及墨人二人ヲ使用ス又藥種店ハ前ノ農商務省實業練
習生山中金五郎之ヲ主管シ日本人一人及墨人一人ヲ使用ス

明治四十四年八月ノ調ニ據リ(以下コレニ準ス)「エスクイントラ」村ニ於ケル前記各商店ノ資本金額ヲ觀ルニ本店ハ五萬
九千四圓三十五錢ニシテ支店ハ四千五百四十二圓二十九錢ナリ尙ホ藥種店ハ創立日淺キカ爲メニ事業ノ有望ナルニ比シ
テ其規模甚大ナラス資本金ハ二千八百十九圓四十八錢ナリ而シテ商店及住宅ハ本店ノ家屋ヲ除キ他ハ悉ク會社ノ所有
ナリト云フ尙ホ社員及使用人ノ娯樂ニ供スル爲メ會社ハ甚ダ粗末ナガラ一戸ノ玉突場ノ設備ヲ有セリ、又同社ハ近村「ア
カコヤグア」村内ニ一戸ノ支店ヲ有スコレ亦同シク雜貨店ニシテ其資本金二千七百七十八圓三十二錢ナリト云フ而シテ商店
用ノ家屋ハ最近ノ新築ニ係リ村内最大最新ニシテ同シク會社ノ所有ナリトス、會社所屬「タフコ」農場主任ニシテ會社創
立者ノ一人タル山本淺次郎之ヲ兼管シ日本人一人及墨人一人ヲ使用ス

因ニ記ス、本「アカコヤグア」村ハ日本人ニ對スル土地回數熱ノ盛ナル所ニシテ小官觀察中モ同村民ハ日本人ニ對シ警覺心ヲ有スルノ風アルヲ認メタ
リ惟フニ日墨協働會社ノ同村内ノ支店ハ數年前ニ設立シタルモノナリ而シテ今日ハ早ヤ既ニ家屋ヲ新築シ又此ノ家屋ヲ村内最大最新ニテ特ニ人日ヲ奉
テ以テ土人等ハ日本人ノ發展ニ對シ嫉妬心ヲ有スルハ事實ナルガ如シ此等ノ事情モ亦土地回數熱ノ間接ノ原因トナスモノト認メテラ

會社ハ又「エスクイントラ」停車場所在地「アカベタグア」村内ニ支店一戸ヲ有ス同シク土人ノ日用雜貨品及飲食料品販賣
店ニシテ資本金ハ七千三百八十八圓四十七錢ナリ而シテ商店用家屋、所屬倉庫及敷地ハ何レモ會社ノ所有ニシテ會社創立者
ノ一人タル鈴木若之ヲ主管シ日本人三人ヲ使用ス尙ホ同會社ハ土民ノ日用土器ヲ製造スルノ目的ヲ以テ「アカベタグア」

村内ニ土器製造場ヲ設立シ小官觀察當時ハ頗リニコレカ試驗中ナリシカ成績良好ニシテ將來頗ル有望ナリトノ事ナリ蓋
シ日本職工ノ製作品ハ土人ノ其レニ比シ遙ニ巧妙ナルニ拘ラス同一價格ヲ以テ販賣シ得レハナリ

「ウイストラ」町商店、及藥種店。「エスクイントラ」驛ヨリ「グアテマラ」國方面ニ向ツテ鐵路八里ノ地點ニ「ウイスト
ラ」ト稱スル町アリ同町ハ「ソコヌスコ」郡ノ珈琲分配場ニシテ將來繁昌ノ見込アル一小都會ナルカ日墨協働會社ハ同地
ニモ同シク雜貨店及藥種店ヲ有ス而シテ該雜貨店ハ本店ト支店トニ分レ本店ハ藥種店ト同シク停車場前ニ位シ支店ハ町
ノ中央部ニアリ而シテ前者ノ資本金ハ二萬九千二百五十九圓八十七錢ニシテ後者ハ千九百四十四圓九十三錢ナリトス會
社創立者ノ一人タル有馬六太郎之ヲ主管シ日本人五人及墨人四人ヲ使用ス而シテ附屬「ラムネ」製造場ハ町内一手製造元
ニテ頗ル繁忙ノ狀アルヲ認メタリ又藥種店ハ資本金千八百九十六圓十七錢ニシテ醫師檜木大藏之ヲ主管シ附屬醫局ニ於
テハ専ラ公衆ノ診察ニ應ジ又手術治療ヲ施ス而シテ患者ハ獨リ町民ノミナラス近傍農園牧場等ヨリ往診ヲ請求シ來ルモ
ノ少カラスト云フ、商店用家屋及社員ノ住宅ハ悉ク會社ノ所有物ナリ

「タバテラ」市藥種店。「ウイストラ」町ヨリ尙ホ「グアテマラ」國境ニ向ツテ鐵路十里ノ地點ニ「タバテラ」市アリ同
市ハ「ソコヌスコ」郡ノ首府ニシテ人口約一萬ヲ有シ墨國地方ノ都會トシテ可ナリ繁昌ノ地ナルカ日墨協働會社ハ同市ニ
一戸ノ藥種店ヲ有ス資本金一萬五千六百二十八圓七十三錢ニシテ會社創立者ノ一人タル高橋熊太郎之ヲ主管シ日本人五
人及墨人三人ヲ使用ス附屬醫局ハ醫師湯淺要作之ヲ擔任ス又高橋ハ最近ニ至リ市内ニ染物場ヲ起シタルカ工業ノ發達セ
ナル墨國地方ノ事トテ營業頗ル有望ニシテ業務日々益々多忙ナルノ狀アルヲ認メタリ

今試ニ同藥種店ノ帳簿ニヨリ其營業狀態ヲ視ルニ本年一月中ノ藥種賣上高ハ二千六百七十三圓ニシテ診察料ハ八百五十
圓ニ達セリ尙ホ四十四年度中ノ純益金ハ一萬一千百圓ナリキ而シテ是迄同藥種店附屬醫局ヲ擔任セル代々ノ醫師ハ一二
年ニシテ何レモ皆資金ヲ貯蓄シテ獨逸ニ留學セリト云フ又以テ同店ノ營業狀態ノ一斑ヲ窺フヘシ
今以上記述セル所ヲ一目瞭然タラシメンカ爲メニ之ヲ表示スレハ左ノ如シ

店名	資本金額	店名	資本金額
「エストロ」村商店本店	五萬九千四百三十五錢	「エストロ」町商店本店	二萬九千二百五十九圓八十七錢
「エストロ」村商店支店	四千五百四十二圓二十九錢	「エストロ」町商店支店	一千九百四十四圓九十三錢
同	同	同	同
「アカコヤダ」村支店	二千八百十九圓四十八錢	「タバチユラ」市藥種店	一萬五千六百二十八圓七十三錢
「アカコヤダ」村支店	二千七百七十八圓三十二錢	同	同
「アカベタダ」村支店	七千三百八十四圓四十七錢	計	十二萬四千三百十二圓六十一錢
同	同		
土器製造場	未詳	染物場	未詳
計	七十三萬三千八百七十三圓七十三錢	計	一〇〇,〇〇〇

所在地	商店主任名	主任數	使用日本人數	使用墨人數
「エストロ」村	照井亮次郎	一	一	一
同	清野三郎	一	一	一
同	山中金五郎	一	一	一
同	山本淺次郎	一	一	一
「アカコヤダ」村	鈴木若	一	一	一
「アカベタダ」村	有馬六太郎	一	一	一
同	橋本大藏	一	一	一
「ウイストラ」町	高橋熊太郎	一	一	一
同	染物場	一	一	一
「タバチユラ」市	醫師湯淺要作	一	一	一
計		九	九	九

以上ハ日墨協働會社ノ商業部ノ概況ナルガ就中同社ノ藥種店業ハ獨リ會社ノ營利ノ事業ナルノミナラズ或ル意味ニ於テハ墨國ニ向ツテ日本ノ文化ヲ紹介スル仲立トモナルモノニテ日本ノ爲メニハ寧ロ歎クベキ事業ナリトス仍テ左ニ聊カ該藥種業ノ成リ立チヲ記述シテ無資力移民ノ植民ニ化スル状態ノ一端ヲ示シ讀者ノ參考ニ供セント欲ス

抑モ同會社ノ藥種業ハ會社創立者ノ一人タル高橋熊太郎ノ考案ニ出ヅ、同人ハ理事照井同シク宮城縣立農學校ノ卒業生ニシテ三十一年中板本植民トシテ來墨セルモノナルガ板本植民地失敗後新植民地ヲ設立スルノ目的ヨリ「タバチユラ」

市ニ來リ一獨逸人ノ商店ニ備ハレ當初ハ月給僅ニ四圓ヲ得タリシガ漸次主人ノ信用ヲ得遂ニハ月俸二百圓ヲ得ルニ至レリト云フ彼ハ常ニ其俸給ヲ貯蓄シテ組合植民ニ送リ以テ其事業ヲ補助シタリ然レドモ彼ノ目的タル既記ノ如ク何時カ植民事業ヲ起サントスルニアリテ雇人タルハ唯其一時ノ手段ニ過ギザリシヲ以テ常ニ土民事情ノ研究ヲ怠ラザリシガ同地方ニ於ケル醫術ノ甚ダ普及セザル状態ニ注目シ日本醫師ヲシテ同市ニ開業セシムルノ甚ダ有望ナルヲ覺リ茲ニ於テ醫術ヲ開業シ傍ラ藥種ノ販賣ヲ營マンコトヲ計畫シ再三日本ヨリ醫師ヲ呼ビ寄セント試ミシモ當初ハ一人トシテコレニ應ズルモノナカリシカバ途ニ支那人ノ醫師ヲ備ハント決心セル程ナリシガ會々熊本ノ醫師檜木某(同人ハ獨逸ニ留學シ自下歸國中)ノコレニ應ズルモノアリシカバ明治三十九年九月中「タバチユラ」市ニ醫術ヲ開業シ次デ翌明治四十年四月中現今藥種店ノ端緒ヲ開キタリ然レドモ當初土民ハ日本醫師ノ信用ヲ疑ヒ容易ニ治療ヲ依頼スル者尠ク又從テ藥種ノ賣行キ僅少ニシテ當初ハ診察料及賣上高ヲ合セテ一ヶ月漸ク二百圓内外ニ過ギザリシガ高橋ノ熱心ト檜木醫師ノ親切トハ遂ニ土民ノ間ニ信用ヲ博シ患者ノ數ハ其後盛々多ク又藥種モ其賣上高ヲ増加シ今日ニ於テハ最早遠ク土民ノ醫師ヲ凌ギ又藥種店ハ「タバチユラ」市第一等ノ位置ヲ占ムルニ至レリ而シテ同藥種店ノ現狀ハ頗ル確固タルモノアリ將來モ亦大ニ樂觀スベキモノナリト認メラル

「タバチユラ」市ニ於ケル藥種業ハ斯ノ如クニシテ成リ立チ又斯ノ如ク良好ナル成績ヲ舉ゲタルヲ以テ日墨協働會社ハ遂ニ事業ヲ擴張シテ既記ノ如ク「ウイストラ」町、及「エストロ」村ニモ藥種店ヲ開キタルガ何レモ「タバチユラ」市ト事情ヲ同フシ該事業ハ將來大ニ發展ノ見込アリ、但シ愛ニ注意スベキハ日墨協働會社ノ販賣スル藥品ハ主ニ外國製品ニシテ日本品ニアラザルコトナリ蓋シ日本ノ製品ハ其性質比較的良好ナルニ拘ラズ製造及荷造ノ方法宜シキヲ得ザルヲ以テ殆ンド賣行キナク又輸入ノ際(瓶詰其他ノ關係上)馬鹿氣タル税金ヲ徴セラル、爲メ甚ダ不利ナリト又高橋ハ今日外國藥劑師ト同ジク外國醫師ノ認メタル處方箋ヲ容易ニ了解シ得ル者ナルガ彼ガ此ノ程度ニ達スル迄ニ經驗シタル辛苦ハ實ニ一方ナラザルモノアリト語レリ

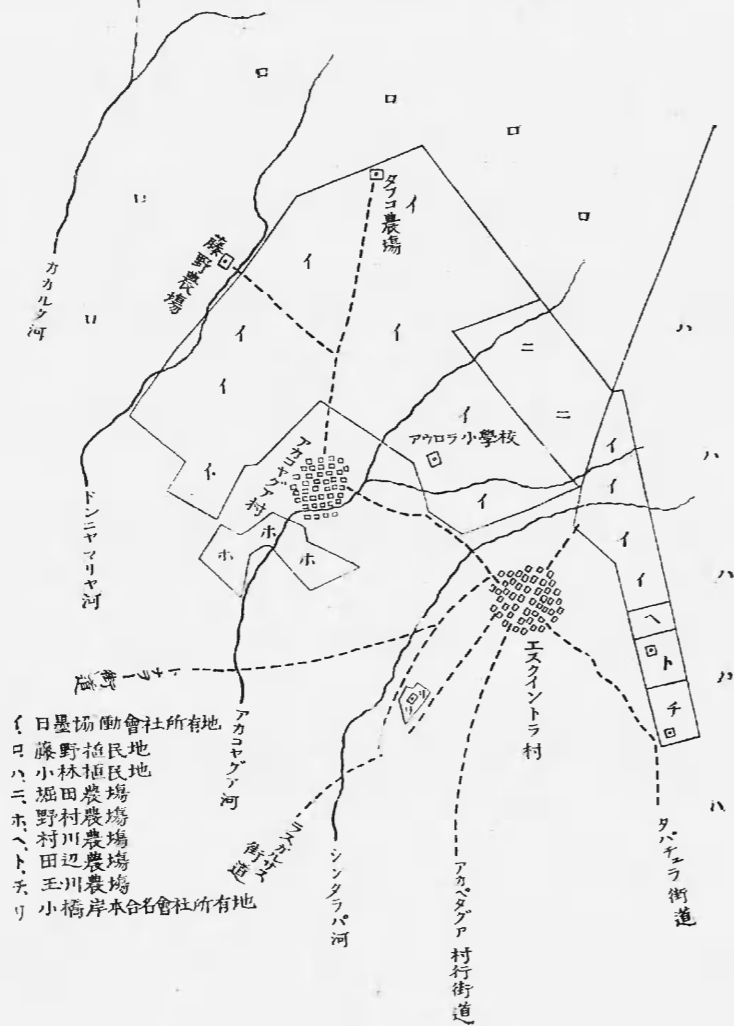
第三項 農業植民トシテ日墨協働會社

日墨協働會社ノ農業部ハ商業部ニ比シ甚ダ遜色アリト云ハザルベカラズ蓋シ未開ノ地ニ於ケル農業植民策ハ獨リ長時日ヲ要スルノミナラズ又多大ノ資本ヲ要シ短日月ノ間ニ目醒マシキ發展ヲ見ルコトハ到底望ムベカラズ況ンヤ無資力ヨリ即キ上ケテ漸ク今日アルヲ得タル日墨協働會社ノ如キニ於テオヤ、然ルニ同會社ガ今日兎ニ角「エスキントラ」村ヨリ「アカコヤグア」村ニ掛ケテ千町歩内外ノ地面ヲ其所有ニ歸シコ、ニ相當ノ經營ヲ爲シ居ルガ如キハ寧ロ良成績ト云ハザルベカラズ

試ニ同會社ノ所有地ヲ視ルニ何レモ平地ニシテ地味頗ル豊饒ナリ四十七町歩ノ「タフコ」農場、七百三十一町歩ノ「ロシヤ」耕地及二百二十四町歩ノ「メモリア」耕地ハ即チ圖ニ視ユルガ如ク「エスキントラ、プロバー」及「アカコヤグア」村ノ附近ニ位シ殊ニ「アカコヤグア」村ノ耕地ハ殆ンド同村ノ周圍ヲ占ム、而シテ「タフコ」農場ノ地所ハ三十一年中一町歩四圓八十錢ノ割ニテモ植民地承繼者ノ一人タル藤野辰次郎ヨリ買受ケタルモノニシテ又「ロシヤ」耕地ハ「エヒード」(Ehido)ト稱スル舊村用地ヲ三十九年中政府ヨリ拂下ケテ受ケタルモノナリ日露戰爭後ニ取得シタルノ廉ヲ以テ「ロシヤ」ト命名セリト又「メモリア」耕地ハ翌四十年中舊植民地承繼者ノ一人タル小林直太郎ヨリ七百圓ニテ譲リ受ケタルモノナリトス

以上三耕地ノ内農場トシテ會社ノ爲メニ現今最モ有利ナル生産アルモノハ會社ガ最モ古ク取得シタル「タフコ」農場ナリトス而シテ同農場ハ「ドンニヤ、マリヤ」河ノ支流ニヨリテ舊植民地ノ一部藤野農場ト境シ全部平地ニシテ甚ダ耕作ニ好ク殊ニ甘蔗ノ栽培ニ適スルヲ以テ日墨協働會社ハ今ヤコレニ甘蔗ヲ植付ケ酒精釀造ニ從事ス而シテ釀造場ハ前記「ドンニヤ、マリヤ」河畔ニアリテ其中心ニ釀造機械場ヲ据エ、其一方ニハ農場主任ノ住宅ヲ構ヘ他ノ一方ニハ日本人労働者ノ家屋ヲ置キ尙之ト相對シテ土人労働者ノ家屋ヲ設ケ中央ノ廣場ニハ棕櫚又ハ護謨樹ヲ植付ケ以テ日光ヲ遮避スル等設備比較的完全ニシテ日本人同業者中ニハ他ニ其比類ヲ見ザルナリ其生産高ハ年平均十七「リットル」入ノ瓶三千六百本

エスキントラ 村附近
日本人所有土地ノ圖 (五万分一)



即チ六萬一千二百「リットル」ニシテ其價額ハ一萬千五百圓内外ナリトス明治四十四年八月ノ調ニ據ルニ同農場ニ對スル會社ノ資本額ハ二萬二千六百十二圓五十一錢ニシテ會社創立者ノ一人タル山本淺次郎之ヲ主管シ日本人四人及墨國人每日三十人ヲ使用ス

其他ノ土地ハ大體ニ於テ未ダ充分手ノ行届カザルモノアルガ如クコレニ境界線ヲ張リ或部分ハ之ヲ牧場トナシ又或部分例ヘバ「ロシヤ」耕地内「アウロラ」農場ノ如キハコレニ穀物、野菜ヲ栽培ス、地味肥沃ナルヲ以テ成績頗ル良好ナルモノアリ農場主任ハ地方農學校卒業生渡邊忠次ニシテ墨國人五人ヲ使役ス

以上列記セル所ヲ表示スレバ左ノ如シ

農場名	事業	面積	資本
「タフコ」農場	酒精醸造業	四十七町歩	二萬二千六百十二圓五十一錢
「ロシヤ」耕地	牧場野糞肥料、果實	七百三十一町歩	七千六百十一圓三十八錢
「メモリヤ」耕地	牧場	百二十四町歩	不詳

而シテ以上農場耕地ノ人員ヲ見ルニ左ノ如シ

「タフコ」農場主任	山本淺次郎	使用日本人	計	墨國人
「ロシヤ」耕地主任	渡邊忠次	一人	二人	同
「メモリヤ」耕地	同	同	同	同
日本人計		八人		

第四項 日墨協働會社ノ成績及將來

日墨協働會社ノ事業ノ大體ハ前段既ニ之ヲ記述セリ仍テ今同會社成績ノ如何ヲ觀ルニ年々著シク良好ニ向ヒツ、アルコトヲ認ム試ミニ同會社ノ純利益金ヲ、其定款ニ基キ社員ガ受ケタル配當金ヨリ成ル社員株金額及會社ノ積立金并ニ兒童教育ノ爲メニ設立シタル學校積立金ノ三種ニ區別シテ表示スレバ左ノ如シ

年次	社員株金額	會社積立金	學校積立金
明治三十四年	二二六圓	一圓	一圓
明治三十五年	二四三圓	一圓	一圓

尚ホ以上ノ中、學校積立金ニ關シ理事照井亮次郎ノ語ル所聞クニ該積立金ハ將來之ヲ財團法人トナシ學校ヲシテ全然會社ヨリ獨立セシムルノ方針ナリト

又會社ノ財産ヲ社員及家族ノ人頭ニ割付ケタルモノナリト云フヲ見ルニ左ノ如シ

年次	人頭財產額	年次	人頭財產額
明治三十四年	二五二圓	明治三十九年	八二五圓
同三十五年	二七五圓	同四十年	一三三九圓
同三十六年	三三〇圓	同四十一年	一五五七圓
同三十七年	四九〇圓	同四十二年	一四〇四圓
同三十八年	四七九圓	同四十三年	一九九四圓
		同四十四年	四三三圓

前表中或年度ニ於テ(例ヘバ三十八年度)前年度ニ比シ減却ノ狀ヲ呈スルモノアルハ其年度中無資産社員ガ多數ニ入社シタルガ爲メナリト云フ

以上ハ日墨協働會社ノ過去ノ狀態ヲ瞥見シタル所ナルガ今雖テ同社ノ將來ヲ案ズルニ其商業ハ今後益々發達シテ必ラズ或ル程度迄ニ達シ得ベシト雖ドモ其以上ニ出ヅルコトハ不可能ノ事ナルベシ蓋シ「ソコスコ」郡ハ邊陲ノ一郡ニシテ從テ貨物需要ノ範圍ニ定限アレバナリ因テ同社ガ將來商業ノ擴張ヲ期セント欲セバ郡内ノ競争者タル西班牙人及支那人ヲ驅逐シテ其範圍ヲ占領シ尙ホ郡外ニ事業ヲ擴張スル必要アルベシ又同會社ノ農業ニ就テ之ヲ案ズルニ現今ノ所見ルベキモノハ唯酒精醸造ナルガコレモ相當有利ノ業ニハ相違ナキガ如シト雖トモ其需要範圍甚タ狭ク將來大ニ有望ナリト云フニアラサレハ同會社ガ農業植民トシテノ發展ヲ見シニハ是非或ル他ノ事業ヲ開始セサルヘカラサルヘシ然レトモ會社ハ今ヤ頻リニ資本ヲ作ルニ忙ハシク全力ヲ盡シテ其目的ノ爲ニ努力シツ、アルノ狀ヲ認メタリ

第五項 日本人ノ離婚

植民ノ妻ト子ガ植民ノ心理ニ及ボス影響ハ實ニ有力ナルモノアリテ存ス彼等ハ妻ノ爲メニ土着ノ心ヲ起シ又子ノ爲メニハ永住ノ決心ヲナス、之ヲ以テ土着心ト團結心トニシキ日本移民ノ性質ヲ了解セル照井等ハ社員ニシテ有望ナリト認ムルモノニハ可成コレニ妻帯セシメ以テ間接ニ會社ノ團結ヲ鞏固ニセンコトヲ謀レリ然レトモ社員ノ妻カ皆土人ナルハ惟フニコレ土民ニ其土着ノ意アルヲ表示シ以テ土民トノ關係ヲ懇和スル良策ナルヘシト雖トモ小官ノ觀ル所ヲ以テスレハ一般土民ハ却テ之ヲ嫉視シ又或ハ之ヲ蔑視スルノ傾向ナキニアラス例ヘハ日本人杯ノ妻ニナリヤガツテモテフ聲ハ能ク土民ノ間ニ聞カル、所ナリトス故ニ結婚ニヨリテ土民トノ關係ヲ親懇ナラシメントスルカ如キハ思モヨラサルコトナリトス況ンヤ日本人ノ結婚ハ土人ノ最モ信ヲ措ク宗教的結婚ナラサルニ於テオヤ然リト雖トモ將來此ノ地方ニ多數ノ日本植民ノ入り込ムモノアリテ土人ノ大部分ヲ結婚ニヨリテ日本人ノ親族タラシムルコトヲ得ル場合ハ此ノ限リニアラサルヘシ故ニ土人ノ妻ヲ娶リコレニヨリテ生スル利益ハ日本ヨリ妻ヲ呼ビ寄スル費用ヲ節約シテ植民ノ永住心ヲ確固タラシムル事、及ヒ妻ニヨリテ土地ノ言語習慣ヲ親シク會得シ得ル事等ノ外大ナル利益無シ而モコレニヨリテ日本人ノ威嚴ヲ損シタルコト又將來ノ發展ニ大ナル障礙ヲ及シタル事ハ決シテ小ナラサルカ如ク認メラル

加之離婚ニ伴フテ生スル問題ハ其子供ノ教育問題ナリトス子供ハ日本語ヲ學ブト同時ニ母ノ言語ヲモ解セサルヘカラス故ニ之ヲ日本ニ送リテ教育スル時ハ母ノ言語ヲ忘却スル虞アリコレ母タルモノ、忍ビ得サル所ナルヘシ然レハトテ植民地ニ於テ養育スル時ハ將來ノ植民地經營者トシテ必要ナル言語ニハ精通スト雖トモ途ニ土民化シテルヤ明ナリ又教育機關ノ具備セサル未開國ニ於テハ母ノ子供ニ授クル家庭教育ハ殊ニ緊要ナルモノニ屬スト雖トモ無教育ナル土人ノ婦女ハ決シテ其任ヲ全フシ得ヘクモノニアラサルナリ、思フニ此等ノ事情ハ照井等ヲシテ次項ニ記述セントスル兒童教育機關ヲ設置セシメタル有力ナル原因タリシモノナルヘシ

第六項 日墨協働會社附屬小學校ノ狀態

植民日本人兒童ノ増加スルニ從ヒコレニ對スル教育方法ヲ講スルハ極メテ緊要ナル事ニ屬ス殊ニ「ソコヌスコ」郡ノ如ク教育機關ノ設備甚タ不完全ニシテ全部ヲ通シテ寺小屋體ノ小學校僅ニ五校アルノミナルカ如キ地ニ於テハ最モ然リトス故ヲ以テ照井ハ深ク此ノ問題ニ焦慮シ去ル三十九年同會社所有耕地内最モ閉靜ナル場所ヲ選ヒテコレニ小學校ヲ建築セリ同校ハ「エスキイントラ、プロバ」ヨリ凡ソ一哩ヲ隔テ「ロシヤ」耕地内「アウロラ」(曉ノ義ナリ)故ニ此學校曉小學校ト稱ス。高地ニアリテ背後ニハ樹木鬱々タル山林ヲ扣ヘ又前ニハ一面蒼々タル牧場ト野菜園トヲ瞰下シ獨リ風光ノ佳ナルモノアルノミナラス又頗ル健康ニ適スル場所ノ如ク見受ケタリ(寫眞参照)

學校創立當時ハ收容シタル兒童僅ニ二三名ニ過キサリシカ現今ニテハ漸次増加シテ五歳ヨリ十一歳ニ至ル男女生徒九名ヲ收容ス何レモ校内ニ寄宿シ一名ノ日本女教師ヲシテコレヲ監督セシム蓋シ土民ノ兒童ト交ハリ其惡風ニ感染セシメザランカ爲メナリト云フ現時教師ハ日本人女教師一名墨國人女教師一名、及羅馬字教科書編纂掛トシテ東京外國語學校卒業生一名外ニ小學校附屬農場監督ニシテ臨時ニ小學校ノ監督ヲ擔任セシムル地方農學校卒業生一名都合四名ナリトス而シテ學科ハ普通日本小學校ノ課程ノ外西班牙語ヲ教授ス但シ日本語ハ羅馬字ニテ綴リタルモノヲ以テ教授シ居レルカ兒童ハ何レモ能ク日本語ヲ解シ得ルヲ認メタリ

會社カ明治四十四年中、學校ノ爲メニ費シタル經費ハ三千五百圓ニ上リシモ照井ノ語ル所ニ據レハ經費不足ノ爲メ良教師ヲ得ル能ハサルヲ遺憾トスト尙ホ會社ニ於テハ小學校ノ爲メニ積立金ノ方法ヲ設ケ將來之ヲ財團法人トシテ學校ヲシテ全然會社ヨリ獨立セシムル計畫アリト云フ今試ニ小學校ノ積立金ノ狀態ヲ見ルニ左ノ如シ

年次	積立金額	年次	積立金額
明治四十年	八百二圓	明治四十二年	二千八百六十二圓
同 四十一年	一千四百七十一圓	同 四十三年	四千三百三十四圓

明治四十四年八月ノ調ニ據レハ學校及附屬牧場ニ對スル會社ノ資本金ハ七千六百一十一圓三十八錢ナリキ

羅馬字ヲ以テ日本語ヲ教授スルコトニ就キ照井ノ語ル所ヲ聞クニ六ヶ敷日本語兒童ニ學ハシムル事ハ彼等ノ到底堪ヘ

第二章「ソコヌスコ」郡ニ於ケル日本人

難キ所ナルヘク又大ニ時間ノ點ニ於テ不經濟ナルヲ以テ一層簡單ナル羅馬字ヲ採用スルコトニ決セリ又日本語ハ羅馬字ニテモ充分用ヲナスモノナリトテ彼等植民ノ間ヲ通用スル文字カ同シク羅馬字ニシテ往復書翰ノ如キハ何レモ「タイプライター」ヲ用キ羅馬字綴ノ日本語ヲ使用シツ、アルコトヲ述ヘタリ

由來日本語教育ノ問題ハ在外日本人間ニ於テ常ニ最モ解決ニ苦ム問題ナリト云蓋シ通常小植民地ニ於テハ日本流ノ學校ヲ設立スルノ實力無ク勢兒童ヲ其ノ土地ノ學校ニ委スルカ故ニ彼等ハ餘義ナク日本語ヲ學フコト能ハサルナリ然レトモ小官ノ私見ニヨレハ日墨協働會社ノ如ク別ニ獨立ノ小學校ヲ建設シテ之ヲ維持シ且ツ日本ヨリ教師ヲ聘シテ日本の教育ヲ施シ得ル資力アル者ニシテ生徒等ニ極メテ平易ナル羅馬字ノミヲ教授シテ全然日本語ヲ教エサル理由ハ之ヲ見出スニ苦シムナリ

第三節 小橋岸本合名會社ノ狀態

第一項 商業植民トシテノ小橋岸本合名會社

「エスキントラ」村ニ於ケル最大最新ノ家屋ヲ小橋岸本合名會社ノ商店トナス、同會社ハ其稱號ノ示ス如ク小橋燈吉及岸本植彦兩人ノ合名組織ナリ小橋及岸本ハ元北米合衆國ニ在留シタリシカ今ヲ距ルコト十四年即チ明治三十一年中「チヤパス」州ノ有望ナルニ着眼シ北米ヨリ來リテ「エスキントラ」村ニ植民ヲ企圖セルモノナリ小橋ハ北米合衆國ニ於テ或ル專門學校ヲ卒業セル者又岸本ハ職醫學ヲ修メタリトノ事ナリ若シ前記ノ日墨協働會社カ其產ノ臭味ヲ帶フルモノトセハ小橋岸本會社ハ少クトモ「ジエスイット」團體ニ類スルノ觀ナキヲ得ス即チ日墨協働會社カ全然閉門開放主義ヲ採リテ憚ラス其組織事業ノ現狀及成績ヲ公ニスルニ反シ小橋岸本ハ全然秘密ヲ保テテ會社商業狀態ニ關シテハ決シテ他言スルヲ欲セザリキ然レトモ實地視察セル所ニヨリテミルニ日墨協働會社ノ營業振ハ手ヲ各所ニ擴ムルノ方法ヲ採ルニ反シ小橋岸本ハ營業ヲ一所ニ集中スルノ方策ヲ採ルカ如シ即チ日墨協働會社ハ「エスキントラ」ニ於テモ本店、支店、及藥種

店等ヲ有スルニ小橋岸本ハ同村ニ於テ一大家屋ヲ新築シ此處ニ勢力ヲ集中シ以テ同村ノ商業ヲ籠斷セント努ムルモノ、如シ又實際同商店ハ内容頗ル豐富ナルカ如ク見ヘタリ

同會社ノ商業部ハ既記ノ如ク合名者カ「ジエスイット」的ナルヲ以テ之ヲ詳知スルニ由ナシト雖トモ或ル外國商業通ノ評判スル所ニ據レハ商品十萬圓ヲ備ヘ日墨協働會社ノ「エスキントラ」村ニ於ケル商業部ト比シテ勢力伯仲スヘシト又或ル地方卸賣社文取（Commiss-Voyageurs）等ノ說ニヨレハ「エスキントラ」村ノミニ於ケル兩會社ノ商業部（雜貨店ノミ）ヲ對比スル時ハ小橋岸本合名會社ハ日墨協働會社ニ優ルモノアルヤモ測リ難シト以テ同社商業狀態ノ一斑ヲ窺フヲ得ヘシ而シテ同會社ノ販賣品ハ何レモ土民ノ日用品タル衣服、織物、荒物、鐵器、器具、飲料品等ナリトス「エスキントラ」村ニ於テハ小橋岸本兩人自ラ之ヲ管理シ日本人一人及墨國人數人ヲ使用ス尙ホ村内住居用家屋二戸ヲ所有ス、又同會社ハ「エスキントラ」停車場所在地ナル「アカベタグア」村ニ支店一戸及「マリスカル」郡内「サン、イシドロ」村ニ於テハ商店支店一戸ヲ有ス何レモ本店ト同シク雜貨販賣店ニシテ前者ニハ日本人三人後者ニハ日本人一人及墨國人數人ヲ使用ス而シテ「アカベタグア」村内ニハ停車場附近ニ於テ前項支店用家屋ノ外六戸ノ家屋ヲ所有シ「サン、イシドロ」村ニ於テハ商店用家屋及倉庫一戸ヲ有ス

斯クノ如ク小橋岸本會社ハ日墨協働會社ト同シク今日ハ既ニ一定ノ地盤ヲ据エ將來頗ル樂觀スヘキモノアリテ今後年々益々繁榮ニ向フノ狀アルヲ認メタリ而シテ營業地盤ノ堅固ナル點ニ關シテハ此等二會社ハ恐ラク墨國ニ於ケル我商業植民中隨一ノモノナルヘシ但シ本章第二節第二目ニ於テ記述セル通り兩會社ノ商業ハ何レモ墨國邊陲ノ一郡ニ於ケルモノニシテ大都市ニ於ケル老舗ト比較スヘクモアラサルヘシ又小橋岸本會社ハ日墨協働會社ト異リ社員尠キヲ以テテニ手ヲ擴ムルコトハ頗ル困難ナルヘシコレ蓋シ小橋岸本カ「エスキントラ」村ニ於テ商業集中策ヲ講スル所以ナルヘシ

第二項 農業植民トシテノ小橋岸本合名會社

「ソコメスコ」郡ノ重要產物ハ既記ノ如ク護謨ト珈琲ナルカ此等ノ生産業ハ何レモ歐米人ノ占ムル所ニシテ小資本ヲ投シ

テ企テ得ル産業ニアラサルナリ然レトモ同郡ニ於ケル牧畜業ニ至リテハ少數ノ墨國人及西班牙人ノ營業ニシテ競争者比較的小ナキノミナラス家畜ハ珈琲護謨ト異ナリ重ニ内國市場相手ニシテ對市場賣買方法比較的容易ナルヲ以テ日本人ノ業トシテハ先ツ發展ノ餘地アルモノ、如シ小橋岸本カ頻リニ牧畜業ニ重キヲ措ク所以ハ蓋シ此ノ邊ニ鑑ミル所アルカ故ナルヘシ

同會社ハ「バン、アメリカン」鐵道ノ南側ニ於テ「エスキイントラ」停車場ニ接近シ地味頗ル肥沃ナル一帯ノ大平地ヲ有ス即チ左ノ如シ

- 「マドロナル」耕地 四百四十九町歩
- 「マドロナル」附屬地 二百五十二町歩
- 「アユーボ」耕地 二十三町歩

以上ノ中「マドロナル」耕地ハ「エヒード」ト稱スル村用地ナリシカ明治三十八年中州政府ノ村用地分配委員ヨリ拂下ケテ受ケタルモノナリ又「マドロナル」附屬地ハ明治四十一年中英國殖民會社ヨリ買受ケタルモノニシテ「アユーボ」耕地ハ四十一年中土人ヨリ買入レタルモノナリトス以上三地連接シテ「農場ヲ成シ」マドロナル」ト「アユーボ」トノ兩耕地ハ牧草、「サカトン」、又ハ「カマロテ」草ノ繁茂スルアリテ甚タ牧場ニ適ス、目下三百三十町歩ヲ十二區ニ分テ牝牛、若牛、及勞役ニ使用スル牛馬ヲ放牧ス而シテ其現在數ハ若牛二百十頭、牝牛五百十頭、犢百五十頭、及勞役牛十頭外ニ馬匹數十頭ナリトス而シテ同會社所有ノ牧場カ日墨協働會社又ハ其他日本人ノ所有スル牧場ヨリ遙ニ優等ナリトスル所以ハ牧場カ停車場ニ接近スルコトニシテ家畜ノ運搬ニ頗ル便利ナルコトコレナリ

又會社ハ前記耕地内數町歩ノ地所ニ甘蔗ヲ栽培シ土民ノ需要ニ充ツルノ目的ヲ以テ「パネラ」ト稱スル粗製砂糖ヲ製造ス然レトモ目下規模頗ル小ニシテ一ヶ月ノ生産額ハ平均三百五十圓ニ過キス蓋シ同會社モ日墨協働會社ト同シク資金ノ潤澤ナランコトヲ努ムルニ忙ハシク未タ全力ヲ農業ニ注ク餘裕ナキカ如シ又「マドロナル」附屬地ハ鬱蒼タル森林地ニシテ「セドロ」グアナカステ」等ノ貴重ナル木材ニ富ミ之ヲ伐採シテ市場ニ出セハ必ラス有利ノ業タルヲ疑ハスト云フ以上

諸耕地ノ使用人ハ日本人二人、及ヒ墨國人毎日平均數十人ナリ

尙ホ同會社ハ前記所有地ノ外「アカベタグア」村内ニ於テ十四町歩ノ「フィンカ、コロナ」及十一町歩ノ「フィンカ、ヴィクトリヤ」ノ兩地所ヲ有ス前者ハ「エスキイントラ」停車場ヲ隔ツル數丁ニ位シ瓦及煉瓦ノ製造ニ適スル粘土ヲ産ス然レトモ現今ハコレニ牧草ヲ植エテ勞働用牛馬ヲ放牧ス又後者ハ土民ノ製造スル土器ノ原料タル粘土ヲ産ス

以上ノ外「エスキイントラ」村ニ於テハ面積二十三町歩ノ「フィンカ、レフーヒヨ」ト稱スル地所ヲ有ス此ノ地所ハ前記「マドロナル」牧場ヨリ泌乳期ニアル牝牛ヲ移シテコ、ニ留メ泌乳期經過スレハ再ヒ之ヲ「マドロナル」牧場ニ回送スル爲メナリ、重ニ牧草「バラ」ヲ植エ現ニ搾乳牛二十頭ヲ飼養ス斯クノ如ク小橋岸本會社カ日本人ノ事業トシテ牧畜ニ着眼シタルハ「ソコヌスコ」郡ノ事情ニ鑑ミ甚タ當ヲ得タルモノト言ハサルヘカラス又該業ハ將來決シテ望ナキ事業ニアラサルヘシ

第四節 會社以外ノ日本人ノ狀態

第一項 商業植民ノ狀態

既記日墨協働會社及小橋岸本合名會社ノ外「エスキイントラ」村及其附近ニ於テ商業ニ従事スル者ノ中主ナル者ヲ村川商店トナス店主村川貞吉ハ明治二十六年中布哇ヨリ「グアテマラ」國ニ轉航シ當時桑港駐在珍田領事ノ保護ニヨリテ自由移民トナリ同國ニ勞働セルモノナルカ明治三十九年中日墨協働會社理事照井亮次郎等ノ斡旋ニヨリテ「グアテマラ」國ヨリ「エスキイントラ」村ニ移住シタルモノナリ、同店ノ商品ハ既記二會社ト同シク雜貨及飲食料品ニシテ店員ハ日本人一人墨國人一人ヲ使用シ尙ホ「アカベタグア」及「ボエプロノエボ」ノ兩村ニ各一戸ノ支店ヲ有シ前者ニ於テハ日本人一人、後者ニ於テハ日本人二人及墨國人一人ヲ使用シ何レモ相當ノ營業ヲナシ居ルノ狀アルヲ認メタリ尙ホ商店用ノ家屋ハ悉ク村川ノ所有ナリト云フ、村川商店ノ外「エスキイントラ」村ニ於テハ中村平井商店、中川商店、及西澤、入山、入江商會

第二章 「ソコヌスコ」郡ニ於ケル日本人

等アリト雖トモ未タ甚タ微々タル状態ニアリテ特ニ記載スル程ノモノニアラサルナリ

第二項 農業植民ノ状態

日本植民ニシテ「エスクイントラ」村及其附近ニ於テ農業ニ従事スル者ハ左ノ如シ
玉川農場 場主玉川榮吉ハ村川等ト同シク明治三十九年中「グアテマラ」國ヨリ轉住シタルモノニシテ農場ハ同人カ元榎
本植民地承継者ノ一人タル小林直太郎ヨリ同植民地ノ一部ヲ譲リ受ケタルモノナリ其面積二十八町歩ニシテ現時西澤貫
造之ヲ借リ受ケ野菜ノ栽培ニ従事シ日本人一人及墨國人數人ヲ使役ス

田邊農場 場主田邊興一ハ村川及玉川等ト同シク今ヨリ六年前「グアテマラ」國ヨリ轉住シ來リシ者ニシテ同農場ハ玉川
農場ト同シク小林直太郎ヨリ譲受ケタルモノナリ面積二十四町歩ニシテ現今其一部ニ甘蔗ヲ栽培シ酒精ノ醸造ニ従事ス
其生産高ハ毎月平均二百八十圓内外ナリト云フ日本人一人及墨國人數人ヲ使役ス

野村農場 場主野村虎之進(本名執登利之助)ハ同シク六年前「グアテマラ」國ヨリ轉來シタル者ナルカ同農場ハ元村用地
ノ一部ニシテ明治三十八年中政府ヨリ拂下ケテ受ケタルモノナリ其面積九十町歩ニシテ現時六町歩ヲ開拓シテ已ニ甘蔗
ヲ栽培シ田邊農場ト同シク酒精ノ醸造ニ従事ス生産高毎月二百八十圓内外ナリト云フ、日本人二人及墨國人數人ヲ使役
ス、尙ホ前記ノ外「エスクイントラ」村ニ於テ農業ニ従事シ傍ラ農業ヲ兼スル太田連二ノ所有ニ係ル太田農場及「アカコ
ヤグア」村ニ於テ同シク農業兼業者堀田常喜ノ所有ニ係ル堀田農場アリト雖トモ此等ハ時間ノ都合ニヨリ視察スルノ
機會ヲ得ザリキ

右太田ハ日墨協働會社理事照井亮次郎等ト同シク宮城縣農學校ノ卒業生ニシテ明治三十一年中榎本植民トシテ來墨セル
モノナルカ農學校在學中醫學ヲ得業セル者トノ事ニテ多少醫學ノ知識ヲ有スルヲ以テ「エスクイントラ」村ニ於テ土民
相手ニ營業ニ従事スル者ナリ又堀田ハ同シク榎本植民ノ一人ナルカ多少醫學ノ心得アルヲ以テ「アカベタグア」村ニ於テ
農業ノ傍營業ニ従事スルモノナリ

以上ノ外「ボエプロ、ノエボ」村ニ於テ村川貞吉ハ其支店ノ外十町歩ノ牧場ヲ有ス又山本仙吉ナル者ハ四十二町歩ノ農場
ヲ所有ス

第五節 舊榎本植民地ノ状態

第一項 舊榎本植民地ト現在植民トノ關係

墨西哥國「チャバス」州日本植民地ヲ耳ニスル者ハ直ニ舊榎本植民地ヲ聯想シ現時ノ「チャバス」州日本植民ハ皆該植民
地内ニアリテ舊榎本植民事業ヲ繼續シ居ルカ如ク想像スト雖トモコレ全ク誤謬タルヲ免レス蓋シ「チャバス」州ニ日本植
民地ヲ設定セシハ明治三十年中故榎本子爵ノ發意ニ由ルモノナリシカ故ニ斯ル想像ノ起ルハ強テ無理ニハアラサレトモ
所謂舊榎本日本植民地 Colonia Japanese ナルモノハ「エスクイントラ、プロバ」ノ北方「シエラ、マードレ」山脈内ニ
アリテ面積六萬三千九百二十六町歩ノ大地面ナリシカ榎本子爵カ其後經營ノ到底困難ナルニ鑑ミ之ヲ放棄スルニ當リ其
大部分即チ四萬四千六百十二町歩ハ墨國人ノ手ニ歸シ殘餘ノ一部一萬二千五百二十六町歩ハ藤野辰次郎之ヲ譲リ受ケ又
五千七百五十八町歩ハ墨國在留小林直太郎ノ手ニ歸シタリ而シテ此等ノ地所ハ故榎本子爵ノ代理人室田義文カ明治三十
年中墨國農商務大臣ト取り結ヒタル土地購入契約ノ滿期トナリシ結果本年一月三十日ヲ以テ各其當事者ノ所有ニ歸シタ
リ

「チャバス」州現在日本人ニシテ該植民地ニ直接關係ヲ有スル者ハ藤野植民地ノ管理人布施常松カ植民地内ニ在リテ農業
ニ従事スルノミニテ他ハ唯該植民地ノ一部ヲ藤野或ハ小林ヨリ買受ケタリト云フ關係アルノミ例ヘハ日墨協働會社カ藤
野ヨリ四十七町歩ヲ買入レコレニ甘蔗ヲ栽培シ又小林ヨリ一百二十四町歩ヲ買受ケ之ヲ牧場トナシ居ルカ如キ、又玉川
カ小林ヨリ二十八町歩ヲ買受ケ野菜園ヲ起コシ、田邊カ同シク小林ヨリ二十四町歩ヲ買受ケテコレニ甘蔗ヲ栽培シテ酒
精ノ醸造ニ従事シ居ルカ如シ

斯クノ如ク舊植本植民地ハ其承繼者タル墨國人「カステイヨ」並ニ藤野及小林ノ三人中唯藤野カ植民地開拓業ニ從事シ居ルノミニテ他ハ之ヲ放擲シテ今ヤ全ク天然林ノ状態ニアラシメ唯年々植民地購入契約書第三條ノ規定スル地代ヲ政府ニ納付シテ其所有權ヲ得ルノ期ヲ待チ來リシモノ、如シ(註)仍テ其現狀ヨリ察スル時ハ故植本子爵ノ計畫セル植民地ハ殆ント失敗ニ終リタリト云フノ寧ロ適當ナルヲ思ハシム然リト雖トモ現今兎ニ角此地方ニ於テ日本人カ相當ノ事業ニ從事シツ、アルハ故植本子爵ノ植民地創設カ動機トナリタルモノナレハ子爵ノ名ハ「チャバス」植民ト共ニ永ク没却スヘカラサルモノト云フヘシ

註、舊植本植民地ハ其契約書第三十三條ノ規定ニヨリ明治四十五年一月三十日ヲ以テ契約満期トナリタルヲ以テ「カステイヨ」藤野及小林ノ三名ハ同日ヨリ該植民地ニ對シ絶對ノ所有權ヲ得タリ

第二項 藤野植民地ノ状態

一日「エスクイントラ」村ヲ發シテ藤野植民地ナル同地管理人布施常松ノ農場ヲ視察ス同人ハ他ノ植民ト異ナリ「エスクイントラ、プロバ」ヨリ凡ソ二里ヲ隔ツル植民地内ノ山間ニ其使役スル八九ノ土人家族ヲ相手ニ妻及一人ノ日本助手ト共ニ居住ス其狀宛然日本内地ニ於ケル山間百姓等ノ如シ

同農場ハ山間ニ位スル丈ケアリテ氣候ハ「エスクイントラ、プロバ」ニ比シ大ニ清涼ニシテ熱帯地ニ於ケル居住所トシテハ稍理想ニ近キ所ナリト雖トモ農業者ノ見地ヨリスル時ハ村ヨリ少シク遠キニ過キ生産物ノ運搬ニハ不便ナルモノアルカ如シ、藤野植民地ハ既記ノ如ク舊植本植民地ノ一部ニシテ面積一萬三千五百二十六町歩ナルカ其大部分ハ山岳ニシテ平地ハ比較的小部分ニ過キス同地管理人布施常松ハ農科大學別科卒業生ニシテ明治三十四年十二月植民地ニ來リ爾來同地ノ開拓ニ從事シテ今日ニ至レルモノナリ今同人ノ語ル所ヲ聞クニ既ニ耕耘ヲ施セル地面ハ七十餘町歩ニシテコレニ專ラ護謨ヲ栽培シ副業トシテ玉蜀黍ヲ耕作ス、玉蜀黍ハ之ヲ郡内ノ市場又ハ他ノ珈琲園等ニ販賣ス又植民地内牧草地一、百二十町歩ヲ割キテ之ヲ牧場トナシ牛三百頭ヲ放牧ス現時日本人助手一人及農場勞働ノ爲メニ土人十家族ヲ使役スル外

草取勞働ニ充ツル爲メ毎日土人三十人内外ヲ僱役ス植民地内ニハ珈琲栽培ニ適スル地少カラスト雖トモ未タ之ヲ栽植スルノ運ニ至ラスト云ヘリ蓋シ珈琲栽培ノ業ハ獨逸人等ノ專ニスル所ニシテ日本人ノ業トシテハ稍困難ナル事情アルカ爲メナルヘシ、要スルニ藤野植民地ハ其面積ノ大ナル丈ケ其事業ハ前途頗ル遠遠ニシテ又容易ナラサルモノアルヘシ

因ニ記ス同植民地ハ既記ノ通り本年一月三十日ヲ以テ故藤野辰次郎ノ所有ニ歸シタレトモ名義ハ墨國人「カステイヨ」ノモノトナリ居ルヲ以テ故藤野ノ相續人タル者ハ「カステイヨ」ヨリ所有名義ノ讓リ受ケラ爲ササルヘカラス小官出張中モ英國人ニシテ舊植本植民地ヲ買得シタキ者アリタリトノ事ヲ耳ニセシ程ナルヲ以テ可成ク速ニ其手續ヲナスノ必要アルヘシ

第三項 舊植本植民地失敗ノ原因

第一目 土地ノ撰定ヲ誤リタルコト

墨國「チャバス」州「ソコヌスコ」郡ハ熱帯地ニシテ事業地トシテハ適當ナルモ好シテ植民スヘキ地ニアラサルノ理由ハ本報告第一章第一節ニ於テ縷述シタル所ナルカ斯ノ如キハ植民策ニ關シ稍智識ト經驗トヲ得タル今日ノ議論ニシテ故植本子爵カ墨國「チャバス」州ニ一大植民地ヲ起サント計畫シタルハ今ヲ距ルコト十五年前即チ明治三十年ノ事ニテ當時日本ハ日清戰爭ニ勝テ頻リニ海外膨脹策ヲ唱道シ民族ノ發展ハ海外植民ナラサルヘカラスト稱シタル時代ニシテ其土地又ハ事業ノ如何ノ如キハ深く問フ所ニアラサリキ斯ノ如クニシテ時代ノ趨勢タル植民熱ハ遂ニ社會ノ上下ヲ風靡シ植本子爵一派ヲシテ墨國「チャバス」州ニ日本植民地ノ創設ヲ計畫セシムルニ至リシナリ而シテ其事業ノ雄壯ナル痛ク輿論ノ歡迎スル所トナリシモ子爵カ第一回移民ヲ送ルヤ忽チ經營ノ困難ニ逢着シ遂ニ期年ナラスシテ全計畫ヲ放擲セサルヘカラサルニ至レリ蓋シ失敗ノ原因ハ「チャバス」州「ソコヌスコ」郡カ事業地ナルニ拘ラス之ヲ單純ナル植民地ト誤解シ資本ヲ送ルヘキ管ノ所ニ主トシテ人間ヲ送ラント試ミタルニ出ツ

第二目 植民地事業ノ選擇ヲ誤リタルコト

第二章 「ソコヌスコ」郡ニ於ケル日本人

一四二
根本子爵一派が假ニ前項記述セル處ニ反シ「チャバス」州「ソコヌスコ」郡ヲ事業地トシテコレニ事業ヲ興サシガ爲メニ植
民ヲ計畫シタリトスルモ彼等ガ植民地ノ事業ヲ主トシテ珈琲栽培ニ置キタルハ事業ノ選擇ヲ誤リタルモノト云ハサル可
ラス蓋シ珈琲栽培業ハ日本人ガ大資本ヲ投シテ大仕掛ケニ之ヲ經營シ以テ市場ヲ支配スルカ然ラザレバ日本國ガ將來珈
琲ノ大消費國トナリ「ソコヌスコ」郡ニ於テ産出スル珈琲ノ如キハ悉ク之ヲ日本ニ輸入シ外國生産業者モ日本ノ仲買人ニ
ヨリテ之ヲ日本ニ輸入スルノ状態ニ立チ至ラバ知ラズ現時ノ如ク獨逸、佛蘭西、英吉利又ハ北米合衆國ガ珈琲ノ重要消
費國ニシテ輸入國ナル間ハ此ノ生産業ハ到底日本人ノ事業ニアラザルベシト思料セラルレバナリ、近來「グアテマラ」國
及其他中米諸國又墨國「ソコヌスコ」郡等ニ於テ珈琲生産業ガ漸次獨逸人又ハ英米人ノ手ニ移リ行ク所以ヲ考フルニ珈琲
ハ輸出貨物ニシテ「グアテマラ」人又ハ「ソコヌスコ」人ガ自ら紐育又ハ漢堡ノ市場ニ至リテ之ヲ鬻ガントセンガ彼地ノ事
情ニ通ゼザル爲メ却テ多大ノ費用ヲ要シ結局利益トナラズ、然レバトテ之ヲ外國仲買人ニ賣ランカ、漁夫ノ利ハ悉ク彼
等ノ爲メニ占ラレ又利スル所尠ク何レノ方法ヲ採ルモ内國栽培業者ハ畢竟思ハシキ結果ヲ奏セザルガ爲ナリト云フ珈琲
生産國人タル中米人又ハ墨國人スラ猶ホ斯ル難事ニ遭遇ス況ンヤ該事業ニ全然素人ニシテ又歐米市場ノ内情ニ暗キ當時
ノ日本人ニ於テオヤ、要スルニ珈琲業ハ今日ノ状態ヨリ推シテ到底日本人ノ事業ニアラズ、然ルニ根本植民地ハコレヲ
以テ其植民地事業ノ主ナルモノトナセリ假ニ珈琲栽培業ハ日本人ニ適スル事業ナリトスルモ根本植民地ガ珈琲栽培地
トシテ七千尺ニ達スル高山地ヲ選擇シタルハ珈琲ノ栽培ニ關シテ全然知識ナリシコトヲ示スモノト言ハサルヘカラス
由來珈琲樹ハ中米「コスタリカ」「ニカラグワ」「エル、サルウァドール」及「グアテマラ」ノ諸國並ニ南部墨國ニ掛ケテ熱
帶地方ニ於テハ海拔千尺乃至三千尺ノ高地ニ最モ良ク繁植シ又同ジ高地ニテモ殆ント平地トモ思ハル、ガ如キ小山ノ多
キ所ヲ最モ適當ナル場所トナスニ根本植民地内ニハ斯ル部分甚ダ少ク只高山ノ巔然タルモノアルノミ、聞ク所ニヨレバ
當時植民地觀察ノ爲メニ派遣セラレタル技師ハ植民地ノ地質ヲ分析シテ以テ珈琲栽培ニ適スルヤ否ヤヲ斷定シタルニ止
マレリト云フ

第三章 在留日本人ト土民及外國殖民トノ關係

第一節 在留日本人ト土民トノ關係

Son buena gente (善良ナル市民ナリ)トハ小官ガ會テ帝國練習艦隊ノ巴奈馬ニ往クヲ送リシ歸途「オハカ」州「テワンテ
ベック」驛ニ宿リシ際同宿者ノ一人ガ在「エヌクイントラ」村日本植民ヲ評セシ語句ナルガ這回「チャバス」州ニ出張セシ
間小官ハ各所ニ於テ屢々類似ノ語句ヲ耳ニセリ惟フニコレ墨西哥人ガ我帝國臣民ニ對スル同情心ニモアラズ又世辭ニモ
アラズシテ眞ニ在留民ガ善良ナルガ故ニ善良ナリト稱セシ止ルベシ實際在留日本人ノ多クハ理想ニ富ミ又信仰アル人
々ナルヲ以テ苟モ體面ヲ汚スガ如キ行爲ヲナサザルガ故ニ斯クハ土民ノ間ニ「善良ナル人民」トシテ聞ユルニ至レルモノ
ト信ゼラル

「善良ナル人民」ノ一句ハ以テ土民ガ我植民ノ價值ヲ認識スルノ意ヲ示シテ餘アルモノナリ、然レ共小官ハ尙親シク土民
ト交ハリ或ハ村僧ト語リ、村長ヲ訪問シ又或ハ照井ノ事務所ニ出入スル小作人ノ様子ヲ窺ヒ各方面ヨリ觀察シテ結局下
ノ如キ結論ヲ得タリ即土民ハ我植民ノ價值ヲ辨別シ又之ヲ尊敬ス蓋シ在留民ハ獨リ善良ナルノミナラズ其職業ノ卑シカ
ラザル事又土民ニ比シ遙ニ高等ノ智識ヲ有シ村ノ利益トナルコト少カラザレバナリ、依テ今後植民ノ利益ト土民ノ利益
ト甚ダシク衝突セザル間ハ彼等ハ依然土民ヨリ敬視セラルベシト
小官ハ其後郡首府「タバチテラ」市ニ到著スルヤ先ツ郡長ヲ訪問シ在留日本人ノ模様ヲ問ヒシニ郡長ハ過去ノ革命動亂中
モ日本人ハ常ニ善ク中立ノ態度ヲ守リ曾テ彼等ヨリ土民ニ對シ進ンデ難事ヲ惹起シタル事ナク最モ平穩ノ民ニシテ吾等
ノ賞讃措ク能ハザル處ナリト激賞セリ仍テ小官ハ其賞辭ヲ謝シ且ツコレニ向ツテ吾々日本人ハ過去ノ革命中共和國內各
所ニ於テ外國人中ニハ革命ヲ機トシテ立チタル暴徒ノ爲メニ殺害セラレタル者等少カラザリシト云フヲ聞キシニ日本人
中ニハ全共和國ヲ通ジテ一人トシテ斯ル悲運ニ遭遇セル者ナカリシハ一ツニ貴國民ガ常ニ我日本國民ニ對シ抱持スル同

情ノ厚キニ由ルト貴國官憲ガ我國民ニ對スル保護ノ有効ナリシニ因ルモノトシテ我等在留日本人ハ私ニ此ノ事實ヲ以テ誇リトスル所ナリト述タリ思フニ郡長ノ言能ク「エスキントラ」村長ノ言ト相一致スルヲ以テ見レバコレ萬更御世辭トノミ解スベカラザルカ如シ

然レトモ卑見ヲ以テスレバ墨國人ガ日本人ニ對スル同情ト尊敬トハ或ル一派ノ人士ガ唱道スルガ如ク特ニ大ナルモノニアラズソノ同情ト尊敬トハ日本國民ガコレニ値スルモノアルニヨル特ニ墨西哥人ガ日本人ニ對シ高度ノ同情ト尊敬トヲ抱持スルニハアラザルナリ然レドモ現今墨西哥人ノ同情ト尊敬トガ特ニ吾人ノ腦裡ニ著シク影ズルハ一方日本人ノ北米ニ於ケル關係アルカ故ニシテ又他方日墨兩國ノ利害關係ガ甚ダ幼稚ナルコトヲ示スモノナリ故ニ在留日本人カ發展スレバ發展スル程、即彼等ノ利害關係ガ墨西哥人ニ對シ増大スレバスル程舊來ノ同情ハ減ジソノ尊敬心ハ漸次變體シ行クモノナルコトヲ覺悟セザルベカラズ依テ夫ノ歐米人ノ如ク自己ガ大利益ヲ占ムルト同時ニ小利益ヲ土民ニ配テ彼等ヲ満足セシムルノ方法ヲ執ラザレバ日本人ノ植民策ハ今後決シテ成功スルコト能ハザルヘント信ス

今左ニ一例ヲ擧グテ日本植民ガ如何ニ土民ノ間ニ敬視セラレ又重ヲナスカヲ窺知スルノ一助トナサン、「エスキントラ」村ニ到ル者ハ郡首座、タバチニラ」市ニ於テモ猶ホ見ルコト能ハザル文明的設備ノアルニ驚嘆スルナルベシ、即チ村内ニ水道ノ設備アルコトコレナリ、此ノ水道ハ千九百十年在留日本人ノ發議ニヨリテ敷設セラレタルモノニシテ始メ村會ハ墨國獨立百年祭ノ紀念トシテ村寺ニ時計ヲ獻納スルコトヲ議決セシガコノ事一度日本植民ノ耳ニ入ルヤ彼等ハ直ニ意見ヲ提出シテ時計ヨリモ直接村民ノ便利トナリ又熱帯地ニ於テ殊ニ必要ヲ感スル水道敷設ノ事ヲ以テセリ然ルニ我植民ハ村内ノ有力者ニシテ又重要ナル寄附金者ナルヲ以テ村會モ遂ニ其議決ヲ撤回シテ日本人ノ意見ヲ採用スルコトニ決セリ之ニ於テ日本人ハ敷基米突ヲ隔ツル山間ヨリ水ヲ引ク設計ヲナシ自ラ測量ノ任ニ當リ且ツ土民ヲ指揮シテ工事ニ當ラシメ遂ニ今日ノ水道ヲ敷設セリコレガ爲メニ村民ハコレ迄ハ村端ノ河ニ至リテ水ヲ汲ミ來リ之ヲ使用シ居リシニ今日ハ各自其門前ニ於テ水ノ供給ヲ得ルニ至リシヲ以テ其利便ヤ到底昔日ノ比ニアラザルナリ、只コレガ爲メニ常ヨリ結婚

問題及其他ノ關係ヨリ日本人ニ對シ愉快ナラザル感情ヲ抱持セル村僧ノ感情ヲ害シタルハ想像スルニ難カラズ岸本及照井等ノ談話ニヨレハ彼等カ村長タラント欲セハ何時ニテモナリ得ヘシ然レトモ之ヲ敢テセザル所以ハ墨國人トナル時ハ自己ノ利益ニ取リテ不利ナルカ爲メナリト

要スルニ土民ト植民トノ關係ハ彼等ノ間ニ直接利益問題ノ發生セザル間ハ頗ル懇親ニシテ在留民カ尠カラズ彼等ノ間ニ尊敬セラレ居ルハ疑ヲ容レザル所ナリトス

第二節 在留日本人ト外國植民トノ關係

「チャバス」州「ソコヌスコ」郡ハ外國人ノ事業地ニシテ英、米、佛、獨、西ノ諸國人ヲ始メトシ支那人及土耳其人ノ植民セルモノアルハ第一章第五節ニ於テ詳記シタル所ナルカ此等外國植民ト我植民トノ關係如何ハ我植民ノ將來ニ取リテ輕カラサル問題ナルヲ以テ小官ハ「ソコヌスコ」郡滞在の中モ特ニ外國人ノ多ク宿泊スル旅館ニ投宿シ或ハ彼等ト談話ヲ交換シ或ハ同地駐在ノ各國領事ト交ハリ又或ハ外國植民ノ主ナル者ニ近ツキテ彼等ガ我植民ニ對スル感情ノ如何ヲ窺ヒシニ英、米、西人ノ如キハ能ク日本人ノ智識ヲ認メ又コレニ對シテ好意ヲ表シツ、アルモノ、如シト雖トモ獨逸人殊ニ米國ヨリ轉航シタルモノハ日本人ニ取リテ將來餘リ良キ友達トナリ得ヘカラサルモノノ如シ蓋シ彼ト我トハ阻勉ノ點ニ於テ全然性質ヲ同アスルヲ以テ時々利益問題ノ衝突ヲ惹起スノ虞ナキニアラサレハナリ

「エスキントラ」村ニ於テ商業ヲ營ム在留民ノ話ヲ聞クニ附近ノ珈琲園主又ハ使用人タル獨逸人等ハ日本人ノ商業ノ繁昌スルヲ嫉視シ日本人ノ商業ハ獨逸人ノ經營スル珈琲園アルカ爲ニシテ日本人ハ獨逸人ノ恩澤ニヨリテ營業ス等ノ言語ヲ弄シ時々侮慢ノ態度ヲ示スコトアリト云フ

小官ハ一夜「タバチニラ」ノ旅館ニ於テ日本植民地ノ附近ニ事業地ヲ所有スル獨逸人ト卓ヲ同フシ談會々土人勞働者ノ怠惰ナル事ニ及アヤ彼ハ談話ノ興ニ乘ジテ左記ノ如キ語句ヲ洩ラセリ「土人ハ最モ懶惰ニシテ痛ク休勞ヲ好ミ如何ントモ

シ難キ者ナルカ日本人ノ有スル廣瀾ナル地所ハ又大ニ土人勞働者ノ休勞ヲ助長スルモノナリ如何ントナレバ日本人ノ所
有地ハ今ヤ全然放棄ノ状態ニアリテ其地内ニハ青物、果物等潤澤ニ繁生スルヲ以テ偶々雇主ト軋轢セシ土人勞働者ハ直
ニ罷業シテ三日、四日或ハ一週間モ日本人ノ地所内ニ入り青物、果物ヲ獲テ悠々生活ス、日本人カ斯ル廣大ナル土地ヲ
所有シ乍ラ之ヲ放棄ノ状態ニ委シ置クハ實ニ甚タ不生産的ナルノミナラス他人ニ迷惑ヲ及ボスコト尠カラズト仍テ小
官ハ後此談話ヲ日墨協働會社ノ理事照井亮次郎ニ語リシニ照井ハ彼ノ獨逸人ハ會社ノ地内ヲ通シテ水ヲ其耕地内ニ
引カントセシモ吾等ハ之ヲ承諾セザリシヲ以テ吾等ニ對シ幾分ノ恨ヲ抱キ居ルカ爲メニ斯クハ貴下ニ語レルナリト言ヘ
リ然レトモ小官ハ後墨國人ノ口ヨリモ日本人カ斯ク大地面ヲ所有シテ之ヲ放棄シ置クハ「ソコヌスコ」郡ノ農業上ノ見地
ヨリシテ甚タ不生産的ナリトノ説ヲナシタルヲ耳ニセリ、思フニ獨逸人等ノ説ニ雷同シテ間接彼等ノ教唆ニ乘リタルモ
ノニ相違ナカルヘシト雖此件ハ日本植民ニ取リテ輕カラサル問題ナルヲ覺エタリ、後段記述セントスル土地回收問題ノ
如キハ此ノ種ノ意味ヲ含蓄スルノ形迹ナキニアラサルナリ

一四六

然レトモ英、米、佛、西人ニ至リテハ日本人ニ對シ決シテ斯ル惡感情ヲ有セサルカ如シ今左ニ一ニ例ヲ擧グテ彼等ト
日本人トノ關係ノ一斑ヲ示サント欲ス、我植民地ノ附近ナル英、米人ノ護謨園ニハ日墨協働會社ヨリ電話ヲ通ジ彼我ノ便
利ヲ計ル等其間頗ル坭戀ナルカ如キハ既記ノ通りナルガ小官ハ一日米人ノ經營ニ係ル「ラ、サコアルバ」護謨園ヲ參觀セ
ント欲シ日墨協働會社理事照井ノ案内ニヨリテ同林ヲ觀察セシニ護謨園ニテハ照井ノ豫告ニ應ジテ人馬ヲ停車場ニ派遣
シ又同林ニ到着後モ頗ル款待ヲ極メタリ又以テ照井カ同護謨會社ト親密ニシテ彼等ニヨリ相當尊敬セラル、ヲ窮フニ足
ルヘシ又小官ハ「エストグイントラ」村ヲ退キ「タバチユラ」市ニ出テントセシニ小橋岸本合名會社ノ岸本ハ小官ノ爲メニ「タ
バチユラ」市一流ノ富豪西班牙植民ニ紹介狀ヲ送リタルカ該西班牙人ハ小官ヲ遇スルコト甚ダ厚ク同市滞在中小官調査ノ
上ニ尠カラズ便宜ヲ與ヘタリ而シテ前記照井カ小官ヲ「ラ、サコアルバ」護謨會社ニ紹介シタル時モ亦岸本カ今回小官ヲ
西班牙人ニ紹介シタル時モ彼等ノ小官ヲ遇スル極メテ懇到ニシテ聊カモ照井又ハ岸本ヲ輕視スルノ様子ナキヲ認メタ

又此等英米人ノ農場ニ於テハ時々耕地ノ測量ヲ日本人ニ依頼スト云フ最初照井カ其依頼ヲ受ケタル時ハ日給五圓ヲ支拂
フトノ事ナリシカ照井ハ給料ノ甚タ低廉ニ過グルヲ以テ謝絶セントセシカ先ツコレヲ他ノ重ナル植民等ニ謀リシニ小橋
岸本合名會社ノ岸本等ノ如キハ給料ハ少々廉ナリト雖トモ日本人ノ學術上ノ智識ヲ表明スル好機會ナルヲ以テ姑ラク辛
抱シテ請負フヘシト熱心ニ勸告セシヲ以テ遂ニ其依頼ニ應ジ測量ニ着手セリ然ルニ耕地側ニテハ後開モナク日給十圓ニ
昇給シ、以來測量ハ多ク之ヲ照井ニ依頼スル事トナレリト云フ然ルニ照井ハ會社ノ用務ノ爲メ最早自ラ測量ニ從事スル
事能ハサリシ事情アリシヲ以テ社員ノ一人ヲシテコレニ代用セントセシニ護謨會社側ニ於テハ昨日迄野菜ノ販賣ニ從事
シ居リシ小僧カ如何ニシテ測量等ノ任ニ當リ得ヘキヤト主張シ決シテ之ヲ承認スルノ狀アラサリシヲ以テ照井ハ自ラ該
會社員ニ面會シ詳シク其然ラザル所以ヲ説明シ若シ護謨會社カ之ヲ疑フニ於テハ該人ニ對シ代數ナリ幾何ナリ又ハ三角
術ナリノ試験ヲナスヘシ然シテ後及第セサルニ於テハ之ヲ拒絕スヘシト説キ遂ニ彼等ヲシテ青物賣リノ小僧カ總テ此等
ノ試験ニ及第シ得ル學識ヲ有スルコトヲ示セシニ彼等ハ大ニ嘆驚シ爾來該社員ニテモ差支ナシト云フコトニナリタリト
コレ單ニ一ツノ出來事ニ過キサレトモ日本植民ノ眞價ヲ彼等外人ニ知ラシメタルト同時ニ彼等ヨリ尊敬ヲ受クル種子ヲ
蒔キタルモノナルヘシ

第四章 在留日本人ニ對スル土地回收問題

第一節 土地回收問題ノ起因

「チャバス」州「ソコヌスコ」郡ノ土民カ在留日本人ニ對シ其所有ニ係ル土地ヲ回收セント欲シ是迄運動ヲ試ミタルコト屢
々ナルカ小官ノ出張中モ該運動ノ再發セルニ遭遇セシヲ以テ小官ハ親シク土民ニ接シ又植民ノ陳述ヲ聞キ取リ其事情ヲ
調査セシカ要スルニ該問題ノ主タル原因ハ左記ノ原因ニ歸スルカ如シ

第四章 在留日本人ニ對スル土地回收問題

一四七

第一、日本植民カ舊村用地ノ拂下ゲヲ受ケタル事
第二、舊榎本植民地ノ大部分ハ十數年來放棄ノ状態ニアル事
仍テ左ニ項ヲ逐テ之ヲ記述スヘシ

第一項 日本人カ土地ヲ所有スルニ至リシ徑路

千九百五年(明治二十八年)中「チャバス」州政府ハ「ソコヌスコ」郡ニ村用地分配委員ヲ任命シ「エヒード」^①ト稱スル舊村用地ヲ村民ノ間ニ拂下ケシメタルカ日本植民ハ千八百九十二年八月十一日附ノ州法律及千八百九十三年四月九日附ノ同法施行規則ニヨリ該村用地ノ一部分ヲ購入セリ即チ小橋岸本合名會社ハ「アカベタダ」村內ニ於テ四百八十四町歩、日墨協働會社ハ社員有馬六太郎ノ名義ヲ以テ「アカコヤダ」村內ニ四百十四町歩ニ亘ル土地ノ拂下ケヲ得タリ然ルニ小橋岸本合名會社ノ分ハ村民ノ生活上必要缺クヘカラサル土地トモ稱スヘキニアラサルモ日墨協働會社ノ買得シタル分ハ左掲圖ニ見ユルカ如ク「アカコヤダ」村ノ三方ヲ圍繞スル一大地面ニシテ村民ハ古來コノ地所ヲ耕作シ又コノ地所ニ放牧シ依テ以テ生活シ來リシモノナレハ該地所カ急ニ日本人ノ所有ニ歸シタルハ宛モ日本人ノ爲メニ俄然其糧食ノ道ヲ斷タレタルカ如シ爰ニ於テ村民ハ痛ク州政府ノ擅斷ヲ憤慨スルト同時ニ日本植民ニ對シ數々土地ノ回收ヲ試ミタリ、然レトモ彼等村民ノ主張スル所ハ單ニ糧食ノ問題ノミニアラズシテ該村用地ハ之ヲ歴史ニ徵スルモ將又法律上ノ見地ヨリスルモ依然「アカコヤダ」村民ノ所有ニ屬スルモノニシテ日墨協働會社カ之ヲ購入シタルハ州政府ノ越權ノ處置ニ由ル不法行為ニシテ從テ其買賣契約ハ當然効力ヲ有スルモノニアラスト云フニアリ仍テ今左ニ參考ノ爲メ本件ヲ歴史及法律ノ兩方面ヨリ觀察シテ其理由ヲ存スル所ヲ明ニセント欲ス

墨國カ西班牙ノ植民地タリシ時代即チ千五百六十七年中「エスバニヤ」ノ總督ハ印度人法第四卷第十二編法律第十二號及第十八號ニヨリ同年五月二十六日附ヲ以テ印度人村落設立ノ件ヲ命令シ各土人村落ニハ是迄所有シ來リシ村落ノ外其周圍ニ方リ幅五百「ザアラ」(「ザアラ」八十四「サンチメートル」)ノ地域ヲ交附セリコレ即チ今日ノ村有地 *Amido legal*

ノ起元ナリトス然ルニ西班牙國王ハ千五百七十三年十二月一日附ヲ以テ勅令ヲ發シ印度人カ耕作又ハ牧畜ニ從事シ、コレニヨリテ生活シ得ル爲メ前記村有地ノ外ニ尙ホ「レダ」四方(現今ノ千七百五十町歩ニ當ル)ノ地域ヲ各村民ニ附與シ以テ其共同使用地トセリコレ即チ今日ノ村用地 *Comunio*ノ起元ニシテ土民ハコレニヨリテ何百年來生活シ來リシナリ、然ルニ千八百年代ニ至リ墨西哥ハ西班牙ノ羈絆ヲ脱シテ獨立シ千八百五十七年中共和國憲法(現行)ハ制定セラレ其第二十七條第二項ニハ「凡テ市町村等ノ團體ハ其直接ノ使用ニ充テル建物ノ外一切ノ不動產ヲ所有スルコトヲ得ス」ト規定セルヲ以テ自然村有地制及村用地制ハ全廢セラレ此等ノ土地ハ之ヲ官有ニ歸スルコトハナレリ然レトモ政府ハ從來ノ村有地及村用地ヲ一時ニ沒收スル時ハ共和國ノ全體ニ亘ル村民ノ利益ニ多大ノ損害ヲ及ボスモノナルニ鑑ミ千八百六十三年七月二十日官有地拂下法ヲ實施シ其第一條ニ於テ舊村有地及村用地ハ除外シテ之ヲ官有地ニアラスト規定シ同時ニ此等ノ土地ハ之ヲ小分シテ各村民間ニ無償ニテ分配スルノ目的ヲ以テ各州ニ向ツテコレカ調査測量ヲナサシメタリ而シテ此ノ調査ニ對シテハ各州カ前現共和國憲法發布以前ニ於テ村有地及村用地ニ關シ發シタル州ノ法律ヲ以テコレカ基礎トナサシメタレトモ斯ル法律ヲ發布シタルコトナキ州ハ舊西班牙總督時代ノ法律ニ據ルコト、セリ而シテ此ノ舊法律ニ據リタルモノハ其規定スル村用地ヲ村有地ニ合併シ凡テ之ヲ「レダ」四方トナシ「エヒード」即チ村用地ノ名目ノ下ニ置クコト、セリ

斯クノ如ク舊用地及村有地ハ各村ノ住民間ニ無代價ニテ分配セラル、コト、ナリタリト雖トモ遂ニ實行セラル、ノ運ニ至ラスシテ止ミキ然レトモ越エテ千八百七十八年ニ至リ「チャバス」州知事ハ同年中中央政府ニ向ツテ村有地ノ處分ニ就キ伺書ヲ出シタルニ中央政府ハ同年三月二十六日附ヲ以テコレニ對シ千八百六十三年ノ命令ト同一ノ趣意ヲ以テ村用地ニシテ既調査ノ分ハ直ニ之ヲ各村ノ住民間ニ分配スヘク又未調査ノ分ハ速ニ之ヲ測量シテ其手續ニ及フヘシ而シテ此ノ命令ニヨリ分配ヲ受ケタル者ハコレニ對スル地券ヲ得タル日ヨリ起算シ八ヶ年間ハ之ヲ他ニ讓渡スルコトヲ得ス等總テ五ヶ條ニ分チ回答命令スル所アリタリ然レトモ該命令ハ亦直ニ執行セラル、ノ運ニ至ラサリキ斯クテ政州府ハ千八百九

十二年八月十一日附ヲ以テ村用地分配ニ關スル法律ヲ發シタリシカ漸ク千九百五十年ニ至リ村用地委員 Agents de Ejido
ヲ「ソコス」郡ニ任命シ愈々小分拂下ケノ實行ニ着手セリ然レトモ州政府ハ、聯邦政府ノ法律ニハ村用地ハ之ヲ無償
ニテ村民間ニ分配スヘシトアルヲ無視シテ相當ノ代價ヲ徵シテコレヲ分配スルコト、セリコレカ爲メニ村民間ニハ其
代價ヲ仕拂ヒ得ル金持派ト無償分配ヲ主張スル貧乏派トノ二派ヲ出ヌニ至レリ而シテ貧乏派ハ甚ダシク州政府ノ措置ヲ
憤怒シ同郡「ウイウイタン」村ニ於テハ州政府ノ派遣セル測量技師ハ村民ノ妨礙ニヨリ終ニ測量ニ着手スルコト能ハス又
「エストイン」村ニ於テハ測量技師ハ村民ノ爲メニ殺害セラレタル等村民等ノ激昂一方ナラザリキ、斯クノ如ク貧乏
派ノ激烈ナル反抗アリシニモ拘ラス金持派ハ競フテ其買得セントスル土地ヲ區劃シ委員ニ向ツテ其拂下ケヲ請求セリ、
我小橋岸本合名會社ノ如キモコレニ連レテ「アカベタ」村内ニ四百餘町歩又日墨協働會社ハ「アカコヤグア」村内ニ於
テ七百餘町歩ノ地所ノ拂下ケヲ請求セリ然ルニ日墨協働會社カ請求シタル地所ノ所在地タル「アカコヤグア」村ノ住民ハ
州政府ハ中央政府ノ法律ヲ無視シテ斯ク擅斷ニ村用地ヲ拂下ケル權能ナキモノト主張シ州政府ノ命令ヲ尊重セザリキ、
斯クテ同村ノ住民ハ一人トシテ土地ヲ區劃シテコレカ拂下ケヲ請求シタルモノナカリシカハ村用地委員ハ大ニ之ヲ憤怒
シ村用地ノ全部ヲ日墨協働會社及同會社ニ關係アル墨國人數名ニ賣リ飛ハシタリ爾來一方其拂下ケヲ受ケタル日墨協働
會社及外數名ハ各其所有權ヲ行使セシニ他方「アカコヤグア」村民ハ之ヲ無視シテ同シク其所有權ヲ主張シ同時ニ州政府
ノ拂下ケヲ不法行爲トナシ之ヲ否認セリ、コレ即チ「アカコヤグア」村民カ今日ニ至ル迄舊村用地ノ大部分ノ所有者タル
日墨協働會社ニ對シ數々土地回収ノ運動ヲナシタル所以ニシテ又本問題ノ起因實ニコ、ニ存ス
然レトモ、ニ注意スヘキハ純然タル對日本殖民土地回収問題ト稱スヘキモノハ「アカコヤグア」村民カ日墨協働會社ニ
對スルモノノミニシテ其他ノ日本殖民土地ニ對スル回収問題ハ前記各村ノ貧乏派カ金持派ニ對抗シテ行ヒタル運動ニ
シテ日本人モ偶々土地購入者ノ一人トシテ金持派ノ連帶者タルニ過キササルヲ以テ特ニ日本人ニ對スル問題ニハアラ
スト知ルヘシ

要スルニ本件ハ土民ト日本殖民トノ利益ノ衝突ナルカ如シト雖トモ亦聯邦政府ノ法律ト州政府ノ法律トノ抵觸ニ淵源ス
ルモノト言ハサルヘカラス即チ既記ノ如ク聯邦政府ハ各州政府ニ向ツテ無代價ニテ之ヲ各村住民間ニ分配スヘシト命令
シタルニ「チャバス」州政府ハ九十二年ノ州法律及九十三年ノ同法施行規則ヲ以テ「チツワ」州「サンルイス」、ポトシ州其
他或ル數州ト同シク相當ノ代價ヲ徵シテ拂下ケヲナスコト、セリコレ即チ本問題紛争ノ起因ナルカ斯クノ如ク地方政府
カ聯邦政府ノ意志ニ反シスル法律ヲ制定シ得ルノ權能アリヤ否ヤノ問題ハ姑ラク其筋ノ判斷ニ委ヌルコト、シ若シコレ
アリトセハ「アカコヤグア」村民ノ要求ハ全然理由ナシト雖トモ若シコレニ反シテ地方政府ニハ斯カル權能アルコトナシト
セハ我殖民側ノ主張スル所有權ハ凡テ村用地拂下ケヲ受ケタル者ノ其レト同シク自ら其理由ナキモノトナラサルヲ得ス
尙村民ハ中央政府ノ法律ニハ村民間ニ村用地ヲ分配スヘシトアルニ州政府カ外國人ニ之ヲ拂下ケタルハ愈々以テ其行爲
ノ不法ナル事ヲ表證スルモノナリト主張ス、然ルニ聯邦政府ハ千八百九十四年中復官有地拂下法ヲ發布シタルカ其中ニ
於テモ亦同シク村用地ヲ除外シナカラ尙ホ「チャバス」州政府ノ擅斷措置ニ對シ何等ノ干渉ヲナシタルコトナキハ全然行
爲ヲ承認シタルモノト認メ得ヘシ、唯愛ニ奇怪ナリトスル一事ハ初メ日墨協働會社ノ社員有馬六太郎カ日墨協働會社ヲ
代表シテ「アカコヤグア」村用地ノ拂下ケヲ得タルハ千九百五十年七月四日ナルニ聯邦政府ハ同村民ノ願ニヨリ同年八月二
十九日附ヲ以テ同村役場ニ下附シタル證明書ニハ同村村用地ハ依然「アカコヤグア」村民ノ所有ナリト明記シアルコトコ
レナリ、コレ或ハ右有馬ニ拂下ケ濟ノ通知未タ聯邦政府ニ到着セザリシ以前ナリシカ故ニ政府ハ右拂下ケノ事實ヲ知ラ
スシテ斯クノ如キ證明書ヲ下附シタルモノナルヤモ測リ難シ
因ニ記ス、千八百六十三年ノ聯邦政府ノ法律ニハ村用地ノ分配ヲ受ケタル者ノ所有權ハ聯邦政府ノ官報ニ公示セラル
、事ニヨリテ効力ヲ生スト規定シアルヲ以テ小官ハ出張先ヨリ歸館後當國農商務省ニ就キ之ヲ調査シタルニ同省ニ於
テハ「チャバス」州政府ヨリ斯ル通牒ヲ受ケタル事ナク從テ官報ニ公示ナキ事實ヲ明ニセリ然レトモ「チャバス」州政府
ノ官報ハ當時之ヲ公示シタルハ疑ナキ事實ナリトス

卑見ヲ以テスレハ千八百六十三年ノ聯邦法律第一條ノ目的ハ一般村民ヲ保護スルカ立法者ノ精神ニシテ特種ノ金持ヲ惠
遇スル爲メニ規定セラレタルモノニアラス又該法律條項ノ目的物タル村用地ハ當然官有ニ歸スヘキ性質ノモノナルノミ
ナラス法律上ノ原則トシテモ地方自治權ハ唯中央政府ト抵觸セサル範圍内ニ於テ存在シ得ルモノニシテ地方政府ハ中央
政府ノ意志ニ反シ何等立法ノ權能ナシ此ノ點ニ關シ墨國憲法ニハ何等具體的ニ規定スル個條ナク唯其第一百四條ニ「各
州知事ハ聯邦政府ノ法律ヲ公示シ且ツ之ヲ履行セシムルノ義務アリ」ト規定セルノミ、依テ此ノ見地ヨリスル時ハ「チ
ヤパス」州政府ノ措置ハ越權ノ行爲ナルカ如クニシテ「アカコヤグア」村民ノ主張ハ全然理ナシト言フヲ得サルカ如シ然
レトモ我殖民ハ全ク bona fide ニテ州法律ノ規定ニ遵ヒ他ノ多クノ金持派ト同シク正當ノ手續ヲ踏ミテ土地ヲ買得シタ
ルモノナレハ彼等カ本件發生ノ責ハ全然墨國官憲ニアリト信シ其解決ヲコレニ向ツテ請求スル又無理ナキカ如シ
然レトモ本問題ハ假令當局ノ解決ニヨリ所有權カ日墨協働會社ノ爲メニ認めラル、ニ至ルモ將來同會社ト村民トノ間ニ
起ル閣着ハ決シテ停止スルコトナカルヘシ何ントナレハ同地所ハ「アカコヤグア」村民ニ取リテハ日常生活ノ問題ニ大關
係ヲ有スルモノナレハナリ

尙ホ日墨協働會社ノ所有地ハ其大部分ハ樹木鬱蒼トシテ現今放牧ニ使用スル位ニテ殆ント放棄ノ狀ニアルカ如キヲ以テ
第三章第二節日本殖民ト外國殖民トノ關係ノ段ニ於テ記述セルカ如ク土民ノ我殖民ニ對スル土地回收運動ハ亦獨逸人ノ
教唆ニ因ルモノナキニアラサルカ如シ

第二項 所有土地ノ現狀

舊本殖民地ノ狀態ニ付テハ第二章第五節ニ於テ詳記セル所ナルカ其承繼者タル墨國人「カステイヨ」及日本人藤野辰
次郎並ニ小林直太郎ノ三人中藤野ヲ除ク外他ハ其殖民地ヲ全ク自然ノ狀態ニ委セシメテ更ニ何等ノ開發ニ着手セシ跡ナ
シ、明治三十年中故子爵榎本武揚ノ代理人室田義文ト墨國農務大臣「マヌエル、フェルナンデス」トノ間ニ結ビタル墨西
哥國「チャパス」州土地購入契約ハ唯其第三條ノ規定スル十五ヶ年賦拂ノ地代ノ拂込ミカ履行セラレタルノミニテ同第五

條ノ規定スル殖民地ニ日本殖民ヲ移住セシムヘキ土地購入契約者ノ義務ハ殆ント不履行ノ姿ニアリ、從ツテ當初墨國政
府カ日本殖民地ヲ建設スルノ目的ヲ以テ土地ヲ榎本子爵ニ拂下ケタル趣意ハ全然實行セラレシテ過キタリ、故ニ若シ
土民ニシテ少シク才智ニ富ミ榎本殖民地ノ實際ノ事情ヲ看破シ又他方管理人照井ノ盡力ヲ缺キ尙又承繼人ノ一人ガ「チ
ヤパス」州選出上院議員トシテ人ニ知ラル、「カステイヨ」ニアラザリシナラハ該殖民地承繼者ハ早ク既ニ契約不履行ノ
廉ヲ以テ告發セラレ殖民地契約第二十六條ノ規定ニヨリテ該契約ハ消滅シ全殖民地ハ疾クニ墨國政府ノ回收スル所トナ
リタルヤ明ナリ然レトモ幸ニシテ該殖民地ハ前章第五第一目ノ註ニ見ユルカ如ク今ヤ所有權ハ全ク承繼者等ニ歸シタル
ヲ以テ何等危懼スルノ要ナキナリ(附録契約書ノ全文參照)

斯ノ如ク舊本殖民地ハ全然自然ノ狀態ニ委棄セラレテ何人モコレニ手ヲ付クルモノナク會々土民カコレニ侵入シテ開
墾シ又薪材其他ヲ伐採スレハ所有主ノ名ヲ以テ直ニ嚴禁セラル、有様ニテ土民ノ見地ヨリスル時ハ日本殖民ハ見スカタ
富源ヲ放擲スルモノニテ彼等土人中少シク事理ヲ解シ又外國殖民等ト交ヲ結フノ徒ハ之ヲ以テ不生産的ナリトナシ日本
人カ何等開發ノ事業ニ從事スルコトナクシテ徒ニ斯ル大地面ヲ所持スルハ「ソコス」郡ノ産業ノ見地ヨリシテ頗ル不
經濟的ナリ杯ノ外國殖民カ爲スカ如キ議論ヲ唱ヘ機會ノ至ルアレハ之ヲ回收シテ村民ノ使用ニ充テンコトヲ冀望スル者
アルハ同地ノ現狀ニ徴シテ決シテ推察スルニ難カラサルナリ、加之殖民地ハ「エスタイントラ」村ノ北方山地ノ殆ント全
部ヲ占ムル六萬三千餘町歩ノ大地所ナルヲ以テ同村民カ朝夕之ヲ眺メテ憤慨ノ念ヲ起スハ蓋シ無理ナキナリ然レトモ同
地ハ由來官有地ニシテ村民ノ利益トハ直接大ナル關係ナク加フルニ土民ハ一言之ヲ日本殖民地ト稱スト雖トモ其大部分
ハ「チャパス」州ノ名士「カステイヨ」ノ所有スル所ナルヲ知ルヲ以テ回收熱ハ前段記載ノ「アカコヤグア」村民カ我日墨
協働會社ニ對スルカ如キコトナキハ明ナリトス

第三項 土地回收問題ノ經過

土地回收問題ノ成行ヲ記サンニ「エスタイントラ」其他二三ノ村ニ於テハ金持派ノ勢力割合ニ強ク一時ハ貧民派ヨリ激烈

第四章 在留日本人ニ對スル土地回收問題

ナル反抗ヲ受ケ又甚クシク怨恨ノ的トナリタリト雖トモ金持派ハ官憲ノ後援ヲ得テ遂ニ事件ハ鎮定スルニ至リシヲ以テ小橋岸本合名會社ノ如キモ之カ爲ニ特ニ土民ノ敵意ヲ招クコトナキヲ得タリシカ「アカコヤダ」村民ニ至リテハ其後モ頑トシテ當初ノ主張ヲ撤回セス益々日本人ニ對シテ強度ノ迫害ヲ加ヘ日墨協働會社理事照井亮次郎ノ如キハ殺害セラレントセシコト兩三回ニモ及ヒシト云フ又村民側ヨリ之ヲ觀ルニ彼等ハ舊村用地カ照井ノ爲ニ買收セラレタル結果トシテ自由ニ之ヲ使用スルコト能ハサルニ苦ミ居リシカ翌年即チ千九百十六年十二月中「ソコヌスコ」村長カ「エスキントラ」村ニ出張セシヲ好機會トシテ村民ハコレニ向ツテ本件ノ解決ヲ懇訴セリ爰ニ於テ村長ハ雙方ヲ召喚シテ詳シク其陳情ヲ聴キ取り其結果自ラ調停ノ勞ヲ取り遂ニ村民ヲシテ日墨協働會社ノ所有權ヲ認メシメ同月四日附ヲ以テ雙方ノ間ニ和解書ヲ調製シ各當事者ヲシテコレニ署名捺印セシメタリ爰ニ於テ大事件ハ一先ツ其落着ヲ見ルニ至リタリ、而シテ該和解書ハ本問題ニ關シテ頗ル重要ナル書類ナルヲ以テ左ニ之ヲ譯出スヘシ

和解書

千九百十六年十二月四日「エスキントラ」村ニ於テ「アカコヤダ」村民「シムツヤ、オールドニエス」外五十四名(姓名ヲ略ス)及他方日墨協働會社理事照井亮次郎「ソコヌスコ」部長タル小官ノ目前ニ於テ左ノ陳述ヲ爲シタリ
「アカコヤダ」村民ハ舊ニ州政府カ村用地ヲ拂下グルニ當リ日墨協働會社(千九百十五年八月村用地委員ヨリ買得タル場所ハ「アカコヤダ」村民ガ代々村用地トシテ使用シ來リシモノニシテ彼等ハ依然其所有者ナルコト又村民ハ是迄該地所ニ農作物樹木等ヲ所有シ居ルモ爾來自由ニ之ヲ收穫スルコト能ハズシテ爲メニ日墨協働會社トノ間ニ鮮カラズ紛争ヲ惹起シタル次第ナリ然レトモ今後尙コノ儘繼續スル時ハ雙方ノ蒙ル損害ハ重大ナルヲモ測リ難キヲ以テ種メ之ヲ遮クルノ方法トシテ村民ハ「予」部長ノ仲裁ヲ得テ種和ナル解決ヲ得シコトヲ請願シタリ、而シテ他方照井亮次郎氏ハ同シク本問題ノ和解ヲ希望スル旨ヲ陳述シ尙左記ノ提議ヲナセリ
第一、「アカコヤダ」村民「ボワン、アントニオ」外五名(姓名ヲ略ス)ハ日墨協働會社ガ買得タル土地ニ其以前ヨリ甘藷ヲ栽培シ居ルヲ以テ之ヲ收穫スルコトヲ得ベシ但シ來年(千九百十七年)三月末日迄ニハ之ヲ終了シ其土地ヲ會社ニ還附スベキ事
第二、凡テ本件地所内ニ玉蜀黍ヲ栽培セル者ハ依然之ヲ栽培シ又其收穫ヲナスコトヲ得ベシ但シ彼等ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ終了シ其土地ヲ會社ニ還附スベキ事
第三、照井氏ハ本件地所内ニ「バナナ、菠薐、カカオ、珈琲、マゲ」等ノ永久の植物ヲ所有スル者ニ對シ其賠償トシテコレニ墨資二百弗ヲ拂下シ以上ノ提議ハ當事者タル村民ノ間ニ於テ遂ニ討議ヲ遂ゲタル上之ヲ承認シ且「予」村民ハ日墨協働會社ハ本件地所ノ正當ナル所有者ナルコト及ヒ爾來彼等ハ同地ニ對シテハ何等ノ權利ナキモノナルコトヲ宣言セリ

尙前記二百弗ヲ目前ニ於テ「アカコヤダ」村民ニ交付セラレタレバ同村長ハ之ヲ其權利者ノ間ニ平等ニ分配セリ、コレニテ本件ハ其結局ヲ告グタリ仍テ後日ノ爲メ本書ニ述フ作リコレニ雙方署名捺印スルモノナリ
千九百十六年十二月四日

- 「エスキントラ」村ニ於テ
- 「チヤパス」州「ソコヌスコ」部長
 - 「レオボルト、サラサール」手摺
 - 「マリヤノ、ガルシヤ」手摺
 - 「ロムロ、エレ、ロハス」手摺
 - 「アカコヤダ」村長
 - 「グメルシンド、クルス」手摺
 - 「アカコヤダ」村長
 - 「照井亮次郎」手摺
 - 「日墨協働會社理事
 - 「照井亮次郎」手摺
 - 其他村民五十四名
 - 手摺

斯ノ如クニシテ本件ハ一先ツ解決ヲ見タレトモ何分該村用地ハ「アカコヤダ」村民ノ古來糧食ノ淵源ニシテ彼等ニ取リテハ村用地所有問題ハ實ニ死活問題トモ云フヘキモノナルヲ以テ時々小悶着ハ日墨協働會社トノ間ニ起ラタルコトアレトモ特ニ記載スヘキ程ノ事件ナクシテ済ミタリキ

第四項 土地回收問題ノ現狀

斯クテ千九百十年ニ至リ前大統領「ディアヤス」將軍ノ革命動亂アリ該革命黨員ハ下層労働者又ハ小作人ニ向ツテ若シ革命黨ノ天下トナラハ「ディアヤス」政府ノ壓制政治カ擅斷ニ小作人等ヨリ沒收シタル土地ハ悉ク之ヲ回收シ以テ彼等ノ間ニ分配スヘシ等ノ說ヲナシテ頻リニ彼等ヲ煽動セシカハ(明治四十五年三月一日發行通商黨第十八號在墨公使報告墨國政府ノ農業政策參照)「チヤパス」州ニ於テモ「エスキントラ」又ハ「アカコヤダ」村民ノ如キハ之ヲ以テ舊政府ノ所爲ハ總テ其瓦解ト共ニ没却セラレ、モノト誤解シ、早ク其ノ日ノ至ランコトヲ期待セリ然ルニ千九百十一年五月中前大統領「ディアヤス」氏カ革命ノ影響トシテ辭職スルノ止ムヲ得サルニ至リ世ハ遂ニ現大統領「マテロ」氏ノ天下トナルヤ「エスキントラ」村民ノ如キハ舊政府ノ下ニ執行セラレタル土地拂下ケハ全然無効ナリト唱ヘ土地回收ノ聲ハ復再ヒ揚リ同村内金持派ト貧民派トノ間ニ甚クシキ軋穢ヲ生シ又「アカコヤダ」村民ハ堂々我殖民ノ所有地ニ侵入シ或ハ材木ヲ伐採シ或

ハ果實ヲ横領シ之ヲ禁制スレハ却テ抵抗ヲ試ムルカ如キ有様ニテ如何ントモ致シ方ナカリシニ加ヘ時恰モ州知事ハ新任セラレ郡長ハ更迭シ又各村長ハ村民ノ間ニ新選セラレ、コト、ナリシカハ村内ノ野心家ハ此ノ機ニ乘シ素志ヲ貫カント欲シ頻リニ村内多數ヲ占ムル貧民派ノ同情ヲ引カントシテ宛モ革命黨員カ曾テ前政府ニ對シテ採用シタルト同一手段ヲ以テ之ヲ煽動シタリシヨリ其影響トシテ土地回收熱ハ終ニ其極度ニ達シ剩ヘ舊本殖民地ヲモ回收スヘシト揚言シ其地内ニ在リテ小作ヲナスモノニ至ル迄小作代ノ仕拂ヲ拒ム有様トナレリ而シテ「エスキントラ」村内ノ貧民派ハ一時村役場ヲ占領シ小銃ヲ發射シ金持派ト看做サレタル在留日本人ハ寧ロ生命ノ危險ヲ怖ル、ノ状態ニ立チ至リシヲ以テ殖民ハ直チニ電報ヲ以テ急ヲ公使館ニ告ケ保護ヲ請求シ來レリ幸ヒ墨國新政府ハ直ニ命令ヲ「チャパス」州知事ニ下シ迅速ナル措置ニ出テシヲ以テ事件ハ大事ニ至ラス鎮靜スルヲ得タリト雖モ「エスキントラ」村ノ選舉ハ遂ニ貧民派ノ勝利トナリ現村長ハ選舉セラレタリ由テ金持派ノ恐慌ハ又一方ナラサルモノアリキ

「アカコヤグア」村ニ於ケル土地回收ノ運動ハ革命ノ影響ニヨリテ一層火ノ手ヲ揚ゲタレトモ元來カ日々ノ食料ニ關係スル問題ナルヲ以テ前記ノ通り千九百十六年十二月「エスキントラ」村ニ於テ「ソコヌスコ」村長ノ仲裁ニヨリ日墨協働會社トノ間ハ和解シ問題ハ落着シタルニ拘ラス其後依然殖民ノ土地ニ侵入シ或ハ竊ニ果實ヲ盜ミ、樹木ヲ伐採シ又家畜ヲ放チテ之ヲ禁スルモ服従スル者ナキ有様ナリシカ村民ハ千九百一十一年十一月二十五日附對日本人土地回收ノ件ニ關シ村會ヲ開キ其議決書ヲ寫ヲ照井ノ許ニ送リ越シ復モ土地ノ所有權ヲ主張セリ而シテ其要旨ニ曰ク舊村用地ハ中央政府ノ意志ニ遵フテ無償ニテ村民間ニ分配セラルヘキモノナルニ州政府ハ擅斷ニテ之ヲ拂下ケタルモノナルヲ以テ該拂下ハ當然何等ノ効力ヲ有スルモノニアラス由テ村會ハ日墨協働會社カ主張スル所有權ヲ否認スト然ルニ中央政府ニ於テハ其後第二次革命動亂(Counter-revolution)發生スルニ遭遇シ之レカ鎮壓ニ努ムルト同地ニ各地農民ノ蜂起スルヲ防クノ手段トシテ農商務省ヲシテ頻リニ各地市町村ニ布告ヲ送ラシメ違カラス土地分配委員ヲ派遣スルノ意ヲ通セシヲ以テ「アカコヤグア」村民ハ之ヲ以テ愈々政府ハ分配委員ヲ派遣スルモノト早合點シ爾來殖民ノ所有地ニ侵入スルコト益々甚クシク小官

ノ出張中ニモ二回迄甘藷園ニ放火シ第一回ハ四五百圓第二回ハ三千圓内外ノ損害ヲ蒙ラシメタル有様ナリキ依テ殖民等ハ之ヲ官憲ニ訴フルモ革命以來人民ノ權勢俄カニ強盛トナリ、コレニ反シ官吏ノ權力ハ甚クシク墜下シ官吏ハ唯人民ノ歡心ヲ得ンコトノミニ焦心シ徒ニ因循姑息ノ處置ニ出テ何等ノ効果ヲ得ルコトナク甚ク困却シ居リタリ

小官ノ「タバチユラ」滞在中、一日照井ハ突然同市ニ來リ告ケルニ「アカコヤグア」村民ノ我殖民地ノ所有權ヲ尊重セザルコト今ヤ極度ニ達シ又殖民ハ危險ノ狀ニアリモシ再ヒ同地ニ出張シテ親シク村民ニ接シ事情ヲ調査シ又機會アレハ彼等ニ一場ノ談話ヲ試ミラルレハ彼我ノ感情融和ノ點ニ付キ裨益スル所鮮カラザル旨ヲ以テセシカハ小官ハ即日堀口代理公使ニ事情ヲ具シテ許可ヲ得翌日「タバチユラ」市ヲ發シ「エスキントラ」ニ向ヘリ尙ホ其翌日照井ト共ニ「アカコヤグア」村ニ出張シ直ニ村長以下村役場員及村民ト村役場内ニ會シ逐一事情ヲ聽キ取り又コレニ關スル書類ノ回覽ヲ了シタルカ村民ノ主張スル所ハ既記ノ通り千九百十五年ノ村用地拂下ケハ不法行為ナルヲ以テ無効ナル事、從テ日墨協働會社ハ該地所ニ對シ何等所有權ヲ有スルモノニアラスト云フニアリ尙ホ彼等ハ本問題ヲ中央政府ト直接ノ關係タラシメ州政府又ハ郡長トノ關係ヲ語ルヲ好マサルモノ、如シ、爰ニ於テ小官ハ彼等ニ向ツテ諸君ノ要求スル所全然理ナキニアラサルカ如シト雖トモ日墨協働會社ニ於テモ墨國官憲ヨリ正當ノ手續ヲ經テ該地ヲ買得シタルノミナラス「アカコヤグア」村民ハ千九百十六年中「エスキントラ」村ニ於テ「ソコヌスコ」郡長ノ目前ニテ公然日墨協働會社ノ爲メニ該土地ノ所有權ヲ認メタル次第ナレハ同會社カ其所有權ヲ有スル亦正當ニシテ何等疑ヲ容ル、ノ餘地ナキナリ由テ本件ハ諸君ノ希望スルカ如ク其權利ノ何處ニ存スルヤニツキ中央政府ノ裁決ヲ仰クモ宜カラシカ其裁決ノアル迄ハ該地所ノ所有權ハ依然之ヲ日墨協働會社ノ爲メニ尊重セザルヘカラス何ントナレハ諸君ハ前述ノ通り千九百十六年中「C. P. C.」ニ公然其所有權ヲ該會社ノ爲メニ認メタレハナリ而シテ斯ク所有權ヲ同會社ノ爲メニ認メタル以上ハ濫リニ該地所ニ侵入シテ果實ヲ横領シ又樹木ヲ濫伐スヘキニアラサルナリ然レトモ村民中之ヲ敢テスルカ如キ者アルニ於テハ將來却テ諸君ノ不利益トナルヤ明ニシテ余ハ諸君ノ爲メニ之ヲ惜マサルヲ得ス故ニ本問題ハ諸君ノ冀望ノ如ク中央政府ノ裁決アル迄ハコレカ現状ヲ維持シ該地

所ニ對スル日墨協働會社ノ權利ハ之ヲ尊重スヘキナリト説諭セシニ彼等ハ一同コレニ同意ヲ表シタリ然レトモ本問題ノ由來ハ度々記載セシ通り彼等日常ノ麵粉ノ問題ナルヲ以テ小官ハ縱令彼等カ斯克同意シタリトスルモ彼等ニ果シテ之ヲ履行スルノ真意アリヤヲ疑ハサルヲ得ザリキ

附記 此ノ報告淨書ノ當時照井ヨリ公使館ニ宛テ提出シタル保護請願書中ニ聯邦政府ハ「アカコヤグア」村民ノ請願ニ對シ「アカコヤグア」村用地ハ同村民ノ所有ニ屬スルヲ以テ各自ノ間ニ分配シテ差支ナシト回答セル由ヲ報告シ越セリ爾來村民ハ植民ニ向ツテ土地引揚ヲ請求セリト云フ

尙ホ小官ハ村民ニ談話中墨西哥府ニハ帝國公使ノ駐劄スルモノアルコトヲ知ラシムルノ必要アリト思料シタルヲ以テ彼等ニ向ヒ諸君モ知ルカ如ク今日ハ往昔ト異ナリ各國ハ各其間ニ條約ナルモノヲ締結シテ在留外國人ノ利權ニ保障ヲ與フルノ義務ヲ有スルト同時ニ外交官ナルモノヲ交換シテ各其國人ノ外國ニ在ル者ノ利權ヲ保護セシム即チ墨西哥國カ特命全權公使ヲ日本ニ駐劄セシムルカ如ク日本モ亦墨西哥ニ特命全權公使ヲ駐劄セシム仍テ今日ハ外國人ナリトテ住昔ノ如クコレニ對シ妄ニ其權利ヲ無視シ又之ヲ蹂躪スルカ如キハ文明國ノ決シテ爲ササル所ナリト談話シ小官ハ照井ト共ニ村役場ヲ辭シテ「エスケイントラ」村ニ歸レリ

其後村民ハ本件ヲ中央政府ニ訴ヘ其解決ヲ俟テ居リシモノ、如ク頗ル平穩ニシテ前記照井ノ保護請求アリシ迄ハ何等事ナクシテ經過セリ

第二節 土地回收問題ノ將來及其解決法

土地回收問題ノ將來ヲ考フルニ舊稷本植民地ハ今ヤ其大部分ハ墨國人ノ所有ニ歸シ又千九百五十年中小橋岸本合名會社カ買得シタル土地ハ所謂村内金持派ト共ニ購入シタル連帶關係ヲ有シ何レノ場合ニ於ケルモ將來ハイサ知ラス現今土民カ日本植民ノミニ對シ回收運動ヲ爲ス譯ニ行カサル事情アルヲ以テ今後稍安心シテ可ナルモノアリト雖トモ日墨協働會社

カ買得シタル「アカコヤグア」村内ノ土地ハ既記ノ通り同會社及同會社關係人カ購入シタルモノナルヲ以テ土地回收ハ單ニ日本植民ニ對スル問題ニシテ今後假令政府カ「アカコヤグア」村民ノ冀望ヲ容レコレニ裁決ヲ與ヘ日墨協働會社ノ爲メニ該地所ノ所有權ヲ確認スルコトアリトスルモ其回收運動ハ將來永ク止ムルコトナカルヘシ蓋シ該係争地ハ以上ノ理由アル外村民ノ生活ニ必要缺クヘカラサル土地ニシテ彼等カ何百年來代々同地ニ寄りテ生活シ來リシ所ナレハナリ、仍テ本問題ヲ解決スルニハ幾多方法アルヘシト雖トモ係争當事者ノ利益ニ鑑ミル時ハ凡ソ左記ノ二方法ノ一ツニ依ルノ外ナキカ如シ

第一、事業ヲ開始シテ村民ヲ利用スル事

第二、政府ヨリ土地ヲ買上ケ貰フ事

今左ニ項ヲ逐フテ其然ル所以テ記述スヘシ

第一 事業ヲ開始シテ村民ヲ利用スルコト

本件係争地ハ「アカコヤグア」村ノ三方ヲ圍繞シ其狀宛モ該地域内ニ殊更勞働者ノ村落ヲ建設センカ如クニシテ土人ノ勞力ヲ利用スルニ甚タ容易ナルノミナラス地味頗ル肥沃ナルヲ以テ熱帶事業地トシテハ理想的ト云フヘキナリ、由テ同地ニ事業ヲ開始シ村民ノ全部ヲ使役シテコレニ日常ノ糧ヲ與フレハ一ツハ以テ村民ノ土地回收熱ヲ融和スヘク一ツハ事業者ノ利益トナリ一舉兩得本問題ノ解決方法トシテハ頗ル良策トイハサルヘカラス而シテコレ一見甚タ突飛ノ策ナルカ得シト雖トモ此地方ニ於ケル外國植民ノ事業ハ一ツトシテ此ノ種ノ設計ニヨラサルハナシ惟フニ日墨協働會社カ此ノ地ヲ購入シタル目的ヲ亦コ、ニ存セシナルヘケレト事業ハ會社ノ現狀ヨリシテ稍大ニ過キコレニ投スル資本不足ノ爲メ未タ之ヲ實行スルコト能ハサルノ域ニアルカ如シ、然ルニ其前ニ當リ斯クモ村民ト悶着ヲ惹起スニ至リタルハ同會社ノ爲メニ深ク遺憾トスル所ナリ

第二 政府ニ對シ土地ノ買上ヲ請願スルコト

第四章 在留日本人ニ對スル土地回收問題

日墨協働會社カ多年苦心慘憺シテ取得シタル土地ヲ他ニ讓渡スルカ如キハ恐ラク同會社ノ好マサル所ナルヘシト雖トモ同社ノ現狀ハ未タ多額ノ資本ヲ投シテコレニ事業ヲ開始シ得ル狀態ニアラス然レハトテ之ヲ他日ニ俟タンカ村民ノ同會社ニ對スル反抗ハ益々甚タシキニ至ルヘシ加之今後或ハ土地回收問題カ一村ノ問題ヨリ轉シテ地方問題トナルヤモ測リ難ク斯クテハ獨リ日墨協働會社ノミナラス一般日本植民ニ迄不慮ノ累ヲ及ボスニ至ルヘキヤモ測ルヘカラス故ニコノ解決ハ頗ル緊急ヲ要スルモノナルカ此際機宜ノ方法トシテハ墨西哥政府ニ買上ケ貰フヨリ外ナカルヘシ

墨國政府ハ去ル千九百十一年十二月十八日附ヲ以テ土地買上ケ及分配ニ關スル法律ヲ發布シ(明治四十五年三月一日發行通商彙纂第十八號在墨公使報告墨國政府ノ農業政策參照)今ヤコレカ實施中ナレハ本件地所ノ買上モ萬更出來難キ事ニモアラサルヘシ唯恐ル、所ハ價格ノ點ニアリ然レ其本問題ハ其特別ノ事情ニ鑑ミ特別事件トシテ取扱フコト不可能トモ斷シ難ク宛モ彼ノ下「カリフォルニア」半島ノ住民カ革命動亂ノ影響トシテ同地ニ事業ヲ經營スル英國眞珠會社ニ對シ甚タシク反抗ヲ試ミタル際遂ニ政府ハコレカ解決方法トシテ三十萬圓ヲ同會社ニ仕拂ヒ其事業ヲ買上ケ以テ土民ニ自由營業ヲ爲サシムルコト、シコレニ満足ヲ與ヘタルカ如キ事例モアレハ本件土地買上ケノ如キモ絕對ニ不可能ナリト斷言スルコト能ハサルヘシ

附 錄

墨西哥「チャバス」州土地購入契約書

墨西哥國農商務殖民大臣「マヌエル、フェルナンデス、レアル」氏ハ墨國政府ヲ代表シ子爵榎本武揚氏ノ代理人室田義文氏トノ間ニ「チャバス」州所在官有地ノ賣買及之ニ殖民地ヲ設立スルノ件ニ關シ締結シタル契約

第一條 千八百八十三年十二月十五日發布ノ法律第二十八條ニ準據シ榎本子爵ハ「チャバス」州ニ殖民地ヲ設立スルコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ從ヒ墨國政府ハ第三者ニ對シ故障ヲ有セサル「チャバス」州「ソコススコ」郡「エスクイントラ」所在ノ官有地ヲ子爵榎本武揚氏ニ賣渡シ後者ハ右ノ土地ヲ購入ス

第三條 前記ノ土地ニ於テハ殖民地ヲ設立スヘク代價ハ所在地地價ノ標準ニ從ツテ「ヘクタラ」ニ付墨貨一弗五十五仙ノ割合トシ其拂込期限ハ本契約締結ノ日ヨリ起算シ向フ十五ヶ年間ノ年賦拂トシ其期日毎ニ墨國公債證書ヲ以テ之ヲ大藏省ニ納付スヘシ

購入者ハ本契約ニ定メタル期限前ト雖トモ便宜其代價ノ拂込ヲ爲ス事ヲ得

第四條 購入地ノ地券ハ其代價ノ拂込ヲ終ル毎ニ農商務大臣ノ證明ヲ得テ其拂込地所ニ對スル地券ヲ交附スヘシ

購入者ノ義務

第五條 購入者ハ其買受ケタル土地ノ測量ヲ終ル毎ニ二千「ヘクタラ」ニ付小クトモ一家族ヲ移住セシムヘキ義務ヲ有ス右ノ移住民ハ日本人ニ限ル

第六條 本契約ニ於テ家族ト稱スルハ左ノ者ヲ云フ

第一、夫婦ニシテ子アル者又子ナキモノ

第二、父若シクハ母ニシテ其監督ヲ受クル一人又ハ數人ノ子孫アルモノ

第三、兄弟姉妹ニシテ其内一人ハ成年以上ノモノタルモノ

家族ノ移住トハ既ニ家屋ヲ建築シ土地ノ開墾ヲ始メタルモノヲ云フ

第七條 本契約成立後三ケ年間ニ十五戸ノ家族ヲ移住セシメ以後八年間ニ第五條ニ規定シタル割合ヲ以テ其土地全體ニ於ケル移住ヲ完成セシムヘシ

第八條 購入者ハ家族ヲ移住セシメタル時ハ其移住ノ時日ヲ記シタル證明書ヲ地方官若クハ政府カ特ニ命シタル代理人ヨリ申シ請ケ之ヲ以テ家族ノ移住ヲ證明スヘシ

第九條 購入者ハ毎會計年度ノ終ニ於テ殖民地ニ於ケル事業ノ狀況ヲ墨國政府ニ報告スヘシ墨國政府ハ亦以上ノ規定ニ拘ラス何時タリトモ右報告ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

政府ハ必要ト認ムル場合ニ於テ殖民移住ノ實況視察ノ爲メ吏員ヲ派遣スルコトヲ得ヘシ

第十條 購入者ハ現行殖民條例第二十八條ニ從ヒ一家族ニツキ五「ヘクタレヤ」ノ割合ヲ以テ購入地所ヲ無代價ニテ讓與シ若クハ之ヲ賣渡スヘキ義務アルモノトス

第十一條 購入者移住者トノ契約ハ凡テ千八百八十三年十二月十五日發布ノ法令ニ從テ締結シ農商務省ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 購入者ハ本契約ニ關聯シテ起ル問題ニツキ墨國政府ト協議ヲ遂ル爲メ適當ノ代理人ヲ墨府ニ在留セシムヘシ
第十三條 本契約ニ規定シタル家族ヲ移住セメサシムル時ハ購入者ハ一家族ニツキ一百弗ノ科料ヲ公債證書ヲ以テ墨國大藏省ニ納付スヘシ

第十四條 購入者ハ本契約第五條ニ規定シタル家族ヲ移住セシメタル後ハ其殘存地ノ一部若クハ全部ヲ賣却スルコトヲ得

第十五條 購入者ハ如何ナル場合ニ於テモ本契約ニヨリテ得タル權利ヲ外國政府ニ讓與シ若シクハ質入スルヲ得ヌ又權利ニ依リ成立シタル會社ノ社員トシテ外國政府ヲ加入セシムルコトヲ得ヌ

又豫メ墨國政府ノ認可ヲ經スシテ本契約ニヨリテ得タル權利ヲ一個人又ハ私設會社ニ讓渡シ若クハ質入スルヲ得ヌ但シ便宜上株券若クハ社債ヲ發行スルハ自由ナリトス

第十六條 購入者ハ其殖民ヲ移住セシムルニ當リ豫メ彼等ニ對シ墨國現行法、歸化法及外國人取締法ヲ諭告スヘシ若シ此ノ諭告ヲ怠リ移住後殖民ニシテ是等ノ法規ニ抵觸スルモノアル時ハ購入者其責ニ任スヘシ

第十七條 本契約ノ保證トシテ購入者ハ契約締結ノ日ヨリ起算シ三ケ月内ニ公債證書ヲ以テ壹千弗ヲ墨國々立銀行ニ納付スヘシ但シ此保證金ハ第二十六條ニ規定シタル本契約ノ消滅ト同時ニ沒收セラレ、モノトス

殖民者

第十八條 子爵親本武揚氏ノ設計ニ係ル殖民地ニ移住スヘキモノハ凡テ現行殖民條例第五條及第六條ニ規定シタル資格ヲ備ヘタル者ニ限ル又彼等ハ墨國ニ移住スルト同時ニ凡テ墨國ノ法律ヲ遵守シ且ツ本契約ノ規定ニ從フヘシ

購入者ノ使役ニ従事シ居ル者ハ殖民者ト見做スコトヲ得ヌ
第十九條 殖民條例第十條ニ準據シ購入者ノ設計ニ係ル殖民地ニ移住スル者ハ其移住ノ日ヨリ起算シテ十ケ年間左ノ特權ヲ享有スルコトヲ得

第一、兵役ノ免除

第二、地方税及印紙税ヲ除クノ外諸税ノ免除

第三、殖民地ニ要スル農具類、器械建築用材料、既用ノ家具類、種用及勞働用畜類ニ對スル輸入税並ニ内國税ノ免除但シ此特權ハ他ニ讓渡スコトヲ得ヌ

第四、殖民者ノ收穫物ニ對スル輸出税ノ免除但シ此ノ特權ハ他ニ讓渡スコトヲ得ヌ

附 錄

第五、公其事業ニ對スル功蹟顯著ナル者ヲ顯賞シ及農工業上ノ新企圖ヲナシタルモノニ特別保護ヲ與フル事
第六、移住ノ目的ヲ以テ墨西哥へ來航スル者ニ對シ領事館ヨリ發給スル旅券ノ交付並ニ其査證ニ關スル手数料ヲ免除
スルコト

第二十條 移住者ハ千八百八十三年十二月十五日發布ノ殖民條例ニ規定シタル前條ノ特權ヲ享有スルト共ニ墨國憲法ニ
於テ墨國人及ヒ外國人ニ對シテ規定シタル權利ヲ有シ義務ヲ負フ訴訟ニ關シテハ其性質如何ニ拘ラス凡テ墨國法廷ノ
裁判ニ服シ其權利義務ハ法律上墨國人ノ享有スルモノト同等ナルヘシ

購入者ノ特權

第二十一條 榎本子爵又ハ其設立ニ係ル會社若クハ其承繼人ハ本契約第七條ニ準據シ初メテ殖民者ヲ移住セシメタル日

ヨリ起算シテ十五ケ年間ハ左ノ特權ヲ享有スルコトヲ得但シ千八百八十三年十二月十五日發布ノ殖民條例第二十五條
第五項ノ規定ハ茲ニ適用スルノ限ニアラス

第一、印紙稅ヲ除クノ外殖民事業ニ使用スヘキ資本ニ對シテハ一切ノ課稅ヲ免除ス

第二、少クトモ十家族以上ノ移住民ヲ當墨國內ニ搭載シ來ル船舶ニ對シテハ港灣改良稅及水先案内料ノ外凡テ港稅ヲ
免除ス

第三、殖民地ニ於テ使用スル器具機械建築用材料勞働用又ハ種用畜類ハ凡テ輸入稅ヲ免除ス但以上ノ物品ハ移住民自
身ニ携帶セザル場合ニ限ル

第二十二條 移住民ヲ移住地ニ送致スル一切ノ費用ハ購入者ノ負擔トス但政府ノ補助ヲ受クル汽船及鐵道ニ對シテハ政
府ト該會社トノ契約ニ規定シタル同一ノ割合ヲ以テ之ヲ使用スルコトヲ得、此ノ割合ヲ得ルニハ其都度農商務省ニ出
頭スヘシ

一般處分法

第二十三條 本契約第十九條及第二十一條ニ掲ケタル特權ハ千八百八十九年七月十七日並ニ千八百九十三年六月九日發

布ノ法令ニ從ツテ享有スヘシ尤モ殖民者ヲ移住セシメタル後ニアラサレハ購入者ハ此特權ヲ享受スルコトヲ得サルヘシ

第二十四條 榎本子爵又ハ其設立ニ係ル會社若シクハ其承繼者カ外國人タルト否トヲ問ハス凡テ本契約ノ定ムル所ニ從

ヒ墨國人タル資格ヲ以テ取扱ハルヘシ而シテ墨國內ニ於テ起リタル事件ハ凡テ墨國裁判權ニ依テ裁判セラルヘシ

故ニ本契約ニ關スル事件ハ其性質ノ如何ニ拘ラス唯墨國法律カ其國人ニ附與シタル權利ノ外ハ外國人タルノ權利ヲ用
ユルコトヲ許サス隨テ該事件ニ間シ外國交際官之ニ干渉スルコトヲ得ス

第二十五條 榎本子爵ハ本契約ノ規定ニ從ヒ移住セシムヘキ殖民者ノ爲メニ如何ナル場合ト雖トモ墨國政府ニ對シ保證

金若クハ土地ノ賞與ヲ要求スルコトヲ得ス

第二十六條 本契約ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノトス

第一、本契約第十七條ニ規定シタル保證金ヲ其期限内ニ納付セザル時

第二、本契約第三條ニ規定シタル年賦拂込ヲナサザル時

第三、本契約第七條ニ規定シタル家族ヲ移住セシメザル場合

第四、本契約第十條ニ規定シタル義務ヲ果サザル場合

第五、購入者ノ使役ニ從事スルモノヲ移住民ト見做ス時

第六、本契約ニ規定シタル殖民者以外ノ國民ヲ移住セシメタル時

第七、豫メ墨國政府ノ許可ヲ經スシテ本契約ノ權利ヲ會社若シクハ一個人ニ讓渡シタル時

第八、本契約ニ規定シタル權利ヲ外國政府ニ讓渡シ若シクハ質入レシ又ハ外國政府ヲ其設立シタル會社ノ組合員ト

ナシタル時

第二十七條 前條第二項ノ理由ニヨリ本契約カ消滅シタル場合ニハ購入者ハ其保證金ヲ失フト同時ニ代金未拂ノ土地ハ

附錄

一六五

再ヒ墨國々有地ニ編入セラレヘシ

第二十八條 第二十六條第三項ノ理由ニヨリ本契約カ消滅シタル場合ニハ購入者ハ其保證金ヲ失フヘシ
但シ其代金ヲ支拂ヒタル土地ニ關シテハ適宜處分スルコトヲ得

第二十九條 第二十六條第四、第五、第六及第七項ノ理由ニヨリ本契約カ消滅シタル場合ニハ購入者ハ保證金ヲ失フヘシ

第三十條 第二十六條第八(？)項ニ牴觸シテ本契約カ消滅シタル場合ニハ本契約全部ノ外其保證金及既得財産ノ權利並ニ企圖セル工事ノ權利ヲモ併セテ失フモノトス

第三十一條 凡テ本契約カ消滅シタル場合ト雖トモ既ニ移住シテ第十九條ニ規定シタル特權ヲ有シ又其買得ニ係リ或無償讓渡ヲ受ケタル土地及財産ニ對シテハ所有權ヲ保持スル事ヲ得

第三十二條 非常ノ變災ニ遭遇シテ本契約所定ノ期限内ニ購入者カ果スヘキ義務ヲ終ヘサル場合ニハ農商務省ノ承認ヲ得テ之ヲ中止スルコトヲ得

但シ本條義務ノ中止ハ非常事變ノ經過後ニケ月ヲ以テ期限トス

第三十三條 本契約ノ有効期限ハ其成立ノ日ヨリ起算シテ向フ十五ケ年間トス

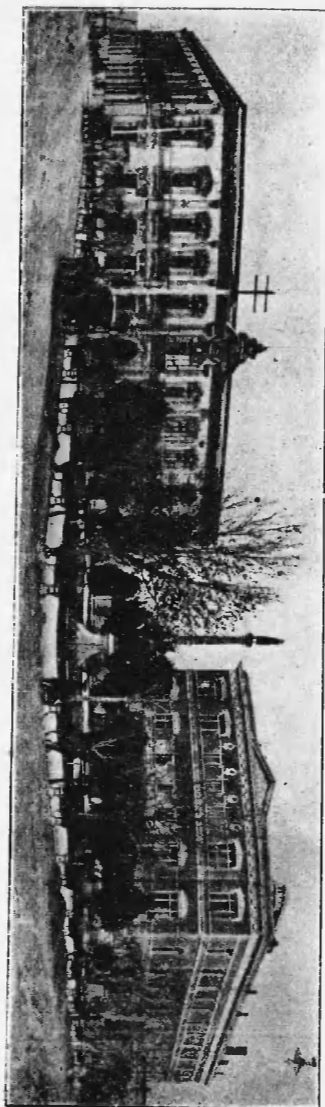
墨府ニ於テ

明治三十年一月二十九日

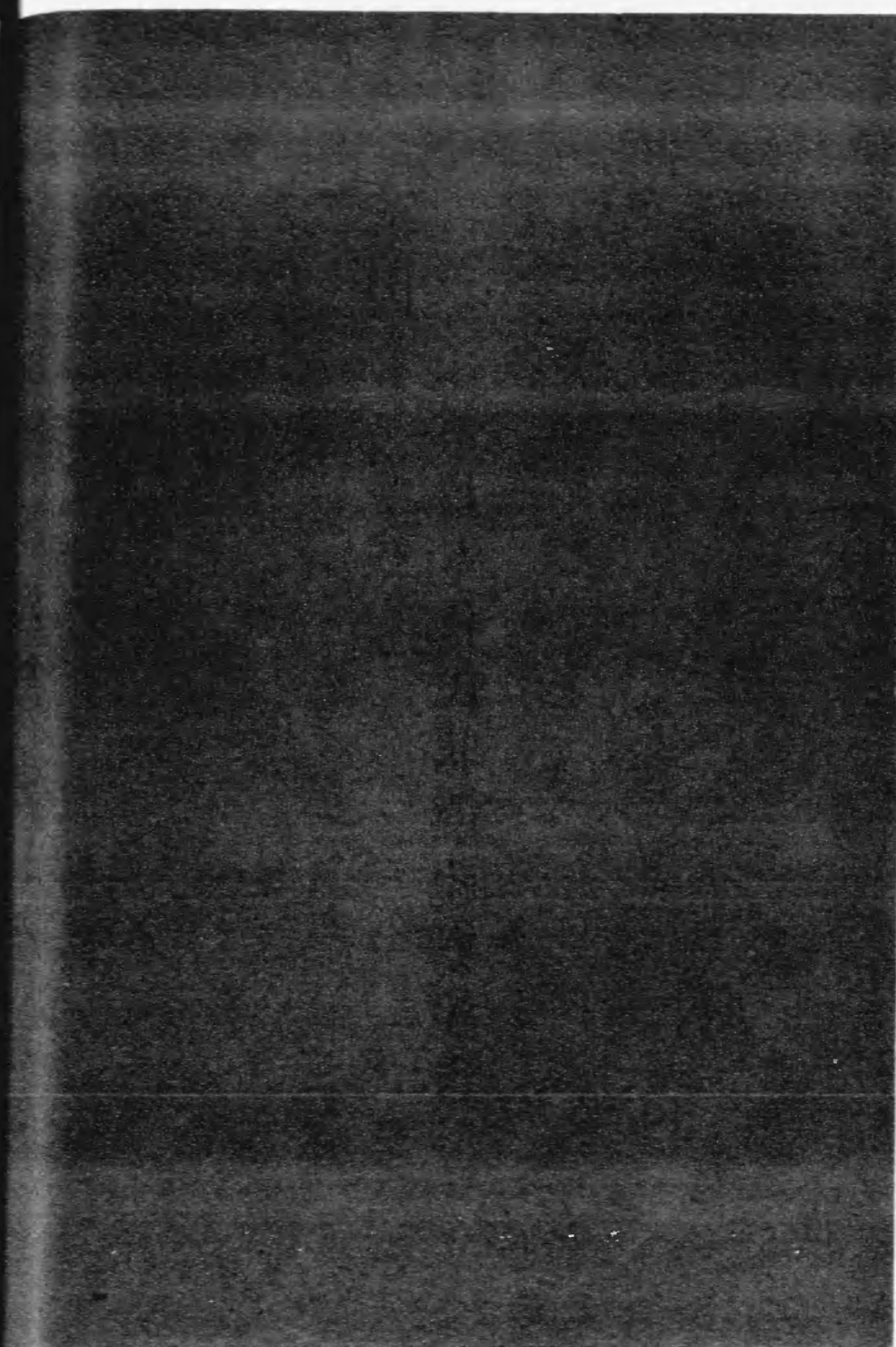
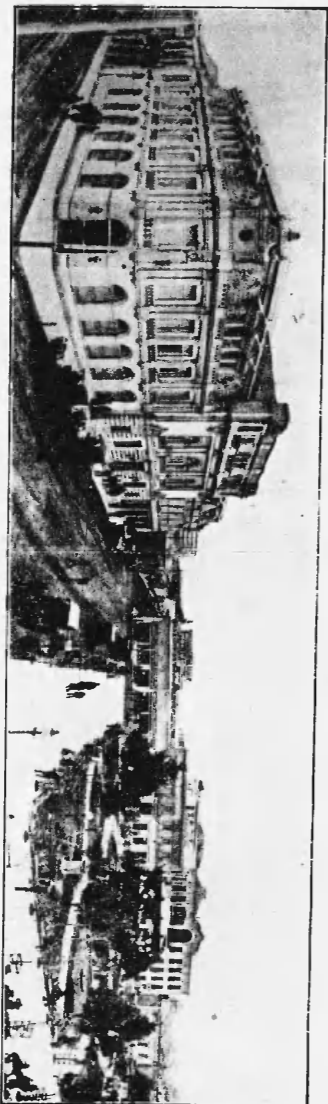
「エム、ンメルナンデス、レアル」手署
室 田 義 文 手署

墨國チワワ州
在留日本移民狀態視察報告

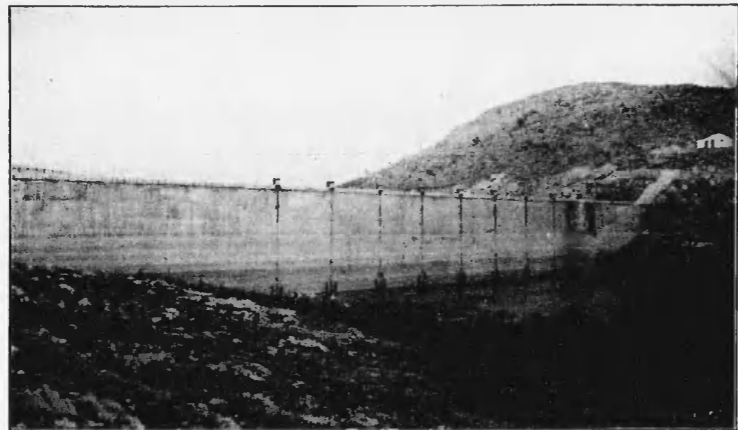
場劇「ヌモロ」及廳州「ワラチ」哥西器



廳々市「ワラチ」哥西器



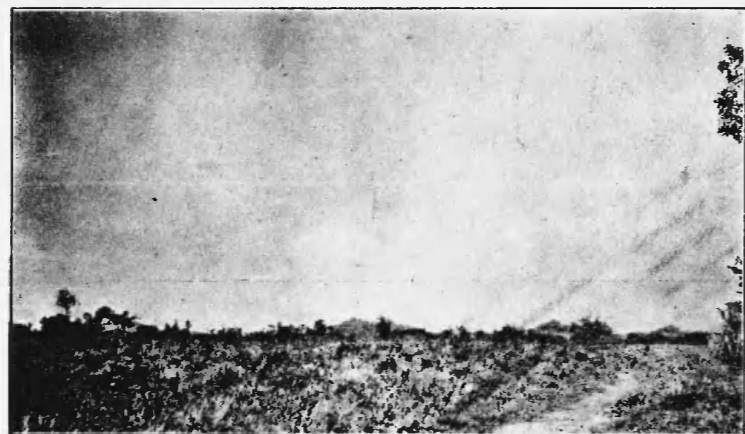
堰水ノ水用市「ソツチ」哥西墨



市「ラユチバタ」哥西墨



(社會名合本岸橋小) 場牧村「アタグベカア」「コスヌコン」哥西墨



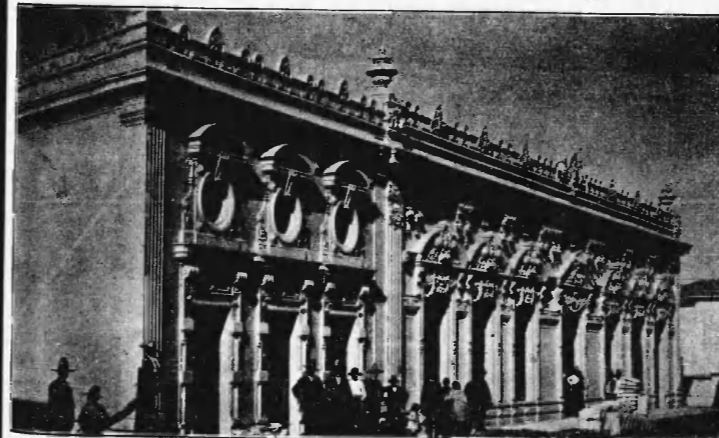
岡 廠 島 ノ 市 「ソ ツ チ」 哥 西 墨



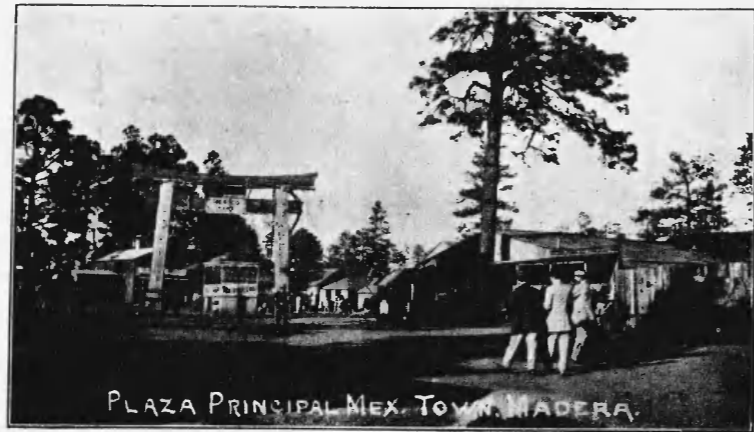
街 住 居 流 上 市 「ソ ツ チ」 哥 西



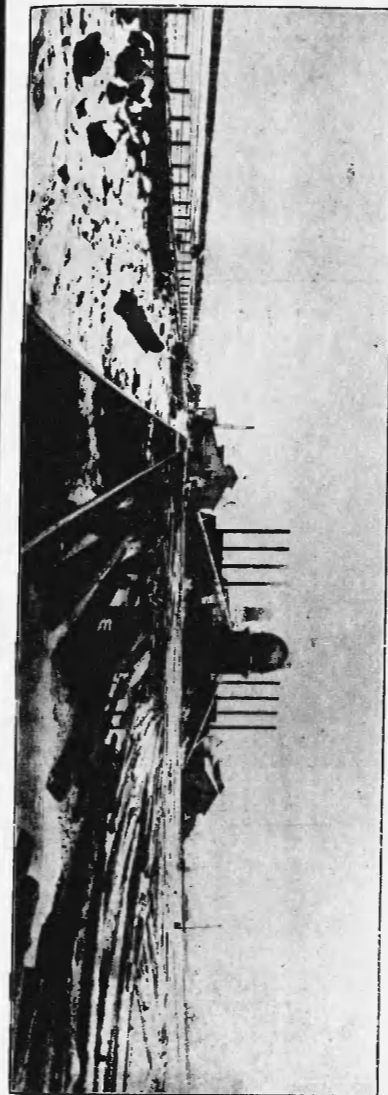
家 住 ノ 豪 富 市 「ソ ツ チ」 哥 西 墨



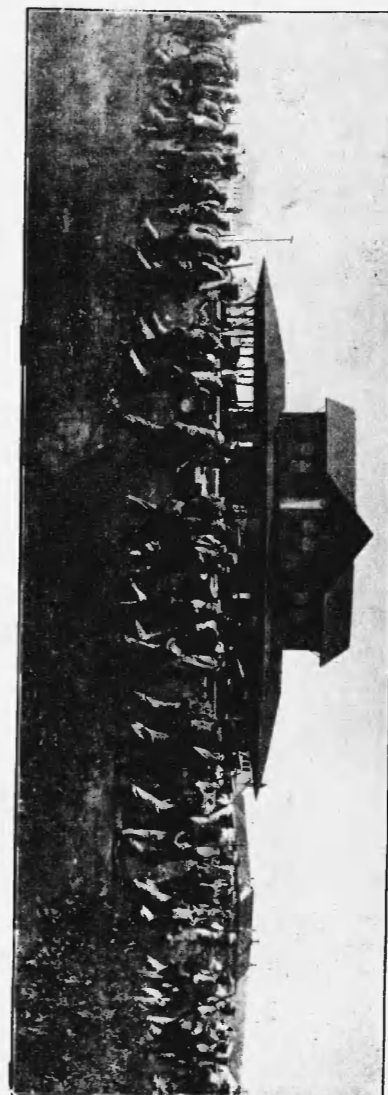
「ソウメンカシキメ」村「ラデマ」哥西墨



店商人本日「ソオレルエ」州「ソソチ」哥西墨
(氏治代喜畑 ×)



社 會 木 材「ラデマ」州「ソソチ」哥西墨



軍官哥西墨「ラデマ」前場車停「ラデマ」州「ソソチ」哥西墨

(勉強 ×) 督監人士及人本日留在地耕「モニロヘンサ」哥西墨



督監人士及人本日留在地耕「モニロヘンサ」哥西墨



家住地耕「モニロヘンサ」哥西墨



店商人本日州「ワツチ」哥西墨
(シボツハ、ルデ、ルス、ルエ)



宅住郎大小田藤・住「コスヌコソ」哥西墨



（樹年二）林護謨ルケ於ニ郡コススコソ」哥西墨



校學小廳「コススコソ」哥西墨



家住ノ地耕「モニロヘンサ」哥西墨



河テアチス」スナラ界境ノ國「ラマテアグ」



店種藥社會働協墨日在「コスヌコン」哥西墨



宅住ノ松常施布人理管場農野藤在「コスヌコン」哥西墨



(場農コフタ) 社會働協墨日在郡「コスヌコン」哥西墨



墨國「チワワ」州在留日本移民狀態視察報告

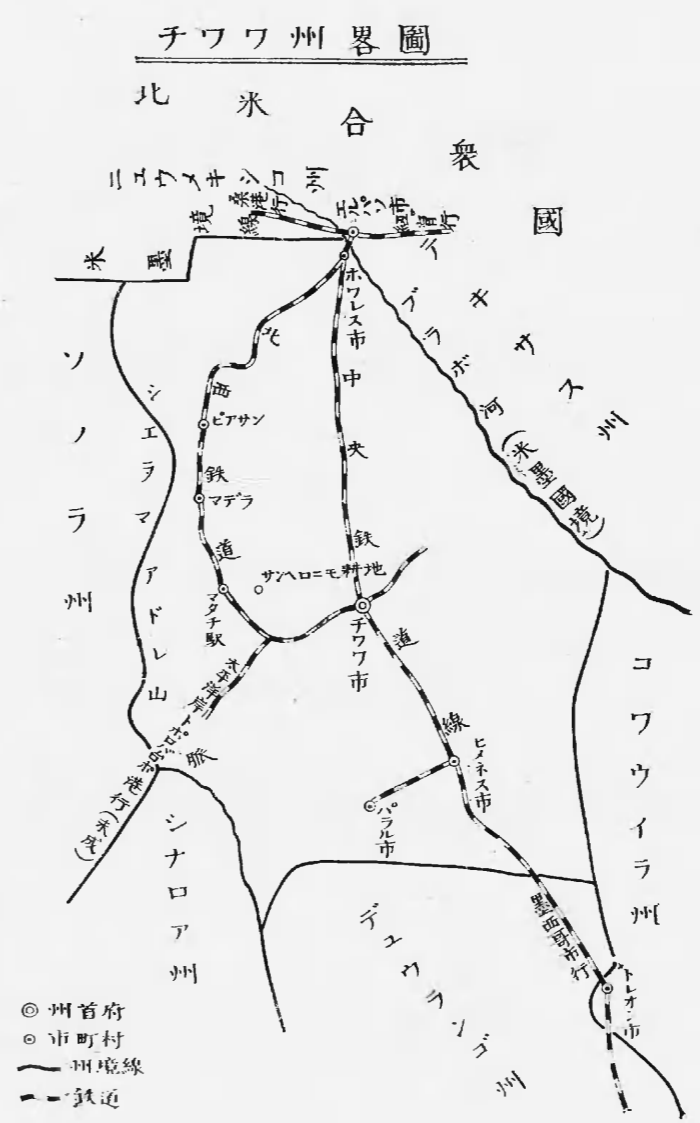
目次

緒言

- 第一章 「チワワ」州ノ地理要領
 - 第一節 「チワワ」州ノ位置、面積及人口
 - 第二節 「チワワ」州政府及行政機關
 - 第三節 「チワワ」州ノ交通及都會
 - 第四節 「チワワ」州ノ地勢及氣候
 - 第五節 「チワワ」州ノ產物
 - (イ) 礦產物
 - (ロ) 農產物
 - (ハ) 林產物
 - (ニ) 畜產物
- 第二章 「チワワ」市在留日本人ノ狀態
 - 第一節 「チワワ」市在留日本人ノ數及在留ノ由來
 - 第二節 「チワワ」市在留日本人ノ商店及其將來
 - 第三節 在留日本人ト土民トノ關係
- 第三章 「ゲレロ」郡「サンヘロニモ」日本人耕地ノ狀態
 - 第一節 「サンヘロニモ」日本人耕地ノ由來

- 第二節 「サンヘロニモ」耕地在留日本人ノ生活狀態
- 第三節 「サンヘロニモ」耕地ノ事業及其將來
- 第四節 耕地ニ於ケル日本人ト土民トノ關係

- 第四章 「ゲレロ」郡「マデラ」在留日本移民ノ狀態
 - 第一節 「マデラ、ラムバア、カムパニイ」ノ事業
 - 第二節 「マデラ」在留日本人ノ由來及其現在數
 - 第三節 材木會社ノ事業ニ使用セララル日本人ノ狀態
 - 第四節 材木會社ノ事業ニ關係ナキ日本人ノ狀態
 - 第五節 在留日本人ト土民トノ關係
- 第五章 結論



墨國「チワワ」州在留日本移民狀態視察報告

(大正元年十二月十五日 在墨西國公使館提出)

外務書記生 荒井金太

緒言

本報告ハ之ヲ「チワワ」州在留日本移民狀態視察報告ト云フモ「チワワ」州全般ニ亘ルモノニアラス蓋シ同州ニ於ケル日本移民ハ同州中或ハ鑛山ニ或ハ農場ニ飛散勞働スル者アル外ニ多數日本人ノ群居スル者ハ州「チワワ」市、「マデラ」材木會社ノ所在地「マデラ」村及米穀國境ノ一都「ホワレス」市ノ三個所ナリトス而シテ本報告ハ唯前記「チワワ」市並ニ「マデラ」及其附近ノミニ亘ルモノニシテ「ホワレス」市ノ分ハコレヲ含マズ

今回「チワワ」州出張ノ主ナル目的ハ革命動亂ノ爲メニ損害ヲ蒙リタル在留民ノ狀態ヲ視察スルニアリタルヲ以テ在留日本移民一般狀態ノ視察ハ唯其序ニ之ヲ爲シタルニ過キス、隨テ本報告ハ一般狀態視察ノ點ニ於テ尙ホ未タ間然スル所ナキヲ保シ難シ然レトモ記載事項ノ事實ニ關スル分ニハ全然誤謬ナキヲ確信ス又「ホワレス」市ノ分ヲ此ノ報告中ニ入レサルハ曩ニ提出シタル日本移民被害狀況視察報告ニモ記述セシ通り小官視察當時ハ内亂尙ホ酷ニシテ「チワワ」州ノ北部ハ全ク賊軍ノ占領スル所トナリ數十人ノ小團體ヲ成ヌ暴徒到ル所ニ出沒シ或ハ鐵道ヲ破壞シ或ハ旅客ヲ脅迫シテ金品ヲ強奪スル等危險極リナキ狀態ニアリシノミナラス鐵道又ハ電信ハ總テ毀損セラレ通信交通全然杜絶シタルヲ以テ出張當初ノ希望ノ如ク米境「ホワレス」市ニ足ヲ入ルルヲ得ザリシカ爲メナリ

第一章 「チワワ」州ノ地理要領

第一節 「チワワ」州ノ位置、面積及人口

緒言

「チワワ」州 Estado de Chihuahua、ハ墨國ノ北部ニ位シ北緯二十六度ヨリ三十二度ノ間ニ在ル温帯ノ一州ニシテ我九州及琉球ト略ホ其位置ヲ同フス而シテ北ハ「ブラボ」河 Rio Bravo ヲ隔テ北米ニユウ、メキシコ及ビ「テキサス」ノ兩州ニ境シ西ハ墨國「ソノラ」州 Sonora ニ南ハ「シナロア」州ト「サウラン」州 Sinaloa & Durango トニ接シ東方一帯「コフウイラ」州 Coahuila ト境ス

「チワワ」州ノ面積ハ一萬五千百十六平方里(二十三萬三千九百四十四平方基米突)ニシテ其大サ我本土ヨリ稍大ニシテ北海道ノ二倍半ニ髣髴タリ尙ホ之ヲ墨西哥ノ全面積ニ比スル時ハ其八分ノ一弱ナリ
最近ノ統計ニ據リ同所ノ人口ヲ視ルニ其數四十萬五千二百六十五人ニシテ之ヲ我本土ノ人口ニ比スル時ハ九十分ノ一弱ナリトス又同州ノ一方里ノ人口ヲ算出スルニ二十六人強ニシテ之ヲ我本土ノ其レニ比スル時ハ九十七分ノ一弱ニ過キス又以テ墨國ハ其北部温帯ノ地ニ於テモ未タ人口ノ甚タ稀薄ナルコトヲ知ルヘシ

第二節 「チワワ」州政府及行政機關

墨西哥共和國憲法ハ聯邦各州ノ自治權ヲ認メ州政府ハ共和代議政體ヲ採用スヘキヲ規定ス
立法權ハ州議會之ヲ執行ス、州議會ハ十五人ノ專任議員ト十五人ノ補欠議員トヨリ成リ議員ハ二年毎ニ直接普通選舉ノ方法ニ依リ公選セラル
行政權ハ州知事之ヲ執行ス而シテ州知事ハ六年毎ニ直接普通選舉ノ方法ニヨリテ選舉セララル
司法權ハ州大審院之ヲ執行ス、大審院ハ本任判事五人ト補欠判事十人トノ外ニ檢事總長一人トヨリ成リ各員ハ四年毎ニ直接普通選舉ノ方法ニヨリテ選出セララル
州議會ノ制定シタル法律ニシテ司法ニ關スルモノハ州民法、同民事訴訟法州刑法、同刑事訴訟法及州裁判所構成法ニシテ商事ニ關シテハ聯邦區商法アリ

州内ノ行政機關、「チワワ」州ハ行政上之ヲ十二郡ニ分チ各郡ニ郡長ヲ置ク郡長 Jefe Politico ハ知事之ヲ任命ス而シテ郡ハ又之ヲ市町村 Municipios ニ分チコレニ市町村長ヲ置ク、市町村長 Presidente Municipal ハ郡長之ヲ任命ス而シテ州ノ行政ニ關スル法律ハ郡制法、牧畜法、警察規則、武器携帶規則、監獄規則、酒類販賣法及施行規則等ニシテ又州ノ衛生ニ關スル法律ハ州衛生法、傳染病消毒及隔離規則、藥種販賣規則、湯屋業及理髮業規則等ナリトス而シテ鑛山ニ關スル法規ハ聯邦政府ノ定ムル所ニヨル

第三節 「チワワ」州ノ交通及都會

北米柔港ヨリ南太平洋鐵道ニヨリ南進スル時ハ「テキサス」州ト墨國「チワワ」州トノ境界ニ方ル地點ニ於テ「エルバン」市ニ達ス同市ハ「ブラボ」河ノ北岸ニ位シ墨國「チワワ」州「ボワレス」市ト相對峙ス、今「ブラボ」河ヲ渡リテ「ボワレス」市ニ移リ墨國中央鐵道ニ乘シテ南進スル時ハ九十二里(三百六十四基米突)ニシテ州首府「チワワ」市ニ達ス尙ホ同市ヨリ鐵道ニヨリ南進スル時ハ四百九里(千六百九基米突)ニシテ共和國首府墨西哥市ニ達スヘシ
以上ハ米國ヨリノ路筋ナルガ今竊テ東洋汽船會社船舶ノ墨國寄港地「マンサニイヨ」港ヨリ路筋ヲ見ルニ今後十數年ヲ經タル曉ニハ同港ヨリ太平洋岸ニ併行シテ北方ニ延長スル計畫アル南太平洋鐵道ニヨリテ北進シ墨國「トボロバムボ」港「チワワ」市間ノ鐵道ニ乘リ換ヘ「チワワ」州ニ達スルヲ得ヘキモ現今ニ於テハ「マンサニイヨ」港ヨリ先ツ共和國首府ニ出テ距離九百七十基米突我二百四十七里)更ニ中央線ニ依リ北進スルノ外ナシ依テ東洋汽船ノ船舶ヨリ上陸シテ「チワワ」州ニ至ル陸路行程ハ現今ノ狀態ニ於テハ六百五十里内外ト知ルヘシ
以上ノ外州首府「チワワ」市ヨリ北西ニ向フテ延長シ州ノ西方一帯ニ蜿蜒スル「シエラ、マアドレ」山脈ノ東麓ヲ通過シテ米墨國境「ボワレス」市ニ達スル鐵道アリ之ヲ墨國北西鐵道線ト稱ス同鐵道ハ米國會社「マデラ、ラムバア、カムバニイ」ノ所有ニシテ當初會社カ之ヲ敷設シタル目的ハ材木輸出ニアリシヲ以テ國境「ボワレス」市ヨリ同會社ノ所在地「マデラ」迄

ノ計畫ナリシモ中央鐵道カ沙漠ノ如キ地方ヲ通過スル爲メ旅行極メ不快ナルニ引替ヘ北西鐵道ハ山間松柏ノ間ヲ通過スルカ故ニ獨リ氣候ノ甚ク清涼ナルノミナラス景色亦頗ル佳ナルヲ以テ會社ハ之ヲ州首府「チワワ」市迄延長シ材木ノ内地向輸送ニ便ニスルト同時ニ中央線ノ旅客ヲコレニ引キ付ケント企テタルモノノ如シ故ニ其列車ノ設備ハ全然米國ト同一ニシテ遙ニ墨國ノ其レニ優ルモノアリ

以上諸鐵道ノ外「チワワ」市ヨリ一方東北ニ向ツテ延長シテ米境ニ達セントシ又他方西南ニ向ツテ墨國太平洋岸「トボロバムボ」港ニ到ラントスル鐵道アリ之ヲ「カンサス、シテイ、メキシコ、エンド、オリエント」鐵道トナス同鐵道ハ「チワワ」市ノ運命ニ取リテハ頗ル要用ナルモノナルカ過般會社破綻ノ爲メ現今既成ノ部分ハ「チワワ」市附近ノ間僅ニ一百里内外ヲ殘スノミナリ

州首府「チワワ」市 Ciudad de Chihuahua ハ人口四萬ヲ有シ「チワワ」州產物ノ集散地ナルノミナラス幾多工場ノ所在地ニシテ墨國ノ地方都市トシテハ可ナリ繁昌ノ市ニシテ又將來頗ル有望ナル都會ナリトス同市ハ米國境ヲ隔ツル僅ニ九十二里ノ地點ニ位ス從テ米國トノ貿易最モ盛ナリ今試ニ千九百十一年ノ統計ニ據リテ同市カ米國ニ向テ輸出セシ金銀鑽石ノ高ヲ觀ルニ一千一百九十六萬九千四百五十八弗ニシテ之ヲ前年度ニ比スル時ハ二百萬弗内外ノ増加ヲ示スヲ觀ルヘシ「ホワレス」市 Ciudad Juarez ハ墨國中央鐵道ノ北極端ニ位シ主要ナル米墨通行關門ノ一タリ、夫ノ在墨本邦移民カ明治四十年頃米國ニ潛入セントシテ數多集合シ金錢食糧ニ窮シ醜體ヲ演シタルハ此ノ市ナリ市ハ人口一萬ヲ有シ墨國重要稅關ノ所在地ナリトス今千九百十一年ノ統計ニ據リテ同市ノ輸出入高ヲ觀ルニ同年中ノ輸出額ハ二千九百二十八萬六千八百七十七弗ニシテ輸入額ハ一千二百七十萬九千六百八十一弗ナリトス「マデラ」村ハ「マデラ」材木會社ノ創立ト共ニ起リタル一村ニシテ人口一萬内外ヲ有シ「マデラ」會社ノ事業ノ繼續スル間ハ「チワワ」州中繁昌ノ一村タルヘシ、同村ハ「アメリカン、タウン」及「メキシカン、タウン」ノ二區ニ分レ前者ニハ米人其他會社僱員タル歐洲人住居シ後者ニハ墨西哥人、日本人、土耳其人及支那人等ノ居住スル者多シ

以上ノ外「チワワ」州ニハ「ヒメネス」州及「バラル」州ノ兩都會アリト雖トモ本報告ニハ之ヲ略ス

第四節 「チワワ」州ノ地勢及氣候

「チワワ」州ハ西方「ソノラ」州及「シナロア」州ニ境スル部分ニ於テ一面「シエラ、マアトレ」山脈ニ鎖サレ漸次東方ニ向ツテ傾斜シ中央鐵道線ノ通過スル地方ニ達シ沙漠タル高原ノ中心ヲ形成ス今州政府ノ統計ニヨリテ其高低ヲ觀ルニ國境「ブラボ」河附近ハ海拔四千尺内外ナレトモ「シエラ、マアトレ」山脈中ニ於テハ一萬尺ノ高度ニ達ス即チ國境「ホワレス」市ニ於テハ海拔四千尺ナレトモ首府「チワワ」市ニ於テハ更ニ隆起シテ四千七百尺ニ昇リ「マデラ」村ニ到リテハ更ニ高度ヲ増シテ七千五百尺ニ達ス

同州ノ地勢斯ノ如クナルヲ以テ氣候亦自ラ差異アリ即チ西方山間ノ地ニ於テハ攝氏六度ニ降ルコトアルモ東方平地ニ於テハ四十度以上ニ達スルコトアリ今州政府ノ統計ニヨリテ同州ノ平均ノ溫度ヲ觀ルニ日蔭ニ於テ十八度六分陽所ニ於テ十九度ナリトス亦以テ平地ニ於ケル暑氣ノ如何ニ高キ高地ニ於ケル寒氣ノ如何ニ低キカヲ推測スルニ足ルヘシ降雨ハ山岳地方ニ於テハ多量ナレトモ平地ニ於テハ甚ク少シ故ニ平地ノ大部分ハ常ニ沙漠ノ狀態ヲ呈シ土地ノ廣大ニシテ肥沃ナリト稱セララルル割合ニ農産甚ク豊ナラス依テ政府ハ今ヤ頻リニ同地方ニ向ツテ灌溉ノ方法ヲ講シツツアリ

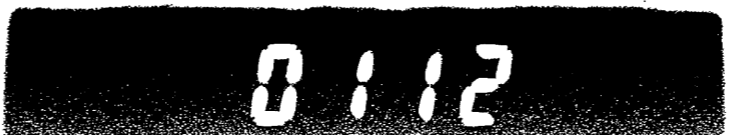
第五節 「チワワ」州ノ產物

(イ) 鑛產物

「チワワ」州ノ產物中最モ重要ナルモノヲ鑛物トナス今州政府ノ最近統計ニ據リテ年五十萬弗以上ノ鑛物ヲ產出スル會社產出物ノ種類及其產出價額ヲ表示スレハ左ノ如シ

會社名	產出鑛物名	產出價額
Palmarco Mexican Gold Fields	金及銀	八七二六四

第一章 「チワワ」州ノ地理要領 一七一



Cl. Minera de Naita	炭	1,750,000
Dolores Mining Co.	金、銀及鉛	1,484,841
American smelting Securities Co.	金、銀及鉛	3,217,700
Ch. Metalurgica de Torreon	銀、鉛及亜鉛	750,000
El Rayo Mining Dev. Co.	金、銀及鉛	1,721,700
San Toy Mining Co.	鉛及銀	6,675,676
America Smelting & Refng Co.	銀	750,000
Chihuahua Mining Co.	銀、鉛及亜鉛	575,157
Potosi Mining Co.	銀、鉛及亜鉛	1,177,777
Ignacio Rodriguez Ramos S. A.	銀及金	1,720,000
Cl. Minera "La Republica"	銀及金	8,355,675

(ロ) 農産物

州政府ノ最近統計ニ據リテ同州ノ土地ノ状態ヲ觀ルニ牧草地九百七十二萬五千町歩、未開墾地五百八十二萬五千町歩、森林地四百八萬七千町歩、既開墾灌漑地十三萬二千町歩ニシテ既開墾未灌漑地二十三萬五千町歩ナリトス而シテ同州主要農産物及其産額ヲ舉クレハ左ノ如シ

産物名	産額	産物名	産額
玉蜀黍	2,905,791	棉	1,042,117
小麦	1,244,861	「アルファルファ」牧草	5,976,000
「フリホル」豆	532,648	野菜	110,800
馬鈴薯	533,834	果物	4,995,100
胡椒	110,710		

(ハ) 林産物

林産物ハ重ニ白松 White Pine ニシテ「マテラ」材木會社ノ伐採ニ係ルモノナリトス、今州政府ノ最近統計ニ據リテ同州ノ林産物及其産額ヲ觀ルニ左ノ如シ

産物名	産額
白松	2,455,676

(ニ) 畜産物

家畜ハ本洲ノ主ナル産物ノ一ツニシテ今最近統計ノ示ス所ニ據リ其數ヲ見ルニ左ノ如シ
牛九十四萬七千頭、馬十三萬八千頭、「ミユウ」五萬八千頭、毛羊二十四萬一千頭、騾馬五萬三千頭ニシテ重ニ北米ニ輸出セラル、
以上掲載ノ數字ハ政府カ徵稅又ハ其他ノ關係ヨリ調査シタル數ナレハ實際ヨリ一般ニ小ナリト知ルヘシ(尙ホ「チワワ」州事情ニ就テハ明治四十五年三月一日發行通商彙纂第十八號墨國事情續ノ四[第二及第五參照])

第二章 「チワワ」市在留日本人ノ状態

第一節 「チワワ」市在留日本人ノ數及在留ノ由來

「チワワ」市在留日本人ノ數ハ百人近クニシテ其中所在判明ノ者ハ七十九人ナリトス今之ヲ營業ノ種類ニ依リテ區別スル時左ノ如シ

營業ノ種類	在留民數	營業ノ種類	在留民數
一、 食料品、酒類其他日用雜貨業	五三	一、 家内勞働者	四
二、 洋服裁縫業	三	二、 外ニ上ノ妻子	一七
三、 飲食店業	二	計	七九
四、 柔道教師	一		

尙ホ以上ノ外調査漏ノ者及墨國人タル妻並ニ其出生兒ヲ算入スル時ハ百人ニ近カルヘシト想像セララル
前記七十九人ノ中二ノ自由渡航者及米國ヨリ轉來セル者ヲ除ク外他ハ悉ク會テ契約移民トシテ明治三十八年ヨリ同四十二年ニ掛ケテ來墨セシ者ニシテ其大部分ハ大陸殖民合資會社ノ取扱ニ係リ殘餘ノ少數ハ東洋移民會社ノ取扱ニ係ルモノナリトス試ニ之ヲ表示スレハ左ノ如シ

第二章 「チワワ」市在留日本人ノ狀態



取扱會社名	來歴年次	上陸地	人数
大陸殖民合資會社	明治三十八年	「サリナクルス」港	一七四
同	同	「マンサニヨ」港	一
同	同	「マンサニヨ」港	二五
同	同	「サリナクルス」港	九
東洋移民會社	同	「サリナクルス」港	三
大陸殖民合資會社	明治四十年	「マンサニヨ」港	一九
同	同	「サリナクルス」港	七
同	同	「サリナクルス」港	一
笠戸丸船員タリシ者	同	同	六五
計			一七四

前記六十五人中大陸殖民合資會社ノ取扱ニ係ル者ニシテ「サリナクルス」港ニ上陸セシ者ハ「ヴェラクルス」州「オハケニヤ」耕地等ニ就勞シ又「マンサニヨ」港ニ上陸セシ者ハ「マンサニヨ」州「コリマ」間ノ鐵道工事ニ使役セラレシ者ナルカ何レモ明治四十年頃入米ヲ目的トシテ勞働地ヲ逃亡シ米墨國境ノ一州タルコノ「チワワ」州ニ來リシニ當時入米ハ最早絕對ニ禁止セラレ居リシヲ以テ其目的ヲ達スルコト能ハスシテ已ムナク同州ニ落チ付キ此ノ地方ニ就勞中「チワワ」市ノ商業ニ有望ナルヲ認め或ハ單獨ニテ自己ノ貯金ヲ投シ或ハ數人資金ヲ合投シテ商店ヲ開始シ以テ今日ニ至レルモノナリ又東洋移民會社取扱ノ者ハ「コソウイラ」州ノ炭坑ニ就勞セシモ四十二年逃亡シテ此地ニ來レル者ナリ又此等在留民中ニハ一度入米セシモ米國ノ面白カラサルヲ覺リ歸來セシ者一二人アルヲ認めタリ、

第二節 「チワワ」市在留日本人ノ商店及其將來

墨西哥國ニ於ケル日本移民カ殖民(外國ニ永住ヲ企ツル者ヲ云フ)ニ變スルニ當リ其多クカ商業ニ傾クノ形勢アルハ今ヤ疑フヘカラサルノ事實トナレリ、惟フニ日本人ハ農業ヨリモ寧ロ商業ニ適スル人民ナルニ引替ヘ墨國土民ハ古來ノ習慣トシテ純然タル農民ニシテ商業ニハ殆ント趣味ヲ有セザルノミナラス又此ノ種ノ能力ナキ人民ナル事及商業ハ日本移民ニ取リテハ農業ニ比シ金儲收得上遙ニ便利ニシテ且ツ容易ナルニ反シ小資本ヲ投スル所謂小殖民ノ農業ハ經營甚々困難

ニシテ且ツ其効果ヲ觀ル容易ナラサル事等カ其主ナル原因ヲナスモノノ如シ而シテ前記ノ事實ハ獨リ墨國日本殖民地ノ元祖タル「チャバス」州「ソコス」郡ニ於テ見ラル、所ナルノミナラス當國各地在留日本移民ノ間ニ一貫セル現象ニシテ當「チワワ」市ノ如キハ殊ニ其傾向ヲ著シク表示シ居ル所ナリトス即チ同市ハ日本人商店ノ多キ墨國隨一ト稱セラル「チワワ」市ニ於ケル日本人ノ商店ハ一ニ飲食店及洋服裁縫店ヲ除ク外他ハ悉ク日用衣服食料等ヲ販賣スル雜貨店(西班牙語ニテ「Tienda de abarrotes」ト稱ス)ニシテ其數總テ四十二近シ、由來墨國ニ於ケル此種ノ雜貨店ハ西班牙人ノ專ラ經營スル所ナリシカ最近支那人ノ之ヲ侵蝕セントセシ者アリシニ現今ハ日本人モ亦斯業ヲ營ムニ至リシヲ以テ今後西班牙人(少クトモ地方ノ)ハ勿論支那人トテモ尠カラサル打撃ヲ蒙ルコトナルヘシ何ントナレハ彼等ハ今後到底日本人ノ敵ニアラサルヘケレハナリ現ニ「チワワ」市ニ於テ支那人ノ雜貨店ハ日本人ノ爲メニ壓セラレ其狀甚々振ハサルモノ猶ホ「チャバス」州「エストクイントラ」村ニ於テ支那人ハ日本人ノ爲メニ驅逐セラレタルカ如シ又「チワワ」市「エル、ノルテ、ハツボネス」商店ノ如キハ年十八萬圓以上ノ賣上ヲ有シ日ニ益々繁昌ノ狀ヲ呈シ其近隣ニ營業セル西班牙人ノ商店ハ途ニ競争ニ堪エスシテ之ヲ閉鎖スルノ悲境ニ陥リタレハ「エル、ノルテ、ハツボネス」商店ハ之ヲ買受ケ同家屋ヲ以テ卸部ニ充テシ計畫中ナリシカ如シ、斯クノ如キ有様ニテ「チワワ」市ニ於ケル日本人商店ノ狀態ハ決シテ侮ルヘカラサルモノアルヲ認めタリ

(一) 「エル、ノルテ、ハツボネス」商店(El Norte Japonés)(寫眞参照)

開店年月	店主	高橋直	明治二十一年生
明治四十二年八月十八日 <td>宮城縣民 <td>喜代治 <td>明治十八年生 </td></td></td>	宮城縣民 <td>喜代治 <td>明治十八年生 </td></td>	喜代治 <td>明治十八年生 </td>	明治十八年生
同	同	條 勉 <td>明治二十年生 </td>	明治二十年生
店員數	日本人六人		
一月月賣上高	一萬五千圓	月々著シク増加ス	

第二章 「チワワ」市在留日本人ノ狀態



同店ハ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治三十九年中來墨セシ宮城縣立農學校卒業生、條勉、畑喜代治、及高橋直ノ共同事業ニシテ條ハ營業ノ繁昌セルヲ見テ之ヲ他ノ二人ニ委セ自分ハ「チワワ」州「サンヘロニモ」耕地ニ向フ七年間年借料六千圓ノ契約ニテ借地シ之ヲ經營スルト同時ニ同州「マデラ」ニ牛乳業ヲ開キ傍ラ「マデラ」材木會社ノ受負業ニ從事ス(後出)又畑ハ「マデラ」ノ雜貨店ヲ經營セントシツ、アリタリ(後出)而シテ同店カ後段記述セントスル他ノ諸店ニ比シ特ニ繁昌ノ狀アルハ酒類ノ醸造販賣與リテ大ニカアリト云フ而シテ酒ハ主ニ畑ノ製造スル所ニシテ其味ノ良好ナル「チワワ」市隨一ト稱セラレ日本人ノ醸造スル酒ノ好評ハ市外ニ迄普ネキ附近村邑ヨリ受クル註文高亦甚タ多シト云フ而シテ其利益ノ大ナルコト亦驚クヘキ程ニシテ常ニ三十割ヲ下ラスト云フ

(二)「エル、ノルテ、デル、ハツボン」商店 El Norte del Japon

開店年月 明治四十三年九月一日
 店主 新潟縣民 五十嵐 熊太郎 明治十九年生
 店員數 日本人 三人
 一ヶ月賣上高 六千圓

(三)「ラ、フロオル、デル、ハツボン」商店 La Flor del Japon

開店年月 明治四十一年八月
 店主 廣島縣民 大久保 察一 明治二十三年生
 店員數 日本人 二人
 一ヶ月賣上高 五千圓

(四)「エル、スル、デル、ハツボン」商店 El Sur del Japon (寫真参照)

開店年月 明治四十四年八月
 店主 熊本縣民 大形 平市 明治十九年生
 店員 日本人 二人

(五)「ラ、ヒメネンセ」商店 (La Jinnense)

開店年月 明治四十三年十一月
 店主 福岡縣民 中村 幾太郎 明治二十一年十月生
 同 有門 俊市 同 元年二月生
 同 山田 時平 同 二十一年七月生
 一ヶ月賣上高 三千五百圓

(六)「エル、ハツボン」商店 (El Japon)

開店年月 治四十一年十月
 店主 山口縣民 村岡 大吉 明治十六年四月生
 一ヶ月賣上高 二千五百圓

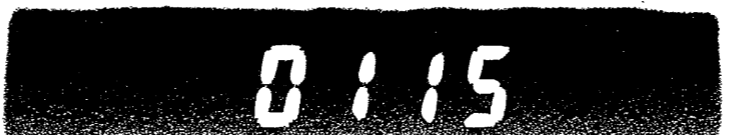
(七)「ラ、エストレイヤ、デ、オリエンテ」商店 (La Estrelja de Oriente)

開店年月 明治四十四年四月
 店主 和歌山縣民 南 吉三郎 明治十五年生
 三重縣民 山下 定五郎 明治二十一年生
 一ヶ月賣上高 二千三百圓

(八)「エル、ソル、デル、ハツボン」商店 (El Sol del Japon)

開店年月 明治四十三年十月
 店主 福岡縣民 筒井 爲吉 明治十三年九月生
 一ヶ月賣上高 二千圓

店主筒井ハ妻「マネ」ト共ニ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治四十年一月來墨セル者ナリ
 第二章「チワワ」市在留日本人ノ狀態



(九) 原本商店

開店年月 明治四十四年四月
店主 山口縣民 原本 一 郎 明治十五年三月生

一ヶ月賃上高 千八百圓
店主 原本ハ妻トヨト共ニ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治四十年十月來墨セルモノナリ

(十) 「エル、アングラ、デ、オロ」商店 (El Ancla de Oro)

開店年月 明治四十三年一月
店主 廣島縣民 山中 市 郎 左衛門 明治二十二年四月生

一ヶ月賃上高 千五百圓
店主 山中ハ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治四十年一月來墨セル者ナリ

(十一) 「エル、ヴァイエ、デ、サラエソ」商店 (El Valle de Zaragoza)

開店年月 明治四十四年四月
店主 岡山縣民 林 用 一 明治二十年十月生

一ヶ月賃上高 千五百圓
店主 林ハ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治三十九年十二月來墨セル者ナリ

(十二) 「エル、ポエルト、デ、ヨコハマ」商店 (El Puerto de Yokohama)

開店年月 明治四十四年四月
店主 岡山縣民 多田 隆 二 明治十五年生

一ヶ月賃上高 千二百圓
店主 多田ハ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治四十年中來墨セル者ナリ

(十三) 「ラ、オルミガ」商店 (La Horniga)

開店年月 明治四十四年六月
店主 熊本縣民 福川 五 三 郎

一ヶ月賃上高 千二百圓
店主 福川ハ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治三十一年中來墨セル者ナリ

(十四) 「エル、ポエルト、デル、ハッポン」商店 (El Puerto del Japon)

開店年月 明治四十四年九月
店主 山口縣民 鹽野 孫 太郎

一ヶ月賃上高 千二百圓
店主 鹽野ハ東洋海船會社船隻戸丸船員ナリシガ明治四十年七月サリナクルスニ於テ逃亡セル者ナリ墨國人ト結婚シ一女アリ

(十五) 宮本商店

開店年月 明治四十二年二月
店主 廣島縣民 宮本 源 一 明治十二年三月生

一ヶ月賃上高 千二百圓
店主 宮本ハ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治四十年六月來墨セル者ナリ

(十六) 「エル、ノエボ、メヒコ」商店 (El Nuevo Mexico)

開店年月 明治四十五年七月
店主 廣島縣民 東 徳 市 明治十七年四月生

一ヶ月賃上高 千二百圓
店主 東徳市ハ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治三十九年十月來墨セル者ナリ

(十七) 帝國日本商店 (El Japon Japon)

開店年月 明治四十四年十一月
店主 熊本縣民 松葉 榮 一 郎 明治十九年十一月生

一ヶ月賃上高 千 圓
店主 松葉ハ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治四十年來墨セルモノナリ

(十八) 「メヒコ」商店 (Mexico)

開店年月 明治四十三年十月
店主 愛知縣民 石田 喜 一 郎 明治十九年三月生

一ヶ月賃上高 千 圓
店主 石田ハ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治三十九年十月來墨セルモノナリ

第二章 「チツ」市在留日本人ノ狀態

(十九) 谷野商店

開店年月 明治四十五年二月
店主 岡山縣民 谷野源衛
一ヶ月賣上高 千圓
店主谷野ハ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治四十一年一月來墨セルモノナリ

(二十) 「エスペンヂオ、デ、パステウラス」商店 (Español de Pasturas)

開店年月 明治四十四年八月
店主 三重縣民 丹羽石松
一ヶ月賣上高 千圓
店主丹羽ハ東洋移民會社取扱移民ニシテ明治三十九年十月來墨セル者ナリ

(二十一) 「ノエゾ、メヨ」商店 (Nuevo Mexico)

開店年月 明治四十四年四月
店主 廣島縣民 横田勇次
一ヶ月賣上高 千圓
店主横田ハ妻「メシ」ト共ニ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治三十九年十二月來墨セルモノナリ

(二十二) 「ラ、アメリカ」商店 (La America)

開店年月 明治四十五年三月
店主 福岡縣民 西原市五郎
一ヶ月賣上高 千圓
店主西原ハ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治三十九年十二月來墨セル者ナリ

(二十三) 田中商店

開店年月 明治四十四年二月
店主 福岡縣民 田中繁吉
一ヶ月賣上高 千圓
店主田中ハ妻「チヨ」ト共ニ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治三十九年六月來墨セル者ナリ

(二十四) 「ラ、マル」商店 (La Mar)

開店年月 明治四十五年一月
店主 熊本縣民 藤本文藏
一ヶ月賣上高 千圓
店主藤本ハ元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治三十九年十月來墨セル者ナリ

以上ハ雜貨商ノ大體ナルカ尙ホ右ノ外ニ東洋移民會社取扱移民ニシテ明治三十九年中來墨シテ「コワウイラ」州「ラス、エスベランサス」炭坑ニ就勞シ其後逃亡シテ「チワワ」市ニ落チ付キタル富山縣民、大毛利元次郎、木山長三郎及服部竹之助ノ協同事業ナル洋服裁縫店ト元大陸殖民合資會社取扱移民ニシテ明治三十九年中來墨セル廣島縣民天島清吉ノ飲食店トハ以上列記セル諸店ト共ニ茲ニ記載スル價値アルモノト認メラル、以上ノ事項ハ一々此等ノ商店ニ就キ調査シタル所ニシテ又一ヶ月賣上高ハ此等ノ商店ニ卸賣スル卸商店ヨリ聞キ得タル所ナレハ其中假令多少ノ差異アリトスルモ何レモ其實際ニ違カラサルヘシト思惟セラル

右ハ「チワワ」市ニ於ケル日本人商店ノ現況ナルカ聽テ其將來ヲ案スルニ彼等ノ或者ハ今後遠カラス其存在ヲ失フニ至ルヘキモノナキニアラサルヘシ蓋シ附和雷同ノ徒ハ一度或個所ニ或種營業ノ有利ナルヲ耳ニスルニ於テハ何等ノ自信ナク又見込ナクシテ直ニ來リテ同種ノ營業ヲ開始シ斯クテ當初夢想セシ如ク發展セサルニ於テハ又忽チ閉店スルニ至ルコト獨リ墨國ニ於ケル日本人間ニ普通ノ現象ナルノミナラスシテ他ノ米大陸諸國ニ於テモ常見ラル、所ナルカ當「チワワ」市ニ於テモ亦其徑ヲ脱セサルモノ、如ク現在三十有餘ノ商店中此ノ種ニ屬スルモノナキニアラサルヲ認メタリ然レトモ此等雜貨店ハ需要少キ日本雜貨ヲ需クモノト異ナリ日常最モ需要多キ食料品、衣服、酒類、其他日要品ヲ販賣スルモノナレハ縱令彼等カ繁昌セストスルモ夫ノ多クノ日本製雜貨店カ經驗シタルカ如キ激烈ナル失敗ヲ招クコトハコレアラサルヘシ、然レトモ始メヨリ眞面目ニ計畫ヲ立テ又確固タル自信ヲ以テ事業ヲ興シタル「エル、ノルテ、ハツボネ」商店ノ如キハ今後四五年ヲ出テスシテ驚クヘキ發展ヲナスニ至ルハ其現狀ヨリ推シテ決シテ豫知シ難キニアラス而シテ其發展

ノ度合ハ在「チャバス」州日本殖民ニ比シ遙ニ急速ノ成績ヲ上クルニ至ルヘシ蓋シ「チャバス」州ニ於テハ曩ニ同州日本殖民状態能視察報告ニ於テ記述セシカ如ク同地ハ市場小ナルカ故ニ取引亦自ラ小ナリ而シテ小ナルカ故ニ發展ノ度モ亦遅クアラサルヘカラス然レトス「チワワ」市ハ「チャバス」州ト異ナリ市場遙ニ大ニシテ取引亦隨テ大ナルカ故ニ發展ノ度又彼ニ比シ遙ニ急速ナルノミナラス營業ノ範圍廣キカ故ニ將來發展ノ餘地ハ充分ナリトス例之「チャバス」州ニ於テハ事業開始後十數年ノ今日漸ク一ケ年十數萬弗ノ賣上ヲ有ルニ「チワワ」市ニ於テハ明治四十二年ニ開業シタル「エル、ノルテ、ハッポネス」商店ノ如キハ既ニ一ケ年十八萬圓ノ賣上ヲ見ルカ如シ又實際商店ノ實況ヲ視ルニ何時同店ニ至リテモ常ニ來客店內ニ滿テ六人ノ店員ハコレカ應待ニ忙殺セラル、有様ナリコレ同商店今後ノ如何ニ有望ナルカヲ示スモノニシテ又店主高橋及畑ノ談話ニ依レハ彼等ハ遠カラズ卸部ヲ開始スル計畫ニテ曩ニ買入レタル西班牙人ノ商店ヲ卸買部ニ充ツル筈ナリト云ヘリ斯ノ如ク余カ特ニ「エル、ノルテ、ハッポネス」商店ノ將來ヲ樂觀スル所以ノモノハ獨リ「チワワ」市ノ市場ノ關係及商店現時ノ盛況ヲ實視シタルカ故ニアラスシテ店主高橋直及畑喜代治ノ如何ニモ業務ニ熱心ニシテ眞面目ナルヲ認メタルカ故ナリ而シテ爰ニ特ニ人ノ注意ヲ惹ク一事ハ今ヤ北部墨西哥ニ於テ成功ノ緒ニ就カントシツ、アル條勉、及前見高橋及畑ハ何レモ南部墨西哥ニ於テ日本殖民ノ地盤ヲ据エタル「チャバス」州「メコス」州「那日墨協働會社創立者照井亮次郎及高橋熊太郎」(「チャバス」州「ソユスコ」州「那日墨協働會社報告參照」等)ト同一學校ノ卒業生ナルコトコレナリ而シテ斯ル眞面目ニシテ且堅忍不拔ノ青年ヲ出シタル學校ハ東北宮城縣立農學校ナリトス

以上列記セル商店ハ殆ント皆曾テ契約移民トシテ來墨セル者カ在任四年又ハ五年ノ間ニ取得シタル智識ト經驗トニヨリ經營スルモノナルニ彼等ノ或者ハ一ケ月一萬五千圓内外ノ賣上ヲ有スル盛況ヲ示スニ他ノ者ハ僅ニ一ケ月一千圓ノ賣上ヲ有スルノミナルカ如キ奇ナル現象ノ存スルアリコレ抑々如何ナル理由ニ依リテ然ルカ余ハ此ノ問題ヲ考查セント欲シ再三彼等ヲ訪問シ親シク談話ヲ交ヘ彼等ノ教育、品性又ハ彼等ノ舉止ヲ觀察セシニ結局左ノ如キ結論ヲ得タリ即チ彼等ノ發展ノ程度ハ大體ニ於テ彼等カ日本ニ於テ受ケタル教育ノ程度ニ比例スルモノナルコトコレナリ換言スレハ彼等ノ發展ハ彼等ノ品性ト彼等ノ科學及語學ノ智識ノ程度ニ比例スルモノナルコトニシテ此點ハ「チワワ」市在任日本人ノ間ニ見ユル現象ナルノミニアラズシテ共和國全般ニ散在スル日本移民ノ間ニ共通スル所ナルカ余ハ「チワワ」市ニ於テモ亦此例ニ漏レサルモノナルコトヲ確證シ得タルヲ信ス

第三節 在留日本人ト土民トノ關係

世ニ移民ヲ論スル者第一着ニ其移民地ノ風土問題ニ深ク其意ヲ注クカ如シト雖トモコレ歐米移民論者ノ爲ス所ニシテ米大陸ニ移住セントスル日本人ノ立場ヨリシテハ、ソレ以上ニ重要ナル問題アリ即チ土民ノ日本人ニ對スル人氣コレナリ蓋シ移民地ニ於ケル土民ト在任日本人トノ關係ハ最モ緊要ナル點ニシテ假令其地ノ氣候ハ日本人ニ適シ又土地ハ豐饒ニシテ作物ニ良ク其他經濟關係凡テ好適ナリトスルモ若シ土民トノ關係カ面白カラストセハ此ノ一事ハ實ニ他ノ凡テノ利便ヲ没却スルモノナレハカリ故ニ我移民ノ状態ヲ觀察スル者ハ又此點ニ重キヲ措キテ調査ニ從事スルコトヲ忘ル可ラス

「チワワ」市ハ北米ニ近キ一都會ニシテ北米人ノ在任スル者及甚タ多キヲ以テ始メ小官墨西哥市ヲ發シテ市ニ向フ際或ハ合衆國ニ於ケル排日ノ影響トシテ同市在任日本人ハ排斥ノ的トナリ居ルヘシト想像セシニ事實ハ全クコレニ反シ同市ニ於ケル土民カ日本人ニ對スル態度ハ寧ロ甚タ良好ナルモノアルヲ認メタリコレ墨西哥人ノ日本ニ對スル同情カ其原因ノ一部ヲ爲スハ疑ナキ所ナルカ又當市ニ於ケル日本人ノ職業ノ賤シカラサルモ墨國人ヲシテ自ラ斯クナラシムル所以ナラズンハアラス今日「チワワ」市ニ於テ支那人ノ振ハサルニ反シ日本人ノ將ニ大ニ發展セントシツ、アルハ支那ト日本トカ現今其國情ヲ異ニシ個人ノ致養ヲ異ニスルニ由ルモノアルヘシト雖トモ土民カ日本人ニ對シテ抱持スル同情心モ亦大ニ興リテ力アリト云ハサルヘカラス小官カ同市ニ滞在知事其他ノ官憲カ小官ヲ遇スル甚タ厚ク寧ロ今日迄他ニ比類ナキヲ覺エタリ以テ彼等カ日本ニ對スル尊敬ノ如何ニ厚キカヲ知ルコトヲ得ヘシ



以上ハ士民ト日本人トノ一般關係ヲ概説シタルモノナルカ今一步ヲ進メテ彼等ノ個人的關係ヲ視ルニ亦甚タ親懇ナルモノアルカ如シ即チ墨國女子ニシテ日本人ト結婚スル者日ニ益々多キハ彼等カ日本人ヲ好ム事實ヲ表證スルモノニシテ余ハ同市ニ滞在セシヨト僅ニ數日ナリシカニ件ノ日墨人結婚ヲ見タリ惟フニ此等ノ事情ハ在墨移民ヲシテ夫ノ北米西海岸地方ニ在ル者ノ如ク妻ヲ呼寄スルノ必要ヲ左程痛切ニ感セシメナル所以ナルヘシ然カレトモ余ハ妻ヲ日本ヨリ呼寄スルノ移民ノ將來ニ取リテ便利ナルヲ認ムルヲ以テ彼等ニ向ヒ若シ如何ニシテモ墨國人タル妻女ヲ娶ラント欲セハ斷ラク辛抱シテ他日ノ發展ヲ俟チ成ルヘク社會上位置アリ又教育アル者ヲ迎ヘ日本人ノ社會上ノ位置ヲ高ムル事ニ注意スヘキヲ勸告セリ

小官ハ日本人ノ發展ハ將來彼等ノ嫉妬ヲ惹起スルコトナキヲ保シ難キモノアルヘシト願慮セシヲ以テ在留民ニ對シ今ヨリ豫メコレニ備フルノ便宜ナルヲ忠告セリ例ヘハ日本人ノ商店ノ商號ハ前見ノ通り或ハ「エル、ノルテ、ハッポネス」或ハ「エル、ズル、デル、ハッボン」又或ハ「ボエルト、デル、ハッボン」等始ント皆日本のナラサルナキハ頗ル土民ノ注意ヲ引クモノナレシ今後ハ成ルヘク斯ク著シク國民性ヲ發表スルカ如キ稱號ヲ避クル方或ハ却テ將來ノ爲メニ便利ナルヘキヲ注意セリ

之ヲ要スルニ土民ト日本人トノ關係ハ目下甚タ良好ナルモノアリト雖トモ將來ハ日本人發展ノ結果トシテ必ラス土民トノ間ニ利害關係ノ衝突スルアリテ爲メニ現時ノ良關係ハ痛ク毀損セラル、コトアルヘシ然レトモコレ自然ノ趨勢ニシテ到底免カルヘカラサル所ナルカ此ノ點ニ關シ「チワワ」市在任日本人ノ利益ナル點ハ此ノ地方ニ於テ排米感情甚タ強ク且在留民ハ皆商業ニ従事スルモノニシテ夫ノ土地ヲ所有シテ農業ニ従事スル殖民ト異リ土民ヨリ甚タシキ排斥ヲ蒙ルコト極メテ稀ナル點ニアリ

第三章 「グレロ郡」サンヘロニモ「日本人耕地」ノ状態

第一節 「サンヘロニモ」日本人耕地ノ由來

「サンヘロニモ」耕地ハ「チワワ」州「グレロ」郡北西鐵道ノ一驛「チワワ」州地圖參照「マタチ」ヲ隔ツル東方十里ノ地點ニ位シ面積四千三百三十六町歩ニシテ東西最長三里南北最長二里半ニ亘ル一大耕地ナリ「サン、ヘロニモ」村全部ハ同耕地内ニ存在シ村民二百五十人内外ハ悉ク同耕地ニヨリ或ハ小作人トシテ或ハ労働者トシテ生活ス同耕地ハ同地方ニ於ケル富有者墨國人「アルベルト、エセ、チワニス」ノ所有ニ屬スルモノナルガ同人ハ義ニ千九百十年中現大統領「マデロ」氏ノ主宰セシ革命動亂ニヨリ甚タシキ損害ヲ蒙リタルニ懲リ且ツ米國育ノ機敏ナル彼ハ早クモ今後七八年間ハ此地方ニ於テ縦令内亂ノ大ナルモノナシトスルモ革命ノ餘波トシテ暴徒ノ出沒免レ難キヲ透察シ自ラ耕地ヲ管理スルノ甚タ危険ニシテ且ツ不利ナルヲ覺リコレヲ他ニ貸シ付ケンコトヲ計畫セリ、コハ小官カ同耕地ヲ視察シテ得タル推察ナルカ又必ラスシモ理由ナキ臆測ニモアラサルヘシト思料セラル、然ルニ宮城縣民條勉(二十五才)ハ前後ノ事情ヲ了解セサリシモノ、如ク去ル明治四十四年一月一日向フ七ヶ年間借料六千圓ノ契約ニテ此ノ耕地ヲ借入レタリ然ルニ條ハ義ニ提出セル「チワワ」州在留日本人被害狀況視察報告書中ニ記述セシ通り本年七月内亂暴徒ノ爲メニ多大ノ損失ヲナシタリ條ハ前章既述ノ通り「チワワ」市「エル、ノルテ、ハッポネス」商店ノ持主ノ一人ニテ其組合員高橋直及烟喜代治ト同シク宮城縣立農學校卒業生ニシテ此等同窓二人ト共ニ明治三十九年中元大陸殖民合資會社取扱移民トシテ當國「ヅエラクルス」州「オハケニヤ」耕地ニ來リシ者ナルカ其後間モナク三人共同シテ同耕地ヲ逃亡シ「チワワ」州ニ到來シ偶々同市公園内ニ於テ同州「プロモサ」鑛山主タル一西班牙人ニ會シ同人ノ世話ニテ遂ニ三人ハ同鑛山ニ就勢スル事トナリシカ元ヨリ普通労働者ニアラサル彼等ハ忽チ主人ノ信用ヲ得同年中條ハ主人ヨリ鑛地ニ於ケル食糧雜貨一手販賣ノ權ヲ得且ツ資本金トシテ五千圓ヲ借り受ケタレハ之ヲ以テ賣店ヲ開業セリ然ルニ營業頗ル繁榮シ期年ニシテ一萬四千圓ノ純利ヲ得タルヲ以テ直ニ借金ヲ返済シ同窓烟及高橋ノ二人ト資本(三分ノ二ハ條ノ出資額ナリト云フ)ヲ合投シテ「チワワ」

市ニ商店ヲ開キ尙ホ自分ハ「マデラ」ニ出テ「マデラ」材木會社ノ受負業ニ從事スルト同時ニ同村ニ牛乳業ヲ興シタルニ結果頗ル良好ニシテ金融亦自ラ豊ナルモノアリシヲ以テ前記「サン」ヘ「ロニモ」耕地ヲ借り受ケ年來學得セル智識ヲコレニ應用シテ一儲ケセント企テ遂ニ既記ノ如ク明治四十四年一月一日借地ノ契約ヲ取り結ヒタリ

今其契約書ヲ閱讀スルニ凡テ十ヶ條ヨリ成リ大體ニ於テ條ニ取り不利益ノ點ナシト雖トモ其第七條ニ於テ契約滿期ニ際シ借主ハ貸主ニ對シ借入家畜ハ總テ其レト同性、同種、同數ヲ返却シ且ツ其際現在スル動物ノ二分ノ一ヲ交付スルノ義務アリ而シテ此ノ義務ハ家畜カ疾病又ハ不可抗力ニヨリ死亡シタル時ト雖トモ之ヲ履行セサルヘカラサルモノニシテ即チ斯ル場合ニ借主ハ動物又ハコレニ對スル代價ヲ貸主ニ對シ償却スルノ義務アリトナセル事及借主ハ年々動物ヨリ生スル利益ノ半額ヲ貸主ニ附與スルノ義務アリト規約シタルニモ拘ラス其第九條ニ於テ耕地ニ關スル一切ノ税金ハ借主ノ負擔トスト取極メタルハ墨國ノ慣習ニ背クモノニシテ條ニ取り不利益ノ條款ト言ハサルヘカラス同契約書ノ要領左ノ如シ

第一條 貸主アルフレド、エセ、テラウニス兵ハ探險兵ニ本契約列記ノ耕地ヲ貸渡ス事

第二條 貸主ハ借主ニ對シ牧草切一箇、鐵六バラス、土掘機六個、鋤一個、鐵十二「コ」ルタス「勞役牛用首機及附屬車十六對ヲ貸渡ス事

第三條 貸主ハ借主ニ對シ耕作牛三十二頭、乳牛二百頭、牡馬六十頭及牛六百頭ヲ貸渡ス事

第四條 借主ハ前條ノ動物ヲ耕作用又ハ種産用ノ目的ニ使用スル外他ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ又耕地内ノ森林ノ樹木ハ家屋建造又ハ耕地ノ修繕其他耕地ノ爲ニ用ユル外之ヲ採探スルコトヲ得ズ

第五條 本契約ハ千九百一十一年一月一日ヨリ効力ヲ生ジ千九百一十八年十二月三十一日ニ到リテ消滅ス

第六條 借地料ハ年額六千弗トシ毎年ノ終ニ於テ之ヲ支拂フ

第七條 借主ハ年々動物ノ生産ニ由ル利益ノ二分ノ一ヲ貸主ニ交付シ且ツ契約滿期ニ際シ借主ガ始メ借受タル動物ノ外現ニ存在スル動物ノ二分ノ一ヲ貸主ニ交付スルノ義務アリ而シテ此義務ハ疾病其他ノ不可抗力ニヨリ動物ガ死亡シタル場合ト雖トモ免ルコトヲ得ズ右ノ場合ニ於テ借主ハ貸主ニ對シ動物又ハコレニ相當スル代價ヲ支拂フベシ

第八條 借主ハ耕地内ノ水堰、運河、灌漑溝ヲ保存シ又動物ヲ畜育スルノ義務アリ

第九條 耕地ニ關スル一切ノ税金ハ借主ニ於テ之ヲ納付スベシ

第十條 本契約ノ公證及登記ニ要スル費用ハ一切借主ニ於テ負擔スベシ

第二節 「サン」ヘ「ロニモ」耕地在留日本人ノ生活狀態

「サン」ヘ「ロニモ」耕地在留日本人ノ數ハ總テ五人ニシテ主人條勉ヲ始メ他四名ハ何レモ曾テ契約移民トシテ明治三十九年ヨリ四十年ニ掛ケテ「ウエラクルス」州「オハケニヤ」耕地ニ來リ其後同耕地ヲ逃亡シタル者ナリ

縣 別	姓 名	年 齡	取 扱 人	就 業 地
富 城 縣 民	條 勉	二十五年	來 島 年 次	「オハケニヤ」
同	河 村 禾 藏	二十八年	同	同
同	佐 藤 温 信	二十五年	同	同
同	駒 馬 長 之 進	三十一年	同	同
同	沖 元 繁 人	二十一年	同	同

以上ノ中佐藤温信ハ條ノ同窓ナルガ耕地總監督ヲ務メ、同村ハ農場監督、駒馬ハ倉庫監督ニシテ沖元ハ耕地附屬商店ノ主任タリ而シテ佐藤ハ日給百圓ヲ受ケ他ハ各五十圓ヲ得何レモ住食ハ其ニ條ノ支給スル所ナルヲ以テ他ノ農場耕地ニ勞働スルヨリ遙ニ便利ナルガ如シ

而シテ彼等ノ生活狀態ヲ視ルニ墨國日本殖民ノ間ニ曾テ見ラレザリシ上等ナル生活ヲナシ其狀全然此ノ地方ニ於ケル歐米殖民ト異ナルコトナシ條ノ談ニ曰ク我等ハ此山中ニアリテ他ニ何等娛樂ノ機關ナク又保養ノ手段ナケレバ生活ナリトモ稍養澤ニシテ之ヲ慰ムルノ方法ヲ探ラント欲ス而モ一方ニ於テハ附近ノ耕地持主等トノ交際上亦止ムヲ得ザルモノナキニアラスト即チ屋内ニハ特ニ來客ノ爲メニ別室ヲ設備シ月給四十五圓ヲ拂フテ支那人ノ料理人ヲ抱ヘ置ク等英米殖民ノ生活ト同様ナルモノアリ蓋シ彼ノ「チツワ」市商店「マデラ」商店及牛乳業(後出)其他「マデラ」材木會社ノ受負業等ヨリ得ル收入ハ優リ彼ヲシテ此程度ノ生活ヲナシメテ餘アルモノ、如シ

第三節 「サン」ヘ「ロニモ」耕地ノ事業及其將來

墨西哥國ニ於テ農業ヲ興サントスルニ當リ企業者カ最モ困難トシ又最モ多額ノ費用ヲ要スルモノハ處女地ヲ開墾スルニアリ故ニ概シテ土地ヲ購入スル者ハ其價格ガ縱令未開墾地ニ比シ一倍或ハ二倍高價ナリトモ既墾地ヲ購入スル方遙ニ有

利ナリト稱セラル、コレ土地ヲ購入シテ事業ヲ興サントスル者ノ専ラ唱道スル所ナリ熱帯地開墾ノ難又推シテ知ルベシ然ルニ夫ノ短期ノ契約ニ依リ未開墾地ヲ借入レテ事業ヲ爲サントスル者ヲ見ルニ彼等カ最モ困難トスル開墾ヲ竣リコトヨリ將ニ利益ヲ得ントスルノ期ニ入ルヤ契約ハ特ニ満期ニ近カラントシ最早彼等ハ收利ノ期間ヲ與ヘサルモノアリ、斯ノ如キハ在留日本移民ノ屢々經驗シタル所ナルガ就中最モ甚クシキモノハ切角處女地ヲ開墾シ終ルヤ貸主ヨリ契約ヲ無視シテ土地ヲ取戻サレタル者ナキニアラサルナリ

同耕地ハ全面積ノ六分ノ一以上即チ七百餘町歩ハ加耕地ニシテ現在ノ儘ニテモ既ニ相當利潤ヲ上クルヲ得ルニ足ルモノナルヲ認メタリ蓋シ地主カ條ニ同地ヲ貸シ付ケタルハ既記ノ通り全ク内亂ノ餘禍ヲ恐レシカ爲メニシテ耕地經營ノ不利ナルカ爲メニハアラズ亦開墾カ困難ナルカ爲メニモアラザリシナリ蓋シ同耕地ハ海拔六千呎ニ位スル温帯地ニシテ彼ノ南部墨哥西地方ノ如ク熱帯森林ノ鬱蒼タルモノナクハ其開墾モ亦前記地方ニ比シ左程難事ニアラサルカ如シ

耕地ハ毎日平均八十人ノ土民ヲ使役シ四人ノ日本人ハ既記ノ通り耕地各部ノ主任トシテ其監督ノ任ニ當リ或ハ耕作ニ或ハ牧畜ニ従事シ土民ヲ指揮ス尙ホ土民中耕地ノ直接事業ニ使役セラレザル者ハ多ク小作人ニシテ耕地内一定ノ土地ヲ開墾シテコレニ耕耘ヲ施シ其收穫ニ依リテ生活スルモノナリ労働者ノ日給ハ七十五仙ニシテ小作人ニハ使用牛馬其他耕作用機械一切ヲ貸付ケ收穫ノ半分ヲ彼等ニ附與スルノ規約ナリ然レトモ此等ノ日給及收穫ハ耕地内ノ商店ニ於テ販賣スル日要食糧品ヲ以テ日々前貸シ小作人ニ對シテハ收穫期ニ於テ之ヲ差引クカ故ニ其期至ルモ彼等ハ實際殆ンド何等穫ル所ナキ有様ナリト云フ

耕地ハ現時玉蜀黍、「フリホレス」豆、「アルファ」牧草等ヲ産シ又家畜ハ内亂暴徒ノ爲メニ多數掠奪セラレタレトモ尙ホ現ニ牛八百五十二頭、馬百六十頭、勞役馬百二頭、羊七百餘頭、豚二百餘頭、勞役牛八十頭アリ尙ホ雞ハ三百羽以上アリタレトモ全部暴徒ノ爲メニ横領セラレタリト

耕地附屬商店ハ一ヶ年一萬圓内外ノ賣上アリテ三千圓ノ利益ヲ生ス同店ハ内亂暴徒ノ爲メニ全部掠奪セラレテ新着荷ヲ

俟テツ、目下閉鎖シ居レリ尙ホ商店ノ賣上ニ關シテ條ノ語ル所ヲ聞クニ酒類ヲ販賣スル時ハ一層多額ノ商賣ヲ爲スヲ得レトモ耕地内ニハ一切之ヲ禁止シ居レリト云フ

耕地ノ經營ハ日尙ホ淺キヲ以テ萬端出費多ク昨年ノ如キハ機械動物其他ノ買入レニ多額ノ投資ヲナシタルノミニテ些少ノ利益ヲ見ルコト能ハザリシガ二年目ノ今期ノ收穫ニ於テハ稍見ルヘキモノアルヘシト云ヘリ

今條ガ耕地經營費トシテ豫算スル所ヲ見ルニ左ノ如シ

收入ノ部	收入額	備考
產物		
王 蜀 黍	一萬、エクトロト	一「エクトロト」四圓ノ割、マデラ、市價六圓四十錢
「フリ、ホル」豆	一、エクトロト	一「エクトロト」十圓ノ割
「アルファ」牧草	二千、バカス	一「バカ」一圓五十錢ノ割、マデラ、市價二圓五十錢
牛 乳	七十五頭	一頭二十圓ノ割
牛 乾 酪	千五百圓	
馬	六千圓	一頭二十圓ノ割
羊	六百圓	未詳
商店ノ利益	三千圓	
計	六萬四千圓	

支出ノ部

- 一、耕地借料 六千圓
- 二、經營費、税金、機械ノ消耗費其他一切 三萬圓
- 計 三萬六千圓

翻テ該耕地ノ將來ヲ考フルニ土地ノ開墾ハ彼ノ熱帯地ニ於ケルカ如ク左程困難ニアラサルノミナラス耕地ハ現在ノ儘ニテモ相當利益ヲ上ケルコトヲ得ル見込アルモノナレハ將來甚ク樂觀スルニ足ルカ如シ然レトモ其契約期間ト墨國內亂ノ

第三章 「ケレ」種サンヘロニモ日本人耕地ノ狀態

状態ニ鑑ミル時ハ寧ロ甚々寒心スベキモノアリテ存ス即チ契約期間ハ七ヶ年ナルニ内亂ノ餘波ハ此ノ地方ニ於テ今後少クトモ五六年ハ必ラス斷續反覆セラレヘキハ墨國ノ歴史ニ徴シ又土民ノ心理ニ鑑ミ容易ニ推測シ得ル所ナレバ條ハ其契約期間中ニ於テ本年七月蒙リタルカ如キ損害ハ今後度々繰返サル、モノト覺悟セザルヘカラス又同耕地ハ鐵道ヲ隔ツル十里ノ地點ニアルヲ以テ暴徒ノ横行跳梁ニハ屈強ノ地ト云フヘキナリ仍テ小官ハ耕地滞在中條ニ向ツテ出來得ルナラハ成ル可ク早ク契約ヲ廢棄スルノ利益ナルヲ勸告シ置ケリ

第四節 耕地ニ於ケル日本人ト土民トノ關係

「サンヘロニモ」耕地ニ於ケル日本人ト土民トノ關係ハ他ノ移民地ニ於ケルカ如ク他人ニ使役セラル、日本人ト土民トノ關係ト異ナリ我ハ主ニシテ彼ハ從ノ如キ關係ニアラユ以テ土民ハ果シテ能ク日本人ノ命令ニ服從スルヤ否ヤノ點ニアリ耕主係ハ勿論其他使用人タル日本人ハ既記ノ通り何レモ會テ契約移民トシテ來墨セルモノニシテ常ニ勞働者トシテ外國人ニ使役セラレタル者ナルヲ以テ彼等ガ此耕地ヲ經營スルニ當リ最初ハ果シテ土民ヲ使役シ得ルヤ否ヤノ點ニ就キ稍疑ヲ抱キシモノ、如シ然レトモ愈々之ヲ實地ニ試ムルニ於テ土民ハ意外ニ從順ニシテ日本移民タル彼等ニモ容易ニ使役シ得ヘキモノナルコトヲ發見シ爾來今日ニ於テハ最早此ノ點ニ關シ各自充分ナル自信ヲ有スルノ狀アルヲ認メタリ此ノ一事ハ在墨國日本移民ノ歴史ニ於テ重要ナル事項ニシテ喜フヘキ現象ト言ハサルヘカラス

由來日本移民ハ一般土民ニ比シ又時トシテハ其備主ニ比シテハ優等ナル教育ト品性トヲ具備セルニモ拘ラス彼等ノ腦裡ニハ先天的ニ日本人トハ外國人ノ爲メニ使役サル、人種ニシテ之ヲ使役スルモノニアラスト云フカ如キ所謂移民根性ヲ有スルモノ、如ク信シ鬼角海外ニ在リテモ夫ノ歐米移民ノ如ク自己ノ社會上ノ位置ヲ高メント努ムルモノ甚々稀ニシテ大多數ハ却テ下層土民ト交ハリ其ノ惡風ニ感染シテ移民根性ヨリ更ニ墮落シテ奴隸根性トナリ終ル者尠カラサルナリコレ即チ今日迄ノ日本移民カ何年外國ニ在リテモ夫ノ獨逸移民等ト異ナリ常ニ同一若クハ一層下等ノ状態ニ在ル原因ノ一

ナルベシ然ルニ「サンヘロニモ」在留日本人ハ前段記述セル儼然トハ其精神状態ヲ異ニシ居ルヲ以テ近村民ヨリモ尊敬セラレ又彼等トノ關係モ甚々良好ナルカ如ク小官同耕地滞在中條ハ一日近村ノ耕地持主、村長其他主ナル者ヲ招待シテ小官ノ爲メニ晝餐ヲ催シ後午後談話ニ費シタルカ其間ノ頗ル懇親ナルモノアルヲ認メタリ

第四章 「グレンロ」郡「マデラ」在留日本移民ノ状態

第一節 「マデラ、ラムバア、カムパニイ」ノ事業概況

「マデラ、ラムバア、カムパニイ」ハ世界屈指ノ大材木會社ニシテ墨國「チワワ」州「シエラマアドレ」山脈ノ白松ヲ採伐スルヲ事業トス今同會社支配人米人「チャアルス、アアル、ウイスダム」カ會社事業ノ概況トシテ語レル所ヲ記セハ左ノ如シ

會社資本ハ米貨四千萬弗ナルカ其大部分カ加奈陀ノ資本ニシテ他ハ英米ノ資本ナリ、現時會社ノ使役スル勞働者ノ數ハ二千四百人内外、技師、事務員、其他高等僱員ノ數ハ總テ百四十人ナリ、會社所屬ノ森林ノ面積ハ三百萬英町步ニシテ「マデラ」村附近ノ分ハ今後五ヶ年ヲ以テ採伐シ得ヘク其他松林全部ノ採伐ハ二十年乃至三十年ノ豫定ナリト云フ

工場ハ二個ノ鋸輪機械ヲ備ヘ毎日四十萬呎（一呎トハ厚サ一吋ニシテ一呎四方ノ板ヲ云フ）ヲ製出シ得前年度ノ製板高四千萬呎ナリト云フ

「チワワ」市ヨリ西北ニ向ツテ延長シ「シエラ、マアドレ」ノ東麓ヲ通過シテ米境ノ一都「ホソレス」市ニ至ル北西鐵道ハ同會社ノ附屬ニシテ生産物ハ凡テコノ鐵道ニヨリ或ハ米國ニ輸出シ或ハ内地ニ輸送ス尙ホ同會社ハ「マデラ」ノ北方鐵路凡ソ百哩ノ地點「ビアアサン」ト稱スル所ニ「マデラ」同様ノ製板場ヲ有シ又米境「エル、パン」市ニ木材料製造場ヲ有スコノ「エル、パン」木材料製造場ハ世界ニ於テ一二ヲ爭フ大工場ナリト稱セラル、日本勞働者ノ同會社事業ニ關係スル者ハ山間ヨリ材木ヲ運出スル鐵道ノ開鑿工事ニ使役セラル、カ重ニシテ他ノ少數ハ機械場ニ勞働スル者ナリ

第二節 「マデラ」在留日本人ノ由來及其現在數

千九百七年ノ恐慌以來墨國ノ重要鑛産物タル銀ノ低落ハ同國ニ於ケル幾多ノ鑛業會社ヲシテ業務ヲ停止セシムルノ悲境ニ陥ラシメタリ、其影響トシテ幾多日本勞働者ノ鑛山ニ就勞セル者ハ俄ニ職ヲ失フテ困憊ノ状態ニ陥リシコトアリシカ當時「ソノラ」州「ブラック」、マウンテン、マイニンク、カムバニイニ就勞セシ日本人百三十餘名モ亦其數ニ漏レス一時ハ途方ニ暮レン有様ナリシカ當時公使館ニ於テハコレガ救濟策トシテ移民取扱人タル大陸殖民合資會社ヲシテ彼等ニ對シ各其積立金ヲ拂ヒ戻サシメタルコトアリコトハ去ル明治四十二年ノ末ナリシカ其後移民監督タリシ藤田小太郎ハ「テワ」州「マデラ」材木會社カ勞働者ノ需要ヲ感シツ、アリト云フヲ聞キ先ツ來リテ會社ト協議シ當初數十人ノ日本移民ヲ同地ニ轉勞セシメタリコレ即チ日本勞働者カ此ノ地ニ就勞スルニ至リタル由來ナリトス

然ルニ同會社ニ於ケル日本勞働者ノ評判頗ル良好ナリシカハ支配人ハ藤田ニ委スルニ尙ホ多數ノ日本人ヲ募集スルコトヲ以テセリ爰ニ於テ彼ハ各地ニ書ヲ飛ハシ或ハ自ら奔走シテ墨國各地ニ散在スル移民ニ向ツテ「マデラ」會社ニ勞働スルノ利ヲ説キコレニ轉勞ヲ勸誘セシカハ忽チニシテ同地在留日本勞働者ノ數ハ三百餘名ニ達セリ然レトモ勞働者各自カ同地ハ勞銀比較的高キモ物價亦甚タ高貴ナルヲ實感シ且ツ會社工場ノ勞働ハ受負勞働ニ比シ遙ニ不利ナルヲ知りテヨリ他ニ轉勞セシ者尠カラサリシカ殊ニ散佚ノ主ナル原因ハ會社カ藤田ニ對シ一種ノ特權ヲ認メ尙モ日本人ニ與フル勞働又ハ受負ハ一切藤田ノ手ヲ經ル事ヲ要スト定メタル一事ナルカ如シ

今同地現在日本人ノ數ヲ視ルニ總テ二百二十七人ニシテ之ヲ職業別ニスレハ左ノ如シ

職 業	人 數	職 業	人 數
受負業 下働 内詳	一	第五キヤムプ工夫	四〇
鐵道開墾工事監督	四	同 大工	一三
		第五キヤムプ「アネックス」工夫監督	四

第五キヤムプ「アネックス」監督補助	二	理髮業補助	五
「ドロオレス」金山電氣開通工工夫	四〇	酒舖給仕	四
「ピアアサン」方面鐵道修繕工工夫	一九	牛乳業馬使用人	二
同上	二	料 理 人	二
會計機務工場労働者	三三	無 職	二
馬 車 屋	四〇	女 職	五
商店 員	三	小 兒	七
大 工	三	計	三七
理 髮 業	五		

第三節 材木會社ノ事業ニ使用セラル、日本人ノ状態

勞働者ノ數及勞働ノ種類 「マデラ」材木會社ニ使用セラル、日本人ノ數ハ總テ二百四十六人ニシテ中四十人ハ工場ニ勞働スル者ナルガ何レモ製板機械場ニ勞働シ日給二圓四十錢乃至三圓ヲ受ク而シテ此等勞働者ハ日給ノ點ヨリ見ル時ハ他ノ耕地等ニ在ル者ヨリハ比較的有利ナルカ如シト雖トモ「マデラ」ノ物價ハ亦甚タ高貴ナルヲ以テ同地ハ就勞地トシテ氣候ノ良好ナル點ヲ除キ唯勞銀ヲ目的トスル我移民ニ取リテハ餘リ便利ナリト云フヲ得サルナリ而シテ殘餘ノ百六人ハ受負師藤田小太郎ノ指揮ノ下ニ山間ニ入りテ「マデラ」會社ノ材木運出用鐵道ノ開墾工事ニ使役セラル、モノトス此等ノ勞働者ハ殆ント常ニ山中ニ在ルヲ以テ前記工場労働者ニ比シ勞銀貯蓄ノ點ニ就テハ甚タ都合好シト雖トモ時々村ニ下リ來リテ遊蕩浪費ヲナスヲ以テ餘リ思ハシク蓄財スルモノナシトノ事ナリ

受負師藤田小太郎 「マデラ」ニ於テ「Japanese Chief」トシテ知ラル、藤田小太郎ハ宮城縣民ニシテ相當ノ教育アルモノ、如ク且ツ擊劍ノ達人トシテ聞ユル者ナルカ明治三十九年中大陸殖民合資會社取扱移民トシテ來墨シ途中ニテ會社ヨリ移民ノ監督ヲ委ネラレ墨國上陸後ハ既記ノ通り「ソノラ」州「ブラック」、マウンテン、マイニンク、カムバニイニ就勞セル移民百三十餘名ノ監督タリシカ明治四十二年中同鑛業會社ノ停業スルヤ移民ヲ率ヒテ「マデラ」ニ轉來セルモノナリ

第四章 「ゲレロ」郡「マデラ」在留日本移民ノ状態
 一九三

受負工事ノ種類 「マデラ」材木會社ハ最早殆ンド低地ノ材木ヲ伐リ悉シ今ヤ山地ノミヲ殘シタルヲ以テ山間ニ鐵道ヲ敷設シテ材木ヲ運出セザルヘカラス而シテ藤田ノ受負工事ハ山地ヲ開鑿シテ道路ヲ開キ又露間ニ木橋ヲ架設シテ「レール」ヲ敷ク迄ノ下拵ヲ爲スニアリ又彼ハ小官出張當時受負工事トシテ内亂ニ與セル暴徒カ官軍ノ追跡ヲ妨クルカ爲メニ破壞シタル北西鐵道ノ木橋架設工事ヲ受負ヒ此ノ方面ニ日本人四十二人ヲ派遣シ居リタリ

受負工事費及利益 藤田カ會社ヨリ受負フ工事費ニ付キ同人ノ語ル所ヲ聞クニ往年會社ハ鐵道開鑿工事ニ對シテ一基米突五百圓乃至七百圓ノ割ニテ受負ニ應ジタレトモ今日ハ工事漸次山間ニ到ルニ及ヒタルヲ以テ距離式ヲ變ジテ容積式ヲ採用スルニ至レリ即チ開鑿地塊一立方米突ニ付キ八十五錢ヲ仕拂ヒ又窪地ノ埋立ハ當初二十立方米突ハ無賃ニテ其後ノ部分ハ一立方米突ニ付六十錢ヲ仕拂フ契約ナリ但シ岩石ノ部分ハ測量技師ノ見計ニヨリ特別費ヲ支出スト云フ尙ホ開鑿ニ使用スル火藥又ハ道具ハ受負者ノ負擔ナリト云フ

藤田カ使役スル工夫ノ數ハ毎日三百人内外ニシテ中二百人内外ハ土人ナリトス而シテ土人ノ日給ハ二圓ニシテ其組長ニハ三圓ヲ給シ又日本人工夫ニハ三圓ヲ給スト云フ、今藤田カ會社ヨリ受クル受負工事費ナリト云フヲ聞クニ一ヶ月平均二萬五千圓内外ニシテ利益ハ大體其一割五分ニ當ルト云フ而シテ日本人監督ニハ分割ノ方法ヲ採用スルトノ事ニテ其收入ハ大概一ヶ月三百圓内外ナリト云フ又北西鐵道工事ハ一ヶ月五千圓ト見テ可ナルヘク工事長ノ月收ハ一千圓内外ナルカ藤田ハ其二割五分ヲ受クル契約ナリトノ事ナリ但シ此ノ工事ハ臨時受負工事ナルノミナラス戰時急ヲ要スルモノナルヲ以テ日本人勞働者ニハ特ニ一日三圓五十錢乃至五圓ノ勞銀ヲ給スト云フ

以上ノ外藤田ハ「マデラ」ヨリ十數里ヲ隔ツル「ドロオレス」金鑛會社ニ四十人ノ日本工夫ヲ遣リテ同金鑛會社カ「マデラ」材木會社ヨリ電流ヲ得ル爲メノ電線敷設工事ヲ受負居レリコレ又一ヶ月四千圓内外ノ工事費ヲ上グルモノナリト云フ

勞銀ト貯蓄心 上記述セシ如ク「マデラ」ニ於ケル日本勞働者ノ賃銀ハ先ツ一日三圓ト看テ可ナリ墨國ニ於テハ頗ル好賃銀ト云フヘク殊ニ夫ノ山間ニ住居シテ受負工事ニ就勞スル者ニ取リテハ最モ可ナルモノト言ハサルヘカラス然ルニ多

年他人ノ使役ニ甘ンシ希望ナク又目的ナキ移民勞働者ノ常トシテ勞働地ニ三年或ハ四年ヲ經過シ稍言語ニ通シ又土地ノ風俗ヲ解スルニ隨ヒ漸次土民ノ惡風ニ感染シ最初一二年間ハ貯金ヲ爲シ又郷里ヘ送金ヲ怠ラザリシ者モ其後ニ至レハ絶テ送金セザルノミナラス貯金ヲ爲サス甚タシキニ至リテハ本國ヲ忘却スルモノアリ、コレ來墨四五年ヲ經タル今日モ尙ホ相變ラス土地ノ印度人ト同シク他人ニ使役セラレ食フ爲メニ勞働スルヲ甘ンスル者ノ集團ナル「マデラ」在留本邦移民ノ大多數ノ状態ニシテ彼等ハ土人ト同シク其得タル勞銀ヲ全然娛樂ノ爲メニ空費スルモノナルヲ認メタリ然レトモ藤田以下監督等ノ重立チタル者ハ貯蓄ニ熱心ナルノ風アルヲ視タリ藤田ハ一日小官ニ語リテ吾々一同ハ萬位ノ金額ハ未タ之ヲ蓄積セザレトモ千位ノ金額ニハ今ヤ少シモ不自由セザル状態ニ達スルヲ得タリト云ヘリ亦以テ彼等ノ經濟状態ノ一斑ヲ窺知スルヲ得ヘシ

勞働者ノ生活及衛生状態 日本人ノ工場ニ勞働スル者ハ「マデラ」村「メキシカン、タウン」ニ住シ各自其家屋ヲ有ス而シテ妻帯ノ者ハ特ニ一家ヲ構ヘテ日々工場ニ通勞スルモノナルカ鐵道開鑿工事ニ從事スル者ハ何レモ山中ニ居住スルヲ以テ或ハ「セント」丙ニ或ハ粗造假家屋内ニ又或ハ鐵道古荷車内ニ起臥シ設備甚タ不完全ナレトモ山間松柏ノ間ニ棲息シ加フルニ氣候頗ル清涼ニシテ飲料水又甚ダ清潔ナルヲ以テ會テ病人ヲ出シタル事ナシト云フ小官觀察ノ際モ一人ノ病者ナカリキ加之「マデラ」會社ノ病院ハ流石米國民ノ設備丈ケアリテ甚ダ完全ニシテ墨國企業會社中恐ラク他ニ比類ナキモノナルヘシ會社ハ衛生費トシテ工場勞働者ヨリハ毎月各自一日ノ勞銀ノ半額ヲ徵收シ又工場以外ノ勞働者及傭員ヨリハ毎月收入ノ百分ノ二ヲ納付セシムル規定ナルヲ以テ此等會社關係人ハ疾病ニ罹リタル場合ニハ無料ニテ藥劑ヲ得、診察ヲ受ケ又入院シ得ヘシト云フ而シテ藤田カ衛生費トシテ會社ニ納付スル額ハ毎月四百圓乃至五百圓ニテ「マデラ」會社關係人中最多額ヲ納付スル者ナリト言ヒ居レリ尙ホ藤田ノ受負工事ニ關係スル勞働者ハ其土民ナルト日本人タルト問ハス同人ノ證明書ヲ携帶シテ病院ニ至レハ藥劑ヲ得治療ヲ受ケ、又入院スルコトヲ得ル仕組ナリト云フ

第四節 材木會社ノ事業ニ直接關係ナキ日本人ノ狀態

「マデラ」ニ於ケル日本人ニシテ材木會社ノ事業ニ直接關係ナク獨立事業ヲ經營スル者ノ中主ナル者ハ左ノ如シ

一、「エル、レオン」商店

二、乳牛場

「エル、レオン」商店「Elean」ハ本報告第二章及第三章ニ於テ記述セル「チワワ」市「エル、ノルテ、ハツボネス」商店及「サンヘロニモ」耕地經營者、條勉、畑喜代治、及高橋直ノ所有ニ屬シ畑喜代治専ラ之ヲ經營ス

同店ハ明治四十五年ノ初期ニ於テ墨國内亂暴徒ノ爲メニ燒失セラレテ多大ナル損害ヲ蒙リ小官出張當時ハ假店ニ於テ營業中ナリシカ一方新築屋ヲ建築シ將ニ竣工ノ狀態ニアリキ同家屋ハ二街ノ中間全部（「ブラック」）ヲ占ムル大建物ニシテ「マデラ」村「メキシカン、タウン」中他ニ比類ナキモノトス同商店ハ「チワワ」市ニ於ケル商店ト同シク日要食料品、酒類、衣服、道具等ヲ販賣スル雜貨店ニシテ「マデラ」材木會社附屬商店ニ亞グ一大商店ニシテ一ヶ月ノ賣上一萬圓ヲ下ラ

スト云フ蓋シ同店ハ獨リ村民ニ對スル小賣業ヲ營ムノミナラズ附近山間ノ勞働者ニ食糧ヲ供給ス例ヘバ前記藤田小太郎ガ受負工事ニ使役スル勞働者ニ對シ一手賣込ヲナストノ事ニテ山間各所ニ支店ノ設アルヲ見タリ但シ酒類ハ會社ノ命令ニテ全然賣込ムヲ禁止セラレ居ルトノ事ナリ尙ホ商店ハコノ賣込ミニ對シ其高ノ五分ヲ藤田ニ支拂フ契約ナリト云フ

又店主如ノ談話ニヨレバ商店新築工事竣工ノ曉ニハ小賣業ノ外卸賣業ヲ營ム計劃ニテ新築屋ヲ斯ク宏大ニ建築シタルハ蓋シコレガ爲メナリト

日本人乳牛場 乳牛場ハ前記「サンヘロニモ」耕地經營者條勉ノ事業ニシテ明治四十四年ノ創立ニ係リ現時乳牛六十頭ヲ飼養シ専ラ搾乳ヲ業トシ之ヲ「マデラ」ニ販賣ス、日本人二人及墨國人五人ヲ使役ス、利益ハ季節ニ依リ野外ニ牧草ノ有無ニヨリテ多少異ナルコトアレトモ通常毎日三十圓内外ノ利益アリト云フ

現時「マデラ」在留歐米人ハ悉ク條ノ得意ナリト云フ一事ニ就テ條ノ語ル所ヲ聞クモ元來墨國牛乳業者ハ概シテ甚タ不潔ナルノミナラス牛乳ニ多量ノ水分ヲ混合スレトモ條ハ極メテ其取扱ヲ清潔ニシ且ツ決シテコレニ水ヲ交ユルコトヲナサス純粹ノ牛乳ヲ販賣スルコトヲ爲シタルヲ以テ能ク之ヲ識別シ得ル歐米人ハ悉ク條カ得意トナリタリト云フ

以上ノ外「マデラ」ニ於テ獨立營業ヲ爲ス者ハ馬車屋業三人、大工三人、理髮業五人等ニシテ其他ハ既記ノ通り料理人二人、酒舖給仕四人、理髮業補助五人在留民ノ妻子十數人ニシテ馬車屋ハ「メキシカン、タウン」ト「アメリカン、タウン」

（停車場ハ「アメリカン、タウン」ニ在リ）トノ間ヲ往來スル荷客ヲ相手トシ可ナリ收入多キモノノ如ク又大工ハ「マデラ」カ新開地ナルノミナラス家屋ハ殆ント皆木造ナルヲ以テ建築受負業ニ從事シ頗ル有望ナルノ狀アルヲ認メタリ

第五節 在留日本人ト土民トノ關係

小官カ當墨西内地ノ旅行ニヨリテ得タル經驗ニヨレハ日本移民ノ多ク出入スル地方ニ於ケル土民ハ概シテ日本人ヲ輕蔑シ其地方ノ旅館又ハ料理店ノ如キモ日本人トシ見レハ一モ二モナク下等勞働者ト見做シ出來得ル丈ケ之ヲ惡遇スルヲ常トス例之ハ曩ニ小官「ウラクルス」州「オハケニヤ」耕地ヲ視察セシ時同地附近ノ停車場「サンタルケレシヤ」驛ニ下車シ停車場内旅館ニ入ラントスルヤ米人ナル旅館ノ主婦ハ小官ニ向ツテ汝ノ宿泊所ハ向フ側ニアリトテ不潔ナル木賃宿ヲ指示シタルコトアリキ、コレ獨リ此地ニ於ケルノミナラス墨國中凡テ移民ノ多ク出入スル土地ニ於テ日本人ノ經驗スル不快ノ感ナリトス

此レニ反シテ日本人ノ稍發展シ在留民カ夫々相當ノ事業ニ從事シ居ル地方例ヘハ當國「チャバス」州「ソコヌスコ」郡或ハ「チワワ」州「チワワ」市又或ハ首府墨西哥市ノ如キニ於テハ土民ノ日本人ニ對スル態度甚タ惡劣ニシテ旅館其他ニ於テモ頗ル好意ヲ以テ日本人ヲ迎フ今回「マデラ」ニ到着セシ時小官ノ腦裡ニ映シタル所ハ前記二者中ノ前者ニテアリキ今一例ヲ舉クレハ「マデラ」ノ旅館ハ不潔ニシテ殊ニ其ノ食事ノ粗惡甚タシカリシヲ以テ歐米人ノ食事場タル「マデラ」俱樂部ニ

第四章 「ダレ」種「マデラ」在留日本移民ノ狀態

一九七

調一0585

於テ喰食セント欲シ「マデラ」材木會社支配人ノ紹介ニテ一時ソノ部員トナリ同俱樂部ニ出入セシニ或ハ「バアア」ニ於テ或ハ食堂ニ於テ余ハ俱樂部ニ出入スル資格アリヤ否ヤヲ數回質問セラレタル事アリキ

「マデラ」在留日本人ノ大多數ハ移民労働者ナルヲ以テ土民ヨリ尊敬ヲ受ケサルハ當然ナリ又此等日本労働者ノ外他ノ階級ニ屬スル日本人ヲ會テ見シコトナキ土民カ日本人トシ云ヘハ一視直ニ之ヲ下等移民トシテ輕蔑スルハ亦自然ノ事タリ然レトモ近來日本人ノ重ナル者カ土人ヲ使役シ得ル能力アリ又威嚴アルコトヲ自覺シテヨリ頻リニ土人ヲ使役スルコトニ努ムルカ故ニ測ラスモ此ノ一事ハ土民労働者ニ勞働ヲ分配スルノ結果ヲ來シ從テ彼等ト軋轢ヲ釀スノ虞少ナク其間甚タ圓滑ナルモノアルカ如シ加之此方法ハ日本人カ主トナリ土民ヲ從トスルモノナルヲ以テ自ラ彼等ノ尊敬ヲ得ル手段トナルノミナラス土人ヲ使役スルハ經濟上亦甚タ有利ナレハ又一舉兩德ノ方法ナリト云フヘシ而シテ夫ノ歐米移民カ墨國等ノ植民地ニ來リテ割合ニ有利ノ事業ニ從事シ同時ニ土民ヨリ尊敬セラレ、所以亦實ニ茲ニ存ス

會テ受負師藤田小太郎カ「マデラ」會社ト關係ヲ開始セシ當時ハ既記ノ通り頻リニ日本労働者ヲ各所ヨリ糾合セント苦心シ他ノ耕地又ハ鑛山ハ勿論秘匿國迄モ書面ヲ飛ハシ又墨國內地ハ自ラ奔走シテ「マデラ」ニ轉勞スルノ利益ヲ説キ盛ニコレカ勸誘ヲ試ミタルヲ以テ兎角各就勞地ニ於ケル移民監督等ト物議ヲ惹キ起シ爲メニ時々公使館ノ干渉ヲ要シタルコトアリシモ今日ハ全然移民勸誘ヲ止メシ有様ナルヲ以テ小官ハ試ニ彼ニ向ツテ其所以ヲ質問セシニ彼ハコレニ答ヘテ今日ハ日本人ニ換ユルニ土人ヲ使役スルノ利ヲ發見セシヲ以テ最早多クノ日本労働者ヲ要セサルナリ又土人ハ日本労働者ニ比シ稍劣ル所アリト雖トモ日本人ノ如ク面倒ナク加フルニ頗ル從順ナルヲ以テ甚タ使役シ易ク此分ニテハ今後日本人ノ要ヲ見サルヘシト信ス但シ幹部又ハ要所ニハ是非日本人ヲ使用スルノ必要アルハ勿論ナリト云ヘリ

斯クノ如ク「マデラ」ニ於ケル日本移民ノ一部ハ今ヤ漸次企業者ニ變セントシツ、アル狀態ニテ從前ト異ナリ土人ヨリ相當ニ尊敬セラレヘキ位置ニアリ又藤田ノ如キハ其收入ノ多キ點ニ於テ「マデラ」材木會社ノ事業ニヨリテ生活スル者ノ中屈指ノ者ナリ然レトモ彼ハ常ニ不潔ナル衣服ヲ纏ヒ頗ル貧乏ラシク見エタルヲ以テ小官ハ其然カクスル所以ヲ質セシ

ニ彼ハコレニ答ヘテ余カ受負業ハ多少數學上ノ知識ヲ要スルモノナルヲ以テ無學ナル墨國受負業者ノ爲シ能ハサル所ナレハ余ハ會テ墨國人タル競争者ノ出スルヲ憂慮セシコトナキモ若シ余カ受負工事ノ頗ル有利ニシテ又余カ收入比較的大ナリト言フヲ知ラハ余ハ米人ノ嫉妬ニヨリ受負工事ハ恐ク彼等ノ爲メニ横取セラルハヤラ虞ルモノナリコレ即チ余カ常ニ殊更粗服ヲ纏ヒ、貧乏ヲ裝ヒ又工事ノ不利ヲ唱フル所以ナリト然レトモ小官ノ視ル所ヲ以テスレハコレ藤田ノ杞憂ニ過キナルカ如シ、由來「マデラ」會社カ特ニ藤田ヲシテ工事ヲ受負ハシムル所以ノモノハ一方ニ於テ藤田ノ受負費カ米國人ノ夫レニ比シ安値ナルト他方ニ於テ彼ハ米國受負師ノ有セサル機敏ニシテ且ツ安値(米國労働者ニ比シ)ナル日本労働者ヲ使役スルノ便ヲ有スルカ故ナリト思惟セラレ

以上ハ日本人ノ企業ニ關シ土民ト日本人トノ關係ノ一斑ヲ示シタルモノナルカ翻テ村内ニ於ケル兩者ノ關係ヲ視ルニ同村ハ新開地ニシテ下等ナル労働者ノ集合場ナルヲ以テ人氣甚タ惡シク村民中動モスレハ日本人ヲ支那人ト同視シ之ヲ蔑視スルノ傾向ナキニアラサルナリ殊ニ先年革命ノ發生セシ以來村內官廳ニ至ル迄日本人ニ對シ其ノ傾ヲ示セリト云フコレ蓋シ革命軍ノ勝利ニ得テヨリ新任地方官憲即チ知事ヲ始メ郡長、村長ニ至ル迄其多クハ俄カニ此等ノ榮職ニ就キタルモノニシテ日本ト支那トノ區別ヲ解セス只日本人ノ容貌ノ支那人ニ酷似スルヲ見テ直ニ之ヲ蔑視スルモノナリト云故ニ今後一二年ヲ經テ此等官憲カ漸次近事ニ通シ又日本人ノ價値ヲ了解スルニ至ルニ於テハ在留日本人ハ獨リ「マデラ」ニ於テノミナラス墨國各地ニ於テ今日迄ノ如ク此等官憲ト衝突スルカ如キコト之ナキニ至ルヘシ

今一二ノ例ヲ擧ゲテ示サンニ明治四十五年ノ初期ニ於テ「マデラ」村「メキンカン、タウン」ハ革命軍ノ爲メニ放火セラレテ殆ント全部燒燼シタレハ在留日本人モ亦其災難ニ罹リ家屋商店ヲ燒失セリ然レニ後、日本人ハ土人ト同シク家屋ヲ再築セントセシニ土地ノ官憲及村民ハ(此等ノ者ノ中ニハ會テ北米加州等ニ勞働シテ歸來セル者ナキニアラサルナリ)日本人ト支那人ニハ屋敷ヲ與フヘカラスト唱道シ少カラズ日本人ヲ困難セシメタルコトアリタリ因ニ云フ「マデラ」ハ既記ノ通り極メテ新開ノ地ナルヲ以テ此ノ地ニ居住セントスル者ハ村內到ル處其欲スル地面ヲ區畫シテコレニ家屋ヲ建築セハ

當然其地ノ所有者トナリ得ルナリ土地取得ノ方法斯クノ如ク容易ナルヲ以テ同地ニハ將來必ラス日本人ニ對スル土地問題ノ發生スルナキヤ慮リシニ早ク既ニ其悶着ノ發生シタルヲ聞ケリ
又次ノ一事ハ小官「マデラ」滯在中ノ出來事ナルカ一日「サンヘロニモ」耕地經營者條勉ハ「マデラ」ノ市場ニ牛二百頭ヲ輸送シタルニ村長ハ賊軍カ「マデラ」滯在中爲シタル暴行ヲ口實トシテ突然コレカ賣捌ヲ禁シタリ仍テ條ハ數回村長ト交渉ヲ重ネシモ遂ニ許可ヲ得ル能ハサリシヲ以テ彼ハ直ニ牛ヲ其耕地ニ送還セリ而シテ其禁止ノ魂膽ナリト云フヲ聞クニ村長ハ家畜ヲ仲買スル者ニテ村長ノ位置ヲ利用シテ密カニ「マデラ」ノ牛肉ヲ己カ一手ニテ販賣セント企テタルカ爲メナリト云フ

然ルニ藤田及條其他主ナル在留民ハ小官ノ爲メニ當夜村長及村内重テタル立者并ニ當時出征中ノ駐屯軍司令官及其他士官十有餘名ヲ招待シテ晚餐ヲ催シ其席ニ於テ小官ニ一場ノ談話ヲ試ミンコトヲ請求セリ小官ハ墨國人ヲシテ在留日本人ノ資格ヲ知ラシムル好機會ナリト思料セシヲ以テ之ヲ諾シ談話中左ノ一言ヲ交ヘタリ『墨國々法ハ民主國々法タルタルノ名ニ背カス類ル「リベラル」ナリト云フヲ以テ世界ニ知ラル、モノナルカ同法ハ在留日本人ニ對シ所謂政治上ノ權利 Republic Policeヲ附與セサル外墨國人ト全然同等ノ利權ヲ認ム即チ日本人ハ墨西哥ニ於テ共和國大統領トナリ、議員トナリ、及其他ノ官職ニ就クノ權利ナシト雖トモ墨西哥人ト同等ニ墨國ニ出入スルノ自由、居住スルノ權利、商業ノ自由又土地所有ノ權利ヲ有スルナリ而シテ此等ノ權利ハ唯ニ國內法ニヨリテ承認セラル、ノミナラス千八百八十八年ノ日墨條約ハ相互的ニコノ權利ヲ確認 Condumate ス即チ日本ニ在留スル墨國人ハ墨國ニ在留スル日本人カ墨國ニ於テ享受スルト同一ノ權利ヲ許與セラル之ヲ換言スレハ日本ニ在留スル墨西哥人ハ自由ニ日本ニ出入シ、商賣シ、旅行シ又土地ヲ所有シ得ルコト猶ホ墨西哥ニ在留スル日本人カ墨西哥國ニ於テ此等ノ諸權ヲ有スルカ如シ、而シテ今回余カ此所ニ來レル目的ハ獨リ在留日本臣民ノ狀態ヲ觀察スルノミニアラスシテ彼等ト土地ノ官民トノ關係ヲ觀察スルモ亦其主ナルモノナリ然ルニ今日迄ノ觀察ノ結果ハ少クノ例外ハアレトモ大體ニ於テ其間甚タ親和セルノ情アルヲ認メタルハ余ノ最モ愉快ニ感スル所ニシテ又此所ニ諸君ノ前ニ之ヲ聲明スルハ余ノ大ニ満足トスル所ナリ余歸館ノ節ハコノ一義ヲ當ニ余カ長官ニ復命スルノミナラス長官ヲ經テ墨國政府ニモ之ヲ通報シ又日本ニ向ツテハ墨國ニ於ケル日本人ハ同情氣風ノ裡ニ生活シ居レルコトヲ特筆シ以テ日本國民全般ニ知ラシムル事ニ努力スヘシ』云々ト然ルニ演說ノ効果ハ直ニ現ハレシモノ、如ク村長ハ宴會ノ終リニ於テ密カニ條ニ向ヒ何故ニ牛ヲ耕地ニ送還セシヤ決シテ斯カル必要ナカリシナリト云フト云フ

又數日後當時建築中ノ「エル、レオン」商店ノ家屋ハ街道ニ突出シ過クルトノ廉ヲ以テ之ヲ處分セサルヘカラサルノ議村會ニ上リ同店ハ村役場ト復一悶着ヲ惹起ササルヘカラサルニ付キ小官今回ノ觀察ヲ機會トシテ同問題ノ解決ヲ附ケタキ旨在留日本人ヨリ請求アリタリ仍テ其事情ヲ探究セシニ商店側ニハ更ニ何等缺點ナキヲ認メリ即チ該日本商店ハ舊村長カ知事ノ命令ニ依リ派遣シタル技師ノ市街設計圖ニヨリ家屋ヲ建築シタルニ新村長ハ他ノ多クノ墨國地方官憲ト均シク前任者ノ行爲ヲ全然否認シ、村内家屋ノ建築又土地ノ區畫ハ總テ新設計ニ依ルヘシト布告セントシタルカ故ニ斯ル問題ハ生シタルナリ仍テ小官ハ村役場ニ至リ村長及村會員ニ面會シ本件ノ成行ヲ聽キ左記ノ如キ談話ヲナシ該事件ノ取り下ケヲ請求シタリ

余惟フニ革命黨ノ勝利ハ前政府ノ破壞ヲ意味スルモノナレトモ然カモコレニヨリテ前政府ノ行爲ヲモ破壞セリト思惟シ之ヲ無視スルハ誤解ナリ殊ニ締約國ノ在留民ノ權利ニ關スル問題ニ對シテ最モ然リトス彼ノ日本商店ノ家屋ハ前政府ノ村長カ知事ノ命令ニ依リテ派遣シタル技師ノ道路設計ニ基キ建築シ又同技師ノ承認ヲ得タルモノナレハ正當ナルモノニシテ今日役場カ安ニ之ヲ無視スルコト能ハサルモノナリ余ハ過去ノ革命以來各地在留日本人ヨリ我公使館ニ訴出テ又保護ヲ請求シ來レル幾多ノ要求中此レト類似ノ事件ニ執筆シタル事アルカ公使館ニ於テハ其都度一々之ヲ中央政府ニ移牒シ我在留民ノ保護ヲ依頼スルト同時ニ其正當ナル處分ヲ請求セシニ中央政府ハ常ニ我公使館ノ要求ヲ容レ在留日本人ノ權利カ毀損セサル様善意ノ措置ヲ執リ與ル、ヲ以テ我公使館ハ之ヲ頗ル満足シ居ルカ此等事件ノ動機ヲ探究スルニ殆ン

第四章 「ゲレロ」郡「マデラ」在留日本移民ノ狀態

ト皆墨國地方官憲ノ或ル者カ革命ヲ誤解シテ前政府ノ法律行為迄ヲ全然無視スルニ由ルモノ、如シ、元來我公使館カ墨國政府ノ下ニ駐劄スルハコレト論争センカ爲メニアラスシテ常ニ兩國ノ關係ヲ密接ナラシメン爲メニアレハ此等ノ事件ヲ度々中央政府ニ移牒シ殊ニ目下墨國內情多端ノ秋ニ際シ尙ホ敢テ斯ル要求ヲ同政府ニ提出スルハ在墨日本公使館ノ忍ヒナル所ナレハ貴役場ニ於テモ充分其眞意ヲ汲ミ今後成ルヘク斯ル問題ヲ惹起シテ多事ノ中央政府ヲ煩ハササランコトヲ冀望ス尙ホ余ハ歸途「チツワ」市着ノ節ハ本件ヲ詳細知事ニ報告シ將來此ノ種ノ問題ノ再發セサランカ爲メニ盡力セラレンコトヲ依頼スヘシ云々ト

然ルニ數日ヲ經テ小官ハ各方面ノ觀察ヲ終リ今ヤ「マデラ」ヲ退カントスルニ當リ再ヒ村役場ニ至リ居合セル村長及判事ニ向ツテ余ハ今後屋敷問題ノ發生セザランコトハ貴下等一同ノ名譽ト貴下等カ日本國民ニ對シテ有スル多大ノ同情心ニ信頼シテ當地ヲ去ルヘシト陳述セシニ村長ハコレニ答ヘテ家屋問題ハ今後之ヲ起ササルヘシ又凡テ在留日本人ハ墨國人ト同一ノ取扱ヲ受クヘケレハ斯ク承認セラレタシト云ヒ尙ホ小官ハ「チツワ」市ニ歸着後之ヲ州知事ニ談話シタルニ彼ハ小官ニニ向ツテ州内ノ日本人ニ對シテ今後決シテ斯ル問題ヲ惹起セシメサルヘケレハ安心シテ可ナリト確言セリ

其後「マデラ」ヨリノ通信ニヨレハ該問題ハ全然立消ノ状態トナレリトノ事ナリ之ヲ要スルニ「マデラ」在留日本人ハ重ニ勞働者ナルヲ以テ社會上未タ好遇セラル、ノ地位ニ達セスト雖トモ漸次其位置ヲ高メ來リ今日ハ士民ヲ使役スルノ程度ニ達セリコレ我日本移民ノ一進歩ト云フヘク彼等ノ將來ハ決シテ之ヲ悲觀スルヲ要セザルモノアルヲ認メタリ又彼等ト村官憲トノ關係ヨリ動モスレハ無理ナル待遇ヲ受クルコトアリト雖トモ今後一二年ヲ經テ日本人カ如何ナル種類ノ國民ナルカヲ了解スルニ於テハ漸次政府時代ニ於ケルカ如ク好遇セラル、ニ至ルヘシト信ス

第五章 結論

小官ハ今回「チツワ」州在留民状態ヲ觀察シテ凡ソ左記ノ結論ヲ得タリ

第一、移民ノ發展ハ多クノ場合ニ於テ其日本ニ於テ受ケタル教育ノ程度ニ正比例スル事

第二、「リスク」ヒ「ロ」ヲ敢テスル企業ハ多ク失敗ニ終ルヘキ事、例ヘハ「サンヘロニモ」耕地ハ今後七八年間ハ内亂ノ餘波タル暴徒ノ爲メニ荒ラサル、ヘキナルヲ條勉ハ敢テ之ヲ借地シ爲メニ甚タシキ損害ヲ蒙リタルカ如シ又「チヤバス州」ソコヌスコ「郡」ニ於ケル日本人ニ對スル土地回収問題モ其動機ハ古來村民ノ所有地ヲ村民ノ反對スルニモ拘ラス州官憲ヨリ購入シ今日ニ至リ（假令政府ハ之ヲ辨償スルモ）之ヲ手離ササルヘカラサル状態ニ至リシカ如シ

第三、日本移民カ士民ヲ使役スルノ能力ヲ有スル事ヲ自覺シタルハ在墨日本移民ノ一大進歩ト言ハサルヘカラス蓋シ士民ヲ使役スルハ彼等ニ勞働ヲ分配スルノ結果ヲ來スヲ以テ彼我ノ間ニ軋轢ヲ醸スノ虞ナク又此ノ方法ハ日本人ハ主トナリ士民ハ従トナルモノナルヲ以テ自ラ彼等ノ尊敬ヲ受クルノ手段トナルモノナリ而シテ夫ノ歐米移民カ墨國ニ於テ士民ヲ利用シテ有利ノ業ニ從事シナカラ尙ホ彼等ノ尊敬ヲ受クル所以ハ亦實ニ茲ニ存ス

第四、墨國ニ於テ小資本ヲ投スル農業ハ到底成功覺束ナキモ大資本ヲ投スル農業ハ決シテ成功ノ見込ナキニアラサルナリ例ヘハ「サン、ヘロニモ」耕地ノ如シ又温帯ノ借地農業ハ處女地開墾ノ點ニ於テ熱帯地ニ比シ容易ナルヲ以テ稍見込アルカ如シ然レトモ借地農業ハ何レニシテモ結局愚事タルヲ免レシ

第五、移民ノ貯蓄心又移民ノ愛國心之ヲ換言スレハ移民ノ眞面目ナル考ハ之ヲ教育アリ意志アル移民ニ俟ツヘクシテ大多數ノ移民ハ多年勞働地ニ居レハ居ル程墮落シ會テ墨國ニ到着セシ當時ノ考ハ何レニカ之ヲ喪失シ徒ニ下層士民ノ風ニ感染浸化セラレ勞働ハ漫ニ娛樂ノ爲メニ空費シ貯金ヲサヘナササルノミナラス中ニハ日本ニ殘セル家族ヲモ全然忘却スルニ至レルモノアリ勿論「マデラ」在留移民ハ各所ヨリノ浮浪者ノ集合隊ナレハ之ヲ以テ直ニ在墨日本移民全體ヲ準視シ得サルモ然カモ墨國移民一般ニ前記ノ如キ傾向アルハ疑ヲ容レサル事實ナリトス仍テコレカ救済ノ要

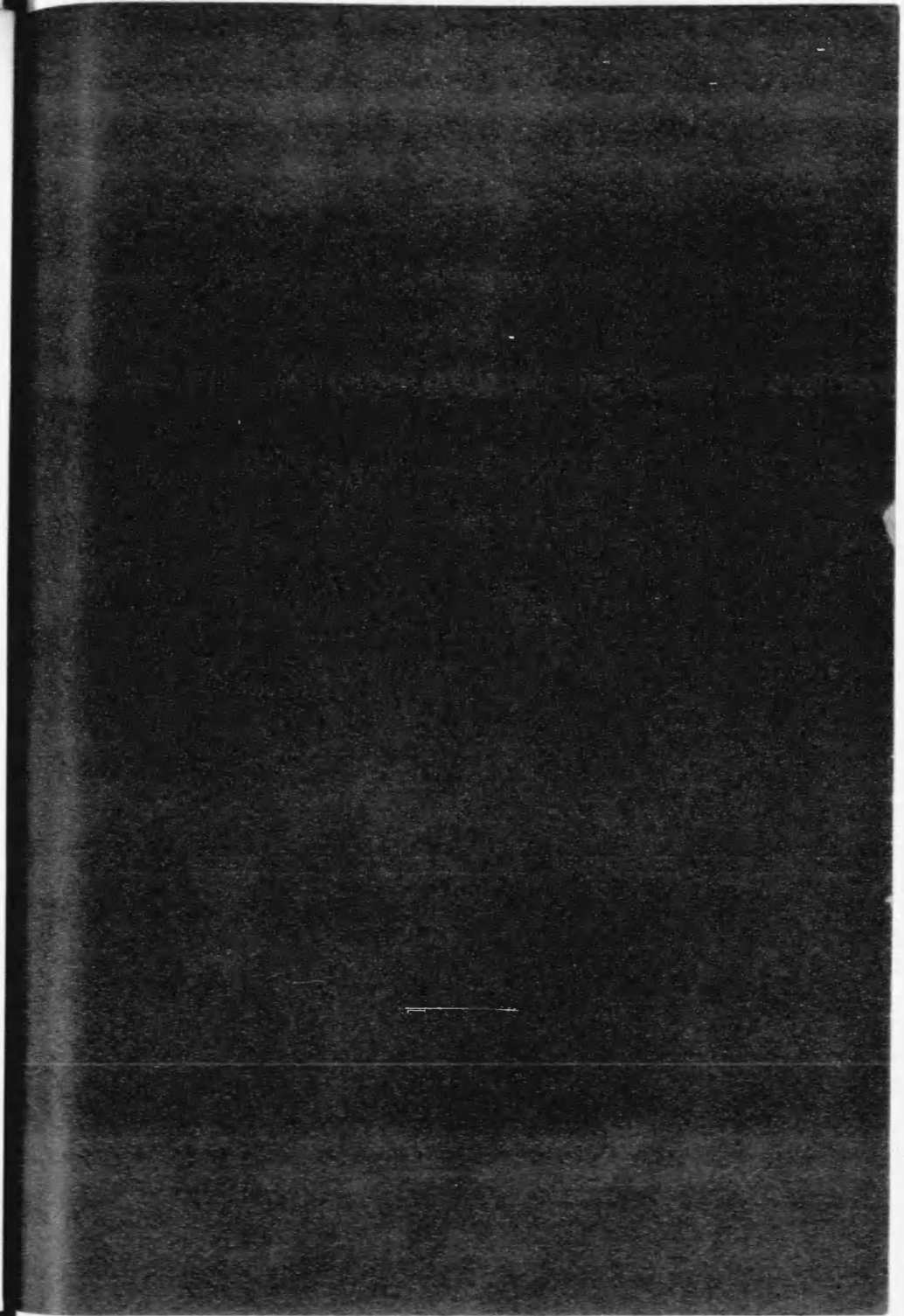
「マダガスカル」島視察報告書

104

ハ今ヤ最モ痛切ニ感セラル、所ナリトス
第六、墨國在留日本人ハ(殊ニ地方ニ於ケル)目下時々地方ノ官憲ト闘着ヲ起スコトアルモコレ全ク革命ノ餘波ニシテ今
後一二年ヲ經テ官憲カ日本人ノ如何ナル種類ノ國民ナルカヲ了解スルニ至レハ止ムヘシ

調一0585

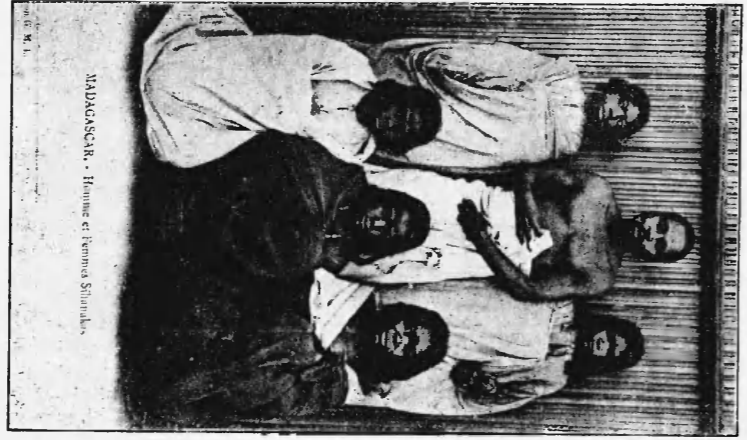
0:30



マダガスカル島人



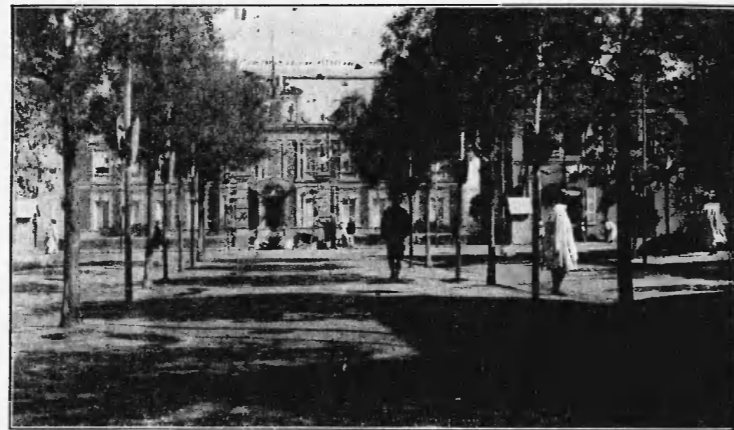
マダガスカル島人



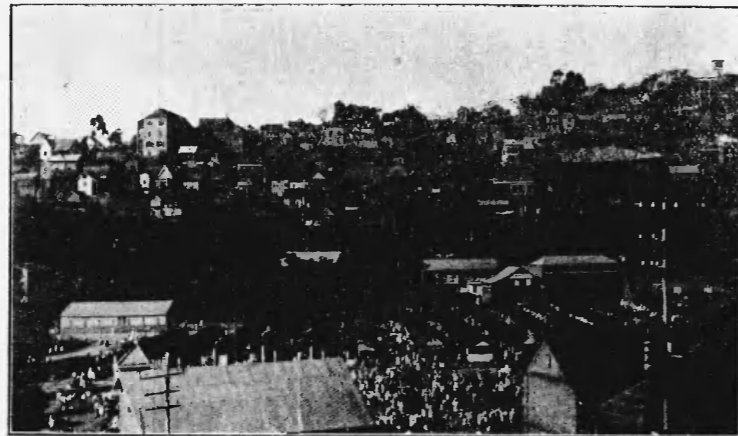
街市「グーリナタ」島「ルカスガダマ」



「グーリ、ナタ」在) 府督總島「ルカスガダマ」



場市曜金市「グーリナタ」島「ルカスガダマ」



造製帽程麥ルケ於「グーリナタ」島「ルカスガダマ」



儀婚ルケ於「スレアズゴエヂ」島「ルカスガダマ」



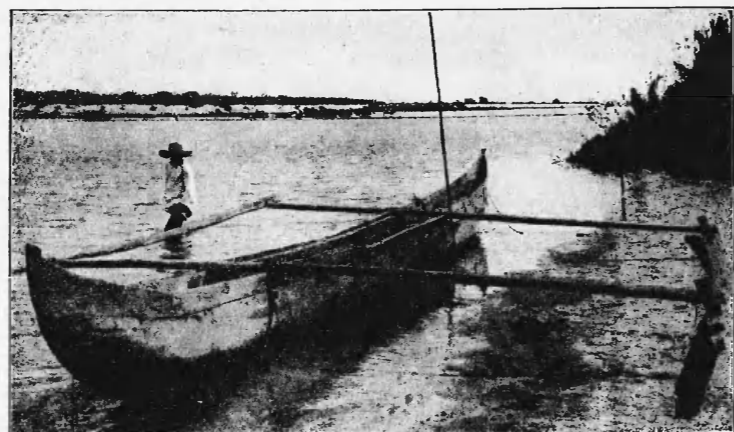
家一長會ノ人士島「ルカスガダマ」



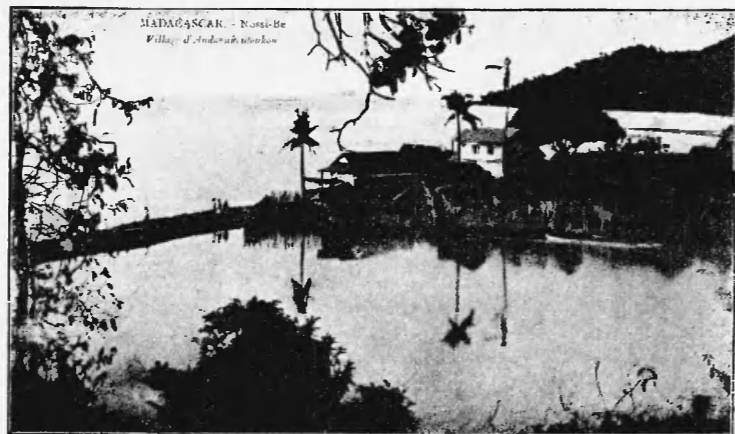
作米ルケ於ニ地土ノ突米百七千拔海島「ルカスガダマ」



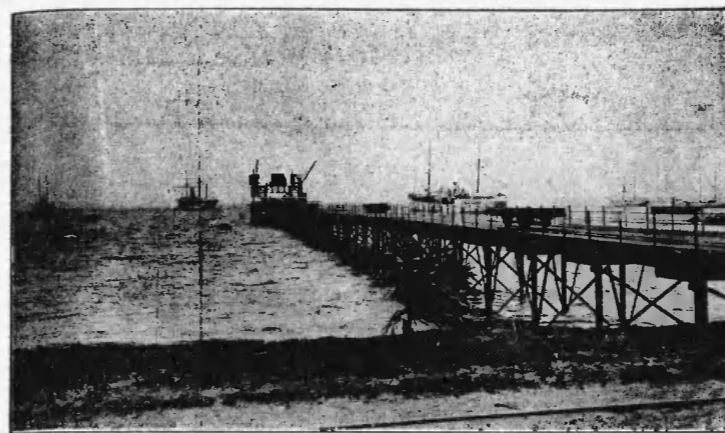
舟水ノ流河島「ルカスガダマ」



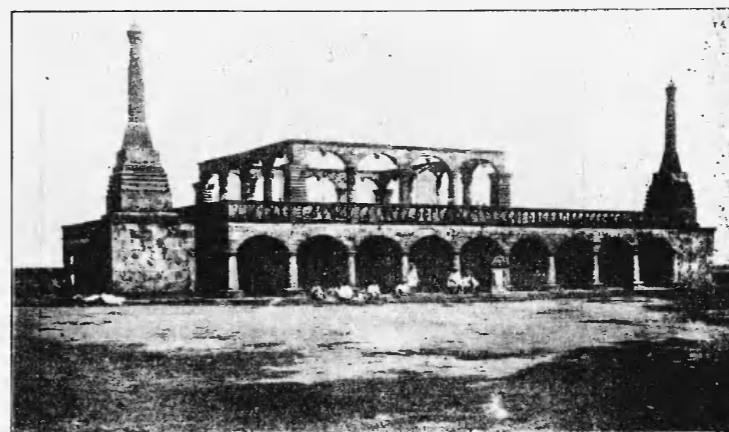
村「ベシツ」ノ島「ルカスガダマ」



頭埠「ザーリナナタ」島「ルカスガダマ」



墓ノ相首島「ルカスガダマ」

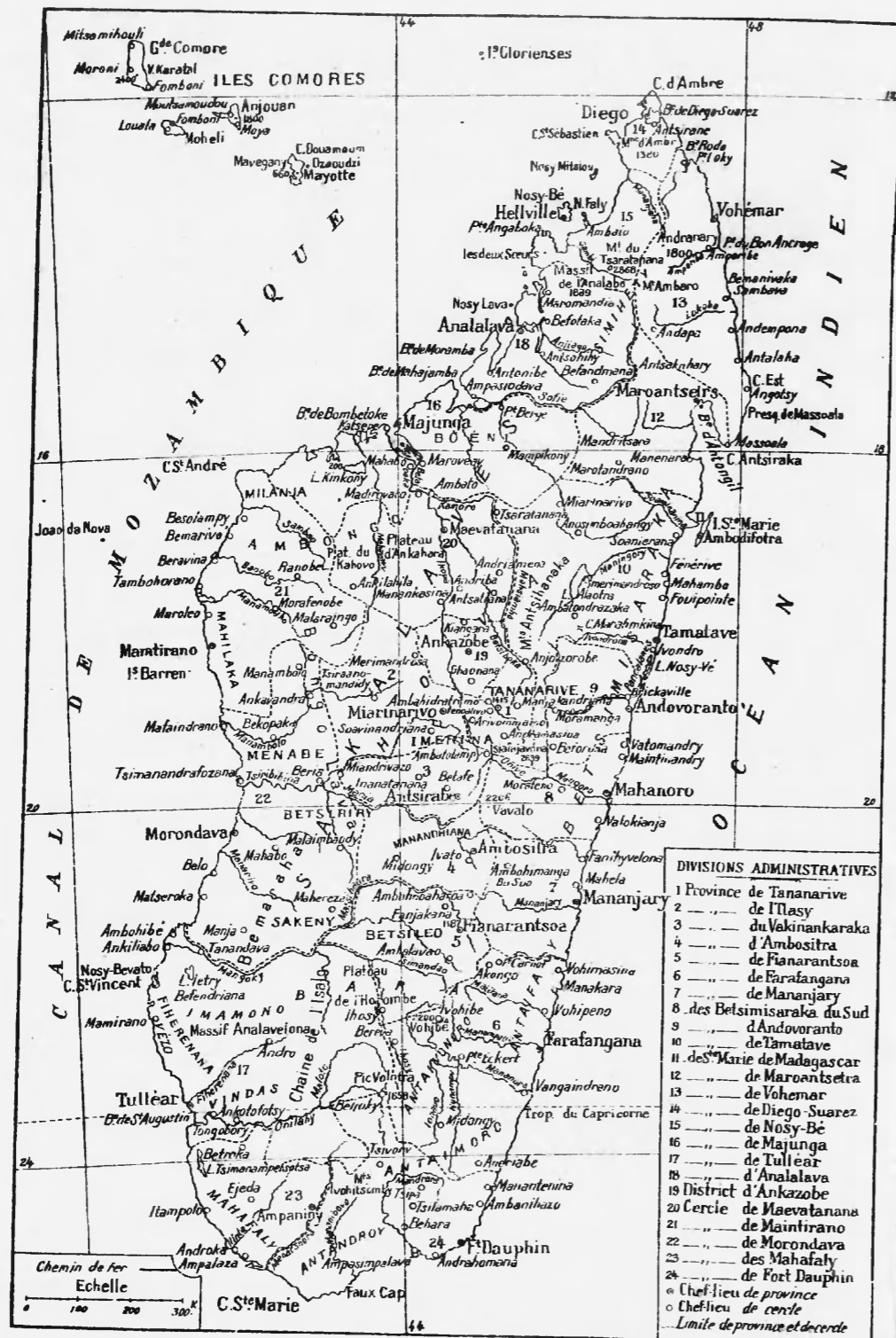


(館物博ハ今現) 宮王ノ王女前島「ルカスガダマ」

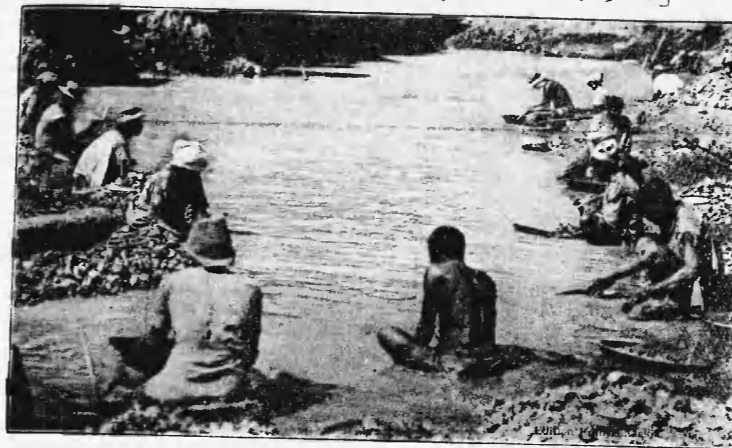


島ルカスガダマ

MADAGASCAR



鑛金ヲエコフタシラ島「ルカスガダマ」



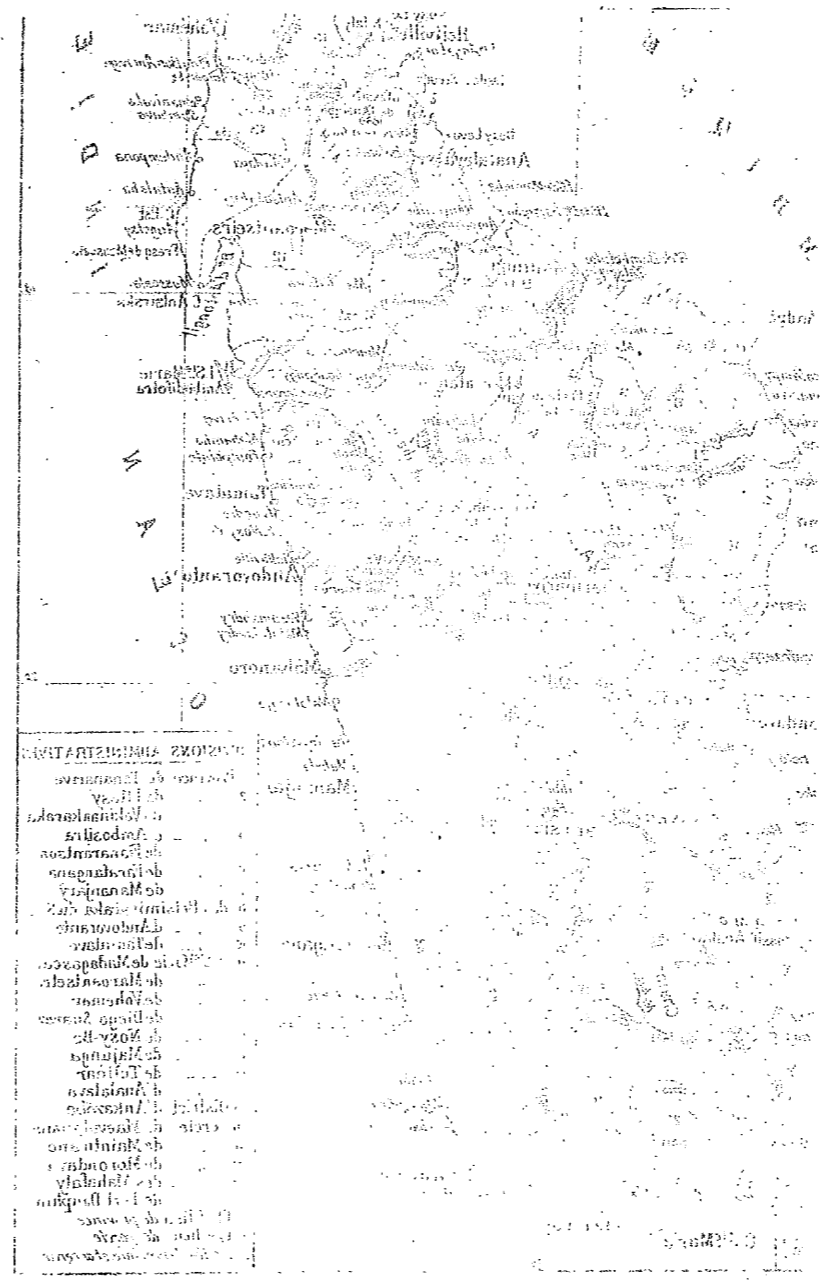
島「ルーパーチンザ」

Zanzibar from Sea



住宅ノ人邦本留在ルケ於ニ「ヘ」島「ルエシーセ」





「マダガスカル」島視察報告書目次

目次

第一章 概説

第一節 地勢概略

第一 發見

第二 名稱

第三 面積

第四 海岸線

第五 島嶼

第六 海潮

第二節 山嶽

第三節 地價

第四節 河川

第五節 氣候及氣象

第六節 旋風

第七節 森林

第二章 人種及宗教言語

第三章 歴史

第四章 行政組織及司法制度

第一節 行政組織

第一 行政會議

第二 行政裁判所

第三 國防會議

第四 殖民高等衛生會議

第五 衛生會議

第六 州行政

第七 土人ニ對スル行政

第八 市政組織

第二節 司法制度

第五章 教育及衛生

第一節 教育

第一 土人教育

第二 歐洲人教育

第二節 衛生組織

第六章 兵備

第七章 經濟的利害代表機關

第八章 財政及金融

第九章 運輸交通

目次

第一節 遠洋航路及近海航路

第二節 内地交通

第一 鐵道及「パンガラ」運河

第二 自動車線及「ベチボカ」河ノ水運

第三 道路

第四 水路

第五 港灣ノ設備

第六 郵便及電信電話

第十章 拓殖

第一 歐洲人ノ産業

第二 土人ノ産業

第三 農事獎勵

第十一章 農業

第一節 食料品

第二節 厚利作物

第三節 養蠶業

第一項 野蠶「ランデベ」

第二項 蜘蛛ノ絹絲

第三項 普通養蠶(省略)

第四項 東部亞弗利加ニ於ケル蠶業

第四節 土地貸下及拂下

第十二章 林業

第十三章 畜産業

第十四章 鑛業(省略)

第十五章 商業

第一節 概説

第二節 本島ト東洋特ニ本邦トノ間ノ貿易狀態

第三節 關稅及消費稅

第四節 商品ノ運搬

第五節 船舶出入

第十六章 工業

第一節 土人ノ工業

第二節 歐洲人ノ工業

第十七章 勞働

第一節 勞働制度

第二節 移民

第一 輸入移民

第二 輸出移民

第三 「マダガスカル」島ト本邦移民

第四 在留日本人ノ狀態

附 録

第一 視察旅行雜感

第二 千八百六十八年「タナナリ」條約

第三 千八百九十八年女王ノ宣言書

第四 移民ニ關スル千九百三年五月六日勅令

第五 移民取締ニ關スル千九百三年六月十五日總督府令

目次

三

「マダガスカル」島視察報告書

(大正二年七月一日
在皇壽帝國領事館提出)

領事 木 島 孝 藏

第一章 概 説

第一節 地勢概略

第一 發見 「マダガスカル」島ハ往昔印度人、埃及人、亞刺比亞人等ノ來リシコトアリ又 Polynesian 人及ヒ馬來人モ屢々來住シタルコトアレトモ同島ノ歐洲ニ知ラレタルハ四百年以來ノ事ニ屬ス一五〇〇年二月葡萄牙王ハ Alvarez Cabral ノ指揮ノ下ニ、十三艘ヨリ成ル一艦隊ヲシテ印度洋ヲ探見セシメタリシカ艦長 Diego Diaz ノ船ハ暴風ノ爲メ艦隊ト分レ同年八月本島ノ東岸ニ達シタリ夫ヨリ葡萄牙人ハ間モナク再來スルコト、ナリ爾後數年ノ間有名ナル海將 Ferdinand Galvaz, Alfarens d' Albuquerque 及ヒ Cristian d' Aounha 等ハ本島ノ沿岸諸地ヲ探見シタリ

一五〇六年本島ノ南北兩端ハ回航セラレタリ「ジャン・ユメッシュ・ダンリット」(Jean Gomez d'Abreu)ハ西岸ヨリ來リテ北端「アムブル」岬(Cap d'Ambré)ヲ回航シタルガ船難ニ遭ヒ船員十一名ト共ニ其乗船ヲ抛棄シテ此地ニ上陸シタリ

第二 名稱 葡萄牙人「ローラン」上人(Saint Laurent)ノ命日(八月十日)ニ本島ニ到着シタルタメ本島ヲ「サン・ローラン」島ト名ツケ此名稱長ク使用セラレタリシカ現今ハ「マダガスカル」ノ名稱ノミ用キラル、ニ至レリ「グランデ・チエー」(Grandier)氏ノ説ニ據レバ Madagascar ナル名稱ハ中古亞非利加ノ東岸ニ豐富ヲ以テ有名ナル海港地 Magdalen 島ノ名稱ノ轉用ニ近代ニ於ケル先輩ノ地理學者カ過ツテコノ「サン・ローラン」島ニ此 Magdalen 島ノ名ヲ用キタルヨリ爾來更ニ變シテ Madagascar トナリタルナリト

「フレアコート」(Flacourt)氏の本島は Madagas といふ。Madagascar は 亞刺比亞語 Madagascar (har は 亞刺比亞語にて町、村等ノ義ニシテ即チ Madagas ノ國ナル意義)ヨリ來レルモノナリト云ハリ

然ルニ小官カ同島ニ於テ教育アル一士人ヨリ聞キタル所ニ據レハ Madagascar ナル名稱ハ永ク同島ニ住セル三人種ノ名ヨリ來レルモノニシテ馬來人種ト回々教徒ナル「ガット」人種及ヒ「ツェアール」人種トノ名ヲ合セタルモノナリ即チ Malai ヨリ Ma ヲ取り Gad ハ Taga トナリ Usanar ハ sear トナリテヨハニ Madagascar トナルナリト

惟フニ「マダガスカル」人ヲ Mal gache ト稱シ今現ニ之ヲ使用シツ、アリヨハ Malgache ナル文字ハ土語ノ音ヲ佛蘭西語的ニ綴リタルモノナル故ニ時ニハ Malgasy トモ書ス此 Malgasy ハ (Malai, Gad, Usanar) ノ三語ヲ短縮シタルモノニシテ而シテ Madagascar ナル語ハ Malgasy ト 亞刺比亞語ノ har (國ノ義) トヲ合セタル語ノ轉訛シタルモノナリト認ムル方却テ理由アルカ如クニ思ハル茲ニ僂見ヲモ附記シテ識者ノ教ヲ乞ハシ

第三 面積 「マダガスカル」島ハ母國佛蘭西ヲ距ル一萬キロメートル(約我二千五百里)ニシテ南半球ニ位シ南緯一度五七分及二五度三分ノ間ニアリテ巴里東經四〇度五五分及四八度七分ノ間ニ位ス故ニ南端ノ一角ヲ除クノ外皆熱帶内ニアリ

本島ハ「モゼンビック」海峡ヲ隔テ、亞非利加洲ト相對ス其距離平均四〇〇「キロメートル」(約我百里)ニシテ隣島「レユニオン」島(佛領ニシテ Réunion 又ハ Bourbon ト稱ス)ト相距ル六〇〇「キロメートル」(約我百五十里)トス

本島ノ形狀ハ左足ノ跡ノ如キ長卵形ニシテ一八度ノ傾斜ヲ有シ南南西ニ起リテ北北東ニ走ル南北ノ最モ長キ所(Cap de Ambre ト Cap Sainte-Marie トノ間)ハ一五八〇「キロメートル」(約我三九五里)東西ノ最モ廣キ所(東岸 Pointe ト西岸 Kingara トノ間)ハ一五八〇「キロメートル」(約我一四五里)トス面積約五八〇、〇〇〇平方「キロメートル」ニシテ略ホ佛蘭西、自耳義、和蘭三ヶ國ヲ合セタルノ大サ(佛蘭西、五二八、〇〇〇方「キロメートル」百耳義、二九、〇〇〇方「キロメートル」和蘭三三、〇〇〇方「キロメートル」ヲ合スレハ、五九〇、〇〇〇「キロメートル」トナル)ニシテ「ニュー、

ギニー」(七八五、〇〇〇方「キロメートル」)「ボルネオ」(七三三、〇〇〇方「キロメートル」)ニ次キ世界第三ノ大島ナリトス我帝國ノ總面積ハ朝鮮、臺灣、澎湖島、樺太ヲ合セテ四三、四五八方里三八トス、我一平方里ハ、一五平方「キロメートル」四三、四五〇ニ當ルカ故ニ「マダガスカル」島ノ全面積五八〇、〇〇〇「キロメートル」ヲ換算スレハ三七、六六二方里三三三トナル則チ同島ノ廣サハ我帝國ノ總面積ヨリ北海道又千島ノ面積六、〇〇〇方里餘ヲ減シタルモノト略ホ同シ人口ハ約三百萬人トス

「マダガスカル」島ハ其山嶽地質及氣候ノ點ヨリ三地方ニ分カル即チ中央ニアル高原地、印度洋ニ面スル北及東ノ海岸及次第ニ「モゼンビック」海峡ニ緩斜スル西及南ノ平原トス通常高原(Pateau)又ハ中部(Centre)ト云フハ此第一地方ヲ指稱シ東部ト云フハ第二地方、西部ト云フハ第三地方ヲ意味シ沿海地方ト云フトキハ第二第三地方ヲ合稱スルモノナリ以下略語ノミヲ使用スヘクハ讀者之ヲ記憶セラレントト云フ

第四 海岸線 本島ノ海岸線ハ四山屈曲甚タ少ナク全長僅カニ、五、〇〇〇「キロメートル」ニ過キス東岸ハ赤道南ノ定風即チ東南ヨリ來ル風浪ニ吹キ洗ハル、カ故ニ殆ト直線ヲナス

「チエゴニシエ」(Diégo-Suarez)灣ハ本島ノ北端ニ在リ「トンネール」(Tonnerre)「カイエー」(Caillox-Bians)「ギン、ド、サック」(Cul-de-Sac Galois)ノ諸灣及「モー」(Mor)「フランセー」(Bale des Français)等ノ諸灣ヨリ成リ「ウキリアム、ノット」岬(Cap William Henri)及「フレデリック」岬(Cap Frédéric)兩間ノ狹キ海峡ニ依リテ印度洋ト連絡シ本島第一ノ良灣トス普通船舶ノ投錨スルハ「ニエツル」(Nevre)灣ニシテ「マンチラネ」(Anstrano)市ハ其南東岸ニ在リ一般ニ Diégo-Suarez 港ト稱スルハ即チ此市ニシテ縣廳アリ兵營アリ長ク海軍ノ根據地タリシカ故ニ海軍モ派遣セラレシカ今ハ陸軍ノミニテ守備シ居レリ又地位船舶ノ通路ニアルカ故ニ商業運輸業甚タ昌盛ナリ Diégo-Suarez ヨリ東岸ニ沿ウテ南下スルハ Cap des Gontres 及 Cap Est ノ兩岬アリ Anlonghi 灣ノ門口ニハ Mascala 岬アリ此灣頭ニハ十七世紀中佛國ノ殖民地設ケラレテ Louis-Dourg ト稱セシカ今ハ Marontsirra ト稱ス

Antongil 灣ヲ出テ、南スルニ Sainte-Marie 島ノ對岸ニ、三「キロメートル」ノ海峡ヲ隔テ、Pointe-a-Larée 岬アリ夫ヨリ以南ハ極南ノ海角 Cap Sainte-Marie ニ至ル迄殆ト直線ヲナス地形カタノ如クナルガ故ニ東岸一帯ノ諸港 Vohémar, Tananarive, Andovoranto, Mananjary, Farafangana 及 Fort Dauphin ノ如キハ風波ニ暴露サレタル裸港ニシテ船舶ハ全然海上ニ投錨スルカ故ニ此海邊ニ頻繁ニシテ又恐ルヘキ旋風ニ襲撃セラレ貨物ノ積卸シ屢々困難ヲ極メ時ニハ數週間全然積卸シヲナシ能ハサルコトアリ

中ニ就キ Tananarive 港ハ前面ニ Pointe Cario 及 Pointe Hastie ト稱スル二個ノ珊瑚洲アリテ北方及東方ノ波ヲ破ルカ故ニ船舶ハ少ナカラサル便宜ヲ得本港ハ首都「タナナリツ」ニ最モ近キ港ニシテ今春南地間ノ鐵道完成シタルカ故ニ同港ヲ改良スルノ急要アリ一千五百萬法ヲ投シテ築港スヘク計畫セラレタリ

又 Fort Dauphin 毛裸港ナレトモ他港ニ比シ多少優レルモノアリト云フ

本島ノ西岸ハ大ニ東岸ト越テ異ニシ岬角多ク大灣深港アリテ航海ニ便ナリ今北ヨリ西岸ヲ南下セムニ baie d'Ambavaly, baie du Courrier, Cap Saint Sébastien フリ廣大ナル baie d'Ampanindava フリ Nosy-Bé 島ハ其門口ニ在リ通常 Nosy-Bé 灣ヲ云フハ即チ此所ニシテ口露戰爭ノ當時露國ノ大艦隊カ幾十ノ商船ヲ率キテ碇泊シタル所タリ

Diego-Suarez ト共ニ本島最大ノ良灣ナリ因ニ曰フ土語 Nosy 島ハ大ノ義ニシテ Nosy Bé ハ大島ノ意味トス夫ヨリ Ambatobe, Radama, Naranjary, Malajamba ノ諸灣ニ次キ Behiboka 河ノ Mozambique 海峡ニ注ク所 Bombetoke ノ良灣アリ西岸第一ノ商港 Majunga ハ其門口ニ在リ都府「タナナリツ」ニ通スル西街道ト稱スルハ此地ヲ起點トス

Saint André 岬ヨリ海岸線ハ急ニ屈折シテ南南西ノ方向ニ下リ一大灣ヲ形成ス灣内水淺ク砂多ク北西岸ニ比スレハ屈折少ナシコノ大灣ハ深ク陸地ニ入り灣岸 Paléovier ト稱スル植物(其皮ヲ藤皮ニ用ウ)叢生ス

Saint-Vincent 岬ヨリ極南角 Sainte-Marie ニ至ル海岸線ニ沿テ一帯ノ珊瑚島アリ此珊瑚島ト陸地トノ間ニハ一條ノ水路ヲ存シ獨木舟等ハ狂浪ニ襲ハルノ憂ナク安全ニ此間ヲ往來スルヲ得

Tuléar 及 Saint-Augustin ノ兩灣モ亦珊瑚礁ニヨリテ保護セラレ本島良灣ノ中ニ算セラレ

第五 島嶼 「マダガスカル」島ノ海岸ニ沿ツテ幾多ノ島嶼アリ殊ニ西岸ノ北部ニ於テ然リ中ニ就キ西北ニアル Nosy-Bé 及東方ニ在ル Sainte-Marie ヲ最モ大ナリトス此兩島ハ佛國カ「マダガスカル」全島ヲ占領スル前既ニ同國殖民地タリシモノニシテ前者ハ、一八四一年ヨリ後者ハ、一七五〇年ヨリ佛領タリシナリ

Nosy-Bé ハ Anjashindava 灣口ニ位シ周回約八「キロメートル」餘(約我二〇里)ヲ有シ其最モ長キ所ハ、二二「キロメートル」(約我五里半)ニシテ幅ノ最モ廣キ所ハ、一五「キロメートル」(約我四里弱)トス本島ニハ Haut-Ville ト稱スル市街地アリ普通之ヲ Nosy-Bé ト稱ス港灣佳良ニシテ風波ノ憂ナク大小ノ船舶安全ニ碇泊スルヲ得ヘシ

Sainte-Marie 一名 Nosy-Braba ト稱ス(Abraham 島ノ義ナリ)本島ノ東岸ニアリ南緯一六度四〇分及一七度八分ノ間東經四七度八分及四七度五五分ノ間ニ位ス其南北ノ長サハ、五三「キロメートル」(我十三里餘)ニシテ其幅ハ四「キロメートル」(約我一里)トス此島ノ Tokinay 岬ハ本島ノ Pointe-a-Larée 岬ト頗ル相近接シ其間僅カニ四海里ナレトモ岬ノ兩翼次第ニ低下隔離シ其距離約三十「キロメートル」ニ及フ此島ノ東岸ハ常ニ風浪ノ襲撃ヲ受クレトモ西岸ニハ浮標アリ燈臺アリ水深六「メートル」乃至四〇「メートル」ナルカ故ニ船舶ノ安全ナル碇泊場トス

第六 海潮 「マダガスカル」島ノ海岸ハ皆ナ潮ノ高低アリ然レトモ東岸一帯ハ其度甚タ少ナク二「メートル」半ニ達スルコト頗ル稀ニシテ干潮ノ際ニ於ケル潮流ノ速力モ一時間二海里ヲ超エタルコトナシ然レトモ西岸ニ在リテハ正確ニ、一日二回ノ干満アリテ五「メートル」ノ高サヲ超ユルコト少ナカラス

第二節 山嶽

本島ノ東岸ニ沿ヒ南ヨリ北ニ走ル一帯ノ山脈アリ其西岸ヲ離ルコト東岸ニ至ル距離ノ三倍トス此山脈ハ Vohémar 港附近ニアル Toky 河ノ流域及 Antongil 灣附達ニアル Sôa 河ノ流域トニヨリテ横斷セラレ分レテ三山脈トナル最北ナル

ハ Ambre 山脈トシ次キヤ Antankara 群山トシ(北部高原ト稱スルハ即チ之ナリ)以下ヲ中部高原トス
 中部高原ハ最モ廣ク殆ント全島ノ長サノ半ヲ占メ Imenra, Telsio 兩州ノ全部ヲ含ム其高度ハ海拔一、〇〇〇「メー
 ル」乃至一、二〇〇「メーテル」トス此高原ヲ構成スル原始岩(片麻石、雲母片石)ノ地層ハ、或ハ直立シ或ハ皺襞ヲ有シ大
 ニ攪亂轉倒ナレタルノ觀ヲ呈ス此高原ハ深山幽谷多ク中央ニハ火山質ノ Antakarata 群山アリ其最モ高キモノヲ「Sataja-
 vona」(常ニ雲ニ蔽ハルノ意味)トス海拔二、六八〇「メーテル」ニシテ長ク本島第一ノ高山ト信セラレタリ
 因ニ曰ク沈澱地層及化石ヲ有スル本島ノ各地ニ於テ火山石ハ既往ニ於ケル如ク現今ニ於テモ猶重要ナル働キヲナシツ、
 アリ而シテ本島ニ存在スル火山ノ數甚タ多シ
 北部高原ハ Sosa 河ノ流域ニヨリテ中部高原ト隔テラル地質ハ前者ト同シキモ其廣袤遙カニ劣レリ北部高原ノ中央ニ
 Beharana ト稱スル凹谷アリ北部ノ諸川概テ皆ナ水源ヲ此附近ヨリ發ス本島第一ノ高山タル「Esatarama 山」モ此地方ニ
 在リ其高サ海拔二、八八三「メーテル」ニシテ Mahavavy 及 Saubirano 兩川ノ分水嶺トス
 Ambre 山脈ハ石灰性ノ地質ニシテ所謂 Windsor-Castle ト稱スル Andramahibe 山及 Dover-Castle ト稱スル Ankarantsa-
 mpana 山モコノ中ニ在リ東方ニ位スル Montagnes Francaise (佛蘭西人ノ山ノ義)ハ石灰石及鎔化石ノ凸起ニシテ長サ
 一五「キロメーテル」(約我三里四分ノ三)ニ廣カリ海拔殆ト四〇〇「メーテル」トス Ambre 群山ハ太古ノ火山ニシテ一、
 二〇〇「メーテル」諸峯アリ此群山ヨリ高原ハ次第ニ低下シテ海ニ至ル Sakarany, Mahatsingo, Sanrazo 及 Anandriano-
 fanjave ノ高原此間ニ在リ
 本島ノ中央ニアリテ南北ニ走ル山脈ハ概シテ兩面ノ傾斜ニヨリテ高山高原ヲナス而シテ兩面ノ土質、外觀及廣袤各相同
 シカラズ
 東方ノ傾斜ハ高原ト土質ヲ同ウシ地形凹凸甚ダ多ク幾條ノ石壁所々ニ切斷シテ懸崖深谷ヲナス印度洋ト中央高原トノ間
 ニ在ル一帯ノ長山脈ハ海岸ニ始リテ次第ニ隆起ス此山脈ト高原トハ並行セズ北方ニ於テハ兩者ノ間隔甚ダ廣ク南スルニ

從ツテ次第ニ狭少トナル Sihanaka ノ流域 Alaotra 湖並ニ Mangoro 河ノ流下スル二〇〇「キロメーテル」許リ(約我五十
 里)ノ流域モ皆ナ此間ニ在リ

西方ノ傾斜ハ前者ニ反シ原野廣漠幾層ノ平原相次イデ下リ遂ニモ「ザンベツク」海峡ニ入ル一帯皆沈澱地層ニシテ西極端
 ノ地質ヲ比スルモ頗ル相酷似ス地層モ皆平タクシテ萬望一律ナルガ故ニ旅客一タビ此處ニ至レバ變形ノ地方ヲ離レタル
 ヲ覺ユ土壤起伏ノ狀態モ亦全ク中部及東部ト同ジカラズ丘、山ノ中央椰子林ニ圍マレテ圓滿ナル高原アリ雜草鬱トシテ
 之ヲ蔽フ此平原本島全幅ノ五分ノ二ヲ占ム中央高原ト海(「モザンベツク」海峡)トノ中央ニ南北ニ走ル一帯ノ山脈アリ其
 高サ平均四〇〇「メーテル」其幅約二五「キロメーテル」(我六里餘)ニシテ Saint-André 岬ニ近キ Anobihovy 山ニ起リ南
 ニ走リテ Malakaly 地方ノ Isalo 群山及 Maropataugo 山ト連接ス
 本島南部モ概テ平坦ニシテ獨リ東方ニ稍々高キ諸山アルノミ而シテ Fort-Dauphin 附近ニ Andohahelo 山アリ海拔一、九
 八〇「メーテル」トス此地方ノ諸川皆ナ水源ヲ此附近ニ發シ山脈モ此所ヨリ分レテ數支脈トナル其高サ 八〇〇乃至一、九
 〇〇「メーテル」トス Fort-Dauphin 州ノ中央ニシテ Androy 州ノ北ニ當リ太古ノ火山アリ其噴火口ハ直徑三〇「キロメー
 テル」ニシテ現時ハ蹄鐵形ヲナシ中央ニ Volisombe 山ノ諸峯アリ鎔化石質ニシテ其高サ七、〇〇〇乃至八、〇〇〇「メー
 テル」ヲ算ス火口ノ周邊ハ凸凹起伏シ Mandrare 及其支流ノ若干ハ源ヲ此處ニ發ス

第三節 地質

上述ノ如ク「マダガスカル」島ノ地形ハ山嶽中央ニ連亘シ東方一帯山多ク西方ハ廣原茫漠タリ而シテ東岸ノ山脈及中央高
 原ハ火成岩ニヨリ形成セラレ西方一帯ハ水成地層トス
 合島地帯

「マダガスカル」島ニ於テ結晶塊ヲ含有スル地帯ハ即チ本島ノ山嶽多キ地方ニシテ結晶塊ハ原始岩(Rocks primitives)古
 第一章 概説

代迸發岩(Roches éruptives anciennes)及噴出岩(Roches volcaniques)トス
 原始岩(Roches primitives)原始土(Archéen)トシテハ片麻石アリ此片麻石ハ屢々雲母片石(Micaschiste)及花崗石(J Granite)ト重ナリ一層ヨリ次第ニ變化シテ他層トナリ各層ノ區別明カナラス本島ノ片麻石ハ間々副成分トシテ自然金ヲ含有スルノ特性アリ又屢々Granulites(柘榴石ヲ抱有スルモノ)ノ形ヲナシ其組織ハ葉狀若クハ花崗石様ヲナス是等ハ往々ニ磁鐵、角閃石(Amphibole)輝石(Pyroxène)綠泥石(Chlorite)「チルモン」(Zircon)等ヲ含有ス概シテ其變質甚シキカ故ニ花崗石ト片麻石トヲ區別シ難シ

花崗石ハ普通黑色ノ雲母ヲ有ス即チ通常ノ花崗石ナリ白雲母ヲ有スル花崗石ハ少ナシ雲母片石ハ片麻石ト同様ノ利益ヲ呈セサレトモ石英類ハ往々金ヲ含有スルコトアリ本島ノ原始土ハ「Gipps」(綠色大理石)ヲ有ス即チ透明ナル石灰石ニシテ石灰石トシテ又大理石トシテ使用セラル「Fingonay」山ノ南側及Acaes湖附近ニ之ヲ産ス花崗石、片麻石及雲母片石ノ分離ニヨリテ「Lathie」(鐵分ヲ含有セル凝土)ノ厚キ地層ヲ外面ニ形成ス含品地帯ノ一體ニ赤色ヲ呈セルハ即チ之ナリ「マダガスカル」島及其他多クノ熱帶國ニアル此紅色ノ凝土ハ溫帶地方ニ於ケルカ如ク鐵分ヲ含有スル普通ノ粘土(Silicate of alumine 珪酸礬土)ニ非ス礬土及鐵ノ水化物ニシテ「アルミニウム」ヲ含有スル「Pauzie」ト稱スル土壤ノ類ナリ屢々磁鐵礦ヲ含ミ時ニハ金ヲ含有スル石英類ノアルハ即チ是等片麻石系中ナリトス又時ニ高嶺土(Kaolin)若クハ磁器用土壤ノ堆積ヲ見ルハ片麻石及花崗石中ニアル長石(Feldspats)ノ分解ヨリ來レルモノナリ
 「古代迸發岩(Roches éruptives anciennes)」
 「マダガスカル」島原始土中ニハ古代迸發岩ノ鑛脈多シ石英ハ屢々金分ヲ含有シ多様ノ變種アリ即チ眼鏡ニ使用シ得ヘキ大ナル水晶、紅水晶、燧石水晶、乳色水晶、透明美麗ナル紫水晶之ナリ
 偉品花崗石(Pegmatites)ハ大ナル結晶岩ニシテ花崗石ト同成分ヲ有ス「マダガスカル」島ニ於ケル寶石ノ多數殊ニ紅電氣石(Tourmaline)ハ由來ヨリ偉品花崗石中ニ在リ Ambatolohangaニ近キ「Iasy」湖邊ニ産スルモノハ「Amazon」石ニシテ美麗ナル綠色ノ薄片ナリ

本島ノ東岸ニ於テ花崗石及片麻石屢々綠石(Diabase)又時ニハ「Opinique」ヲ含有ス
 最モ明白ナル迸發岩ハ黒花崗石(Syenites)ニミテ黒花崗石ニハ其普通ナルト Oegirins 若クハ Nephelines ノ黒花崗石ナルトアリ

斑縞石(Gabbro)多ク Gabbro's hypoxenites 石ヲ Alouata 湖ノ附近ニ産ス
 古代迸發岩ノ重ナルモノトシテハ右ノ外 Amphotera 附近ナル Valozoro ノ「ニッケル」脈(Garnetite)ニミテ此鑛ハ「Therzonite」ノ變形ヨリ來レル蛇紋石「Serpentine」中ニ在リ「ハロン」氏ノ調査ニ據レハ蛇紋石ハ本島諸所ニ産スト云フ

噴出岩(Roches volcaniques) 原始土及沈澱土ハ花崗石、玄武岩(Basalt)粗面石(Trachyte)ノ數多ノ破裂ニヨリテ凸起シタリ本島ノ諸所ニ現出スル玄武岩及粗面岩ハ「Iaerina」州ノ南部ノ Antkaratra ノ山脈及 Ivohimbé 群山ニ見ルカ如ク著大ナル岩量ヲ構成シ居リ「Garnier」氏ガ本島ノ南部 Manambia 地方ニ見タルモ略々同一ノ岩量アリト云フ

熔岩(Lave)ノ存在ニヨリテ今猶ホ Basalt, Antkaratra, Tasy 湖及 Antsirabe ノ附近ニ久シカラサル以前ニ火山ノ噴出アリシコトヲ認ムルヲ得諸地點株ニ Ranomafana, Antsirabe, Isira 其他ニ鑛泉アルモ亦火山ノ遺物タルヲ證ス
 本島ノ火山ノ發出ニヨリテ二種ノ岩石ヲ生セリ一ハ黑色ニシテ一ハ淡薄ノ色ナリ前者ハ組織中橄欖石(Olivine)ヲ有セサレハ曹灰長石(Labradorite)トナスヘキ各種ノ玄武岩ニシテ後者ハ「Belady」ニアル分解シタル玄武岩ノ如ク自然銅ヲ含有スルモノナリ

火山岩ニシテ色ノ半濃厚ナルヲ富士岩(Aulakite)粗縞ナル白色ノ粗面岩及明礬ヲ發スル鑛岩(Phonolite)トス而シテ東方海岸ニ見ル白色富士岩性ノ浮石ハ波浪ニ打寄セラレタルモノニシテ「Lacroix」氏ノ説ニ據レハ一八八三年 Krakatau ノ大噴火以來ノモノナリト云フ

水成地方
 此地方ニハ第一第二第三紀ノ地層及新生紀ノ地層アリ

第一紀地層(Terrains primaires) 概スルニ水成地層ハ「モザンビーク」海峽ニ接近スルニ從ツテ地層系ハ次第二高マレリ即チ最古ノ水成岩ヲ見ルハ中部高原ノ邊端(Bongolara)一帶地方トス現時未タ志留利亞紀若クハ泥盆紀(其ニ第二古世代ニ屬ス)ニ屬スルモノアルヲ知ラス又今時「マダガスカル」島ノ間々見ル石盤片石及「Hyllade」未タ何レノ時代ノモノナルカヲ知ラス

第二疊紀層ハ第三疊紀層ト混シ北東ヨリ南西ニ亘ル一、四〇〇「キロメートル」餘ノ長サニ廣カリ「ノッヂベ」島ニ對スル Ankaravohé ニ於ケル炭脈ノ露出及 Benentras, Betsily(「Fuhar」附近)間ニアル所謂南西ノ大炭層ナルモノ皆此中ニアリ北西ニ於テ地質調査ハ行ハレタリ然レトモ此調査ハ炭脈ノ存スル深サニ達セザリシカ如シ南西地方ニ對シテハ一九一〇地質調査ヲナシタリシカ其内見込アル炭層ニシテ厚サ二「メートル」半ニ及フモノアリタリ地層ノ全部ハ露出部ニ於年テ灰一八乃至二〇%ヲ含ミ石炭四「メートル」ノ厚サヲ表ハセリ而シテ此炭ノ有スル熱量ハ四、五〇〇乃至六、五〇〇「カロリー」トス

第二紀地層(Terrains secondaires) 合品地帯ニ沿ウテ一帯ノ縁ヲ形成ス其成分ハ圓礫石(Conglomerats)砂石(Gras)及第二疊第三疊兩紀ノ片岩(Schistes permotrisiques)トス

本島ノ黒侏羅層(Lias)(侏羅紀層ノ下部)ハ佛國ノ黒侏羅層ノ如ク化石ヲ含有ス此層ハ佛國南部ノ(Conges)(石灰質ノ高原)ノ如ク高原ヲ形成シ Saint-André 岬ノ合品地層ノ上ニ第二疊三疊兩紀ノ砂岩(Gras permotrisiques)ナル中間層ヲ隔テ、存在ス

「マダガスカル」島ノ沈渣地層ノ基ヲナス葉狀砂岩(Gras-schistes)ノ成立時代明カナラサルモ Nosy-Bé 及 Ampasindava 灣ノ炭層ノ附近ニアル地層ハ體カニ第三疊紀以後ノモノナリ蓋シ Donville 氏ハ、ニ上部黒侏羅層ノ Ammonite(化石シタル貝殻ノ一種)ヲ認メタレハナリ夫レ然レトモ此理由ニヨリテ合品地帯ノ縁ニアル一切ノ粉碎岩ハ石炭紀以後ノモノナリトハ勿論第三疊紀以後ノモノナリトタニモ論斷スヘカラス如何トナレハ南西部 Benentras ニ於テ Colanap 大

尉ハ Labyrinthodonte Stéocéphale (水陸兩棲類ノ一種)ノ腮ヲ發見シタレハナリ而シテ Poule 氏ノ説ニヨレハ之ハ第二疊紀ノモノナリト云ヘハナリ

侏羅紀層ノ中部及上部ハ同時代ニ於ケル歐洲ノ土質ト同シク化石ヲ混シタル石灰岩泥灰岩トス
白堊紀ニ屬スルモノハ少クトモ本島ノ北部ニ於テ完全ニ存在スルコトハ P. Lemoigne 氏ニヨリテ論證セラレタリ

第三紀地層(Terrains tertiaires) 第三紀地層カ本島ノ東西兩岸ニ存在スルコトハ表證セラレタリ今此事實ト東部地方ニ第二紀地層ヲキコトヲ對比スレハ第三紀ニ於テ一大陸(今ハ存在セザル)ノ一部分タリシコトヲ推論スルヲ得ヘシ此大陸ト分離シタルハ第二紀ノ後ニシテ此分離ニヨリテ「マダガスカル」ハ島トナリ第三紀ノ海水其周圍ヲ洗ヒタルナリ

Gardier 氏ハ西部地方ニ於テ若干ノ粘土層ヲ發見セリ然レトモ此中ニハ何等ノ化石モナキカ故ニ此地層ハ何時代ノ地層ナルカヲ決スル事能ハサレトモ侏羅紀ノ砂岩及白堊紀ノ石灰岩ヨリハ新シキモノ、如ク其狀態ニヨリテ判スレハ第三紀ノ海水ニヨリテ打チ寄せラレタルモノナルヘシ其色ハ甚タ鮮カニシテ礫石ヲ混セリ同氏カ Ankavandra ノ北西六〇「キロメートル」ニ特徴明カナル瀝青鑛泉ヲ發見シタルモ此粘土層中ナリトス Colanap 大尉ノ研究モ「Tulcar」ノ南二〇〇「キロメートル」餘及 Sainte-Marie 岬ニ至ル迄コノ地層アルコトヲ論證セリ

第四紀地層(Terrains quaternaires) 「マダガスカル」島新生ノ鑛床ハ古代近代ノ沖積層湖沼鑛床及水蝕蝕ノ岩礁ニシテ此地層ハ帯ノ如ク本島ヲ一周ス

第四節 河川

本島河川少ナカラス然レトモ山嶽多キヲ以テ奔流激流トナリ懸瀑飛泉トナリ幾多長短ノ流域ニ分割セラレ川流ノ大部分舟行ニ便ナラス故ニ源ヲ Imenina 州ノ中部地方ニ發スル Mangoro, Betsiboha, Ilopa, Mangoky, Onihary ノ如キ深流アルモ海岸トノ交通甚タ困難ナリ

水流ノ分配ハ簡單ニシテ東流シテ印度洋ニ朝スルモノト西流シテ「モザンビック」海峡ニ注クモノトノ二種アルノミ
印度洋方面ハ高原ヨリ海ニ至ル傾斜急ナルカ故ニ水流モ長カラス皆ナ急流ナリ此方面ノ重ナル河川ハ Bodo 河 Lokai 河
南北 Betsimiskara 兩州ノ境界線ヲナス Bemarivo 河 Lokolo 河 Maroantsetra ヲ於テ Antongil 灣ニ注ク Antananarana
河 Alaotra 湖ノ流口 Manigory 河 Onibe 河 Tananave 港ノ北一六「キロメートル」ニ河口ヲ有スル Ivoloia 河 Noey-ve
湖ノ流口ニシテ水底所々ニ凸起ヲ有シ低水ニハ舟行ヲナシ能ハサル Ivondrona 河 Ronga, Jaroka ノ二流ヲ合セ Ando-
vranio ニテ海ニ注ク Volina 河及 Valohandy ニテ海ニ注ク Sakalina 河アリ

以上諸川中最モ長キヲ Mangoro 河トス其長サ三〇〇「キロメートル」源ヲ Ambohimanjaka 附近ニ發シ先ツ北ヨリ南ニ
向ツテ流ルハ「ロト」二〇〇「キロメートル」トス上流ハ巨岩屢々路ニ塞カリ幾多ノ天然水堰ヲナシ舟行スヘカラス唯 Belan-
deny ヨリ河口 Malanoro ヲ至ル三〇「キロメートル」間ハ航行スルヲ得ヘシ其重モナル支流ヲ Onive 河トス
其他 Salaeona 河ノ急流ナレトモ獨木舟ナラハ航行シ得ヘキ Mananjara 河奔流激流多キ Namorona 河 Rinnana 河 In-
laka 河中部高原ノ南側ヨリ來ル諸川海岸山脈南部ノ西側ヨリ來ル諸川ヲ集ムル Mananara 河 Manambato 河 Manarabo-
ndro 河 Mandrave 河 Manamboro 河等ナリ

遙迄トシテ東方ノ傾斜ヲ流ル、諸川ハ直チニ海ニ注カス印度洋ノ狂濤ハ東岸ヲ打撃シ打寄スル砂礫ハ河口ニ水堰ヲ作り
纖弱ナル水流ヲシテ之ヲ打破シ能ハサラシム弱流コ、ニ於テ出所ヲ失シ海岸山脈ト海トノ中間ナル砂礫ノ南北ニ廣カク
停滞シテ湖水ヲナス而シテ是等ノ湖水ハ砂石ノ地峽ヲ隔テ、兩々相隣ス斯ノ如クナルカ故ニ Sainte-Marie 島ヨリ Mat-
tanana ニ至ル六〇〇「キロメートル」間ノ諸川殆ト皆ナ此湖水ニ注入ス此湖水ノ間ニ在ル砂土ノ地峽ヲ土語 Pangalana ト
稱ス「バンガラ」ト開鑿セハ數湖ヲ連結シテ航路ヲ開キ運輸ニ便スヘシ Tanakave 港附近 Ivondro ト Andovoranto ト
ノ間ノ諸湖ヲ連結シテ「バンガラ」運河(Canal des Pangalanes)ヲ開キタルハ即チ此「バンガラ」ヲ開鑿シタルモノ
ニシテ亞細亞、亞弗利加兩洲ノ間ニアル蘇西運河モ幾多ノ湖水ヲ連結シテ印度洋ト地中海トヲ接續シタルモノニシテ

兩者頗ル其趣ヲ同ウス

本島ノ西方斜面ニ於テハ諸川源ヲ遠山ニ發シ其流域長シ獨リ北方ニ於テハ海岸大山脈ニ近ク長流ヲ存セス西方ノ諸川東
方ノ諸川ニ比シ流域長キモ航行シ得ル部分ハ甚タ多シトセス左ニ重モナル諸川ヲ列記セン

Mananjamba 河ハ源ヲ北部高原ノ北斜面ニ發シ同名ノ灣ニ入ル
Sambirano 河ハ河口ヨリ Rambahana 河ト合流點迄航行シ得ヘシ
Antsinjanorona 河ハ三支流ヲ合シテ Loza 灣ニ入ル Soda 河ハ急流瀑布多ク其支流ヲ Bemarivo 河トス Mahajamba 河
ハ源ヲ Mangoro 河源ノ附近及 Alaotra 湖ニ發シ流域三〇〇「キロメートル」ニ亘リ Betsiboka 河ト彷彿ノ長流ナリ然レ
トモ航行距離ハ之ニ及ハス幾多ノ激流航行スヘカラサルモノ相承ケテ河口、四〇「キロメートル」ノ地點ニ達ス支流四川
來リテ之ニ合ス

Betsiboka 河ハ Manjakandriana 附近ヨリ來ル Mananara, Jabo 二川ノ合流シタルモノニシテ後チ更ニ分レテ四流トナリ
共ニ Bombetoka 灣ニ注ク Majunga 港ハ此灣頭ニ位ヌ流域三二〇「キロメートル」 Mangoro 河ニ次キ本島ノ大河トス河床
ハ土砂堆積シ易ク出水量ハ高低常ナシ上流ニ瀑布激流アリテ航行シ得ヘキ Maevatanana 以下トス左右ノ支流少ナカ
ラス左方ヨリ來ル Ikopa 河ハ、四〇〇「キロメートル」ノ長流ニシテ源ヲ岩山 Angavokely (海拔一、八一〇「メートル」)
ノ北方ニ發シテ首府 Tananarive ヲ半周シ Ankomoro ヲ於テ Betsiboka 河ニ入ル Ikopa 河ハ激流多ク航行スヘカラス
而シテ其流域長キカ故ニ支流少ナカラス

Mahavavy 河ハ Kinkony ト稱スル大湖ヲ形成セリ Saloumy 河ハ河口ヨリ二〇「キロメートル」ノ上流迄航行シ得ヘシ本
川ハ Antsirgy ノ森林ヲ貫流スルヲ以テ木材商業ニ便宜ヲ供スル少ナカラス Marambolo 河ハ急流瀑布ヲ有シ流域三〇
〇「キロメートル」ノ長キニ及ヌ Mania 河一名 Tarihina 河ハ幾多ノ支流ニヨリテ Ankaratra 群山ヨリ出ツル水量ノ大
部分ヲ收容シ Tsimanandrafozana ヲ於テ海ニ注ク Morondava 河ハ源ヲ Bemarivo ノ北部ニ發シ Morondava 市ノ附近ニ

於テ海ニ注ク Mangoky 河ハ多クノ支流ヲ有シ「マダガスカル」島ノ大河ノ一ナレトモ航行ニ便ナル所ナシ Onihaly 河ハ南ヨリ北ニ流レ夫ヨリ幾多ノ屈曲ヲナシ逶迤トシテ Saint-Augustin 灣ニ入ルニ三噸ノ獨木舟ヲ以テセハ河口ヨリ Bata-dira 迄航行スルヲ得ル

上記ノ諸流就中 Betsiboka 河 Mania 河 Mangoky 河ハ廣大ナル三角洲ヲ造リ Palauvier 樹(其樹皮ヲ鞣皮料ニ用ツ)叢生ス而シテ其下流ハ概ネ Bongo-Lava 山脈迄ハ舟行ニ適ス

湖流ハ上流數里ノ地點迄上リ來リ二三十里ノ間小舟ノ航行ニ便ス Betsiboka 河ニハ Majunga 港ト Maevatanana トノ間ニ定期氣船ノ便アリ

「マダガスカル」島ニハ湖沼多シ中ニ就キテ重モナルモノヲ舉ケレハ二〇〇「キロメートル」平方ノ面積ヲ有シ大廣原ノ傍ニアル Alaotra 湖長サ二三「キロメートル」ノ Itasy 湖 Bombetoka 灣ニ近キ Kinkony 湖及 Tsimanampetsota, Thoby ノ兩鹹水湖トス

第五節 氣候及氣象

「マダガスカル」島ノ氣候氣象ハ南半球ノ同緯度ニアル諸國ト酷似ス本島ハ南緯二二度五七分ト二五度三八分トノ間ニ位シ殆ト皆熱帶圏中ニ在リ熱帶國ノ特性トシテ本島各地ニ認ムル所ハ一年カ判然ニ氣候ニ分ル、事ナリ即チ暑クシテ濕氣多キ時季ト寒クシテ乾燥セル時季トアリ溫帶地方ニ於テハ暑キ時節ハ乾燥シ寒キ時節ハ濕氣多キヲ常トシ正サニ前者ト相反ス

北部ハ赤道ニ近キカ故ニ他ノ地方ニ比シ暑氣遙ニ強シ此地方ニ於テハ二氣候判明シ十二月ヨリ四月迄ハ暑クシテ濕氣多ク五月ヨリ十一月迄ハ寒クシテ乾燥セル此夏季ヨリ冬季ニ變移スル時ハ風向ノ變轉スル時トス乾燥期中ハ南東ヨリ來ル季節風強ク東岸ヲ吹キ夏季中ハ東風稀レニ降雨多ク屢々暴風アリ此期間寒暖計ハ二〇度ヨリ三二度ノ間ヲ昇降シ乾燥期

ハ一八度乃至二九度ニ下ル高地ニ上ルニ從ツテ寒氣次第ニ増加シ Ambre 山ニ上レハ溫度ハ「Diego-Suarez」ヨリ八度乃至一〇度少ク乾燥期中更ニ寒シ

東岸ノ南緯一五度ヨリ Mananara 河口ニ至ル間ハ全ク暑中濕氣多キ地方ニシテ溫度ノ激變ナク日中ノ溫度ノ差ハ四五度ニ過キス夜間モ一〇度ノ差ヲ生スルコト稀ナリ Tamatave ニテハ日陰ニアリテ日除ケ風除ケヲ有スル寒暖計(攝氏)ノ示ス所暑キ季節ニハ最高三五度平均二七度最低一六度ニシテ晴雨計ノ平均氣壓ハ七六三「ミリメートル」トス

東岸ノ地方ハ年中降雨アリ乾燥濕潤ノ兩季節ハ他地方ノ如ク判然セス而シテ事實上コノ地方ニハ二様ノ氣候アリ「Dahab-Oudrazaka」ノ如ク溫帶地ノ氣候ニ似タル高原ノ氣候及暑クシテ濕氣多キ海濱ノ氣候ノ二ニシテ後者ノ雨季中ハ歐洲人ノ苦シム所トス

南部地方ハ暑クシテ乾燥セル Fort-Dauphin ニ於ケル溫度ハ平均二三度最高二七度最低一八度ニシテ濕度ハ百分ノ七八ニ達ス之ニ反シ内部 Androy ノ高原及 Mahataly 地方ニテハ數月ヲ隔テ、稀ニ降雨アルニ過キス

西部地方ハ氣候暑ケレトモ濕氣ハ東部地方ニ比スレハ遙カニ少ナシ降雨量少ナク二季節ノ區別明カナリ十月ヨリ四月迄ハ暑クシテ雨多ク五月ヨリ九月迄ハ寒クシテ乾燥セル Madagascar ニテハ雨量計中ニ集メタル水量毎年「メートル」一四五ヲ超エタルコトナシ「Falan」ニテハ雨季中濕度百分ノ七十乃至七十五ニシテ乾燥季中ハ百分ノ四十四トナル氣壓ハ地方ニヨリテ異ナリ最モ乾燥セル季節ニハ七六一乃至七六六「ミリメートル」ニシテ雨季ニハ、七五八「ミリメートル」ニ下ル概シテ西岸ハ東岸ニ比シ暑氣強ケレトモ却テ健康ニ適セリトス

中部高原地方 Tananarive, Ankazobe, Itasy, Vakinankaratra, Ambohitra 及 Fianarantsoa ノ諸州即チ Fitynyne 及 Petaileo 兩地方ハ全島中最モ健康地ニシテ全然熱帶圏内ニ在レトモ高地ナルカ故ニ氣候ハ比較的溫和ナリトス此地方ニテハ氣候ノ區別明カナシテ乾燥期ハ四月ヨリ十一月ニ亘リ溫度ハ八度ヨリ二十三度ノ間ヲ昇降ス絶エス吹キ來ル軟風モ此季節中

ハ猛烈ナリ寒暖計ハ時ニハ零度ニ下リ屢々地上降霜ヲ見山嶺白雪ヲ見ル雨季十一月ヨリ四月迄ハ温度十二度ヨリ三十度ニ上ル十二月二月ノ三ヶ月ハ通例雨多ク風モ屢々來リ頗ル猛烈ナリ高原ニテハ温度ノ變化著シテ一日中五度乃至二十五度ノ差ヲ生スル事アリ首府 Tananarive ハ海拔一、四〇〇「メートル」ノ高地ニシテ平均温度ハ攝氏一七度七分

風。マダガスカル島ニ於ケル風ノ方向ハ地勢自然ノ影響ニ從テ而シテ此自然ノ影響ノ最モ大ナルハ山多キコト之ナリ東方ノ斜面ハ四月ヨリ十月迄南東ノ季節風吹キ此風ハ Diego-Suarez 及 Cap d'Ambré ニテハ涼風トナル Volcanar ヨリ微風ハ軟和シテ東風トナリ南方ニ赴クニ從ツテ北風トナリ Fort Dauphin ニテハ北東風トナル十月ヨリ四月迄ハ北風及北東風多ク此風ハ熱氣ト濕氣トヲ含ム此時ハ即チ雨及嵐ノ季節トス西岸ニテハ Cap d'Ambré ニ近ツクニ從ヒ風向ニ轉北方ニ向ツテ吹キ來ル

氣象臺及測候所

Tananarive ノ氣象臺ハ市ノ東方 Ambohidampora 山上ニ在リ一八八九年「カンリック」教ノ布教師 P. Colin 氏ノ創設ニカ、リ一八九五年佛國ニテ本島ヲ占領セシ際「マダガスカル」王朝ノ命ニヨリ此建物ハ破壊セラレ一八九八年再建セラレタリ此氣象臺ハ經濟上自治ニシテ左記一切ノ事項ヲ研究ス

- 天體理學 (Astronomie physique) 測地學 (Géodésie)
- 氣象學 (Météorologie) 重 力 (Pesanteur)
- 地球磁氣 (Magnétisme terrestre) 及 地震 (Mouvement sismique)

測候所ハ全島ニ配置シテテ天氣豫報所及農事測候所ノ二種トス天氣豫報所ハ、東岸ニ九ヶ所、西岸ニ七ヶ所、中央ニ七ヶ所トス農事測候所ハ雨量計、寒暖計(最高最低)ノ設備アリテ三十七ヶ所ヲ數フ而シテ天氣豫報ハ「タナ、リッ」氣象臺ニ集リ農事測候報告ハ總督府殖産部(Service de Colonisation)ニ集ル

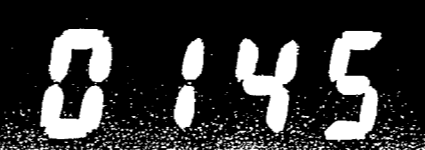
第六節 旋風 (Cyclones)

旋風トハ大量ノ空氣ガ一中心點ノ周圍ヲ激シク旋回シ此中心點自身モ旋回スル空氣ヲ伴ヒ拋物線形ノ曲線ヲ畫キツ、移動スルヲ云フ實驗ノ教フル所ニヨレハ此現象ハ太陽ノ存スル半球ニノミ出現ス從ツテ南半球ニ於テ恐ルベキ旋風ノ起ルハ九月二十一日ヨリ三月二十一日迄トス此期間赤道ノ南ニ在ル印度洋ニシテ南緯五度ヨリ三〇度ノ間又 South 島ト亞非利加海岸トノ間ニ位スル部分ニハ絶エス旋風發生シ若クハ進行スト云フヲ得ヘシ此旋風ハ一般ニ海上ニ發生シ直チニ西南西ノ方向ヲ取り夫ヨリ南及東南東ノ方向ニ轉シ拋物線ヲ畫キテ南緯三〇度ト三五度トノ間ニ在ル地點ニ入りテ消ヒス其廣サト厚サトハ一定セザレトモ直徑ハ初メハ、一八〇乃至三六〇「キロメートル」ニシテ中心ノ移動スル速力カ一時間五乃至二五海里旋回スル風ノ速力ハ一時間八〇乃至一二〇海里ニシテ一六〇海里ニ達スルコトモアリ

旋風ノ來ル前概ネ特有ノ前兆アリ四五日前卷雲(Cirrus)ト稱スル白色ニシテ薄キ幾多ノ小雲現ハレ日出目没トモ太陽ハ大キク見エ黄色、血赤色、淡綠色ノ如キ恐ロシキ色ヲ呈シ星光朦朧トナリ寒暖計ハ前數日ノ平均温度ヨリ一二度上リ沖ノ禽鳥地上ニ來集ス

旋風ニ對シ豫備ヲヘキ事ハ海岸ニテハ小舟等ヲ地上ニ引上ケ出來得ル限リ海ニ遠キ處ニ置ク事海上ノ船舶ニハ出帆シ得ル機若クハ特別必要ナル準備ヲナサシムル事、屋根及建物等暴風ニ堪ヘ得ル機充分ニ修理シ置ク事、堅牢ナラサル小屋ニ居ラス事、入口戸窓等モ充分取締リ家屋ノ周圍ノ樹木等ニシテ風ニ倒サレ危害ヲナス憂アルモノハ豫メ之ヲ伐截スル事暴風ノ爲メ交通遮斷セラレ或ハ水害(一九〇二年ノ暴風ノ時或河ハ數時間ニシテ十二「メートル」ノ増水ヲナセリ)ヲ被ル等ニ慮アレハ各自食物ト燈光トヲ用意スル事等トス

第七節 森林



「マダガスカル」島ノ森林ハ約一〇、〇〇〇、〇〇〇「ヘクタール」我一〇、〇〇〇、〇〇〇町歩餘）ニシテ全面積ノ二割ヲ占ム此森林ハ各地平等ニ分配セラレ、ニ非ス一帯山系ヲ周ル其深サ其樹質所ニヨリ同シカラス東方斜面ノ森林地帯ハ殆ト間断ナク Diego Suarez ヨリ Fort-Dauphin ニ達ス東部ノ大森林ト稱スルハ即チ此地帯ニ在リテ Vohémar, Maroantsetra, Tananarive, Andovorato 諸州ノ大部ニ亘リ鬱蒼タル密林ヲナシ海岸ヨリ分水界ニ及フ夫ヨリ海岸ニ沿ツテ南下シ長サ、一〇〇「キロメートル」約我二五里幅五〇乃至一五〇「キロメートル」ノ地區ヲ蔽フ

是等森林ハ熱帯ニ普通ナル巨木密樹ノミニハ非スシテ亦珍稀ナル種類即チ黒檀(Ebène) Bois de rose, Palissandre (紫香木ノ一種) Acajou(桃花心木)各種棕櫚樹、護謨樹、齒朶、蘭等ヲモ含メリ

海岸山脈ノ東斜面ニ於テハ多數ノ森林各地ニ散點ス往時ハ更ラニ膠シカリシカ土人ノ燒拂ヒタルモノ多キカ爲著シク減シタリ

西部及北西ノ森林ハ鬱蒼トシテ黒檀樹及工業用木多シ南部 Nandry 灣ヨリ Saint-Augustin 灣ニ至ル海岸一帯ノ森林ハ乳液液ヲ生スル植物多ク又 Euphorbiaceae (大戟科植物)有刺含油ノ植物 Baobab, Nopals アリ之ヲ此地方ノ特有ノ性質トス

森林ノ配置 本島山嶽ノ形成ハ自然ニ森林ノ配置ヲ可配ス高原ノ斜面ニ於テハ同一ノ森林ニテモ之ヲ若干ノ地帯ニ區分スヘシ蓋シ各帯全然其植物ヲ異ニスレハナリ其外觀相類似スルモ其種類全ク異ナレハナリ

一、海岸ハ工業上餘リ有益ニモ非ラザル蘇鐵(Cycas)桑蘭(Pandanus) Valoa 其他ノ細木多ク椰子樹及 Ficus 此地方ニ産ス

二、高地ノ森林ニ比シ良材ヲ有スル小林ハ五〇乃至六〇「メートル」ノ高所ヨリ始マリテ各所ニ散點シ「ato」(其樹皮ヲ染料ニ用ウ)黄色 Tamaris 黒檀樹(海岸ニテハ大木ナレトモ高地ニ上ルニ從ツテ其直徑減少) Hazany (小舟ヲ造

ルニ用ウ) Bois de rose, Acajou, Palissandre, Hinisy 等ノ植物ヲ生ズ

三 上記小林ノ邊縁若クハ林中ノ沼澤ニハ Raphia 樹アリ

四 Ravinala(旅客樹ト稱ス)ハ高度五〇「メートル」ノ處ヨリ二〇〇「メートル」ノ地方迄之ヲ見ル

五 二〇〇「メートル」ノ高地ヨリ大森林アリ高原ノ森林ト殆ト同種ノ大材ヲ生ズ車ノ梶棒ニ用ウル Heatra 白檀樹ノ種類ニテ往時王侯ノ棺ノミニ用キタル Antora 工藝用材 Lalona 白色ニテ腐蝕セザル故ニ杭ニ用ウル Meranaha 色ニシテ紅點アリ指物細工ニ適スル Angavodiana 嵌木細工ニ用ウニキ Varongy 指物細工ノ良材ナル Hinisy 木工ニ便ナル Hazondrano 紫香木ノ一種ナル Voaamboana 鞣皮用材ナル Zalana 黄地ニ黒ノ木理アリテ嵌木ニ良キ Rabo 等之ナリ是等高价ナル木材建築用材ノ外猶ホ護謨ヲ含有スル植物、染料及藥劑ヲ製出シ得ベキ植物モ亦此森林中ニアリ

六 第六ノ地方ハ中部高原ノ谷澤ニシテ第五地方ト同種類ノ木材ヲ生ストモ品質劣レリ但シ建築、木工、指物、製車用材ニハ若干ノ變種アリ

東岸ヨリ來リテ中部高原ニ上ラバ左記ノ觀察ヲナスヘシ

一 高原ノ邊縁ヲナス地方ニハ東岸ニ於ケルカカ如ク榮蘭(Pandanus)蘇鐵(Cycas)及 Valoa ヲ見ス Paléurives (此樹皮ヲ鞣皮料トス)之ニ代リ河岸ニ繁茂シ延イテ遠ク内地ニ及フ此植物ニハ若干ノ種類アリテ其赤色ナルハ建築用材トモナスヲ得ヘキモ其重モナル用途ハ其樹皮カ單寧酸ヲ含ムガ爲メ此酸ヲ利用スルニ在リ

二 第二地方即チ高原ノ崖側ニハ土人ガ小屋ノ建築ニ使用スル Lafaneer (蒲葵ノ一種)材質海綿狀ナルカ故ニ用途ナキ Baobab, Rafia, Ravinala 其他 Voaovohaka, Mahahiba 乳液液ヲ有スル植物、羅望子(Tamarin) Voara 等ノ小木ニアリ

三 第三地方ハ高原トナレル所ヨリ始マリ東岸ト同シ木材ヲ見ル Lalona, Hinisy, Merana, Varongy, Hazondrano, So-

Hisay, Voityaka, Kindro, Maroudra, Tsinahely, Valakomanga, Andrimohy, 等々ナリ

四 此地方ニハ樹木孤立シテ散點シ或ハ谷澤ニ小林ヲナス其植物ハ第六地方ニ同シ此地方ハ中央高原ノ邊緣ニ及ブ本島ノ中部ニ殆ト喬木ナキハ土質ニモ因レドモ年中六七ヶ月間氣候ノ早魃スルニ由ル夫レ然レドモ Antanariaノ山腹ニ多少ノ小森アリ Ambohimanga-du-Sudト Taka トノ間ニ若干ノ密林アリ而シテ最モ樹木多キハ Bessieo地方ノ邊端トス南方ニハ森林ナキモ特種ノ植物アリ即チ全然無葉植物ニシテ Cactus(仙人掌) Aaire coral(珊瑚樹)及 Hisay(大戟科植物)ニシテ謹讓ヲ産ス)之ナリ東部ニ於テハ是等植物ノ存在スル區域判然シ Fort Dauphinノ山嶽ノ西斜面ノ麓ヨリ始マリ西部ニ於テハ珊瑚樹ハ Morondava 附近ニアリ Hisay ハ Table 山ニ至ル迄存在セス蓋シ西岸ニ於テハ南下スルニ從ツテ濕氣雨量次第ニ遞減スレバナリ

以上ノ事項ニ關シテハ E. F. Gautier 氏著 Madagascar Essai de geographie Physique ニ詳述セリ就テ参照ス

第二章 人種及宗教言語

第一人種

最近ノ人口統計(一九一一年六月一日)ニ依レハ「マダガスカル」島ノ人口ハ左表ノ示スガ如ク歐洲人一萬五十餘(此内兵士約三千五百人ヲ含ム)ニシテ白人以外ノ人種(重モニ土人)ハ三百十餘萬ヲ計上セリ

州 名	人口		佛國人		外國人	
	出生	死亡	佛國人	外國人	死亡	出生
Ambiote	30,980	1,255	112	36	3	—
Anladira	12,550	3,580	130	36	1	—
Analava	27,360	7,000	130	33	—	—
Andovoranto	29,280	7,000	130	35	—	—
Antsoabe	35,310	11,200	300	2	—	—
Betroka	14,130	3,000	110	19	—	—

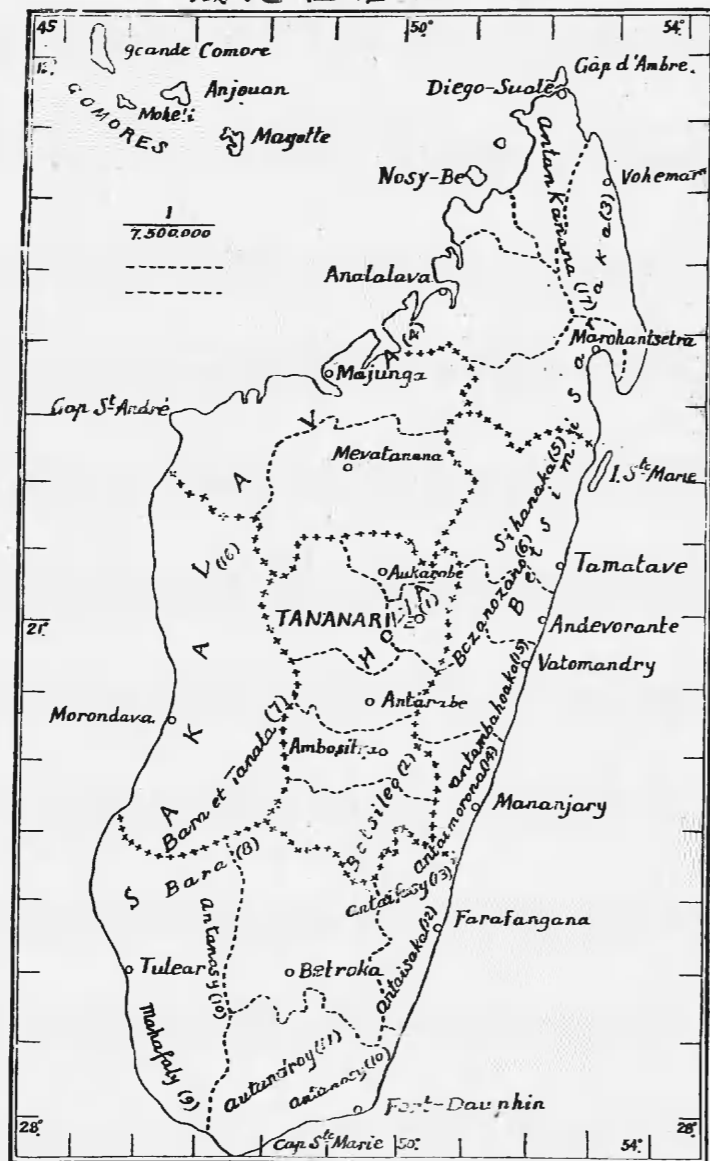
Diogo-Suarez	12,000	3,000	25	10	—	—
Farafangana	27,900	7,000	140	37	—	—
Farafangana	27,900	7,000	140	37	—	—
Fort-Dauphin	33,000	8,500	160	40	—	—
Hisay	120,000	40,000	600	100	—	—
Makassar	100,000	11,000	110	20	—	—
Morondava	200,000	60,000	200	50	—	—
Nosy-Be	100,000	10,000	100	20	—	—
Sainte-Marie	50,000	10,000	50	10	—	—
Tananarive	100,000	10,000	100	20	—	—
Tulear	100,000	10,000	100	20	—	—
Vakinankaraka	100,000	10,000	100	20	—	—
Vakondary	100,000	10,000	100	20	—	—
Vohémar	100,000	10,000	100	20	—	—

歐洲人中佛蘭西人最モ多クシテ一萬三千餘ヲ算シ其他ノ歐洲人ハ英吉利人、諸威人、希臘人、伊太利人、獨乙人、瑞西人等ニシテ其合計二千五百餘佛蘭西人ニ比スレバ五分ノ一ニ及ハス

「マルガツシ」(「マダガスカル」)人ヲ Madagascarト稱ス第一編第一章「地誌名稱ノ部參照」ノ起原明カナラス此點ニ關シテ數説アリ或者曰ク「マルガツシ」ハ由來亞非利加人ニシテ往昔東方ヨリ來レル移民ニ征服セラレ其國語其風俗ヲ強ビラレタルモノナリ而シテ此移民ハ即チ Malayo-Polynesian 群島ノ産ナル Hova 人(本島ノ高原ニ住スル最モ伶俐ナル土人)ナリト此説ハ土人ノ體質研究ノ結果ト一致スモノニシテ此研究ノ結果トハ土人ノ體質ニ明白ナル二様ノ區別アルヲ知り得タル事ニシテ二様トハ亞非利加の體質及亞細亞の體質之ナリ或者曰ク「マルガツシ」ハ亞非利加人ニ非ス Indo-Oc-

第二章 人種及宗教言語

各人種居住地域



第二章 人種及宗教言語

三二七

三二六

Canians 人ノ血統ナリト Grandier 氏ハ耶穌紀元二千五百餘年前 Himalaya, Vinohia 寺ノ山多キ地方ノ印度人ハ Tonan-
iens(即チ Ouralo-Altaique 人ニシテ日本人モ之ニ屬ス)及 Aryens 人ノ襲撃ニ遭ヒ逃走シタル際一部ハ南洋諸島(Oceanie)
ニ逃レシガ一團ハ「マダガスカル」島ニ來リタルモノナラン(「マダガスカル」島ハ亞非利加ト連續シタルニ非ズ印度ト接
續シタリトノ説アリ此説ト互ニ相應援ス)ト云ヘリ「マルガツシ」ト南洋ノ土人ト性質ノ酷似セルモノ多キハ其起原ノ同
一ナルヲ證スルモノ、如シ

夫レ然リ而シテ現今學說ノ一致スル所ハ曰ク「マダガスカル」島古昔ノ住民ノ一部ハ新來ノ馬來人、瓜哇人其他ノ人種ノ
爲メニ征服セラレ此新來ノ勝者ハ更ラニ若干地方ニ其領土ヲ擴張スルニ便セン爲メ中部高原ノ形勝ナル地ヲ撰ミ此所ニ
居ラ定メタルモノナルヘシ爾來雜婚相重ナリ現今ノ相類似セル二十餘ノ雜種ヲ生スルニ至リタルモノナリト今左ニ各人
種ニ就キ略説ヲ試ミン

(一)ホーツ人(Hova)ハ Inerina ト稱スル中央ノ高原ニ住スル民族ニシテ Malayo-Polynesian 人種ノ遺傳性ヲ最モ良ク繼承
ス甚タ伶俐ニシテ同化力強ク又忍耐力ニ富ミ名譽心強ク且ツ業ヲ勵ムカ故ニ此民族ノ増殖ヲ計ルハ馬島發展ノ最重要
事項トス

此人種ハ最モ人口多ク皮膚橄欖黃色ヲ呈シ瘦形ニシテ寸高ク容貌尋常ナリ頭髮縮レヌ又編マス

此民種ハ早クヨリ四隣ノ征伐ニ從事シ王朝ヲ立テ内地ノ各民族及沿海民族ノ大部ヲ征服シタリ約七十五年間同島ニ於
ケル佛國ノ勢力ニ反抗シタルモ此「ホーツ」人ナリ今ヤ佛國ノ庇護ヲ被リ能ク佛國ニ歸依シ居ルヲ見ル

(二)ベチレオ人(Betileo) 又ノ名ヲ「アンドリアムボヒツオムビラヒ」(Andriambolisonbahi)ト稱セシガ今
ハ單ニ「ベチレオ」ト呼ブ蓋シ一八一五年以來「メナベ」王屢々之ヲ征服セントセシモ能ハザリシニ因ル此民
族ノ居住地ハ中央高原ニシテ Inerina 州ノ南ヨリ Dara 州ノ北ニ及ヒ東ハ森林ヨリ西ハ Bongo-Lava ニ亘ルノ區域ト
ス此種族ハ強健ニシテ體格良ク皮膚褐色ヲ呈ス其特性ハ從順ニシテ忍耐力強キ事ナレトモ反面ノ缺點ハ愚鈍、無性ニ

シテ酒ニ耽リ迷信ナル事之ナリ此人種ノミハ未タ嘗テ佛國ノ官憲ニ抵抗シタルコトナシト云フ即チ其從順ナル所以カ
此人種ハ簡易ナル米作ヲ營ミ暇アレハ沈黙安靜ヲ食ル之レ蓋シ其天性ト發達セサル智力トニ適スルナラン

此人種ノ血統ニ關シテハ未ダ定論アラザレドモ諸説之ヲ本島固有ノ土人タルヘシト云フニ一致スルカ如シ概スルニ此
人種ハHovaニ次ク良キ人種ニシテ六年ノ經驗ニ徵スルニ教育モ容易ナルカ如シト云フ人口約五十萬ト聞ユ

(三) ベチマツラカ人 (Beimaraika) ハ東岸 Antongil 灣ヨリ Sakalea 河ノ間而シテ西ハ大森林ノ邊端ニ至ル區域ニ居住
シ若干ノ部落ヲナス概シテ體格良ク高サハ中等ニシテ色ハ黒ク毛ハ縮レ唇厚ク皆下リ鼻扁平ナリトス柔和臆病魯鈍ナ
ルカ故ニ勞働者トシテハ最下等ノ部類トス由來甚ダ不衛生ニシテ深ク「アルコール」及強キ酒類ヲ好ミ各種ノ疾病ニ罹
リ易ク人口次第ニ減少スルノ傾向アリ

(四) サカラヅ人 (Salakava) ハ本島ノ西岸及北西岸一帶ニ廣カリ南ハ Mangoky 河ニ及フ人種ハ同一ナレドモ地方ニヨリ言
語風俗ニ多少ノ變化アリ重モナルモノハ Salakava-Pemihara, Sakalava-Marosaka, Sakalava du Menabe, Sakalava du
Mila 等トス此人種ノ血統モ明カナラサルカ口碑ニ傳ハル戰爭談多シ由來戰ヲ好ミHova人ノ強敵タリ概シテ丈高ク
筋肉逞シク關節細ク獅鼻ニシテ唇厚ク縮毛ヲ縮ミ又ハ玉トナス眼ハ大ニシテ眼光時ニ猛獸ノ如キモノアリ表裏反覆常
ナラス剽掠掠奪等ノ際ニ始メテ才智ヲ表ハスノミ愾意醫ス可ラス自ラ耕耘ヲナサンヨリハ寧ロ林中ニ多キ木根塊根ニ
ヨリテ生活スルヲ好ミ進歩ナル思想ヲ了解セシムルコト甚ダ難ク剽掠兇行ハ生活ノ爲メ正當ナル方法ニシテ詐欺譎計
ハ賞讃ニ價スルモノト確信シ居レリ

(五) シバナカ人 (Shanaka) ハ Alaotra 湖ノ南北ニ住スHova人 Sakalava 人 Paganisakala 人ノ雜種ナルカ故ニ多少變リタ
ル人種ノ一團ニシテ黒色ナル中丈ケノ體格良キ種族ナリ縮髮、狡額、厚唇ヲ有シ口ハ大小區々ナリ「ホーヅ」人「ベチ
レオ」人ニ近似シ殊ニ「ベチレオ」人ニ酷似シ臆病不潔ニシテ懶惰ナリ又頗ル野蠻ナレトモ同化ノ性質ヲ利用スルコト
ヲ得農業牧畜漁業ヲ營シムヘシ巧ミニ蓆ヲ編ミ珍シキ織物ヲ産ス

(六) ザノザノ人 (Zanozano) Andrianampoinirina 王以來昔時ヨリ「ホトヅ」人ニ從屬シ Mangoro 河ノ流域ニ住シ若
干ノ變リタル種族ヲ有ス丈ケ稍高ク體格良ク敏捷從順ナレトモ智未タ開ケス褐黃色ニシテ後頭大ニ額骨高ク下顎發達
シテ顔方形ヲナス男女トモ頭髮ヲ組ミ又球ニシ牛脂ヲ塗ル風俗最モ穩和ニシテ性質無頓着ナルカ故ニ必要ニ迫ラレテ
ノミ勞働ヲナス

(七) タナラ人 (Tanala) 森ノ人 此人種ハ二團アリ一ハ Mananjary 河ノ上流ニ一ハ Fianarantsoa ノ南ニ棲息ス性勇敏林中ヲ
彷徨シテ蠟ヲナシ蜂蜜、塊根或ハ木根ヲ採リテ生活ス智少ナク頗ル懶惰ナリ Paganisakala 人 Zanozano 人 Sakalava
人等ト同シク火ヲ森林ニ放テテ之ヲ燒キ其跡ニ僅少ノ米作ヲナシ收穫後復タ他ノ森林ヲ燒キ米作ヲナスノ惡習慣アリ
山林ヲ亡滅シテ害毒ヲナスコト少ナカラザレハ嚴重ナル取締ノ法設ケラレタリ

(八) バラ人 (Bara) ハ Bezilo 州ノ南西ナル廣漠タル原野ニ占居シ若干ノ種族ニ分カル長ク戰ヲ以テ業トシタリ Bara-Tua-
mono 人 Bara-Be 人 Bara-Manambah 人 Bara-Iraisantes 人 Bara-Ambilouy 人 Bara-Manoungo 人 Bara-Yinda 人等之ナ
リ其性質 Sakalava 人ニ酷似懶惰不規律ニシテ争鬪ヲ好ム

(九) マンナラ人 (Manahaly) ハ北 Oniany 河ヨリ南 Menarandra 河ニ至ル間ニ在リ丈ケ普通ニシテ體格良ク銅色ニシテ獅
鼻厚唇ヲ有シ頭髮ハ概シテ艶アリ隣地ノ Hava 人ト屬々葛藤ヲ起シ剽掠掠奪ヲ以テ善事トナス外國人ヲ信セサレトモ
強ク反抗セシテ佛軍ニ從服セリ一般ニ多ク畜産ヲ有スルカ故ニ其商業ヨク行ハル

(十) アンタナシ人 (Antanasy) 島ノ人 ハ數團ニ分レ各團異ノ小共和國ヲナシ互ニ相争フ丈ケハ普通ニシテ色黒ク體格可ナリ
獅鼻厚唇ヲ有シ眼光アリ天性疑深キモ歐洲人ニ對シテハ惡シカラス「レユニオン」島ノ製糖業ニ此土人ヲ多ク使役シタ
ルコトアリシカ爲メ多少佛語ヲ解スルモノアリ

(十一) アンタンドロイ人 (Antandroy) ハ Menarandra 河 Manihare 河兩間ノ南部ニ住ス體格ハ Malahaly 人ニ酷似シ容
貌猛惡ナル所アリ力強ク勇アレトモ頗ル無感覺ニシテ歐人トノ通商ニヨリテ其生活ヲ改善セントスルカ如キ意思ナク

殆ト智力ノ未タ發達セサル小兒ノ如シ

(十二) アンタインサカ人 (Antaisaka) ハ Isaka 地方ニ住シ Antaiato, Zarataniana, Zafuananga ノ三種族ヨリ成リ人口多ク往時ハ絶エ互ニ争鬪セシカ現今ハ静穩ニシテ勞働者トシテ使用スルヲ得ヘシト云フ

(十三) アンタインアシ人 (Antaisy) ハ海岸ニ住スルヲ以テ此名アリ其血統明カナラサルモ本島固有ノ土人ナルヘシ勤勉ニ多少節儉ニシテ金錢ヲ欲シ少シク道義心ヲ有ス人口多ク東岸一帯ニ多數ノ勞働者ヲ供給シ居レリ

(十四) アンタインモロナ (Antainorona) ハ本島ノ南東岸ニ沿ツテ居住ス亞刺比亞人ノ血統ヲ有シ勤勉ナル土人ニシテ遠ク「タマタグ」又ハ「チエゴ、シムア」ニ迄出稼キヲナシ勞働ヲ索メ賃銀ヲ貯ヘテ故郷ニ歸ル柔順ニシテ虐待ヲ受ケケレハ能ク其業ヲ勤ミ約束ヲ重ンス他ノ人種ト異ナリ此種類ハ後慮節儉ノ念大ニ發達シ佛國 Averago 地方ノ人ニモ比スヘキカ故ニ Averagats de Madagascar ト稱セラル多クハ亞刺比亞語ヲ書ス紙ヲ製出スル事ヲ知り之ニ故事傳説ヲ

記録シテ珍竊ス此人種ハ能ク文明ニ同化スルノ力アルガ故ニ「ボーグ」人「ベチレオ」人ト共ニ本島開發ノ要素トス

(十五) アンタイン、ボアカ人 (Antainbahoaka) ハ Antainorona 人ノ北隣ニ住シ同シク亞刺比亞ノ血統ニシテ其性質善良社交的ニシテ大様ナレトモ其風俗ハ柔順ト野蠻ト相混ス勞働ヲ好マス必要已ムヲ得ザルニ非レハ勞ニ服セス苦業ヲ避ケ連擧ハ其最モ欲セザル所トス

(十六) マシコロ人又ツゼン人 (Mashoro-Yena) 西部及南西部ニ住シ農業ニ従業スル土人ヲ「マシコロ」人ト稱シ同地方ノ海邊ニ住シ安全棒ヲ有スル獨木舟(獨木舟ノ「カニ」形ニシテ)ニテ航海ヲ業トスルモノヲ「ツゼン」人ト云フ兩者共ニ Galalava 人種ナレトモ多少ノヨリ進歩シ居レルヲ以テ開拓ヲ助クル少ナカラス

(十七) アンタインカラナ人 (Antainkarana) トハ北部(南緯十六度)ヨリ Andre 岬迄)ニ住シ多數ハ「サカラグ」血統ナル一團ノ人種ト稱ニシテ Malavavy ノ流域ニ住シ Hova 人 Painsimarakha 人其他ノ雜種ナルモノヲ「チミヘチ」人 (Tsimihety) ト稱ス「チミヘチ」人ハ「サカラグ」人ヨリハ勤勉ニシテ農業牧畜ニ従事シ性質柔順ナレドモ元氣アリ飲食ヲ節制スルハ

實ニ其美德トス此ノ如クナルガ故ニコノ人種モ將來有用ノ人種タルニ至ルヘシ
上來列記シタル人種ハ各々分族支族アリ其數甚タ多ク一々掲載スルニ違アラス

第二言語

各地ノ用語多少ノ差異アリ甚シキニ至リテハ土人間互ニ相解セザルコトアリ然レドモ各方言共ニ語原同一ニシテ一方言ニ通ゼバ容易ク他ノ方言ヲ解スルヲ得ヘク歸スル所全島ヲ通シテ言語ハ一種類ナリ

馬島語ハ異リタル意味ヲ有スル語根ヲ結合シテ新ナル意味ノ言語ヲ造出ス故ニ少シク之ヲ學ヘハ文字ヲ構成スル語根ノ意味ヨリ推シテ其文字ノ真意義ヲ知ルコト難カラスト云フ

太平洋ノ群島及馬來諸島ノ土語ト馬島語トノ間ニ類似セルモノ多キヨリ之ヲ Malayo-Polynesian 語ノ系統ニ入ルモノアリ又「マダガスカル」人ノ祖國ニシテ馬來人ノ故郷ナル印度ニモ馬島語ト類似セルモノアルヨリ或ハ之ヲ Indo-Polynesian 語ノ系統ニ入ルモノアリ

馬島語ハ初メ亞刺比亞字ヲ用キテ書記シタリシガ歐洲人來リテヨリ羅典文字ヲ以テ書スルコト、ナリタル爲メ之ヲ學習スルニ大ニ便利ナルニ至レリ而シテ馬島語ハ概シテ穩カニシテ音明カニ博言學者ハ之ヲ鮮明ナル羅典系ノ伊太利語西班牙語ニ比スヘシト云ヘリ而シテ馬島語ノ内 Hova 語ハ最モ精良ニ且ツ最モ豐富ナル言語ニシテ數種ノ馬島語中書記シ得ヘキハ此語ノミナリトス而シテ此語ハ全島ノ各民種皆ナ了解シ歐洲人モ亦容易ニ之ヲ學習スルヲ得ルノ利益アリ精密ナル學術上ノ説明等ノ場合ニハ外國語若シクハ古代語ヲ要スル事アレドモ普通會話ニ用ウル一切ノ言語ヲ網羅シ居レリ斯ノ如ク言語ニ富ミ文體雅巧ナルガ故ニ如何ニ複雜ナル思想ニテモ之ヲ以テ叙述シ得ヘク馬島ニ業ニ従事セントスルモノハ業務ヲ行フガ爲メニモ自己ノ利益ヲ擁護スルガ爲メニモ土人ノ信用ヲ博シ尊敬ヲ得ルカ爲メニモ必ス Hova 語ヲ學習スルヲ要ス

今左ニ馬來語ト近似セル一例ヲ擧ク

マダガスカル語	馬來語	語原
Maso-andro	Maha-hari	日ノ眼
Hodi-azo	Kohi-taya	木ノ皮
Von-trisy	Bawal-jatis	雁ノ果物
Ial-ilo	Iidah-aji	火ノ舌

第三章 宗教

「マダガスカル」島ニハ基督教ナク往時ヨリ佛國加特力教、米國英國、諸威等ノ新教、本島ノ高原及東岸ノ地方ニ布教ヲ務メタレトモ今ニ見ルヘキ成績ナシ古代「マダガスカル」人ハ「Natala」ト稱シ一造物神ヲ信シタルカ如クナルモ現代ノ人ハ「ボリネシアン」人種ト略々同一ノ宗教觀念ヲ有シ特ニ靈魂不滅ヲ信ス又偶像ヲ拜シ物品、護符ヲ信仰スルモノ多ク是等ニハ各種ノ迷信アリ而シテ「マダガスカル」人モ亦宿命説ヲ信シ吉日凶日アルコトヲ信シ又妖術ト云フモノアリト信スルカ故ニ根本ハ一神教ナレトモ形式ハ拜物教ノ部分優レルカ如シ禮式ニハ祈禱アリ誓願アリ牛羊鷄等ノ犠牲アリ葬式ハ大禮ニシテ食事演説等ヲ其重要ナル部分トス一般ニ死者ヲ崇敬シ「タナナリツ」地方ニテハ祖先ノ墳墓ヲ管理スルヲ人生最要ノ義務トナスモノ、如ク最大ノ刑罰ハ祖先ノ墳墓ニ合葬スルヲ禁スル事ナリト云フ此ノ如クナルカ故ニ現下ノ情況ハ地方ニヨリ耶蘇教徒アリ回々教徒アリ又拜物教徒アリ而シテ拜物教徒ヲ最多數トス

第三章 歴史

「マダガスカル」島ニ於ケル歐洲人ノ殖民ハ早ク十六世紀ニ始マル一五〇九年ヨリ一五四〇年ニ至ル間葡萄牙人ハ本島ノ北西岸或ハ南東岸ニ殖民セシモ何等施設スル所ナク一六二〇年途ニ之ヲ抛棄セリ次テ一五九五—一六〇六年頃「Cornalia-de-Houtman」ノ率ウル和蘭艦隊ハ「Saint-Augustin」ニ上陸シ廣ク其沿岸ヲ探險シタリ其後十七世紀ノ初年英國東印度會社ノ船

船本島ニ來航シタリ英蘭兩國共ニ此所ニ商館ヲ設クルノ意アリシモ間モナク此兩國ハ印度及馬來方面ニ其全力ヲ注クコトナレリ

佛蘭西人ノ初メテ來リシハ、一五二七年ニシテ其後二年「Parmanier」兄弟ハ西岸ニ來リ「Jean Forteneau」(Alphonse de Sa-hongge)ト稱ス)ハ、一五三七年及一五四七年ノ兩度來航セリ一六〇二年「Croissant Corbin」兩船ハ數月間「Saint-Augustin」灣ニ碇泊セリ一六三八年ニモ「マダガスカル」島探險船「Dieppe」ヨリ出帆シ「Saint-Alexis」號船長「Cauche」、Diego-Suarezヲ占領シタリ

一六四二年「Dieppe」ノ船長「Rigault」ハ高官、富商ノ助力ヲ得東方協會(Societe de l'Orient)ヲ創設シ翌年六月二十四日宰相「Richelieu」ハ此會社ノ成立ヲ認可シ六年間(後テ、十五ヶ年ニ延長セラル)「マダガスカル」島貿易ニ附與スル特許狀ヲ作り路易十三世ノ裁可ヲ經タリ爰ニ於テ「Pronis」ハ「Saint-Louis」號ニ移民若干ヲ搭載シテ「マダガスカル」島ニ赴キ「Sainte-Marie」島及「Antongil」灣頭ニ殖民地ヲ開キタリシガ熱病ノ爲メ多ク死亡者ヲ出シタルヲ以テ一六四三年五月自ラ率キタル移民及其後「Saint-Laurent」號ニテ來レル移民ヲ合セ本島ノ南東ニ移シテ「Fort-Dauphin」ノ殖民地ヲ開キタリ爾後新移民來リ殊ニ一六四六年「Royal」號ハ更ラニ新移民ヲ送り來リ歸航ニハ本島ノ產物黒檀、皮類、蜂蜜等ヨリ成ル高價ノ船貨ヲ佛國ニ持テ歸レリ同年移民ハ其主「Pronis」ニ叛キ之ヲ捕ヘテ囚徒トナシタリ後半年「St-Laurent」號船長「Le Bourg」四十三名ノ移民ヲ搭載シ來リ此變ヲ見テ「Pronis」ヲ救出シ叛徒ノ主唱十二名ヲ「Masareuhas」島(即チ現今ノ「Réunion」島)ニ追放シタリ之レ即チ「Pouillon」島(Reunion 島ノ別名)ニ於ケル佛國殖民ノ起原ナリ

一六五六年東方協會ハ期限滿了シタルヲ以テ更ラニ改造セラレタリ當時同協會ハ殆ト「Marchal de la Meilleraye」ノ左右スル所ナリシガ後チ數年其子「Le Duc de Mazarin」ハ「マダガスカル」島ニ對スル一切ノ權利ト共ニ同協會ノ事業ヲ路易十四世ニ賣渡シタリ路易十四世ハ同島ヲ開拓シ印度洋ニ於ケル佛國ノ殖民事業ヲ獎勵セントノ意ナリシカバ時ノ宰相「Colbert」ハ「Richelieu」ノ遺志ヲ繼承シ東方協會ノ代リニ、千五百萬「リヴル」ノ資本ヲ以テ東印度會社(La Compagnie des

Indes orientales)ヲ創立シ國王、貴族、國中重モナル諸團體ノ代表者ヲ株主トシ本會社ニ許スニ同社力將來發見スル土地ヲ貸與スル事及其等諸國ノ商業ヲ專營スル事ヲ以テシタリ當時同會社經營事業ハ主トシテ「マダガスカル」島ノ上ニアリシカハ同島ヲ東佛蘭西(La France Orientale)ト稱シタリ而シテ此東佛蘭西ノ首都ハ Port-Dauphin ニテアリシナリ

東印度會社ハ確カニ成功スヘキ條件ニテ設立セラレタリ然レドモ社務ノ經營甚ダ宜シカラス資金ノ全部拂込ミニ至ラサル内既ニ其一部ハ浪費セラレタリ且ツ殖民地行政官ハ相競ヒ相嫉ミ互ニ相妨害シテ共ニ遂ニ其使命ヲ全クセサルニ至レリ「モン・ドゥ・バルグ」侯(Le Marquis de Mondévigne)ハ Dauphin(即チ Madagascar)及 Bourbon(即チ Réunion)兩島ニ對スル佛國王ノ太守兼東印度會社殖民地總督ノ重職ヲ帶ヒテ一六六七年 Port-Dauphin ニ上陸セシカ自ラ經營ノ任ニ當レル事業ニ對シテ信用ヲ置カサルコトヲ其拙劣悲觀ノ報告ハ會々株主ノ意氣ヲ沮喪セシメ彼ヲ嫉視スル反對者ハ恣マニ國王ニ讒言誣告シタリシカハ同伯在職中本島ノ殖産通商共ニ進歩セシモ一六六九年遂ニ佛國ニ召還セラレ獄ニ繫カレ牢死シタリ是ニ於テ「マダガスカル」島及東印度會社ノ諸權ハ再ヒ國王ノ有トナリシカ殖民地ノ經營成績舉ラス佛人悉ク Port-Dauphin ヲ引上ケタリ

匈牙利ノ士官 Banyowski 伯ト云フモノ露國ノ陰謀ニ與ミシ「カムチャツカ」ニ流サレシカ密カニ遁レテ各地ヲ歴遊シ遂ニ「レニエニオン」島ニ至リ「マダガスカル」島ノ事情ヲ聞キ佛國ノ爲メ同島ニ一殖民地ヲ開カントノ志ヲ抱キ「レニエニオン」島太守ノ使者トナリ佛國ニ赴キ時ノ海軍大臣 Choiseul ヨリ義勇兵募集ノ許ヲ得之ヲ率キテ、一七七四年 Antong 海頭ニ上陸シテ Louisbourg(即チ今ノ Marontseira)ナル殖民地ヲ開キ成蹟見ルヘキモノアリキ佛國ノ巡察使 Ballemebe及 Chevreau ノ巡察ニ際シ Banyowski ハ之ニ總督ノ職務ヲ委ネ一七七六年十二月佛國ニ向ツテ出發セリ蓋シ自己ハ「マダガスカル」島東岸ノ主權者タレハ佛國政府ト保護條約ヲ締結シ佛國ノ臣僚トナリ以テ佛王ニ服從ノ敬意ヲ表セン心組ニテアリシナリ

佛國ニ至ルニ及ンテ「ヴェルサイユ」宮殿ニテ佛王ニ謁見シタリ然レトモ佛王ハ「マダガスカル」島ハ既ニ佛王ノ領地ニシナリ

シテ自主國ニアラサルヲ以テ保護條約締結ノ議ヲ排斥シタリ爰ニ於テ Bannette ハ埃太利及英國ニ交渉スル所アリシモ聽カレズ遂ニ佛國政府ニ向ツテ再ビ「マダガスカル」島ニ派遣セラレンコトヲ乞ヒシモ佛國政府ハ其哀願ヲ容レザリシカニ去ツテ米國ニ赴キ運動スル所アリキ會々 Franklin ノ庇護ヲ得其宿志ヲ行フノ機ニ會シ一七八五年 Baltimore 州ノ商人ニヨリテ「マダガスカル」島ニ發遣セラレ、コトナリ合衆國政府ノ内助ト補助金トヲ得テ同島ニ歸着セシカハ士人大ニ之ヲ歡迎シタリ人心已レニ歸シ兵力稍々頼ムニ足ルニ至リシガハ茲ニ獨立ノ君主タル事ヲ宣言シタリ佛國ハ此行爲ヲ以テ佛國ノ王權ヲ蔑視スルモノトナシ Banyowski ヲ反賊トナシ佛蘭西島(即チ今ノ Maurice 島)及「ブルボン」島(Reunion 島)總督ヲシテ之ヲ討伐セシメタリ征討軍ハ、一七八六年五月七日 Pointe 二上陸シタリ而シテ其二十三日ノ戰闘ニ於テ傷ムヘシ Banyowski ハ終ニ佛軍ノ爲メニ殺サレ其企畫ハ其王國ト共ニ亡滅シタリ

當時佛國カ今少シク Banyowski ヲ優遇シタランニハ「マダガスカル」占領ノ時ヲ早ムルコト百年ナルヲ得タラン又同人ノ死後其經營セル所ヲ利用セス僅カニ海岸ノ數地點ヲ存シテ衛兵ヲ置キ其他ハ一切拋擲シテ顧ミナリシハ識者ノ遺憾トスル所ナリ

後チ「ナポレオン」一世ハ「マダガスカル」島ニ佛國ノ勢力ヲ確定スヘキコトヲ General Decaen ニ命ジ Sylvain Roux ハ帝國總代官ニ任セラレ一八〇四年「タマタヅ」ヲ首府トシテコ、ニ駐在シ海岸ノ要所ニ商事務官ヲ置キ佛國人及土人ノ利益ヲ監視セシメタリ

「トラファルガー」ノ戰ニ佛國海軍打破レ海上ノ主權英國ニ歸スルヤ同國ハ、一八一〇年佛蘭西島及「ブルボン」島占領ノ爲メ優勢ナル艦隊ヲ送リタリ當時英國ノ太守 Sir Robert Farquhar ハ此地方ニ保存シアル官文書中佛國人ハ「マダガスカル」島ヲ以テ前記殖民地ニ附屬スルモノト見做シ居ル事ヲ知り戰勝ニヨリテ之ヲ英領ト宣言シ佛國ノ經營ニカ、ル同島一切ノ事業ヲ破壞セントシタリ之ガ爲メ其翌年 Sylvain Roux ハ遂ニ「タマタヅ」ヲ英艦長ニ引渡スノ已ムヲ得サルニ至レリ時方サニ「ナポレオン」一世ノ帝國瓦解シタルノ際ナリシヲ當時英國政府モ亦「マダガスカル」島ヲ永久ニ占領ス

ルノ志ナカリシカ如シ

一八一四五月三十日ノ巴里條約ハ此地方ノ問題ヲ解決シタルモノニシテ Maurice 島(即チ佛蘭西島)ハ英國ノ所領トナリ印度洋中 Reunion 島(即チ「ブルボン」島)ノミ佛國ノ領地トナリシカ同島ニハ軍艦商船ノ避難所トナルヘキ良港ナキヲ以テ佛國政府ハ「マダガスカル」島ニ有スル權利ヲ主張シ同島ヲ得テ其失フ所ヲ償ハントシタリ「モーリス」島太守「P. Char」之ヲ知ルヤ同島ニ對スル佛國政府一切ノ經營ニ抗議シ一八一四年ノ巴里條約ハ佛蘭西島「モーリス」島及其屬島ヲ英國ニ讓與シタルモノナリ此屬島中ニハ「Rodrigue 島及 Seychelles 群島ヲ含ムノミナラス「マダガスカル」島モ亦此屬島中ノ一ナリト主張セリ然レドモ英佛兩國交渉ノ結果英國政府ハ「モーリス」島太守ニ訓令シテ曰ク英國政府ハ巴里條約第八條「一七九二年一月一日佛國ノ領有タリシ若干ノ殖民地領地ノ還附」ニ關スル佛國政府ノ見解ヲ承認シタリ故ニ一七九二年一月一日佛國カ「マダガスカル」島ノ海岸ニ有シタル殖民地ハ「レユニオン」島ノ官憲ニ還附スヘシト「Farguilar」コノ訓令ニ接シテ甚タ悦ハス此訓令ノ執行ヲ避ケントシ本國政府ニ申報シテ曰ク「マダガスカル」島ハ同島ニ住スル民族殊ニ其等民族ノ一タル中央高原ニ住スル「Hova 人」ニ屬スルカ故ニ一モ佛國ニ還附スヘキモノナシト後チ自ラ英國ニ歸リ其主張ヲ貫徹セントセシモ英國政府ガ佛國政府ト交渉妥協セシ所最早カ、ル主張ヲ許サザル程度ニ運ビアリテ「Sylvain Roux」ハ一八一八年ヨリ着々往時ノ所領ヲ回收シタリ「Sainte-Marie, Port-Dauphin, Pointe-a-Tarce, Tihingue」等即チ之ナリ此間「Robert Farguilar」ハ「モーリス」島ニ歸任シ密カニ「Magacliel」マダガスカル「島人」ノ意(ノ諸酋長ト欸ヲ通シボーウ王 Radama 一世ニ「マダガスカル」全島ノ帝王タルコトヲ宣言シ「Majunga, Tamatave」ヲ占領スヘシト教唆シ又之ト諸條約「一八一七年十月二十三日、一八二〇年十月十一日、一八二三年五月三十一日」ヲ締結シタリ該條約ニ據リ奴隸輸出ヲ廢止シタル賠償ノ名義ニ於テ貨幣二千弗彈藥一萬「ボンド」火繩銃百挺燧石一萬個兵器軍服四百名分ヲ贈與シタリ之レ則チ佛國人ト戰フヘキ兵器彈藥ヲ供給シタルナリ而シテ「Hova 王」ノ都タル「タナナリヴ」府ニ其代理店ヲ派シ外交事務ニ當ラシメタリ此外交官ハ「James Hascie」ト稱シ宣教師「Jones」ノ助力ヲ得才幹ト熱心トヲ以テ「Farguilar」ノ訓令ト計畫ト

ヲ行ヒ居タリ「Fahaka」ハ「ラダマ」王ニ重要ナル指導助言ヲナシ、ノミナラス強固ナル軍隊ノ組織ニ助力シ又英國宣教師ヲ優遇セシメシカハ宣教師等ハ幾多ノ學校ヲ開キテ「マルガツシ」人ヲ教育スルノ許ヲ得タリ

一時歸國中ナリシ「Sylvain Roux」ハ「マダガスカル」島歸着後一八一二——一八二二年中「Sainte-Marie 島」ノ對岸ニ住スル諸酋長ヨリ佛國ニ服從シテ其臣僕タルヘキ宣言ヲ領セシカハ其地方ニ相當ノ設備ヲナシタリシニ「Farguilar」ハ「マダガスカル」島ニ於テハ「Hova 人」ノ外何國人ニテモ土地ノ所有權ヲ有セストテ此占領ニ抗議シ「Radama 王」ハ「Houpointe」ノ占領ヲ促シ並ニ「Tihingue」及「Port-Dauphin」ニ對スル遠征軍輸送ノ爲メ船舶ヲ供給シタリ「Port-Dauphin」ハ佛兵勇戰セシモ「一八二五年三月十四日」遂ニ「Hova 軍」ノ占領スル所トナレリ

之ヨリ先キ佛國太守「Sylvain Roux」ハ「一八二三年八月二日」ヲ以テ死亡シ「Captain D'ever」其後繼者トナリシモ何等行動ヲナスヘキ餘地ナク又「レユニオン」島太守ハ援軍ヲ與ヘサリシ爲メ士兵ニ對戦スル能ハス將サニ「Radama 王」ニ「Sainte-Marie 島」ヨリ追放セラレントセシカ「Radama 王」突然死シ「一八二八年」形勢コ、ニ一變シタリ

Radama 一世ノ死後其未亡人「Rabodonandriapoinierina」ハ「Ranavalona 一世」ノ名ヲ以テ王位ヲ繼承セリコ、ニ於テ四十餘年志ヲ得ナリシ排外的貴族ハ一時ニ勢力ヲ回復シ「ラナヴァロナ」一世ハ此貴族ヲ後援トナシ毅然トシテ政ヲ行ヒ王權ヲ確固ナラシムル爲メニハ如何ナル凶暴ヲモ散テセントスルカ如ク外國關係ニ就キテハ英國トノ條約ハ遵守スルノ義務ナシトシ「ハスチー」ノ死後其後任トシテ英國政府ノ任命シタル代表者「Robert L'yal」ヲ受クルコトヲ拒ミテ待遇ヲ極メ刺サヘ耶蘇教ヲ禁シ傳教師ヲシテ「マダガスカル」島ヲ退去スルノ已ムヲ得サルニ至ラシメタリカ、ル反動の行爲ハ一見佛國ニ利アルカ如キモ事實ハ佛國人モ「Sainte-Marie 島」ニ閉居スルニ過キスシテ恐ル、ニ足ラサレハ英人ノ助ケヲ借ルノ要ナキヲ認メ之ヲ追放シタルナリ

「シャール」十世「マダガスカル」島ニ於ケル佛國舊殖民地ヲ回復セントシ「一八二九年」Goubeyre 大佐ニ附シ一小艦隊ヲ送リ「Port-Dauphin」占領ノ理由ヲ詰問シ併セテ「Sainte-Marie 島」ヨリ佛國人ヲ追放スルコトヲ防止セシメントセリ「グーレル

「ビール」ハ戰鬪行爲開始ニ先テ「Malavakoa」一世ニ宛テタル最後通牒ヲ「タマタヅ」州知事ニ交附シ其回答ヲ得ル迄ニ「Pitangue」占領ニ赴キタリ女王之ニ答ヘテ曰ク「朕ハ喜シテ佛王ノ大使ヲ引見スヘシ然レトモ朕ハ閣下カ朕ノ領土内ニ殖民地ヲ設クルコトハ斷然同意スル能ハス朕カ巾幗ノ身ナルカ故ニ閣下カ斯カル傲慢ナル文書ヲ朕ニ提示シ朕ノ領土ニ於テ其欲スル所ヲ恣ママニセントスルモノナランニハ朕ハ閣下ノ過レル事ヲ示スヘシ」ト即チ一般臣民ニ嚴命シテ曰ク佛國人ニハ如何ナル物品ヲモ賣渡ス可ラス背クモノハ死刑ニ處スト爰ニ於テ「グールビール」ハ「タマタヅ」港占領ノ爲メ一八二九年十月十一日進軍ノ命ヲ發センガ其十七日遠征軍ハ「Foupoitia」附近ニ於テ撃退セラレ「Sainte-Marie」島ノ前面「Pointe-Laurie」ヲ砲撃シテ之ヲ陥レタリ時ニ兵員ヲ檢スルハ其數少ナク僅カニ占領地ヲ守リ得ヘキノミナリシカハ援兵ヲ待ツ爲メ「Bourbon (Reunion)」島ニ引上ケタリ

十一月末女王ハ此所ニ構和全權使節二名ヲ送リ佛國ニ有利ナル條約ニ調印セシメタリ然レドモ女王ハ佛軍ノ兵數少ナクシテ戰鬪ヲ繼續シ能ハサル事ヲ探知スルヤ此條約ノ批准ヲ拒ミタリ當時佛國政府遠征ノ繼續ヲ好マス「Louis-Philippe」ハ「マダガスカル」島ヨリ撤兵スヘキコトヲ命ジタリシガ在島開墾者ノ懇請ニヨリ「Sainte-Marie」島ノミ守備兵ヲ存スル事トセリ佛國ノ此態度ハ「ホーヴ」人ノ輕侮ヲ買ヒ之ヲシテ次第ニ傲慢ナラシメタリ

「ホーヴ」人ハ悉ク宣教師ヲ放逐シ耶蘇教徒ヲ屠リ遂ニ奴隸ト一般ナル待遇ヲ歐洲人ニ與ヘントセリ一八四五年五月十三日ノ勅令ノ如キハ歐洲人ノ到底堪フル能ハサル酷遇ヲ與ヘントシタルモノナルガ故ニ在留ノ英佛人ハ抗議スル所アリシニ無効ナリキ茲ニ於テ佛國司令官「Romain Desfosses」ハ「Bercuan」及「Zélic」ノ二艦ヲ率キテ「タマタヅ」ニ赴キ英國「Conway」艦隊「Kelly」ト共同シテ「ホーヴ」ノ州知事ニ最後通牒ヲ送リ勅令ノ撤回ヲ要求シタリ然レトモ「ホーヴ」人ハ之ヲ拒絶シタル故ニ直ニ「タコタヅ」ノ砲撃ヲ開始シ三百ノ英佛聯合軍ハ上陸シタリ然ルニ敵壘甚タ強ク聯合軍ノ指揮官ハ殺サレ彈藥ハ缺乏シ十八名ノ死者ヲ殘シテ急ニ退却スルノ已ムヲ得サルニ遭遇シタリ其夜「ホーヴ」ハ槍端ニ戰死シタル英佛兵ノ首ヲ懸ケ海岸ニ戰鬪行列ヲナシ女王ハ英佛聯合軍ヲ擊退セル事ヲ一般人民ニ告示シタリ

爰ニ於テ佛國政府ハ遠征軍ヲ派セントシ「General Durvier」ヲ司令官トセシガ出發セントスルニ際シ急ニ延期シタリ蓋シ下院カ「佛國ハ毫モ「マダガスカル」島ニ對シテ有スル其權利ヲ拋棄スルモノニ非サレドモ必要モナキニ多クノ犠牲ヲ要スル遠征ヲ送ラサルヘシ」トノ希望ヲ議決シタルニ因ルニ「反シ」アルボン」島ノ殖民會議ハ憤慨シ「マダガスカル」島ニ佛國ノ殖民地ヲ確立スヘシトナシ佛國政府ニ願請スル所アリシモ此戰敗ニ對スル再舉ノ企ナク三年後第二共和政體成立ノ頃ハ此戰敗ハ殆ト世人ニ忘レラレタリ

「マダガスカル」島ノ東岸ニ於ケル佛國ノ經營ハ不成績ニ了リシモ西岸ニ於テハ稍々見ルヘキモノアリタリ「ルイ、フィリップ」ノ政府ハ北西岸及其附近諸島ニ佛國ノ勢力ヲ扶植セリ一八二四年「Iova」民族「Majunga」占領ノ際追放セラレ附近ノ諸島及「Mayotte」島ニ遁逃セル「Salalava」ノ諸民族ハ猶ホ追撃セラレントラ恐レ佛國ノ救護ヲ求メシカハ是等ノ機會ヲ利用シ佛國ハ一八四〇年「Nosy-Komba, Nosy-Bé, Nosy-Mitisa」ノ諸島ヲ占領シ「Mayotte」島ハ其「サルタン」ニ五千法ノ年金ヲ給スルコトヲシテ買取シ又「Salalava」及「Antankarana」諸首長ノ保護請願ニヨリ「マダガスカル」島西岸ニ領主權ヲ得タリ然レトモ未ダ北西岸及「Comores」諸島ハ確然占領スル迄ニハ至ラザリキ

一八四五年ヨリ一八五四年迄ハ佛國ト「マダガスカル」トノ關係全然中絶シタリ然レトモ英國ハ本島ニ於ケル立脚ノ地歩ヲ保タントシ「タマタヅ」砲撃ノ賠償トシテ七五、〇〇〇法ヲ拂フコトニモ合意シ布教師「Ellis」ヲ介シテ「ホーヴ」王廷ト交渉ヲ繼續シタリ延イテ一八五五年一佛國人「Lambert」タナナリヴ」ニ着シ王廷ノ愛顧ヲ博シ世子「Rakoto」ト交友ヲ結フニ至リ一案ヲ出シテ世子ノ同意ヲ得タリ曰ク「Iova」王朝ハ「マダガスカル」全島ヲ領ス佛國ハ之ヲ保護國トシテ其獨立ヲ保證スヘシ全島一切ノ鑛山、森林及未開墾地ハ歐洲人ノ創設スル一大會社ニ租借ヲ許シ又沿海ノ二港ヲ同社ニ附與スヘシト「Lambert」ハ本案ヲ携ヘ歸リ那翁三世ニ建議セシニ嘉納スル所トナリシカ英國ト此利益ヲ共ニセントシタル爲メ愛國ノ計畫空シク水泡ニ歸シタリ即チ佛帝「Lambert」ヲ英國ニ派シ「マダガスカル」島ヲ英佛兩國ノ保護國トナスノ議ヲ「Lord Clarendon」ニ提供セシメタリシニ英國外相ハ之ヲ排斥セシノミナラス當時歸國中ナリシ「Reverend Ellis」ヲ直チニ

二四〇

「マダガスカル」ニ送り本計畫ヲ打破スヘキノ密命ヲ授ケタリ「エリス」ハ、一八五七年「タナナリツ」府ニ歸リ一方ニハ此計畫ヲ女王ニ密告シ他方ニハ世子ハ「Rakoto」佛國人ト謀ヲ合セ女王ヲ殺害シテ王位ヲ奪ハントスト流言セシメシカハ王廷ハ先ツ僞ツテ「Lambert」及「Laborde」ノ歸府ヲ歡迎シ直チニ縛シテ之ヲ海岸ニ護送シ悉ク佛國人ヲ放逐シ耶蘇教ヲ嚴禁シ耶蘇教若クハ歐洲人ト關係ヲ有スル疑アルモノハ悉ク或ハ之ヲ誅殺シ或ハ之ヲ奴隸トシタリ斯ノ如クニシテ「Lambert」ノ計畫モ全ク水泡ニ歸シタリ

一八六一年「Ranavalona」一世死シ其子「Rakoto」嗣キ「Radama」二世ト稱ス歐洲人ノ入國ヲ許シ其成豊式ニ那翁三世ノ代表者トシテ來レル佛國印度洋艦隊司令官「Dupré」ノ如キハ特ニ之ヲ優遇シ「Lambert」及「Euryne」公爵ヲ授ケテ使命ヲ佛國政府ニ致サシメ「Laborde」ヲ「タナナリツ」駐在佛國領事ト承認シ一八五五年「Lambert」案ハ、コ、ニ蘇生シタリシカハ佛國政府ハ佛國ノ權利ヲ留保スル條件ニ於テ「Radama」二世ヲ「マダガスカル」王ト承認スルニ至レリ「Commandant Dupré」調印

一八六二年九月十二日同盟及通商條約）
「Dupré」司令官及「Lambert」ハ佛國ニ歸リ那翁三世ニ依リ「マダガスカル」島開拓ノ爲メ資金五千萬法ノ會社ヲ創立シ必要ナル社員ヲ募集セン事ニ盡力シタリ

「Radama」二世ハ多年ノ理想ヲ實現セントシ裁判ニ「タンガン」(毒藥)ヲ使用スルコトヲ廢シ賦役通行税ノ制ヲ止メ信教ノ自由ヲ許シ奴隸ヲ解放スル等政務ノ改革ニ從事セシモ、其無經驗ニシテ改革ノ過急ナリシ爲メ先女王ノ擁護者タリシ老「ホーヴ」黨ハ頗ル其治ヲ喜ハサリキ「Ravidrand Riana」此機ニ乘シ金錢ヲ散シ術計ヲ弄シ人心ヲ煽動シテ曰ク佛國人ハ國家ヲ略奪シ財貨ヲ横領シ民人ヲ放逐シ其權利其宗教ヲ蹂躪セントスルモノナリト物情爲メニ驟然「Dupré Lambert」再ヒ來リ「タマタツ」ニ着セシ時ハ新王老黨ノ爲メニ殺害セラレ其妃「Rasoahina」王位ニ即キ首相「Rainivoninahitriniony」執政ニ任シ數月前佛國ト締結セル條約ヲ否認スルニ至リタリ佛國使節ハカ、ル不測ノ變ニ處スルノ訓令ヲ有セサレハ「タマタツ」港外ニ艦隊ヲ示威運動ヲナスニ止メ首相ニ向ツテ條約ノ實行ヲ迫リ新設會社ノ蒙レル損害賠償ヲ要求セリ爰ニ於テ女王

モ施ス所ニ躊躇シ遂ニ「ホーヴ」稀世ノ人才「Rainihariyony」ヲ擧ケテ首相ニ任シ「マダガスカル」會社ノ爲メニ、八七、〇〇〇法ノ償金ヲ支拂フ事トナシ佛國政府モ之ヨリ以上ノ要求ヲナサズ本事件モ、ニ局ヲ結ヒタリ
爾後佛國ハ復タ「マダガスカル」島ヲ顧ミサリシカハ英國ハ「タナナリツ」王廷ノ歡心ヲ得而シテ其得タル地位ヲ強固ニシ漸次ニ寺院學校ヲ建築シ印刷所、病院ヲ新設シ遂ニ、一八六五年六月二十七日條約ヲ締結シ一方ニハ馬島政府ヲシテ英國臣民僧侶及寺院ノ保護ヲ約セシメ他方ニハ裁判上ニ「タンガン」ヲ廢止シ土人歐洲人ノ信教ノ自由ヲ認ムルコトヲ約セシメタリ

一八六八年女王「Rasoahina」歿シ其從妹位ニ即キ「Ranavalona」二世ト稱ス典例ニヨリ首相「Rainihariyony」ヲ王配トシ執政セシム

一八六七年二月十四日米國ト條約ヲ締結セシモ外國ノ羈絆ヲ脱シ一國ノ獨立ヲ保持スルニ務メ奴隸ノ制ヲ改メ其賣買ヲ禁シ耶蘇教ヲ採用シ國立寺院ヲ設ケ義務教育ノ制ヲ敷キ國民ノ進歩ヲ指導シ「Rainihariyony」二十年(一八六四年—一八九五年)ノ執政頗ル見ルヘキモノアリ王朝稀有ノ名相タリ

一八六八年八月八日佛國代表者「Garnier」ハ遂ニ「Ranavalona」二世ト一條約ヲ締結シ(附錄第二、參照)佛國ノ爲メ略、英國ト同様ノ權利ヲ收メタリ同條約第三條ハ其最重要ナルモノニシテ佛國加特力教ノ自由行動ヲ確保シタリ之ニヨリテ加特力僧侶ハ「Laborde」貿易事務官其他ノ佛人ト共ニ同島ニ於ケル佛國ノ利益ヲ掩護シ英國僧侶ノ運動ニ對抗シタリ其他ノ條項ハ「マダガスカル」ニ於ケル佛國人ノ所有權ヲ認定シ其相續權ヲ確保スルモノナリシカ後年王朝政府ハ任意ニ契約シタル此相續權ヲ否認シタル爲兩國政府ノ爭議ヲ醸セリ

佛國加特力教カ上記ノ利益ヲ得タルヲ見英國新教モ之ニ對比スル利益ヲ收メ同時ニ加特力教ノ勢力ヲ阻止センコトヲ務メ拮据經營其勞空シカラス一八六九年遂ニ女王及首相ヲ新教ニ改宗セシメ新教ヲ以テ國教トスト宣言セシメタリ英國新教ハ偉大ナル功果ヲ收メタリト云フヘシ當時新教ノナセル所ハ一自己ノ利益ヲ壟斷セントスルノミニアラズ人道文化

第三章 歴史

二四一

ノ上ニ貢獻スル所少ナカラサリシハ同教ノ爲メ祝セサル可カラズ蓋シ其恩澤ニヨリ王朝政府ハ幾多ノ新法律ヲ發布シテ王權ヲ確立シ奴隸ニ關スル制度ヲ改メ自由市民ノ地位ヲ確保シ教育文明ノ普及ニ關スル歐洲人ノ行爲ニ便宜ヲ與ヘ英國人ノ指導ニヨリテ新式ニ軍隊ヲ組織シ數多ノ奴隸ヲ解放シ婦人小兒ノ爲メニ病院ヲ起シ無料施療ノ法ヲ設ケ裁判制度ノ改良ヲ試ミ一八七五年一月一日「マダガスカル」島第一ノ新聞紙「*The Gazette Malagasy*」ヲ發刊シタレハナリ斯ノ如クナルカ故ニ佛國ハ一八六八年ノ條約ヲ有スレトモ英國ハ常ニ優勢ヲ保チ特ニ、一八七〇年普佛戰爭以來英國ハ益々其勢力ヲ振ヘリ之ニ反シ佛國ハ國歩甚タ困難ニシテ復タ「マダガスカル」ヲ顧ミルニ暇アラス一八七一年ニハ同島ノ加特方教ニ給與スル補助金ヲモ廢セサル可ラサルニ至リ多年同島ニ扶殖セル佛國ノ勢力モ競争國ノ蹂躪ニ委セサル可ラサルニ至リタリ一八八三―一八八五年戰爭

普佛戰爭ノ結果佛國ハ一切ノ爭鬪ヲ避ケ専ラ退嬰ノ態度ニ出ツルヲ要シタルシカ伯林會議ニ於テ其地位ヲ回復シ歐洲以外ニ於ケル發展ニ對シテハ列強モ之ニ干渉セザル事ヲ確知シタルヤ佛蘭西共和國モ殖民政策ニ一展開ヲナシ大ニ亞細亞亞非利加ニ活動シ二十年間（一八八〇年―一九〇〇年）海外發展ノ新時代ヲ畫セリ而シテ「マダガスカル」占領ノ爲メニハ一八八三―一八八五年戰ヲ要シタリ

一八八三―一八八五年戰ノ原因ニテアリ一ハ「*Laboulaye*」相續問題ニシテ他ハ「マダガスカル」北部ニ於ケル領土問題トス佛人「*Laborde*」一八七八年十二月「マダガスカル」ニテ死亡シ價格百萬法餘ノ不動産ヲ遺セリ佛國人ノ主張ハ、一八六八年佛國「*ポーツ*」朝問ノ條約ニ據レハ此財產ハ合法ニ領有シタルモノニシテ相續人ノ相續シ得ヘキモノナリト然ルニ「*ポーツ*」政府ハ此財產ハ終身間ノ所有ヲ許シタルニ過キスシテ永久ノ所有權アルモノニ非ス不動産ノ讓與質入ハ人間ニ限ルノ法律ナリ云々トテ佛國領事ノ抗議アルニ拘ラス首相「*Rainilaiarony*」頑トシテ應セサル三年爰ニ於テ相續人ハ本國政府ノ救援ヲ要求シタリ

次ハ領土問題ニシテ一八四一年「*New-Bé*」及「*Mayotte*」占領後佛國ハ北部西部ニ住スル幾多ノ土民ニ對シテモ保護ヲ與フル事トナシ是等土民ノ住スル重モナル村落特ニ「*Sakalava*」酋長「*Mourou*」ノ居村「*Ankify*」ニハ常ニ佛國々旗懸リ居レリ而シテ佛國ノ此保護權ハ、一八六二年「*Radama*」二世ト締結セル條約第二十七條ニ於テ明カニ之ヲ認メ居レリ然ルニ「*Rainilaiarony*」二世ハ「マダガスカル」全島ノ主權者ナリト稱シ一八八一年佛國ノ保護地タル「*Sakalava*」地方ヲ占領シ「*Ankify*」ニテ佛國々旗ヲ撤セリ「*Rainilaiarony*」之ヲ説明シテ曰ク是等ノ地方ハ、一八二四年「*Radama*」一世ノ征服シタル所ニシテ領土權ハ我ニ屬セリ然ルニ土民ハ已レニ屬セサルモ佛國ニ與ヘタルモノニシテ佛國ハ是等ノ地方ニ對シテ何等ノ權利ナシト爰ニ於テ土民ハ佛國政府ノ救援ヲ要求シタリ

「*Tananarive*」駐在佛國領事ハ上記ニ問題ニ對シ満足ナル解決ヲ得シカ爲メ「*ポーツ*」政府ト交渉シ盡力スル所アリシモ何等ノ功果ナカリシカハ「*Bardas*」領事ハ、一八八二年五月二十一日遂ニ「*Tananarive*」ヲ引上ケタリ翌日領事館事務代理ハ脅嚇セラレ一佛人ハ殺サレ一佛人ハ襲撃セラレタリ爰ニ於テ印度洋艦隊司令官「*ル*」、タムブル「*大佐*」ハ西岸ニ派遣サルヘキ「*ポーツ*」軍隊ノ「*タマタヅ*」港出帆ヲ妨ケ西岸ニ掲揚セラレタル「*ポーツ*」旗ヲ撤シ其兵艦「*Antananarivo*」號ヲ捕獲セリ「*ポーツ*」政府思フ所アリ即チ使ヲ歐洲ニ派シ列國ニ就キ「マダガスカル」王國獨立保全ノ承認ヲ求メシム一八八二年九月三十日使節巴里ニ着シ時ノ首相兼外相「*Dulcero*」ヲ見ル即チ佛國政府ハ委員ヲ命ジテ使節ト會談セシム佛國委員ハ一切ノ妥協ノ基礎トシテ「近來占領シタル」*Sakalava*」地方ヨリ其兵ヲ撤退セシムル事「損害賠償ヲ支拂フ事」一八六八年ノ條約ニ據リ佛國人ニ附與シタル「マダガスカル」ニ於ケル土地所有權其行使ヲ認ムル事ヲ要求シタルニ使節徒ラニ延引何等ノ妥協ヲ爲サ、ルヲ見テ談判ヲ中止シ使節ノ自由行動ニ任セタリ（一八八三年一月二十四日）

爰ニ於テ使節ハ倫敦ニ赴キ佛國ノ壓迫ニ對シテ英國ノ援護ヲ得トセシモ果サ、リシカ伊太利、米國、獨乙トハ諸條約ニ據リ「マダガスカル」全島ニ對スル「*Ranavalona*」二世ノ主權ヲ承認セシメ是等國民ノ同島ニ於ケル土地所有權行使ヲ棄權セシムル事ヲ約セリ然レトモ是等諸國ハ斯ル條約ノ締結ニヨリテ毫モ失フ所ナシ獨リ佛國ハ此ニ問題ニ對シテ實體ノ利害ヲ有スルカ故ニ斷乎トシテ其方針ヲ固守セリ

一八八三年五月、Pierre 提督ハ「マダガスカル」島ノ北西部ヲ占領シ次テ「マジュンガ」港ヲ占領セシカ「ホーヴ」政府モ亦首都「タナナリヴ」ヨリ佛國人ヲ追放シ兩國ノ外交關係愈々危殆ニ陥リ遂ニ六月一日、Bandas 領事ハ本國政府ノ最後通牒ヲ首相 Rainilaiarivony ニ傳達セリ其條件ハ(一)「マダガスカル」島南緯十六度以北ノ地ヲ佛國ニ讓與スル事(二)佛國人ニ、百萬法ノ賠償ヲ支拂フ事(三)Laborde 相續賠償ヲモ含ム(三)外交ハ佛國ノ監督ヲ受クル事ナリキ然ルニ「ホーヴ」政府之ニ應セザリシカハ佛國艦隊ハ、六月十日ヨリ十三日ニ亘リ Tananarive, Ivondrona, Fénérive 及 Foulpointe ノ諸港ヲ砲撃シタリ當時 Pierre 提督ノ有スル兵數少ナク陸戰隊ヲ組織シテ目醒マシキ成績ヲ舉グル能ハス恨ヲ吞ンテ攻撃ヲ此程度ニ止メサルヲ得サリシト云フ蓋シ當時佛國政府ハ東京事件ノ爲メ其勢力ヲ集中シ「マダガスカル」ノ兵力ヲ必要ナル最小限度ニ減スルノ要アリタレハナリ

カ、ル事情ノ下ニ於テ佛國海軍ハ「タマタヅ」占領戦ヲ繼續セリ Pierre 提督病死ノ爲メ副提督 Galiber 代ツテ印度洋艦隊司令官ニ任セラレタリ而シテ「ホーヴ」王朝ニ於テモ Ranavalona 二世歿シ從妹位ヲ繼キ Ravalona 三世ト稱ス然レトモ首相ハ女王ニ配スルノ國例ニ依リ Rainilaiarivony 三タヒ新女王ニ配シ依然政柄ヲ掌握セリ Galiber 提督モ東南ノ諸港ヲ砲撃シ Fort-Dauphin ノ再占領ヲナサシメシカ王朝政府ハ、ニ媾和談判ヲ開始シタリ然レトモ一八八三年十一月十九日ヨリ翌一八八四年四月八日ニ亘リ猶ホ要領ヲ得サルヲ以テ佛國委員ハ談判繼續ヲ拒絕シタリ同年五月 Galiber ノ後ヲ襲キ提督 Niot 印度洋艦隊司令官ニ任セラレ佛國政府ハ、三月二十七日下院カナシ、「佛國ハ「マダガスカル」ニ對スル權利ヲ保持スヘシ」トノ議決ニ基ツキ詳細ナル訓令ヲ與ヘタレハ提督ハ「タマタヅ」ニテ「ホーヴ」ノ官憲ト會見シ佛國ハ毫モ既得ノ權利ヲ拋棄スルヲ欲セサル旨ヲ聲明シ主要媾和條件トシテ(一)「ホーヴ」ハ、三百萬法ノ賠償ヲ支拂フ事(二)一八八八年ノ條約ニ規約セリ利益殊ニ土地所有權ヲ享有スル事(三)今回ノ事變ニ於テ各國人ノ被レル損害ヲ賠償スル事ノ三件ヲ提出セリ然レトモ此基礎ニヨリ有利ナル條約ヲ結ハシハ佛國ハ斷乎タル處置ニ出テサル可カラサリシカ當時 Jules Ferry ノ内閣ハ議會ノ壓迫ニヨリ印度支那事件ニ好結果ヲ收ムルノ必要アリタルカ爲メ先ツ兵

カラコ、ニ集中シ「マダガスカル」ニ對シテハ成ルヘク其兵力ヲ減シ印度支那事件ノ終ルヲ待テ大舉シテ「マダガスカル」ニ臨ムノ計畫ナリキ一八八五年三月末 Henri-Bissan 代ツテ内閣ヲ組織スルニ至リ Freyinet 外相タリ新内閣ハ「マダガスカル」遠征費トシテ千二百萬法ノ豫算ヲ請求セントシタルモ議會改選ノ時機ニ際シ十月新議院組織迄ハ「マダガスカル」ニ關シテ現狀維持ヲナスノ已ムヲ得サリキ斯ル事情ノ下ニ於テ Niot 提督モ其行動ノ範圍ヲ縮少シ Volcanar, Diego-Suarez, Marovoay ヲ占領シ海岸ヲ砲撃シテ商業ヲ妨害シ兵器彈藥ノ輸入ヲ防止セシカ兵數足ラサルヲ以テ一方ニハ本國ニ向ツテ援兵ヲ請求シ一方ニハ Réunion 島ノ義勇兵ヲ募リ又「サカラヅ」ノ土兵ヲ徵集シタリ然ルニ「ホーヴ」モ爾後多少戰鬪ニ慣レ編成ノ方法モ進歩シ英國士官 Digby Willoughby ノ指揮ノ下ニ、六千乃至八千ノ兵ヲ以テ千五百ノ佛軍ニ對スル事トテ能ク抗戦シ兩軍互ニ勝敗アリ

一八八五年佛國議員改選ノ結果ハ殖民地戰爭反對派ノ數ヲ増シタレハ佛國政府ハ「マダガスカル」事件ノ終結ヲ早ムルノ要アリ即チ條約案ヲ送リ Niot 提督及總領事 Salvator Patrimonio ヲシテ「ホーヴ」女王ノ全權委員 Digby Willoughby (英國人)及 Rainizananga (首相 Rainilaiarivony ノ子)ト一八八五年十一月二十一日平和談判ヲ開始セシメシカ其十二月十七日左記條約ハ調印セラレタリ該條約ハ第一條ニ於テ「佛國政府ハ「マダガスカル」一切ノ外交ヲ代表ス而シテ外國ニアル「マダガスカル」人ハ佛國ノ保護ノ下ニ置ク」ト規定シ第二條ニ於テ佛國ノ駐在官ハ「マダガスカル」ノ内政ニ干與セサルモ其外交ヲ司ル事ヲ規定シテ略々保護國トナスノ實權ヲ收メ不動産所有權、信教ノ自由ヲ定メ賠償一千萬法ノ支拂 Diego-Suarez ノ讓與ヲ約セシメ略々佛國カ欲スル所ノ大體ヲ得タレハ該條約ノ批評少ナカラサリシモ議會ノ可決ヲ經、一八八六年六月六日ヲ以テ公布セラレタリ

爰ニ於テ佛國政府ハ Le Myre de Vilers ヲ統監(Resident general)ニ任シ「タナナリヴ」ニ駐劄セシム一八八六年五月十日新統監任地ニ着スルヤ直チニ難問題起レリ其一ハ起債事件ニシテ「ホーヴ」政府ハ前記條約ニヨリ一千萬法ノ賠償金支拂等ニ充ツル爲メ英人 Kingston ト二千萬法借入ノ談判ヲ開ケリ Kingston ノ要求スル所ハ貸付金ニ對スル七朱ノ利子、紙

幣發行、貨幣鑄造ノ特權ヲ有スル國立銀行ノ創立、關稅受取ノ特權等ニテ若シ斯ノ如クナラハ「マダガスカル」ノ財政ハ全然英人ノ掌中ニ歸スヘシ因テ新統監斷乎トシテ之ニ反對シ佛國ハ Kingston ノ契約ヲ認メス從ツテ此契約ヨリ生スル事業ハ戰爭等ノ際ニ於テ何等ノ保護ヲ受クル得ザル旨ヲ新聞紙ニヨリテ暗示セシメシカハ Kingston ノ計畫全ク畫餅ニ歸シタリ當時 Rainilaiarivony 資金ノ必要ニ迫ラレ加フルニ統監ノ壓迫アリシカハ一八八六年十二月四日巴里引銀行 (Comptoir national d'Escompte de Paris) ヨリ千五百萬法郎年利六厘ニテ借入ル、契約ヲナシ翌一八八七年六月二十日ノ追加契約ニ據リ償却條件ヲ定メ Volkmar, Péreire, Tamateve, Yatomandry, Mananjary 及 Majunga 六港ノ關稅收入ヲ償却資金ニ充ツル事トセリ (現ニ巴里引銀行ノ「マダガスカル」島ノ各要市港ニ支店ヲ設ケ同島ノ金融ヲ獨占シ居ルハ之カ爲メナリ)

其二ハ Diego Suarez ノ境界問題ニシテ條約締結全權委員 Niot 及 Patimorio カ「ホーヅ」全權委員 Digby Wiloughby ニ與ヘテ條約ヲ註釋シタル書面中「ジエゴ、ジエアレ」ノ佛國居留地ハ灣ノ東西南ノ三面ハ一哩半北面ハ四哩ヲ以テ境界トスル旨ヲ記載シアルカ故ニ「ホーヅ」政府ハ之ヲ主張シタレトモ佛國政府ハ斯ル解釋ハ佛國政府ノ認メザル所ナリトシ居留地ノ水源ヲ得タル爲メ灣ノ南ハ二十四「キロメートル」ヲ以テ境界トスヘキ事ヲ統監ニ訓令シタリ爰ニ於テ兩國ノ境界劃定委員ハ現場ニ出張シテ研究スル所アリシモ何等決定スルニ至ラザリキ乃チ佛國政府ハ、一八八六年八月 17 Roger ヲ此地ノ理事官ニ任シ必要ニ應ジテ居留地ノ境界ヲ擴張セシト訓令シタリ後一八九五年戰ニハ此境異ハ灣ノ南三十「キロメートル」餘ニ擴張セラレタリ

第三ハ領事認可狀問題ナリ此問題ハ佛國ニ對シ實體的ノ利害大ナラサルカ如キモ事第三國トノ外交問題ニ關シ等閑ニスヘカラサル問題タリ

一八八七年四月首相 Rainilaiarivony ハ統監ニ計ルコトナク英米兩國領事ニ認可狀ヲ附與シタリ因テ統監ハカ、ル處置ハ一八八五年十二月ノ條約第一、二條ニ違背スルモノニシテ斯ル認可狀ハ其効力ナキモノナリト抗議シタリ首相之ニ答ヘテ曰ク斯ノ如キハ外交ニ關係ナキモノナレハ統監ノ監督ヲ受クルヲ要セスト爰ニ於テ佛國ト英米兩國間ノ妥協成リ英米兩國ハ其領事ヲシテ統監ヲ經テ更ニ認可狀ヲ請求セシメタリ然ルニ首相ハカ、ル條件ニテ認可狀ヲ發スル事ヲ拒ミタル爲メ談判將サニ破裂セントシ統監附護衛兵ハ命ニヨリ既ニ「タナナリヅ」ヲ出發シタリシカ後チ、二日口頭ニテ妥協成立セリ即チ統監ハ「マダガスカル」政府カ外國領事ニ直接ニ認可狀ヲ交付スルノ權アルヲ認ム但シ認可狀中「統監モ之ヲ認可セリ」(Le Résident Général en avait connaissance) ノ文句ヲ挿入スルヲ要スト、之ニテ認可狀問題モ局ヲ結ヘリ

「マダガスカル」政府ハ、一八八五年十二月ノ條約ニ基キ一千萬法郎償金ヲ支拂ヒタレハ佛國モ、一八八七年一月十五日ヲ以テ「タマタヅ」港ノ占領軍ヲ撤シ之ヲ「ホーヅ」ニ還附シタリ當時英人 Digby Wiloughby 歐洲ニ在リ「マダガスカル」女王ノ將官ニシテ又特派大使ナリト稱シ新聞紙ニ據リ聲言シテ曰ク「マダガスカル」ノ女王モ其政府モ佛國ニ對シ何等「マダガスカル」ヲ其保護國トナストノ權ヲ與ヘスト斯ル聲言ハ「マダガスカル」政府ノ許シ、モノニハ非サルヘシ然レトモ歐洲ニ於ケル此種ノ消息ハ常ニ同政府ノ熟知スル所タルニ拘ハラス何等取消シヲナサ、リキ斯ノ如ク佛馬兩國ノ國交未タ阻隔セルモノアルカ故ニ統監頻リニ之ヲ融和セントシテ其功ナク保護關係ハ猶ホ漫然タルモノアリシヲ以テ保護國トシテ「ホーヅ」ヲ從順ナラシメントセハ今一度兵力ヲ以テ之ヲ征服スルノ要アリ當時佛國ノ輿論ハ殖民軍ヲ起スコトヲ欲セザリシモ政治界及議會ハ其要ヲ覺知シタリ

一八八八年權謀家 Digby Wiloughby 潰職ノ故ヲ以テ「マダガスカル」ヨリ追放セラレタリシカ在任ノ英人並ニ其機關タル Madagascar Times 新聞ハ士民ヲ煽動シテ佛國ノ官憲ニ反抗セシメントセリ

一八九〇年八月五日英國首相 Salisbury ト駐英佛國大使 Watkinson ト調印シタル宣言書ハ佛國カ「ザンジバ」ノ英國保護地タルコトヲ承認シタルヨリ英國ハ「マダガスカル」島ノ佛國保護地タル事及之ヨリ生スル結果殊ニ英國領事官ノ認可狀ハ佛國統監ヲ經テ請求スヘキコトヲ承認シタリ而シテ同年十一月十七日ヲ以テ佛獨兩國間ニ同様ノ宣言書ハ調印セラレタリ、即チ佛國ハ獨乙カ「ザンジバ」王ノ亞非利加大陸ニ有スル土地及 Madagascar 島ノ占領ニ對シテ承認ヲ與フルモ

「ナリキ此報」度「タナナリツ」ニ達スルヤ人心非常ニ激昂シ佛馬兩國官憲ノ關係ハ全然中絶ノ姿トナリ首相 Rainier auryon ハ佛國統監ヲ經由シタル外國人ニ關スル事件ハ一切取扱フ事ヲ拒絕シ又獨乙領事 Tappenberg ノ認可狀ニ關シテハ、一八八五年ノ條約ヲ遵守スル事ヲ拒絕シタリ當時ノ佛國統監 Bonpard ハ、一八九一年六月二十六日付ヲ以テ外務大臣 Ribot ニ電報シテ曰クカ、ル形勢ヲ以テスレハ重大ナル事件ヲ發生スルニ至ルヤモ測リ難シ云ト以テ人心激昂ノ一斑ヲ推知スルニ足ル Bonpard 人心ヲ鎮靜スル爲メ佛國ニ歸リ統監代理ハ「ホーヴ」政府トノ國交ノ斷絶ヲ避ケントシテ一年間極メテ調和的ナル態度ヲ守レリ Bonpard ニ代リ Tarrayon 統監ニ任セラレ一八九二年末着任シ幾何モナク「タマタツ」ニ佛國裁判所ヲ新設シ（法律ニ據リ）翌一八九三年六月「ホーヴ」政府ニ向ツテ「タマタツ」「タナナリツ」間ノ電信線押領ニ反對シ（本線ガ「ホーヴ」政府ノ支拂ヒタル償金一千タリ當時佛國外務省ニ對シ「ホーヴ」政府ハ兵器彈藥ヲ購入スルコトヲ報告シタルヲ以テ佛國政府ハ一方ニハ統監ヲシテ兵器購入ニ對スル Rainier auryon ノ説明ヲ求メカ、ル事ヲ思止ルヘキ旨注意セシメ他方ニハ派遣海軍ノ兵數ヲ増シ兵器輸入ヲ監督セシメタリ恰モ島内諸地ニ不穩ノ企アリ若干ノ佛人或ハ苦シメラレ或ハ殺害セラル統監即チ犯罪者ノ處罰ヲ請求セルモ馬島政府之ニ應セザリキ以上ノ事情ハ佛國下院ヲシテ一八九四年一月二十二日ヲ以テ「マダガスカル」島ニ於ケル佛國ノ地位ト權利トヲ保持シ秩序ヲ回復シ國民ヲ保護シ國旗ヲ尊敬セシムルカ爲メ政府ノ取ルヘキ措置ヲ翼賛スヘシト決議セシメ言外暗ニ遠征軍派遣ノ全權ヲ政府ニ附與スルニ至ラシメタリ爰ニ於テ政府ハ先ツ Réunion 島及 Diego-Saraz 守備軍ヲ増加セシカ「ホーヴ」首相モ亦雇英人及軍事ニ從事シタル土人ト研究ノ末 Tannatve, Majunga, Tamatavive 三ヶ所ニ砲臺ヲ建設スルニ決セリ

同年六月十三日統監ノ一護衛兵ハ女王ノ甥 Rakonana 及其從者ノ爲メニ襲ハレ石ヲ以テ打殺セラレタリ其後數日此徒ハ又統監ノ使用人タル土人ヲ殺スヘシト脅嚇シタリ是等ノ事件ニ關シ統監嚴シク抗議スル所アリシモ犯人ハ刑セラレザリキ

統監ハ六月三十日付ヲ以テ重大ノ形勢トナレル事情ヲ外務大臣ニ具報シ其翌月二十七日電報ヲ以テ前信所報ノ形勢ヲ追

證シ其安固ヲ計ルカ爲メニハ歐洲人ハ本島ヲ退去スルノ必要アリト云ヒ遂ニ、九月四日付ヲ以テ「ホーヴ」首相ハ脅嚇的語調ヲ漏セル數通ノ書面ヲ送致セリト電報シタリ

爰ニ於テ佛國政府ハ一面ニハ統監 Tarrayon ヲ召還スルニ決シ先ツ歐洲人ノ婦人ハ小兒及病者ヲ隨ヘテ海岸ニ退去スヘク其護衛兵ハ殘シテ統監代理ノ護衛ニ當ラシムヘキ旨ヲ訓令シ他面ニハ全權委員ヲ派シ親シク其地ニ臨ミテ形勢ヲ調査セシメ速カニ同島ニ於ケル佛國人及外國人ノ安全ヲ擁護スルノ處置ヲ採ラシムルニ決シタリ Le Myre de Vilers 此重任ヲ拜シ詳細ノ訓令ト馬島政府ニ提出スヘキ條約案ヲ携ヘ九月十二日「タマタツ」ニ向ツテ出發セリ此條約案ハ、一八八五年ノ條約ノ解釋ヨリ生スヘキ將來ノ爭議ヲ避ケ同條約ニヨリ得タル佛國ノ權利ヲ明確ニセントスルモノニシテ左ノ五條ヨリ成レリ

第一條 「マダガスカル」女王ノ政府ハ同島ニ駐劄スル佛國統監ヲ經スシテ一切外國政府及其官憲ト交渉スル事ナカル

第二條 女王ノ政府ヨリ直接間接ニ佛國人若クハ外國人ニナス一切ノ讓與 (Concession) ハ承認ノ爲メ統監府ニ登記セラルヘシ然ラサルモノハ無効トス

第三條 佛國政府ハ「マダガスカル」島ニ於テ其國人及外國住民ノ安固ニ必要ト認ムル守備兵ヲ置クノ權利ヲ有ス

第四條 女王ノ政府ニ於テ自ラ其實行ニ任セサルニ於テハ佛國政府ハ同佛ノ繁榮ノ増進ヲ目的トスル港灣、道路、鐵道、電信、運河等ノ如キ公益ノ土木ヲ起シ之ニ關スル諸稅ヲ徵集スルコトヲ得

第五條 解釋ニ疑義ヲ生スル時ハ專ラ佛文ニヨリテ之ヲ決ス

Le Myre de Vilers ハ、十月十四日(日曜)「タナナリツ」ニ着シ其翌日及其翌々日ノ兩度首相 Rainier auryon ト會見シ佛國政府ノ意向ヲ知ラシメ前記ノ條約案ヲ交付シタリシカ首相ハ緩々閱讀セン事ヲ欲センヲ以テ佛國委員ハ、十九日ニ會見センコトヲ乞ヘリ然レトモ首相ハ同日及其翌日ヲモ避ケントシ愈々二十日ニ至リ猶ホ會見ヲ怠リシカハカ、ル態度ニ

對シ抗議ノ書面ヲ送り其末文ニ「小官ハ我カ政府ノ訓令ニ基キ來ル十月二十六日(金曜)午後六時迄ノ間ニ於テ本月十七日閣下ニ提出セル條約案ニ對スル女王ノ裁可批准ヲ得ヘキ責任ヲ閣下ニ歸スルノ止ムヲ得サルニ至レリ從ツテ若シ此滿足ヲ得ル能ハサルニ於テハ小官ハ國旗ヲ捲キテ貴都ヲ退去セサル可ラサルヲ認ム斯ル場合ニハ護衛兵及 Eyre 州(ホーヴ)本國)ニ住スル佛國人ハ悉ク海岸ニ引退スヘシ」ト書キ添ヘタリ

爰ニ於テ首相 Rainialaryony ハ二十二日午後三時ノ會見ヲ約シ此會見ニ於テ在「マダガスカル」佛國人ノ行動ニ對スル苦情ヲ列記シタル長文ノ書面ヲ呈出シ條約案ニ對シテハ左ノ意見ヲ提出シタリ

一八八五年十二月十七日ノ條約ヲ精査シ閣下提供ノ條約案第一條ニ關シテハ「マダガスカル」女王ノ政府ハ佛國共和政府ニ對シ「マダガスカル」ト外國政府トノ政治上ノ事件ノ監督ニ同意セシ事ヲ檢證ス

第二條ハ讓與ニ關ス由來讓與ハ內政事項ナリ佛國政府ハ前記一八八五年條約第二條ニ據リ內政ニ干涉セサル事ヲ約セラレタリ

第三條統監儀仗兵ノ員數ハ限定セラレ居レリ

第四條モ等シク內政ノ事項ニ屬ス

第五條ニ關シテハ前條約中佛語「モ」マダガスカル」語モ全然同効力ヲ有スル事ヲ規定シタリ

上記ノ如クナルカ故ニ本官ハ「マダガスカル」政府モ亦閣下ト意見ヲ同シクスル事及「マダガスカル」政府ハ兩國政府ノ間ニ既ニ締結セラレタル條約ヨリ更ラニ多キヲ求メ若クハ更ラニ少ナカラシム事ヲ求ムルモノニ非ザル事ヲ閣下ニ表明セント欲ス云々

即チ本書ハ巧ニ佛國全權委員ノ提案ヲ排斥シ一八八五年ノ條約ニ據ル事ヲ實體的ニ宣言シタルモノナレハ Le Myre de Villos 首相ノ此排斥ヲ譏サシメシコトヲ務メカ、ル態度ハ女王ノ爲メニモ臣民ノ爲メニモ共ニ危險ナル事ヲ説明シ其愛國心其國民ニ對スル慈父ノ情ヲ喚起シ其一身ノ利害ヲ省慮セシメ相互ノ舊來ノ關係友交ノ厚情ヲ想起セシメ又佛

國ノ兵力ハ「マダガスカル」ノ兵力ニ比シ強大優等其差霄壤ナル事等ヲモ説明シタレトモ Rainialaryony ハ頑トシテ動

カス何レ明日閣下ノ提案ニ對シ議論モナカルヘキ對案ヲ呈出スヘシト云ヒシニ止マレリ

翌日(一八九四年十月二十四日)首相ハ對案ナルモノヲ佛國全權ノ委員ニ送呈セリ

此條約文ノ佛國ニ知ラル、ヤ評論家四方ニ起リ曰ク

斯ノ如キハ對等ノ條約ニシテ戰敗者ノ降服條件ト認ムヘカラス前提ニ「佛國共和政府ト「マダガスカル」女王陛下ノ政府ト」ナル文字アリ第一條ニハ「マダガスカル」女王陛下ノ政府ハ保護國タル事及之ニ伴フ一切ノ結果ヲ承認ス」ナル文字アリテ佛國ハ「ホーヴ」政府ノ存在ヲ認ムルノミナラス殆ト之ト同等ノ地位ニ在リテ締結スルノミニシテ佛國カ同島ヲ占領シタル事ヲ語ラス而シテ單ニ保護國ト云ヘハ半屬國ノ意味ニ過キス然ルニ佛國ハ其保護ノ全責任ニ當ラサルヘカラス一八八五年條約ヲ更ラニ確メタルニ過キスト

其二條ニ「佛國政府ハ「マダガスカル」女王陛下ノ許ニ統監ヲ派シテ代表セシム」トハ何タル文字ソヤ前條ノ意義ヲ更ラニ減縮スルモノニシテ「マダガスカル」政府ニ對シ直接ノ權力ヲ有セサル一代表者ヲ派遣スト云フニ在リテ隱然臣民ニ對スル女王ノ主權ヲ認ムルモノナリ其三條五條ハ餘リニ統監ノ職權ヲ局限シ本國ト被保護國トノ利益ノ爲メ外務大臣ノ職務ヲ執ルト内政ノ監督ヲナストニ止ム此監督ナルモノハ權力モナク強制ノ方法モナケレハ意見ヲ陳シ忠告ヲナスノ外ナク若シ聽カサレハ本國ニ報告シ兵力ヲ以テ之ヲ強フルノ外アラサルヘク斯ノ如キハ猥リニ爲シ能ハサル所ニシテ何タル不便ノ文字ソヤ第四條ハ保護ニ必要ト認ムル兵力ヲ置クトシ其増減ノ自由ヲ留保シタルハ甚タ可ナリ然レトモ「マダガスカル」政府ニ於テ兵備ヲ有スルコトヲ禁セス若シ同政府モ相當ノ兵備ヲ有スルモノトセハ佛國モ相當ニ多數ノ兵力ヲ常備セサル可ラス斯ノ如キハ其負擔モ少ナカラサルヘク又多數ノ兵ヲ遠隔地ニ派遣シ置ク事ハ母國一朝事アルニ當リ甚タ不便ヲ感セスハアラス而シテ七條ハ「チエゴ、シユアレ」ニ於ケル佛國殖民地ノ境界ニ關ス既ニ境界ヲ云フ是レ即チ此境界線以南ニ對スル「ホーヴ」ノ權利ヲ認ムルモノナリ云々ト

要スルニ本條約ノ從來ノ條約ニ比シ佛國ノ爲メ有利ナルハ一般ノ認ムル所ナレトモ此遠征ニヨリ佛國ノ失ヒタル所ト此條約ニヨリ佛國ノ得タル所トヲ比スレハ得失相償ハスルハ諸評論ノ一致スル所ニシテ本條約文ノ起草者タル前外務大臣 Haouank 氏ノ如キモ亦同論ナリキ然レトモ其コ、ニ至リタルハ事情ノ已ムラ得サルモノアリシナリ一八九五年末、ジエネラル、ヂュシエン」カ「ランシヨ」氏ト巴里ヲ出立スル際外務大臣 Haouank 氏ハ條約文及訓令ヲ授ケタリシカ當時佛國政府ハ第二「マダガスカル」政府ハ先非ヲ悔イ遠征軍カ「タナナリ」ニ向ツテ進軍スル間ニ媾和條約ヲ締結ヲ務ムルコトモアラン第二「マダガスカル」政府ハ佛軍ノ「タナナリ」ヲ占領スルヲ待ツテ降服スルコトモアラン第三最後迄抵抗ヲ試ミツレヨリ都城ヲ棄テ、其兵士臣民ノ爲メ糧米ヲ得ヘキ南部ニ退却スルコトモアラント豫想セリ而シテ本條約文ハ就中第一ニ場合ニ適合セシ爲メニ作成セラレタリ蓋シ斯ル場合ニ於テ過重ノ條件ヲ課スルハ却テ愛國者ヲ絶望セシムルノ不利アレハナリ

尤モ佛國政府モ戰爭ノ終結ヲ知リタル時遠征軍ノ困難其犠牲ノ大ナル事ヲ思ヒ之ニ相當セル利益ヲ收メントシ時ノ外務大臣ハ九月十八日ヲ以テ「ジエネラル、ヂュシエン」ニ條約文ノ變更ニ關スル電訓ヲ發シタレトモ本電訓ハ、十月七日「タナナリ」ニ著シ既ニ條約ノ調印批准ヲ了シタル後ニテ如何トモスル能ハサリキ
 竊ツテ「マダガスカル」側ヲ見レハ女王始メ首相以下一般「タナナリ」陷落後ハ佛國ノ要求モ多大ナルベシト期シタルニ豫想外ニ穩和ナリシカハ斯ル状態ナラハ「マダガスカル」政府モ大ナル變化ナクシテ存在スヘシト思惟セリ又「タナナリ」ニ來リタル兵數意外ニ少ナリシカハ初メハ先鋒隊ト想像シタリシニ其然ラサルヲ知ルニ及ンテカクノ如キ兵數ナラハ遠カラズ之ヲ「イメリナ」州外ニ驅逐シ得ルノ機アルヘキヲ思ヒ成ルヘク兵器ノ引渡シヲ遲滞セントシタルカ爲メ Baolalanivony ノ態度ハ乍チ佛國官憲ノ疑ヲ招キタリ「ホー」ハ今回ノ敗北ニヨリテ未タ絶望セス機會來ラハ直チニ報復ヲ企ツヘシト思ハシメタリ
 因テ佛國官憲ハ此計畫ヲ根絶スル爲メ首相及其幕僚ヲ捕ヘテ之ヲ追放スルコトヲ決シタリ、「ジエネラル、ヂュシエン」

乃チ女王ニ説キ内務大臣 Rainisambazaly ヲ擧ケテ首相タラシメ Rainilariyony ハ「Tharasoatra」ノ離宮ニ幽閉シタリ爾來「タナナリ」ノ形勢一變シ地方ノ官憲モ女王ノ命ニヨリテ佛國官憲ニ服従スルニ至レリ
 爾後十一月二十二日即チ「マダガスカル」ノ一月元日ニシテ「Pandroana」ノ祭日トス「タナナリ」ノ南西四十「キロメト」ト「アル Arivonimamo」ニ於テ暴民英國牧師及其家族ヲ斬殺シタル事アリ十二月東海岸 Mahanoro 附近ノ山地ニモ亦多少ノ暴動アリシモ直チニ鎮定シタリ
 佛國政府ハ、一八九五年十二月十二日「マダガスカル」島ノ事務ヲ外務省ヨリ割キテ之ヲ殖民省ニ屬セシメ翌日 Hippolyte Taboré ナ「マダガスカル」統監ニ任ジタリ新統監ハ一八九六年一月十六日「タナナリ」ニ着任シ「ジエネラル、ヂュシエン」ニヨリテ女王ニ謁見シ後二日携ヘ來レル宣言書ニ容易ク女王ノ調印ヲ得タリ新統監何タル幸運ヲ即チ、一八九六年一月十八日付女王ノ宣言書ナルモノ左ノ如シ(附録第三參照)
 此宣言書ハ、一八九五年十月一日ノ條約書ニ代フル爲メ「アノド」氏カ起草シタルモノニシテ「マダガスカル」島ヲ純粹ノ保護國トナシタルモノナリ然レトモ佛國官憲ヲシテ悉ク其内政ヲ取扱ハシメントセハ同島ノ風土事情ニ通スル多數ノ官吏ヲ派遣セザル可ラスシテ實際困難ナルト多額ノ負擔ヲ恐レ同島ノ合併ニ反對スル論者モアリタルトニヨリ單ニ「統監」ハ内政ヲ監督スヘシ」トナシタルモノニシテカクノ如クセハ必要ニ應ジテ此監督ナル文字ノ意義ヲ擴大スル事ヲ得ヘク又反對論者ヲ満足セシムルヲ得ヘケレハナリ而シテ此宣言書ヲ以テ十月一日ノ條約書ニ比セハ頗ル相異ノ點ヲ認ムヘシ第一ニ宣言書ハ「マダガスカル」ノ女王ノ命ニ調印シタルモノニシテ佛國ニ對シ其降服ヲ證言シ又相手ノ調印者ナキ爲メ法律ニ對等ノ地位ヲ失ヒタルモノナリ次キニ前提ニ於テ「佛國政府」ノ爲シタル「マダガスカル」島領有ノ宣言ヲ知悉シトスルハ「マダガスカル」ノ主權ノ佛國ニ歸シタルヲ意味シ女王カ猶ホ主權ノ一部ヲ執行スルハ佛國ノ委任ニ基クモノニシテ佛國ハ何時ニテモ此委任ヲ解除シ得ヘキヲ意味ス猶ホ此委任ハ第一條及第四條ヨリ暗ニ同意ヲ得タルモノト見做スヘシ蓋シ此兩條ハ統監監督ノ下ニ女王ヲシテ内政ヲ行ハシメ佛國政府ハ經濟的發展ニ利益アリト認ムル政務ヲ指揮スル事

トシ又有益ノ改革ヲナス爲メ其威權ヲ保ツニ必要ナル兵力ヲ有スルノ權ヲ留保シアレハ單純ノ保護國以上ノ實權ヲ收ムレハナリ爾後ハ「マダガスカル」政府ナルモノモナク統監カ地方行政ヲ助ケシムル爲メ必要トスル以外ニ「ホーヴ」軍隊ナルモノモナキノ理ナリ而シテ宣言書ノ第二條ハ外國政府ニ對スル佛國ノ權利ヲ規定シ前條約ノ第三條ヲ寫シタルモノニシテ第五條ハ「マダガスカル」政府ニ募債ヲ禁スル前條約ノ第五條ヲ掲ケタルモノナリ

一言之ヲ評スレハ「マダガスカル」ハ内政ニ關シテハ佛國ノ保護國ニシテ外交ニ關シテハ其屬國タルノ有様トナレリカ、ル情態ニ於テ統監ノ權限ヲ檢スル亦興味ナシトセズ
即チ統監ハ「マダガスカル」全島及其屬島ニ對スル佛蘭西共和國ノ權力ノ執行ヲ委任セラレタルモノナレハ其權限ハ單純ナル保護國ノ代表者ヨリ大ニシテ一般政務ノ上ニ及ビ「マダガスカル」島内外ノ防備ニ關シテモ責任アリ然レドモ「マダガスカル」ニテハ例外トシテ軍人ハ統監ニ屬セサルコト、ナリ居レリ即チ第五條ニ「司令長官ハ軍隊ヲ命令ス而シテ軍令、軍紀、人事、軍需品、軍事行政、軍事裁判ニ關スル一切ノ事項ニ付テハ所屬大臣ト通信ス——統監兵力ヲ用ウルノ必要アル時ハ司令長官ト協定ス若シ意見合セサル場合若クハ主務大臣ノ裁決ヲ乞フニ暇アラサル時ハ統監ハ請求ノ方法ニ依ル」トアルハ當時ノ事情ニ於テ不便ヲ免レザリキ

カ、ル事情ノ下ニ於テ統監「Larocque」ノ政策トシテ先ツ女王ヲシテ宣言書ニ署名セシメタルハ上記ノ如シキニ「Painlevé」官職ノ剝奪シタル「ジュネラル、デユシモン」ノ處置ヲ贊シ之ヲ「アルジェリー」ノ都府「アルジェ」ニ移シタリ而シテ女王其侍臣其臣民ニ對シテハ厚意ヲ示シ誠實ナル保護ヲ行ヒ「ホーヴ」ノ制度及「ホーヴ」官吏ヲ利用センコトヲ務メ警察、内政、教育、産業等ニ關シ大ニ施設スル所アリタリ

因ニ云フ「ホーヴ」不出生ノ名相「Painlevé」ハ、一八九六年七月十七日「アルジェリー」ニ於テ歿セリ英雄非運空シク諡所ニ愼死ス惻レムニ堪フ佛國政府其遺骸ヲ「タナナリヴ」ニ葬ルヲ許セリ（口繪參照）
一八九六年二月「イメリナ」州ノ西部及北部不穩ノ報アリ乍チニシテ鎮定シタルモノ、如クナリシガ數週ヲ出テスシテ更

ラニ叛徒蜂起ノ報アリシモ例年雨期末ニハ割盜掠奪四方ニ行ハル、カ故ニ初メハ統監府ニ於テモ介意セザリシカ其抵抗方稍々強ク騷亂漸次傳播ノ形勢ニテ十一月ノ反亂ニ似タルモノアリ且ツ愛國ノ志士奇カニ之ニ欸ヲ通スル事明カトナリ
コ、ニ一般ノ憂フル所トナレリ

佛國遠征軍ノ「タナナリヴ」ヲ陥落シタル當時「ホーヴ」人ハ其兵數ノ少ナキヲ知ルヲ以テ今叛徒ニ力ヲ貸サハ悉ク外人ヲ驅逐スルヲ得ヘシト信シ不逞ノ徒集合シテ一隊ヲナシ前王朝ノ士官ニシテ「アンツアトラナ」ノ知事タリシ「Radozaka」及憤懣ナル「Radozaka」ヲ戴キ二月頃ヨリ「マンゴロ」河ノ上流地方ヲ剽掠シタリ「イメリナ」州ノ東南地方ニハ凶賊「Painlevé」及「Bustinsarakaka」暴徒ヲ率キテ佛國人三名ヲ虐殺シタリ爾來凶徒次第ニ暴行ヲ恣ニシ容易ク鎮定スル能ハサリシカハ勢益々猖獗トナリ一萬五千法ノ賞金ヲ掲ケテ統監ノ首ヲ求ムルニ至レリ爰ニ於テ女王勅ヲ發シテ凶徒ヲ論ス所アリシモ叛徒益々其數ヲ加ヘ各所ニ佛人ヲ虐殺シ「タナナリヴ」間ノ電線ヲ數ヶ所ニ於テ切斷シ三百餘ノ村落ヲ燒棄シ至ル所寺院ヲ破壞シタリ即チ一般歐洲人及耶穌教ニ對スル排斥運動ナリキ是等ノ凶賊ハ次第ニ「タナナリヴ」ニ攻メ寄セ正サニ三十「キロメートル」ノ近キニ達セリ當時統監ハ新領土ノ臣民ニ對シテ恩惠ヲ施シ之ヲ悅服スルノ方針ヲ取リシカ昔嚴ノ手段ヲ避ケ正義寬大百事ヲ處セントシ臨機ノ處置トシテ「イメリナ」ノ諸點ニ哨兵ヲ配置センコトヲ軍司令部ニ請求シタリ（「ラロツシ」ハ現制ノ不便ヲ認メ政務軍務ノ合一セザル可ラザルヲ本國政府ニ稟請シタリト云フ）

當時佛國ニ於テモ諸新聞類リニ「マダガスカル」ノ通信ヲ傳ヘ其爲政機關ノ組織ニ關スル評論ヲ試ミ「マダガスカル」問題ハコ、ニ再ヒ佛國朝野ノ問題トナレリ

外國政府ニ於テモ亦當時「マダガスカル」ニ關シ論ナキニ非サリキ佛國ヨリ「マダガスカル」領有ノ通知ニ接シ諸強國殊ニ舊來最モ同島ニ利害ノ關係ヲ有スル英米兩國ハ佛國政府ノ「マダガスカル」領有（as High as Possession）ハ未タ其殖民の領地ニ併合シタリトノ意義トナラス否ナ其保護國タルコトヲ確メタルニ過キスシテ「マダガスカル」國民ナルモノハ猶ホ存在スルモノナリ蓋シ其自治の存在ハ其女王ト諸外國（佛國モ其一國ナリ）トノ諸般ノ條約ニヨリテ設定セラレ居レハ

カリ一月十八日ノ宣言ニヨリテ「マダガスカル」ノ主權者ハ佛國政府ニ外政ノ執行ト内政ノ監督トヲ交附シタリト雖其ノ地位ニ變化ヲ來ササルモクナリ故ニ諸國カ女王ト結ビタル舊來ノ諸條約ハ完全ニ効力アルモノニシテ殊ニ其臣民ノ「マダガスカル」人トノ通商關係並ニ其輸入品ニ對スル關稅額及關稅率ニ於テ然リトス從ツテ佛國ハ關稅制度ヲ變更スルノ權ナク締約諸國ハ佛國カ將來享有スヘキ此種ノ利益ノ全部ニ均霑スヘキモノナリ云々ト主張シタリ

「メリトン」氏佛國內閣ヲ組織スルニ當リ「アントー」氏再ヒ入ツテ外務大臣タリ氏ハカカル形勢ノ下ニ於テ「マダガスカル」問題ヲ解決セントシ「八九六年五月三十日」下院ニ向ツテ左ノ單條法案ヲ提出セリ

「マダガスカル」島及之ニ屬スル諸島ヲ佛國殖民地ト聲明ス

而シテ首相「Delisle」外務大臣「Langeux」殖民大臣「Andre」Lelouinノ署名セル此單條法案ノ說明書中ニ曰ク佛國ハ「マダガスカル」ノ征服ニ多大ノ犠牲ヲ拂ヒタリ而シテカカル不安ノ情態ノ繼續ハ佛國一切ノ利益ヲ害スルモノニシテ速カニ救済スルノ必要アレハ本法案ノ如ク聲明ヲナサントスルモノガリ蓋シ現今ノ事情ニ顧ルニカクノ如ク本問題ヲ解決スルハ最モ明瞭ニ最モ簡單ニ最モ合理ニシテ「マダガスカル」ノ將來ヲ隱蔽スル暗雲ヲ掃去スルニ最モ適切ナルヲ認ムレバナリ云々此法案ノ精神ハ其内政ニ關シテ何等ノ變更ヲナサントスルモノニ非ス佛國政府ハ島民ノ人權其法律其習慣其制度ニ何等ノ打撃ヲナサントスルモノニ非ス而シテ本案ノ意味範圍ヲ明カニスル爲メ說明ヲ要スルモノニスリ「殖民事項」ニ關シ普通法適用ノ主義ニ基キ佛國法律ハ將來「マダガスカル」島ニ適用セラレヘシ但シ是等法律適用セラレル時ハ豫メ特ニ公布セラレヘク斯ノ如クシテ順次本國法ヲ同島ニ施行スルモノトス猶ホ此場合ニハ本國法ヲ多少變更シテ施行スル事アルヘシ「土人」ノ權力ヲ利用スル事ニシテカクノ如キハ殖民地ヲ有スル諸國ノ先例モアリ佛國自身ニテモ内政ニ關シテカカル先例ヲ有ス從ツテ「ラナヴァアロナ」女王ハ其王號ヲ稱シ之ニ伴フ尊敬ト利益トヲ保持スヘシ但シ佛國主權ノ下ニアリテ之ヲ保持スルモノニシテ之カ爲メ女王ノ「調印シタル片務的公書」ヲ發表ヲ要ス土人ノ酋長モ亦之ニ準ス云々ト

本法案討論中「六月十八日及二十日」レニユエオン島代議士「B. B. B.」氏ハ女王ヲ廢スヘシト主張シタリシモ原案ノ通り可決セラレ同時ニ下院ハ全院五百四十四名ノ一致ヲ以テ左ノ日程ヲ可決シタリ

「マダガスカル」島ハ佛國殖民地ト聲明セラレタルカ故ニ同島ニ於ケル奴隸制度ハ廢止セラレタリ因テ政府ハ速カニ奴隸解放ヲ確保スヘキ處置ヲ取ルベシ

上記ノ議決ハ上院ノ贊同ヲ得「一九〇六年八月八日」ノ官報ヲ以テ公布セラレタリ

此宣言公布ノ結果假リニ同島ニ適用スベキ關稅率ニ關シ同官報ハ左ノ記事ヲ掲載セリ

「マダガスカル」ノ關稅制度

「マダガスカル」島併合ノ結果殖民大臣ハ同島ト通商關係ヲ有スル商人一般ニ左ノ告示ヲナス、本告示ハ八月十日ノ便ヲ以テ同島ノ主務官ニ通知シタレハ同島ニ於テ合併法律公布ノ日ヨリ施行セラレ

一 佛國若クハ佛國殖民地ヨリ直接同島ニ輸入スル佛國產物品ハ無稅タルヘシ即チ從來課セラレタル從價一割ノ税金ハ免除セラレヘシ

二 佛國產品「マダガスカル」無稅輸入ハ佛國商人ヨリ商品仕出港ノ本國稅關ノ發給ニカ、リ該物品カ佛國產ナル事又ハ一旦納稅ノ結果佛國品ト見做スヘキ事ヲ證明シタル免稅書ヲ提出スルヲ要ス

三 佛國ヨリ送附セラレタル物品ニシテ假輸入測定ノ拂出トナルモノハ殖民地關稅制度制定迄ハ「マダガスカル」ニテ無稅トス

四 關稅規則制定迄一切ノ外國產物品ハ一般ニ從價一割ナル現行稅ヲ課ス

「マダガスカル」ノ騒動ハ合邦當時最モ猖獗ヲ極メシカ合併ヨリテ佛國ノ行動ヲ掣肘スル國際爭議ハ全然消滅シ佛國ノ權義コ、ニ明瞭トナリタレハ運カニ島内ノ平和ヲ回復シ未ダ歸セサルノ土民ヲ征服スルニ決シ之カ爲メ占領制度ヲ採用シ不穩ノ地方ハ民政ヲ改メテ軍政ヲ布クニ決シタリ

第三章 歴史

二五七

此見地ヨリ有爲ナル司令長官ヲ派遣スルニ決シ先ツ滿期ナル「ジエネラル、ヴォワイロン」ノ代任トシテ海軍歩兵大佐 Gallieni ヲシテ司令長官ノ職務ヲ執ラシメ猶ホ總督ノ任務ヲ委任セン豫想ニテ「ジエネラル」ニ昇任シテ「マダガスカル」ニ發遣シタリ同時ニ「ラロツシ」氏ノ稟議ニ基キ統監ト司令長官トノ關係ヲ規定セル一八九五年十二月十一日勅令第五條ヲ廢シ文武ノ命令ニ途ニ出ツル事ト司令長官ハ統監ニ屬スル事トナシタリ

「ジエネラル、ガリエニ」タナナリツ「府到着後十日即チ、九月二十五日夜殖民大臣ヨリ統監ニ電訓アリ「ジエネラル、ガリエニ」ハ統監代理兼司令長官ニ任セラレタレハ事務ヲ引繼クヘシト即チ、二十八日行政會議ヲ開キコ、ニ事務引繼ノ手續ヲ了セリ

其前日統監ハ「マダガスカル」官報ヲ以テ合併ノ法律、行政會議組織ノ法令、奴隸廢止令、「イメリナ、ベチレオ」ニ戒嚴令ヲ布クノ件、防備會議設置ノ件ヲ公布シ「ラナヅァロナ」三世モ同官報ニテ叛徒ハ佛國官憲ニ降服スヘク人民ハ叛徒ヲ討伐スヘシトノ勅諭ヲ發シタリ

當時(一八九六年九月末)「マダガスカル」ニ於ケル形勢ヲ顧ルニ叛亂殆ト全佛ニ普ネク中央高原中「タナナリツ」及其附近ノミ僅カニ佛國ノ威力ニ服順シ居レリ「タナナリツ」タマタツ「間ノ道路甚タ不穩ニシテ物貨ノ輸送ニハ必ラス護衛ヲ要スルノ有様ナリキ」之ヲ鎮定シテ秩序ヲ回復シ土民ヲシテ佛國ニ悅服セシムルハ容易ナラサル事業ナリトス「ジエネラル、ガリエニ」ニハ此難事業ヲ遂クル人物ナリキ先ツ *Antananarivo* (油ノシミ)ト稱セラレタル方法ニテ中央ヨリ次第ニ叛徒ヲ八方ニ擊退シ遠ク重軍ヲ送ルコトナク近ク輕兵ヲ派シテ着々叛ヲ征服シ若干ノ距離ヲ隔テ、哨舎ヲ設ケ各哨ヲシテ緩急相救フヘカラシメ歸服セル村落ニハ古銃ヲ分配シテ各自ニ其生命財産ヲ保護セシメ並ニ土人ノ警吏ヲ増シ又鎮定平和ノ地方ニハ文官ヲ送リテ民政ヲ施シ叛亂不治ノ地方ハ武官ヲ派シテ軍政ヲ布キ軍政團 (*corde militaire*) ニ佐官ヲ置キ充分ノ權限ヲ付シテ統監若クハ司令官ニ直隸セシメ其下ニ若干ノ線(小軍政區、*secteur*)ヲ設ケ尉官ヲシテ長タラシメ軍政團長ノ指揮ヲ仰カシメ其他土兵ヲ募リテ輸送護衛、倉庫守衛ノ如キ警察任務ニ當ラシメ沿岸地方ニハ佛國兵少ナキカ

故ニ各理事廳ニ土兵一中隊ヲ置キ兵器ヲ配與セル村落ト協力シテ暴徒ノ掠奪ヲ拒カシメ而シテ「タマタツ」、「タナナリツ」間ノ道路附近ノ森林ヲ伐採シテ盜賊ノ潜伏スル所ナカラシメ哨兵ノ數ヲ増シ護衛ノ數ヲ加ヘテ輸送ヲ便ニセリ

土人ニ對シテハ「ホーヅ」ノ擅制情態ヲ矯正セントシ「イメリナ」州以外ノ各地方ニ於テハ「ホーヅ」ノ長 (*gouverneur*) 「マダガスカル」ニテハ甚タ低キ官職ニモ「グーヅエルナル」ナル名ヲ附ス縣屬、郡書記、警部、村吏ノ如キモノ皆此稱ヲ有ス」ヲ召還シ其地方ノ人才ヲ擧ゲテ之ニ代ラシメ(務メテ選舉セシム)地方ノ利益保護ニ關シテハ其地方人ヲシテ之ニ干與セシメ一面ニハ「ホーヅ」ノ羈絆ヲ脱セシメ一面ニハ佛國ノ親切公正ナル保護ニヨリ自由ヲ樂シメタリ其他參謀長ヲ「タマタツ」ニ駐在セシメテ電信線ノ運用ヲ確保シ通信ノ迅速確實ヲ保テ遠隔ノ地方官ニハ委任條件ヲ擴張セシメ其權限ヲ大ニシ其行動ノ範圍ヲ自由ニシテ結果ニ對スル責任ヲ負ハシメ其施設畫策頗ル見ルヘキモノアリ而シテコ、ニ特記スルヲ要スルハ「ガリエニ」將軍ノ女王「ラナヅァロナ」三世ニ對スル明確ナル態度ニシテ其「タナナリツ」ニ着スルヤ女王ハ將軍先ツ來リテ敬意ヲ表スヘシト思惟セル如クナリシモ將軍却テ女王ニ告ケシメテ曰ク女王ハ佛國ノ臣ナリ佛國代表者コ、ニ臨マハ其臣タルモノ先ツ來リテ敬意ヲ表スルヲ禮トスト爰ニ於テ九月二十八日女王先ツ將軍ヲ訪問シタリ翌日將軍答禮トシテ女王ヲ訪フ王城「ホーヅ」旗ヲ掲クルヲ答メ之ヲ撤シテ佛國旗ヲ掲ケシメ後初メテ王城ニ入りテ答禮ヲ了セリ此ノ如キハ形式ニ過キナルカ如クナルモ瀛乎タル其舉止大ニ人心ヲ威服シタルモノアラン

王朝ノ土民ニ對スル威勢ヲ利用スル爲メ暫ク王朝ヲ存スルノ要ヲ認メタルモ事務ノ進行ヲ阻止スルノ恐アル特權ハ之ヲ剝奪シ女王ノ侍臣ニシテ佛國ノ不利トナルヘキモノハ之ヲ退ケ叛徒ト關係アルハ之ヲ嚴罰シ時勢ノ要求スル處分ハ之ヲ勵行シテ毫モ假借スル所ナシ女王ノ伯父 *Katsinmanaga* 及内務大臣 *Rainandriamanjandry* ヲ軍法會議ニ附シ一八九六年十月十六日共ニ之ヲ死刑ニ處シ女王ノ伯母 *Ranandriazana* ヲ流刑ニ處シ其財産ヲ沒收シタルカ如キ即チ其例ナリ

カクノ如クナリシカハ秩序次第ニ回復シ一八九六年末ニハ「タナナリツ」タマタツ「間ノ道路ハ通行安全トナリ翌一八九七年二月ニハ「タナナリツ」マシユンガ」間ノ通路モ少數ノ兵士ニテ交通シ得ルニ至リ叛亂地方ノ住民モ次第ニ兵器ヲ投

シテ村里ニ歸リ再ヒ素相ヲ取ルニ至レリ然レトモ中央高原ノ北部及北東部並ニ南東ニハ賊魁猶ホ未タ服從セサレハ之ヲ勦滅セサル可カラサリシカ、コ、ニ「ジエネラル、ガリエニ」ノ策腕ヲ振ヒタル大事業アリ女王「ラナヅァロナ」三世ヲ廢シ「ホーヴ」王朝ヲ絶滅シタル事ナリ

幾多ノ「ホーヴ」貴族ハ女王ノ名ヲ藉リテ佛國反對ノ密謀ヲ企テタリ女王ハ實際之ニ干與セザリシモノ、如シ然レトモコノ徒女王ヲ擁シテ事ヲ學クルニ至ラハ佛國ハ再ヒ「マダガスカル」征服ノ業ヲ繰リ返サ、ル可カラズシテ從來ノ苦心經營水泡ニ歸スルノ憂アリ佛國ノ見地ヨリスレハ將來多ク女王ヲ利用スルノ要ナキノミナラス既ニ佛國ノ領土タル地ニ猶ホ國王ノ反映タニ存スルハ甚タ謂ハレナキ所且ツ王朝ヲ亡滅スルハ永久ニ貴族等ノ陰謀ヲ根絶スル所以ニシテ又土民ヲシテ能ク佛國ニ歸服セシムル所以ナレハ女王及其王朝ハ廢スルニ利アリテ存スルニ害アリ「ジエネラル、ガリエニ」決スル所アリ一八九七年二月二十七日夜密カニ一切ノ準備ヲ整ヘ女王「ラナヅァロナ」三世ニ直チニ王位ヲ退クヘキ旨ヲ傳ヘダリ女王ハ如何トモスヘカラサルヲ見直チニ之ヲ承諾シ、何時ニモテ配所ニ赴クヘシト答ヘタリ即チ翌二十七日午前二時「タマタヅ」ヲ經テ配所「レニニオン」ニ到ル爲メ護衛兵ト共ニ「タナナリヅ」ヲ出發セシメタリ之ヲ女王ノ「タナナリヅ」都城ノ永訣トス其心情實ニ惘ムヘシ

二十八日朝ハ城内各所ニ告示ヲ掲ケ女王位ヲ退キ配所ヘ出發セシ事ヲ都民ニ知ラシメタリ女王ニハ年金二萬五千法ヲ給シ之ヲ「マダガスカル」島ノ經濟ヨリ支出スル事トシタルカ女王「アルジェリー」ノ都府「アルジェ」ニ永住セシムルニ及シテ之ヲ三萬五千法ニ増額シタリ

二月二十八日令ヲ發シ「イメリナ」ノ王朝ヲ廢シ「イメリナ」州ハ「ホーヴ」人ノ總督(Gouverneur Général)ヲ置キ佛國官憲ノ監督ノ下ニ之ヲ管轄セシム即チ「Rasauy」ヲ總督ニ任シタリ「Rasauy」ハ首相 Rainilaiarivony ノ書記官長タリシカ爾後能ク佛國ニ歸順シ才幹用ウヘキモノアリシニ因ル

將軍「ガリエニ」ノ豫期ニ違ハス廢王ノ舉ハ格別人心ヲ激スル事ナク多數ハ殆ト無頓着ナリシノミナラス中ニハ貴族ノ專

ヲ免レタルヲ喜フモノアリキ

七月十四日ノ共和祭ヲ以テ「イメリナ」ノ國祭トナシ三百年來國祭トシタル Fandouana (女王ノ入浴ノ儀式)ヲ廢シ猶ホ土民ノ腦裏ヨリ王朝ノ痕跡ヲ拂拭スル爲メ女王ノ宮殿ヲ商品及歴史博物館トナシ之ヲ王朝祖宗ノ廟地ヨリ「タナナリヅ」ニ移シタリ

「ジエネラル、ガリエニ」ハ從來統監代理タリシカ一八九七年七月三十日「マダガスカル」及其屬島ヲ管轄スル總督 Gouverneur Généralニ任セラレ統監府ハ改メテ總督府トナリタリ爾後總督「ガリエニ」ハ孜孜本島ノ經營ニ當リ「マダガスカル」今日ノ基礎ヲ確立シタリ其畫策施設ハ「ジエネラル、ガリエニ」ノ行政報告之ヲ詳述ス

「マダガスカル」島コ、ニ於テ王朝ナルモノナク其佛國殖民地タル事ハ世界ニ聲明セラレタリ而シテ統監ヲ廢シテ總督ヲ置キ全島佛國ノ治ニ服ス同島カ佛國殖民地タル形式實體共ニ完備シタリト云フヘシ

第四章 行政組織及司法制度

第一節 行政組織

「マダガスカル」及其屬島(Mayotte, Anjouan, Mohéli, La Grande Comore 及其屬島ヲ含有ス)ノ行政及防備ハ拓殖大臣ニ直屬スル總督ニ委任セラレ總督ハ又陸海軍ヲ指揮命令ス

總督ハ示達法令ヲ公布ス

一 總督ノ部下ニ左ノ職員ヲ置ク

- 財務部長(仕拂命令官) 檢事長(司法部長官) 土木部長
- 關稅局長 官有財産局長 鑛山局長
- 郵電局長 農務局長 教育局長

第四章 行政組織及司法制度

製圖設計局長

出納局長

會計監督部長

二 行政會議 (Conseil d'Administration)

總督ノ下ニ行政會議ナル諮問機關ヲ設ク

行政會議ハ左ノ官吏ヲ以テ組織ス

議長 總督

議員 海陸軍司令長官

議員 檢察長(司法長官)

同 財務部長

同 土木部長

同 官有財産局長

同 外ニ重立ナル住民或名

書記官司書 總督府員中ヨリ總督之ヲ任名ス

財務監督部長ハ員外トシテ本會議ニ列ス或名ノ重立タル住民(參年以上本殖民地ニ住スル滿參拾歳以上ノ佛國公民)

ハ總督ニ於テ本國殖民大臣ノ承認ヲ經テ任命ス但シ貳年間ノ任期ハ更新スル事ヲ得而シテ其補缺或名モ同條件ニテ任命セラル

本會議ハ歳入歳出豫算及ヒ年度末ニ於テハ決算ノ各章ニ對スル意見ヲ諮問スル爲メ召集セラル其他「マダガスカル」ニ

於ケル事務ノ組織運用ニ關スル法令規則ニ對シテモ諮問ヲ受ク即チ諸稅ノ賦課徵收土木ノ設計、公私出願其他總督ノ

諮問スル諸件是ナリ

議事ハ多數決ヲ以テ決ス可否同數ナレハ總督ノ意見ニヨリテ決ス然レトモ總督ハ此決議ヲ用キサルヲ得此場合ニハ其

理由ヲ拓殖大臣ニ申報ス

三 行政裁判 (Conseil du contentieux Administratif) 總督ヲ議長トシ議員ハ行政會議々員及總督カ特ニ任命スル官吏或

名ヨリ成ル

四 國防會議

拓殖大臣若クハ總督ノ諮問ニ應シ殖民地ノ兵備及防禦ニ關スル問題ヲ研究スルモノニシテ又至急ヲ要シ總督ニ於テ拓殖大臣ノ承認ヲ經ル能ハスシテ探ルヘキ處置ニ對シ其意見ヲ諮問スル爲メ召集セラル

國防會議々員左ノ如シ

議長 總督若クハ總督代理

副議長 海陸軍司令長官

議員 司令長官ノ次席タルヘキ將官若クハ佐官タル歩兵司令官砲兵司令官タル將官若クハ佐官參謀長

(若クハ司令長官ノ副官タル佐官)

書記官ノ任務ハ參謀長之ニ當ル參謀長ナキ時ハ他ノ兩議員ノ一人之ニ當ル

司令長官副官カ尉官タル所ニ於テハ此ノ副官ハ書記官ノ任務ニ當ル而已ニシテ發言權ナキモノトス

特種ノ問題若クハ場合ニヨリ左ノ諸員ハ義務トシテ本會議ニ列席スルモノトス

本會議ヲ催フス場所ニ於ケル總督ノ代表者(文官若クハ武官)

海軍根據地守備軍司令官 海軍司令官

行政長官 衛生長官

土木長官 出納官吏

上記諸員ハ發言權ヲ有スルモノトス

一九〇三年四月六日ノ省令ニヨリ本國防會議ハ佛國ニ於テハ土木會議ニ屬スル職務ヲモ執行スル事トナレリ即チ地方ノ防備ト民政ト共ニ相關係アル事項ニシテ總督カ自己ノ創意ニヨリ若クハ軍司令長官ノ請求ニヨリ之ニ附議スルノ必要ヲ認メタル事項ヲ研究スル事トナレリ此場合ニ義務トシテ出席スヘキハ

本會議ヲ催フス場所ニ於ケル總督ノ代表者(文官若クハ武官)

第四章 行政組織及司法制度



海司令官

土木長官

當該事件ニ關係アル技師(壹名若クハ其以上)

出納官吏長

會計監督官長

上記諸員ハ發言權ヲ有ス

五 殖民地高等衛生會議 (Comité Supérieur d'Hygiène et de Salubrité de la colonie.)

本會議々員ハ總督ノ指名ニ係ル左ノ諸員トス

議長 衛生局長

議員 「タナナリツ」商工諮問會議長

同 土木部長

同 「バスター」研究所長

同 獸醫長

同 醫學教授

同 「タナナリツ」化學試驗所長

同 土人行政官一名 (Gouverneur indigène)

同 拓殖醫員二名

書記 軍醫一名

各縣ノ主都ニ衛生委員ヲ設ケ總督ノ承認ヲ經テ州知事之ヲ任命ス即チ左ノ如シ

議長 州知事

議員 諮問會議長(之ナケレハ佛國殖民一名)

同 該地方ノ上席土木官吏(之ナケレハ上席土木委員)

同 獸醫長(若シ之アレハ)

同 州吏一名

同 拓殖醫員二名

同 土人行政官一名

六 衛生會議 (Conseil Sanitaire)

本會議ハ檢疫ニ關スル諸問題及ヒ港灣内ノ水上衛生警察ニ關スル諸問題ヲ討議スル爲メ召集スルモノニシテ議員ハ左ノ如シトス

議長 州知事

議員 當該地方ノ軍司令官若クハ其代表者

同 諮問會議長(之ナケレハ總督ノ任命スル佛國殖民一名)

同 市會議員一名

同 衛生委員

同 醫師一名

同 當該地方ノ上席土木官吏

同 海員登記掛タル主計官

同 獸醫長

議 員 税 關 主 任
總督ノ任名シタル州吏一名

Tanikere, Diego-Suarez 及 y M'finga ノ如キ要港ニ於ケル本會議々員ハ總督ノ任命ニカ、リ Nosy-Bé, Antalava, Vohemar, Mananjary, Fort-Dauphin 及 y Tuléar 等ニ於テハ總督ノ承認ヲ經テ州知事ヲ任命ス

七 州行政

全島ヲ若干ノ民政區及軍政區ニ分テ土民歸服シ平穩ナル地方ニ民政ヲ布キ然ラサル地方ニ軍政ヲ布ク此ノ兩種ノ區ニ於テ行フ所ノ政治上、行政上及司法上ノ事務ハ同一ナレドモ此ノ兩區ノ長官ノ資格相異ナルカ故ニ此ノ稱ヲナス現今「マダガスカル」及ヒ其屬島ヲ二十四行政區ニ分ツ

二十一 民政州

Provinces civiles

一 自治郡

District autonome

一 軍政團

Cercle militaire (art 7 du décret du 11 Dec. 1895)

一 民政島

Comores 島及ヒ其屬島

(卷末行政區ノ部参照)

州(Province)ヲ分ツテ郡(District)トシ、團(Cercle)ヲ分テテ線(Section)トス州ニ知事(Administrateur chef de province)ヲ置キ郡ニ郡長(Chef de district)ヲ置キ(Administrateur 若シハ administrateur-adjoint)ヲ郡長トス)團ノ長官(州知事ニ該當ス)ヲ佐官トシ線ノ長官(郡長ニ該當ス)ヲ尉官トス

知事及ヒ團長ハ總督ノ代表者ニシテ管内一切ノ事務ノ進行ヲ監督スルノ權利及義務ヲ有ス故ニ其職務行政司法及拓殖ノ諸務ニ亘ル

行政事務トシテハ管内ノ法律命令ノ實施ニ任ス之カ爲メ左ノ部下ヲ有ス郡長民政吏(Agents des services civils)土人

番人(Garde indigène)警察官、通譯書記、土人事務官(土人ノ gouvernement)及土人ノ邑長(chef de canton)等之ナリ

司法事務トシテハ州ノ首都ニ裁判所ナキ時ハ治安判事ノ職務一級及二級土人裁判所ノ所長ノ職務ヲ行フ知事及團長ハ戶籍吏ニシテ又司法警察官トス

拓殖事務トシテハ殖民ニ便宜ヲ供與シ管内ノ産業ヲ進興スルニアリ

郡長ノ職務ハ法令ノ規定スル所及知事ノ訓令ニ基キ行政ノ事務ニ任シ管内ノ裁判事務ヲナシ部下ヲ督シテ良ク租税ノ納入セラル、事ヲ務ムルニテリ而シテ知事ノ代表者タルカ故ニ管内諸事務ノ進行ヲ監督ス

出張所主任(chef de Poste Administratif)ハ郡長ノ監督行届カサル地方ニテハ其代表者トナルト同時ニ報告監督執行ノ事務ニ當ル

監督所主任(chef de poste de surveillance)ハ報告及ヒ監督ノ事務ニ任シ嚴格ノ意味ニ於ケル行政上ノ職務ナシ其主ナル職務ハ管轄區域内ノ警察事務トス出張所主任及監督所主任ハ民政吏土人番人(共ニ佛國人)等之ニ當ル

八 土人ノ行政

知事及團長ハ部下ニ土人ノ行政官ヲ有ス每郡ヲ若干ノ郷(Gouvernement)ニ分テ土人ノ事務官(Gouverneur)ヲ以テ其長トス土人事務官ハ郡長ニ屬シ主トシテ徵税、秩序維持、身體財産ノ安固等ニ關スル事務ヲ執ラシメ兼テ其管内ノ警察保安ノ事務ニ當ラシメ又衛生其他土人ノ生活状態及其富源等ニ關シ注意セシム此事務官ハ更ラニ書記ヲ使用シ簿書ヲ記録シ事務官ノ提出スヘキ表簿ノ製作等ヲナサシム

副事務官(Gouverneur adjoint)即チ小事務官ノ意)ハ海岸地方ニ於ケル村長(chef de canton)ニシテ其職務ハ警察戶籍徵税ニ關スル事務ヲ執リ徵税名簿不納税表ヲ製シ市場稅屠稅通行稅其他ノ諸稅ヲ徵收スルニ在リ

副事務官ノ外ニ事務官補(adjoint)ト稱ス海岸地方ニテハ Antankarinaト稱ス)アリ或ハ副事務官ニ屬スルコトアリ部落ノ長ニシテ徵税ノ事務ニ當ル

右ノ外總事務官(Gouverneur principal)アリ州知事ニ屬シ州廳ニ在リ又郡ニシテ重要ナルモノハ郡役所ニモ之ヲ在勤セシムルモノアリ今佛國人及土人ノ行政官ノ配置ヲ圖説スレバ左ノ如シ因ニ曰ク佛國人ノ行政官ヲ行政官(Administrateur)ト云ヒ土人ノ行政官ヲ事務官(Gouverneur)ト稱ス

事務官助役書記(皆土人)

重要ナル郡 副行政官

總事務官(土人) 郷村 副事務官(土人)

州 廳

行政官(即チ知事) 總事務官(土人)

重要ナラサル郡 副行政官 郷(事務官助役書記(皆土人))

「ホーツ」王 Andria nampon inerina 施政ノ便ヲ計リ其領土ヲ大別シ更ラニ之ヲ小別シ又更ラニ之ヲ細別シ分ツ可ラサル最小ノ單位ヲ Fokonolona トシタリ Fokonolona ハ即チ村ニ該當スルモノニシテ文明諸國ニ於ケル村政ハ村會ニヨリテ行ハレ村會議員ハ村民ノ分撰ニカ、ル然トモ「ホーツ」人ノ村政ハ其村長(即會長 ipikafidy)及助役(mpikarakara)ノ指揮ノ下ニ全村ノ住民悉ク相集リテ村政ヲ行ヒタリ此ノ制度ハ一時中止シタリシカ後チ幾多ノ變遷ヲ經テ現今ニ行ハレ居レリ土人ノ行政機關ノ運用ニ關スル法令ハ一九〇二年三月九日勅令一九〇三年七月五日附及一九〇四年六月十五日附ノ總督府令トス

一九〇二年三月九日勅令ハ「オメリナ」州(即チ「ホーツ」人ノ住スル地方)ニ於ケル土人ノ行政機關ノ組織ヲ目的トスルモノニシテ之ヲ分チテ左ノ四種トセリ

I. Gouvernement principal

II. Gouvernement

III. Gouvernement Médiane ou fanjany

IV. Quartier ou fokontany

而シテ本會立案ノ趣旨ハ Fokonolona 等ノ如キ土人費用ノ制ヲ復活シ其他「ホーツ」ノ法令習慣法ト新法令ト兩々相調和シテ採用セントシタルモノニシテ Fokonolona ハ老若男女ノ別ナク一部落ニ住居セル一切ノ住民ヲ含有シタルモノナリシモ之ニ若干ノ義務ヲ負ハセ又若干ノ權利特權ヲ附與スル事トナシ其地ノ名門若クハ年寄ヲ其 Fokonolona ノ代表者トシテ官憲トノ連絡ヲ保タシメ先ツ其地ノ警察事務ニ當ラシムル事トナシ犯罪人ヲ官憲ニ引渡シ夜番ノ制ヲ設ケ近重ノ災難ヲ救助シ農作物及畜産保護ニ監視ヲナサシメ民事上ニ於テハ當事者ノ望ニ應ジテ仲裁ヲナシ道路衛生救助ニ關シテハ規定命令ヲ實施ノ任ニ當ラシメ又地方的一般的ノ建築土木ヲ引受クル事ヲ得セシメタリ又 Fokonolona ノ各員ニ對シ慣習法ナル使用權ヲ認定シタリ即チ漁獵、牧畜ヲナシ蘭草ヲ刈取リ「タビオカ」林中ニ於テ野獵ヲ登フカ如キコト是ナリ

Fokonolona ハ上級官廳ノ承認ヲ經テ保安、道路建築ノ保存、衛生及良好ナル行政ノ爲メ必要ナル細則ヲ設クル事ヲ許シ此中合セノ細則ニ違背スルモノアル時ハ行政官ハ輕キ罰金ヲ課スルヲ得ル事トシタリ又犯罪人ヲ搜リ出ササル場合及惡意懈怠ヲ以テ義務ヲ盡サ、ル場合ニハ Fokonolona 全體ノ責任トシテ罰金ヲ課シ得ル事トシタリ

上記ノ制度ハ初メ施行區域ヲ「イメリナ」州ニ限リタレトモ一九〇四年九月三十日ノ勅令ニテ總督ハ此制度ヲ「マダガスカ」島ノ全部若クハ一部ニ施行シ得ル事トナリタリ

一九〇三年七月五日附總督府令ハ「方ニハ」ホーツ「官吏ノ手腕ヲ認メ之ニ職權ヲ附與シ其威嚴ト責任トヲ増シ他方ニハ佛國官憲ヲ土人行政官ノ監督トナスラ目的トシタリ而シテ試ミニ之ヲ中部「イメリナ」ニノミ適用シタルニ一ヶ年ノ經驗ハ頗ル佳良ナリシカハ一九〇四年六月十五日附總督府令ヲ以テ多少ノ修正ヲ加ヘ之ヲ「イメリナ」全州ニ施行シタリ

土人事務官ノ年俸ハ九百法(約參百六拾圓)乃至四千法(約千六百圓)副事務官年俸ハ二百七十法乃至六百法ニシテ部落ノ長ニ至リテハ税金徵收額ノ二分五厘ヲ給シテ手當トス土人官吏ノ採用待遇等ハ此ニ添付スル冊子 Textes organiques Régissant le personnel indigène de l'Administration Générale et des divers services 詳記ナリ

九 市政組織

1140

Diégo-Suarez Nosy-Bé Sainte-Marie Tamakave 及 Majunga 一八九七年ヨリ Tananarive Fianararua 一八九〇八年ヨリ市政ヲ布ケリ市長ハ殖民地行政官ヲ以テ之ニ充ツ Administrateur-Maire ト稱ス市會(Commission Municipale)アリ其職務ヲ助ク市會ハ市長ノ諮問機關タルニ過キス而シテ市會議員ハ總督ノ任命スル所トス
因ニ云フ「マダガスカル」島ハ國會議員ヲ出サス
「ノツシー、ペー」ハ舊時ヨリ自治ノ佛國殖民地アリタル爲メ高等殖民會議ニ議員一名ヲ出シ居レリ、「マイヨット」及ヒ其屬島モ之ト同一ノ權ヲ有ス

第二 司法制度

(一) 歐洲人ニ對スル裁判制度

「マダガスカル」及ヒ其屬島ニ於ケル裁判所ハ左ノ如シ

- 一、控 訴 院 一ヶ所
 - 二、刑事裁判所 七ヶ所
 - 三、地方裁判所 四ヶ所
 - 四、區 裁 判 所(擴張權限) 四ヶ所
 - 五、區 裁 判 所(通常) 十四ヶ所
 - 六、商事裁判所 四ヶ所
 - 七、仲裁裁判所(僱主、僱人間ノ勞働ニ關スル爭議ヲ取扱フ)
- 行政官及其他ノ官吏ニシテ總督ニヨリ裁判區ノ長官ニ任セラレタルモノハ區裁判所判事ノ職務ヲ執行ス

八、Mayotte 島地方裁判所

上記裁判所ハ歐洲人ト準歐洲人トノ間、歐洲人準歐洲人ト土人トノ間及土人間ノ民事及商事一切ノ事項ヲ受理ス
商事合成裁判所 (Ordonnal mitié de commerce)

地方裁判所ニ於テ商事裁判ヲナス場合ニハ其管區内ニ居住スル佛國商人ノ選舉セル二名ノ佛國商人ヲ陪審員トス
(二) 土人ニ對スル裁判制度

在來ノ土人裁判所ヲ存続スルモノニシテ一切ノ民事ヲ受理ス土人ハ佛蘭西法ニ依リテ契約スル事ヲ證言セハ土人裁判所ノ管轄ヲ受ケタル事ヲ得

土人裁判所ハ民事ニ於テハ土地ノ法律習慣及當事者ノ資格ニ依ル法律習慣アレハ之ヲ適用シ懲罰ニ關シテハ佛國文明ノ主義ニ反セザル事項ニ於テハ土人ノ法律習慣ヲ適用シ土地ノ法律ニナキ事項又ハ之アリトモ佛國文明ノ主義ニ反スル場合ニハ佛國法律ヲ適用ス

(三) 控訴院

「タナナリツ」控訴院ハ二等土人裁判所ノ初審裁判ノ控訴、初等及二等土人裁判所ノ終審裁判ノ破棄ヲ受理ス

第五章 教育及衛生

第一節 教育

教育局長ノ下ニ二名ノ歐人初等視學官及三名ノ土人視學官ヲ置ク外ニ高等教育會議アリ學事ニ關スル諸問題ヲ研究シ「マダガスカル」島ノ教育事務ヲ司ル而シテ同會議ハ左ノ諸員ヲ以テ組織ス

- 議 長 總 督
- 副 議 長 教 育 局 長

第五章 教育及衛生

二七一

議員 行政官一名 醫學教授一名 司法官一名 初等視學官一名 土人視學官一名 校長一名(男)
校長(女)一名
書記 一名
議員書記ハ總督ノ任命スル所トス

公立學校

(一) 土人教育

初等教育ノ學校數ハ五百三十七校ニシテ男女合セテ教授ス但シ「タナナリグ」其他ノ要地ニハ男女學校ヲ異ニス教科ハ普通學ノ初歩ヲ授ク即チ美術、養生及修身、農學、圖畫、歴史、地理等ニシテ最モ佛語ノ教授ニ重キヲ置キ會話解讀ニアリテ之ヲ授ク各校ニ庭園ヲ設ケシメ毎日各生徒ヲシテ農業ヲ實習セシメ女子ニハ農事代リニ家事裁縫ヲ學ハシム
原則トシテハ八歳ヨリ十三歳迄ノ兒女ハ教育ヲ受クルノ義務アリトス然レトモ未タ學校ノ設ナキ地方ニアリテ此義務ヲ強制執行スル能ハサルカ故ニ學校ヲ新設スル毎ニ學務局長ノ申請ニヨリ總督府令ヲ以テ兒女ノ修學スヘキ地方ヲ定ム
初等學校ノ職員ハ通例男教員一名ニシテ其妻ハ裁縫ヲ教授スル女教員トナル
二等教育ノ學校ヲ地方學校(Boue Regionale)ト稱シ要地ニ設ク、地方學校ノ完備セルモノハ普通教育科ト職業教育科トヲ置ク此學校ニ於テ普通教育ヲ授クルノ目的ハ將來師範學校及行政學校ニ入ルヘキモノヲ養フニ在リテ初等學校ト其教科ヲ同フスルモ更ラニ其程度ヲ高フシ佛語ノ教授ニ重キヲ置ク而シテ普通教育科ノ修業年限ヲ二ケ年トス
職業教育科ハ工業豫備科ト稱シ修業年限ヲ一ケ年トシ工業圖畫ノ初歩ヲ授ケ木工鐵工ヲ實習セシム此科ニ於テハ普通

學ハ成ルヘク減少シ生徒ヲシテ其修ムル二科ヲ了解セシムル程度ニ止ム此ノ豫備科ヲ了レハ生徒ハ Dago Sinarar 若クハ Tamarative ノ徒弟學校ニ送ラレ二年間專門ノ實修ヲナス、是等地方學校ノ職員ハ歐人教員一名、助手若干名若クハ土人教師若干名及土人職工長若干名トス

地方學校ノ所在地ニハ間々家政學校ノ設ケナリ初等學校ヲ了リタル土人ノ女兒ノ此所ニ於テ其學業ヲ補修シ裁縫ヲ練習シ希望ニヨリテハ將來生業トナスヘキ業即チ「ダンテル」刺繡、帽子等ノ製法ヲ學フヲ得セシム
此所ニ於テモ佛語ノ教授ニ重キヲ置クハ勿論トスカ、ル學校ノ職員ハ概ネ歐人ノ女教師一名、助手一名若クハ土人教師二名及ヒ土人ノ職業教育助手若干名トス

三等教育ノ學校トハ師範學校行政學校醫學學校及ヒ產婦院トス是等諸學校ハ皆ナ「タナナリグ」ニ在リ
師範學校及ヒ行政學校ノ生徒ハ地方學校普通教育科ノ優等卒業生中ヨリ募集ス師範學校ハ修業年限三ケ年ニシテ卒業生ニハ「マダダガスカ」島初等學校教員適任證ヲ授ク

行政學校モ亦修業年限三ケ年トス本校ニ二部アリ一部ハ通譯、書記等ヲ養成スルモノニシテ一部ハ醫學校ニ入學セントスルモノニ必須ノ學科ヲ授ク故ニ學業修了ノ際前者ニハ卒業證書ヲ授與シ後者ハ醫學校入學試験ニ應スルノ資格ヲ與フルモノトス

一九〇八年一月ヨリ師範行政兩校ヲ合併シ前二ケ年ハ皆ナ普通教育及佛蘭西語ヲ學習セシメ第三年ハ各自專門ノ學科ヲ學ハシム

醫學學校及產婦院ハ醫師及產婆ヲ養成スル所ニシテ學科ハ歐人ノ醫師及佛國ニ於テ醫學ヲ學習シタル土人等ニヨリ教授セラル修業年限ハ醫學學校ヲ五ケ年トシ產婦院ヲ三ケ年トス

一九〇九年及一九一〇年ニ土人高等學校 Ecole supérieure indigene 二校ヲ「タナナリグ」ニ新設シタリ校長ヲ歐洲人トシ土人ノ教諭及ヒ精撰セル訓導ヲ以テ教員トシ全然佛語ヲ以テ教授ス學科ハ三等教育ノ諸學校ニ入學シ得ル學力ヲ授

クル程度トシ本校ノミ特ニ授業料ヲ徴ス即チ此學校ヲ設クルノ趣旨ハ中等社會ノ土人ニ初等教育以上ノ教育ヲ受クルノ便ヲ開キ兼ネテ又地方學校ヲ經由セスシテ直チニ三等教育ノ諸學校即チ師範行政學校ニ入學スルヲ得セシムルニ在リ

一九一〇年 Tananarive 及 Diego Suarez ノ徒弟學校ヲ改良シ工業豫備科ノ生徒ヲ收容シ市中ノ諸工場ニ於テ實習セシム校長ハ之ヲ監督シ寄宿舎ヲ管理ス但シ費用ハ凡テ官給トス此實修期間ハ二年ト定メ特別ノ技量ヲ有スルモノニ對シテハ之ヲ延長スル事トセリ

(二) 歐洲人教育

幼稚園及小學校ハ(男女學校ヲ異ニスルモノアリ又之ヲ同フスルモノアリ)重ナル各地ニ設ケテ

二等教育ヲ授クル學校ハ一九〇八年來「タナナリヅ」ニ設ケラルル一ハ男子ノ學校ニシテ Collège de Tananarive ト稱シ一

初等小學校ニ二等教育ヲ修メントスルモノ、爲メノ豫備科ニ二等教育ノ一部四二等教育ノ一部(Philosophie 即佛國 Ly-

ce)ノ八年級迄ヲ含ムヲ設ク女子ノ學校ハ中等小學ニ該當スル一學年及二等教育ニ學年ヲ設ク而シテ二等教育ノ第一

學年ハ母國ノ Lycées ノ一、二、三、四年ニ該當シ其第二學年ハ Lycées ノ四、五年ニ該當ス

私立學校

一九一一年十月一日ノ現在數ハ「マダガスカル」全島ノ各種私立學校四百校子守所二百六十九ヶ所トス一九〇六年十二月二十三日總督府令ヲ以テ私立學校ノ各條件ヲ規定ス

「マダガスカル」島ニ於ケル英佛兩國政治上ノ競争ハ現時之ヲ見サルモ英國傳教師ハ學校ヲ設ケ兒童ヲ誘入レテ英語ヲ教授セントスルカ故ニ教育ノ局ニ當ルモノハ之ニ反シ佛語ノ普及ヲ計ル爲メ日曜等ニ學校ニ舞踏等ノ遊戯ヲ設ケ兒童ノ寺院ニ出入スルヲ防キツ、アリ又寺院ニ於テ教育ヲ施ス事ヲ禁シ私立學校教員ノ資格ニ嚴重ナル規定ヲ設ケ及ヒ其設立區域ヲ限定シテ官公立學校ノ繁榮ヲ妨ケサル事トナシ居レリ

左ニ總督府學務局ヨリ得タル一九一二年六月三十日現在官公立學校統計表ヲ略示ス

歐洲人教育(初等)		土人教育(初等)		計
校	10	55	65	
教員	50	96	146	
生徒	97	569	666	

官有財産管理

官有財産管理局ニテハ官有財産ノ管理之ニ關スル契約(拂下貸下等)遺産無主財産ノ保管、收入印紙ノ受入等ニシテ現ニ官有財産局ハ八ヶ所アリ

第二節 衛生組織

一八九五年「マダガスカル」占領當時ハ傳教師ノ設立ニカ、ル極メテ少數ノ病院アルニ過キナリシカ現時ハ各州ニ病院若クハ之ニ代ルヘキモノアリ Tananarive, Tanakava, Diego Suarez 及 Majunga ニハ軍病院アリ軍人以外ノモノモ入院料ヲ支拂ヒテ醫療ヲ受クル事ヲ得其他各地ニ野戰病院アリ軍人以外ノモノニ醫療ヲ與フル前者ニ異ナラス唯其設備前者ニ比シ簡略ナルノミ此等ノ所ニ於テ藥品ノミヲ購入スル事ヲ得此場合ニハ其定價ニ若干ノ割増(二割五分)ヲ支拂フ野戰病院ニテハ毎朝無料ニテ土人ヲ診察ス歐洲人モ此所ニテ診察ヲ受クルヲ得此外診察所(Hôpital)アリ患者ヲ收容セサレトモ診察ヲ施シ醫藥ヲ給ス

上記設備ノ外「タナナリヅ」ニ Hôpital Pasteur あり痘種血清ヲ供給シ動物ニ嚙マレタル患者ヲ治療ス又同所ニ Dr. Villard 産科院アリ市ノ補助ヲ得テ土人ノ産婦ヲ入院セシム

土人治療

一八九六年土人ハ無料ニテ診察スルノ制ヲ定メ其十二月總督府令ヲ以テ「タナナリヅ」ニ醫學校ヲ設立シ一八九七年占

總督ハ此諮問會ヲ解散スル事ヲ得

二 農事改良會 *Conseil agricole*

農事改良會ハ農會ト共ニ一九〇六年二月二十六日ノ總督府令ニヨリテ制定セラレタルモノニシテ本會創設ノ目的ハ農業者ノ意見ヲ容易ニ總督府ニ疏通スルノ便宜ヲ開クニ在リ現ニ此會ノ設ケアルハ Tananarive, Majunga, Tananarive, Fianarantsoa, Antsiraha, Diego-Suarez, Nosy-Be, Manakery, Valohandry, Analalava ノ十ヶ所トス

此會ノ取扱事務ハ専ラ農事ニ關スル諸問題ニシテ左記事項ニ對シテ意見ヲ上申スルモノトス

農事獎勵、動物豫防法 有害動物ノ盡滅 疫病流行ノ際家畜ヲ殺ス事 農事ニ有益ナル鳥類ノ保護、農事改良ニ關スル實驗、研究、本殖民地ニ適スヘキ農産及農耕法ノ輸入、利用シ得ヘキ原種ノ保存、森林制度、牧畜、農業金融、灌溉 疏水運輸交通等

農事改良會ハ其議事録其研究ニ關スル一切ノ書類報告ヲ農會ニ報告スヘキモノトス

三 農業會議所 *Chambre d'Agriculture*

農業會議所ハ「タナナリヴ」ニ在リ各農事改良會ノ會長及各農事改良會ノ最高點ニテ當選セル議員六名ヲ以テ組織ス役員ハ會長一名(任期一年)副會長二名書記一名(任期三年)トス農會ハ總督府ト農事改良會トノ仲繼ニシテ農事改良會ノ希望、意見研究等ヲ蒐集シ之ヲ研究シ又農事改良會ノ取扱ヒニ歸スヘキ諸項ニ關シ總督ニ申報スルモノトス農會ハ必ス毎年一回集會スヘク其會期ハ二十日ヲ超ユルヲ得ス會員ノ旅費ハ官給トス

四 鑛業會議所 *Chambre de mine*

一九〇七年四月ノ創立ニカ、リ「タナナリヴ」ニ在リ目的ハ

會議若クハ統計報告ノ出版ニヨリ鑛業ニ關スル諸問題ヲ研究シ「マダガスカル」鑛業ノ發達ヲ助クル事 討議若クハ共同ノ研究ニヨリ鑛業ニ關スル諸問題ヲ調査スル事

鑛業ニ關スル諸問題ニ關シ總督府ニ稟議スル事

財源ノ許ルニ範圍ニ於テ「マダガスカル」鑛業ニ關シ若シクハ其利益ヲ目的トスル個人及團體ヲ一時扶助スル事

鑛業ニ關スル慈善事業、展覽會、其他一切ノ公益事業ニ寄附スル事

等ニシテ會員、贊助員及名譽會員ヲ以テ組織シ總會ニ於テ會員ノ選舉シタル五名ノ理事會務ヲ處理ス理事ハ二年毎ニ半數改選ス理事會ハ更ラニ常務委員二名ヲ選定ス而シテ常務委員ハ理事會及ヒ定期臨時ノ總會ヲ召集シ代ル々其議長トナル

本會議所ハ一九〇五年鑛業凶穰ノ時季ニ生出シ總督府ノ歡迎スル所トナリ本島鑛業界一般ノ贊助ヲ得テ鑛業ニ關係アル各種業者ヲ集收スル事ヲ得タリ又一九〇七年新法規ノ發布ニ際シテハ大ニ貢獻スル所アリタリ加之本會議所ハ鑛業ニ關スル各種ノ問題ヲ研究シ相反スル利害ノ調和ヲ計リタリ

第八章 財政及金融

(一) 財政

年	豫算		決算		利	決算
	豫算	決算	豫算	決算		
一九〇〇年	1,343,000.00	1,931,000.00	1,577,600.00	1,503,100.00	(一) 374,500.00	1,128,600.00
一九〇一年	1,400,000.00	1,540,000.00	1,400,000.00	1,356,100.00	(一) 44,900.00	1,356,100.00
一九〇二年	1,400,000.00	1,540,000.00	1,400,000.00	1,356,100.00	(一) 44,900.00	1,356,100.00
一九〇三年	1,400,000.00	1,540,000.00	1,400,000.00	1,356,100.00	(一) 44,900.00	1,356,100.00
一九〇四年	1,400,000.00	1,540,000.00	1,400,000.00	1,356,100.00	(一) 44,900.00	1,356,100.00
一九〇五年	1,400,000.00	1,540,000.00	1,400,000.00	1,356,100.00	(一) 44,900.00	1,356,100.00
一九〇六年	1,400,000.00	1,540,000.00	1,400,000.00	1,356,100.00	(一) 44,900.00	1,356,100.00
一九〇七年	1,400,000.00	1,540,000.00	1,400,000.00	1,356,100.00	(一) 44,900.00	1,356,100.00
一九〇八年	1,400,000.00	1,540,000.00	1,400,000.00	1,356,100.00	(一) 44,900.00	1,356,100.00
一九〇九年	1,400,000.00	1,540,000.00	1,400,000.00	1,356,100.00	(一) 44,900.00	1,356,100.00
一九一〇年	1,400,000.00	1,540,000.00	1,400,000.00	1,356,100.00	(一) 44,900.00	1,356,100.00
一九一一年	1,400,000.00	1,540,000.00	1,400,000.00	1,356,100.00	(一) 44,900.00	1,356,100.00
一九一二年	1,400,000.00	1,540,000.00	1,400,000.00	1,356,100.00	(一) 44,900.00	1,356,100.00

「マダガスカル」總督ヨリ一九一二年度決算ニ關シ殖民大臣ヘノ電報左ノ如シ

一、經常費	入	三〇七、七五七、五九七	出	一、九七〇、〇七五
歳入		二五〇、八七九、九二二	利	二九、二六九
歳出		五三三、五八四、六一六	益	一、九四〇、八〇六
二、鐵道會計	入	二〇六、一六六、六四〇	出	

三、即ち準備積立金トスベキ金額ハ合計 五、三五四、九八三法二七ニシテ前年度ニ比シ二〇五、三六八法八一ヲ増セリ
(以上一九一三年六月十五日「ル、タム」新聞轉載)

上表ノ如ク馬島ノ財政状態年ヲ逐ウテ裕カニ近年ハ剩餘金毎年約五百萬法ヲ得ルニ至リタルニヨリ之ヲ以テ鐵道其他ノ土木ヲ營ミ居レリ

本島收入ノ最モ大ナル項目ハ土人ヨリ徵收スル人頭税(男一人ニ付地方ニヨリ十法乃至三十法トス)ニシテ其額一千三百萬法餘トス土人ノ納稅力ニ比シ又他稅トノ權衡上公平ヲ得サルモノアルヨリ之ヲ減額スルノ方法ハ數年來當局ノ懸案トシテ研究スル所ナリ然ルニ本稅ハ本島第一ノ收入項目ニシテ其異動ハ直チニ財政ニ影響ヲ來スカ故ニ其變改ハ最モ慎重ノ考究ヲ要ス現ニ當局者間ニ行ハル、意見ハ概ネ左ノ如シ

僅少ノ減額ヲ行フトモ土人ハ其惠ヲ感セサルヘシ然ラハ之ヲ半減スルトセンカ歲入ハ七百萬法ヲ減シ豫算ハ直チニ大不足ヲ生シ公益ノ土木ハ中止セサル可ラス準備金ハ速カニ缺乏スルニ至ラン加之カ、ル處置ハ更ラニ重大ナル結果ヲ生スヘシ何ソヤ「マダガスカル」島ノ經濟的發展ハ直チニ休止スル事ナリ多數ノ土人ハ未タ勞働ヲ勤メテ文明ノ快樂幸福ヲ得ルコトヲナス彼等ノ田野ヲ耕シ工場ニ働キ果實ヲ採取スルハ其生命ヲ保テ其稅金ヲ拂ヒ得ルニ必要ナル程度ニ止マル故ニ一ト度其稅額ヲ減セハ其勞働モ減スヘク物貨ノ交易モ之カ爲メニ減シ貨幣ノ流通モ之カ爲メニ減シ引イテ佛國ヨリノ輸入貿易モ減ス可ク其結果間接國稅消費稅營業稅ノ如キモ減少スルニ至ルヘク約言スレハカ、ル處置ハ重大ナル經濟上ノ凶愴ヲ來タシ人頭稅ノ減額ニヨリテ收入豫算ノ減少スルノミナラス諸稅ノ減少ヲ來タシ豫算上不測ノ缺乏ヲ招クニ下ラン

願ルニ島内ノ交通機關未ダ甚タ具ハラズ鐵道ハ布設セサル可ラス道路ハ開鑿セサル可ラス本島ノ開發上願ル之ヲ急務ト

ス今三四百萬ノ剩餘金アリトモ道路ノ延長橋梁ノ架設其多大ヲ加フルニ從ツテ其維持費モ年ト共ニ増加スヘク數年ナラズシテ豫算上剩餘ヲ見サルニ至ルヘシ

故ニ人頭稅ノ如キハ漸次ニ其不平均ヲ矯正スルニ止メテ之ヲ存置シ一面ニハ運輸交通ノ便ヲ開キ土人ノ爲メ富源開發ノ便ヲ加フルニ如カスト

今一九一二年ノ豫算ニ就キ收支ノ大要ヲ示ス左ノ如シ

經常收入	一、四四〇、〇〇〇	(10) 土人守護	一、五九三、三六二
官有財產收入	一、七二七、三三〇	(11) 警察及監獄	六〇三、一六〇
人頭稅 牛稅等	一、七二七、三三〇	(12) 印刷局	一〇六、三三〇
消費稅關稅等ノ間接稅	四、〇〇〇、〇〇〇	(13) 土木局員給料	一、七五七、一一〇
官業收入及諸收入	二、五七五、〇〇〇	(14) 土木材料工費	四七五、〇〇〇
未納金收入	六五、〇〇〇	(15) 鐵山局	一、八五二、五〇〇
命 令 收 入	二、五七五、〇〇〇	(16) 官有財產取扱局	一、〇〇〇、〇〇〇
計	二、五七五、〇〇〇	(17) 折殖局員給料	一、八三三、〇〇〇
臨時歳入	四六二、〇七三	(18) 折殖材料工費	三九七、〇〇〇
鐵道收入	一、〇二六、〇〇〇	(19) 教 育 局	一、六八七、三三〇
土人施療費收入	一、七五八、六八七	(20) 港 灣 局	一、〇四三、三三〇
計	三、三三三、三三三	(21) 衛生及救助	一、三三三、三三〇
經常歳出	五、九三三、三四〇	(22) 運 輸	一、五二二、二六六
(1) 公債恩給補助金	三、二四二、二〇〇	(23) 雜費及準備費	一、七二七、〇〇〇
(2) 總督府總務部	三、二四二、二〇〇	(24) 命 令 支 出	一、一〇一、〇〇〇
(3) 物品購入費	一、四一〇、〇〇〇	計	二、五七五、〇三六
(4) 會計監督部	一、四一〇、〇〇〇	臨時歳出	四六二、〇七三
(5) 金 庫	一、〇二六、〇〇〇	鐵道費支出	一、〇二六、〇〇〇
(6) 稅 關	六三七、〇〇〇	土人施療費支出	一、七五八、六八七
(7) 郵便電信局員給料	八五三、八四九	計	三、三三三、三三三
(8) 郵便電信材料	七二、〇二五		
(9) 司 法	四六二、〇七三		

(二) 金融

一八八六年十二月四日「ホーヴ」政府ハ「巴里割引銀行 (Comptoir national d'ecompte de Paris)」ヨリ千五百萬法ヲ年利六
朱ニテ借入ノ契約ヲナシ其翌年六月二十日ノ追加契約ニヨリ償却條件ヲ定メ六海港ノ關稅收入ヲ償却資金ニ充ツル事ト
ナシタルヨリ同行ハ「Tananarive」ノ支店ヲ置キ「Tananarive, Majunga, Diégo-Suarez, Mananjary, Tuléar, Nosy-Be」ノ六港ニ
出張所ヲ設ケテ銀行業ヲ營ミ「マダガスカル」島ニ於ケル唯一ノ大銀行タルガ故ニ同島ノ金融ヲ獨占シ居レリ因ニ曰フ同
行ハ二億法ノ資本ニテ本店ヲ「巴里」ニ置キ「(1) rue Bergère (Paris)」佛國一流ノ大銀行トス

同行ノ「マダガスカル」島ニ於ケル業務ハ主トシテ商業手形ノ割引ニシテ同島ニ於ケル法定割引率ハ九朱ナレトモ一般ノ
割引ハ二割ニ朱トス、本銀行ハ、一個人ニ貸金ヲナササレトモ倉庫會社荷預リ證ニ對シテハ、二名以上ノ保證人ヲ設ク
ルヲ條件トシテ證券面金額ノ百分ノ七十五ノ貸金ヲナス
同行ノ外「タマタツ」港ニ「Banque de Madagascar」アリ一切ノ銀行業ヲ營ミ又砂金ヲ購入ス資本ハ六十萬法ノ小銀行ニシ
テ前記「巴里割引銀行」ノ敵ニ非サルモ小銀行ニシテ營業ノ自由ナルヨリ利益アル商賣ヲ營ムト云フ
「マダガスカル」島ノ銀行ハ大小ヲ合セテ上記ノ二銀行ノミトス

佛國政府ニ於テハ同島ニ「Banque d'Indo-chine」ノ如キ發行銀行ヲ設クヘキカ若クハ殖民地一般ニ通用スル紙幣ヲ發行ス
ル銀行ヲ設クヘキカ等ニ關シ研究中ニテ之カ爲メ同島ニテハ佛蘭西銀行ノ紙幣ノ流通ヲ禁スル事トナシ居レルモ新タニ
發行銀行ヲ設クルノ議未タ決セサル爲メ年々佛蘭西銀行紙幣流通禁止ノ期限ヲ延シ居レリ

現今「マダガスカル」島ニ於テハ佛國紙幣及金貨流通セサルニ非サレトモ其數甚タ少ナク事實上大小ノ取引ハ悉ク五法ノ
銀貨ヲ用キ居レリ故ニ頗ル不便ヲ感スルコトヲ免レヌ要スルニ同島ノ通貨ハ皆五法以下ノ佛國貨幣トス

第九章 運輸交通

第一節 遠洋航路及近海航路

第一 遠洋航海

(一) Compagnie des Messageries Maritimes ハ資本四千五百萬法ノ株式會社ニシテ本社ハ「1, rue Vignon, Paris」ヨリ毎
月二回「「マダガスカル」」ニ向ケ定期航海ヲナス其毎月十日ニ馬耳塞ヲ發スル船ハ往復共ニ「Port-Saïd, Suez, Djibouti,
Mombassa, Zanzibar, Mayotte, Majunga, Nosy-Be, Diégo-Suarez, Camatave, Réunion, Maurice」各地ニ寄港シ其毎月二十
五日ニ馬耳塞ヲ發スルモノハ往復共ニ「Port-Saïd, Suez, Adan, Malé, Diégo-Suarez, Sainte-Marie, Tananarive, Réunion,
Maurice」各地ニ寄港ス

(二) Compagnie Havraise Peninsulaire de navigation à vapeur 社ハ本社ヲ「13 rue de la Grange-Bateiere Paris」ニ置キ毎
月一回「「マダガスカル」」ニ向ケ定期航海ヲナス毎月一日 Le Haye ヲ發シ Bordeaux, Marseille, Djibouti, Majunga,
Nosy-Be, Diégo-Suarez, Tananarive, Andovoranto, Vatamandry, Mananjary ノ各地ニ寄港ス

(三) 佛國船舶ノ外「マダガスカル」ニ定期航海ヲナスモノナシ
獨逸ノ Deutsche Ost-Africa Linie 會社ノ船舶ハ獨領東亞非利加ヨリ歸航ノ途次 Majunga, Nosy-Be ニ寄港スル事アリ
其他諸國ノ船舶ニシテ不定期ニ「マダガスカル」東西兩岸ノ諸港ニ寄港スルモノアリ「モトリヌ」島「レユニオン」島及歐
亞諸港トシテ交通ヲ助ク

「モザンビーク」海峡ヲ隔ツル對岸ノ亞非利加諸港トハ内外汽船ノ往來セルモノ少ナカラス是等ハ Vohémar, Diégo-Su-
arez, Anakalava, Soalala, Morondava, Tuléar, Fort-Dauphin ノ諸港ニ來リ牛、食料品及木材ヲ積入ル、モノニシテ多ク
ハ乘客ヲ取ル

獨逸ノ O. Svald 商店ノ「マダガスカル」ノ要市港ニ支店ヲ有シ其所有船 Zanzibar 號ヲシテ毎年二三回漢堡ト「マダ
第九章 運輸交通 二八三

ガスカル諸港トノ間ヲ往復セシム

此他葡萄牙 Empraza Nacional de Navigacao ノ小汽船 Beira (三百六噸) ヨミン葡領 Lourenço-Marquez 及 Durban ト Diogo-Suarez, Majunga, Anhalava, Nosy-Be 諸港トノ間ヲ往來セシム

第二 近海航路

近海航路ニ三線アリ共ニ Messageries Maritimes 會社ノ支線ニシテ郵便用ナルカ故ニ歐洲線ト連続ス

- (一) 西岸ト南亞非利加トノ間 Persépolis 號
- 二航路アリ(二四六八ノ如キ偶數ノ月ニテ)往航ニ Majunga ト發シテ Nampela, Morondava, Ambohibe, Tuléar, Lourenço-Marquez, Durban ニ寄港シ復航ニ Durban, Tuléar, Ambohibe, Morondava, Nampela, Majunga ニ寄港ス他(二三五七ノ如キ奇數ノ月ニテ)Majunga ヲ發シテ Nampela, Morondava, Ambohibe, Tuléar, Beira, Lourenço-Marquez ニ寄港シ復航ニ Lourenço-Marquez ト發シテ Tuléar, Ambohibe, Morondava, Nampela, Majunga ニ寄港ス
- (二) Diogo-Suarez, Comores, Zanzibar 間 Mpanjaka 號毎二ヶ月 Diogo-Suarez ヲ起點トシテ往復共ニ Nosy-Be, Anhalava, Majunga, Mayotte, Mitsamouli, Mohéle, Moroni, Zanzibar 各地ニ寄港ス
- (三) 東岸 Durban 間 Bagdad 號
- 毎月 Diogo-Suarez ト起點トシテ往復 Vohamar, Maroaetsetra, Tamatave, Vatomaniry, Mahanoro, Mananjary, Farafangana, Fort-Dauphin, Tuléar, Durban ノ各地ニ寄港ス

第二節 内地交通

第一 鐵道及バンガラン運河

都府「タナナリヴ」ト東岸第一ノ要港「タマタヴ」トノ間ハ鐵道及「バンガラン」運河ニヨリテ運輸交通ノ便ヲ開ク詳言ス

「タマタヴ」イヴオンドロ間(十二「キロメートル」)單線狹軌ノ鐵道アリ「イヴオンドロ」ブリツカヅイル間(百三十五「キロメートル」○九六「バンガラン」運河ヲ通航スル小蒸汽船ノ便アリ而シテ「ブリツカヅイル」「タナナリヴ」間(二百七十二「キロメートル」○〇三)單線狹軌ノ鐵道アリテ毎週二回兩端ヨリ汽車ヲ發シ中間ナル運河ノ小蒸汽船之ニ接続シ旅程二日ニシテ一端ヨリ他端ニ達ス

一 鐵道

官設鐵道ハ「タナナリヴ」ヨリ東海岸ニ至ル一線路アルノミ之ヲ F. C. H 線 (Chemin de fer Tananarive-Oke Est) ト稱ス「ブリツカヅイル」ニテ一九〇四年十一月一日起工シ一九〇九年十月一日「タナナリヴ」迄全通セリ

本線ノ起點 Brickaville ハ Vohitra 及 Ronga-Ronga 兩川ノ合流點ニシテ「バンガラン」運河モ亦コノニ會ス此ノ所ヨリ鐵道ハ Vohitra ノ右岸ニ沿ヒ次第ニ山谷ノ間ニ入ル其第一山地ヲ横斷シテ Betanisaraka 山附近ニ登ル頃ハ山嶽重疊谷亦深ク Vohitra 河ハ奔騰トナリ飛瀑トナリ鐵道線モ河ト共ニ益々屈曲ス夫ヨリ線路ハ本川ト分レ Vonga-Vonga 山ノ隧道 七百八十八「メートル」ニ入ル鐵道傾斜ノ最大限ヲ「メートル」ニ付〇・〇二五トス Vohitra ノ流域ヲ馳行スル間屢々此最大限ヲ用ツ隧道ヲ出テ Vohitra ノ支流 Sahatandria 流域ニ入レハ數「キロメートル」ノ間地形波狀ヲナス然レトモ Anhalavolo ノ停車場ヲ過クハハ大曲線ヲ畫キテ高嶺ニ上ル Kona ノ瀑布ト稱シ六十六「メートル」ノ飛泉アルハ即チロノ地點トス

Fanorana 停車場ヲ過キ森近ヲ横斷シテ出ツレハ Sahatandria ノ流域ヲ離レタルモノニシテ海拔既ニ、九百五十「メートル」ノ高地ニ在リ即チ本島東斜面ノ第一山脈ヲ越エタルナリ此地方ノ水ハ Mangoro 河ニ入ルモノニシテ其支流 Ba-hanzarina ハ數「キロメートル」ノ間鐵道ニ伴フ夫ヨリ鐵道ハ Tangaina 山ノ隧道(九十五「メートル」)ヲ經 Antanjoana 至於 Mangoro 河ヲ渡ル

「マンニョ」河ノ水源地タル高原ト Ikopa 河(西北 Bondétoke 灣ニ入ル)ノ水源地タル「タナナリヴ」高原トハ其高度ヲ



異ニシ南北ニ走ル高サ五百メートル險山ニヨリテ隔テラル「マンゴロ」河ヲ渡リ平原ヲ過キ「Manambolo」河ニ達シ其流域ニ沿ツテ Anjio 驛ニ入ル「アンジロ」ヨリ鐵路「イメリナ」高原ニ向ヒ「Mandraka」断崖ノ徑路ヲ經森林ヲ横斷シテ Imenina 州 Ambatolana 驛ニ達ス Mandraka 河トキ「Manambolo」河ト同川ナレバモ其 Angavo 岩山附近ヲ通過スル際ニ有スル別名ナリ「Bonde d' Anjio」ト稱シ鐵道ガ「字」形ノ大迂曲ヲナスハ即チ此附近ニシテ地形ヲ利用シテカ、ル工事ヲナシタル爲メ工費三十萬法ヲ節約シ得タリト云フ

Ambatolana 停車場ヲ出テ、數「キロメートル」印度洋ニ注グ「Mangaro」河ト「モザンビック」海峽ニ注グ「Ikopa」河トノ分水嶺ヲ越エ夫レヨリ幾多「Ikopa」ノ支流ヲ横斷シ其一ナル「Ivorokopa」ノ流域ヨリ「Ikopa」本流ノ流域ニ移リ遂ニ「タナナリツ」ニ達ス線路全長二百七十一「キロメートル」〇三二トメ

本線路ハ海岸ヨリ海拔千四百メートル「タナナリツ」ニ達スル事トテ羊腸トシテ深山幽谷ニ出入シ次第ニ高地ニ攀躋シ沿線ノ風光頗ル幽雅人ヲシテ瑞西旅行ヲ想起セシム而シテ「Bonde d' Anjio」ノ曲線ハ、大ニ「サン、ゴター」ノ曲線ニ似タルモノアリ

本線ハ傾斜ニ「メートル」ニ付〇・〇二五ヲ最大限トシ時ニハ、二十「キロメートル」ノ間間斷ナク此最大限ヲ用キタル所アリト彎曲ノ際ハ、八十「メートル」ヲ半径トシ稀レニ、五十「メートル」ヲ半径トシタル所アリ而シテ反對ノ方向ヨリ來ル兩曲線ノ間隔ハ、四十「メートル」ヲ最小限トセリ

工費ハ總計六千萬法（約二千四百萬圓）ヲ要シタリト云フ

本線ヲ Brickville ヨリ「Brickave」迄（距離約百「キロメートル」）延長シ「タナナリツ」ヨリ「タマタヅ」迄直通セン爲メ、七百萬法（約二百八十萬圓）ノ豫算ニテ工事中ナリシカ本年大正二年（三月竣工セリト云フ）

從來「タナナリツ」「タマタヅ」間ヲ旅行スルモノハ「ブリツカヅイル」ニ一泊スルヲ要シ旅行二日ヲ要シタリシガ此延長ニヨリテ大ニ時間ヲ短縮スルヲ得ルニ至レリ運輸上利便ヲ増加セルコト亦大ナルヘシ

猶ホ「タナナリツ」ヨリ「Antsirabe」迄鐵道延長ノ計畫アリ二三年中ニ竣工スヘシト云フ此鐵道ノ其地方ヲ開發スルコト、蓋シ著シキモノアリ

貨客ハ乗客一人ニ「キロメートル」ニ付一等ハ、二十「サンチム」(約八錢)二等ハ、十「サンチム」(約四錢)土人ハ貨車ニ乗スレハ四「サンチム」(約一錢六厘)ヲ算出ノ基礎トセリ貨物運賃其他ハ添付ノ參考書參照セラレタシ

一九一〇年ニ於ケル本鐵道ノ營業成績「タナナリツ」「ブリツカヅイル」間此延長二百七十一「キロメートル」〇三二トメ

收入總額	1,506,875	純利	602,500
支出總額	846,400	「キロメートル」ノ純益	2,145.00

ニシテ收入百ニ對スル費用ノ割合ハ、五十九・五五トナリ純益ハ、四割強ニ當レリ

二 「バンガラ」運河(Canal des Pangalanes)

Compagnie des Messageries françaises de Madagascar 會社「Tamatave, Ivondro」間(十二「キロメートル」)ノ單線狹軌鐵道及「バンガラ」運河ヲ有シ運輸業ヲ營ム

「バンガラ」(土砂ノ地)運河トハ蘇西運河ノ如ク幾多ノ湖水ノ間ニ運河ヲ開鑿シ船行ヲ通シタルモノニシテ(河川ノ部參照)此便ニヨリ小蒸氣船ヲ以テ「タマタヅ」ヨリ來ル鐵道ノ終點「Ivondro」ト「タナナリツ」ヨリ來ル鐵道ノ終點「Brick-aville」トノ間ノ交通ヲ接續ス

運河ノ全長ハ百三十五「キロメートル」〇九六ニミチ小蒸氣船ハ「Ivondro」驛ヲ發シ「Ivondro」河ヨリ其支流「Ambavayano」ニ入リ「Nosi-Be, Sarobakina」兩湖ヲ經テ第一「バンガラ」(運河)ニ入ル夫ヨリ「Taniofay, Tampina, Amtanpina」諸湖ヲ經「Irangy, Ampilabe,」兩川ヲ入リ「Ampanoanainina」ナル第二「バンガラ」ニ達スンレヨリ後ハ「Rasoa-Masoy, Rasoa-Pe」兩湖ヲ經テ「Unahaso」川ニ入リ遂ニ「Andavakajimenerana」ノ第三「バンガラ」ニ着ス(通常之ヲ短縮シテ「Andavaka」ト云フ)此運河ヲ出ツレハ水路ハ「Ranomainty」川ニ合シ本川ニヨリテ「Andovoranto」市迄航行シモノニ於テ

Volina 河ニ入ル夫ヨリ Volina 河ヲ湖リテ鐵道ノ終點 Briarville ニ達ス

本會社ハ船十八艘小蒸氣船十艘ヲ有ス

第二 自働車線及 Beisboka 河ノ水運

一 自働車線

自働車運搬ハ官營事業ニシテ客車ハ、十二人乗ノ乗合車ヲ用ツ車掌運轉手ハ共ニ土人(ホーヅ人)ニシテ充分ノ注意ヲ用キ一定ノ速力ヲ以テ駛行ス其技術工妙驚クニ堪フ

貨銀ハ、一「キロメートル」ニ付乘客一人二十山(約八錢)荷物一噸一法二十山(約四十八錢)ノ割合トス

自働車線ハ(イ)三線アリ

(イ)南部線 「Tananarive, Ambohitra 間(二百六十八「キロメートル」)

毎週月曜及水曜午前六時五十分「タナナリヅ」ヲ發シ十一時 Antananarivo 驛ニテ晝食五時三十分 Antananarivo 着 一泊翌

日午前七時同所ヲ發シ正午 Ambohitra ニ着ス

Ambohitra ヨリハ水曜及土曜午後二時ニ發シ木曜及日曜午後五時「タナナリヅ」ニ着ス

(ロ) 「Tananarive-Marinarivo 線(九十九「キロメートル」)

毎月二回「タナナリヅ」ヨリ午前六時二十分ニ發シ零時半 Marinarivo ニ着ス第一回ノ便ハ佛國ヨリ月初ニ「タナナリ

ヅ」ニ郵便ノ着シタル翌日第二回ノ便ハ毎月十九日ニ「タナナリヅ」ヲ發シ即日 Marinarivo ニ着シ同所ヨリハ其翌日

「タナナリヅ」ニ向ツテ發ス

(ハ)西部線 「Tananarive, Maevatanana 間(三百四十六「キロメートル」)

「タナナリヅ」ヨリハ毎月三回ノ便アリ

毎月三十一日若クハ二日午前六時「タナナリヅ」ヲ發シ Mahajanga ニ一泊シ其翌日午後四時半 Maevatanana ニ着ス

毎月二十日午後二時ニ「タナナリヅ」ヲ發スルモノニシテ途中停車セズ Maevatanana ニ急行ス此便ハ佛國行郵便ヲ輸送スルモノナルガ故ニ空キ場所アル時ニ限り乘客ノ便乗ヲ許ス

毎月二十七日ノ自働車便ハ Maevatanana 迄ノ發着時間總テ一日ノ便ニ同シ二十九日 Maevatanana ヲ發シ翌月一日

Majunga ニ着スヘキ小蒸氣船ト連續スルモノニシテ毎月三日「マジュンガ」ヲ出發シ「マダガスカル」南西岸南部亞非

利加間ヲ航行スル Persépolis 號便及毎月二日「マジュンガ」ヲ出發シ「マダガスカル」北西岸ヲ航行スル Mpanjaka 號便

ハ亦此小蒸氣ノ便ト接續スルモノナリ

Maevatanana ヨリハ毎月二回ノ便アリ

第一回ハ佛國西ノ郵便ヲ携ヘ來ル小蒸氣ト接續スル爲メ毎月三日若クハ四日ニ此地ヲ發シ途中停車スルコトナク「タナナリヅ」ニ急行スルカ故ニ空席アルニアラサレハ乘客ノ便乗ヲ許サズ

第二回便ハ毎月二十三日午前六時同所ヲ發シ Mahajanga ニ一泊シ二十四日午後「タナナリヅ」ニ着ス

上記自働車官營ノ經濟ヲ檢スル亦無用ノ業ニ非ナルヘシ其一九一〇年ニ於ケル成績ハ左ノ如シ

自働車ノ數(客車貨車共)	貨物	三〇五五法九〇
Yohane Panhard-Lavasser 24 H.P.(1903)	郵便補助金	一七〇〇法〇〇
Break " " 15 H.P.(1905)	計	八七〇法〇〇
Quantus Dion-Bouton 30 H.P.(1910)	支出	一「キロメートル」支出 一法五五
Gaucha Panhard-Lavasser 15 H.P.(1902)	諸材料	三〇六法四四
	消費物品代	六四五〇法四三
計	豫備器械	二六七七法五二
走行里程	燃料	三三〇〇法九〇
收入	「キロメートル」收入	一六〇六法二九
旅客	計	一六〇六法二九
手荷物	計	一六〇六法二九

即チ損失七八、九八〇法二九トス而シテ此損失ハ鐵道ノ利益ヲ以テ補充スト云フ

二 Beisboka 河ノ水運

Maevatanana ヨリ Majunga 港ニ至ル「マナボカ」河ノ水路二百四十五「キロメートル」トス此間小蒸氣船ノ定期通航アリ Compagnie Occidentale de Madagascar 會社之ヲ營ム此航路ノ賃銀ハ乘客一人ニ付一等四十五法二等三十五法三等十五法(食費及宿料ハコノ外トス)荷物ハ一噸ニ付四十五法(但シ品ニヨリ一割ノ割引ヲナスモノアリ又地方ノ物産ニハ特ニ細密ナル運賃表ヲ設ク)トス

「マジンガ」發上リ便

イ 郵便、旅客便

佛蘭西及 Cochins 島ヨリノ郵便受取次第毎月一日若クハ二日ニ出帆ス到着地迄通航時間ハ五十四時間ヲ超エザル

モ十二、一、二、三ノ四ヶ月ハ、四十八時間トス

ロ 郵便、旅客、貨物便

毎月十日發到着地迄通航時間ハ郵便受取後七十二時間ヲ超エス

ハ 郵便、旅客便

毎月十八日若クハ、十九日(北西岸ノ郵便物受取後)

通航時間ロニ同シ

ニ 郵便、旅客、貨物便

毎月二十五日(南西岸及南亞郵便受取後)

通航時間ロニ同シ

「マエグタナナ」發下リ便

イ 郵便、旅客便

毎月六日通航時間四十八時間

ロ 郵便、旅客、貨物便

毎月十六日(郵便受取後)但シ三十一日アル月ノ翌月ニハ一日繰上ク

通航時間五十時間

ハ 郵便、旅客便

毎月二十二日(佛國行郵便受取後)午前九時迄ニ出帆

「マジンガ」着ハ、二十三日午後二時前トス(佛國行郵便船ト接続ス)

ニ 郵便、旅客、貨物便

毎月一日若クハ三十一日(佛國行及北西岸ノ南亞行郵便船ト接続ス)

通行時間四十八時間以内

第三 道 路

「マダガスカル」在來ノ道路ハ幾世ノ間土人ノ通行ニヨリテ自然ニ出來シタル細徑ニシテ橋梁ナルモノナク細流ハ徒歩シ水深ケレバ獨木舟ニヨリテ之ヲ渡リタリカ、ル状態ニ於テ運搬ハ人脊ニヨルノ外ナカリシカハ、一八九六年頃ハ「タマタヅ」若クハ「マジンガ」ヨリ首都「タナナリヅ」ニ貨物ヲ送ルニ一噸ニ付運搬費實ニ一千百法(約四百四十圓)餘ヲ要シタリ而シテ有効ニ「マダガスカル」ヲ占領シテ、ニ諸般ノ組織ヲ設ケ並ニ其富源ヲ開發セントセハ大ノ運輸交通ノ便ヲ開カサル可ラス「ジエネラル」ガリエニ「同島ノ占領ヲ確實ニシテヨリコ、ニ願ル所アリ大ニ土木ヲ起シ爾後今日ニ至ル未タ十七八年ニ過キス而シテ鐵道延長三百七十一「キロメートル」ノ外既ニ左記幾線ノ良道ヲ見ルニ至レリ

イ 東部線 (Tananarive-Mahatsara 間二百五十「キロメートル」)

本線ハ首都ヨリ海岸ニ下ル最短ノ捷路ニシテ道幅五「メートル」其中央三「メートル」ハ割り石ヲ敷込メタリ大道路ハ皆此式ニ據ル

(ロ) 西部線 Tananarive-Maevatanana 間二百五十五「キロメートル」
 (イ) Miarinarivo 線 Tananarive-Miarinarivo 間九十九「キロメートル」
 本道路中 Ikopa 河ニハ九十「メートル」ノ橋ヲ架セリ
 (ニ) 南部線 Tananarive-Antsirabe-Fianarantsoa 間四百四「キロメートル」
 * Maingoro-lac Alaotra 線百三十「キロメートル」
 Moramanga 停車場ト lac Aberavay トノ間ノ線路ニミテ lac Aberavay ヨリハ Tanafotsy 及 Sakabe 兩河ノ水流ヲ借
 リ Alaotra 湖ニ入ルヲ得ヘシ
 (ウ) Fianarantsoa-Mananjary 線百九十五「キロメートル」
 上記大道ノ外車道ニ適スルモノ少ナカラス左ニ之ヲ列記ス
 Andre 山ノ車道及 Sakarany ノ「トコツイル」線
 Diego-Suarez ヨリ Mahagaga, Antsirabe, Saonjorato, Marorato, Ambondrombe 等經テ Ambakirano 至ル金山街道(百
 三十「キロメートル」)
 「タマタツ」ナル農事試験場ト Troinina 農場トノ間ノ道路ハ割り石ヲ敷キ鐵橋ヲ設ケラレタリ
 Farafangona-Troinina 間百五十五「キロメートル」
 Antsohinanga 線(二十「キロメートル」)ハ「タナナリウ」ヨリ往時王宮ノ在リシ Antsohinanga 至ル道路ニシテ土人
 ノ交通絶エズ(割り石敷)
 Antsirabe-Betato 線(二十三「キロメートル」)(割り石敷)
 Antsirabe-森林線(四十五「キロメートル」)車ヲ用ツヘシ
 Farafsho 線(四十五「キロメートル」)ハ南部線百三十二「キロメートル」ノ Sambaina ヨリ發シテ Farafsho 至ルモ

ノナリ
 Mahitsy-Soavinimerina 線ハ西部線三十三「キロメートル」Mahitsy 至發シ Ikopa 河邊ノ要市 Soavinimerina 至ル(割り石
 敷)
 Soavinandriana 線(約四十四「キロメートル」) Miarinarivo ノ大道八十六「キロメートル」ノ點ヨリ分レテ農業地方ナル
 Soavinandriana 至ル
 Mananara 線(四十七「キロメートル」)ハ東部線三十三「キロメートル」ノ地點
 Mahariaka 村 ヨリ Antsohinanga, Soavinandriana, Ambatomena 等ヲ經テ Anjozorobe 至テ Mananara 流域ハ人口多
 ク農事開ケタリ此地方ハ本線ノ爲メ Mahariaka 村ヨリ僅カニ「二」キロメートル「ナル Carion 停車場ト直接交通ス
 ルニ至ル
 右ノ外各州土人ノ賦役ニテ必要ノ道路ヲ開鑿シ居レリ

第四 水路

「マダガスカル」ノ河川運輸ニ利用シ得ルモノ甚ダ少ナシ
 Antoa 川北部鑛業發達ノ餘響小舟ニ非サレハ交通ス可ラサルカカル小川モ舟行歳月ト共ニ増加ス蓋シ Andavakoeira 鑛
 山ト Nosy-Be トノ間ノ最短路ナレハナリ
 Loza 河ハ Antsohihy 迄ハ舟行スルシ Malajajao 河ハ充分ニ利用シ得ヘシ
 Manambolo 河ハ Ankavandra 附近迄ハ小舟ヲ用ツヘシ
 「Sambina 河」戰時小蒸氣ニテ軍隊糧食ヲ運搬シタル事アリテ利用シ得ヘキ部分少ナカラス
 Onilahy 河モ若干ノ利用ヲ許ス蓋シ Para 地方ノ物産輸送ノ爲メ獨木舟二隻ヲ連結シテ 「Tulear 迄下ルコトヲ得レハ
 ナリ



Farafangana 州ノ Iomampy 河(Mananara ノ支流)ハ Farafangana-Soukiana 間ノ道路ニヨリ Midongy-du-Sud 迄ノ交通ヲ許ス

Mangoro 河モ其上流ハ利用シ得ヘク Ambatondrazaka 地方ノ産物ヲ鐵道迄輸送スル事ヲ許ス
「バンガラシ」ニ關シテハ既ニ記述シタレハコトニ略ス

第五 港灣ノ設備

「マダガスカル」島港灣少ナカラス然レトモ良灣甚乏シ而シテ現今商港ノ重モノナルハ Tamatave, Diégo-Suarez 及 Majunga ノ三港トス

Tamatave ニ於ケル港灣ノ設備トシテハ私立會社ノ築造セル三百メートルナル鐵骨ノ棧橋アリ其一端ニ長サ、五十二メートル幅十五メートルノ荷物揚卸場アリテ丁字形ヲナスコノ所ニ起重機ヲ備フ

此地ニ倉庫會社アリ Sociétés des Magasins Généraux et entrepôts de Madagascar ト稱ス貨物ノ積卸シ倉預リ及運搬ノ業ヲ營ム別冊同社ノ規則ヲ添付シテ參考ニ資ス(別冊略ス)

「マダガスカル」島全貿易ノ約三分ノ一ハ「タマタヴ」港ニヨリテ行ハル而シテ今ヤ同港ハ鐵道ノ終點トナリ其築港ハ甚々急務トナリタレハ千五百萬法ノ公債ヲ募リテ築港スル事トナリ居レリ其設計ハ一直線ノ海岸ヲ有スル同港ノ左右兩翼ニ突堤ヲ築キU字形ノ灣トナスニアリ竣工ノ曉ニハ船舶ノ碇泊大ニ便利ナルヘク又鐵道ノ内地ニ延長スルニ從ツテ物貨ノ出入其數ヲ加フヘシ同港ハ既ニ同島第一ノ商港タリ數年ナラスシテ大ニ繁昌ノ市場タルニ至ルヘシ

Diégo-Suarez ニハ棧橋二アリ一ハ官有ニシテ一ハ汽船會社ニ屬スコノ外佛國「クルーゾー」Schneider 會社ニ於テ「タマタヴ」棧橋ニ同シキモノヲ建設スルノ許可ヲ得居レリ

Majunga ニハ天然ノ砂洲アリテ港ヲ保護スレトモ潮ノ干満ニハ波浪頗ル荒ク砂洲ノ形狀ヲ變スルカ故ニ防波ノ爲メ杭ヲ打チ込ミシモ猶ホ足ラサリシカハ此防波杭ノ代リニ石垣ヲ築キタリ本港ハ「モザンビック」海峽ニ面スル第一ノ要港

ナレハ政府ハ年々工事ヲ施シテ港灣ノ改良ヲ計畫シ居レリ

Tulcar ニ於テハ船舶ノ入港ニ便スル爲メ數點ニ目標ヲ建設シ又五百七十五メートルノ石垣ノ突堤ヲ築キタリ
右ノ外 Fort-Dauphin ニ小突堤ヲ Analava ニ棧橋ヲ建設シツ、アリ

第六 郵便、電信、電話等

郵便ノ定時集配ハ殆ト全島ニ普ネテ電信線ハ「タナナリツ」ヨリ Tamatave, Diégo-Suarez, Majunga, Marondava, Tulcar, Fort-Dauphin 及東岸ノ諸港ニ架設シアリテ海底電線ハ Majunga-Mozambique 間及 Tamatave-Saint Denis(Rennon 島)間ニ布設シアリ而シテ Majunga 及 Mayotte 島ニ無線電信ノ設ケアリテ Comores 諸島ノ通信ヲ保チ小島ノ間ニハ信號(télégraphie optique)ニテ通信ス

電話ハ Tananarive, Tamatave, Majunga, Diégo-Suarez ノ四市ニ設ケラレテ長距離電話ハ Tamatave, Tananarive ヲ連接ス

第十章 拓殖 (Colonisation)

「マダガスカル」島ノ産業ハ年々發展シツ、アリテ一九一〇年ニ於ケル輸出額ハ、四千五百萬法ニ達シ前年ノ輸出額ニ比シ一千二百萬法ヲ増加セリ而シテ此輸出増加ハ殆ト悉ク農産物ニ歸因ス則チ同島發展ノ迅速ニシテ且ツ偉大ナルヲ推知スヘシ「マダガスカル」ノ土地ハ全島到ル處農耕ニ適シ且土地ノ高低ニ從ヒ氣候相異ルカ故ニ諸般ノ作物ヲ栽培シ得ヘシ

中央高原ハ冬季降雨ニヨリテ地味肥沃トナリ穀類桑樹等ノ栽培ニ適ス東岸及西北岸ハ高温多濕ノ地方ニシテ厚利作物(Cultures riches)ヲ集中ス而シテ西岸ハ高温乾燥地ニ於ケルカ如ク椰子樹、「ゴム」性植物ノ栽培ニ適ス此等地帯ニ普及スル以上作物ノ外土人ハ殆ト全島ニ亘リ米、「マニオック」甘藷(Cassave)等ヲ栽培ス

一 歐洲人の産業

中部地方ニ於ケル幾多ノ歐洲人ハ桑樹及「マニオック」ノ栽培ニ從事ス又「Tamanisoon」地方ハ歐洲人ノ栽培ニ一層好適ノ地方トシテ知ラル、ニ至リテ葡萄ハ栽培セラレ若干ノ栽植家ハ既ニ葡萄酒醸造ヲ試ミタリ又果樹多數ニ栽培セラル同地方ニ於ケル産業ノ發達ハ輸出向「Batavia」米ノ耕作ニ於テ特ニ見ルヘキモノアリ本島ノ西北地方(Sakarany 高地)ニ於テ「マニオック」ノ栽培大ニ發達シ東岸一帯ノ地方ニ存スルカ如キ「ヴァニール」珈琲樹、「ココア」樹、「Vanetylang」椰子樹等ノ栽培亦盛ナリ「Batavia」、「Tribunia」等ノ地方ニ於テハ林産物「ゴム」、「Raphia」、「ベンゲローツ」等ノ商業盛ナリ「Tribunia」地方ハ歐洲人産業ノ一新中心トナリ灌溉ノ便ヲ開キタル爲メ大ニ發展セリ此地方ハ「カツン」蠶豆ノ産地ニシテ鷓鴣及羊モ飼養セラル又「ゴム」性植物ノ栽培モ發達シタル結果「Mijungo」ニハ「Rubber Madagascar Co. Moron-dava」ニハ「Shuzanski」社等ノ新會社ヲ見ルニ至リタリ

二 土人の産業

高原及「Banyue」ニ於テハ栽培業及畜産業土人ノ間ニ普及セルガ故ニ歐洲商人ハ同地方ニ於テハ「マニオック」、豚脂、小麦、麻等ノ買入レヲナシテ而シテ沿海地方ニ於テハ林産物「ゴム」、蠟、棕櫚、落花生、玉蜀黍等ヲ購入ス然レトモ現今米田ノ存スル地方ニ於テハ猶若干年間米作ハ土人ノ第一農産物タルヘシ

三 農事獎勵

農事ノ保護獎勵ハ農事試驗場、育苗場、試作所ノ設置、市場、農産物品評會ノ組織、獎勵金ノ分與、土地ノ改良、農業水利ノ工事等ニヨリテ行ハル

イ 農事試驗場

農事試驗所ニケ所アリ即チ「Nanisana」農事試驗場(Tonantive 附近)「Yakinankaratra」農事試驗場(Austrabe 附近)「Tvoloina」農事試驗場(Tamatave 附近)トス

從來「Nanisana」農事試驗場ノ事業ハ林産物果樹等ノ種子ヲ普及スルニアリキ而シテ同島ニ採用スヘキ接木法並ニ接木ノ好時期ヲ確定スル目的ニテ接木試驗ヲ行ヒシカ其結果ハ左ノ如クナリキ

果樹ノ種類	接木ノ方法	時期	結果	果樹ノ種類	接木ノ方法	時期	結果
杏	内産種樹 割接	七八月	佳良	レモン樹及	割接	七八月	良(1)
Apple	芽接(生芽)	十二月	中庸	ザボン樹	芽接(生芽)	十二月	中庸(2)
李	芽接(生芽)	三四月	中庸	内産種樹	割接	七八月	佳良
梅	芽接	同	同	梅樹	芽接(生芽)	三四月	中庸
枇杷	割接(大ナラザ)	八、九月	佳良	内産種樹	割接	七八月	同
梅	割接	同	同	梅樹	生芽接	十二月	同
内産種樹	割接	同	同	内産種樹	生芽接	三、四月	中庸

(1) 接木當時ノ期間ハ灌水スルヲ要シ且ツ接木作業ニ經驗ヲ要ス

(2) 猶ホ試験中ナルモ前記ノ如キ結果ヲ得ルナラン

(3) レモン樹ノ臺木ニ於テ稍良好ナル結果ヲ得、灌水ヲ要ス

一九一〇年本試驗場ニ於テ接木ヲ行ヒシ結果個人ニ分與セル接木苗ノ數大ニ増加セリ

本場ニ於テハ接木苗ノ外「アカシア」(Acacia)鳳梨「アゾオカ」梨「Avocates」珈琲樹ノ苗木、竹、桑樹ノ挿木苗ヲ分與セリ又各種果樹ノ調査ニ便ナラシムル爲メ親木植物ノ栽培園ヲ新設セリ

同場ニテ日本産ノ金柑ヲ栽培セルカ其發育佳良形色及味日本産ト異ナラス

「Nanisana」農事試驗場ハ同時ニ蠶業試驗場ニシテ種蠶蠶種ノ製造分配、蠶病ノ豫防驅除ニ關スル研究ヲナシ、繭色一定及繭形改良ノ兩目的ヲ以テ繭ノ種類選擇試験ヲ行フ桑園ハ全蠶室ニ飼育スル蠶兒ノ用桑量ニ不足ナキ程度ニ擴張セラレタリ

「Yakinankaratra」農事試驗場ハ、一九〇九年ノ設立ニシテ「Nanisana」農事試驗場ニ屬ス

Ivohia 農事試験場、Tamatave、ヲ距ル十三「キロメートル」ノ地ニアリテ沿海ノ農民ニ果樹、珈琲樹「ココア」樹、椰子樹、胡椒樹、Kotier, Yang-yang 「ゴム」樹等ノ苗木並ニ庭木、日除用樹木ノ苗木ヲ供給ス又此地方ノ農民ハ苗木ノ運搬ニ要スル費用ヲ省カンカ爲メ各種樹木ノ種子ヲ要求ス
此所ニテ「ベルマ」竹ノ大ニ發育セルヲ見タリ直徑尺餘長サ、六七間之ヲ以テ紙泥ヲ製スルヲ得ヘクハ大ニ便ナルモノ
アラン

ロ 育苗場

育苗場ハ Ambodiririno, Ariyoninano, Antsirabe, Ambositra, Tananarivo, Marovoay, Helle-Villeニ在リ個人ニ苗木ヲ分與シ且ツ近村ノ組合 (okonolona)ニ苗木ヲ分配ス

ハ 試作園

試作園ハ前記農事試験場ニ屬シ歐洲人ノ栽培地或ハ土人栽培地ノ中央點ニ設置セラレ有用ナル植物及新輸入ノ植物ニ對スル氣候風土應化等ヲ示效ス

總督府拓殖局ハ佛國政府ニ「マダガスカル」米及「ココア」樹ニ關スル調査ヲ請求セリ而シテ其調査ノ結果ハ從來一噸ニ付三百五十乃至四百法ニテ佛國ニ輸出セラレツツアル東岸及中部地方ノ或ル種ノ米ハ「ジャザア」、伊太利等ヨリ同國ニ輸入スル最良品質ノ米ニ匹敵スルコトヲ示セリ而シテ斯ノ如キ調査ハ「ゴム」樹「マンダロー」樹皮(鞣皮用藥品ヲ抽出センカ爲メニ)纖維植物(荷造品用品ヲ改良センカ爲メニ)並ニ林産物ニ就キ逐次實行セラルヘシト云フ

米ニ就テハ粒ノ一定セル白色米ヲ容易ニ生産スルニ至ラハ將來一ツノ輸出産物トナルヘキコト明カナリ而シテ米質ノ改良ハ種子ノ選擇ニヨリテ行フヲ得ヘシ此ノ目的ノ下ニ「saisana」ニハ既ニ種子保存ノタメニ土人ノ組織セル一組合アリ二百人ノ組合員ヲ有シ組合間ニ精選セル米ノ種子ヲ分配ス
土人ニ種子ノ選擇ヲ獎勵スル爲メ行政廳ハ數臺ノ選種器ヲ購入シ無料ニテ土人ニ貸與シ當局監視ノ下ニ村ヨリ村ニ順

次送付ス而シテ右選種器ハ左ノ如ク配置セラル

Marovoay ニ一臺 Fianarantsoa ニ一臺 Antsirabe ニ一臺 Nanisava ニ一臺

ニ、各種ノ獎勵

生産物ノ販賣ハ常置市場定期市場農産物品評會等ノ設ケラレタルニヨリ容易トナレリ而シテ品評會ハ毎年「Tananarive, Ambositra, Fianarantsoa, Antsirabe, Bekato, Majunga」ニ開カレ馬ノ定期市ハ「Tananarive」及「Fianarantsoa」ニ毎年一回開カル

ホ 土地改良(農業水利)

行政廳ハ土地改良ノ爲メ用水ノ分配ニ關スル規則之カ實行方法及水ヲ利用スルニ必要ナル土木其管理ヲ調査スル目的ヲ以テ調査委員會ヲ組織セリ一九一〇年ニ於ケル水利事業ハ主トシテ «Bezimihatra, Vakinankaratra» ノ平原地及 Marovoay ノ漸積地々方ニ實行セラレタリ

灌漑溝排水溝ノ數逐年増加スルニ連レ可耕地モ次第ニ増加シツ、アリ農業水利事業ハ現今 Mananara, Katsicola, ノ沿岸地 Vakinankaratra 地方内及 Marandona, ノ沿岸地ニ經營セラル

第十一章 農業

第一節 食料品

米 米ハ土人ノ第一ノ農産ナリ蓋シ「マダガスカル」島人ハ特ニ米作ヲ嗜好スルト且ツ米カ土人食物ノ基礎ヲナストヲ以テナリ故ニ米作ハ島内到處ニ行ハレ殊ニ中央高原 Alaotra 湖水地方 Marovoay 平原 Sambirano, ノ沿岸等ニ於テハ産額多ク年々數百噸ヲ輸出ス

「マダガスカル」ニテハ、一八九六年ヨリ一九〇〇年迄ハ毎年約八十萬法ノ外國米ヲ輸入シ一九〇一年ニハ其輸入五百

六十四萬六千三百六十六法ニ増加セリ然ルニ爾來米ノ輸入漸次減少シ來リ一九〇九年ニハ一萬五千六百二十九法ニ一九〇〇年ニ至リテハ一萬一千五百三十三法ニ減少セリ而シテ輸入ノ斯ノ如ク漸減スルニ反シ輸出ノ數量價格ハ左表ノ如ク増加セリ

年次	數量 (千石)	價格	年次	數量 (千石)	價格
一九〇〇	一六〇三	三三六	一九〇六	二二七四	三三六
一九〇一	八九九〇	三三〇	一九〇七	二二四九	三三六
一九〇二	二四三三	一六八	一九〇八	四六七九	三三七
一九〇三	三三三九	三三三	一九〇九	三九六二	三三七
一九〇四	六〇七九	六二五	一九一〇	八二五	三三七
一九〇五	一五七九	三三六			

現ニ實行中ナル計畫ハ米作ノ改良ト作米ノ取引ヲ便利ナラシムルヲ目的トシ米田ニ變化シ得ラルヘキ沼澤地ノ開墾、運河ノ疏鑿、種子ノ選擇等トス

Boeの郡長ノ談話ニ曰ク同地方ニテハ米田ノ價格ハ事情ニヨリ一定セザレトモ最近土人間ニ行ハレタル良田ノ賣買價格ハ「ヘクタール」(約一町三十步)ニテ五百法(約二百圓)ナリ而シテ「ヘクタール」ノ收穫ハ概シテ千五百「キロ」ニシテ「百」キロノ價格十二法ナレハ「ヘクタール」ノ收穫代價ハ約百八十法(約七十二圓)ナリト

米田ニハ耕作シアルト否トニ拘ハラズ地方ニヨリ一ケ年ニ「ヘクタール」ニ付三法乃至五法ノ税金アリ
 「マニョック」(Manioc) 「マニョック」ノ栽培ハ盛ニ土人間ニ行ハル、ニ至レリ佛國カ外國産「マニョック」ニ對シ百基七法ノ輸入税ヲ課スル事トナシテ以來無稅ナル「マニョック」ハ大ニ佛國內地ニ販路ヲ開キタルヲ以テ「マニョック」ヲ主要ナル輸出物産中ニ數フルニ至レリ「マニョック」ハ地質ノ如何ニ拘ラス成長シ得ル植物ニシテ中央高原ノ中間地帯沿海地方等全島到處多少栽培シ得ラレナルハナシ此植物ハ經濟的ノ作物ニシテ根部ニ種々ノ用途アルヲ以テ將來最モ有望ナル農産ナリ即チ根部ハ土人ノ最モ嗜好スル食料タルト同時ニ佳良ナル家畜ノ飼料トナル

「C. E.」鐵道ノ運賃低減ノ爲メ乾燥「マニョック」ノ取引増嵩シ一九〇九年ニ於ケル取引高ハ、七十萬法以上ニ達セリ而シテ本品ノ販路ハ織物ノ糊附ケ仕揚ケ工場、澱粉「アルコール」及「タピオカ」製造場等ニシテ近來佛國北部地方ノ蒸溜業者及澱粉製造業者ノ間ニ好顧客ヲ得ルニ至レリ

玉蜀黍(Mais) 米「マニョック」ニ次キ玉蜀黍ハ土人ノ主モナル農産物ニシテ島内多濕ノ地方一般ニ亘リテ栽培セラレ其栽培地積ハ約四萬二千「ヘクタール」ニ達ス一九一〇年歐洲人ノ本品ヲ收穫シタル額ハ、二千三百噸土人ノ收穫セル額ハ五萬七千噸トス

甘藷(Cassava) 甘藷ハ抵抗力強ク沃土ニ非サルモ耕作シ得ヘキ植物ニシテ島内廣ク栽培スルヲ得耕作段別ハ現ニ約六萬「ヘクタール」ニシテ其平均年産額ハ約二十四萬噸トス本品ハ未タ輸出商品タルニ至ラス

小麥 火山質ノ土壤ヲ有スル中央高原ノ地方ニ於テ種子成熟期ノ齊一ヲ計ランカタメ灌溉ヲ實行スルニ至リタル以來小麥、大麥、燕麥等ノ栽培ハ良好ナル結果ヲ呈セリ小麥ノ耕作段別ハ、一九一〇年ノ終リニ於テハ、百八「ヘクタール」ニ達セリ現今 Anisrahe ニ一製粉所設置セラレ同地附近産ノ小麥ヲ以テ「パン」粉ヲ製出ス

從來「マニョック」島ニテハ小麥ノ産額甚タ僅少ナリシカハ歐洲人ハ麥粉ヲ輸入シテ「パン」ヲ製シ居リシカ Anisrahe 地方ニ於テハ小麥ヲ耕作シ得ヘキヨリ之ヲ獎勵シタル結果同地方ノミニテ「マニョック」全島ノ所要「パン」粉ヲ供給シ得ヘキト明カトナリタル爲メ Godebat 氏ハ佛國ヨリ最新式ノ製粉器械ヲ取寄セ大規模ノ製粉所ヲ設ケシカ同地方ニ於ル小麥ノ産額年ト共ニ増加スルニ至リ製粉所モ次第ニ好結果ヲ收ムルニ至レリト云フ

「カヌ」(Cane) 本品ノ栽培ハ沖積地層及西南部ノ河口ニ存スル三角洲トス輸出額ハ年々大ナル増加ヲナシ一九〇六年ニハ漸ク二萬三千法ニ過キナリシモ一九一〇年ニ至リテハ、百十六萬七百二十二法ニ達セリ種子選擇獎勵ノ結果品質著シク改良シ價格低廉ナル小豆、赤豆、若クハ斑點豆ハ若干ノ地方ニ於テハ既ニ全然栽培ヲ放棄シ良質ノ商品タル白色大豆ノ産出スルニ至レリ

「カブ」豌豆ノ輸出額

年次	輸出額	年次	輸出額
一九〇五	五〇,三三三	一九〇八	八,四〇三
一九〇六	四六,二二五	一九〇九	九,〇七五
一九〇七	七四,七〇九	一九一〇	一六,〇五七

此「カブ」豌豆ハ南亞非利加ヨリモ盛ニ歐洲ニ輸入セラレシカ本品ハ青酸(Acide prussique)ヲ有シ有害ナリトテ新聞紙ニ攻撃セラレテヨリ歐洲ノ需要大ニ減シタリト云フ

蔬菜類 蔬菜栽培ハ市街地附近ニハ次第ニ進歩スルノ傾向アリ最モ適當ナル氣候ヲ有スル Guyane 州各市ノ近郊ニハ大ニ發達シ來レリ詳言スレバ「Tananarive 州ニ於ケル蔬菜栽培面積ハ、一九一〇年中ニ約二倍ニ擴張シ「Tananarive 停車場ヨリ東岸地方ニ發送セラレタル蔬菜ノ量ハ、一九〇九年ニ於テハ殆ト皆無ナリシモ、一九一〇年ニ至リテハ、百二十噸以上ニ達セリ

第二節 厚利作物 (Cultures riches)

「ヴァニユ」(Vanille) 「アンニエ」(Ananas) 「Antaraka」 「Parafangana」トノ間ニ於ケル東岸一帯ノ地ニ栽培セラル、モ最モ擴張普及セルハ「Maraotseha」ノ北部及「Nosy-Be」トス此兩科植物ハ腐蝕質ニ富ム土壤、樹蔭ノ土地及場合ニヨリ海岸ノ砂質土ノ栽培ニ適ス本植物ハ挿木法ニヨリテ繁殖スルヲ得ト雖モ常ニ添木ヲ要ス添木ニハ普通「Pignon d'Inde」及「Draecena」ノ一種ナル「Bois charnelle」ヲ用ウ「ヴァニユ」ハ挿木法ニヨリ何レノ季節ニ於テモ繁殖セシムルヲ得ヘキモ特ニ良好ナルハ雨季ノ始メトス栽植後二年半乃至三年ニテ開花スレトモ開花後自然的ノ受胎ヲヲナスコト極メテ困難ナリ「ヴァニユ」ノ原産地タル「メキシコ」「ペルー」等ノ國ニ於テハ受胎ハ昆蟲ノ媒介ニヨルモ「マダガスカル」ニ於テハ人為的受胎ヲ爲スヲ要ス即チ手ニテ雌蕊ノ上ニ花粉ヲ附着ス勞働者ハ午前中僅ニ八百乃至九百個ノ花ヲ受胎セシム品質良好ナル實ヲ得ル爲ニハ一株ニ多クトモ四五個ノ花ヲ選擇受胎セシムルヲ要ス而シテ之カ受胎ハ、八月ヨリ十月迄ノ間ニ於テ行ハ

ル受胎後果實ハ速カニ成育スレ、モ完熟スルニ至ルハ六ヶ月後ナリ而シテ收穫ハ四月ヨリ七月迄ノ間ニ於テ行フ果實ノ完熟セル時果實即チ莢ノ下端ハ黃色トナリ指ニテ之ヲ壓スル時ハ輕キ響ヲ生ス此莢ヲ採收スル時ハ最モ周到ナル注意ヲ要ス而シテ斯ク採收セル果實ハ種子ノ内部ニ香料ヲ集中セシムル爲メ一ツノ處理ヲ行ヒ然ル後商品トシテ販賣ス「マダガスカル」ニ於テ行ハル、此處理法ニ「アリアリ」即チ熱湯法、蒸氣法及乾燥法是レナリ而シテ第一法ハ最モ古ク最モ廣ク行ハル、方法ニシテ先ツ若干ノ莢ヲ束ネテ將ニ沸騰セントスル熱湯中ニ短時間浸漬シ後チ束ヲ解キ一日間屋外ニテ天日ニ曝ラン時々少量ノ桃花心木(Agarc)油ヲ注キツ、徐々ニ乾燥セシメ後チ連擲ニ便スル爲メ更ニ之ヲ束ニ品質優等ニシテ佳良ノ處理法ヲ經タルモノハ若干期間ノ後ニ至リ莢ノ外面一體ニ其主要成分ナル「ヴァニリン」(C₁₀H₁₆O₂)ノ小結晶ヲ生ス而シテ此結晶中ニ含有スル「ヴァニリン」ノ分量ハ、二%ナリ斯ノ如キ「ヴァニユ」ハ「Grise」(霜フリ)ト稱シ價格モ高シ或製造者ハ斯ノ如キ霜狀結晶物ヲ「ベンヂン」酸(Acide benzoique)ノ作用ニヨリ人工的ニ「ヴァニユ」ニ生セシム良ク肥培管理セラレタル「ヴァニユ」ハ栽植後三年目ニ第一回ノ收穫ヲ與ヘ得ヘキモ充分ノ收穫ヲナスニ至ルハ五年目以後ナリ

「ヴァニユ」ハ高價ニシテ利益多キ故ニ其産額大ニ増加シ左表ノ如ク輸出額モ一九〇四年以來急速ナル發展ヲナセリ

年次	輸出額	年次	輸出額
一九〇四	一五,三三四	一九〇八	一,〇五三
一九〇五	四六,四七二	一九〇九	一,九〇九
一九〇六	四七,七四八	一九一〇	一,五七五
一九〇七	九六,八九九		

「丁子」(Girofle) 一九〇九年ノ旋風ハ「丁子」唯一ノ産地タル「Sainte-Marie」島「丁子」園ノ一部ヲ破壊セリ同地方ニ於ケル「丁子」ノ收穫高ハ平年ニアリテハ百八十噸内外ナルモ一九〇九年ニ於テハ僅カニ十一噸ヲ市場ニ供給セルニ過キスシテ農作物ヲ以テ唯一ノ財源トスル「Sainte-Marie」地方ノ農民ヲ著シク嘆息セシメタリ然ルニ一九一〇年ハ豐作ニシテ「丁子」(Clou)「釘ノ意」百五十五噸「丁子」芽二十四噸ヲ市場ニ供給シ得タルヨリ農民ハ前年ノ不幸ヲ一掃セリ

珈琲樹 珈琲樹ハ東岸及 Nosy-Bé 地方ニ栽培セラルル近年迄栽培セラレシ珈琲樹ノ種類ハ Avatica 及 Liberia ノ二種ニシテ前者ハ品質佳良ナルモ Pemiana yasturix ト稱スル昆蟲ニ侵害セラレ且ツ之ニ對スル抵抗力弱キ等ノ缺點アリ後者ハ樹質強壯多産ニシテ且ツ前記ノ害蟲ヲ受クルコト少ナキモ其實ハ美味芳香ヲ缺キ種子ノ粒形不規則ナルヨリ多ク歡迎セラレズ數年前ニ移植セラレタル Caltra Congensis ハ其味「アラビイ、カプフェー」ニ類シ害蟲ノ侵害ニ對シ抵抗力強キカ故ニ栽培家ノ注目ヲ引クニ至レリ珈琲樹ハ植付後二三年間ハ日蔭ヲ要求スルヲ以テ日蔭ヲ與フベキ樹ヲ同時ニ植ウルコト必要ナリ管理法ハ屢々耕耘ヲ行ヒ灌木狀ノ樹姿ヲナス様屢々伐條ヲナシ枝條ノ高ク伸長スルヲ防クヘシ五六年後ニシテ結實盛ナル時季ニ達スレハ一株ニ付乾燥種子六百瓦乃至一基ヲ收穫シ得ヘシ「カプフェー」ノ輸出額ハ未タ僅々百噸内外ニ過キス

「ココア」樹 此植物ノ耕作ハ發達猶ホ遲緩ニシテ東岸地方ニ其栽培ヲ見ルノミ此植物モ珈琲樹ト同シク日蔭ヲ要求ス特ニ植付初年ニ於テ然リ又水通り良キ土壌ヲ好ム大ニ風害ヲ恐ル、カ故ニ風害少ナキ地ニ栽培シ且ツ風害豫防ノ爲メ之ヲ庇護スル樹木ヲ植付クルヲ肝要トス而シテ此目的ニハ特ニ Eucalyptus robusta 及 Govillea ヲ植ウルヲ良シトス又植付當時ハ芭蕉ヲ以テ日蔭ヲ更ニ十分ナラシムルヲ良シトス

管理法ハ除草、耕鋤、伐條及施肥ヲナスニアリ充分ナル收穫ヲナスハ植付後八年目頃ナリト雖モ第五年目ニ第一回ノ收穫ヲナスヲ得ヘシ株間距離四米突ニシテ五ノ目形ニ植付ケタル「ココア」樹「ヘクタール」約一町三十歩ノ收穫量ハ乾燥精製セル種子平均千基ニ達スルヲ得ヘシ種子ノ仕上ケニハ種々ノ處理ヲ要シ就中最モ重要ナルハ醱酵處理ナリトス

「ニ」樹 (Kohlen) 此灌木ハ藥用植物ニシテ東岸ノ寄洲土ニ於テハ良ク成育スト雖モ少數ニ栽培セラル、ニ過キスニテ Yatomandry 州ニ唯一ク所ノ「コラ」樹園アルノミナリ生「コラ」ハ佛國ニ輸出サレ同國ニ於テ處理ヲ受ク

椰子樹 「マダガスカル」ニ於ケル椰子栽培ハ島ノ西北地方殊ニ Anatalava 及 Nosy-Bé 地方ニ盛ナリ輕土ハ本植物成育ニ適スレトモ深土ナルヲ要シ且ツ停滯水ヲ恐ル海岸ニ近キ地方ノ氣候風土ハ本植物ノ栽培上ノ諸要件ヲ具有ス東岸ニ

於テハ Volamer, Sainte-Marie 州及 Tanakave, Mahanora 附近ニ椰子樹アレトモ此等地方ノ土質ハ粘質ニシテ透水不良ナルカ故ニ本植物ノ栽培ハ大ナル發達ヲナシ能ハサルナリ Nosy-Bé 及 Bas-Saunirano ノ兩州ニ於テモ栽培ハ今猶ホ播種用椰子ヲ Zanzibar 及 Comores ニ求ムルノ已ムヲ得サル事情ノ下ニアリテ本植物ハ未タ生産ノ域ニ達セサルナリ椰子ノ實ノ收穫ハ植付後六年目頃ニ始マリ一株ノ收穫高ハ平均五十乃至六十個ニ達ス而シテ椰子ノ實六七千個ニシテ「ココラ」噸ヲ得ヘシ

香精油採取植物 Ylang-Ylang 及 丁香樹 此等灌木ノ栽培ハ Nosy-Bé 及 Sainte-Marie ニ於テ良好ナル結果ヲ與ヘタリ「ペニラ」植民地ハ從來 Ylang-Ylang 唯一ノ供給地ニシテ一基優ニ一千五百法ニテ販賣セラレタリシモ Ranion, Nosy-Bé 及 Mayolia 地方ニ此植物ノ移植セラレシ以來其價格ハ下落シ今日ニ於テハ一基三百五十法乃至三百七十法トナレリ一九一〇年ニ於ケル Ylang-Ylang ノ收穫量ハ、二百八十五基ニ達シタルカ此等ハ主トシテ Nosy-Bé 州 Diego ニ於テ生産セラレタリ

Ylang-Ylang ハ又 Sainte-Marie 島ノ高地及此島ニ於ケル雨水ノ停滯セサル他ノ地上ニ成長ス丁香ノ蒸溜モ既ニ本島ノ工業タルノ端緒ヲ開ケリ Sainte-Marie 島ノ Plate 氏ハ一九〇九年ニ二百十四基ノ丁香ヲ蒸溜セリ

第三節 工業用農産

木綿 殖民地綿業組合ヨリ得タル種子ニヨリ多數ノ木綿栽培試験ハ Monondava, Anatalava 及 Tuliar ノ地方ニ企テラレタレトモ乾燥氣候カ種子ノ發芽ニ有害ナルタメ未タ良好ナル結果ヲ得ス然レトモ同様ノ試験ハ東岸ニ於ケル若干地點ニハ綿業組合ニヨリ西南地方ニハ栽培者ニヨリ Ambatondrazaka 郡内ニハ Aloutra 湖水會社ニヨリ Marovasy 地方ニハ行政廳ニヨリテ行ハレツ、アリ

甘蔗 「ブリニクセル」條約ニヨリ砂糖製造家ニ課セラレタル消費税ハ一九〇九年中一時土人ヲシテ甘蔗栽培ヲ躊躇セ

シメタリト雖モ價格ノ高上ハ甘蔗栽培ヲ復興セシムルニ至レリ而シテ 「Tananarive 州ニ於ケル甘蔗ノ産額ハ平年四十五噸ニ達セリ」

「マダガスカル」島ノ産物ニ關シ左ノ著述アリ附記シテ參考ニ資ス

Liste des ouvrages traitant de quel ques plantes coloniales cultivées au climat de Madagascar.
(Librairie Chailant, 17, Rue Jacob)-Paris.

	Par	Prix
Le Geotier.....	Prudhomme	147.00
La Sociologie aux colonies.....	Prudhomme	72.00
Le Quinquina.....	Prudhomme	32.50
Le Kaphir.....	Dastardes	22.00
Le Caféier.....	Fanchone	102.00
Le Cacoyer.....	Fanchone	72.00
Le Landiè.....	Grangeon	22.00

Les Productions de Madagascar-Noties à l'usage des écoliers avec quatre cartes.

第四節 養蠶業

土人ハ死體ヲ Landibe, Henna(赤衣ノ意)ト稱スル幅二「メートル」長サ二「メートル」許リノ布片ニ包ミテ埋葬シ毎年冬季屍ヲ發掘シ新タナル「ラムバ、ムナ」ヲ以テ之ヲ包ミ直ホシテ改葬シ之ヲ祖先ニ事フル禮トナス此「ラムバ、ムナ」ニハ木綿ノモノアリ絹ノモノアリ多クハ絹織物カ用ウルヲ以テ本島ニ於ケル絹絲ノ用途ハ主トシテ此「ラムバ、ムナ」ヲ織ルニ在リ「マダガスカル」ニハ普通道ノ蠶アリ「Landibe」ト稱スル野蠶アリ其他蜘蛛ノ一種ニテ美麗ナル絲ヲ産スルモノアリ

第一項 野蠶(ランヂビ)

Landibe 一種ノ野蠶ニシテ資料ノ Ambrevade(Cajanus indica)無患子科ノ Tsicavina(Dodonea Madagascariensis)及金絲桃科ト「Eupia」ノ葉ヲ以テ飼育スシ一度ニ種子ヲ此等植物ノ葉ニ附著シ置ケハ何等ノ人工ヲ借ラス自ラ成繭スト云フ

(本復命書添付ノ標本四三ハ此繭ニシテ標本四四ハ土人カ此繭ヨリ製セル絲ナリ而シテ標本四五ハ土人カコノ絲ヲ以テ織出セル「ラムバ」トス)

左ニ獨逸留學中ナル上田蠶絲專門學校教授農學士井上柳梧氏 Abdenhalden 氏ノ式ニヨリ「ランヂビ」繭ヲ分析セラレタル結果ヲ掲ケテ參考ニ資ス

加水分解法ニヨリ二五%硫酸ヲ使用シ十六時間煮沸シタル結果繭一〇〇瓦中

含 水 量	カチオン	アニオン
灰 分	六.七五	〇.一五(ミリ)ノ壓力ノ許ニテ蒸溜シタルモノ
二五%硫酸ニ不溶解分	三.〇七	「アセ」ノ酸ノ取量
「アセ」ノ酸「エニテ」ノ「エニテ」ノ溶液「エニテ」ヲ注シヨリテ蒸溜	三.〇七	「グリコキ」 (Glykoll)
モ得タル「アセ」ノ酸「エニテ」ノ取量	三.〇七	「アセ」 (Amin)
蒸溜「エニテ」ノ液 繭一〇〇瓦中	三.〇七	「ラネ」 (Lancin)
第一蒸溜液一〇〇度ノ湯煎上ニテ	三.〇七	「アセ」ノ酸 (Asparagin säure)
二〇%ノ壓力ノ下ニテ蒸溜シタルモノ	三.〇七	「タニ」ノ酸 (Glutamin säure)
第二蒸溜液一〇〇度ノ湯煎上ニテ	三.〇七	「オキ」ノ酸 (L-Oxpralin)
〇.一五(ミリ)ノ壓力ノ許ニテ蒸溜シタルモノ	三.〇七	「ラネ」 (L-Pralin)
第三蒸溜液一〇〇度ノ湯煎上ニテ	三.〇七	「ラネ」 (Tyrosin)

即チ以上ノ結果ニ依レハ此繭ハ主トシテ「グリコキ」「アセ」及「チロシン」ヨリ成立シテ總テノ野蠶種ニ於ケルト同様ニ其含量ハ家蠶種ニ比シテ少量ナリ

第二項 蜘蛛ノ絹絲

「ナニヅナ」農事試験場長「フオーシェ」氏ノ言ニ據レハ「マダガスカル」島産絹蜘蛛ニ關シテハ未タ完全ナル研究報告ナシ獨リ同島ノ Bulletin économique (No. 2, 1904)ニ之ニ關スル記事アルノミト因テ同書ニ就キ其要ヲ左ニ摘譯ス

「タナナリ」産業學校副長 Vogné 氏記
 學者 M. P. H. Malagasy 氏ト稱シ土人カ「ハレ」ト稱シ一種ノ絹絲生産蜘蛛ハ「マダガスカル」島内廣ク諸地方ニ存在シ「メリナ」

Paul Carbone 氏ハ「マダガスカル」産ハラバ蜘蛛及其生産絹ノ標本一揃ヘヲ寄贈セラレタリ而シテ此等ノ標本ハ甚ダ完備シ且ツ何レモ明瞭ナル説明札ヲ附シテアリテ貴重ナル賜ナラガ殊ニ是等ハ皆同氏自身ノ飼育ニカ、ル丈分吾人ニハ更ラニ一層貴重ナル價值ヲ感ゼシメタリ此絹標本ハ將來大形蜘蛛利用研究ノ成功ヲ豫知セシムルモノニシテ初メテノ合理的努力ノ結果ナレバ當研究所ノ出品トシテ里層博覽會ニ出品シ得タルヲ祝スルト同時ニ大形蜘蛛飼養ノ先覺者タル同國人「カンブーエ」氏ノ懇願ナル努力ニヨリ今日既ニ得タル蜘蛛飼育ノ進歩ヲ各參觀者ニ紹介シタルヲ歡喜ス

蜘蛛産絹絲ヲ工業原料トナス爲メノ研究ヲ始メタルハ佛蘭ニシテ而シテ此研究ノ始マリタル所ハ實ニ家蠶ノ飼育地タル「モンペリエ」ナリ「カンブーエ」氏ノ言ノ如ク光輝アル將來ヲ有スル此ノ絹絲産出法ヲ發達セシムルノ名譽ハ他國人ニ奪ハレザラン事ヲ務メザル可ラズ R. P. Chamberland 氏ノ送ル標本ノ目錄ハ實ニ完備シ讀者ニ興味ヲ興フキモノナルガ故ニ左ニ之ヲ記載ス

一號 「アルノール」産「マダガスカル」産 Halabe 又ハ Palatia (Ophila Madagascarensis)

二號 卵ヲ有スル六個ノ卵囊全ク自然ノモノニシテ其中一個ノ卵囊ハ寄生 Tiphia ノ小ナル出殻ヲ示ス

三號 卵囊ノ出殻ヲ除去セル一個ノ卵囊

四號 卵囊ノ絹絲

五號 卵囊ノ絹絲ヨリ得タル紡績絹絲(自然色)

六號 卵囊ノ絹絲ヨリ得タル紡績絹絲(自然色)

七號 卵囊ノ絹絲ヨリ得タル紡績絹絲(自然色)

八號 卵囊ノ絹絲ヨリ得タル紡績絹絲(自然色)

九號 卵囊ノ絹絲ヨリ得タル紡績絹絲(自然色)

十號 卵囊ノ絹絲ヨリ得タル紡績絹絲(自然色)

「カンブーエ」氏ハ「ネフイ」絹絲ニ對シテ理學的研究の判斷及其市價ノ決定ヲ余等ニ希望セラレタレドモ余等ハ直ニ之ニ應答シ能ハザルヲ遺憾トス蓋シ同氏ノ貴重ナル寄贈品ハ僅ニ陳列所ノ陳列品トシテハ充分ナル量ニシテ之ガ忠實ナル保管ハ我ガ研究所ノナサレ可ラザルヲ務メナレバ此寄贈品ヲ以テ眞面目ナル試験ヲシ能ハザルガ故ナリ最モ僉約ナル實驗ヲナスモ殆ト悉ク之ヲ毀サレ可ラザルガ故ナリ實験ハ勿論嚴密ニシテ且ツ反覆スルヲ

要ス故ニ我ガ實驗上ハ儘量トシテ「フオンテン」ノ左ノ副表ヲ守リ居レリ
用心ハ二ツ重テ「フオンテン」ニ倣リ、過ギテモムダトナルヲメシヤシ
余等ハ各種木ニ就キ少クモ十回ノ試験ヲ行ハントラ欲ス然ラザレバ正確ナル結果ヲ發表スル能ハザレバナリ
里昂工業ノ側ニ於テモ各種絹絲ノ特性及利用シ得ベキ程度ノ多少ヲ判定スル爲メ貴重ナル專門ノ試験ヲ行フヲ要ス
カクノ如ク實驗スル爲メハ紡績用トシテ出殻卵囊五百乃至千「グラム」ト同量ノ連續絹絲トヲ要スベシ若シ此分量ヲ得ベクシバ其試験ノ結果ニヨリ今
日確定ス可ラザル此「ハラバ」絹絲ノ市價ヲ決定ムラザル

余等「ハラバ」ニ對スル實驗ハ餘リニ制限セラレタルガ故ニ其結果ハ固ヨリ實驗上ニ得タル確定ノ結果ト云フ能ハザルモ興味アル事ナレバ試ミニ左ニ之ヲ掲ゲン即チ同表ハ連續セル蜘蛛ノ絹絲ト家蠶絲トノ比較表ニシテ各家蠶ノ絹絲六個ハ概テ蜘蛛ノ絹絲十二個ニ相當ス
「ハラバ」蜘蛛ノ絹絲ト家蠶ノ絹絲トノ比較

蜘蛛ノ絹絲十三本ハ各案蠶絲ノ絹絲六本ニ比較セラル

絹絲生産地ノ名稱	重量(デニール)	伸度	強力	絹絲ノ直徑
「ハラバ」蜘蛛	0.1111	1.7	6.6	0.005
Theophila Manarina	0.1111	1.7	6.6	0.005
一化性清國種廣東	0.1111	1.7	6.6	0.005
一化性清國種 Wosoh	0.1111	1.7	6.6	0.005
多化性清國種 Ching Pishan O'Kai	0.1111	1.7	6.6	0.005

右比較表ニヨリ蜘蛛絹絲ノ強度ハ各種家蠶絲ノ比シテ著シク小ニシテ且ツ強度ノ小ナルニ拘ハラズ其強力ハ強度ノ遙カニ大ナル家蠶絲ト同一ナルニ驚カザルヲ得ズカハ稀有ノ性質ヲ蜘蛛絹絲ガ體カニ特有スル事ハ即チ其研究ヲ忽セニス可ラザル所以ナリ

大形蜘蛛 飼育ノ實用ノナラシメ而シテ工業界ニ利用セシムルニ足ルベキ卵囊絹絲及連續絹絲ヲ生産セシムル方法ニ就キ余等ニ意見ヲ問フモノアラバ余等ハ左ノ觀察ニ基ケル蜘蛛共同飼育ノ企畫ヲ示スニ止ムベシ
「ポール」カンブーエ氏ノ創意ニヨリ大形蜘蛛「ネフイ」ノ最モ眞面目ニシテ且ツ最モ合理的ナル飼養試驗ハ「マダガスカル」島ニ於テ行ハレタリ故ニ「カンブーエ」氏ノ著述及同氏ノ小試育園ニ行ヒタル合理的試驗ノ成績ヲ以テ余等ノ實用ノ研究ノ出發點トナサレ可ラズ然レドモ此產絹蜘蛛ハ外國産ナルガ故ニ新飼育者ハ更ラニ一層此技術ニ堪能ナル大家ノ意見ニ徵スルヲ要ス從ツテ最後ノ問題タル實用ニ關スル諸問題ノ解決セラレザル間ハ佛蘭及歐洲ニ於テ唐突ニ此亦道帯ノ小蟲ヲ飼育セントスルハ智慮アル企ト云フ可ラズ若シカハ輕率ナル企ヲナスモノアラバ後悔スルニ至ルベシ故ニ假令試驗ガ不成功ニ終ルトモ失望スルコトナキ様ニ時小規模ノ試験ヲ行フテ可ナリト信ス
「ネフイ」蜘蛛ガ天然ニ存在スル地點以外ニ之ガ遠運増殖ヲ計ルニ先ダチ其原産地ニ若干ノ小規模ナル試育場ヲ設ク實用上ニ安全確固タル方法ヲ發見

スルヲトス是レ即チ新カスル事業ノ初メニ生ジ易キ諸難問題ヲ豫メ解決スルノ眞法ナレバナリ蓋シ此蜘蛛ハ原産地ノ氣候中ニ於テハ其健康ノ常態ヲ保チ充分ニ其天賦ノ能力ヲ發揮スルガ故ニ最大量ノ絹絲ヲ生産スル事ヲ得ベク又クノ如ク飼育スル間ニ蜘蛛自身ガ自然ニ其最良ナル飼育法ヲ余等ニ教示スヘクレバナリ況ヤ大形蜘蛛ノ食餌タル蚊其他白蟻ノ昆蟲ガ繁殖スル場所ハ此蜘蛛ノ産地ニ於ケル湖水ノ周圍河岸及海岸地方ニシテ從テ蜘蛛ノ肥満其熱心ナル作業及絹絲ノ増産ヲ助ケルニ最モ適當ナル地方モ亦此地方ナルニ於テオヤ

試ミニ思ヘ我が歐洲ノ氣候ニ於テ此外國産大形蜘蛛ガ嗜好スル食餌ノ多量ヲ何處ニ見出スフ得ベキカ若シカハ食餌ヲ得ル能ハズトセバ遂當リ各試育者ニ其欲スルダケノ蜘蛛ヲ而シテ將來ハ工業家ニ對シ多量ノ織物原料ヲ供給スルニ足ルベキ蜘蛛群ヲ如何ニシテ飼養セシメ得ベキカ

若シ數個ノ蜘蛛飼育場ヲ設置シ其取扱法ニシテ遺憾ナキヲ得バ大形蜘蛛ノ飼養問題ハ我が「アフリカ」殖民地内ニ於テ解決セラレシ屋內飼育野外飼育ナルヲ問ハズ飼育者ハ互ニ氣脈ヲ通ジ同一ノ指揮ノ下ニ飼育ノ正確ナル記事ヲ規則的ニ供給スルヲ要ス是レ事實及觀察ノ比較研究上即チ飼育術完成上ニ缺ク可ラザル基礎ヲナスヲ以テナリ故ニ世人ハ余等ガ茲ニ提議セシトスル所ヲ容易ニ了解スルナラン即チ最モ絹絲生産力ノ大ナル熱帯産蜘蛛ノ種類ヲ調査シ特ニ此業ノ經濟的研究ヲ行フ目的ヲ以テ飼育者ノ組合ヲ組織スルヲ提議之ナリ

大形蜘蛛ノ多數存在スル地方ニカ、ル組合ノ設ケアリトセシカ其建物ノ如キハ費用ヲ要セザル極メテ簡單ナルモノニテ可ナレバ我が佛國年少移民ガ本業ニ干與シタランニハ其成功殆ト疑ナカラン殊ニカ、ル地方ニテ一般ニ蜘蛛飼育上ノ努力ハ土人ニ取リテハ遊仕事ニ過ズシテ其勞賃ハ極メテ少額ニテ足ルベクレバナリ

「カンブー」氏ノ堅忍ナル努力ヲ稱讃スル此記事ヲ終ルニ臨ミ本事業ガ政府並ニ殖民地協會等ノ援助ヲ得ンコトヲ切望セザル得ズ困難ニ打勝チ(科學及忍耐ノ力ニヨリ排除シ能ハザル困難今存在スルヤ)以テ産絹大蜘蛛ヲ採集シ其新絹絲ノ工業ヲ興サンガタメ堅忍不拔ノ努力ヲナスヲ要ス是レ佛國ノ利益ナレバナリ

上記ノ如ク「マダガスカル」島ニ於ケル産絹蜘蛛ノ飼育ハ猶ホ學問上ノ試験時代ニ屬シ其經濟的價值定マラザルガ故ニ此蜘蛛ノ絹絲ハ未ダ商品トシテ取引セラレズ

第三項 普通養蠶

本島ノ養蠶業ハ中部高原地方ニ於ケル最モ利益アル農工業ナルカ故ニ一九〇八年來總督府ノ獎勵スル所ニシテ爾來土人ノ養蠶方法ハ大ニ改善シタリト云フ移住佛國人ニ對シテハ佛國養蠶製絲獎勵法ヲ適用シテ獎勵金ヲ給與シ又總督府ハ殺蠶機乾燥機ヲ買入レ無料ニテ養蠶者ニ貸付クル等本業進歩ノ爲メ大ニ盡力シ居レリ其結果一九一〇年中「タナナリ」州 Anboldratimo 郡ハ滿十五噸ヲ産シ Yakinankaratra 州 Ansrabe 及 Betabo 兩地ニテハ五萬餘個ノ繭ヲ消費スルニ至リタリト云フ

「マダガスカル」蠶業ヲ説クモノ必ス「Barth」氏ノ養蠶製絲業ヲ稱ス曰ク其養蠶室ハ毎年八乃至十噸ノ繭ヲ産シ猶ホ氏ハ絹絲釜若干ヲ有シ製絲業ヲモ營メリト予 Ansrabe 及 Betabo 地方觀察ノ際親シク同地ヲ訪ヒ其事業ヲ一覽シタリ同地方ニ於ケル養蠶室トシテハ少シク美麗ニ過ケルカ如キモ同氏ハ多能ノ人ニシテ種々ノ業ヲ營ミ煉瓦工場ヲモ有シ煉瓦ノ販買ヲモナシ顧客ノ注文ナキ時ハ此工場ニテ家用ノ煉瓦ヲ製造ス故ニカ、ル蠶室モ廉價ニテ建築シ得ルナリ同氏ガ現ニ使用セル蠶室ハ粗造ノ狭キ假小屋ニシテ其製絲場モ甚タ廣カラスコ、ニ六口取リノ緑絲釜六個ヲ据付ケアリ同氏ハ種々ノ工業ヲ營ムカ故ニ、二十一馬力ノ蒸氣機ヲ据付ケ巧ミニ之ヲ諸業ニ利用ス製絲場ノ熱湯ハ循環管狀汽罐ニヨリテ供給セラレ緑絲機ハ蒸氣罐ノ動力ニテ運轉ス工女ハ歐洲人ノ監督教師一人土人ノ工女二十五人ヲ使用セリ土人モ能ク教育監督セハ充分ナル製絲工女トナシ得ヘシト云フ此製絲場ニテハ一ケ年十五噸ノ繭ヲ消化スルコトヲ得ヘシト云ヘハ絹絲千百乃至千二百「キログラム」ヲ産出スルコトヲ得ル製産力ヲ有スルナリ同氏ノ製絲ヲ里昂生絲検査所ニテ試験シタルニ若干ノ改良ヲナサハ佛國(Grenas)産ノ優等絹絲ニモ劣ラサルニ至ルヘシトノ佳良ナル成績ナリシト本報告添付ノ標本四二ハ同氏ノ製絲場ニ於テ土人ノ工女ニヨリテ製出セラレタルモノナリ同氏ノ言ニ據レハ「マダガスカル」島ニモ佛國養蠶製絲獎勵法ヲ適用セラレ獎勵金アルカ故ニ是等ノ業ヲ試驗的ニ開始シタルノミナリト云フ

Yakinankaratra 州ニハ Ansrabe 及 Betabo ノ外養蠶米作ニ適スルモ猶ホ荒蕪ニ委セラル、土地廣シト云フ Ansrabe 附近ニテ現ニ栽培セラル、桑ハ Mulcaule 又ノ名 Philiphase (Morus Alba latifolia) 及 Moretti (Morus alba macrophylla) ナリト云フ而シテ桑葉ノ價ハ百「キログラム」約二十六貫七百目ニ付五法(約二圓)ニシテ繭ノ價ハ「キログラム」ニ付二法八十山内外(約一圓十二錢)又土人ノ製絲工女ノ賃銀ハ一日八十山(約三十二錢)ナリト云フ

(本報告添付ノ標本三八ハ「アンチラベ」附近土人ノ飼育シタル繭(山約一圓) 四〇ハ「屑絲」(百五十五「グラム」約四十一「及三三」) 四一ハ其製絲(約三三「法」四十四山)ニシテ三九ハ「アンチラベ」農事試驗場ニテ作リタル出費繭四六黃白絹絲各一把ハ前記 Fauchre 氏ノ指導ノ下ニ「ナラザナ」農事試驗場ニテ收穫セシ繭ヲ里昂ニテ製絲シタルモノナリ)

一日總督府勸業部次長ニ導カレテ「ナニザナ」農事試驗場(其廣サ約六十町步)ヲ觀ル場長 H. P. G. 氏ハ其試育ニカ、ル種々ノ外國植物ヲ示シ本邦ノ杏、柿、金柑等移植ノ狀況ヲ示シ(金柑ハ當時正サニ成熟シ本邦ノ金柑ト形狀、大小、味等異ナル所ナシ)又其經營ニ係ル蠶業講習用十二棟ノ養蠶室等ヲ示シ其間予ノ問ニ答ヘテ曰ク本島養蠶季節ハ十一月ヨリ五月迄トス此季節ニハ絶エス養蠶ヲナス可ク一ツノ蠶種ヲ以テ一ケ年ニ五回養蠶スルヲ得ヘシ本島内ノ一ケ年ノ收繭額ハ大約支那種繭四十噸、ランヂベ、繭二百噸ナルヘク皆ナ島内ニ於テ消費ス一九二二年ニ漸ク一噸丈ケ佛國ニ輸出シタリ當地方ニ於ケル價格ハ黃白繭共「キログラム」ニ付二法乃至二法五十山(約八十錢乃至一圓)ノ見當ニシテ「ランヂベ」ハ「キログラム」ニ付一法乃至一法五十山(約四十錢乃至六十錢)見當ナリト尤モ本試驗場ハ桑苗及蠶種ヲ無代ニテ分配シ一九二二年中ニハ桑苗五十萬本蠶種五十萬樞ヲ分配スルノ豫定ニテ一方ニハ土人ヲ此所ニ招キテ養蠶ノ方法ヲ講習シ一方ニハ之ヲ熟知セル土人ヲ養蠶地方ニ派シ各戸ニ就キ親シク指導教養セシメ居レバ他年本島ノ養蠶業上多少ノ發達ヲ見ルコトモアラン云々(以下略ス)

第四項 東部阿弗利加ニ於ケル蠶業

一 「アビシニア」ノ養蠶

歸途「チブチ」ヨリ在「アビシニア」佛國蠶業會社總支配人 Anatole Ferran Directeur General de la Société Française de Sericulture en Abyssinie(氏ハ佛國 Var 州 Cogolin ノ Ferran et Guiraud ノ社員)ト同船シ同氏ノ經營セル蠶業狀況ヲ聞キ得タレハ茲ニ之ヲ附記センニ在「アビシニア」佛國蠶業會社ハ、田家ニ廣大ナル土地(約二十萬町步ト覺ユ)ヲ無料ニテ永借シ此地方ニ於テ五十年間蠶業經營ノ專權ヲ許與セラレタリト此地方ハ海拔千八百メートルノ高地ニシテ溫度ハ攝氏十六度ヨリ二十二度ノ間ヲ昇降ス桑種ハ Mulicaule ヲ栽培セルニ二年ニジテ摘葉スルヲ得タリ一年中三百日間ハ養蠶ヲナスヲ得蠶種ハ Polyvalus ヲ用ツルニ三十日乃至三十五日ニシテ繭ヲ得六十五日ニシテ二枚獲ヲナスコト「マダガスカル」高ニ同シ繭ハ「キログラム」ニ四百五十粒アリ繭十「キログラム」ヲ以テ絲一「キログラム」

ム」ヲ製出シ得ヘシ六七兩月ヲ雨季トス雨季中モ火ヲ用キテ蠶室ヲ暖ムルヲ要セスト云フ本報告添付ノ標本四七ハ同氏カ雨季中ニ養ヒタルモノナリ

二 中央亞弗利加ニ於ケル野蠶

「ウガンダ」獨領東亞弗利加「カメルーン」「ナタル」「コンゴウ」等ノ森林ニ Anaphe bombyceide ナル野生蠶蛾アリ粗大ナル繭ヲ作り之ヲ梳リ之ヲ紡グヲ得ヘシ而シテ是等森林ノ多クハ深ク内地ニ在レトモ運輸交通、開クルト共ニ經濟的ニ利用スルコトヲ得ヘシ白領公果園農報ニ據レハ此蠶ハ其食料ノ存在スル所ニハ常ニ多數群集ス其食料ハ種々アリテ Albizzia fastigiata 一種ノ Sterculia 並ニ其最モ好ム所ノ Brictelia Miconiaha ト稱シ大戟科植物ノ一種ニシテ公果地方ニ多ク高サ八尺乃至一丈五尺ニ達スル灌木ヲ其主ナルモノトス此蠶ハ葉面ノ下部ニ卵ヲ附着シ二三百粒ヲ堆積シ輕毛ヲ以テ之ヲ蔽護ス其孵化シタル青蟲ハ頗ル食ヲ貪リ全身毛蟲ノ如ク毛ヲ有ス食料ヲ尋ヌル爲メ若クハ巢ヲ構フル爲メニ移動スルハ夜間ノミトス孵化後六週乃至八週ヲ經レハ相集リテ其食料トスル植物ニ巢ヲ構フ其巢ノ色ハ種々アリ薄キハ淡褐色ヨリ濃厚ナルハ赤褐色ナルアリ巢ノ形狀モ種々アリ大サモ同シカラス小ナルハ鷄卵大ヨリ大ナルハ小兒ノ頭ノ如キアリ此巢ノ内ニアル繭ハ互ニ密着シ一巢内ニ、十粒乃至百粒ヲ包有ス此繭ハ二重又ハ三重ノ網ニテ包マレ最モ内方ニアル網ハ最モ強ク容易ニ裂ケ破レヌ然レトモ繭一度硬化スレハ一種ノ液體ヲ分泌シ之ニヨリ繭及網ヲ破テ外部ニ出ツカ、ル出殻繭ヨリ製シタル紡績絹絲ノ價ハ少シモ減セサレハ普通繭ノ如ク殺繭スルノ要ナシ此巢ノ取扱方ハ甚タ簡易ナレトモ毛又ハ脱ケ殻等ノ刺戟ヲ避クル爲メ水中ニテ取扱フコトヲ要ス此網及繭ハ別々ニ取扱ヒ炭酸加里ノ溶液ヲ以テ無色トナル迄洗ヒ空氣ニテ乾燥シ小梱ニ荷造リテ工場ニ輸送ス

收獲ハ小枝蠶殼等ヲ取除キタル精良ノ原料六「キログラム」ニテ絹絲一「キログラム」ヲ得ヘシ

自然ニ成育セル野蠶ヲ收獲スルニ止マルカ如キハ人ノ満足セサル所ナルヘク遂ニ合理ノ養殖ヲヲナスニ至ルヘキカ此種ノ野蠶及其食料トスル植物ハ共ニ移植ニ困難ナラス又此野蠶ニ病アルコトハ少クモ今日迄ハ知ラレ居ラスト云フ

African Silk Corporation 會社、Oruganda 及獨領東亞弗利加ニ此種野蠶事業經營ノ設備ヲナシ白耳義領「コンゴ」ニ於テモ此業ヲ營ム爲メ兩會社創立セラレ Schoenherr 氏兄弟ハ獨領東亞弗利加ニ Deutsch Oseantrikanische Seidenzucht 稱スル會社ヲ創立シ桑蠶及其他ノ產絹蟲ノ飼育ニ從事ス

「アビシニア」ノ養蠶及中央亞弗利加ニ於ケル野蠶ノ二項ハ「マダガスカル」ニ關係ナキモ亞弗利加ニ於ケル蠶業ノ消息ナレハ爰ニ附記シタリ

第五節 土地貸下及拂下

一八九九年二月十日付總督府令ニヨリ官有地ハ拂下貸下若クハ無料拂下ヲナス拂下代價ハ「ヘクタール」(約一町三十步)ニ付西部及北部地方ニ於テハ、二法(約八十錢)東岸及中部高原地方ニ於テハ五法(約二圓)ヲ最低限トス

貸下ハ最短期ヲ十五ケ年トシ之ヲ更新スル事ヲ得貸下料ハ前納ニシテ一ケ年「ヘクタール」ニ付西部及北部ニ於テハ二十五山(約十錢)東岸及中部高原ニ於テハ五十山(約二十錢)ヲ最低限トス而シテ土地借受人ハ借受期間内ニ於テ其貸與セラレタル土地ヲ前記拂下代價ニテ拂下ヲ受クル先買權ヲ有ス

無料拂下ヲ受クル事ヲ得ルハ佛國公民ニ限ル而シテ無料拂下ノ面積ハ、一人ニ付百「ヘクタール」以下トシ同一人ニテ一回以上無料拂下ヲ受クルヲ得ス未丁年者ハ無料拂下ヲ受クルヲ得ス又既ニ無料拂下ヲ受ケタル者ヲ代人トシテ出願スル者ハ自己ニ於テ其土地ヲ開墾スル資力アル事ヲ證明スルヲ要ス

土地拂下出願手續。「マダガスカル」島ニ居住スルモノ若クハ合法ノ代人ヲ有スルモノニシテ官有地ノ拂下貸下ヲ希望スル者ハ所要ノ概算坪數及撰定セル地所ノ境界ヲ記シタル願書ヲ所轄州知事ニ差出スヲ要ス而シテ有價拂下ノ場合ニハ此願書略圖ヲ添附スルヲ要ス又其拂下地ノ代金ハ所轄州知事ニ供託スルヲ要ス但シ拂下出願者カ佛國公民ナルトキハ其代金ハ假地券交附ノ際半額ヲ納附シ他ノ半額ハ本地券ト引替ヘニ納附スルヲ得

假地券所有者ハ其交附ヲ受ケタル時ヨリ六ケ月以内ニ其地域ニ於テ開墾若クハ家作ヲ始メ及其地域ニ自ラ居住スルカ若クハ代人ヲ置クヲ要ス若シ此等ノ條件ヲ履行セザレハ失權ス

總督ハ三名ノ委員(州知事若クハ其代理者、官有地係長若クハ其代理者及拂下人若クハ其代理者)立合ニテ證明シタル拂下地ノ面積ト備設ノ比例及開墾ノ程度ヲ取調ヘ行政會議ノ意見ヲ諮問シ假地券ト引替ヘニ本地券ヲ交附ス而シテ地券主ハ假地券受領後三ケ年以内ニ其土地ノ登記ヲ申請スルヲ要ス登記料ハ地券主ノ負擔トス此登記ハ拂下地ノ開墾カ公認セラレタル時ニ行ハル、モノナリトス

一筆ノ拂下地ニシテ面積五十「ヘクタール」以下ナラサル時ハ設備及開墾ノ程度ヲ調査セシ登記手續後直ニ拂下ヲ許可セラル然ル時ハ其登記地價ノ最低限ハ、「ヘクタール」ニ付西部及北部地方ハ百法、東岸及中央高地ハ百五十法ナリトス此場合ニ於テハ拂下出願者ハ料金を完納シ總督ヨリ(行政會議ノ意見ヲ徵スルハ勿論)地券ヲ交附セラレタル後ニ非サレハ土地ヲ占有スル能ハス

一萬「ヘクタール」以上ノ拂下ハ本國殖民大臣ノ承認ヲ要ス

第十二章 林業

第一編ニ於テ森林ノ樹木及分配ヲ説明シタレハ茲ニハ單ニ林産物ノ工業的利用ヲ記スルニ止ムヘシ

「マダガスカル」ニ産スル木材ヲ左ノ五種類ニ大別スルヲ得ヘシ

- 一 指物 (Ebenerie) 用材
- 二 寄木細工及轆轤細工 (Marqueterie et tournage) 用材
- 三 建築用材
- 四 車用材

五 鐵道枕木用材

三一八

一 指物用材 此種ニ屬スル木ハ黒檀、Bois de rose、紫檀、Nato、Hinisy、Mango 及 Ambora ナリ
 黒檀ニ四種アリ Ikrina ハ品質最良ニシテ Hazonality、Varavina ハ之ニ次ク而シテ他ハ使用セラレズ
 Bois de rose ハ湖畔、森林(Antong) 灣沿岸ノ連山ニ於テ海拔五十「メートル」ノ所ニ至ル迄生スルヲ見ル
 紫檀ハ樹ノ高サ、十五「メートル」幹徑五十「センチメートル」ニ達スル植物ニシテ「マダガスカル」ノ森林中ニ甚タ多シ
 桃花心樹(Acjou) 又ハ rotamena) ハ亞弗利加産ノモノニ類似シ Masala、Analamazaha、Betsihiry、Boneni 及 Menabe
 ノ森林中ニ多シ

Hinisy(Gafo) ハ材質緻密堅硬腐蝕シ難ク赤色ヲ呈ス東岸地方ニ多シ
 Nato ハ淡赤黄色ヲ呈シ木理細カク作業ニ容易ナリ各地ノ森林ニ在リ
 Mango ハ材色赤褐色ヲ呈シ材質ハ Hinisy ノ如ク堅硬ニシテ腐蝕シ難シ
 Ambora ハ材色硫黄色ヲ呈シ材質輕ク作業ニ容易ナリ檀香油ニ類スル臭ヲ有ス

指物用材ノ輸出額

年次	輸出額	年次	輸出額
一九〇五	二七〇九〇	一九〇八	四〇九七六
一九〇六	一五八二五	一九〇九	二九六八四
一九〇七	一五九一〇	一九一〇	二四八五五

二 寄木細工及鞆細工用材 Antanajana ハ東岸森林中ニ多ク幹長十二乃至十四「メートル」幹徑三十「センチメートル」ニ達スル植物ニシテ材色ハ淡紅色ヲ呈シ木目緻密ハ材質堅硬ニ纖維垂ミ加工ニ便アラズ
 Maroka ハ幹徑四十「センチメートル」高サ十四「メートル」ニ達シ材ハ黄色組織緻密堅クシテ佛蘭西ノ黃楊樹ニ似タリ
 Zahana ハ幹長十五「メートル」幹徑四十「センチメートル」ニ達スル植物ニシテ材色淡黄色ヲ呈シ木目緻密ナリ

Hanabara ハ材質甚タ硬ク黄色ニシテ黒色或ハ褐色ヲ帶フ道具ノ柄(鋸ノ柄ノ如シ)ノ製造ニ費用セラレ

三 建築用材 建築用木材ハ其種類多シ即チ Lalona, Arina, Hazonona, Makambo, Merana, Molompangady, Varongy, Volomborona, Hasina 等ナリ

四 車製造用材 最も良好ナル種類ハ Fokona, Gavoala, Volanirana ニシテ東岸ノ森林ニ成育ス

五 鐵道用枕木 最も費用セラル、モノハ海岸地方ニ於テハ Asy, Hinisina, Nandoroga, Valona 及材色灰褐色ニシテ木目緻密材質堅硬ナル Merana ニシテ高地ニアリテハ Viraona, Longohamena, Herahitsika トモ

森林副産物

「ゴム」マダガスカルニ於ケル「ゴム」ノ樹木及葛ヨリ採取セラルレトモ其樹木ノ種類ハ葛ノ如ク多カラス南部地方
 ニン Hinisy アリ西部及東部ノ森林中ニハ Masaranhasia (Barabanga, Grindree, Hazondrano) アリ

「ゴム」製用葛ノ種類ハ多數ニシテ殆ト悉ク Landolphia 屬ナリ而シテ此等ノ葛ハ Tamakave rose 若シハ Pinky 及 Mayinga
 superieur ト稱スル二種ノ最良ナル「マダガスカル」護謨ヲ供給ス「マダガスカル」ニ於ケル此等護謨ノ相場ハ一基ニ付前
 者ハ五法乃至八法後者ハ三法乃至九法ナリ

輸出額ハ左記ノ如ク次第ニ増加シタリ是レ歐洲市場ニ於ケル品拂底ニ連シタル相場ノ回復及土人ヲシテ合理的經營ヲナ
 サシメタル行政廳ノ獎勵ノ結果ナリ

護謨ノ輸出額

年次	輸出額	年次	輸出額
一九〇五	四六四〇九六	一九〇八	一七三〇七六
一九〇六	七五七九四六	一九〇九	四六一三九〇
一九〇七	五二四二五三	一九一〇	九三六六三三

「マンケローヴ」樹 (Palmyra) 「ヤングローヴ」樹ノ主ナル産地ハ西岸地方ノ Analalava, Majunga, Maintirano, Mo-

第十二章 林業

三一九

Rondavy, Tuléar 州トス

三三〇

「マングローブ」樹ハ其樹皮カ多量ニ丹寧分ヲ含ムカ故ニ盛ニ採伐セラレ此樹皮ヲ天日ニ乾シ粉碎シタル後糞入トナシタルモノハ産地ニ於テ土人ヨリ購入スル價格十五乃至二十法トス而シテ此樹皮ノ輸出ハ、一九一〇年ニハ、二百七十三萬五千法ニ達シ前年ノ輸出額ニ比シ、百三萬一千法ヲ増加セリ

「ラフィア」(Raphia) 「ラフィア」ハ「マダガスカル」ノ北部沿海地方ニ成長シ殊ニ Nosy-Be, Antalava 及 Manjanga 地方ニ多シ

「ラフィア」ノ輸出額ハ左表ノ如クニシテ其歐洲市場ニ於ケル相場ハ *Les Isles* 及西岸産ノモノハ一噸ニ付六十二乃至七十法東岸産ノ種類ハ、五十乃至六十法ナリ

佛國ニ於ケル園藝及農業ハ本島ヨリ輸出スル「ラフィア」ノ殆ト全部ヲ使用ス其纖維ハ接木作業及葡萄栽培ニ於ケル常用品ナリ

「ラフィア」ノ輸出額

年次	輸出額	年次	輸出額
一九〇五	三三、七六九	一九〇八	一八、九八〇
一九〇六	三三、〇〇四	一九〇九	二一、六四五
一九〇七	三三、〇四四	一九一〇	二八、九四九

染料用品 「マダガスカル」森林中ニ生スル樹木ノ皮ニハ染料物質ヲ含有スルモノ甚タ多シ此等ノ樹皮中最モ主要ナル

Sakon (Cythere) ノ木ノ樹皮ニシテ土人カ其ノ織レル布帛ヲ煙草色ニ染ムル爲メニ使用スル一種ノ固着性物質ノ多量ヲ含ム

蜜蠟 全島到ル處ノ林地ニ産ス本品ノ輸出額ハ左表ノ如ク増加セリ

年次	輸出額	年次	輸出額
一九〇六	三〇、三三四	一九〇四	六八、三七〇

年次	輸出額	年次	輸出額
一九〇七	五〇、二八〇	一九〇五	九四、三六八
一九〇八	三八、七六二	一九〇六	一一七、五五八
一九〇九	五二、五五九	一九〇七	九〇、八三三
一九〇〇	五〇、七八〇	一九〇八	一二四、八六二
一九〇一	六四、七三〇	一九〇九	一四七、七三六
一九〇二	六六、九五九	一九一〇	一四九、七〇〇
一九〇三	五五、〇一八		

山林貸下

「マダガスカル」島ニ於ケル山林ノ面積ハ、一千萬乃至一千二百萬町歩ニシテ本島全面積ノ約五分一ニ當リ既ニ知ラレタル木材ノ種類三千ニ及ビ其他ノ植物ニ至リテハ其種類算ナシト云フ山林ニ關スル事務ハ總督府水林課 (*Service Forestier*) ニ於テ取扱フ

本島ノ山林ハ官ニ於テ自ラ拓殖ノ業ヲ營マサル地點ノミヲ貸下クルヲ主義トセリ貸下期限ハ、五千「ヘクタール」以下ハ、五ケ年トシ五千「ヘクタール」以上ハ、千「ヘクタール」毎ニ、一ケ年ヲ加フ但シ二十年ヲ超エサル事トセリ而シテ一萬「ヘクタール」迄ハ總督ニ於テ出願ヲ設議シ一萬「ヘクタール」以上ハ拓殖大臣ノ許可ヲ要ス貸下料ハ、一ケ年一「ヘクタール」ニ付一法ニシテ「ゴム」栽培ノ爲メナレハ五十山トス
山林制度ハ一九〇〇年二月十日付總督府令ヲ以テ制定セラレタリ(省略)

第十三章 畜産業

畜産區

「マダガスカル」島ノ畜産係ハ動物ノ衛生取締及養畜ニ關スル諸般ノ研究ニ從事ス牛ハ本島主要財源ノ一ナルカ故ニ其流行病ヲ防ク事極メテ切要ナリ因テ其輸出入ヲナスハ左ノ諸港ニ限ル

第十三章 畜産業

三二二

Fort-Dauphin, Tamatave, Vohemar, Diego, Nosy-Be, Analava, Majunga, Tuléar.

輸出スヘキ家畜ハ畜産區ニ於ケル獸醫ノ検査ヲ受ケ健康ナレハ輸入國官廳ニ送達スヘキ健康證明書ヲ交附セラル

「マダガスカル」ハ左ノ十畜産區ニ分轄セラル

- 一 Diego-Suarez 區
- 二 Vohemar 區 但シ Vohemar 及 Maroantsetra 兩州ヲ含ム
- 三 Tamatave 區 但シ Tamatave, Sainte-Marie, Andorranio 及 Vatomandry 州ヲ含ム
- 四 Fianarantsoa 區 但シ Ambohitra, Fianarantsoa, Mananjary, Farafangana ノ各州及 Morondava ノ軍政區ヲ含ム
- 五 Fort-Dauphin 區
- 六 Tuléar 區 但シ Tuléar 及 Pateoka ノ兩州ヲ含ム
- 七 Majunga 區 但シ Majunga 及 Mevaranana ノ兩州ヲ含ム
- 八 Analava 區
- 九 Nosy-Be 區
- 十 Tananarive 區 但シ Tananarive, Iassy, Vakinankaratra ノ各州及 Ankarabo ノ自治區ヲ含ム

各區ニハ之カ長トシテ一名ノ武官獸醫若クハ文官獸醫ヲ置ク

畜産係ノ吏員ハ個人ノ家畜ニ對シ治療ヲ施スコトヲ得ヘク此場合ニ於テハ治療ヲ受ケタル家畜ノ所有主ヨリ總督ニヨリ規定セラレタル價格表ニ基キ手数料ヲ徴收スルコトヲ得而シテ此價格表ハ、二年毎ニ改正セラル

獸疫研究所 畜産係ハ「バストール」研究所内ニ實驗及分拆室ヲ置キ獸疫ヲ研究シ且ツ炭疽病ノ種痘ヲ供給ス又此外同研究所ニ於テハ「Tananarive」ニ於テ得タル或ハ各畜産區長ヨリ送附シタル標本及病的產物ヲ検査ス此検査ニヨリテ炭疽病、潰瘍性淋巴腺炎(Lymphangitis ulcéruse)等ノ診斷ノ正否ヲ追認スルヲ得

「マダガスカル」ニ於ケル養畜業ハ數年以來著シク發達セリ本章ニ於テハ現今最重要ナル養牛並ニ「マダガスカル」カ佛國ノ版圖ニ入りヨリ開始セラレシノミナルニ拘ハラヌ既ニ大ナル發達ヲナセル養馬及駝馬、羊豚ノ飼育ニ就キテ記述スヘシ

牛

「マダガスカル」島ノ牛ハ肉豚ヲ有シ印度ノ原産ナレトモ數世紀本島ニ飼養セラレテ能ク氣候風土食物等ニ慣レタルナリ此牛ノ特徴ハ兩肩ノ間ニ大ナル脂肪瘤ヲ有スルコト角ハ長クシテ一般ニ七絃琴狀ニ突出スルコト稍濃キ茶褐色ナルコト皮ハ甚厚ク強硬ノ毛ヲ有スルコト等ナリ此外角ヲ消失セル一種ノ牛アリテ「Boy」ト稱シ荷物ノ運搬ニ使役セラル兩肩間ノ瘤ハ脂肪及筋肉ヨリ成リ其大小形狀ハ牛ノ大小ニヨリテ同シカラス「マダガスカル」ニ於ケル牛ノ大サハ歐洲牛ノ平均大(「メートル」一七、「メートル」二四、「メートル」三〇)以下ニシテ之カ平均體量ハ、三百乃至三百五十基ナリ

「マダガスカル」ニ於ケル養牛ハ殆ト全部土人ニテ營マレ歐洲人ニシテ之ヲナスモノ甚タ少ナシ養牛法ハ各季節トモ日夜牧場ニ放養シ寒暑等ニ對スル庇護ヲ與フルコトナク恰モ野生ノ如ク萬事自然ニ放任ス故ニ若シ自然ノ狀態カ適良ニシテ適當ノ季節ニ適量ノ降雨アレハ牧場ハ豐饒ナリト雖モ之ニ反シテ旱魃過度ニ永續スレハ牛ハ爲メニ大ニ疲勞ス土人ハ惡季節ニ對スル牧草ノ貯ヘヲナナス牛ノ採食及受精ハ自然ニ放任ス斯ク不爲ナル方法ヲ以テ飼養セラルト雖モ牛ノ繁殖ノ模様ハ甚タ良好ナリ幼牛ノ飼養モ何等衛生上ノ注意ヲナスコトナク全ク自然ニ放任スルカ故ニ望マシキ結果ヲ得ルコト能ハス幼牛ハ常ニ充分ナル養乳ヲ受クルコトナキカ故ニ出產後直チニ食草シテ滋養分ノ不足ヲ補ハサル可カラス然ルニ其同化作用猶ホ弱キヲ以テ其發育モ從ツテ遲緩ナリ故ニ本島ノ牛ハ出產後五六年ヲ經テレハ完全ナル發達ヲナサ、ルナリ

此缺點ヲ改良スルニ二法アリ即チ種類ノ淘汰及雜交ナリ多年來佛國ニ於テ實行セラレツ、アル種牛選擇ニヨリ牛種改良

法ハ Durham, Charollais 種ノ如キ良種ヲ作ルコトヲ得シメタルカカ、ル改良法ヲ土人ニ教フトモ土人ニシテ若キニ失
 スル種牛ヨリ由來スル弊害ヲ了解シテ種牛ノ撰擇ヲ實行スルニ至ラスハ全然無効ナルヘシ今日迄本島産ナル牝牛 (Zebu)
 ト歐洲牛トノ雜交少シク行ハレシカ方法宜シキヲ得サリシ爲メ良結果アラサリキ雜交ハ須ラク「ガロヌ」(Garonne)種
 「リムーサン」(Limousin)種、「ノルマンチー」(Normandie)種及「ブルターニュ」(Bretagne)種牛ノ如キ食ヲ節シ且ツ忍耐
 力強キモノヲ撰擇スヘシ土人ノ養牛法ハ前記ノ如ク極メテ簡單ナレトモ自然ノ事情ハ頗ル適良ニシテ牛ノ頭數ハ年々増
 加シツ、アリ本島ニ於テハ牛ハ課税ノ目的物ナルカ故ニ年々頭數調査ヲ行フ而シテ統計ノ示ス所ニ據レハ課税牛ノ頭數
 ハ左表ノ如シ

一九〇四年	一三、四二九頭	一九〇八年	三六、二七七頭
一九〇五	一三、五七〇	一九〇九	四一、〇〇〇
一九〇六	一三、〇七三	一九一〇	四四、九二三
一九〇七	一三、〇三九		

右統計中ニハ新産ノ犢ヲ計上セサルノミナラス統計ニ洩レタルモノ亦少ナカラサルナリ而シテ無主ノ野生牛ハ勿論此流
 計ニ含まレサルモ西部地方ニハ無主ノ野生牛甚タ多シ此野生牛ハ數千頭ノ大群ヲナスコト決シテナク五十乃至百頭ツ、
 一群ヲナシ河川ノ流域ニ生活ス

衛生状態 「マダガスカル」ニ於ケル牛ハ疾病ニ對シテ特別ナル恩恵ヲ受ケ到ル處衛生状態良好ナリ牛ノ傳染病トシ
 テハ唯タ Charbon bactérien アリシモ種痘及結核ニヨリテ防止シタリ本病ハ北部地方ニ於テハ全ク認めラレサルモ南
 部地方ノ牛群中ニハ時々發生スルコトアリ故ニ衛生官ハ之カ豫防驅除ニ嚴重ナル取締ヲナシツ、アリ

牛ノ利用 「マダガスカル」年ハ馴ラシ易ク或ハ車ヲ曳キ或ハ荷物ノ運搬ヲナス其肉ハ食用肉トシテ最良ナルモノ、一
 ツニ算セラル、ヲ得ヘシ同牛ハ牧場ニ於テモ畜舎内ニ於テモ肥滿セシムルコト極メテ容易ナリ其法畜舎飼トシテハ牛ヲ
 土窖中ニ入レ一定時刻ニ食物ヲ與フルニアリ牛ヲ肥滿セシムルニ要スル期間ハ五六ヶ月ニシテ其終リニ至レハ最初四百

基ノ體量アリシモノハ、六百乃至六百五十基ニ達ス而シテ「マダガスカル」牛一頭ヨリ得ル純肉ノ割合ハ、五十五乃至六
 十二%ナリトス

商業 本島ニ於テモ牛ノ取引盛ナリ島内ニテ消費セラル、牛ノ多數ナルコトハ左記一八九六年以降ノ牛皮輸出統計ニ
 ヨリテモ推知スルヲ得ヘシ

一九〇六年	一〇、六九一	一九〇四年	二二、三九四
一九〇七	三、七二六	一九〇五	三、七〇五
一九〇八	六、三〇三	一九〇六	六、二五八
一九〇九	六、八二七	一九〇七	五、〇九七
一九一〇	五、二三五	一九〇八	五、〇〇七
一九一一	七、四五〇	一九〇九	五、〇四一
一九一二	六、九八四	一九一〇	九、五〇四
一九一三	一、四九九		

牛ノ輸出 「マダガスカル」ヨリノ牛ノ輸出ハ左ノ三様ノ形式ニテ行ハル

- 一 生牛
- 二 罐詰
- 三 冷蔵肉

今日迄生牛ハ本島輸出物中ノ最重要ナルモノニシテ一九〇〇年以降ノ輸出價格ハ左表ノ如シ

一九〇〇年	一、二五八四〇	一九〇六年	九、四八七
一九〇一	八、二二三	一九〇七	一、七六七〇
一九〇二	四、〇一五	一九〇八	七、五二〇
一九〇三	二、四七五	一九〇九	五、一四四
一九〇四	一、〇八三	一九一〇	七、四二五
一九〇五	一、〇七六		

一九〇二年ニ於ケル牛輸出額ノ大ナリシハ英杜戦後畜牛ノ補充及糧食供給ノ爲メ本島ヨリ「トランスヴァール」ニ多数ノ牛ヲ輸出セシニ基因ス

三二六

「マダガスカル」牛ノ輸出先ハ馬耳塞 Remon, Comores, 南部亞弗利加、及 Mozambique ナリ
牛ニハ輸出税アリ一頭ニ付二法五十山トス

牛肉罐詰輸出ハ屢計畫セラレタリ

Antongobato ノ工場ハ Diego-Suarez 附近ニアリテ軍隊ニ牛肉ノ罐詰ヲ供給ス

Société Pastorale et Industrielle ノ工場ハ最近ニ Majunga 附近ナル Boanary ニ建設セラレ牛肉ノ罐詰ヲ製出シ又冷蔵牛肉ヲ輸出ス

附記ス往時歐商牛皮ヲ歐洲ニ輸出スル爲メ「マジユンガ」港ニテ土人ヨリ生牛ヲ買ヒテ之ヲ屠殺セシカ其肉ハ價格甚タ低廉ナルヲ以テ處分ニ苦シミ「モザンビク」海峽ニ棄テ、魚腹ニ葬リタリト云フ明治四十五年四月 Majunga ニ於ケル相場ヲ檢スルニ生牛ハ、一頭四十法乃至五十法(約十六圓乃至二十圓)ニシテ粗製牛皮ハ五十基ニ付罐藏シタルハ、七十五法(約二十圓)乾燥シタルハ、五十二法五十山(約二十一圓)ナリ以テ牛肉ノ如何ニ低廉ナルカヲ推スヘク同地ニ罐詰業及冷蔵肉業ノ起ルノ偶然ナラサルヲ知ルヘシ高原地方ニ於テモ牛一頭約六十法(約二十四圓)内外ニシテ牛肉一基(約二斤)ハ、六十乃至七十五山(約二十四圓乃至三十圓)トス

馬

「マダガスカル」ニ於ケル牧馬ノ發達モ見ルヘキモノアリ數年前迄ハ「Tananarive」附近ニ少數ノ養馬者アルニ過キサリシカ今日ニ於テハ牧馬場ハ同府ヲ圍リ諸所ニ開ケ Antsoajany, Antsirabe, Betato, Fianarantsoa, Ambohitra 兩地ノ附近及「Tanatave」ハ牧馬ノ中心地トナレリ、「マダガスカル」カ始メテ佛國ニ占領セラレシ當時ニ於ケル馬ノ數ハ、三百五十頭ナリシモ現今二千餘頭ヲ算スルニ至レリ一八九七年以來本島内ニ種々ノ牡馬ヲ輸入セリ即佛國産「タルブ」(Tarbes)

種「バルブ」(Barbe)種「ノルマンチー」(Normandie)種「カマルグ」(Camargue)種「アルジェリー」種、南米産「アルジャンチーン」種、「ツルゲー」種「オーストラリア」産及「アビシニア」産ナリ馬ノ牧養ノ開始セラレシ以來輸入セラレタル種馬ノ種類モ少ナカラス即チ「アビシニア」産「オーストラリア」産「バルブ」産「タルブ」産ニシテ土人モ牧馬ニ趣味ヲ有スルニ至リ現今多數ノ小農家ハ既ニ牝種馬若クハ若牝馬ノ所有者或ハ共同所有者タルニ至レリ

「マダガスカル」ニハ種馬飼育場ニケ所アリ一ツハ「Tananarive」(Anosimaina)ニ他ハ「Tanatave」ニアリ

Anosimaina 飼育場ニ於テハ、一九一一年ニ二十六頭ヲ飼育セリ内二十五頭ハ種馬トス而シテ「Tanatave」飼育場ニテハ僅カニ、二頭ヲ有スルニ過キサリキ

總督府ハ馬匹共進會ニ裕カナル補助金ヲ交附シ或ハ諸所ノ競馬組合ニ手當金ヲ與ヘテ牧馬ヲ獎勵シ又前記種馬飼育場ノ種馬ヲ無料ニテ牧養者ニ貸附ス此等獎勵ノ影響ニテ「マダガスカル」馬ノ生産ハ確實ナル改良發達ノ途ニアリ

疾病、「マダガスカル」ニテハ馬ノ重病稀レニシテ佛國ニ於テハ多數ノ馬ヲ斃ス疾病ハ本島中ニハ未タ知ラレス然レトモOrfomalacie ト稱スル一種ノ細菌性病アリ本病ノ特徴トスル所ハ跛行スルコト、頭骨膨脹シ一般状態ノ漸次惡變スルニ至ルコトナリ而シテ本病ハ殊ニ幼若ニシテ過勞シタル馬及充分發育セサル前ニ輸入セラレタル馬ニ發生ス本病ノ治療法ハ病馬ヲ轉地セシメ牧場ニ放テテ自由ヲ與フルニアリ

駝鳥

「マダガスカル」馬ニ始メテ駝鳥ヲ輸入セシモノハ「Durban」港ニ牛ヲ輸入スルコトヲ業トセル英人「Everson」ニシテ一九〇二年ノ末五番ノ駝鳥ヲ「マダガスカル」ニ持テ來レリ此等ノ駝鳥ハ生後一ケ年ヲ經タルモノニシテ「Tillean」ニ飼養セラレシカ同地ノ氣候風土ニ慣ル、コト最初ハ困難ナリキ而シテ翌一九〇三年中其三番ハ死亡セリ殘ル二番ハ、一九〇四年ニハ充分ナル發育ヲ遂ケ此年始メテ産卵セリ孵化法ハ天然ニ委スルヲ最良トス故ニ親駝鳥ノ孵化セサル卵ノミニ人工孵化法ヲ施セリ

最初輸入セシニ番ノ駝鳥ハ、一九〇九年ニ、二百二十八羽ノ健康ナル子鳥ヲ有スルニ至リ一九一〇年ノ終リニ「Fulani」試験場ノ駝鳥ハ、二百五羽ヲ算セリ

「Fulani」試験場ニ於テ行ヘル試験ノ完結セル爲メ數ヶ所ノ飼育試験場ハ内地ニ設ケラレタリ
總督府ハ、一九〇九年二月ヨリ若干ノ駝鳥ヲ數名ノ開墾者ニ拂下ケタリ又「Fulani」ニ於テ採收セラレシ駝鳥ノ羽ハ倫敦及巴里ニテ販賣セラレタルニ其價格度毎ニ増加セリ

右ノ如クナルカ故ニ今日ニ於テハ西南地方ニ行ハレシ駝鳥ヲシテ風土ニ慣レシムル試験ハ全ク成功セリト云フヲ得ヘシ而シテ駝鳥ノ種類モ漸次改良化シツ、アルヲ見ル

駝鳥ノ斃死數ハ成熟駝鳥ニ少ナク幼若駝鳥ニ多シ成熟駝鳥斃死ノ原因ノ多クハ偶發事情即チ苦痛、恐慄、運動中ノ不自由等ノ如キモノニシテ幼鳥斃死ノ原因ハ主トシテ「Yellow Heat」稱スル病ニ犯サル、ニアリ

行政廳ハ駝鳥飼育ノ新事業ヲ島内ニ發達セシメタリ然レトモ斯業ニ從事セントスルモノハ駝鳥ノ飼育ニハ専門ノ智識ヲ要スルコトヲ忘ル可カラサルナリ氣候、土性、駝鳥ノ年齢等ノ關係ハ駝鳥飼育上重要ナル事項ニシテ斯業ノ成功ヲ期スルニハ多クノ經驗ヲ要ス一朝一夕ノ能クスル所ニ非ストス

羊

羊ノ飼育ハ容易ニシテ敢テ大ナル注意ヲ要セサルニ拘ラス「マダガスカル」島内ニハ未ダ普及セス同島ニ現存スル羊ハ亞細亞、亞弗利加ノ大尾ノ種類ニ屬スルモノナリ

牧羊試驗及内地産牝羊ト「メリノ」(Merino)牡羊トノ雜交試験ハ南部地方ニ於テ行ハレタルカ其結果ハ羊ノ種類ヲ速カニ且ツ容易ク改良變化シ得ルコトヲ示セリ南部地方ハ冬季間ノ温暖ナルト降雨ノ稀ナルトニヨリ最モ牧羊ニ適セリ

Sakalava 地方ニテハ羊肉ハ宗教ノ禁スル所ナルカ故ニ牧羊行ハレサレトモ「Bata, Bata」ニハ良好ナル羊群アリ
Tuléar 州内ニハ羊、山羊、約二萬五千頭アリ内半數ハ「Ampanany」郡内ニアリ此地方ニ於ケル羊肉ノ消費ハ繁殖スル羊

ノ殆ト全部ヲ吸收ス

豚

「マダガスカル」ノ豚ハ亞細亞豚ノ種族ニシテ色黒ク毛粗硬體質強壯ナリ容易ニ肥滿シ良好ナル肉ヲ供給ス
豚ノ飼育ハ回教ノ行ハル、地方及「Betsimisaraka」地方ニハ稀ニシテ中部高原、「Tananarive」近傍、「Ankaratra」ノ山多キ地方、「Anstrabe, Fianarantsoa, Ambositra」州ニハ多數ニ飼養セラル此等地方ノ養豚業ハ「マニオック」甘藷及馬鈴薯ノ栽培ニヨリテ便宜ヲ得同地方ノ財源ヲナス

「ホーグ」ノ農民ハ輸出用豚ノ鹽漬及豚脂調製ノタメ近年養豚業ヲナスニ至レリ
Fianarantsoa 州ニ於ケル豚脂ノ取引高ハ、一九〇八年ニハ、三十八噸ナリシモ一九一〇年ニハ、百噸以上ニ増加セリ豚脂ヲ調製スル工場ハ數ヶ所ニ設置セラレ能ク營業シ居レリ

豚ハ重要ナル財源ナレハ之カ増殖ヲ計ルタメ總督ハ、一九一一年八月二十八日付命令ヲ以テ牝豚ハ所轄官廳ノ許可ナクシテ屠殺ス可カラサル事トセリ然レトモ老衰セル牝豚或ハ生殖力ナキ牝豚ハ此規定ノ適用ヲ受ケス州知事郡長、若クハ派遣官等ノ許可アレハ之ヲ屠殺スルコトヲ得

其他ノ諸動物

沼澤ヲ有スル諸國ノ如ク「マダガスカル」ニ於テモ多數ノ水禽アリ其主モノハ鴨、Garcelle, Poule d'eau 及多クノ涉水鳥類ナリ鷓鴣、鶉、雲雀及田鴉ハ中央部ヨリ遠ク隔レル地方ニ大群ヲナシテ飛翔ス「コモンドリ」(Pintade)ハ西北ノ大平原及 Sakalava 州ノ各地ニ大群ヲナシテ飛翔スレドモ高原地ニハ稀ニシテ東部斜面ニハ稍多シ森林中ニハ多數ノ鳥類アリ即チ暗灰色ノ鸚鵡、綠色蓬摩鸚哥 (Perruche Verte), Cardinal, 雉鳩 (Tourterelle), 綠色鳩 (Merle, Cooq de bruyère, Voronahery) (小形鸚、一種) Kakiskiska (鷹ノ一種) 島内各地ニ繁殖スル白頸鳥等ナリトス
本島ニハ亞弗利加ニ於ケルカカ如ク大ナル哺乳動物ハ棲息セサレトモ多クノ猪、諸種ノ猿及「Mati」豪猪、「Osm」(家禽舎

ヲ荒ラス犬大ノ猫ノ麝香猫、栗鼠、齧齒獸類等存在ス南部殊ニ Fort-Dauphin, Tulear ニハ多數ノ龜ヲ産ス
 河川及湖水ハ一般ニ魚類ニ富ミ鱒魚繁殖ス土人ハ鱒シ或ハ日乾ニセル魚類ノ多量ヲ食ス河川ノ多クハ甚タ大ナル鱒ヲ産
 ス又温帯地ニ於ケル鱒流及小川ヨリ捕獲スル *Trichostema* ハ其大ナルコト歐洲ニテハ見ル能ハサル所ナリ此外土人ハ此等
 ノ鱒流及小川ニ小蝦ヲ漁シ日ニ乾シテ食用ニ供ス
 沿海地方何レモ魚類ニ富ミモ大鯨多ク害ヲナシ漁獵甚タ危檢ナリ

第十四章 鑛業 (省略)

第十五章 商業

第一節 概説

「マダガスカル」島貿易發達ノ狀況ハ先ツ左表ニヨリテ其一斑ヲ窺知スヘシ

一八九八年ヨリ一九一〇年ニ至ル「マダガスカル」島總貿易統計表

年次	總貿易價額		輸出入		總貿易	
	輸入	輸出	輸入	輸出	佛國及其殖民地	諸外國
一八九八	二六九四六五七	二六七七一七	四九七四四八	一八六〇四三三	八一九〇三五	八一九〇三五
一八九九	三五九六〇五四	二七九六二四	八〇四六〇八	二九七四一八	六三三六八	六三三六八
一九〇〇	五〇九四六六一	四〇七〇八三	一〇六三六六	四一五七四九	八五三三六	八五三三六
一九〇一	五五〇八三三	四〇三三〇七	八九七五九	四七三三九〇	七六四三三	七六四三三
一九〇二	五五四三三七	四一七九〇	一三四四四〇	四四三三五五	一一七六八	一一七六八
一九〇三	四九五八二九七	四三〇七七一	一九三三三六	四一三三七四	六八四九三	六八四九三
一九〇四	四九七六八四	三三九三三	一九三三三六	四一三三七四	六八四九三	六八四九三
一九〇五	五三七五三四	三三九三三	三三九三三	四一三三七四	六八四九三	六八四九三
一九〇六	六四七六四四	三三九三三	三三九三三	四一三三七四	六八四九三	六八四九三

一八九六年ヨリ一九一〇年ニ至ル輸入統計表

年次	水産物	普通葡萄酒	各種酒精	米	金	金銀製品	鐵製品	石	炭	角材若クハ鋸材
一八九六	六六二三四	四三二九〇	五八九三六	三九四三	九三三三九	一〇〇一九	九五四	九五四	一七五	一七五
一八九七	七〇四三三	一〇八七五	一八七三七	五四四三	三三九六	三三九六	一〇二二	一〇二二	二七四	二七四
一八九八	七四二五九	一六四三三	二二〇九	一〇四四	三三九六	三三九六	一〇二二	一〇二二	二七四	二七四
一八九九	八八四〇六	二二七六五	一八三六	五三三	三三九六	三三九六	一〇二二	一〇二二	二七四	二七四
一九〇〇	一〇四六三	三三三三	二二二七	一三三	三三九六	三三九六	一〇二二	一〇二二	二七四	二七四
一九〇一	一一九六〇	三三三三	二二二七	一三三	三三九六	三三九六	一〇二二	一〇二二	二七四	二七四
一九〇二	一三三三三	三三三三	二二二七	一三三	三三九六	三三九六	一〇二二	一〇二二	二七四	二七四
一九〇三	一四九三三	三三三三	二二二七	一三三	三三九六	三三九六	一〇二二	一〇二二	二七四	二七四
一九〇四	一七三三三	三三三三	二二二七	一三三	三三九六	三三九六	一〇二二	一〇二二	二七四	二七四
一九〇五	一九三三三	三三三三	二二二七	一三三	三三九六	三三九六	一〇二二	一〇二二	二七四	二七四
一九〇六	二一三三三	三三三三	二二二七	一三三	三三九六	三三九六	一〇二二	一〇二二	二七四	二七四
一九〇七	二三三三三	三三三三	二二二七	一三三	三三九六	三三九六	一〇二二	一〇二二	二七四	二七四
一九〇八	二五三三三	三三三三	二二二七	一三三	三三九六	三三九六	一〇二二	一〇二二	二七四	二七四
一九〇九	二七三三三	三三三三	二二二七	一三三	三三九六	三三九六	一〇二二	一〇二二	二七四	二七四
一九一〇	二九三三三	三三三三	二二二七	一三三	三三九六	三三九六	一〇二二	一〇二二	二七四	二七四

第十五章 商業

一八九六年ヨリ一九一〇年ニ至ル輸出統計表

年次	金	皮(未加工)	ラファイヤ	蜜	牛	少アニエ	乾燥野菜	指物用材
一八九六	一三三三三	一〇九九	六六四三三	三〇三三三	四七七一	五九〇	六三三	六三三
一八九七	一三三三三	一〇九九	六六四三三	三〇三三三	四七七一	五九〇	六三三	六三三
一八九八	一三三三三	一〇九九	六六四三三	三〇三三三	四七七一	五九〇	六三三	六三三
一八九九	一三三三三	一〇九九	六六四三三	三〇三三三	四七七一	五九〇	六三三	六三三
一九〇〇	一三三三三	一〇九九	六六四三三	三〇三三三	四七七一	五九〇	六三三	六三三
一九〇一	一三三三三	一〇九九	六六四三三	三〇三三三	四七七一	五九〇	六三三	六三三
一九〇二	一三三三三	一〇九九	六六四三三	三〇三三三	四七七一	五九〇	六三三	六三三
一九〇三	一三三三三	一〇九九	六六四三三	三〇三三三	四七七一	五九〇	六三三	六三三
一九〇四	一三三三三	一〇九九	六六四三三	三〇三三三	四七七一	五九〇	六三三	六三三
一九〇五	一三三三三	一〇九九	六六四三三	三〇三三三	四七七一	五九〇	六三三	六三三
一九〇六	一三三三三	一〇九九	六六四三三	三〇三三三	四七七一	五九〇	六三三	六三三
一九〇七	一三三三三	一〇九九	六六四三三	三〇三三三	四七七一	五九〇	六三三	六三三
一九〇八	一三三三三	一〇九九	六六四三三	三〇三三三	四七七一	五九〇	六三三	六三三
一九〇九	一三三三三	一〇九九	六六四三三	三〇三三三	四七七一	五九〇	六三三	六三三
一九一〇	一三三三三	一〇九九	六六四三三	三〇三三三	四七七一	五九〇	六三三	六三三

第十五章 商業

輸入ハ増減常ナキモ輸出着々増進シ十四年ニシテ約十倍セルハ同島力逐年開發スルヲ證ス而シテ其他國トノ貿易關係ヲ見ルニ諸外國トノ貿易ノ進歩遅々タルニ反シ佛國及其殖民地トノ貿易額ハ駁々トシテ増加シ經濟關係ノ良好ナルヲ示ス本年々初「マダガスカル」島總督ヨリ佛國政府ニ送シタル電報ニ據レハ一九二一年ノ輸入總額ハ五〇、〇三四、八四八法、輸出總額ハ五九、八四四、二九四法ニシテ合計一〇九、八七九、一四二法トナリ「マダガスカル」貿易總額一億法以上ニ上リタルハ之ヲ嚆矢トスト

一九二一年ノ貿易狀況

食料	一九二一年合計	一九一〇年合計
工業原料	一九二一年合計	一九一〇年合計
製造品	一九二一年合計	一九一〇年合計
輸入價格ハ前年ノ三千三百萬法ニ對シ一千百萬餘法ヲ増シ輸出價格ニ於テハ前年ノ四千五百萬法ニ對シ二百餘萬法ヲ増シタリ		

一九二一年ニ於ケル重ナル輸出入商品及其數量價格ハ左ノ如シ

品目	單位	數量	價格
1 綿織物	總掛	四三、七六〇	一、七六九、九六三
2 金織物	總掛	三、四八五	三、〇五〇、〇〇〇
3 金織物	總掛	三、〇五〇	三、〇五〇、〇〇〇
4 普通葡萄酒	リットル	六、九八五、〇〇〇	二、五三二、四八八
5 金	總掛	三、四八五	三、〇五〇、〇〇〇
6 麥粉	總掛	一、七六九、九六三	九、〇四五、〇〇〇
7 世帯用粉	總掛	九、〇四五、〇〇〇	九、〇四五、〇〇〇
8 各種組合品	總掛	一、二八二、八二六	七、九〇九、〇〇〇
9 各種酒類	リットル	五、四三三、九四〇	七、六八三、〇〇〇
10 被服及白布類	總掛	二、二四四、〇〇〇	七、六八三、〇〇〇
11 麻亞麻織物	總掛	一、〇二九、六五七	七、四九二、九三三
12 紙及其製品	總掛	五、五〇四、二二二	六、二八八、九三三
13 セメント	總掛	四、〇八九、〇五八	五、四二二、〇〇〇
14 砂	總掛	九、九八四、七五五	四、五二二、〇〇〇
15 精製石油及其他ノ礦油類	總掛	一、四四七、二九八	四、七五三、〇〇〇
16 絲	總掛	三、〇〇〇、〇〇〇	四、五二二、〇〇〇
17 皮革製品	總掛	六、七六九、〇〇〇	四、四二二、〇〇〇
18 油	總掛	六、八〇四、七三三	三、六九二、〇〇〇
19 木村夫大角材製材同	總掛	二、四〇九、二七五	三、七〇〇、〇〇〇
20 各種作業用具	總掛	二、七三三、六八八	三、五七〇、〇〇〇
21 化學製品	總掛	一、〇四二、二二七	三、五七〇、〇〇〇
22 小間物玩具	總掛	一、〇四二、二二七	三、五七〇、〇〇〇
23 リキニー(葡萄酒製)リットル	總掛	一、九八三、八二六	三、五七〇、〇〇〇
24 毛織物	總掛	五、九八四、七五五	三、〇五〇、〇〇〇
25 雙物	總掛	九、九八四、七五五	二、七六九、〇〇〇
50 野菜(鹽藏及罐詰)	總掛	八、〇四四、〇〇〇	一、〇二九、六五七
49 ナン	總掛	四、二九四、〇〇〇	一、〇二九、六五七
48 糖	總掛	一、〇四二、二二七	一、〇二九、六五七
47 糖	總掛	九、九八三、八二六	一、〇二九、六五七
46 糖	總掛	三、七〇〇、〇〇〇	一、〇二九、六五七
45 糖	總掛	四、〇二九、六五七	一、〇二九、六五七
44 糖	總掛	一、〇二九、六五七	一、〇二九、六五七
43 糖	總掛	二、七三三、六八八	一、〇二九、六五七
42 糖	總掛	二、七三三、六八八	一、〇二九、六五七
41 糖	總掛	三、七〇〇、〇〇〇	一、〇二九、六五七
40 糖	總掛	四、〇二九、六五七	一、〇二九、六五七
39 糖	總掛	五、五〇四、二二二	一、〇二九、六五七
38 糖	總掛	九、九八四、七五五	一、〇二九、六五七
37 糖	總掛	一、〇二九、六五七	一、〇二九、六五七
36 糖	總掛	二、七三三、六八八	一、〇二九、六五七
35 糖	總掛	二、七三三、六八八	一、〇二九、六五七
34 糖	總掛	三、七〇〇、〇〇〇	一、〇二九、六五七
33 糖	總掛	四、〇二九、六五七	一、〇二九、六五七
32 糖	總掛	五、五〇四、二二二	一、〇二九、六五七
31 糖	總掛	九、九八四、七五五	一、〇二九、六五七
30 糖	總掛	一、〇二九、六五七	一、〇二九、六五七
29 糖	總掛	二、七三三、六八八	一、〇二九、六五七
28 糖	總掛	二、七三三、六八八	一、〇二九、六五七
27 糖	總掛	三、七〇〇、〇〇〇	一、〇二九、六五七
26 糖	總掛	四、〇二九、六五七	一、〇二九、六五七
25 糖	總掛	五、五〇四、二二二	一、〇二九、六五七
24 糖	總掛	九、九八四、七五五	一、〇二九、六五七
23 糖	總掛	一、〇二九、六五七	一、〇二九、六五七
22 糖	總掛	二、七三三、六八八	一、〇二九、六五七
21 糖	總掛	二、七三三、六八八	一、〇二九、六五七
20 糖	總掛	三、七〇〇、〇〇〇	一、〇二九、六五七
19 糖	總掛	四、〇二九、六五七	一、〇二九、六五七
18 糖	總掛	五、五〇四、二二二	一、〇二九、六五七
17 糖	總掛	九、九八四、七五五	一、〇二九、六五七
16 糖	總掛	一、〇二九、六五七	一、〇二九、六五七
15 糖	總掛	二、七三三、六八八	一、〇二九、六五七
14 糖	總掛	二、七三三、六八八	一、〇二九、六五七
13 糖	總掛	三、七〇〇、〇〇〇	一、〇二九、六五七
12 糖	總掛	四、〇二九、六五七	一、〇二九、六五七
11 糖	總掛	五、五〇四、二二二	一、〇二九、六五七
10 糖	總掛	九、九八四、七五五	一、〇二九、六五七
9 糖	總掛	一、〇二九、六五七	一、〇二九、六五七
8 糖	總掛	二、七三三、六八八	一、〇二九、六五七
7 糖	總掛	二、七三三、六八八	一、〇二九、六五七
6 糖	總掛	三、七〇〇、〇〇〇	一、〇二九、六五七
5 糖	總掛	四、〇二九、六五七	一、〇二九、六五七
4 糖	總掛	五、五〇四、二二二	一、〇二九、六五七
3 糖	總掛	九、九八四、七五五	一、〇二九、六五七
2 糖	總掛	一、〇二九、六五七	一、〇二九、六五七
1 糖	總掛	二、七三三、六八八	一、〇二九、六五七

第二節 「マダガスカル」島ト東洋特ニ本邦トノ間ノ貿易狀態

「マダガスカル」島ト東洋諸國トノ貿易ハ猶ホ甚タ幼稚ナリ同島ノ産物ニシテ支那方面ニ向ケラル、モノハナキニアラス
 鹽魚、干海鼠ノ如キモノ多少同方面ニ輸出セラレツ、アルモ斯カル貨物ハ惡臭ヲ發スルカ故ニ歐洲ノ汽船會社ハ運搬ヲ
 好マス隨ツテ運賃モ不廉ナレハ輸出ハ僅少ノ額ニ過キスト云フ

本邦ノ雜貨例ヘハ「キモノ」(即チ浴衣)絹「ハンケチ」絹若クハ木綿、張リ團扇、漆塗小箱、玩具ノ如キモノハ「デブーチ」サ
 シ「パール」等ノ波斯人、亞刺比亞人ノ商店ニ見受ケタリシモ「マダガスカル」島ニ入りテヨリ本邦品ヲ見ルコト甚タ稀
 レニシテ歐商ニヨリテ輸入サレタル本邦産物ニ重カ「タナナリジ」府一土商ノ店頭ニ陳列セラレタルヲ見シノミナリシ
 カ歸途 Diago-Suarez ニテ初メテ一商店ノ本邦品ヲ賣捌キ居ルヲ見聊カ自ラ慰ムル所アリタリ店主ハ波斯人ニテ Casimira
 Ocharaト稱ス間口三開位ノ小商店ニシテ本邦産浴衣(一般ニ「キモノ」ト稱ス)浴衣地、提灯、彩色寫眞額、絹「ハンケチ」
 竹細工物、玉簪等アリ同店ニテハ年來神戸三ノ宮町二丁目 内 Hasabaト稱スル商人ヲ Agentトナシ日本品ヲ取寄セ販
 賣スルニ相應ニ賣レ行キアリト云ヘリ Diago-Suarez ハ馬島最北ノ良港ニシテ三、四航路ノ交叉點ニ當リ時々船舶ノ出入
 アレハ極東品ノ如キ目新シキモノ、多少賣レ行ク事モアルヘシ

本邦ノ商品ニシテ「マダガスカル」島ニ最モ見込アルハ前述ノ「マツチ」ナルカ染色羽二重ノ如キモ少量ノ需用アラン土人
 向キノ廉價ナル洋傘モ可ナラン又熱帶地方ノ事トテ歐洲人向キノ浴衣モ可ナラン其他土人向キノ極メテ廉價ナル硝子器
 瀬戸物モ可ナラン

往年本邦製人力車ヲ輸入シタルモノアリシカ脆弱ニシテ直チニ毀損セシ爲メ現今ハ同島ニテ大形ノ堅固ナル人力車(本
 邦ノ二人乗り大)ヲ作リテ使用シ居レリ然レトモ由來人力車ノ本國ハ日本ナレハ同島ニテ作ルモノモ本邦品ニ模倣スル
 ノ傾向アリ故ニ本邦ニテ堅牢ナルモノヲ作リテ輸入シタラシニハ同島ノ海岸一帯ニ需要ヲ見ルニ至ルヘシ人力車ハ固ヨ

リ歐洲人ノ使用スルモノニシテ多クハ自己ノ私用ニ備フ彼等ハ普通一臺ノ製造費ニ二百五十法乃至五百法ヲ投シ來レル
 ヲ以テ輸入人力車ノ製造ヲ堅牢ニスルカ爲メニ多少其價額ヲ高ムルカ如キハ深ク懸念セスシテ可ナルヘシ同島ニ於ケル
 一知人ハ人力車ニ四百法更ニ之ヲ「ゴム」輪トナス爲メニ三百法計七百法ヲ拂ヒタリト

茶碗、珈琲碗、漆塗盆、小箱ハ本邦製ニ擬シタル獨逸品ヲ見タレハ是亦需要アラン其他衝立、屏風、扇子、團扇、紙製
 提灯、竹細工、花蓆、廉價ナル家具等モ移住歐洲人向キノ可ナラン

同島要市港ニ於ケル商人々名ハ本復命書ニ添附セル Guide annuaire du Gouvernement Général de Madagascar et des
 dépendancesノ四九五頁以下ニ詳記セラレタリ因ニ曰フ Tamatave, Tamatave, Diago-Suarez, Majunga ニハ商業會議所アリ
 又各州ニ商事諮問會 (Chambre consultative)ノ設ケアレハ是等ニ就キ商品ノ種類ニヨリ取引先ヲ問合ハスルヲ得ヘキカ
 要市港ニ於テ日本品ノ取引ヲナス事モアルヘキ信用アル商店トシテ聞キ得タルモノハ左ノ如シ

- Principales Maisons de Madagascar susceptibles d'importer des marchandises du Japon.
- Tamatave - Cie Iyounaise de Madagascar
 - Oswald & Cie
 - Cie Marchandise de Madagascar
 - Majunga - Cie Iyounaise de Madagascar
 - Oswald & Cie
 - Cie Marchandise de Madagascar
 - Diago-Suarez - Cie Iyounaise de Madagascar
 - Oswald & Cie
 - Cie Marchandise de Madagascar

「マダガスカル」島ヨリ本邦ニ輸入スルニ見込アルモノ亦少ナカラス牛ハ全島到ル處ニ飼育セラレ全島ノ人口三百萬ニ對
 シ約四百五十萬頭アリ斯ク多數ナルカ故ニ各地一般其價甚タ廉ナリ即チ生牛ノ價一頭六十法(約二十四圓)前後ニシテ
 Diago-Suarez 市場ニテ近來ニナキ高價ニ賣レタリト稱スル時ニテモ猶ホ七十五法(約三十圓)ニ過キス斯カル事情ヲ利

用センカ爲メ Materials ニテハ牛肉罐詰製造所アリ生牛、牛皮、牛肉等ヲ本邦ニ輸入スル事モ研究ノ價値アリ其他護謨、
 藤皮用樹皮「ツァニユー」、米、丁子、龍甲等亦本邦ニ輸入スルニ見込アル商品トス

第三節 關稅、消費稅

左ニ記スルハ本邦ヨリ「マダガスカル」島ニ輸入スルニ見込アル諸品ニ對スル關稅、消費稅ヲ同島稅關ニ就キテ開質シタルモノナリ

木綿織物特別稅

四〇四番生ノ純木綿織物ニシテ無地若クハ綾織ナルモノ	一〇〇「メートル」平方ニ付	正味一〇〇「キロ」ニ付	二七七法
一三「キロ」及其以上	三十五本綫及其以上	同	二八七法
一一「キロ」ヨリ一三「キロ」迄	三十六本綫及其以上	同	三〇七法
九「キロ」ヨリ一一「キロ」迄	三十五本綫及其以上	同	三二七法
七「キロ」ヨリ九「キロ」迄	三十六本綫及其以上	同	三三九法
五「キロ」ヨリ七「キロ」迄	三十五本綫及其以上	同	三五九法
三「キロ」ヨリ五「キロ」迄	三十六本綫及其以上	同	三七八法
二「キロ」以下	三十五本綫及其以上	同	三三〇法
四〇五番 純木綿織物ニシテ無地若クハ綾織ナルモノ	漂白シタルモノ	生ノ織物稅ノ外ニ漂白附加稅トシテ稅金ノ二割ヲ加フ	
四〇六番 同	染メタルモノ	生ノ織物稅ノ外ニ染色附加稅トシテ一〇〇「キロ」ニ付三〇法ヲ課ス	
四〇七番 同	印刷シタルモノ	生ノ織物稅ノ外ニ印刷附加稅トシテ一〇〇「メートル」平方ニ付	
	一色乃至二色ノモノハ	三法七〇山	
	三色乃至六色ノモノハ	六法二五山	
	七色及其以上ハ	一〇法	
其他一切ノ木綿織物ニ關シテハ佛國關稅四〇八番乃至四三七番ヲ適用ス			

三三八

織物ニ對スル統計稅ハ包裝ナキモノハ正味一〇〇〇「キロ」ニ付一〇山、布、蓑、箱等ニ入りタルモノハ一個毎ニ一〇山トス

木綿織物ニ對スル消費稅ハ「キロ」ニ付

生ノモノハ	二五山				
漂白シタルモノハ	三五山				
染色印刷又ハ加工シタルモノハ	四五山				
紙		最低稅率	消	費	稅
六四六 提灯、人力車(小間物) Lampshade (ニ同シ)	正味一〇〇「キロ」ニ付六〇法	一木三付二五山			
六四三 扇子	正味一〇〇「キロ」ニ付三〇〇法	同 一法二五山			
其他	同 四〇〇法				
三四三 普通磁土ノ又ハ金錫ノ普通陶器(上等ナル陶器ハ粉番三四五番)	總掛ク一〇〇「キロ」ニ付六法				
三四四 同	正味一〇〇「キロ」ニ付一二法				
五六一 無地鐵製瀝戸引食器	正味一〇〇「キロ」ニ付二八法				
四一九 木綿メリヤス、シャツ	三〇〇法				
六四一ノ二 漆塗木箱	一「キロ」ニ付	生 五〇〇山			
		漂白 七〇〇山			
		染色 九〇〇山			
第十五章 商業					三三九

三二二	他ノ材料ノ蠟燭(ステアリン酸、鯨油、植物性及動物性蠟)	同	一六法	正味一〇〇キログ三付 二〇法	正味一五キログ以内ノ箱入レバ一〇箱毎ニ 其他ハ包裝一個毎ニ 一〇山
一七二ノ三	麥酒	同	九法	樽詰ハ一リットルニ 瓶詰ハ一本ニ付一〇五山	包裝一個ニ付一〇山
九一	砂糖(粉)推定含有糖 九割八分及以下 九割八分以上	同	四一法五〇山 四二法	精製糖一〇〇キログニ 付 二五法ノ割	漢、相其他ノ包裝ナル ハ一〇〇キログ三付 大樽大桶ニ入レタ ノハ一包裝ニ付一〇山
六二二	菓子、樹皮、スバルト、椰子ノ纖維若クハ其他一切ノ植物性原料ニテ作りタル餅狀又ハ盆狀ノ菓子	同	四五山	同	同
四五九	日本産絹織物	同	三〇山	同	同
	仕立テタルモノ	同	九五〇法	同	同
	仕立テタルモノ	同	正味一〇〇キログ三付 九〇〇法	縮類、 トアル、 フイラ、 ニ法四〇山 其他同 一法六〇山 縮類、ガス、 トアル、フ、 同 五法 其他同 二法	包裝ニ付 一〇山

第四節 商品ノ運搬及其賃錢

極東「マダガスカル」高間ニ直通ノ定期船便ナシ同島ヘノ定期船便ハ佛國ヨリ
Compagnie Havraise Peninsulaire (「ハーツル」)「マダガスカル」間毎月一回
Compagnie des Messageries Maritimes (馬耳塞)「マダガスカル」間毎月二回
兩社ノ船便アルノニ尤キ「British India Steam Navigation Company, Ltd.」ニハ「Calcutta, Colombo, Mauritius」間ニ毎四週一回ノ定期船便ヲ有ス故ニ本邦ヨリ貨物ヲ「マダガスカル」島ニ送ルニハ日本船ニテ「Colombo, 迄送り同所ニテ同社船ニ轉載スル」一法アリ然ルトキハ貨物ハ一旦「Mauritius」ニ送ラレ夫ヨリ佛國船ニテ「マダガスカル」諸港ニ轉送セラレト云フ但シ運賃ハ「Colombo」ヨリ「Mauritius」迄ノ分ヲ要スルノミニテ「Mauritius」ヨリ「マダガスカル」迄ハ無料トス是レ上記英佛兩汽船會社ノ協約ニ基テス如ク時ハ貨物ハ三度積替ヘラレサル可ラス隨テ毀損ノ憂モアリ又行速ヒノ起リタル場合ニ責任ノ所在ヲ調フル等ニ不便モアラン幸ヒ佛國M.M.會社ハ本邦ニモ定期航海ヲナシ此定期船ハ「デブーチ」ニテ同社ノ「マダガスカル」島定期船ノ接續シ得ルノ便アレハ本邦同島間ノ貨物輸送ハ此法ニ依ルヲ良シトス因リテ同社ニ就キ本邦同島間ノ運賃ヲ聞合セタルニ左ノ如シ

横濱神戸ヨリ Majunga 港 Diego-Suarez 港若クハ Tamatave 港迄

普通貨物 四十立方「フィート」ニテ 九十志
絹物 四十立方「フィート」ニテ 百〇五圓
從價ナレハ千圓ニ付 二十五圓五十錢

Reunion 島及 Mauritius 島迄ハ同運賃トス

附記ス貨物ノ運搬業ヲ營ムハ

Tamatave ミナト Societe des Magasins Generaux et entrepôts de Madagascar; Tamatave ミナト Gaston Cavie 氏
 トス Cavie 氏ノ多數ノ牛車ヲ有シ主トシテ内地輸送ヲナス

第五節 船舶出入

一九二一年中「マダガスカル」諸港ニ於ケル船舶出入ノ状況、船籍及各港輸出入商品ノ價格左ノ如シ

(其一) ×印ハ不明

港名	船舶		計數	比例	入船							出船		
	入	出			佛	英	獨	印度	其他	佛	英	獨	印度	其他
Ambanoro	19	19	38	16.8	16	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Ambolibe	26	26	52	23.2	21	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Analava	29	29	58	25.8	30	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Andovoranto	31	31	62	27.6	31	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Ang-Sarraz	11	11	22	9.6	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Farafangana	11	11	22	9.6	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Fort-Dauphin	7	7	14	6.0	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Mahanoro	1	1	2	0.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Mahinaho	1	1	2	0.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Mahinaho	1	1	2	0.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Majunga	1	1	2	0.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Mamajary	1	1	2	0.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Margentsetra	1	1	2	0.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Marovoay	1	1	2	0.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Morondava	1	1	2	0.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Nosy-Be	1	1	2	0.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Saint-Marie	1	1	2	0.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Tamatave	1	1	2	0.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Tulear	1	1	2	0.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

港名	入	出	計	比例	佛	英	獨	印度	其他	佛	英	獨	印度	其他
Vatomandry	1	1	2	0.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Vohémar	1	1	2	0.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Tofeanx	1	1	2	0.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(其二)

港名	船舶		計數	比例	輸出入		計	比例	下船		計	比例
	入	出			佛	英			佛	英		
Ambanoro	19	19	38	16.8	16	1	17	7.2	16	1	17	7.2
Ambolibe	26	26	52	23.2	21	1	22	9.6	21	1	22	9.6
Analava	29	29	58	25.8	30	1	31	13.6	30	1	31	13.6
Andovoranto	31	31	62	27.6	31	1	32	13.6	31	1	32	13.6
Ang-Sarraz	11	11	22	9.6	11	1	12	5.0	11	1	12	5.0
Farafangana	11	11	22	9.6	11	1	12	5.0	11	1	12	5.0
Fort-Dauphin	7	7	14	6.0	7	1	8	3.4	7	1	8	3.4
Mahanoro	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8
Mahinaho	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8
Mahinaho	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8
Majunga	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8
Mamajary	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8
Margentsetra	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8
Marovoay	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8
Morondava	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8
Nosy-Be	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8
Saint-Marie	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8
Tamatave	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8
Tulear	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8	1	1	2	0.8

船籍	船数		噸數		陸揚噸數	積入噸數	下船客數	船客數		
	入	出	入	出				入	出	
France	9,655	9,250	126,783	126,783	1,407,060	1,006,990	25,335	25,483	8,755	8,755
England	1,414	1,414	127,325	127,325	3,350,395	3,817,140	7,577	8,500	9,032	9,032
Algeria	304	304	12,000	12,000	7,562,184	7,562,332	10	10	6,333	6,333
Holland	1	1	108	108	5,900	1	1	1	15	15
Norwegian	2	2	4,505	4,505	8,134	1	1	1	73	73
Portuguese	1	1	126	126	1	1	1	1	2	2
Sweden	1	1	99	99	1	1	1	1	1	1
Greece	3	3	1,222	1,222	6,990	4,230	3	3	4,99	5,04
Holland	1	1	1,000	1,000	5,500	5,500	1	1	70	70
India	6	6	30,751	30,751	1,425,550	913,194	3	3	4,679	4,679
Tyre	110	102	2,100	2,100	2,100	1,409,950	26	26	5,91	5,91
Tokyo de France	115	115	16,666	16,666	1,666,000	1,666,000	26,76	26,76	1,023	1,023
1911										

一九一二年港別輸出入價額表(單位法郎)

港別	輸 入		輸 出		貿易總額	全貿易對比百分比
	噸數	價額	噸數	價額		
Tanankw	6,912	15,641	15,641	3,377	3,377	3.5
Majunga	2,717	7,350	7,350	12,235	12,235	1.7
Diège-Suez	4,871	4,871	4,871	9,264	9,264	1.0
Nosy-Be	3,655	3,655	3,655	7,031	7,031	0.7
Mananjary	3,222	3,222	3,222	5,211	5,211	0.6
Tulzar	1,522	1,522	1,522	2,801	2,801	0.3
Anatara	9,481	21,481	21,481	26,100	26,100	3.0
Tananarive	11,222	1,000	1,000	1,000	1,000	0.1
Fort-Dauphin	2,122	1,000	1,000	1,000	1,000	0.1
Andovonito	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	0.1
Morondava	4,000	1,000	1,000	1,000	1,000	0.1
Antohibe	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	0.1

上表ノ百分比ニ就キ見ルニ馬島全貿易ノ百分ノ十以上有スルハ僅カニ三港ニ過キス Nosy-Be ハ灣内廣ク多數ノ大船ヲ入ル、ニ便ナレトモ目下ノ有様ニテハ物貨集散ノ盛ナル商港ニ非ス附近ノ農産物ヲ積出ス農港タルニ過キス要スルニ馬島ノ商港ハ Tananarive, Majunga 及 Diège-Suez ノ三港ニ過キサルカ如シ

第十六章 工業

第一節 土人ノ工業

富源ノ探查、通路ノ開鑿、運輸ノ改良ニ伴ヒ本島ノ工業モ漸次進歩スルノ觀アリ各種工業ノ所在ハ後章各州事情ヲ叙述スル際ニ譲リ茲ニハ同島現下工業状態ノ概説ヲ載ス

多數ノ小工業ハ既ニ存在セリ然レトモ是等ハ土人カ生活上ノ必需品ヲ製作スル工業ニ止リ特別ノ知識ヲ有スルニ非ス幼稚ナル方法ニヨリテ製出スルモノナルカ故ニ其製作品モ土人ノ使用ニ充ツルニ過キス綿絲又ハ粗製絹絲ヲ以テ「ラムバ」(土人カ身ニ纏フ袈裟ノ如キモノ)ヲ作ル植物纖維ヲ以テ蓆籠箆ヲ作ルカ如キ工業ハ各地ニアリ獨木舟、漁船、網繩、船具ノ製作ハ沿海地方ニ普通シテ鐵ヲ用キテ簡單ナル農具、刀鎗ヲ作り木材ヲ種々ニ使用シ粘土ヲ以テ土器ヲ作り煉瓦ヲ製スルカ如キモ到ル處ニ目撃スルヲ得而シテ土人ノ稍々特別ナル工業ト認ムヘキモノアリ左ニ之ヲ列記セン

「ダンテル」本工業ハ Tananarive 及 Desalio 兩州(最モ進歩セル土人ノ住スル地方)ニ限ル「ダンテル」ノ輸出ハ、一

九〇九年ニハ、二一、四九三法ナリシカ一九一〇年ニハ三二、六四四法トナリ一九一一年ニハ七四、四六九法ニ増加セリ
「マダガスカル」産「ダンテル」ハ精美ト丈夫トノ點ハ歐洲産ニ比シテ多ク遜色ナク且工女ノ賃銀低額ナルカ故ニ其原價非
常ニ廉ナレハ佛國ニテハ大ニ賞用セラル(商品標本一四、一五参照)

絹織物 今日ノ狀況ニテハ本島ニ産スル絹絲ハ全然同島内ニテ使用セラレ未タ輸出品タルニ至ラス土人カ絹絲ヲ使用
スルハ全ク「ラムバ、ムナ」ト稱シ屍體ヲ包ム織物ヲ製出スルカ爲メニシテ富者ハ毎年父母ノ屍體ヲ發掘シ「ラムバ、ムナ」
ヲ新タニスト云ヘハ此途ニ使用セラル、量少ナカラスト

土人ハ未タ製絲器械ヲ使用スルコトヲ知ラス手ニテ絲ヲ紡キ居レリ故ニ絹絲モ甚タ美ナラス(商品標本四一参照)本島ニ
テハ未タ俄カニ絹織物工業ノ發達スルカ如キ事ハアラサルヘキモ頻リニ土人ニ養蠶ヲ獎勵シ居レハ數年内ニハ繭ノ形ニ
テ佛國ニ輸入スルノ日アラシ

「ラバン」(Ravanne) 「ラファイア」ノ纖維ヲ以テ作りタル粗末ナル織物ニシテ主トシテ土人ノ勞働服、壁掛、敷物等ニ用
フ本品ノ製造モ「Tananarive」及「Besies」兩州ニ於テセラル、ニ過キスシテ其輸出モ甚タ少ナシ(商品標本一六、一七参照)
麥稈帽子 麥稈帽子本品ノ製造近年著シク發達シタリ全然「タナナリ」地方ノ婦人ノ手ニ成ルモノニシテ之ニ從事ス
ルモノ約一萬五千人ト計上セラル而シテ其三分ノ二ハ「Ambohidratrimo」附近ニ在リ

本品ノ輸出價格ハ	一九〇八年	六五九六五法	一九一〇年	九三九七三法
	一九〇九年	九三三〇三	一九一一年	一三三三〇法

ノ如ク長足ノ進歩ヲナセリ(商品標本二六参照)
石鹼 灰ト脂肪分トヲ混シテ作りタルモノニシテ到ル處ニ販賣セラル全然土人ノ使用ニ充ツルニ過キス

第二節 歐洲人ノ工業

「ロム」酒(Rhum) 本島ニテ釀造販賣セラル、酒類ハ甘蔗ヨリ造リタル「ロム」酒ノミトス馬ヲシテ白ヲ挽カシメ甘蔗
ヲ碎キ汁ヲ絞リ之ヲ醱酵セシメタル後蒸溜シテ「ロム」酒ヲ製ス専ラ土人ノ飲料ニ充ツルノミ

麥酒 「タナナリ」及「アンチラベ」兩所ニ「ビール」釀造所アリ「リートル」(約五合五勺)七十五山(約三十錢)ニテ販
賣ヌ一九一〇年中本島ニ於ケル「ビール」ノ全産額ヲ一五八「ヘクトリートル」(約八十七石五斗)トス

精米所 精米器械ヲ有スル精米所ハ既ニ「Majunga, Diego-Suarez, Tananarive, Fianarantsoa」及「Antsirabe」附近ニ在リ
「マニョック」乾燥所 Sambirano 地方ニ數箇所アリ

罐詰、冷蔵肉 La Société Pastorale Industrielle et Coloniale ナル會社ハ近來「Majunga」附近「Boanary」ニ罐詰及冷
藏肉ノ製造所ヲ設ケタリ設備善ク整ヒ既ニ牛肉ノ罐詰及冷蔵肉ヲ輸出シ居レリ「Diego-Suarez」ニ近キ「Antongombato」工
場ニテモ東亞非利加軍團ニ罐詰ヲ供給スルミノナラス佛英兩國ニ向ケ其製品ヲ輸出ス

脂肪及豚脂 本工業ハ開始日猶ホ淺キモ大ナル將來ヲ有スルモノ、如シ蓋シ本品ハ既ニ沿海ノ各地及附近ノ諸國ニ多
量ノ需要アレハナリ歐洲ニ於ケル豚脂ノ市價ハ米國市場ニ支配セラレトモ約二百四十法ニシテ大ニ本島ヨリ輸入スル
見込アリト聞ケリ

「ハム」 「アンチベラ」ノ「Georges」氏ハ「ハム」及豚脂ヲ製造シ歐洲ニ輸出シ居レリ陸上ノ運輸甚タ高價ナレトモ猶ホ
優ニ利益アルモノ、如ク氏ハ更ニ大ニ規模ヲ擴大セン計畫中ナリ

製鹽 「マダガスカル」島ニテ使用スル鹽ハ二個ノ會社ニヨリテ供給セラル「Anaralava」附近ノ「Antonibe」ニ在ル「Frag-
e」氏ノ製鹽所ニテハ一九一〇年中三百十八噸ヲ製出シタリ而シテ「La Compagnie des Salines de Diego」會社ハ「Reunion」島
島「Sachales」島及亞非利加ノ東岸ニ其製品ヲ販賣シ居レリ價格ハ品質ニヨリテ異ナリ一噸(千「キロ」)ニ付四十乃至四十
五法三十乃至三十五法トス鹽ニ消費稅アリ千「キロ」ニ付二十法トス買主ニ於テ之ヲ支拂フ

石鹼 獨逸東亞非利加會社(Deutsche Ost-Afrikanische Gesellschaft)キ「Nosy-Be」附近ノ「Sardoray」ニ石鹼製造所ヲ有